大正十三年六月五日印刷
大正十三年六月八日發行

漢文叢書
十八史略

編輯者　塚本哲三
東京市神田區錦町一丁目十九番地
發行者　三浦理
東京市京橋區木挽町二丁目十三番地
印刷者　新井由藏
東京市京橋區木挽町二丁目十三番地
印刷所　合資會社 電新堂
東京市神田區錦町一丁目十九番地
發行所　有朋堂書店

（新井製本）

子承。再世執二其國柄一。及二吴昺時一。承奪二其國一。傳二子威晃一。理宗受二其貢一。而封レ之。威晃傳二子日照一。宋亡。乃改二名日烜一。奉二貢于元一。初邵雍與レ客語。及二國祚一。取二晉出帝紀一示レ之。靖康驗矣。至二德祐一。益驗。陳摶亦嘗有二一汴二杭。三閩四廣之説一。宋果至二閩廣一而盡。自二太祖建隆一。至二欽宗靖康一。一百六十七年。自二高宗建炎一至二祥興一。又一百五十三年。

㊀汴より杭、杭より閩、閩より廣と、次第に都をうつして行くといふ説

右宋自二太祖建隆元年庚申一。至二帝昺祥興己卯一。凡三百二十年而亡。

右、宋は太祖の建隆元年庚申より、帝昺の祥興己卯に至るまで、凡そ三百二十年にして亡びたり。

十八史略 終

臣者。死有餘罪。況敢逃其死而貳其心乎。弘範義之。遣送燕京。道經吉州。痛恨不食八日。猶生。乃復食。十月天祥至燕。不屈繫獄。勵操愈堅。

宋之故臣。亦有由嶺海走安南者。安南自其國王李乾德卒於紹興。子陽煥立。陽煥卒。子天祚立。天祚卒於淳熙。子龍翰立。龍翰卒於嘉定。子昊旵立。世奉宋正朔。當龍翰時。有閩人陳京。入其國得政。爲國壻。京

○宋の故臣に亦た嶺海より安南に走れる者有り。安南其國王李乾德の紹興に卒してより、子陽煥立つ。陽煥卒す。子天祚立つ。天祚淳熙に卒す。子龍翰立つ。龍翰、嘉定に卒す。子昊旵立つ。世〻宋の正朔を奉ず。龍翰の時に當り、閩人陳京といふもの有り。其國に入りて政を得、國壻と爲る。京の子承まで、再世、其國柄を執る。昊旵の時に及びて、承其國を奪ひ、子威晃に傳ふ。理宗其貢を受けて之を封ず。威晃、子日照に傳ふ。宋亡ぶ。乃ち名を日烜と改め、貢を元に奉ず。初め邵雍、客と語りて國祚に及び、晉の出帝紀を取りて之を示す。靖康に驗あり。德祐に至りて益〻驗あり。陳摶も亦た嘗て一汴二杭三閩四廣の說有り。宋果して閩廣に至つて盡く。太祖の建隆より欽宗の靖康に至るまで、一百六十七年。高宗の建炎より祥興に至るまで、又一百五十三年なり。

走ニ帝舟。帝舟大。且諸舟環結。度レ不レ得ニ出走。乃先驅ニ其妻子一入レ海。卽負レ帝同溺焉。帝崩。後宮諸臣從死者甚衆。越七日。屍浮ニ海上一者十餘萬人。因得ニ帝屍及詔書之寶一。已而世傑復還ニ厓山。收レ兵遇ニ楊太后。欲下奉以求ニ趙氏後一而復立上レ之。楊太后始聞ニ帝崩。撫レ膺大慟曰。我忍レ死艱關至レ此者。正爲ニ趙氏一塊肉一耳。今無レ望矣。遂赴レ海死。世傑葬ニ之海濱。世傑將レ趨ニ安南。至ニ平章山下。遇ニ颶風大起。舟人欲レ艤レ岸。世傑曰。無ニ以爲一。焚レ香仰レ天呼曰。我爲ニ趙氏一亦已至矣。一君亡。復立ニ一君。今又亡。我未レ死者。庶下幾敵兵退。別立ニ趙氏。以存上レ祀耳。今若レ此。豈天意耶。若天不レ欲ニ我復存ニ趙祀。則大風覆ニ吾舟。舟遂覆。世傑溺焉。宋亡。

厓山既破。元張弘範等。置酒大會。謂ニ文天祥一曰。國亡。丞相忠孝盡矣。能改レ心。以ニ事レ宋者一事レ今。不レ失レ爲ニ宰相一也。天祥泫然出レ涕曰。國亡不レ能レ救。爲ニ人

○厓山既に破る。元の張弘範等置酒大會す。文天祥に謂ひて曰く、國亡びぬ。丞相の忠孝盡せり。能く心を改め宋に事へし者を以て今に事へば、宰相爲るを失はじと。天祥泫然(一)として涕を出して曰く、國亡びて救ふこと能はず。人臣たる者、死すとも餘罪有り。況んや敢て其死を逃れて(二)其心を貳にするをやと。弘範之を義とす。燕京に送らしむ。道、吉州を經、痛恨して食はざること八日、猶ほ生く。乃ち復た食ふ。十月、天祥燕に至る。屈せずして獄に繫れ、(三)勵操愈〻堅し。

(一) さめ〴〵と　(二) 二心をいだく　(三) みさをを勵まし守る

日[illegible]。不設備。弘範以舟師犯其前。衛師繼之。宋師南北受敵。兵士皆疲。不能出戰。俄有一舟檣旗仆。諸舟之檣旗皆仆。世傑知事去。乃抽精兵入中軍。諸軍大潰。元師薄宋中軍。會日暮。風雨昏霧四塞。咫尺不辨。世傑乃與蘇劉義斷維。以十六舟奪港而去。陸秀夫

日、屍海上に浮ぶ者十餘萬人なり。因りて帝の屍及び詔書の寶を得たり。已にして世傑復た厓山に還りて兵を收め、楊太后に遇ひ、而して以て趙氏の後を求めて復た之を立てんと欲す。楊太后始めて帝の崩ぜしを聞き、膺を撫して大に慟じて曰く、我死を忍び艱關して此に至れる者は、正に趙氏一塊の肉の爲のみ。今や望無しと。遂に海に赴きて死す。世傑之を海濱に葬る。世傑將に安南に趨かんとし、平章山下に至れば、颶風大に作るに遇ふ。舟人岸に艤せんと欲す。世傑曰く、以て爲すこと無れと。香を焚き天を仰ぎて呼びて曰く、我趙氏の爲にすることも亦た已に至れり。一君亡びて復た一君を立つ。今又亡ぶ。我の未だ死せざる者は、敵兵退かば別に趙氏を立てゝ以て祀を存せんと庶幾ふのみ。今此の若し。豈天意か。若し天我が復た趙の祀を存することを欲せずんば、則ち大風吾が舟を覆せと。舟遂に覆り、世傑溺る。宋亡びたり。

● 正午の上げ潮のとき　● 敵に當る時　● 舟をつなぎよるつき　● 敵の守れる港を突破して

卯。都統張達夜襲㆓元師㆒敗還。元人進薄㆓世傑之舟㆒。甲中。弘範四㆓分其軍㆒。自將㆓一軍㆒。相去里許。令㆓諸將㆒曰。宋舟西艤㆓厓山㆒。潮至必東遁。急攻㆑之勿㆑令㆑得㆑去。聞㆓吾樂作㆒乃戰。違㆑令者斬。先麾㆓北面一軍㆒。乘㆓早潮㆒而戰。世傑敗㆑之。李恆等順㆑潮退㆑師。午潮上。元師樂作。宋師以爲㆓

一軍に將たり。相去ること里許。諸將に令して曰く、宋の舟西のかた厓山に艤す。潮至らば必ず東に遁れん。急に之を攻めて去るを得しむること勿れ。吾が樂作るを聞かば乃ち戰へ。令に違ふ者は斬らんと。先づ北面の一軍を麾き、早潮に乘じて戰はしむ。世傑之を敗る。李恆等、潮に順ひて師を退く。(一)午潮上る。元の師樂作る。宋の師以て且く懈ると爲し、備を設けず。弘範、舟師を以て其前を犯し、南師之れに繼ぐ。宋の師、南北より敵を受く。兵士皆疲れて復た戰ふこと能はず。俄に一舟の檣(二)旗の仆るゝ有り。諸舟の檣旗皆仆る。世傑、事の去れるを知り、乃ち精兵を抽きて中軍に入る。諸軍大に潰ゆ。元の師、宋の中軍に薄る。會〻日暮れて風雨し、昏霧四を塞ぎて咫尺辨ぜず。世傑乃ち蘇劉義と維(三)を斷ち、十六舟を以て港(四)を奪ひて去る。陸秀夫、帝の舟に走る。帝の舟大にして且つ諸舟環り結ぶ。出で走るを得ざるを度り、乃ち先づ其妻子を驅りて海に入らしめ、即ち帝を負ひて同じく溺る。帝崩ず。後宮諸臣從ひ死する者甚だ衆し。越えて七

降。生且富貴。但義不可移耳。因歴數古忠臣以答之。弘範乃命文天祥爲書招世傑。天祥曰。吾不能扞父母。乃敎人叛父母可乎。固命之。天祥遂書所過零丁洋詩與之。其末有云。人生自古誰無死。留取丹心照汗青。弘範笑而置之。弘範復遣人語厓山士民曰。汝陳丞相已去。文丞相已執。汝欲何爲。士民亦無叛者。弘範又以舟師據海口。宋師樵汲道絶。兵士茹乾糧十餘日而大渇。乃下掬海水飲之。水鹹。飲即嘔泄。兵士大困。世傑帥蘇劉義方興等。日夕大戰。元李恒自廣州以師會攻。弘範命恒守厓山北面。

二月戊寅朔。世傑將陳寶降于元。己

之を置きぬ。弘範復た人を遣はして厓山の士民に語げしめて曰く、汝の陳丞相已に去り、文丞相已に執へらる。汝何をか爲さんと欲すると。士民亦た叛く者無し。弘範又舟師を以て海口に據る。宋の師、樵汲の道絶ゆ。兵士乾糧を茹ひ、十餘日にして大に渇す。乃ち下りて海水を掬して之を飲む。水鹹く、飲めば即ち嘔泄す。兵士大に困む。世傑、蘇劉義・方興等を帥ゐて、日夕大に戰ふ。元の李恒、廣州より師を以て會し攻む。弘範、恒に命じて厓山の北面を守らしむ。

(一)「元世祖至元十六年」と改むべし　(二)獻へよぐ　(三)上せて守る　(四)赤心を簡に留めて、歴を照さん、汗青は上代竹の汗を取りたるものに字を書きしとなり、つまり歴史の意なり　(五)かとり、水くみ　(六)吐きくだし

〇二月戊寅朔、世傑の將陳寶、叛きて元に降る。己卯、都統張達、夜元の師を襲ひて敗れ還る。元人進みて世傑の舟に薄る。甲申、弘範、其軍を四分し、自ら

天祥。及下執二天祥一至上。各爭二眞僞一。遂禽二子俊一。而執二天祥一。見二弘範一。左右命レ之拜。天祥不レ屈。弘範釋二其縛一。以二客禮一見レ之。天祥固請レ死。弘範不レ許。或謂二弘範一曰。敵人之相不レ可レ測也。不レ宜レ近レ之。弘範曰。彼忠義也。保レ無レ他。求二族屬被レ俘者一。悉還レ之。處二舟中一以自從。

葬二端宗于厓山一。元阿里海牙自二海南一還二師上都一。己卯。祥興二年正月。元張弘範兵至二厓山一。張世傑力戰禦レ之。弘範無レ如二之何一。時世傑有二甥韓一。在二元師中一。弘範三使下韓至二宋師一招中世傑上。世傑不レ從曰。吾知二

○端宗を厓山に葬る○元の阿里海牙、海南より師を上都に還す○己卯、祥興二年(一)正月、元の張弘範の兵厓山に至る。張世傑力戰して之を禦ぐ。弘範之を如何ともする無し。時に世傑に甥韓といふもの有り、元の師中に在り。弘範三たび韓をして宋の師に至りて世傑を招かしむ。世傑從はずして曰く、吾降らば生き且つ富貴ならんを知る。但だ義は移す可からざるのみと。因りて古の忠臣(二)を歷數して以て之に答ふ。弘範乃ち文天祥に命じ、書を爲りて世傑を招かしむ。天祥曰く、吾父母を扞ぐ(三)こと能はず。乃ち人に敎へて父母に叛かしむること可ならんやと。固く之に命ず。天祥遂に過ぎし所の零丁洋の詩を書して之に與ふ。其末に云へる有り、人生古より誰か死無からん、(四)丹心を留取して汗靑を照さんと。弘範笑ひて

文天祥屯二潮陽一。鄒渢・劉子俊皆集レ師會レ之。遂討二盜陳懿・劉興于潮一。興死。懿遁。道二張弘範兵一濟二潮陽一。天祥力不レ支。帥二其麾下一走二海豐一。張弘正追レ之。天祥方飯二五坡嶺一。弘正兵突至。衆不レ及レ戰。皆頓首伏二草莽一。天祥被レ執。吞二腦子一不レ死。鄒渢自刎。劉子俊自詭爲二天祥一、冀レ可レ免二

○文天祥潮陽に屯す。鄒渢・劉子俊、皆師を集めて之に會す。遂に盜の陳懿・劉興を潮に討つ。興死す。懿遁れ、張弘範の兵を道きて潮陽を濟る。天祥力支へず。其の麾下を帥ゐて海豐に走る。張弘正之を追ふ。天祥方に五坡嶺に飯せるとき、弘正の兵突至す。衆戰ふに及ばず、皆頓首して草莽[一]に伏す。天祥執へらる。腦子[二]を呑みしが死せず。鄒渢自ら刎ぬ。劉子俊自ら詭りて天祥なりと爲し、天祥を免す可きを冀ふ。天祥を執へて至るに及び、各々眞僞を爭ふ。遂に子俊を烹る。而して天祥を執へて弘範に見えしむ。左右之に命じて拜せしめんとす。天祥屈せず。弘範其の縛めを釋き、客の禮を以て之を見る。天祥固く死せんことを請ふ。弘範許さず。或ひと弘範に謂ひて曰く、敵人の相[三]測る可からず。宜しく之を近づくべからずと。弘範曰く、彼は忠義也、他無きを保せんと。旗幟の俘へられたる者を求めて、悉く之を還し、舟中に處きて以て自ら從へたり。

(一) 草むらの中に伏す　(二) 腦子(ブレン)の異名、とりかぶとといふ草の根汁にて毒薬あり　(三) 人間

遂改二祥興一。而升二碙州一。爲二翔龍縣一。以二陸秀夫一爲二左丞相一。兼二樞密使一。時播二越海濱一。庶事疎略。每二時節朝會一。獨秀夫儼然正レ笏立。如レ治朝一。或在二行中一。悽然泣下。以二朝衣一拭レ涙。衣盡濕。左右無下不二悲慟一者上。及レ拝二首相一。與二張世傑一共秉レ政。外籌二軍旅一。內調二工役一。凡出二其手一。雖二怱遽流離中一。猶日書二大學章句一。以勸講。

㈠一旅（五百人）の兵と一成（方十里）の田　㈡遷りさまよひて　㈢治世の朝廷　㈣班行の中即ち行列の中
㈤「怱」の字原本「忽」に作る、誤也。怱忙急遽、漂流離散の中にてもの意

六月。帝舟遷二于新會之厓山一。有二大星一。南流墜二海中一。小星千餘隨レ之。聲如レ雷。數刻乃止。天祥聞二帝即位一。上表。自劾下敗二于江西一之罪上。乞二入朝一。不レ許。而加二少保一。封二信國公一。會軍中大疫。士卒多死。天祥子道生復亡。家屬俱盡。元以二許衡一爲二集賢大學士一。兼領二太史院事一。

○六月、帝の舟新會の厓山に遷る○大星有り、南に流れて海中に墜つ。小星千餘之に隨ふ。聲雷の如し。數刻にして乃ち止む○天祥、帝の即位を聞き、上表して自ら江西に敗れし罪を劾し、入朝せんことを乞ふ。㈠許さず。而も少保を加へ、信國公に封ず。會ゝ軍中大疫し、士卒多く死す。天祥の子道生復た亡し。家屬俱に盡く○元、許衡を以て集賢大學士と爲し、兼ねて太史院の事を領せしむ。

㈠外事の急なるを以て優詔して入朝を許さゞりし也

帝昺。端宗皇帝弟也。名昺。即位。改元祥興。皇太后楊氏同聽政。先是朝臣多欲散去。陸秀夫曰。度宗皇帝一子尚在。將焉置之。古人有以一旅一成中興者。今百官有司皆具。士卒數萬。天若未欲絕宋。此豈不可爲國耶。乃與衆共立帝。年八歲矣。適有黃龍見海中。

帝昺は、端宗皇帝の弟也。名は昺。位に卽きて祥興と改元す。皇太后楊氏、同じく政を聽く。是より先、朝臣多く散じ去らんと欲す。陸秀夫曰く、度宗皇帝の一子尚は在り。將た焉にか之を置かん。古人に、一旅一成を以て中興せし者有り。今百官有司皆具はり、士卒數萬あり。天若し未だ宋を絕すことを欲せずんば、此れ豈に國を爲す可からざらんやと。乃ち衆と共に帝を立つ。年八歲なり。適ゝ黃龍有り、海中に見はる。遂に祥興と改め、碙州を升せて翔龍縣と爲す。陸秀夫を以て左丞相と爲し、樞密使を兼ねしむ。時に海濱に播越して庶事疎略なり。時節朝會每に、獨り秀夫のみ儼然として笏を正して立つと治朝の如くす。或は行中に在つて悽然として泣下り、朝衣を以て淚を拭ふ。衣盡く濕ふ。左右悲慟せざる者無し。首相を拜するに及び、張世傑と共に政を秉る。外は軍旅を籌り、内は工役を調すること、凡て其手に出づ。忽遽流離の中と雖も、猶ほ日に大學章句を書して、以て勸講す。

戰不レ利。奉二帝舟一走二秀山一。陳宜中之二占城一求レ兵。遂不二復還一。十二月。帝再遷二于井陘一。颶風作。帝有レ疾。元劉深復以二舟師一來。襲二井陘一。執二兪如珪一。帝舟遷二于謝女峽一。

帝再び井陘に遷る。颶風作る。帝疾有り、元の劉深、復た舟師を以ゐて來り、井陘を襲ひ、兪如珪を執ふ。帝の舟謝女峽に遷る。

(一)一說に帝舟の誤也と (二)一說に井陘は井陝に作るべき也と (三)海中の大風、颶とは四方の風を具ふる義

戊寅。景炎三年。張世傑遣レ師討二雷山一。不レ克。三月文天祥會レ兵。次二于麗江浦一。元以二張弘範一爲二都元帥一。李恆副レ之。帥レ師入二閩廣一。帝舟遷二于硇州一。夏四月帝崩二于硇州一。陸秀夫立二衞王一爲レ帝。是爲二帝昺一。

○戊寅景炎三年、張世傑、師を遣して雷山を討たしむ。克たず○三月、文天祥兵を會して麗江浦に次す○元、張弘範を以て都元帥と爲す。李恆之に副たり。師を帥ゐて閩廣に入る○帝の舟硇州に遷る。夏四月、帝硇州に崩ず。陸秀夫、衞王を立てゝ帝と爲す。是を帝昺となす。

(一)「元世祖至元十五年」と原注す

帝昺

簡被執而死。天祥至空坑。恆又及之。張日中奮力戰。元兵少却。恆麾鐵騎橫擊之。日中身被十餘創。猶手刃十騎而死。兵盡潰。天祥妻歐陽氏。男佛生。環生。及二女。皆見執。趙時賞坐肩輿後。元人問爲誰。時賞曰。我姓文。衆以爲天祥。禽之。天祥由是得逸。身與其長子道生及杜滸鄒渢。乘騎逸去。遂奔循州。散兵頗集。乃屯于南嶺。黎僚客將皆被執。時賞至隆興。奮罵不屈。臨刑。劉沐頗自辯。時賞叱曰。死耳。何必然。於是將幕屬被執者皆死。而天祥妻子家屬送于燕。二子死于道。廣州陷。

時賞曰く、我が姓は文なりと。衆以て天祥と爲し、之を禽にす。天祥是に由て身を挺することを得、其長子道生及び杜滸・鄒渢と、騎に乘りて逸れ去り、遂に循州に奔る。散兵頗る集まる。乃ち南嶺に屯す。黎僚客將皆執へらる。時賞、隆興に至り、奮ひ罵りて屈せず。刑に臨み、劉沐頗る自ら辯す。時賞叱して曰く、死せんのみ。何ぞ必ずしも然らんと。是に於て將佐幕屬執へられし者皆死す。而して天祥の妻子家屬は、燕に送らる。二子道にて死す○廣州陷る。

(一) 一說「時賞に擬して[illegible]」と[illegible]　(二) [illegible]の[illegible]

十一月。元劉深以舟師襲淺灣。張世傑

○十一月、元の劉深、舟師を以て淺灣を襲ふ。張世傑戰ひて利あらず。帝の舟を奉じて秀山に走る。陳宜中、占城にゆきて兵を求め、遂に復た還らず。十二月、

六月天祥敗二元人于雩都一。遂次二于興國縣一。秋七月。使二張日中。趙時賞等一帥レ師復二吉贛諸縣一。遂圍二贛州一。張世傑回レ師。由二潮州一圍二泉州一。不レ克。帝舟遷二于潮州之淺灣一。

○六月、天祥、元人を雩都に敗り、遂に興國縣に次す。秋七月、張日中、趙時賞等をして、師を帥ゐて吉贛諸縣を復せしめ、遂に贛州を圍む○張世傑、師を回して潮州より泉州を圍む。克たず○帝の舟、潮州の淺灣に遷る。

(一)兵を宿す

元李恒遣レ兵援レ贛。而自將襲二天祥于興國一。天祥不意恒猝至。乃引レ兵走。即二鄒㵯于永豐一。㵯兵先潰。恒窮二追天祥一。天祥至二方石嶺一。恒及レ之。鞏信拒戰。

○元の李恒、兵を遣して贛を援けしめ、而して自ら將として天祥を興國に襲ふ。天祥の不意に恒猝に至る。乃ち兵を引きて走り、鄒㵯に永豐に即く。㵯の兵先づ潰ゆ。恒、天祥を窮追す。天祥方石嶺に至る。恒之に及ぶ。鞏信拒ぎ戰ひ箭體に被りて死す。天祥空阬に至り、恒又之に及ぶ。張日中、奮ひて力戰す(一)。元の兵少しく却く。恒、鐵騎を麾きて横に之を擊たしむ。日中、身に十餘創を被り、猶ほ十餘騎を手刃して死す。兵盡く潰ゆ。天祥の妻歐陽氏、男佛生・環生、及び二女、皆執へらる。趙時賞(二)、肩輿の後に坐す。元人問ふ、誰とか爲すと。

波降于元。四趙、溥。說二天祥一降。天祥責以二大義一誅之。三月文天祥復二梅州。四月天祥復二興國縣。五月張世傑復二潮州。天祥自二梅州一出二江西。遂復二會昌縣。與二趙時賞張日中之兵一皆會之

潮州を復す〇天祥梅州より江西に出で、遂に會昌縣を復す。趙時賞・張日中の兵と皆之に會す。

一 「元史則至元十四年」と誤記す

元中書政事廉希憲卒。希憲在二江陵一遠近向レ化。及レ有レ疾召還。民皆垂レ涕擁送。建レ祠繪レ像以祠レ之。卒世祖歎曰。無下復有下決二大事一如二廉希憲一者上矣。伯顏亦曰。廉公宰相中眞宰相。男子中眞男子。世以爲二名言一。

〇元の中書政事廉希憲卒す。希憲、江陵に在り。遠近化に向ふ。疾有りて召し還さるゝに及び、民皆涕を垂れて擁し送る。祠を建て像を繪きて以て之を祠る。卒せしとき世祖歎じて曰く、復た大事を決すること廉希憲の如き者有る無しと。伯顏亦た曰く、廉公は宰相中の眞宰相、男子中の眞男子なりと。世以て名言と爲せり。

一 遠近化に向ひ從ふ　二 取り卷きて見送る

之路。日中等聞二天祥開督一勤王一。遂各起レ兵來應。天祥遣二趙時賞。張日中。趙孟溁。將二一軍一趣レ贛。以取二寧都一。遣二吳浚一。將二一軍一取二雩都一。劉洙。蕭明哲。陳子敬。皆自二江西一起レ兵來會。鄒渢與二元人一戰二于寧都一敗績。武崗教授羅開禮起レ兵復二永豐縣一。亦死。天祥爲製レ服哭焉。十一月。元阿刺罕。董文炳。入二建寧府一。遂侵二福州一。宜中世傑奉二帝及衞王楊太后等一航レ海。由二潮州一至二廣州一。趨二富陽一。遷二謝女峽一。

に戰ひて敗績す。武崗教授羅開禮、兵を起して永豐縣を復す。亦た死す。天祥爲に服を製して哭す〇十一月、元の阿刺罕・董文炳、建寧府に入り、遂に福州を侵す。宜中・世傑、帝及び衞王・楊太后等を奉じて、海に航し、潮州より廣州に至り、富陽に趨き、謝女峽に遷る。

㊀督府を開きて　㊁取り戻す　㊂州の名　㊃喪服をつくり服して

丁丑。景炎二年。阿刺罕入二汀州一。文天祥奔二漳州一。謀二入衞一。道阻不レ通。往二來江廣閒一。戰有二勝負一。吳

〇丁丑景炎二年、阿刺罕汀州に入る。文天祥漳州に奔る。入り衞らんことを謀れども、道阻して通ぜず。江廣の閒に往來し、戰ひて勝負あり〇吳浚、元に降る。因りて漳に趨き、天祥に說きて降らしめんとす。天祥責むるに大義を以てし、之を誅す〇三月、文天祥梅州を復す〇四月、天祥興國縣を復す〇五月、張世傑

爲二淳恭懿聖皇帝一、太皇太后爲二壽和聖福至仁太皇太后一、皇太后爲二仁安皇太后一。尊二度宗淑妃楊氏一爲二皇太后一。同聽レ政。封二廣王昺一爲二衞王一。陳宜中左丞相。張世傑少保。文天祥至。除二右丞相一。以下與二宜中世傑一異上レ意。不レ肯レ拜。

し、同じく政を聽かしむ○廣王昺を封じて衞王と爲す。陳宜中、左丞相たり、張世傑、少保たり○文天祥至る。右丞相に除せらる。宜中、世傑と意を異(二)にするを以て、肯て拜せず。

(二) 意見を異にす

九月。天祥開二督南劍州一。募レ兵得二數千一。遂復二邵武軍一。冬十月。天祥帥レ師次二汀州一。興化軍通判張日中等來會。時贛寇猖獗。血二江閩廣

○九月、天祥南劍州に開督し、兵を募りて數千を得たり。遂に邵武軍を復す。冬十月、天祥師を帥ゐて汀州に次す。興化軍の通判張日中等來り會す。時に、(三)贛の寇猖獗にして、江、閩、廣の路を血にす。日中等、天祥が開督勤王するを聞き、遂に各々兵を起して來り應ず。天祥、趙時賞・張日中・趙孟濚を遣し、一軍を將ゐて贛に趨かしめて、以て寧都を取り、吳浚を遣し、一軍を將ゐて雩都を取る。劉洙・蕭明哲・陳子敬、皆江西より兵を起して來り會す○鄒洬、元人と寧都

五月宋帝至㆓上都㆒。降㆓封瀛國公㆒。帝在位二年。改元者一。曰㆓德祐㆒。益王廣王。由㆓海道㆒至㆓溫州㆒。蘇劉義。陸秀夫來會。陳宜中。張世傑。海舟亦至㆓福州㆒。宣㆓謝太后手詔㆒。以㆓二王㆒爲㆓天下都副元帥㆒。召㆓諸路忠義㆒。五月朔。陳宜中。陸秀夫。張世傑等。共立㆓益王昰㆒爲㆑帝。卽㆓位于福州㆒。是爲㆓端宗皇帝㆒。

○五月、宋帝上都に至り、瀛國公に降封せらる。帝在位二年、改元する者一、德祐といふ○益王、廣王、海道より溫州に至る。蘇劉義・陸秀夫、來り會す。陳宜中・張世傑も、海舟もて亦た福州に至る。謝太后の手詔を宣して、二王を以て天下都副(一)元帥と爲し、諸路の忠義を召す。五月朔、陳宜中、陸秀夫、張世傑等、共に益王昰を立て丶帝と爲し、福州に卽位せしむ。是を端宗皇帝と爲す。

(一) 廣王を都元帥とし、益王を副元帥とす

端宗皇帝。名昰。孝恭懿聖皇帝兄也。卽㆑位改㆓元景炎㆒。遙上㆓帝尊號㆒。

端宗皇帝

端宗皇帝、名は昰。孝恭懿聖皇帝の兄也。位に卽きて景炎と改元し、遙かに帝に尊號を上りて孝恭懿聖皇帝と爲し、太皇太后を壽和聖福至仁太皇太后と爲し、皇太后を仁安皇太后と爲す。度宗の淑妃楊氏を尊びて皇太后と爲

丙子。德祐二年正月。秀王與睪等。奉皇兄益王昰。皇弟廣王昺等。航海。世傑去朝。元兵駐高亭山。去都城三十里。宜中夜遁。文天祥右丞相。辭不拜。賈餘慶吳堅相。天祥出使軍前。辭氣慷慨。議論不屈。伯顏留之。元兵入臨安。賈餘慶等。奉三宮以降。手詔諭諸路內附。伯顏遣宰執先赴大都。天祥亦登舟北行。至鎭江。得間遁去。三宮北遷。宮室駙馬宮人內侍大學生數十人。皆在道中。過眞州。守苗再成。奪駕。幾遂不克。

○丙子德祐二年正月、秀王與睪、皇兄益王昰、皇弟廣王昺等を奉じて海に航す○世傑朝を去る○元の兵高亭山に駐まる。都城を去ること三十里○宜中夜遁る○文天祥右丞相たり。辭して拜せず○賈餘慶・吳堅、相たり○天祥出でゝ軍前に使し、辭氣慷慨議論して屈せず。伯顏之を留む○元の兵臨安に入る。賈餘慶等、三宮を奉じて以て降る。手詔して諸路に諭して內附せしむ○伯顏、宰執を遣し、先づ大都に赴かしむ。天祥も亦た舟に登りて北行し、鎭江に至りしとき、間を得て遁げ去る○三宮北に遷る。宮室、駙馬、宮人、內侍、大學生數十人、皆道中に在り。眞州を過ぎしとき、守の苗再成、駕を奪はんとし、幾んど遂げんとして克はざりき。

㊀「元世祖至元十三年」と原註す　㊁ 宰相の職、宰執の職及び少卿　㊂ 元に從はしむ　㊃ 公主に配する者

文天祥將二民兵峒丁二萬餘人一入衞。與二夢炎一意不二相樂一。以二尚書一除二江浙制置一。守二吳門一。州郡連降。元兵距二臨安一百里。獨松關告レ急。時張世傑軍五萬。諸路勤王兵四十餘萬。天祥與二世傑一議。兩軍堅守二閩廣一。全城王師血戰。萬一得レ捷。猶可レ爲也。世傑大喜。議レ出レ師。宜中以二王師務持重一。降レ詔沮レ之。遣レ使乞レ和。

傑の軍五萬、諸路勤王の兵四十餘萬あり。天祥、世傑と議すらく、兩軍堅く閩廣を守り、全城の王師血戰して、萬一捷を得ば、猶ほ爲す可き也と。世傑、大に喜び、師を出さんとを議す。宜中、王師の務めて持重すべきを以て、詔を降して之を沮み、使を遣はして和を乞はしむ。

(一) 天地くらし　(二) 溪峒の壯丁　(三) 甚に不快なり

詔二天祥等一罷レ兵。潭州陷。時一軍自二湖南一圍二潭州一。守臣李芾戰守屢捷。經二八九月一。城將レ陷。闔門死レ之。

○天祥等に詔して兵を罷めしむ○潭州陷る○時に一軍は湖南より潭州を圍む。守臣李芾戰ひ守りて屢〻捷つ。八九月を經て、城將に陷らんとし、闔門之に死す。

(一) 一門のこらず

忠。不學之罪一。宜中本受二賈恩一至。是亟勸レ賈以自解。似道赴レ貶。鄭虎臣以二父仇一監押至二漳州一即二廁上一拉二其胸一殺レ之。張世傑以レ兵入レ衞。元兵在レ境。陳宜中等惟攻二擊賈黨一略無二備禦之策一司馬夢求監二江陵沙市鎮一力戰死。徵二諸師一入衞。夏貴。習萬壽。黃萬石等不レ至。

りて亟かに賈を勸して以て自ら解く○似道、貶に赴く。鄭虎臣、父の仇を以て監押して漳州に至りしとき、廁上に即きて其胸を拉きて之を殺す○張世傑、兵を以て入り衞る。元兵境に在り。陳宜中等、惟だ賈の黨を攻撃するのみ、略ぼ備へ禦ぐの策無し。司馬夢求、江陵の沙市鎮を監す。力戰して死す。諸師を徵して入り衞らしむ。夏貴・習萬壽・黃萬石等、至らず。

● 自ら其罪にあらざるを辯解す ● 監押護送

六月庚申朔。日蝕晦冥。雞栖二于塒。咫尺不レ辨二人物一。自レ巳至レ午明始復。留夢炎相

○六月庚申朔、日蝕す。晦冥なり。雞塒に栖み、咫尺も人物を辨ぜず。巳より午に至りて、明始めて復す○留夢炎、相たり○文天祥、民兵、峒丁、一萬餘人に將として入りて衞る。夢炎と、意相樂まず。尙書を以て江浙制置に除せられ、吳門を守る○州郡連りに降る。元の兵臨安を距ると百里なり。獨松關急を告ぐ。時に張世

呂氏壻。已降。將士無二復固志一。似道許レ竭二轉官資一。諸軍詬曰。要二官資一做レ甚。己未庚申官資何在。似道不レ能レ文。鳴レ鑼一聲。退二兵于珠金砂一。十三萬衆一時潰散。似道奔入二楊州一。

江西提刑文天祥。募レ兵勤王。天祥吉州廬陵人也。丙辰。魁二進士第一。殿帥韓震謀二劫遷一レ都。陳宜中以レ計誅レ之。池州破。通守趙昂發將レ死。與二其妻一訣。妻曰。卿能爲二忠臣一。妾顧不レ能レ爲二忠臣妻一耶。昂發喜。具二衣冠一。與倶縊。明日伯顏入レ城。見而憐レ之。具二衣棺一葬焉。建康破。趙淮死レ之。京師戒嚴。朝臣接レ踵宵遁。

○江西の提刑文天祥、兵を募りて勤王す。天祥は吉州廬陵の人也。丙辰、進士の第に魁たり(一)○殿帥韓震、劫して都を遷さんと謀る。陳宜中、計を以て之を誅す。

○池州破る。通守趙昂發、將に死せんとして其妻と訣る。妻曰く、卿能く忠臣たり。妾顧りて忠臣の妻たる能はざるかと。昂發喜び、衣冠を具して與に倶に縊る。明日伯顏城に入りて見て之を憐み、衣棺を具へて葬る○建康破る。趙淮之に死す○京師戒嚴す(二)。朝臣踵を接して宵遁る。

(一) 第一位たり (二) 嚴しく防戒す

王爚陳宜中等。劾二似道不

○王爚、陳宜中等、似道が不忠不孝の罪を劾す。宜中、本、賈の恩を受く。是に至

祐元年。元伯顔留阿里海牙以兵四萬守鄂。而與阿朮率大軍渡江。順流東下。時沿江諸將。多呂氏部曲。望風降附。江州降。運使錢眞孫自縊。劉整自愧出淮無功。憤死無爲軍城下。似道都督軍馬。遷延不出。聞兵已下建康。始率諸軍發行在。迂道而行。數日始達蕪湖。將趨安慶府。牽制下流之師。未至三日。安慶帥范文虎乃

渡り、流に順ひて東に下る。時に沿江の諸將、呂氏の部曲(二)多し。風を望みて降り附く○江州降る。運使錢眞孫自ら縊る○劉整自ら淮を出でゝ功無きを愧ぢ、無爲軍の城下に憤死す○似道、軍馬を都督し、遷延して出でず。兵已に建康に下ると聞き、始めて諸軍を率ゐて行在(三)を發す。迂道して行き、數日にして始めて蕪湖に達し、將に安慶府に趨きて下流の師を牽制せんとす。未だ至らざること三日、安慶の帥范文虎、乃ち呂氏の壻、已に降り、將士復た闘ふ志無し。似道、官(四)資を超轉することを許す。諸軍詬りて曰く、官資を要して甚をか做さん。己未(五)庚申の官資何にか在ると。似道答ふること能はず。鑼(六)を鳴らすこと一聲、兵を珠金砂に退く。十三萬の衆一時に潰え散る。似道奔りて揚州に入る。

(一)「元世祖至元十二年」と原註す　(二)部下　(三)行府の義にて、都督府を指すかといふ說あり　(四)官品を超遷特除することを許す　(五)此兩年に蒙古侵寇、今の言と同樣の約をなして遂に實行せざりしをいふ　(六)どら

言訖而卒。天澤忠亮有二大節一。出二入將相一近二五十年一。柱二石四朝一。師二表百辟一。可レ謂二社稷之臣一。其視二富貴權勢一。斂レ迹退避。若レ將レ浼レ之者一。故能善レ始令レ終。爲二開國元臣一。

元伯顏丞相。大會二兵于襄樊一。九月以二降人劉整一。領二騎兵一。出二淮泗一。呂文煥領二舟師一。出二襄陽一。爭レ先向導。水陸竝進攻二沙市新城一。都統邊居誼。帥二所部三千人一。力戰死レ之。策應使夏貴力戰。元兵出二其不意一。兵敗。沿二西南岸一。縱レ火。歸二廬州一。宣撫朱禖孫提二重兵一。不レ戰歸二江陵一。

○元の伯顏丞相、大に兵を襄樊に會す。九月、降人(一)劉整を以て騎兵を領して淮泗より出でしめ、呂文煥に舟師を領して襄陽より出でしむ。先を爭ひて向導す。水陸竝び進みて沙市の新城を攻む。都統邊居誼、所部三千人を帥ゐて力戰して之に死す。策應使夏貴、力戰す。元の兵、其不意に出づ。兵敗る。西南岸に沿ひ、火を縱ちて廬州に歸る。宣撫朱禖(二)孫、重兵(三)を提げ、戰はずして江陵に歸る。

(一)降參したる人　(二)「禖」の字は「禩」の誤にて祀に同じ　(三)大兵

鄂州降。天目山崩。詔二天下一勤王。乙亥。德

○鄂州降る○天目山崩る○天下に詔して勤王せしむ○乙亥德祐(一)元年、元の伯顏、阿里海牙を留めて、兵四萬を以て鄂を守らしめ、而して阿朮と大軍を率ゐて江を

卒。世祖聞驚悼。謂二群臣一曰。東忠事レ朕三十餘年。小心慎密。其陰陽術數之精。唯朕知レ之。

元會二中書平章史天澤。中書左丞相伯顏一帥二諸軍一南侵。陛辭。世祖戒レ之曰。古之善取二江南一者。唯曹彬一人。汝能不レ殺。是吾曹彬也。天澤有レ疾而還。尋卒。先レ是世祖遣レ醫馳視。天澤附奏曰。臣大限有レ終。死不レ足レ惜。第願天兵渡レ江。以二殺掠一爲レ戒。

元、中書平章史天澤、中書左丞相伯顏に命じ、諸軍を帥ゐて南侵せしむ。陛辭(一)するとき、世祖之に戒して曰く、古の善く江南を取りし者は、唯だ曹彬(二)一人のみ。汝能く殺さずば、是れ吾が曹彬也と。天澤疾有りて還り、尋ぎて卒す。是より先、世祖醫を遣して馳せて視しむ。天澤附奏(四)して曰く、臣、大限(五)終る有らん。死は惜むに足らず。第だ願はくは天兵江を渡らば、殺掠を以て戒めと爲せと。言訖りて卒す。天澤、忠亮にして大節有り。將相に出入すること五十年に近く、四朝に柱石として百辟(六)に師表たり。社稷の臣と謂ふ可し。其の富貴權勢を視ては、迹を斂めて退き避け、將に之を浼されんとする者の若し。故に能く始を善くし終を令くして、開國の元臣たり。

(一) 階段の下に御暇乞をなす時　(二) 前出、太祖の條に見ゆ　(三) 竊に人を殺さずば　(四) 其醫者に託して上奏す
(五) 一生の大なる限りはいよいよ終りとならん、命盡きんと也　(六) 百官諸侯

刺爲安西王。直學士院文天祥致仕。初賈似道稱病乞致仕。以爲要君。似道諷張立志。劾罷之。天祥遂引錢若水例。乞致仕。時年三十七矣。

す。初め賈似道病と稱して致仕を乞ふ。(一)以て君を要すと爲す。似道、張立志に諷し、劾して之を罷めしめんとす。天祥遂に錢若水の例を引き、乞ひて仕を致せり。時に年三十七。

(一) 文天祥は其事を以て賈似道が君を困らすしわざと爲す

癸酉。咸淳九年。平地產白毛。如銀線菜。臨安尤多。元侵樊城。守將張漢英及都統制范天順。牛富。死之。元國子祭酒許衡乞罷。許之。衡居家勤儉。

○癸酉咸淳九年、平地に白毛を產す。銀線菜の如し。臨安尤も多し。元、樊城を侵す。守將張漢英及び都統制范天順、牛富、之に死す○元の國子祭酒許衡、罷めんことを乞ふ。之を許す。衡、家に居て勤儉なり。自治に強む。(三)公愛兼ね盡し、嚴ならざれども而も整なり。閨門の內、朝廷の若く然り。夫婦相待つこと賓の如し。凡そ喪葬一に古制に遵ひ、佛老を用ひず、懷孟の聞之に化す。(四)旁舍に僧德公といふ者有り、年百餘歲。嘗て其徒に謂ひて曰く、老僧苦行百年なるも、亦た佛と作ること能はず、徒らに不孝の人と爲り、祖宗に地下に見るを羞づ。但

意不合去。襄陽陷。先是理宗初年。襄陽以制置失撫御。致王旻作亂而陷。謝方叔作相。諭季曾伯。遣將取之。北方亦不菩爭。及劉整策行。重兵圍襄陽。呂文煥守城六年。扞禦備至。而似道不肯調援。雖糧食未乏。衣裝薪芻無所措辨。至撤屋舍為薪。緝關楮為衣。援兵不至。遂以城降為元人之用。賈似道累章。出督。而陰諷朝廷留之。卒不行。

ることを致せり。謝方叔相と作り、季曾伯に喩して將を遣して之を取らしむ。北方も亦た菩爭せず。劉整の策行はるゝに及び、重兵襄陽を圍む。呂文煥、城を守ること六年、扞禦備さに至る。而れども似道肯て調援せず。糧食未だ乏しからずと雖も、衣裝、薪芻、措辨する所無し。屋舍を撤して薪と爲し、關楮を緝めて衣と爲すに至る。援兵至らず、遂に城を以て降りて元人の用と爲る○賈似道、章を累ね出でゝ督せんとし、而も陰に朝廷に諷して之を留めしめ、卒に行かず。

一「元世祖至元九年」と旁註す　二 制置使の史嵩之[illegible]をあやまる　三 ふせぎ守ること　四 兵を調發して援くる事をせず　五 たきゞと馬のかひば　六 住宅　七 紙幣　八 屢々章疏を上りて

元併尚書省。封皇子忙哥

○元、尚書省を併せ、皇子忙哥剌を封じて安西王と爲す○直學士院文天祥致仕

始封之爵邑。是皆徇二百姓見聞之狃習一。要二一時經制之權宜一。概以二至公一。得レ無二少貶一。我太祖聖武皇帝。握二乾符一而起二朔土一。以二神武一而臂二帝國一。四振二大聲一。大恢二土宇一。輿圖之廣。歷古所レ無。頃者耆宿詣レ廷。奏章伸請。謂既成二於大業一。宜三早定二於鴻名一。在二古制一以當レ然。於二朕心一乎何有。可下建二國號一曰中大元上。蓋取二易經乾元之義一。茲大治流二形於庶品一。孰名二資始之功一。予一人底レ寧二爲萬邦一。尤切二體レ仁之要一。事從二因革一。道協二天人一。於戲稱レ義而名。固匪レ爲二之溢美一。孚休惟永。尙不レ負二於投ト艱。嘉下與二敷天一共隆中大號上。咨爾有衆。體二予至懷一。從二太保劉秉忠之議一也。

邦を寧んじ爲むることを底す。尤も仁を體するの要を切にす。事因革に從ひ、道天人に協ふ。於戲義に稱ひて名づく。固より之が溢美を爲すに匪ず。孚に休に惟れ永し。尙ほ艱に投ずるに負かず。敷天と共に大號を隆にするを嘉す。咨爾有衆、予の至懷を體せよと。太保劉秉忠の議に從ふ也。

㊀至大の天命を受く ㊁古例に從ふ ㊂夏の義は大、殷の義は中と也、「以」は「與」に通ず ㊃便宜 ㊄公平に見れば ㊅天の符命 ㊆北地 ㊇疆域 ㊈古へより ㊉老臣 ⑪大なる名。國號をいふ ⑫何の憚る所あらん ⑬大治は大冶に作るべし、莊子の字面也。大に陶冶して形を萬物に流布すと也

壬申。咸淳八年。葉夢鼎再相。以下與二似道一

○壬申咸淳八年(一)、葉夢鼎再び相たり。似道と意合はざるを以て去る○襄陽陷る。是より先、理宗の初年、襄陽(二)、制臣撫御を失せしを以て、王旻亂を作して陷

海一以宅レ尊。必有二美名一紹二百王一而紀レ統。肇從二隆古一匪二獨我家一。且唐之爲レ言蕩也。堯以レ之而著稱。虞之爲レ言樂也。舜因レ之而作レ號。馴二致禹興而湯造一。互名三夏大以二殷中一。世降以還。事殊非レ古。雖三乘レ時而有二國。不三以レ義而制二稱。爲レ秦爲レ漢者。著從二初起之地名一。曰レ隋曰レ唐者。又即二

我が家のみに匪ず。且つ唐の言たる蕩也。堯之を以て著し稱す。虞の言たる樂也。舜之に因りて號と作し、禹興りて、湯造すに馴致す。互に夏の大と殷の中とを名とす。世降りて以還、事殊に古に非ず。時に乘じて國を有つと雖も、義を以て稱を制せず。秦と爲し、漢と爲す者、蓋し初めて起るの地名に從ふ。隋と曰ひ、唐と曰ふ者、又始封の爵邑に即く。是れ皆百姓の見聞の狃れ習へるに徇ひて、一時經制の權宜を要したるなり。概するに至公を以てせば、少しく貶すること無きを得んや。我が太祖聖武皇帝、乾符を握りて朔土より起り、神武を以て帝國に膺り、四に大聲を振ひ、大に土宇を恢にし、輿圖の廣きこと曠古無き所なり。頃者耆宿廷に詣り、奏章して伸べ請ひ、謂ふ、既に大業を成す、宜しく早く鴻名を定むべしと。古制に在りては以て當に然るべし。朕の心に於て何か有らん。國號を建てゝ大元と曰ふ可し。蓋し、易經乾元の義に取るなり。茲に大治して、庶品に流形す。孰れか資りて始むるの功を名づけん。予一人、萬

大丹一也。世祖善レ之。以二許衡一爲二中書左丞一。時阿合馬專レ權。無レ上蠹レ國害レ民。嘗欲下以二其子一典中兵柄上。衡曰。國家事權。兵民財三者而已。父位二尙書省一。典レ民典レ財。而子又典レ兵太重。世祖曰。卿慮二阿合馬反一耶。衡對曰。此反道也。古者姦邪未レ有レ不レ由レ此者一。世祖以二衡語一語二阿合馬一。阿合馬由レ是怨レ衡。

世祖、衡の語を以て阿合馬に語る。阿合馬是に由りて衡を怨む。

㊀八合思馬の佛戒　㊁仙術を能くする者　㊂不老不死の靈藥　㊃兵權

辛未。咸淳七年。元劉秉忠許衡進二所レ定朝儀一。立二司農司一。以二張文謙一爲二司農卿一。敎二水軍七萬一。造二戰艦五千一。築二環城一。以逼二襄陽一。以二許衡一爲二集賢大學士國子祭酒一。

○辛未咸淳七年㊀、元の劉秉忠・許衡、定むる所の朝儀を進む○司農司を立て、張文謙を以て司農卿と爲す○水軍七萬を敎へ、戰艦五千を造り、環城㊁を築きて以て襄陽に逼る○許衡を以て、集賢大學士、國子祭酒と爲す。

㊀「元世祖至元八年」と原註す　㊁周圍を取りまく城

十月。建二國號大元一。詔曰。誕膺二景明一。奄二四

○十月、國號を大元と建つ。詔に曰く、誕に景命㊀に膺り、四海を奄ひて以て尊に宅れば必ず美名有り。百王に紹ぎて統を紀すれば、肇めて隆古㊁に從ふ。獨り

心。劉整降北。獻策取東南。謂宜取川經營。自蜀而下。金則由襄淮直進。時諸將北降。知國虛實者相繼。似道方以粉飾太平為事。略不為意。

元平章政事廉希憲罷。世祖嘗令受帝師戒。希憲對曰。臣已受孔子戒。世祖曰。汝孔子亦有戒耶。對曰。為臣當忠。為子當孝是也。有方士。請煉大丹。勅中書給其所需。希憲奏曰。前世人主。多為方士所惑。堯舜得壽。不假靈乎。

○元の平章政事廉希憲罷めらる。世祖嘗て帝師の戒を受けしむ。希憲對へて曰く、臣已に孔子の戒を受く。世祖曰く、汝の孔子も亦た戒有りや。對へて曰く、臣と爲りては當に忠なるべく、子と爲りては當に孝なるべし。是れ也と。方士有り、大丹を錬らんと請ふ。中書に勅して其需むる所を給せしむ。希憲奏して曰く、前世の人主多く方士の爲に誑かし惑はさる。堯舜の壽を得しは靈を大丹に假りしにあらざる也と。世祖之を善しとす。許衡を以て中書左丞と爲す。時に阿合馬權を專らにし、上を蔽し、國を蠹し、民を害す。嘗て其子を以て兵柄を典らしめんと欲す。衡曰く、國家の事權は兵民財の三者のみ。父尚書省に位して、民を典り財を典る。而るに子又兵を典るは太だ重し。世祖曰く、卿、阿合馬の反を慮るか。衡對へて曰く、此れ反道也。古より姦邪未だ此に由らざる者有らずと。

曰。北兵已退。陛下得二何人之言一。上曰。適有二女嬪一言レ之。詰問。誣以二佗事一賜レ死。自レ是無下敢以二邊事一言上者。

㊀「元世祖至元七年」と原註す ㊁何人よりさる事を聞きしか ㊂女官宮嬪

似道權傾二人主一。諛者動以三周公輔二成王一擬レ之。親王外戚宦官近習。皆箝制不二敢恣一。當世望士亦引用。登レ朝爲二儀羽一。而服心不レ在焉。在外監司郡守。亦參二用廉介一。非二其人一而得レ進者。各有二蹊徑一。最以レ吝レ賞誅レ貨失二將帥

○似道、權、人主を傾く。諛ふ者、動もすれば周公が成王を輔けしを以て之に擬す。親王、外戚、宦官、近習、皆箝制(一)せられて敢て恣にせず。當世の望士(二)も亦引用せられ、朝に登りて儀羽(三)と爲る。而れども服心(四)在らず。在外の監司、郡守も亦廉介(五)を參用せしが、其人に非ずして進むを得たる者は、各々蹊徑(六)有り。最も賞を吝み、貨を誅むることを以て將帥の心を失ふ。劉整北に降り、東南を取るべきを獻策し、謂ふ、緩く取らんとせば則ち經營して蜀よりして下らん、急にせんとせば則ち襄淮より直に進まんと。時に、諸將北に降り、國の虚實を知る者相繼ぐ。似道方に太平を粉飾(七)するを以て事と爲し、略ぼ意と爲さず。

㊀束縛 ㊁德望ある士 ㊂儀式的のかざり、表面上の羽翼 ㊃「服」は「腹」の誤 ㊄廉潔狷介の士 ㊅手蔓 ㊆よそひかざる

文煥告急。遣高達范文虎赴援。道不通。二將亦不用命。三學士人。上書乞調諸道兵。併力救襄。不報。弓量推排田畝。葉夢鼎辭位。不允。徑去。江萬里・馬廷鸞爲相。元立御史臺。及諸道提刑按察司。行新製蒙古字。更號付八合思馬。爲帝師。築鹿門山。立諸路蒙古字學。

けしむ。道通ぜず。二將亦た命を用ひず○三學の士人、上書して諸道の兵を調し、力を併せて襄を救はんとをこふ。報ぜず○弓量を以て田畝を推排す○葉夢鼎位を辭す。允さず。徑に去る○江萬里・馬廷鸞、相と爲る○元、御史臺及び諸道の提刑按察司を立つ。新製蒙古字を行ふ。付八合思馬を更め號して帝師と爲す。堡を鹿門山に築く。諸路の蒙古字學を立つ。

(一)元世祖至元五年、と原註す　(二)文學、武學、宗學　(三)田畝を測量して其税を正す也　(四)學校

庚午。咸淳六年。江萬里請援兵救襄。議不合。罷去。上一日問似道曰。襄陽受圍三年。奈何。對

○庚午咸淳六年、江萬里、援兵を請ひて襄を救はんとす。議合はず。罷め去る○上一日似道に問ひて曰く、襄陽圍を受くること三年なり。奈何。對へて曰く、北兵既に退く。陛下何人の言を得たる。上曰く、適〻女嬪有り、之を言ふと。詰り問ひ、誣ふるに他事を以てして死を賜ふ。是より敢て邊事を以て言ふ者無し。

爭納レ賂。以求二美職一。闒レ爲二帥閫監司郡守一者。貢獻至レ不レ可二勝計一。趙溍輩爭獻二寶玉一。貪風大肆。兵喪二于外一。匿不二以聞一。民怨二于下一。誅責無稽。莫二敢言一者。

元立二制國用使司一。以二阿合馬一爲レ使。封二世子南木合一爲二北平王一。賜二日本國王書一。初給二官吏俸及職田一。元封二太子忽哥赤一爲二雲南王一。丁卯。咸淳三年。元以二史天澤一爲二左丞相一。忽都答兒。耶律鑄。降爲二平章政事一。伯顏降二右丞一。廉希憲降二左丞一。

○元、制國用使司を立て、阿合馬を以て使と爲す。世子南木合を封じて北平王と爲す○日本國王に書を賜ふ(一)○初めて官吏の俸及び職田を給す○元、太子忽哥赤を封じて、雲南王と爲す○丁卯咸淳三年(二)、元、史天澤を以て左丞相と爲す、忽都答兒・耶律鑄、降りて平章政事と爲り、伯顏は右丞に降り、廉希憲は左丞に降る。

(一) これ即ち我國元寇の端緒にて、龜山天皇の文永三年に當る (二) 「元世祖至元四年」と原註す

戊辰咸淳四年。襄陽受レ圍。

○戊辰咸淳四年(二)、襄陽圍を受く。文煥急を告ぐ。高達・范文虎をして、赴き援

以二太保一。巻二中書省事一。丙寅。咸淳二年。呂文煥守二襄陽一。元人自レ開二慶一以來。築レ城置レ堡。江心起二萬人臺一。撤二星橋一。以遏二南兵之援一。時出レ師哨二掠襄樊城外一。兵威漸振。

て襄・樊城外を哨掠し、兵威漸く振へり。

㊀「元世祖至元三年」と改訂す ㊁置堡 ㊂江の中央 ㊃ほかしかすむ

似道建二第西湖葛嶺一自娯。五日一乘二湖船一入朝。不レ赴レ堂治レ事。吏抱二文書一就レ第呈署。他相書二紙尾一而已。内外諸司彈劾薦辟擧削。非レ關白一不二敢行一。一時正人端士。斥罷殆盡。吏

○似道、第を西湖の葛嶺に建てゝ自ら娯む。五日に一たび湖船に乘りて入朝し、堂に赴きて事を治めず。吏、文書を抱きて第に就きて呈署し、他の相は紙尾に書するのみ。内外諸司の彈劾、薦辟、擧削、關り白すに非ざれば、敢て行はず。一時の正人端士、斥け罷められて殆んど盡く。吏爭ひて賂を納れて以て美職を求め、師閫、監司、郡守たらんことを圖る者、貢獻勝けて計る可からざるに至れり。趙溍が輩、爭ひて寶玉を獻ず。貪風大に肆なり。兵、外に喪へども、匿して以聞せず、民下に怨み、誅責無藝なれども、敢て言ふ者莫し。

㊀やしき ㊁平日には政堂に出向きて事を治むることをせず ㊂排斥 ㊃推薦して官に任ず ㊄人を登用し、或は官を削る ㊅たゞしき人士 ㊆將帥 ㊇限りなきこと

甲子即レ位。時則蒙古部。國號二大元一。紀二元至元一之初也。賈似道專レ政。進二平章軍國重事魏國公一。立レ相以自副。

臨安府士人葉李。蕭規等。上書詆二似道專レ權害レ民誤一レ國。似道怒。以二他事一罪竄二遠州一。詔二馬廷鸞。留夢炎。兼二侍讀一。李伯玉。陳宗禮。范東叟。兼二侍講一。何基。徐幾。兼二崇政殿說書一。

○臨安府の士人、葉李・蕭規等、上書して似道が權を專にし、民を害ひ國を誤るを詆る。似道怒り、他事を以て罪して遠州に竄す（一）○馬廷鸞、留夢炎に詔して侍讀を兼ねしめ、李伯玉・陳宗禮・范東叟に、侍講を兼ねしめ、何基・徐幾に崇政殿說書を兼ねしむ。

（一）遠き州。李を漳州に、規を汀州に遠竄せる也

元以二王盤一爲二翰林學士承旨一。乙丑。咸淳元年。元以二安童一爲二右丞相一。伯顏爲二左丞相一。以二劉秉忠一

○元、王盤を以て翰林學士承旨と爲す○乙丑咸淳元年、元、安童を以て右丞相と爲し、伯顏を左丞相と爲し、劉秉忠を以て太保と爲し、中書省の事を參せしむ○丙寅咸淳二年、呂文煥（一）襄陽を守る。元人、（二）互市を開きてより以來、城を築き堡を置き、（三）江心に萬人臺、撒星橋を起して、以て南兵の援を遏め、時に師を出し

祐。正人指レ邪爲レ邪。邪人指レ正爲レ邪。左爲ニ滑長一而負與其如ニ開慶丁大全之政一。謀定改元大全與ニ賈似道一入品不レ同、各以寘レ死。似道爲相。逢軌國直一末年獨有ニ若臣相猜之跡一。未レ及ニ更變一而崩。壽六十一。上臨御以來、終始崇ニ獎周程張氏、及朱張呂氏。諸儒義理之學一。致國致ニ理宗一。太子立。是爲ニ度宗皇帝一。

㊀ 邪人のなかま　㊁ 正と邪と共に一滑一長を以し用ゐりて世を亂りしと

度宗皇帝。初名孟啓。福王與芮之子。理宗之猶子也。理宗子多而不レ育。鞠ニ孟啓於宮中一、改ニ名孜一。又改ニ名禥一。立爲ニ皇子一、封ニ忠王一。已而建レ儲、改ニ名禥一。

度宗皇帝

度宗皇帝、初めの名は孟啓、福王與芮の子にして、理宗の猶子㊀也。理宗子多くして育せず。孟啓を宮中に鞠ひ、名を孜と改め、又名を禥と改め、立てゝ皇子と爲す。忠王に封ぜらる。已にして儲に建て名を禥と改む。歳の甲子位に卽く。時は則ち蒙古國を大元と號し、元を至元㊁と紀せし初め也。賈似道、政を專らにし、平章軍國重事魏國公に進み、相を立てゝ以て自ら副とす。

㊀ をひ　㊁ 年號

乘忠請レ定ニ都于燕一。世祖從レ之。元改ニ元至元一。時阿里不哥兵屢敗。至レ是。與ニ諸王玉龍答失。罕速帶。普里吉合。及其謀臣不魯花脫忽思等來歸。詔ニ諸王皆太祖之裔一。竝釋不レ問。其謀臣不魯花伏レ誅。元立ニ諸路行中書省一

冬十月。上崩。在位四十一年。改元者八。寶慶。紹定。則彌遠十年之政。端平初元。善類滿レ朝。有ニ眞德秀。魏了翁等一。爲ニ執政侍從人一。以比ニ慶曆元祐一。自ニ嘉禧一以後至ニ于淳祐一。則有ニ嵩之數年之政一。嵩之既去。自ニ淳祐一至ニ寶

○冬十月、上崩ず。在位四十一年、改元する者八。寶慶・紹定は則ち彌遠十年の政なり。端平の初元には、善類[一]朝に滿つ。眞德秀・魏了翁等有り、執政、侍從の人たり。以て慶曆・元祐に比す。嘉禧より以後淳祐に至るまでは、則ち嵩之數年の政有り。嵩之既に去り、淳祐より寶祐に至るまでは、正人は邪を指して邪と爲し、邪人は正を指して邪と爲し、互に消長を爲して狼狽せしこと開慶の丁大全の政に如くは無し。景定と改元、大全[二]、吳潛と人品同じからずと雖も各〻竄を以て死す。似道獨り相たり。遂に國政を執る。末年寖く君臣相猜むの跡有り、未だ更め變ふるに及ばずして崩ず。壽六十一。上、臨御以來、終始、周程張氏及び朱張呂氏諸儒の義理の學を崇め奬む。故に廟を理宗と號す。太子立つ。是を度宗皇帝と爲す。

土城。以護ニ貨物。文德不レ許。使者復至。文德請ニ於朝ニ許レ之。開ニ榷場於樊城外。築ニ土墻於鹿門山。外通ニ互市。內築レ堡。文德弟呂文煥知レ被レ欺。南中ニ制置ニ爲レ吏所レ匿。元人又於ニ白鶴城ニ築ニ第二堡。文煥再申方鎭。文德大驚曰。誤ニ朝廷ニ者我也。即請ニ自赴ニ援。會病卒。

とを請ふ。會〻病みて卒す。

㊀貨物を貯蓄交易する場所。貿易市場　㊁南國の制置使なる兄の呂文德

甲子。景定五年七月。彗星。長十數丈。芒角燭レ天。自ニ四更ニ從レ東見。日高方斂。月餘乃不レ見。楊棟因指爲ニ蚩尤旗ニ因レ此遭レ論去レ國。八月。元以ニ燕京ニ爲ニ中都大興府ニ。劉

○甲子、景定五年㊀七月、彗星あり、長さ十數丈、芒角天を燭す。四更より東より見はれ、日高くして方に斂まる。月餘にして乃ち見えず。楊棟、因りて指して蚩尤旗㊁と言ふ。此れに因りて論㊂に遭ひ國を去る○八月、元、燕京を以て中都大興府と爲す。劉秉忠、都を燕に定めんことを請ふ。世祖之に從ふ○元、至元と改元す。時に阿里不哥の兵屈して敗る。是に至りて、諸王王龍答失・罕速帶・昔里吉合、及び其謀臣不魯花・脫忽思等と來り歸す。諸王皆太祖の裔なりと詔し、竝に釋して問はず。其謀臣不魯花のみ誅に伏す○元、諸路行中書省を立つ。

㊀「元世祖至元元年」と頭註す　㊁兵亂に應じ、彗星の類、天に現る星の名　㊂論難攻擊

府一爲ニ上都一。元以ニ姚樞一。爲ニ中書左丞一。樞曰。陛下於ニ基業一爲ニ守成一。於ニ治道一爲ニ創始一。正宜下睦ニ親族一以固レ本。建ニ儲副一以重レ祚。定ニ大臣一以當レ國。開ニ經筵一以格レ心。修ニ邊備一以防レ虞。蓄ニ糧餉一以待レ歉。立ニ學校一以育レ才。勸ニ農桑一以厚上レ生。世祖納レ之。

納る。

㊀「元世祖中統四年」と原註す　㊁引き留む　㊂太子　㊃經書を講ずる所　㊄國境邊陲の防備　㊅凶年の用意を爲す

呂文德復ニ瀘州一。文德號ニ黑灰團一。劉整獻ニ言於元一曰。南人惟恃ニ黑灰團一。然可ニ以レ利誘一。乃遣レ使獻ニ玉帶於文德一。求レ置ニ榷場於襄城外一。文德許レ之。使曰。南人無レ信。願築ニ

○呂文德、瀘州を復す。文德、黑灰團と號す。劉整、元に獻言して曰く、南人惟〻黑灰團を恃む。然れども利を以て誘ふべしと。乃ち使を遣して玉帶を文德に獻じ、㊀榷場を襄城外に置かんことを求む。文德之を許す。使曰く、南人信無し。願はくは土城を築きて以て貨物を護らんと。文德許さず。使者復た至る。文德、朝に請ひて之を許し、榷場を樊城外に開く。土墻を鹿門山に築きて外に互市を通じ、内に堡を築く。文德の弟呂文煥、欺かれしを知りて兩び制置に申す。吏の爲に匿さる。元人、又、白鶴城に於て第二堡を築く。文煥の再申方に㊁達す。文德大に驚きて曰く、朝廷を誤る者は我也と。卽ち自ら赴き援けんこ

復二遼州一。元江淮大都督李璮。以二京東湖海一來降。詔封、璮爲二齊郡王一。復二其父全官爵一。元宰臣王文統。坐下與レ璮通謀上伏レ誅。元史天澤圍二李璮于濟南一。璮敗降二于元一。元人誅レ之。元以二粲文炳一爲二山東路經略使一。元立二十路宣慰司一。立二諸路轉運司一。

❶ 金を以てその罪をあがなひて ❷ 「元世祖中統三年」と改訂す

癸亥。景定四年。二月。元以二王德素一爲レ使。劉公諒爲レ副。致レ書來詰下其拘二留郝經一之故上。三月。元初建二太廟一。五月。初立二樞密院一。以二太子燕王眞金一守二中書令一。兼判二樞密院事一。以二開平

○癸亥、景定四年二月、元、王德素を以て使と爲し、劉公諒を副と爲し、書を致し、來りて其の郝經を拘留せるの故を詰る○三月、元初めて太廟を建つ。五月、初めて樞密院を立て、太子燕王眞金を以て中書令に守とし、兼ねて樞密院の事を判せしむ。開平府を以て上都と爲す。元、姚樞を以て中書左丞と爲す。樞曰く、陛下基業に於ては守成と爲し、治道に於ては創始と爲す。正に宜しく親族に睦みて以て本を固くし、儲副を建てゝ以て祚を重くし、大臣を定めて以て國に當らしめ、經筵を開きて以て心を格し、邊備を修めて以て寇を防ぎ、糧餉を蓄へて以て歉を待ち、學校を立てゝ以て才を育し、農桑を勸めて以て生を厚くすべしと。世祖之を

者向士璧。鋏ニ斷レ橋之功一者曹世雄。劉整。既而似道妬レ功。譖ニ士璧。世雄一。皆貶死。整已懼レ禍。而蜀帥鄭興。復以ニ宿憾一遣レ吏至レ瀘。打ニ算軍前錢糧。適北軍壓レ境。遂叛去。

しめ、軍前の錢糧を打算せしむ。適く北軍境を壓す。遂に叛き去る。

㈠「元世祖中統二年」と原註す　㈡主上の蹕を遷す、即ち遷都の議　㈢舊怨

元命ニ軍中一。所レ俘儒士聽ニ贖爲一レ民。七月。元初立ニ翰林國史院一。立ニ諸路提擧學校官一。元諸將敗ニ西軍一。阿里不哥北遁。元封ニ皇子眞金一爲ニ燕王一。領ニ中書省事一。壬戌。景定三年。呂文德

○元、軍中に命じ、俘ふる所の儒士、贖ひて民と爲ることを聽す。七月、元初めて翰林國史院を立つ○諸路の提擧、學校（二）の官を立つ○元の諸將、西軍を敗る。阿里不哥北に遁る○元、皇子眞金を封じて燕王と爲し中書省の事を領せしむ○壬戌景定三年（一）、呂文德瀘州を復す○元の江淮大都督李壇、京東漣海を以て來り歸す。詔して壇を封じて齊郡王と爲し、其父全の官爵を復す○元の宰臣王文統、壇と謀を通ずるに坐して誅に伏す○元の史天澤、李壇を濟南に圍む。壇復た元に降る。元人、之を誅す○元、董文炳を以て山東路の經略使と爲す○元、十路の宣慰司を立て、諸路の轉運司を立つ。

擒之一。欲ニ假レ手以害レ經。經踰レ淮。賈似道懼ニ姦謀呈露一。遂以ニ李壇一僞レ辭。拘ニ留經于眞州之忠勇軍營一。驛吏防守。嚴ニ於獄犴一。介佐或不レ能レ堪。經語レ之曰。將レ命至レ此。死生進退。聽ニ其在レ彼。守レ節不レ屈。盡ニ其在レ我。豈能不忠不義。以辱ニ中州士大夫一乎。但公等不幸。須ニ忍レ死以待一。揆ニ之天時人事一。宋祚殆不レ遠矣。衆感ニ其言一。皆自振勵。

せしとを口實とす ㊁ 牢獄。犴は郷亭に在る獄屋の稱 ㊂ 隨行員の中にはその嚴重なる防守のもとに拘留せらる〻苦しみに堪へ得ざるものもありきと也

帝聞レ有ニ北使一。謂ニ宰執一曰。北朝使來。事體當レ議。似道奏。和出ニ彼謀一。豈容ニ一切輕徇一。倘以下交ニ隣國一之道上來。當レ令ニ入見一。賈似道忌ニ害閫臣一。兵退行下打ニ算費用一法上。欲ニ以レ此汚レ之。向士璧。

帝、北使有りと聞き、宰執に謂ひて曰く、北朝の使來らば、事體當に議すべしと。似道奏す、和は彼の謀に出づ。豈一切輕々しく徇ふ容けんや。倘し隣國に交るの道を以て來らば、當に入り見えしむべしと。賈似道、閫臣(一)を忌み害ふ。兵(二)退けば費用を打算するの法を行ひ、此を以て之を汚さんと欲す。向士璧・趙葵・史岩之・杜庶等、皆侵盗掩匿(三)に坐し、官を罷められ償(四)を徵せらる。而して士璧償ふ所尤も多し。竟に安置せられて死す。復た其妻妾を拘へて之を徵す。猶ほ足ること能はず。信州の謝枋得(五)・趙葵の檄を以て錢粟を給し、民兵を募りて守り禦ぐ。枋得曰く、以て趙宣撫を累はす可からざる也と。自ら萬緡を償ふ。餘は辨ずる能

經才德。乃遣經行。或謂經曰。盍以疾辭。經曰。自南北構釁。江淮遺黎。弱者被俘略。壯者死原野。兵連禍結。斯亦久矣。聖上一視同仁。務通兩國之好。遣以微臣。蹈不測之淵。苟能弭兵靖亂。活百萬生靈於鋒鏑之下。吾學爲有用矣。遂行。王文統陰與李璮。使宋以兵

れ亦た久し。聖上、（三）一視同仁、兩國の好を通ぜんことを務む。（四）微臣を以て不測の淵を蹈むと雖も、苟くも能く兵を弭め亂を靖んじて、百萬の（五）生靈を鋒鏑の下に活さば、吾が學、用有りと爲さんと。遂に行く。王文統、陰に李璮に諷し、宋を侵して以て之を沮み撓さしめ、手を假りて以て經を害せんと欲す。經、淮を踰ゆ。賈似道、姦謀の呈露せんことを懼れ、遂に李璮を以て辭と爲し、經を眞州の忠勇軍營に拘留す。驛吏の防守、獄犴よりも嚴なり。介佐或は堪ふること能はず。經、之に諭りて曰く、命を將ちて此に至る。死生進退は其の彼に在るに聽せん。節を守りて屈せざるは、其の我に在るを盡さん。豈能く不忠不義にして以て中州の士大夫を辱かしめんや。但だ、公等、不幸なり。須らく死を忍びて以て待つべし。之を天の時人の事に揆るに、宋の祚殆んど遠からじと。衆、其言に感じ、皆自ら振ひ勵みたり。

（一）生き殘れる人民　（二）いけどりにせられ　（三）彼此の別なく一樣に之を愛しいつくしみ　（四）微々たることの身を以て深きも測られざる淵の如き敵地に踏み込むとも　（五）人民　（六）發見せられんことを　（七）李璮が淮安に據

九日。元建二元中統一。進二中統交鈔一。元世祖自將討二阿里不哥一。元廉希憲。大敗二西軍于姑臧一。斬二阿藍答兒及渾都海一。元以二梵僧八合思八一爲二國師一。元遣二郝經一。來尋レ盟。且徵二前日請レ和之議一。賈似道既還レ朝。使下其客廖瑩中。撰二福華編一。稱中頌鄂功上。朝廷不レ知三其求レ和也。

臧に敗り、阿藍答兒及び渾都海を斬る○元、梵僧八合思八を以て國師と爲す○元、郝經を遣し、來りて盟(一)を尋ねしめ、且前日和を請ふの議を徵す。賈似道、既に朝に還り、其客廖瑩中をして、福華編を撰して、鄂の功を稱頌せしむ。朝廷其の和を求めしことを知らざる也。

(一) 通鑑綱目には八思巴に作る　(二) 盟を重ね申べしめ

元世祖既立。廉希憲請下遣レ使以息レ兵講レ好。命レ軍北歸。俾中恩威竝著上。世祖善レ之。而未レ得二其人一。王文統素忌二郝

○元の世祖既に立つ。廉希憲、使を遣して以て兵を息め、好を講じ、軍に命じて北に歸らしめ、恩威をして竝に著はさしめんことを請ふ。世祖之を善しとして未だ其人を得ず。王文統、素より郝經の才德を忌む。乃ち經をして行かしむ。或ひと經に謂ひて曰く、盍ぞ疾を以て辭せざる。經曰く、南北難を構へてより、江淮の遺黎(一)、弱き者は俘(二)略せられ、壯なる者は原野に死し、兵連り、禍結ぶこと斯

必阿里不哥。

憲宗后聞之。遣使驗實。鄂請速還。三月至開平。諸王大臣勸進。三讓乃卽位。

(一)「元世祖皇帝中統元年」と改註す　(二)三度く辭退す

元兀良哈歹。會張傑于鄂州。帥師北還。宋賈似道命夏貴。敗其後軍于新生磯。遂匿其議和稱臣納幣之事。上表言鄂圍始解。江面肅清。宗社危而復安。實萬世無疆之休。帝以似道有再造功。下詔褒美。賞賚甚厚。

○元の兀良哈歹、張傑に鄂州に會し、師を帥ゐて北に還る。宋の賈似道、夏貴に命じ、其後軍を新生磯に敗る。遂に其の和を議し、臣と稱し、幣を納るゝの事を匿し、表を上りて言ふ、鄂の圍始めて解け、江面肅清なり。宗社危くして復た安し。實に萬世無疆の休なりと。帝以へらく、似道再造の功有りと。詔を下して褒美し、賞賚甚だ厚し。

(一)しんがり　(二)元に對して宋國が臣と自稱するにて臣下となりしと同等の意　(三)歳幣を納るゝと卽ち歳々の貢物の意　(四)太平無事　(五)きはみなき幸福なり　(六)國家を再び造りたる功あり

元阿里不哥。僭號于和林城。五月十

○元の阿里不哥、和林の城に僭號す○五月十九日、元、元を中統と建つ○中統交鈔を進む○元の世祖自ら將として阿里不哥を討つ○元の廉希憲、大に西軍を始

阿里不哥欲レ襲二尊號一。郝經曰。若彼果稱二遺詔一。便正二位號一。下二詔中原一。行二赦江上一。欲レ歸得乎。願大王以二社稷一爲レ念。班レ師議レ和●直二輜重一。率二輕騎一而歸。直造二大都一。遣二一軍一逆二大行靈輀一。收二皇帝璽一。遣レ使召二旭烈阿里不哥諸王一。會二喪和林一。差二官諸路一安輯。命二王長子眞金一鎭二守燕都一。示以二形勢一。則大寶有レ歸。而社稷安矣。太弟然レ之。乃許二似道和一。且約二歲幣之數一。遂拔レ寨而去。留二張傑。閻旺一。以二偏師一候二湖南兀良哈歹之兵一。

め守らしめ、示すに形勢を以てせば、則ち大寶歸すること有りて、(五)社稷安からんと。太弟之を然りとす。乃ち似道に和を許し、且つ歲幣の數を約す。遂に寨を拔きて去り、張傑・閻旺を留め、(六)偏師を以て湖南の兀良哈歹の兵を候せしむ。

(一)大赦　(二)國家を憂へ思ふ　(三)先帝の靈柩を迎へ。天子初めて崩じて未だ諡號を立てざる間を大行といふ。逆は迎也　(四)なぐさめ安んじ　(五)天子の御位　(六)一部の軍隊

庚申、景定元年。元世祖名忽必烈。憲宗同母弟也。憲宗既殂。阿藍答兒。渾都海等。謀レ立二世祖

○庚申、景定元年、(一)元の世祖、名は忽必烈、憲宗の同母弟也。憲宗既に殂す。阿藍答兒・渾都海等、世祖の弟阿里不哥を立てんと謀る。憲宗の后之を聞き、使を遣して、馳せて鄂に至り、速に還らんことを請はしむ。春三月開平に至る。諸王大臣同じく勸進す。(二)三讓して乃ち位に卽く。

搶レ攘。故出二多門一。至二憲宗一。凡詔旨必親起草。更易數四。然後行レ之。御二羣臣一甚嚴。嘗諭曰。汝輩若得二朕獎諭一。即志氣驕逸。災禍未レ有ア不二隨至一者。汝輩其戒レ之。時太弟進攻二鄂州一。宋守將張堅守不レ下。遂死レ之。

似道自二漢陽一至レ鄂督レ師。而太弟忽必烈攻レ城益急。城中死傷者。至二萬三千人一。似道大懼。密遣二宋京一詣二元營一。請レ稱レ臣納レ幣。太弟不レ許。會合州守王堅遣レ人走レ鄂。以二憲宗訃一。聞二于似道一。似道再遣二宋京一往二元營一。待一太弟亦聞二

○似道、漢陽より鄂に至りて師を督す。而して太弟忽必烈、城を攻むること益々急に、城中死傷する者萬三千人に至る。似道大に懼れ、密に宋京を遣はして元の營に詣り、臣と稱し幣を納れんことを請はしむ。太弟許さず。會々合州の守王堅、人を遣はして鄂に走らしめ、憲宗の訃を以て似道に聞す。似道再び宋京を遣して元の營に往かしむ。太弟亦た阿里不哥が位號を僭がんと欲するを聞く。郝經曰く、若し彼果して遺詔と稱し、便ち位號を正し、詔を中原に下し、赦を江上に行はゞ、歸らんと欲すとも得んや。願はくは大王社稷を以て念と爲し、師を班して和を議し、輜重を置き、輕騎を率ゐて歸り、直に大都に造り、二軍を遣はして大行の靈轝を逆へ、皇帝の璽を收め、使を遣して、旭烈・阿里不哥諸王を召して和林（一）に會喪し、官を諸路に差して安輯（二）し、王の長子眞金に命じて燕都を鎭

文德等乘レ風戰勝。濟以二列士壁一守レ潭。適南來二哥元帥。遇二宋候騎一而死。潭圍先解。高達等守レ鄂。似道駐二漢陽一。爲二鄂援一。

（一）己未開慶元年、元の憲宗九年也。即ち次項の年次當に此文初にあるべき也　（二）物見の騎兵

己未。開慶元年。元憲宗圍二合州一。遣レ使招二諭守將王堅一。堅殺二使者一。固守拒レ之。七月。元憲宗殂二於釣魚山一。在位九年。壽五十二。後追諡曰二桓肅皇帝一。憲宗剛明雄毅。沈斷寡言。不レ樂二宴飲一。不レ好二侈靡一。雖二后妃一亦不レ過レ制。太宗末年。羣臣

○己未開慶元年（一）、元の憲宗合州を圍み、使を遣はして守將王堅を招き諭さしむ。堅、使者を殺し、固く守りて之を拒ぐ○七月、元の憲宗、釣魚山に殂す。在位九年、壽五十二。後に追諡して桓肅皇帝と曰ふ。憲宗、剛明雄毅、沈斷寡言にして、宴飲を樂まず、侈靡（二）を好まず。后妃と雖も亦た制（三）に過ぎず。太宗の末年、羣臣權を擅にし、政（四）多門より出づ。憲宗に至りて、凡そ詔旨は必ず親ら起草し、更め易ふること數四、然る後に之を行ふ。羣臣を御すること甚だ嚴なり。嘗て諭して曰く、汝輩、若し朕の奬諭を得ば、即ち志氣驕逸せん。災禍未だ隨ひて至らざる者有らず。汝輩其れ之を戒めよと。時に、太弟進みて鄂州を攻む。宋の守將張、堅く守りて下らず。遂に之に死す。

（一）「元憲宗九年」と原註す　（二）奢侈淫靡　（三）服飾等凡て一定の制度を過さしめず　（四）政諸方面より出づ

王傳ニ國於長子光昺ニ。遣ヾ使以ニ方物ヲ獻ニ于元ニ。元討ニ回回哈里發ヲ平ク之。九月。憲宗親帥ニ大軍ヲ入ル蜀。攻ニ苦竹隘ヲ。宋守將楊立。張實死ス之。是時。元人勢欲ニ順ヲ流東下ヲ。一軍自ニ大理國斡服南ヲ來。歴ニ邕桂之境ヲ。以至ニ潭州ニ。一軍濟ヾ江圍ニ鄂州ヲ。

獻す○元、回回哈里發を討ちて之を平らぐ○九月、憲宗親ら大軍を帥ゐて蜀に入り、苦竹隘を攻む。宋の守將楊立・張實、之に死す。是時、元人、勢流に順ひて東下せんと欲す。一軍は大理國斡服の南より來り、邕桂の境を歴て、以て潭州に至り、一軍は江を渡りて鄂州を圍む。

〔一〕「元憲宗八年」と改註す　〔二〕其地方の產物

罷ニ丁大全ヲ。以ニ吳潛ヲ爲ニ左相ト。即ニ軍中ニ拜ニ賈似道ヲ爲ニ右相ト。趙葵樞密宣撫使。杜庶兩淮制置。夏貴總ニ領舟師ヲ。呂

〔二〕○丁大全を罷め、吳潛を以て左相と爲し、軍中に即きて、賈似道を拜して右相と爲す。趙葵、樞密宣撫使たり。杜庶、兩淮制置たり。夏貴、舟師を總領す。呂文德等、風に乘じて戰ひ勝つ。潛、向士璧を以て潭を守らしむ。適〻南來の二哥元帥、宋の候騎に遇ひて死す。潭の圍先づ解く。高達等鄂を守る。似道、漢陽に駐まりて鄂の援〔三〕と爲る。

嵯甫。集南酋長嘽合羅嵯及素州諸國朝二于元一。元憲宗欲下建二城市一爲中都會之所上。太弟忽必烈言、劉秉忠精二於天文地理之術一。乃命相レ宅。秉忠以二桓州東灤水北之龍岡一爲レ吉。乃命二秉忠一營レ之。名曰二開平府一。三年而舉レ功。

文、地理の術に精しと。乃ち命じて宅を相せしむ。秉忠、桓州の東、灤水の北の龍岡を以て吉と爲す。乃ち秉忠に命じて之を營ましむ。名づけて開平府と曰ふ。三年にして功を擧ふ。

㊀「元憲宗六年」と原註す

丁巳。寶祐五年。元回鶻獻二水精盆珍珠傘一。可レ直二銀三萬餘錠一。憲宗曰。方今百姓疲弊。所レ急者錢耳。朕獨有レ此何用。却レ之。十月。元兀良哈歹伐二安南一。屠二其城一。

○丁巳、寶祐五年㊀、元、回鶻、水精の盆㊁、珍珠の傘㊂を獻ず。銀三萬餘錠に直す可し。憲宗曰く、方今百姓疲弊す。急なる所の者は錢のみ。朕獨り此有りとも何ぞ用ひんと。之を却く○十月、元の兀良哈歹、安南を伐ちて、其城を屠る。

㊀「元憲宗七年」と原註す ㊁水晶の盆 ㊂珍しき珠をちりばめたる傘

戊午。寶祐六年。二月。安南

○戊午、寶祐六年㊀二月、安南王、國を長子光昺に傳へ、使を遣し㊁方物を以て元に

方曰。吾死訴於天。既斬、血逆流而上木。幾大方入朝。恍惚與惟忠遇。遂卒。先是朝廷用彭大雅理蜀。舊有城名。重築直慶城。余玠築蜀隘乎險之地。分治險要。如合州治釣魚山之類。在蜀二十年。民籍以安。至余晦。貪縱罔功。敗失要地。以利州守劉雄飛。爲四川制置。胡穎每見淫祠。即毀之。人謂之胡打鬼。經略廣東。廣無佛寺。佛像中有巨蛇。時出享人祭祀。僧托之斂錢得數千緡。穎至毀佛擊蛇。其怪遂息。

り。合州を釣魚山に治せし類の如し。蜀に在ること二十年。民籍りて以て安し。余晦に至りては、貪縱にして功罔く、敗れて要地を失ふ、利州の守劉雄飛を以て四川制置と爲す。胡穎、淫祠を見る毎に、即ち之を毀つ。人之を胡打鬼と謂ふ。廣東を經略す。廣に佛寺有り、佛像の中巨蛇有り、時に出でゝ人の祭祀を享く。僧之に托して錢を斂し、數千緡を得たり。穎至り、佛を毀ち、蛇を擊つ。其怪遂に息む。

●「元寶祐四年」と原註す　● [illegible]に蜀を[illegible]す　● うつとりとなりて惟忠と共に遇るごとく思ひ　● 平[illegible]
蜀に在りし治所を險阻要害の地に分ち徙す　● 祀典に載せざる不正の神社　● [illegible]を置きて敎化軍を作る

丙辰。寶祐四年。高麗王瞰

○丙辰、寶祐四年、高麗王瞰、白山、雲南の酋長摩合羅嵯、及び赤州諸國、元に朝す○

元の憲宗、城市を建て、都會の所と爲さんと欲す。太弟忽必烈言ふ、劉秉忠、天

封二同姓一。太弟於二汴京關中一。自擇二其一一。姚樞曰。南京河徙無レ常。土薄。水淺。潟鹵生レ之。不レ若二關中一。厥田上上。古名二天府陸海一。太弟遂請二關中一。由レ是太弟有二關中河南之地一。

癸丑。寶祐元年。四川制置使余玠卒。以二余晦一爲二四川宣諭使一。元太弟忽必烈平二大理國一。

○癸丑、寶祐元年(一)、四川の制置使余玠卒す。余晦を以て四川宣諭使と爲す。元の太弟忽必烈、大理國を平ぐ。

(一)「元憲宗三年」と原註す

甲寅。寶祐二年。時余晦宣二撫四川一。以二私恨一誣奏。利路安撫王惟忠。潛通二北境一。大理陳大方承レ旨鍛二成之一。惟忠將レ斬二於市一。色不レ變。謂二大

○甲寅、寶祐二年(一)、時に余晦四川に宣撫たり。私の恨を以て誣ひ奏すらく、利路の安撫王惟忠潛かに北境に通ずと。大理陳大方、旨を承けて之を鍛成(二)す。惟忠將に市に斬られんとするや、色變ぜず、大方に謂ひて曰く、吾死せば天に訴へんと。既に斬れば、血逆流して上る。未だ幾ならず、大方入朝し、恍惚(三)として惟忠と還り、卒に卒す。是より先、朝廷彭大雅を用ひて蜀を理めしむ。甚だ威名有り。重ねて重慶城を築く。余玠、蜀郡(四)の平曠の地を遷して、險要を分治せ

大有爲。乃進二其平日所一レ學。爲二書數千言一。上レ之。首以二二帝三王爲レ學之本。爲レ治之序。與二治國平天下之大經。使爲二八目。曰修身。力學。尊賢。親親。畏天。愛民。好善。遠佞。使次及二勸政之綱。爲二條三十。本末條貫。細大不レ遺。太弟大奇二其才。動必見レ詢。

㊀ 學問に對象に關してする賢の才器にて ㊁ 堯と舜 ㊂ 夏の禹王、殷の湯王、周の文武王 ㊃ 聰明をつとむること ㊄ 賢人をたつとぶこと ㊅ 親族を親しむこと ㊆ 讒人をとほざくること ㊇ 根本より枝葉の事に至るまで條理備はりて

元以二史天澤・趙璧一爲二河南經略使一。壬子。淳祐十二年。元定宗后及失烈門母。以二厭穰事覺一。並賜レ死。謫二失烈門及其黨於沒脫赤之地一。六月。元憲宗以二中州漢地一

○元、史天澤・趙璧を以て河南經略使となす○壬子淳祐十二年㊀、元の定宗の后及び失烈門の母、厭穰の事覺はれしを以て、並に死を賜ふ。失烈門及び其黨を沒脫赤の地に謫す○六月、元の憲宗、中州の漢地を以て同姓を封ず。太弟には、汴京・關中に於て、自ら其一を擇ばしむ。姚樞曰く、南京は河徙りて常無く、土薄く水淺く、斥鹵これに生ず。關中に若かず。厥の田、上の上にして、古より天府陸海と名づくと。太弟、遂に關中を請ふ。是に由りて、太弟關中、河南の地を有つ。

㊀「元憲宗二年」に該當す ㊁ 鹽りのある土こと ㊂ 河流常に變ず ㊃ 土瘠せたり ㊄ 下ひたの濕地

決。至ㇾ是兀良哈歹以。太祖諸孫。惟憲宗謙愼。宜ㇾ立。遂大會二于闊帖兀阿闌之地一。而卽ㇾ位焉。失烈門不ㇾ服。憲宗因察下諸王有二異同一者上。竝羈二縻之一。取二主謀者一誅二夷之一。由ㇾ是始定。

始めて定まる。

㈠「元憲宗元年」と原註す　㈡異心ある者の意　㈢抑留す

余玠大敗二元人于興元一。元憲宗命二太弟忽必烈一。總二治蒙古漢地民戸事一。開二府于金蓮川一。先ㇾ是姚樞隱二居蘇門一。以ㇾ道自任。太弟召ㇾ之。樞至。見下太弟聰明。才不世出。虛ㇾ己受ㇾ言。將中

○余玠大に元人を興元に敗る○元の憲宗、太弟忽必烈に命じて、蒙古・漢地の民戸の事を總べ治め、府を金蓮川に開かしむ。是より先、姚樞、蘇門に隱居し、道を以て自ら任ず。太弟之を召す。樞至る。太弟の聰明にして、才は不世出、己を虛しくして言を受け、將に大に爲すこと有らんとするを見、乃ち其平日學ぶ所を盡して、書數千言を爲り、之を上る。首として二帝(一)三王(二)學を爲すの本、治を爲すの序と、治國平天下の大經とを以て、彙めて八目と爲す。曰く、修身、力學、尊賢、親親、畏天、愛民、好善、遠佞。次に時政の弊に及び、條三十を爲り、本末兼該して、細大遺さず。太弟太だ其才を奇とし、動くときは必ず詢はる。

者五年。乃臨

立二定宗一。戊申淳祐八年。元定宗尸位三年而殂。壽四十三。葬二起輦谷一。追二諡簡平皇帝一。

を謂ふること。只天子といふ名のみにて萬事母后の制御を受けしをいふ

元自二馬眞氏臨レ朝以來。法制不レ一。內外離レ心。定宗既殂。皇后海迷失抱二子失烈門一。垂レ簾聽レ政。諸王大臣不レ服。共臨立二太弟蒙哥一。後二年。是爲二憲宗一。卽レ位。

○元、馬眞氏、朝に臨みてより以來、法制一ならず、內外心を離す。定宗既に殂す。皇后海迷失、子失烈門を抱き、簾を垂れて政を聽く。諸王大臣服せず。共に議して太弟蒙哥を立つ。後二年、是を憲宗と爲す。位に卽く。

●此句「後二年」の次にあるべきを原文顚倒せるなり

辛亥。淳祐十一年。元憲宗名蒙哥。太祖第四子拖雷之長子。先レ是。諸大臣欲レ奉二屈出之子失烈門一。久而不レ

○辛亥淳祐十一年、元の憲宗、名は蒙哥、太祖の第四子拖雷の長子なり。是より先、諸大臣屈出の子失烈門を奉ぜんと欲す。久しくして決せず。是に至りて、兀良哈台以へらく、太祖の諸孫、惟だ憲宗のみ謙愼なり、宜しく立つべしと。遂に大に闊帖兀阿蘭の地に會して位に卽かしむ。失烈門服せず。憲宗、因りて、諸王の異同有る者を察し、竝に之を幽廢し、主謀者を取りて之を誅夷す。是に由りて

況斷ﾚ手乎。后以二其先朝勳舊一。曲加二敬憚一焉。楚材天資英邁。負下出二人表一。雖二案牘滿一ﾚ前。酬答不ﾚ失二其宜一。正ﾚ色立ﾚ朝。不下爲ﾚ勢屈一。欲三以ﾚ身徇二天下一。每ﾚ陳二國家利病。生民休戚一。辭色懇切。太宗嘗曰。汝又欲下爲二百姓一哭上耶。楚材每言。興二一利一。不ﾚ若ﾚ除二一害一。生二一事一。不ﾚ若ﾚ滅二一事一。平居不二妄言笑一。及ﾚ接二士人一。溫恭之容溢二于外一。莫ﾚ不ﾚ感二其德一焉。元便宜總帥汪世顯卒。世顯善ﾚ兵能將。重ﾚ儒愛ﾚ民。勤儉自持。有二古名將之風一。

るされたる所　(五) 元勳なるが故に　(六) 利害　(七) よろこびとうれへ　(八) 溫和にしてつゝしみ深き容態自然と外面にあふる

丙午。淳祐六年。元定宗卽二位于速蔑禿都一。定宗名貴由。太宗長子也。母曰二六皇后乃馬眞氏一。初太宗有ﾚ旨。以二皇孫失烈門一爲ﾚ嗣。及ﾚ殂后臨ﾚ朝稱ﾚ制

○丙午、淳祐六年(一)、元の定宗、速蔑禿都に卽位す、定宗、名は貴由、太宗の長子也。母を六皇后乃馬眞氏(二)と曰ふ。初め太宗、旨有り、皇孫失烈門を以て嗣と爲す。殂するに及び、后、朝に臨み、制を稱する者五年。乃ち議して定宗を立つ

○戊申淳祐八年(三)、元の定宗、尸位(四)三年にして殂す。壽四十三、起輦谷に葬り、簡平皇帝と追諡す。

(一)「元定宗元年」と原註す　(二) 第六の班次に在るを以て六皇后と號す　(三)「元定宗三年」と原註す　(四) 虛器

付二宰臣奧都剌合蠻一。令下自書塡行上レ之。楚材奏曰。天下者先帝之天下。朝廷自有二憲章一。今欲レ棄レ之。臣不三敢奉二詔一。事遂止。復有レ旨。凡奧都剌合蠻所レ奏准一。令史不レ爲レ書者。斷二其手一。楚材曰。軍國之事。先帝悉委二老臣一。令史何與焉。事若合レ理。自當二奉行一。如不レ可レ行。死且不レ避。

材曰く、軍國の事は先帝悉く老臣に委ぬ。令史何ぞ與からん。事若し理に合はゞ自ら當に奉行すべし。如し行ふ可からずんば、死も且つ避けず、況んや手を斷たるゝをやと。后、其先朝の勳舊なるを以て、曲げて敬ひ憚ることを加ふ。楚材、天資英邁、儼かに人の表に出づ。案牘前に滿つと雖も、酬答すること其宜しきを失はず。色を正しくして朝に立ち、勢の爲に屈せず。身を以て天下に徇ぜんと欲す。國家の利病、生民の休戚を陳ぶる每に、辭色懇切なり。太宗、嘗て曰く、汝又百姓の爲に哭せんと欲するかと。楚材每に言ふ、一利を興すは一害を除くに若かず、一事を生ずるは一事を減ずるに若かずと。平居妄りに言笑せず。士人に接するに及びては、溫恭の容外に溢る。其德に感ぜざるは莫し。元の便宜總帥汪世顯卒す。世顯、兵を善くし、能く將たり。儒を重んじ民を愛し、勤儉自ら持す。古の名將の風有り。

㊀ 他國より出り仕ふる臣　㊁ 璽は天子の璽也、天子の印のすわりたる白紙　㊂ 憲法典章　㊃ 民に替して

嵩之之言。自督府一入爲レ相。雖レ欲レ讒レ和。輒爲二衆論一所レ沮。嵩之丁二父彌遠憂一。聞レ訃數日乃行。詔起復爲レ相。言者目爲二權姦一。力攻レ之。遂不二復相一。范鍾。游侶。鄭清之。謝方叔。吳潛。董槐。程元鳳。丁大全。等相繼爲レ相。每レ歲以二防秋一爲二常事一。

姦と爲し、力めて之を攻む。遂に復た相たらず。范鍾・游侶・鄭清之・謝方叔・吳潛・董槐・程元鳳・丁大全等、相繼ぎて相と爲り、歲每に(三)防秋を以て常事と爲す。

(一)父の喪にあたる。「彌遠」は「彌忠」の誤 (二)權を擅にする姦人 (三)秋時北方よりの入寇を防ぐこと

元中書令耶律楚材卒。后嘗以二儲嗣事一問二楚材一。對曰。此非二外臣所一敢知一。自有二太宗遺詔在一。守而行レ之。社稷之幸也。后嘗以二御寶空紙一。

○元の中書令耶律楚材卒す。后、嘗て儲嗣の事を以て楚材に問ふ。對へて曰く、此(一)外臣の敢て知る所に非ず。自ら太宗の遺詔の在る有り。守りて之を行はゞ、社稷の幸也と。后、嘗て(二)御寶の空紙を以て幸臣奧都剌合蠻に付し、自ら書し塡めて之を行はしむ。楚材、奏して曰く、天下は先帝の天下にして、朝廷自ら(三)憲章有り。今之を紊さんと欲す。臣敢て詔を奉ぜずと。事遂に止む。復た旨有り、凡そ奧都剌合蠻の(四)奏准する所、令史之が爲に書せざる者は、其手を斷たんと。楚

程頤伊陽伯。朱熹徽國公。並従祀孔子廟庭。黜王安石従祀。帝謁孔子。遂臨大學。十一月。元太宗出獵。死于鈲鐡鐸胡蘭。年五十六。葬起輦谷。後追諡曰英文皇帝。廟號太宗。太宗有寛弘之量。仁恕之心。量時度物。擧無過事。華夏殷富。庶民樂業。行旅不齎糧。時稱治平。元自太宗死後。皇后乃馬眞氏臨朝。稱制凡五年。不立君。

し、鈲鐡鐸胡蘭に死す。歳五十六。起輦谷に葬る。後、追諡して英文皇帝と曰ひ、廟を太宗と號す。太宗、寛弘の量、仁恕の心有り。時を量り、物を度り、擧として(二)過事無し。(三)華夏、殷富にして、庶民業を樂み、(四)行旅糧を齎さず。時に治平と稱す。元、太宗死してより後、皇后乃馬眞氏朝に臨み、制を稱すること凡そ五年。君を立てず。

(一)「元太宗十三年」と欄註す　(二)行ふとして　(三)中原の地　(四)行く先きざきに供給の便ある也

甲辰。淳祐四年。先是鄭清之罷相。喬行簡・李宗勉等繼爲政。無所決斷。上思史

甲辰淳祐四年、是より先、鄭清之相を罷めらる。喬行簡、李宗勉等、繼ぎて政を爲す。決斷する所無し。上、史嵩之の言を思ひ、督府より入らしめて相と爲す。和を議せんと欲すと雖も、輒ち衆論の爲に沮まる。嵩之、父彌遠の憂に丁る。計を聞きて數日にして乃ち行く。詔して起し復して相と爲す。言者、目して權(一)

不レ獲。以二官物一償レ之。國初多レ盜。下レ令凡失二盜去處一。令二本路民戸代償一。民苦レ之多亡命。至レ是罷レ徵。又官民貸二回鶻金銀一。償レ之者歲加倍。謂二之羊羔利一。往往破レ家。至下以二妻子一爲上レ質。終不レ能レ償。耶律楚材請悉以二官物一代還。凡七萬六千錠。仍令。凡假貸歲久。惟子本相侔而止。著爲レ令。

苦みて多く亡命(五)す。是に至りて徵を罷む。又、官民、回鶻の金銀を貸り、之を償ふ者歲に加倍(六)す。之を羊羔利(七)と謂ふ。往往家を破り妻子を以て質と爲すに至れども、終に償ふ能はず。耶律楚材、請ひて悉く官物を以て代へて還すこと、凡そ七萬六千錠。仍りて令すらく、凡そ假貸(八)歲久しきものは、惟子本相侔(九)しくして止むと。著して令と爲す。

(一)「元太宗十二年」と原註す (二)見失ひ (三)ゆく〳〵を見失へば (四)その土地の民家 (五)にげ失す (六)倍の利息を附す (七)子を產するを多きに喩ふ (八)かり貸し (九)元金と利金と同數

辛丑。淳祐元年。宋詔追二封周敦頤汝南伯。張載郿伯。程顥河南伯。

○辛丑淳祐元年(一)、宋、詔して周敦頤を汝南伯に、張載を郿伯に、程顥を河南伯に、程頤を伊陽伯に朱熹を徽國公に追封し、竝に孔子の廟庭に從祀し、王安石の從祀を黜く。帝、孔子に謁し、遂に大學に臨む○十一月、元の太宗、出で(二)ゝ獵

汪統制降。先レ是出二出率二張柔等一攻二鄧州一。拔之。至レ是宋孟珙復取二襄陽一。元領中書行省楊惟中。建二太極書院于燕京一。延二趙復一爲レ師。時濂溪周子之學。未レ至二於河朔一。惟中用二師于蜀湖京漢一。得二名士數十人一。始知二其道之粹一。乃收二集伊洛諸書一。載送二燕京一。及二師還一。遂建二太極書院。及周子祠一。以二二程張楊游朱六子一配食。由レ是河朔始知二道學一。

率ゐ、鄧州を攻めて之を拔く。是に至りて、宋の孟珙復た襄陽を取る〇元の領中書行省楊惟中、太極書院を燕京に建て、趙復を延きて師と爲す。時に濂溪周子の學未だ河朔(一)に至らず。惟中、師を蜀湖京漢に用ひて、名士數十人を得たり。始めて其道の粹を知り、乃ち伊洛の諸書(二)を收め集め、載せて燕京に送る。師の還るに及びて、遂に太極書院及び周子祠を建て、二程・張・楊・游・朱の六子(三)を以て配食(四)せしむ。是に由りて、河朔始めて道學を知れり。

(一) 黃河の北方 (二) 伊洛二水の邊に住みし程明道、程伊川及び其門下の著書 (三) 程顥、程頤、張載、楊時、游酢、朱熹 (四) 合せまつる事

庚子。嘉熙四年春。元太子貴由克二西域未レ下諸部一。元勅二州郡一。失レ盜

〇庚子、嘉熙四年春、元の太子貴由、西域の未だ下らざる諸部に克つ。元、州郡に勅し、盜を失ひて獲ざれば、官物を以て之を償はしむ。國初、盜多し。令(一)を下して、凡そ盜の失處(二)を失すれば、本路(三)の民戶をして代り償はしむ。民之に

四千三十人。元兵略レ地至二黄州一。宋孟珙敗レ之。

戊戌。嘉熙二年。先レ是杜杲却二元人安豐之兵一。復破二察罕八十萬兵於廬州一。後解二儀眞之圍一。以レ功擢二刑部尙書一。復進二敷文閣學士一。呂文德總二統兩淮出戰軍馬一。進二淮西招撫使一。又德安豐人。魁梧勇悍。微時鬻二薪城中一。趙帥葵道傍見二遺屨長尺有咫一。驚訝訪求得レ之。留二之麾下一。後以二邊功一至二顯官一。

○戊戌嘉熙二年。(一)是より先、杜杲、元人安豐の兵を却け、復た察罕の八十萬の兵を廬州に破り、後、儀眞の圍を解く。功を以て權に刑部尙書たり。復た敷文閣學士に進む○呂文德、兩淮出戰の軍馬を總統す。淮西招撫使に進む。文德は安豐の人にして、魁梧(二)勇悍なり。微なりし時(三)薪を城中に鬻ぐ。趙帥葵、道傍に遺ちたる屨の長さ尺有咫(四)なるを見て、驚き訝り、訪ひ求めて之を得たり。之を麾下に留む。後、邊功(五)を以て顯官に至る。

(一)「元太宗十年」と原註す　(二)身體偉大なること　(三)身分のいやしかりし時　(四)一尺八寸　(五)邊境にて立てたる功績

元塔思軍至二北峽關一。宋將

○元の塔思の軍北峽關に至る。宋の將汪統制降る。是より先、曲出、張柔等を

元以二耶律楚材言一始定二天下賦稅一。上田每畝稅三升。中田二升半。下田二升。水田一畝五升。商稅三十分之一。五戶出二絲一斤一以供二諸王功臣湯沐之賜一。鹽每二銀一兩一四十斤。永爲二定額一。朝臣皆謂二太輕一。耶律楚材曰。將來必有二以レ利進一者。則已爲レ重矣。

○元、耶律楚材の言を以て始めて天下の賦稅を定む。上田は、畝毎に稅三升、中田は二升半、下田は二升、水田は一畝に五升、商稅は三十分の一、五戶に絲一斤を出さしめて、以て諸王功臣の湯沐の賜に供す。鹽は銀一兩毎に四十斤、永く定額と爲す。朝臣皆太だ輕しと謂ふ。耶律楚材曰く、將來必ず利を以て進むる者有らん、則ち已に重しと爲すと。

【一】ゆあみ料としての下賜【二】利を上に進むるものあらん、それを思へば現在の額にても既に重しとなり

丁酉。嘉熙元年。詔二經筵一進二講朱熹通鑑綱目一。八月。元試二諸路儒士一。中レ選者。除二本貫議事官一。得二

○丁酉、嘉熙元年、經筵に詔して、朱熹の通鑑綱目を進講せしむ○八月、元、諸路の儒士を試む。選に中る者は本貫の議事官に除す。四千三十人を得たり。元兵、地を略して黃州に至る。宋の孟珙之を敗る。

【一】本貫地

乙未。端平二年春。元城二和林一。作二萬安宮一。遣二諸王拔都。太子貴由。姪蒙哥一征二西域一。太子闊端侵二蜀漢一。太子曲出。及胡士虎侵レ宋。唐吉征二高麗一。

○乙未端平二年(一)春、元、和林に城き、萬安宮を作る。諸王拔都、太子貴由、姪蒙哥を遣して、西域を征せしむ。太子闊端、蜀漢を侵し、太子曲出及び胡士虎、宋を侵し、唐吉、高麗を征す。

(一)「元太宗七年」と原註す

丙申。端平三年。元印二造交鈔一行レ之。六月耶律楚材請於二燕京一立二編修所一。於二平陽一立二經籍所一。編二集經史一。召二儒生梁陟一充二長官一。以二王萬慶。趙著一副レ之。秋闊端取二宋關外數州一。十月入二成都一。取二秦鞏等四十餘州一。時和議既不二復諧一。蜀遂破陷。荊襄淮甸。無レ歲不レ受二攻哨一。

○丙申端平三年(一)、元、交鈔(二)を印造して、之を行ふ。六月耶律楚材、請ひて燕京に於て編修所を立て、平陽に於て經籍所を立て、經史を編集す。儒生梁陟を召して長官に充て、王萬慶・趙著を以て之に副とす。秋、闊端、宋の關外の數州を取り、十月成都に入り、秦鞏等の四十餘州を取る○時に和議既に復た諧はず、蜀遂に破れ陷り、荊襄・淮甸、歲として攻哨(三)を受けざること無し。

(一)「元太宗八年」と原註す　(二)紙幣　(三)元の來侵をいふ

得以與人耶。我師若作彼必突至。非惟進退失據。開罪致兵必自此始。且千里長驅以爭空城。得之當勤饋餉。後必悔之。范不聽。止嵩之亦言。荊襄方留鐵錢。未可興師。杜杲復陳出師之害。范葵故荊湖制帥趙方之子。習於兵。銳意攻取。募山東忠義。皆響應。仲之未回。而宋師出矣。仲之等幾被羈留於燕。虎踞得與鐵俱來。鐵曰、何爲而敗盟也。自是淮漢之間。無寧日矣。不數日汴人以城附宋。宋師入汴。卽趨洛。元兵戍洛者無幾。姑避去。宋師入洛。不數日糧絶。聞元生兵且大至。潰而歸。皆嵩之主和。不肯運糧致誤事。

制帥趙方の子にして、兵に習ひ攻取に鋭意す。山東の忠義を募るに、皆響きのごとく應ず。仲之未だ回らずして宋の師出づ。仲之等殆んど燕に羈留せられんとす。虎踞して鐵と倶に來るを得たり。鐵曰く、何の爲にして盟を敗ると。是より淮漢の間寧日無し。數日ならず、汴人城を以て宋に附く。宋の師汴に入り、卽ち洛に趨く。元の兵、洛を戍る者幾くも無し。姑らく避け去る。宋の師洛に入り、數日ならずして糧絶ゆ。元の生兵の且に大に至らんとするを聞き、潰えて歸る。嵩之が、和を主として肯て糧を運ばずして事を誤るを致しゝを咎む。

一説に、洞を賁州に移しと謂ひ、即ち両國の間とす　(一)賀賊阿元を指す　(二)不和の端を開き　兵糧を運らんと骨折る　つなぎとどむ　いつはり　淮水と漢水　新手の兵

元師從ㇾ之。守緒自經死。函ニ其首一送ニ于宋一。獲ニ承麟一殺ㇾ之。金自ニ完顏旻稱ㇾ帝。至ㇾ是九世一百一十七年而亡。

亡びたり。

㊀「元太宗六年」と原註す

夏四月獻ニ金俘于太廟一。會淮帥趙范趙葵乘ニ金人之亡一。爲ニ恢復計一。朝臣多以爲ㇾ未ㇾ可。獨鄭淸之力主ニ其說一。帝乃命ㇾ范移ㇾ司ニ黃州一。刻ㇾ日進ㇾ兵。范參議官丘岳曰。方興之敵。新盟而退。氣盛鋒銳。寧肯捐ㇾ所

○夏四月、金の俘を太廟に獻ず。會〻淮の帥趙范•趙葵、金人の亡びたるに乘じて、恢復の計を爲す、朝臣、多くは以て未だ可ならずと爲す。獨り鄭淸之のみ、力めて其說を主とす。帝乃ち范に命じ、移りて黃州を司り、日を刻して兵を進めしむ。范の參議官丘岳曰く、方に興るの敵、新に盟ひて退く。氣盛に鋒銳し。寧んぞ肯て得る所を捐てゝ以て人に與へんや。我が師若し往かば、彼必ず突き至らん。惟に進退據るところを失ふのみに非ず、釁を開き兵を致すこと必ず此より始まらん。且つ千里長驅して以て空城を爭ふ。之を得とも當に饋餉を勤むべく、後必ず之を悔いんと。范聽かず。史嵩之亦た言ふ、荆襄方に爾く饑饉す。未だ師を興す可からずと。杜杲、復た師を出すの害を陳ぶ。范と葵とは故の荆湖

德。隨從。乃遣二蔡州一。其將崔立以二汴京一降レ元。四月。元速不臺進至二青城一。崔立以二金太后王氏。皇后徒單氏。荊王從恪等一至レ軍。速不臺遣送レ北還。元以二孔子五十世孫元措。襲二封衍聖公。整二飾孔子廟及渾天儀。宋丞相史彌遠卒。鄭清之爲レ相。史嵩之爲二京湖制帥。在二襄陽。南北有レ夾二攻蔡州一之約。嵩之遣二孟珙。以二兵四萬人一先至。圍二其東南。元兵圍二其西北。

を以て元に降る。四月、元の速不臺、進みて青城に至る。崔立、金の太后王氏、皇后徒單氏、荊王從恪等を以て軍に至る。速不臺北に送り還さしむ○元、孔子五十世の孫元措を以て、衍聖公を襲封し、孔子廟及び渾天儀を整修せしむ○宋の丞相史彌遠卒す。鄭清之相と爲る。史嵩之、京湖の制帥と爲りて襄陽に在り。南北、蔡州を夾み攻むるの約有り。嵩之、孟珙を遣し、兵四萬人を以て先づ至りて其東南を圍ましむ。元の兵其西北を圍む。

㊀「元太宗五年」と原註す　㊁天文を測る具

甲午。端平元年正月。金主守緒傳二位宗室子承麟。宋孟珙入二蔡州。

○甲午端平元年正月、金主守緒、位を宗室の子承麟に傳ふ。宋の孟珙、蔡州に入る。元の師之に從ふ。守緒自經して死す。其首を函して宋に送る。承麟を獲て之を殺す。金、完顏旻が帝と稱せしより、是に至りて九世、一百一十七年にして

詆可入質。太宗還。留速不臺守河南。八月。金兵救汴。諸軍與戰敗之。九月太弟拖雷卒于師。金主守緒突圍出。走歸德府。

元再使王檝。來議夾攻伐金。京湖制置使史嵩之以聞。朝臣皆以爲。可遂復讐之擧。獨趙范不喜曰。宣和海上之盟。厥初甚堅。迄以取禍。不可不鑑。帝不從。詔嵩之報使許之。嵩之乃遣鄒伸之報謝。且議夾攻汴京。元人許俟成功以河南地歸宋。

○元、再び王檝を使とし、來りて夾み攻めて金を伐たんことを議せしむ。京湖の制置使史嵩之、以聞す。(一)朝臣皆以爲らく、復讐の擧を遂ぐべしと。獨り趙范喜ばずして曰く、宣和海上の盟(二)厥初甚だ堅かりしが、(三)以て禍を取るに迄べり。鑑みざる可からずと。帝從はず。嵩之に詔し、使に報じて之を許さしむ。嵩之乃ち鄒伸之を遣はして報謝せしめ、且つ汴京を夾み攻めんことを議せしむ。元人、成功を俟ちて河南の地を以て宋に歸さんことを許す。

(一)奏聞す　(二)宣和元年に使を海上より金に派して、以て遼を夾み討つべきことを約せしこと　(三)その初め約束甚だ堅かりしが、金これを破り、爲めに禍を崇るに至れり

癸巳。紹定六年。金主奔歸

癸巳紹定六年、(一)金主、歸德に奔る。糧絶ゆ。乃ち蔡州に趨る。其將崔立、汴京

月。元太宗克二鳳翔一。攻二洛陽河中諸城一下レ之。五月。元遣レ使來假レ道於宋。殺レ之。八月。元始立二中書省一。改二從官名一以二耶律楚材一爲二中書令一。粘合重山爲二左丞相一。鎭海爲二右丞相一。十二月。元太宗取二河中一。太弟拖雷。發二騎六萬一。分レ兵自二西和州一入二興元一。出二金房一。道二襄陽一。至二唐鄧一。與二金人一鏖二戰於陽翟一。潼關之戍亦潰。四兵畢至。合二圍於汴一。

して唐鄧に至り、金人と陽翟に鏖戰す。潼關の戍も亦た潰ゆ。西兵畢く至りて汴を合圍す。

●(一)「元太宗三年」と頭註す ●(二)一月十五夜にて家々燈火を點じ祝ぐる習ひの日に當る ●(三)鹽官を罷る ●(四)偵知す ●(五)城下のほり ●(六)敵をみなごろしにせんと誓しく相戒む

壬辰。紹定五年。元太宗由二白坡一渡レ河。次二鄭州一。攻二鈞州一克レ之。遂取二商號嵩汝等十四州一。使三速不臺圍二金汴京一。金主遣二其弟

○壬辰、紹定五年、元の太宗、白坡より河を渡りて鄭州に次す。鈞州を攻めて之に克ち、遂に商・號・嵩・汝等十四州を取る。速不臺をして金の汴京を圍ましむ。金主、其弟訛可を遣し、入りて質たらしむ。太宗還り、速不臺を留めて河南を守らしむ。八月、金の兵汴を救ふ。諸軍、與に戰ひて之を敗る。九月、太弟拖雷、(三)師に卒す。金主守緒、圍を突きて出で、歸德府に走る。

●(一)「元太宗四年」と頭註す ●(二)軍を帥す ●(三)軍中にて死す

庚寅。紹定三年。元遣レ兵取二京兆一。七月。太宗自將伐レ金。皇弟拖雷。姪蒙哥。帥レ師從。

辛卯紹定四年春。趙范。趙葵。大敗二李全于揚州城下一。時屬二上元張一レ燈。全置二酒高會于平山堂一。城中諜知。夜遣レ兵出二其不意一劫レ之。全走陷二于濠一。爲二亂槍一所レ斃。其餘奔走北去。二

○庚寅、紹定三年(一)、元、兵を遣して京兆を取る。七月、太宗自ら將として金を伐つ。皇弟拖雷、姪蒙哥、師を帥ゐて從ふ。

●(一)「元太宗二年」と原註す

○辛卯、紹定四年(二)春、趙范・趙葵、大に李全を揚州城下に敗る。時に、上元(三)、燈を張るに屬す。全、平山堂に置酒(三)高會す。城中の諜(四)知る。夜、兵を遣はして其不意に出で之を劫す。全、走りて濠(五)に陷り、亂槍の爲に斃さる。其餘は奔走して北げ去る○二月、元の太宗鳳翔に克ち、洛陽、河中の諸城を攻めて之を下す。五月、元、使を遣し、來りて道を假る。宋之を殺す○八月、元、始めて中書省を立て、從官の名を改め、耶律楚材を以て中書令と爲す。粘合重山、左丞相と爲り、鎭海、右丞相と爲る○十二月、元の太宗、河中を取る。太弟拖雷、騎六萬を發し、兵を分ちて西のかた和州より興元に入り、金房より襄陽に道

必矣。言訖而殂。在位二十二年。壽六十六。葬二起輦谷一。至元二年冬。追諡曰二聖武皇帝一。廟號二太祖一。太祖深沈有二大略一。用レ兵如レ神。故能滅レ國四十。其勛績甚衆。史之紀載不レ備。惜哉。

太祖既殂。時皇子窩闊台。留二霍博之地一。國事無レ所レ屬。皇子拖雷監レ國。以俟二皇太子至一。而立レ之。越二年。皇太子始立。是爲二太宗一。己丑紹定二年。元太宗。名窩闊台。太祖第三子。母曰二光獻皇后弘吉　氏一。是歲夏奔レ喪。至二忽魯班雪不只之地一。皇弟拖雷來見。大會二諸王百官一。以二太祖遺詔一卽レ位。始立二朝儀一。皇族尊屬。皆就レ班以拜。元始置二倉廩一。立レ驛傳レ命。

〇太祖既に殂す。時に皇子窩闊台、霍博の地に留まる。(一)國事屬する所無し。皇子拖雷國を監す。以て皇太子の至るを俟ちて之を立つ。越えて二年、皇太子始めて立つ。是を太宗と爲す〇己丑紹定(二)二年、元の太宗、名は窩闊台太祖の第三子にして母を光獻皇后弘吉刺氏と曰ふ。是歲、夏、喪に奔り、忽魯班雪不只の地に至る。皇弟拖雷來り見え、大に諸王百官を會し、太祖の遺詔を以て位に卽かしむ。始めて朝儀を立て、皇族尊屬皆班(三)に就きて以て拜す〇元、始めて倉廩を置き、驛を立て、命を傳ふ。

(一) 國事を執る者なし　(二) 「元太宗元年」と頭註す　(三) 官位列席の整列に就く

丁亥。寶慶三年。元滅レ夏。以ニ夏主李晛一歸。七月。元太祖殂ニ于六盤山一。臨レ殂謂ニ左右一曰。金精兵在ニ潼關一。南據ニ連山一。北限ニ太河一。難ニ以遽破一。莫レ若レ假ニ道于宋一。宋金世讐。必能許レ我。則下ニ兵唐鄧一。直擣ニ汴京一。汴急必徵ニ兵潼關一。然以ニ數萬之衆一。千里赴援。人馬疲弊。雖レ至弗レ能レ戰。破レ之

○丁亥寶慶三年、元、夏を滅し、夏主李晛を以ゐて歸る○七月、元の太祖、六盤山に殂す。殂するに臨み、左右に謂ひて曰く、金の精兵潼關に在りて、南は連山に據り、北は太河を限る。以て遽に破り難し。道を宋に假るに若くは莫し。宋と金とは世々の讐なり。必ず能く我に許さん。則ち兵を唐鄧に下し、直に汴京を擣け。汴急ならば必ず兵を潼關より徵さん。然れども、數萬の衆を以て千里赴き援けば人馬疲弊し、至ると雖も戰ふこと能はじ、之を破らんこと必せりと。言訖りて殂す。在位二十二年、壽六十六。起輦谷に葬る。至元二年冬、追諡して聖武皇帝と曰ひ、廟を太祖と號す。太祖、深沈にして大略有り。兵を用ふること神の如し。故に能く國を滅すこと四十。其勛績甚だ衆かりき。史の紀載備はらず。惜いかな。

(一)「元太祖二十二年」と原註す　(二)宋は路を我に假す事を許すならん　(三)二つの州の名　(四)深慮にして落ちつきあり　(五)大なるはかりごと　(六)大なるてがら

者。皆以諸事見曰。汝曹不敢此人。恰一大王相似。嘗見宰相拜其下。遂有趙大王之號。頒遺物色得之。皆取進得事矣。時旨補官。並以為寧宗子。遂以與莒為沂王後。賜名貴誠。除邵州防禦使。寧宗大漸。乃自中宮。以貴誠為皇子。改名昀。宣遺詔即位。進竑濟陽郡王。出判寧國府。恭聖仁烈楊后同聽政。事定然後撤簾。

乙酉寶慶元年。時外議籍籍。有謀作亂立竑者。事不克皆死。李全在楚州。與制置許國相失。殺國。亦以問罪為辭。舉兵南向。圍揚州。幾陷。丙戌寶慶二年。元太祖伐西夏。取甘肅等州。遂踰沙陀至黃河九渡。

○乙酉寶慶元年（一）、時に外議籍籍たり（二）。亂を作して竑を立てんと謀る者有り。事克はずして皆死す。李全、楚州に在りて制置の許國と相失す（三）。國を殺し、亦た罪を問ふを以て辭と為し（四）、兵を舉げて南に向ひ、揚州を圍みて幾んど陷る○丙戌、寶慶二年（五）、元の太祖、西夏を伐ちて、甘肅等の州を取り、遂に沙陀を踰えて黃河の九渡に至る。

（一）「元太祖二十年」と原註す　（二）世間の議論喧やかまし　（三）制置使をつとめ居る許國といふものと不和を生ず　（四）許國を殺し、又朝廷の罪を問ふを以て口實とす　（五）「元太祖二十一年」と原註す

宗室子。名詢。立爲二太子一。薨。初皐從弟沂靖惠王柄無レ子。嘗以二宗室子一。賜二名貴和一。爲二之後一。及レ失二太子詢一。遂立二貴和一爲二皇子一。賜二名竑一。封二齊國公一。竑慧而輕。嘗疾二史彌遠專一レ權謂。異日不レ可レ容。彌遠聞而惡レ之。故陰爲二之計一。與莒幼不レ好レ弄。羣兒聚嬉。輒獨登レ高坐不レ動。長上見

名を竑と賜ひ、齊國公に封ず。竑、慧(一)にして輕し。嘗て史彌遠の權を專にするを疾み、謂ふ、異日(二)容す可からずと。彌遠聞きて之を惡む。故に陰に之が計を爲す。與莒、幼にして弄(三)を好まず。羣兒聚嬉(四)するときは輒ち獨り高きに登り坐して動かず。長上の見る者、指して以て羣兒に語りて曰く、汝が曹此人に效はざるか。恰も一大王に相似たりと。羣兒、毎に其下に羅拜(五)す。遂に趙大王の號有り。彌遠、物色(六)して之を得たり。嘗て取りて(七)擧に應じ得たり。特旨もて官に補す。竑、既に寧宗の子と爲る。遂に與莒を以て沂王の後と爲す。名を貴誠と賜ふ。邵州防禦使に除せらる。寧宗大漸なり。乃ち中宮に白し、貴誠を以て皇子と爲し、名を昀と改め、遺詔を宣べて位に卽かしむ。竑を濟陽郡王に進め、出でゝ寧國府に判たらしむ。恭聖仁烈楊后同じく政を聽く。事定まりて然して後簾を撤す。

(一) さとくして輕卒なり (二) 吾他日志を得ばこのまゝには置かじ (三) 玩具などをもて遊ぶ事を好まず (四) 集まり遊ぶ (五) ならび連りて禮を爲す (六) 人相がきを廻してさがす (七) 選び取りて試驗に應ぜしめしに之に及第することを得たり

宥ニ此戰國人命一。太祖卽日班レ師。自ニ歲丁丑一以後。宋與レ金戰。雖ニ迭有一ニ勝敗一。然三邊無ニ歲不一レ被ニ其擾一。上在位三十年。改元者四。謙恭仁儉。終始如レ一。然慶元。嘉泰。開禧。凡十三年。則侂冑之政。嘉定十七年。則彌遠之政。壽五十七而崩。彌遠定レ策立レ昀。是爲ニ理宗皇帝一。

● 「元太祖十九年」と原註す ● 宋書符瑞志にも「角端は、日に行くこと萬八千里、又四言の語を解る、聖主位に在りて、外方幽遠の事に明達すれば、則ち書を奉じて至る」と見ゆ。要するに一種の靈獸のもの也 ● 物を生かすことを好みて殺すことをにくみきらふ ● 東北西の三方の邊境

理宗皇帝。初名與莒。宗室追封榮王。諡文恭。希瓐之子。太宗十世孫也。寧宗子多而不レ育。鞠ニ

理宗皇帝

理宗皇帝、初めの名は與莒。宗室追封は榮王、諡は文恭。希瓐の子、太宗十世の孫也。寧宗子多けれども育たざりしかば、宗室の子を鞠ふ。名は詢、立てゝ太子と爲す。薨ず。初め、皇從弟沂の靖惠王柄子無し。嘗て宗室の子を以て名を貴和と賜ひ、之が後と爲す。太子詢を失ふに及び、遂に貴和を立てゝ皇子と爲し、

宗室子。名詢。立爲二太子一。薨。初皐從弟沂靖惠王柄無子。嘗以二宗室子一。賜二名貴和一。爲二之後一。及レ失二太子詢一。遂立二貴和一爲二皇子一。賜二名竑一。封二齊國公一。竑慧而輕。嘗疾二史彌遠專一レ權謂。異日不レ可レ容。彌遠聞而惡レ之。故陰爲二之計一。與莒幼不レ好レ弄。羣兒聚嬉。輒獨登レ高坐不レ動。長上見

名を竑と賜ひ、齊國公に封ず。竑、慧(一)にして輕し。嘗て史彌遠の權を專にするを疾み、謂ふ、異日(二)容す可からずと。彌遠聞きて之を惡む。故に陰に之が計を爲す。與莒、幼にして弄(三)を好まず。羣兒聚嬉(四)するときは輒ち獨り高きに登り坐して動かず。長上の見る者、指して以て羣兒に語りて曰く、汝が曹此人に效はざるか。恰も一大王に相似たりと。羣兒、毎に其下に羅拜(五)す。遂に趙大王の號有り。彌遠、(六)物色して之を得たり。嘗て取りて(七)擧に應じ得たり。特旨もて官に補す。竑、既に寧宗の子と爲る。遂に與莒を以て沂王の後と爲す。名を貴誠と賜ふ。邵州防禦使に除せらる。寧宗大漸なり。乃ち中宮に白し、貴誠を以て皇子と爲し、名を昀と改め、遺詔を宣べて位に卽かしむ。竑を濟陽郡王に進め、出でゝ寧國府に判たらしむ。恭聖仁烈楊后同じく政を聽く。事定まりて然して後簾を撤す。

(一) さとくして輕卒なり (二) 吾他日志を得ばこのまゝには置かじ (三) 玩具などをもて遊ぶ事を好まず (四) 集まり遊ぶ (五) ならび連りて禮を爲す (六) 人相がきを廻してさがす (七) 選び取りて試驗に應ぜしめしに之に及第することを得たり

宥二此數國人一。太祖卽日班レ師。自二淩丁丑一以後。宋與レ金戰。雖三迭有二勝敗一。然三邊無二歲不一レ被二其擾一。上在位三十年。改元者四。寧恭仁儉。終始如レ一。然慶元。嘉泰、開禧。凡十三年則侂胄之政。嘉定十七年。則彌遠之政。壽五十七而崩。彌遠定レ策立レ昀。是爲二理宗皇帝一。

㊀「元太祖十九年」と原註す　㊁ 宋書符瑞志にも「角端は、日に行くこと萬八千里、又四夷の語を解る、聖主位に在りて、外方幽遠の事に明達すれば、則ち書を捧げて至る」と見ゆ。要するに一種の靈獸の〱の也　㊂ 殺を生かすことを好みて殺すことを惡くみきらふ　㊃ 東北西の三方の邊陲

理宗皇帝。初名與莒。宗室追封榮王。諡文恭。希瓐之子。太宗十世孫也。寧宗子多而不レ育。詢二

理宗皇帝

理宗皇帝、初めの名は與莒。宗室追封は榮王、諡は文恭。希瓐の子、太宗十世の孫也。寧宗子多けれども育たざりしかば、宗室の子を養ふ。名は詢、立てゝ太子と爲す。薨ず。初め、皇從弟沂の靖惠王柄子無し。嘗て宗室の子を以て名を貴和と賜ひ、之が後と爲す。太子詢を失ふに及び、遂に貴和を立てゝ皇子と爲し、

月。元初置二達魯花赤一。監二治郡縣一。金章宗珣。在位十一年而殂。子守緒立。是爲二哀宗一。

甲申。嘉定十七年。元太祖至二東印度一。駐二鐵門關一。有二一獸一。鹿形馬尾。綠色而一角。能爲二人言一。謂二侍衛者一曰。汝主宜二早還一。太祖以問二耶律楚材一。曰。此獸名二角端一。能言二四方語一。好レ生而惡レ殺。此天降レ符以告二陛下一。願承二天心一。

○甲申嘉定十七年、元の太祖、東印度に至り、鐵門關に駐まる。一獸有り、鹿の形馬の尾(一)、綠色にして一角あり。能く人の言を作す。侍衛の者に謂ひて曰く、汝の主宜しく早く還るべしと。太祖以て耶律楚材に問ふ。曰く、此獸角端(二)と名く。能く四方の語を言ふ。(三)生を好みて殺を惡む。此れ、天、符を降して以て陛下に告ぐるなり。願はくは天の心を承けて此數國の人命を宥せと。太祖即日師を班す○歲の丁丑より以後、宋、金と戰ふ。迭に勝敗有りと雖も、然れども三邊(四)歲として其擾を被らざること無し。始一の如し。然れども、慶元、嘉泰、開禧、凡そ十三年は則ち侂胄の政にして、嘉定十七年は則ち彌遠の政なり。壽五十七にして崩ず。彌遠、策を定めて嗣を立つ。是を理宗皇帝と爲す。

庚辰。嘉定十三年。元木華黎徇レ地至二眞定一。又徇二河北諸郡一。壬午。嘉定十五年。元太子拖雷克二西域諸城一。遂與二太祖一會。秋金主復遣レ使請レ和。太祖時在二回鶻國一。謂レ之曰我向令三汝主授二我河朔地一。令三汝主爲二河南王一。彼此罷レ兵。汝主不レ從。今木華黎已盡取レ之。乃始來請耶。遂不レ許。癸未。嘉定十六年春三月。元太師國王木華黎卒。五

○庚辰嘉定十三年。元の木華黎、地を徇へて眞定に至る。又河北の諸郡を徇ふ○壬午嘉定十五年、元の太子拖雷、西域の諸城に克ち、遂に太祖と會す。秋、金主、復た使を遣して和を請ふ。太祖、時に回鶻國に在り。之に謂ひて曰く、我向に汝の主をして我に河朔の地を授けしめ、汝の主をして河南王たらしめ、彼此兵を罷めんとせしに、汝の主從はざりき。今、木華黎已に盡く之を取れり。乃ち始めて來り請ふやと。遂に許さず○癸未嘉定十六年春三月、元の太師國王木華黎卒す○五月、元始めて達魯花赤を置き、郡縣を監治せしむ○金の宣宗珣、在位十一年にして殂す。子守緒立つ。之を哀宗と爲す。

一「元太祖十五年」と原註す　二 新に附きたる地方に政令をふれおきて　三「元太祖十七年」と原註す　四 互に　五「元太祖十八年」と原註す　六 掌印官といふが如き役にて、印信を掌りて一府一縣の治を總ぶ

自レ是地勢益蹙。山東叛レ之。東阻レ河。西阻ニ潼關一而已。欲下窺ニ宋川蜀淮漢一以自廣上。遂敗レ盟來侵。宋以ニ黃榜一募ニ忠義人一。進討ニ京東路一。忠義李全以ニ歲戊寅一。率レ衆來歸。全本漣水縣弓手。在ニ開禧乙丑開一。已嘗應レ募焚ニ其縣一矣。

丁丑。嘉定十年。元以ニ木華黎一爲ニ太師一。封ニ國王一。率ニ諸軍一南征。克ニ大名府定益都淄萊等州一。戊寅。嘉定十一年。元木華黎。自ニ西京一入ニ河東一。克ニ太原平陽及忻代澤潞等州一。是歲伐ニ西夏一。圍ニ其王城一。夏主李遵頊走ニ西京一。高麗王瞮降ニ于元一。請ニ歲貢ニ方物一。己卯。嘉定十二年。西域殺ニ元使者一。太祖親征。

〇丁丑嘉定十年(一)、元、木華黎を以て太師と爲し、國王に封ず。諸軍を率ゐて南征し、大名府(二)、定益・都・淄・萊等の州に克つ〇戊寅嘉定十一年(三)、元の木華黎、西京より河東に入り、太原・平陽及び忻・代・澤・潞等の州に克つ。是歲、西夏を伐ち、其王城を圍む。夏主李遵頊、西京に走る〇高麗王瞮、元に降り(四)、歲ごとに方物を貢せんことを請ふ〇己卯嘉定十二年(五)、西域元の使者を殺す。太祖親征す。

(一)「元太祖十二年」と原註す (二)一說「大名府に克ち、定益都・淄・萊等の州を定む」と訓じ、又「定益」を二つの州の名とす (三)「元太祖十三年」と原註す (四)年々其地方の產物を貢獻せんことを請へり (五)「元太祖十四年」と原註す

甲戌嘉定七年。元太祖駐二蹕燕北一。金主以二岐國公主。及童男女五百。馬三千並二金帛一以獻乞レ和。雖レ許。度レ不レ能二自立於燕一。五月遷二于汴一。留二丞相完顏福興一輔二太子守忠一居レ燕。太祖遣レ兵圍レ之。守忠走レ汴。後一年而燕京陷。元兵自二河東一渡レ河而南。距レ汴二十里而去。金人

○甲戌嘉定七年、元の太祖㊀、蹕を燕北に駐む。金主、岐國公主及び童男女五百、馬三千と金帛㊁とを以てし、以て獻じて、和を乞ふ。許さると雖も、燕に自立する能はざらんを度り、五月汴に遷る。丞相完顏福興を留めて、太子守忠を輔けて燕に居らしむ。太祖、兵を遣して之を圍む。守忠、汴に走る。後一年にして燕京陷る。元の兵河東より河を渡りて南し、汴を距ること二十里にして去る。金人是より地勢益々蹙まる。山東之に叛き、東は河を阻て、西は潼關を阻つるのみ。宋の川・蜀・淮・漢を窺ひて、以て自ら廣めんと欲し、遂に盟を敗りて來り侵す。宋、黄榜㊂を以て忠義の人を募り、進みて京東路を討たしむ。忠義の李全、濰の戍寅を以て、衆を率ゐて來り歸す。全は本と漣水縣の弓手なり。開禧乙丑の間に在りて、已に嘗て募に應じ、其縣を焚けり。

㊀「元太祖九年」と原註す　㊁「帛」は「貨」(と)に同じ　㊂黄色の紙に詔勅を書きて貼りたる文札即ち勅榜也。詔勅もと白紙を用ひしがその黄ばむこと多きにより高宗以後改めて黄紙を用ふといふ

策レ馬去。金使還言。允濟益怒。欲下侯二太祖再入貢一而害上レ之。太祖知レ之。遂與レ金絕。

辛未。嘉定四年春。元太祖南侵。敗二金兵一。襲二羣牧監一。驅二其馬一而還。自レ是連歲攻二取金州郡一。

○辛未嘉定四年春　元の太祖南侵して、金の兵を敗り、羣牧監を襲ひ、其馬を驅りて還る。是より連歲金の州郡を攻め取る。

一「元太祖六年」と原註す

癸酉。嘉定六年。金主衞紹王允濟。在位五年。無二歲不一レ受レ兵。幾不レ能レ支。且失二將士心一。爲二大將所一レ弑。追廢爲二東海郡侯一。立二豐王珣一。瑒之兄也。是爲二宣宗一。太祖分二兵三道一並進。取二燕南山東河北五十餘郡一。

○癸酉嘉定六年、金主衞紹王允濟、在位五年。歲として兵を受けざること無く、幾んど支ふること能はず。且將士の心を失ひ、大將の爲に弑せらる。追廢して東海郡侯と爲し、豐王珣を立つ。瑒の兄也。是を宣宗と爲す。太祖、兵を三道に分ちて竝び進み、燕南・山東・河北の五十餘郡を取る。

一「元太祖八年」と原註す

太祖征西夏。收力吉里寨而還。至是秋再征之。戊辰。嘉定元年。陳自強竄死。蘇師旦追斬。周筠決配。侂冑函首謝金。和議復成。錢象祖爲相。史彌遠累遷。與象祖並相。象祖罷。彌遠獨相。金章宗璟。在位二十年而殂。無子。立世宗之別子允濟。於璟爲叔。己巳嘉定二年春。元太祖入河西。屢破西夏兵。夏主李安全納女請和。庚午嘉定三年。金謀討元。築烏沙堡。太祖遣將。襲殺北衆。遂略地而東。初太祖貢歲幣于金。金主使衛王允濟受貢于靜州。太祖見允濟。不爲禮。允濟怒歸。欲請兵攻之。會金主璟死。允濟嗣位。有詔至國。傳言當拜。太祖問金使曰。新君爲誰。曰衛王也。太祖遽南唾曰。我謂中原皇帝。是天上人做。此等亦爲之耶。何以拜爲。即

けしむ。太祖、允濟を見て、禮を爲さす。允濟怒りて歸り、兵を請ひて之を攻めんと欲す。會〻金主璟死し、允濟位を嗣ぐ。詔有り、國に至り、當に拜すべしと傳言す。太祖、金使に問ひて曰く、新君は誰とか爲す。曰く、衞王也と。太祖遽に南に唾して曰く、我謂ふ、中原の皇帝は、是れ天（五）上の人做ると。此等も亦（六）たこれを爲すか。何を以て拜するを爲さんと。即ち馬に策ちて去る。金使還りて言ふ。允濟、益〻怒り、太祖の再び入貢するを俟ちて、之を害せんと欲す。太祖之を知り、遂に金と絕てり。

●（一）「元太祖二年」と割註す　●（二）「元太祖三年」　●（三）「元太祖四年」　●（四）「元太祖五年」　●（五）天上より降れる程の高貴の人が帝となるべしと思へり　●（六）衞王如き者も亦た帝たり得るか

陷二蜀漢荊襄兩淮諸郡一。東南大震。亟遣レ使通二謝於金一。而侂冑弄レ兵之意猶未レ已。中外患レ之。遂有下誅レ兇之議上。皇后楊氏知二書史一通二古今一。當時侍郎史彌遠建二密策一。而旨從レ中出者。皆后實爲レ之。一日侂冑入朝。彌遠使三殿帥夏震以レ兵邀二之塗一。擁出二玉津園一。椎二殺之一。先レ是。元

之を患へ、遂に兇を誅するの議有り。皇后楊氏、書史を知り、古今に通ず。當時、侍郎史彌遠、密策を建つ。而して旨の中より出づる者は、皆后實に之を爲すなり。一日、侂冑、入朝す。彌遠、殿帥夏震をして、兵を以て之を塗に邀へしめ、擁して玉津園に出で、之を椎殺せしむ○是より先、元の太祖西夏を征し、力吉里塞を抜きて還る。是秋に至りて、再び之を征す○戊辰、嘉定元(一)年、陳自强竄せられて死し、蘇師旦斬に處せられ、周筠決配せらる。侂冑は、首を函して金に謝し、和議復た成る。錢象祖、相と爲る。史彌遠累遷して、象祖と竝に相たり。象祖、罷められ、彌遠獨り相たり○金の章宗璟、在位二十年にして殂す。子無し。世宗の別子允濟を立つ。璟に於て叔たり○己巳嘉定(三)二年春、元の太祖河西に入り、屢〻西夏の兵を破る。夏主李安全、女を納れて和を請ふ○庚午嘉定(四)三年、金、元を討たんと謀り、烏沙堡を築く。太祖將を遣し、襲ひて其衆を殺し、遂に地を略して東す。初め、太祖、歳幣を金に貢す。金主、衞王允濟をして、貢を靜州に受

巨源與二安丙一害。謀上殺二僭號一踰月而誅。是歳。元太祖即二位於斡難河之源一。太祖姓奇渥温氏。諱鐵木眞。蒙古部人也。其先世爲二蒙古部長一。至二太祖之父一。曰二也速該一。始併二呑諸部落一。愈強大。後追諡曰二烈祖神元皇帝一。初神元征二塔塔兒部一。獲二其部長鐵木眞一。宣懿后月倫適生二太祖一。手握二凝血一。如二赤石一。神元異レ之。因以二所レ獲鐵木眞一名レ之。志二武功一也。元年大會二諸王羣臣一。建二九斿白旗一。即レ位。羣臣共上二尊號一曰二成吉思汗一。時金章宗泰和六年也。

始めて諸部落を併呑し、愈〻強大なり。後、追諡して烈祖神元皇帝と曰ふ。初め神元、塔塔兒部を征し、其部長鐵木眞を獲たり。宣懿后月倫、適〻太祖を生む。手に凝りたる血を握る。赤き石の如し。神元之を異とす。因りて獲る所の鐵木眞を以て之に名づく。武功を志す也。元年大に諸王羣臣を會し、九斿(二)の白旗を立てゝ、位に即く。羣臣、共に尊號を上りて成吉思汗と云ふ。時に金の章宗の泰和六年也。

(一) 原本此下に「是歳、元太祖即位二元年一」と頭註せり　(二) 斿は旗の末に垂れたる飾

丁卯開僖三年。時北伐諸軍所レ向。無レ不二潰敗而退一。金人大發レ兵。連

○丁卯開僖三年、時に北伐諸軍の向ふ所、潰え敗れて退かざるは無し。金人大に兵を發して、連りに、蜀・漢・荊・襄・兩淮諸郡を陥る。東南大に震ふ。亟〻使を遣して、金に通謝せしむ。而して侂胄、兵を弄するの意猶ほ未だ已まず。中外

亦不レ辭。稔ニ積罪惡一。至ニ於生レ事開ヒ邊而極。先レ是有ニ蒙古部一。與ニ於北方一。在ニ金世宗時一。已強盛。稱レ帝。至ニ璟立一。蒙古兵來輒長驅。金始多事。侂胄聞ミ金有ニ此釁一。謂中原可レ圖。有ニ吳曦者一。前蜀帥吳挺子璘之孫也。吳氏世職ニ西陲一。威行ニ西蜀一。留ニ其子孫於京一。蓋累朝遠慮。曦有ニ異志一久。欲レ歸レ蜀。而不レ許。侂胄遣レ歸數年。蓋欲レ使ニ西蜀出ヒ兵。

孫を京に留む。蓋し累朝遠慮ありてなり。曦、異志有ること久しく、蜀に歸らんと欲す。而れども許されず。侂胄、歸らしむること數年なり。蓋し、西蜀をして兵を出さしめんと欲せしなり。

㈠威權盛にして天子をも傾くる程也　㈡九錫を加へらるゝことを表彰する也　㈢稔は熟なり　㈣邊彊

開禧二年丙寅。以ニ伐レ金詔一告ニ四方諸路一。進レ師。曦首以ニ關外四州一獻レ金。求三封爲ニ蜀主一。尋卽稱レ帝。賴下李好義楊

○開禧二年丙寅、金を伐つの詔を以て四方諸路に告げ、師を進めしむ。曦、首として關の外の四州を以て金に獻じ、封ぜられて蜀主と爲らんとを求め、尋ぎて卽ち帝と稱す。李好義、楊巨源が安丙と密に謀るに賴りて、曦、僭號すること踰月にして誅せらる○是歲、元の太祖、斡難河の源に卽位す。太祖、姓は奇渥溫氏、諱は鐵木眞、蒙古部の人也。其先世〻蒙古の部長たり。太祖の父に至りて、也速該と曰ひ

陳自強之徒。召用周必大。不然事轉不測。曹出。中外大駭。杖一百不刺面。配欽州。必大亦坐謫降。鼎没後年。黨禁稍解。諸人或復官自便。然消沮變化之餘。風俗已大壞矣。

壞れたり。

㊀入れ墨をせずして　㊁身の自由を許さるゝ也　㊂消極沮喪

謝深甫罷。陳自強爲相。侂胄以太師平原郡王。平章軍國事。儀傾人主。威制上下。服御擬於乘輿。土木侈於禁苑。諛者至稱爲恩王聖相。或作詩九章。每章用一錫字。侂胄

○謝深甫罷められ。陳自強、相と爲る。侂胄、太師平原郡王を以て、軍國の事を平章す。儀人主を傾け、威上下を制す。服御乘輿に擬し、土木禁苑よりも侈る。諛ふ者、稱して恩王聖相と爲し、或は詩九章を作り、章毎に一の錫の字を用ふるに至る。侂胄亦た辭せず。罪惡を總積すること、事を生じ邊を開くに至りて極まる。是より先、蒙古部有り、北方に興る。金の世宗の時に在りて、已に強盛に、帝と稱す。璟の立つに至りて、蒙古の兵來りて輒ち長驅す。金、始めて多事なり。侂胄、金に此亂有るを聞き、謂ふ、中原圖る可しと。吳曦といふ者有り。前の蜀帥吳挺の子、璘の孫也。吳氏世々西陲に職として、威西蜀に行はる。其子

亦不レ辭。毯二積罪惡一。至二於生レ事開レ邊而極。先レ是有二蒙古部一。興二於北方一。在二金世宗時一。已強盛。稱レ帝。至二璟立一。蒙古兵來輒長驅。金始多事。侂冑開二金有一此釁一。謂中原可レ圖。有二吳曦者一。前蜀帥吳挺子璘之孫也。吳氏世職二西陲一。威行二西蜀一。留二其子孫於京一。蓋累朝遠慮。曦有二異志一久。欲レ歸蜀。而不レ許。侂冑遣レ歸數年。蓋欲レ使二西蜀出一レ兵。

孫を京に留む。蓋し累朝遠慮ありてなり。曦、異志有ること久しく、蜀に歸らんと欲す。而れども許されず。侂冑、歸らしむること數年なり。蓋し、西蜀をして兵を出さしめんと欲せしなり。

㊀威權盛にして天子をも傾くる程也 ㊁九錫を加へらるゝことを表彰する也 ㊂毯は懇なり ㊃邊彊

開禧二年丙寅。以二伐レ金詔一告二四方諸路一。進レ師。曦首以二關外四州一獻レ金。求三封爲二蜀主一。尋即稱レ帝。賴下李好義楊

○開禧二年丙寅、金を伐つの詔を以て四方諸路に告げ、師を進めしむ。曦、首として關の外の四州を以て金に獻じ、封ぜられて蜀主と爲らんことを求め、尋ぎて即ち帝と稱す。李好義、楊巨源が安丙と密に謀るに賴りて、曦、僭號すること踰月にして誅せらる○是歲、元の太祖、斡難河の源に即位す。太祖、姓は奇渥溫氏、諱は鐵木眞、蒙古部の人也。其先世〻蒙古の部長たり。太祖の父に至りて、也速該と曰ひ

陳自強之徒。召用周必大。不然事將不測。詔出。中外大駭。杖一百。不刺面。配欽州。必大亦坐謫降。未幾年。黨禁稍解。諸人或復官自便。然消沮變化之餘。風俗已大壞矣。

壞れたり。

一 入れ墨をせずして　一 身の自由を許さるゝ也　一 消滅沮喪

謝深甫罷。陳自強爲相。侂胄以太師平原郡王。平章軍國事。權傾人主。威制上下。服御擬於乘輿。土木侈於禁苑。諛者至稱爲恩王聖相。或作詩九章。每章用一錫字。侂胄

○謝深甫罷められ、陳自強、相と爲る。侂胄、太師平原郡王を以て、軍國の事を平章す。權人主を傾け、威上下を制す。服御乘輿に擬し、土木禁苑よりも侈る。諛ふ者、稱して恩王聖相と爲し、或は詩九章を作り、章毎に一の錫の字を用ふるに至る。侂胄亦た辭せず。罪惡を稔積すること、事を生じ邊を開くに至りて極まる。是より先、蒙古部有り、北方に興る。金の世宗の時に在りて、已に強盛に、帝と稱す。璟の立つに至りて、蒙古の兵來りて輒ち侵掠す。金、始めて多事なり。侂胄、金に此釁有るを聞き、謂ふ、中原圖る可しと。吳曦といふ者有り。前の蜀帥吳挺の子、璘の孫也。吳氏世々西陲に職として、威西蜀に行はる。其子

年。劉光祖。章穎。葉適。徐誼。沈有開。吳獵。黃由。黃度。鄧馹。陳傅良。樓鑰。鄭湜。李祥。楊簡。呂祖儉。曾三聘。游仲鴻。項安世。孫元德。袁燮。陳武。汪逵。范仲黼。黃灝。詹體仁等。貶逐不レ可二勝紀一。籍二記黨人姓名一。曰二僞學一。以二朱熹一爲レ首。在レ籍者五十人。蔡元定坐二熹累一。道州編管。大學生楊宏中等六人。亦坐三上書救二黨人一編管。留正以三嘗引二用黨人一。亦黜竄。兪端禮。京鏜。謝深甫。相繼爲レ相。

中等六人、亦た上書して黨人を救ふに坐して編管せらる。留生、嘗て黨人を引用せるを以て、亦た黜竄せらる。兪端禮・京鏜・謝深甫、相繼ぎて相と爲る。

㊀ 逐ふべき名目に困る ㊁ 皇室と同姓 ㊂ 一あみにとらへ盡し得 ㊃ 己れの手先となす

朱熹以二慶元庚申一卒。時僞學黨禁雖レ嚴。會葬者亦數千人。呂祖泰上書論レ雪二僞學一。乞誅二侂冑及其黨蘇師旦。周筠一。罷二逐

○朱熹、慶元庚申を以て卒す。時に僞學の黨禁嚴なりと雖も、會葬する者亦數千人あり。呂祖泰、上書して僞學を雪がんことを論ず。乞ふ、侂冑及び其黨蘇師旦・周筠を誅し、陳自強の徒を罷め逐ひ、周必大を召し用ひん。然らずんば、事將に測られざらんとすと。書出づ。中外大に駭く。杖すること一百、面を刺さずし(一)て、欽州に配す。必大亦た坐して謫降せらる。熹、沒し、年を踰えて黨禁稍〻解く。諸人或は官に復して(二)自ら便ぜしむ。然れども、(三)消沮變化の餘、風俗已に大に

且爲ㇾ相。時侂冑自負ㇾ有ニ定策功一、希ニ不次之賞一。汝愚不ニ肯[illegible]除[illegible]。汝愚爲ㇾ政、方務引ニ進善類一、擯ニ抑侂冑等小人一。小人益不ㇾ悅、相與共排ㇾ之。朱熹被ㇾ召。上疏攻ニ侂冑一。在ㇾ朝僅四十六日而罷。言者以爲ニ眞有ニ宣祠之命一、逐近相臣。天下大老去ㇾ之。誰不ㇾ欲ㇾ去。若正人盡去、何以爲ㇾ國。汝愚被ㇾ逐ニ內批一、且誅且拜不ㇾ聽。

侂冑欲ㇾ併逐ニ汝愚一而難ニ其名一。或敎ㇾ之曰、彼宗姓。誣以ㇾ謀ㇾ危ニ社稷一、則一網盡矣。侂冑然ㇾ之。汝愚在ニ相位一數月罷、遂貶竄、服ㇾ藥以死。侂冑用ニ李沐・何澹・劉德秀・胡紘・沈繼祖等一爲ニ臺諫一、搏ニ擊善類一無ㇾ遺。彭龜

侂冑、併せて汝愚を逐はんと欲し、其名を難かる。或ひと之に教へて曰く、彼は宗姓、誣ふるに社稷を危くせんと謀るを以てせば、則ち一網にして盡きんと。侂冑之を然りとす。汝愚、相位に在ると數月にして罷められ、遂に貶竄せらる。藥を服して以て死す。侂冑、李沐・何澹・劉德秀・胡紘・沈繼祖等を用ひて臺諫と爲し、善類を搏ち擊ちて遺すこと無し。彭龜年・劉光祖・章穎・葉適・徐誼・沈有開・吳獵・黃由・黃度・鄧馹・陳傅良・樓鑰・鄭湜・李祥・楊簡・呂祖儉・曾三聘・游仲鴻・項安世・孫元卿・袁燮・陳武・汪逵・范仲黼・黃灝・詹體仁等、貶し逐はるゝこと勝げて紀すべからず。黨人の姓名を籍記し、目して僞學と曰ひ、朱熹を以て首と爲す。籍に在る者數十人。蔡元定、熹の累に坐して、道州に編管せらる。大學生楊宏

曰。若欲三進レ德修レ業。進二蹤古先哲王一。須下尋二天下第一人一。乃可上。問爲レ誰以二朱熹一對。彭龜年繼爲二宮僚一。因レ講毎及二熹說一。上傾レ心已久。熹在二光宗時一守二漳州一。後守二潭州一。爲二湖南安撫一。至二上登極一。首被レ召除二待制兼侍講一。熹未レ至。已聞二近習用一レ事。御筆指揮皆有レ漸。深憂レ之。留正罷。汝

說に及ぶ。上、心を傾くること已に久し。熹、光宗の時に在りて漳州に守たり。後、潭州に守たり。湖南安撫と爲る。上の登極(三)に至りて、首めに召されて待制兼侍講に除せらる。熹未だ至らず、已に近習事を用ひ、御筆指揮して皆漸有りと聞き、深く之を憂ふ。留正罷られ、汝愚、相と爲る。韓侂冑、自ら定策(四)の功有るを負み、不次の賞を希ふ。汝愚、肯て驟に除せず。遂に怨む。汝愚の政を爲すや、方(五)に務めて善類を引き進め、僥倖を裁抑す。小人滋〻悅ばず、相與に共に之を排す。朱熹、既に至り、上疏して侂冑に忤ふ。朝に在る、甫めて四十六日にして罷めらる。言者以爲らく、熹、宮祠(六)の命有りと。遠近相弔ふ、天下の大老之を去らば、誰か去るを欲せざらん。若し正人盡く去らば、何を以て國を爲めんと。汝愚、袖より內批(七)を還して、且諫め且拜すれども、聽かず。

(一) 官名、教育掛　(二) 東宮附の役人　(三) 卽位　(四) 天子の策立を定めたる功　(五) 次第にかゝはらざる特別の恩賞　(六) 宮祠を奉ずるの命。八一三頁參照　(七) 熹を罷むる御沙汰書

孝宗崩。光宗疾病。知樞密院事趙汝愚密建二翼戴之議一。知下憲聖慈烈吳太皇太后以二宗社一爲上レ憂。將レ白レ事而難二其人一。有二知閤門事韓侂胄者一。琦之曾孫。憲太皇女弟之子也。乃因以入白。太皇垂レ簾引二嘉王一。入即レ位。代執二孝宗之喪一。中外危疑者乃定。光宗居二壽康宮一後六年而崩。壽五十四。

院事趙汝愚、密に翼戴の議を建つ。憲聖慈烈呉太皇太后、宗社を以て憂と爲すを知り、將に事を白さんとして其人を難す。知閤門事韓侂胄といふ者有り。琦の曾孫にして太皇の女弟の子也。乃ち因りて以て入りて白す。太皇簾を垂れて嘉王を引き、入りて位に即かしめ、代りて孝宗の喪を執らしむ。中外の危疑する者乃ち定まる。光宗、壽康宮に居り、後六年にして崩す。壽五十四。

〔一〕翊戴し　〔二〕女なり續きて天子となす　〔三〕[illegible]　〔四〕いもうと

上之爲二嘉王一也。黃裳爲二翊善一講說開導。光宗嘗宣諭曰。嘉王進レ學。皆卿之功。裳

上の嘉王たるや、黄裳、翊善と爲りて、講說開導す。光宗、嘗て宣べ諭して曰く、嘉王の學に進むは、皆卿の功なり。裳曰く、若し德に進み業を修め、古先哲王に追蹤せんと欲せば、須らく天下第一の人を尋ねて、乃ち可なるべし。問ふ、誰とか爲すと。朱熹を以て對ふ。彭龜年、繼ぎて宮僚と爲り、講に因りて每に熹の

元曰ニ紹熙一。皇后李氏大將李道女也。悍而妬。欲下亟立ニ太子嘉王一爲中儲嗣上。因ニ內宴一請ニ於壽皇一。不レ許。后不遜。壽皇有ニ怨語一。后銜レ之。乃造ニ誣罔一。謂三壽皇有ニ廢立意一。致三上驚恐得ニ疑疾一。及レ聞三後宮有ニ暴死者一。上震懼。疾愈甚。不三復過ニ重華宮一。近ニ兩載一。始一至。壽皇彌不レ懌。上亦不レ能レ視レ疾。壽皇居ニ重華一踰ニ五載一。壽六十八而崩。上不レ能レ執レ喪。一日忽仆ニ於地一。中外危懼。太皇太后立ニ嘉王一。是爲ニ寧宗皇帝一。

き恐れて疑疾(三)を得るを致す。後宮に暴死(四)の者有るを聞くに及びて、上、震ひ懼れ、疾愈〻甚し。復た重華宮に過らず、兩載(五)に近くして、始めて一たび至る。壽皇、彌〻懌はず。上、亦た疾を視ること能はず。壽皇、重華に居りて五載を踰え、壽六十八にして崩ず。上、喪を執ること能はず、一日忽ち地に仆る。中外危み懼る。太皇太后、嘉王を立つ。是を寧宗皇帝と爲す。

(一) 嫉妬ぶかし (二) いつはり (三) 物を疑ひおそるゝ病、一種の精神病 (四) 頓死 (五) 二年

寧宗皇帝

寧宗皇帝。名擴。初封ニ嘉王一。

寧宗皇帝、名は擴。初め嘉王に封ぜらる。孝宗崩ず。光宗、疾病(一)なり。知樞密

重華宮。在位二十八年。金世宗雍。以是歳殂。其嗣丈恭先卒。孫璟立。璟賢明仁恕。號爲北方小堯舜。故金之大定三十年。與宋之隆興乾道淳熙相終始。南北皆得休息。彼此無可乘之釁。上之齎志。不克大有爲者以此。太子立。是爲光宗皇帝。

りし者、此を以てなり。太子立つ。是を光宗皇帝と爲す。

㊀ 先帝にて、光堯が德壽宮に在りしより言く崩す ㊁ 嗣嗣 ㊂ 帝賓に侍する意也 ㊃ 宋朝三年の定期を終上る頃に ㊄ 時代を同じくす ㊅ すき

光宗皇帝。名惇。年四十四。自東宮受禪。尊太上皇帝爲至尊壽皇聖帝。周必大罷。留正。葛邲爲左右相。改

光宗皇帝

光宗皇帝、名は惇。年四十四、東宮より禪を受く。太上皇帝を尊びて至尊壽皇聖帝と爲す。周必大罷められ、留正、葛邲、左右の相と爲る。改元して紹熙と曰ふ。皇后李氏は、大將李道の女也。悍にして妬、竊かに太子嘉王を立てゝ儲嗣と爲さんと欲す。內宴に因りて壽皇に請ふ。許さず。后、不遜なり。壽皇、怒語有り。后、之を銜む。乃ち讒間を造り、壽皇廢立の意有りと謂ふ。上、疑ふ

世。希哲之四世孫也。亦祖二程氏之學一。學者稱爲二東萊先生一。皆先レ是數年卒矣。惟熹學問老而彌篤。學者共師二宗之一。稱爲二晦菴先生一。四方仰二其人一。如二泰山北斗一。南使至レ北。金人必問二朱先生安在一。同時有下臨川陸九淵。世號二象山先生一者上。與レ熹爭二論太極圖說一。且謂學有二悟入一。譏二熹從二事訓解一。意見頗立レ異云。

立つと云ふ。

（一）自分に何等かの目的を持ちて爲す　（二）泰山は高山中の宗、北斗は星の宗として貴ばる　（三）學問は單に書を讀むのみによつて全からず、よく自ら悟りて發明する所あるべしとの說

上久有二與レ子之意一。會光堯皇帝壽八十二而崩。乃詔內禪。上奉二德壽二十六年。孝養備至。既升遐。哀慕尤切。以レ不レ得三日奉二几筵一。欲三退終二喪制一。移居二

○上、久しく子に與ふるの意有り。會〻光堯皇帝壽八十二にして崩ず。乃ち詔して內禪す。上、德壽（一）に奉ずること二十六年、孝養備に至る。既に（二）升遐して、哀み慕ふこと尤も切なり。日に几筵（三）に奉ずることを得ざるを以て、退きて喪制（四）を終へんと欲し、移りて重華宮に居る。在位二十八年、金の世宗雍、是歲を以て殂す。其嗣允恭、先ちて卒す。孫璟立つ。雍、賢明仁恕なり。號して北方の小堯舜と爲す。故に金の大定三十年に宋の隆興、乾道、淳熙（五）と相終始し、南北皆休息を得、彼此乘ず可きの釁（六）無し。上の志を齎しながら、大に爲す有る克はざ

熹又受學於閩。胡銓嘗薦熹於光堯。熹不至。乾道以來、屢召不起。特旨改秩奉祠。召入館。不就。後爲南康守。浙東荒、除熹提擧。作救之。謝罷。嘗一入奏事。且是召對、除兵部郎。與侍郎林栗不合。即奉祠去。數月復召熹。熹辭。惟進封事、言天下之大本、與今日之急務。大本在陛下之心。急務則輔翼太子、選任大臣、振擧綱紀、變化風俗、愛養民力、修明軍政、六者是也。

熹之同志。有廣漢張栻者。魏忠獻公浚之子。其學得之胡宏。宏安國子也。栻之言曰。有所爲而爲者利也。無所爲而爲者義也。學者誦爲名言。稱栻爲南軒先生。有呂祖謙者。公著之五

熹の同志に、廣漢の張栻といふ者有り。魏の忠獻公浚の子にして、其學之を胡宏に得たり。宏は安國の子也。栻の言に曰く、爲にする[一]所有りて爲す者は利也、爲にする所無くして爲す者は義也と。學者誦して名言と爲す。栻を稱して南軒先生と爲す。呂祖謙といふ者有り。公著の五世、希哲の四世の孫也。亦た程氏の學を祖とす。學者稱して東萊先生と爲す。皆是より先數年にして卒す。惟熹は、學問、老いて彌〻篤く、學者共に之を師宗とし、稱して晦菴先生と爲す。四方其人を仰ぐこと泰山北斗[二]の如し。南使北に至れば、金人必ず朱先生安くにか在ると問ふ。同時に、臨川の陸九淵、世に象山先生と號する者有り。熹と太極圖說を爭論し、且謂ふ、學に悟入[三]有りと。熹が訓解に從事するを譏り、意見頗る異を

趙鼎雖レ不レ及レ識レ頤。而主ニ張其學一。惡レ之者以ニ楊時一爲ニ還魂一。鼎爲ニ身魂一。胡安國爲ニ强魂一。其後又有ニ尹焞一。見レ召入ニ經筵一。焞蓋頤晩年高弟也。士大夫名ニ程氏之學一曰ニ道學一。時好所レ尙。或冒ニ此名一以進。時好不レ同。亦多以ニ此名一見レ擠ニ於世一。延平李侗受ニ學於楊時之門人羅從彥一。而

時好の同じからざる、亦た多く此名を以て世に擠さる。延平の李侗、學を楊時の門人羅從彥に受く。而して熹又學を侗に受く。胡銓、嘗て熹を光堯に薦む。熹至らず。乾道以來、屢〻召されども起たず。特旨もて、秩を奉祠に改め、召して館に入らしむ。就かず。後、南康の守と爲る。浙東荒る。熹を提擧に除し、往きて之を救はしむ。闕を過ぎ、嘗て一たび入りて事を奏す。是に至りて、召對して兵部郎に除せらる。侍郎林栗と合はず。即ち奉祠となりて去る。數月復た召さる。熹、辭し、惟封事を進めて天下の大本と今日の急務とを言ふ。大本は、陛下の心に有り。急務は、則ち太子を補翼し、大臣を選任し、綱維を振擧し、風俗を變化し、民力を愛養し、軍政を修明する、六の者是れ也と。

(一) 善良なる人物 (二) 頤の魂の還り來れる者の意 (三) その魂魄を貴ぶのみとの意 (四) 頤の學說を護り其魂を氣强くさする意 (五) 秩祿を祠を奉ずる役に改む、宋代祠祿の制ありて老賢人を優遇せる也

爲二議幣一。議幣減二十萬之計一。地界如二紹興之時一。而餘禮往往竟不レ能二盡改一。上終身憤レ之。其後屢請下還二河南陵寢地一。改中受書禮上。金人卒不レ從。蓋上雖レ有レ志二復讐一。而無下能輔二其志一者上。自二陳康伯卒後一。洪适。葉顒。魏杞。蔣芾。陳俊卿。虞允文。梁克家。曾懷。葉衡。史浩。趙雄。王淮。周必大。留正相繼爲レ相。惟俊卿允文並相時。有下經二營北方一之略上。而俊卿持重。卒與二允文一不レ合。允文所レ爲。人亦譏二其虛誕一。竟不レ效。如レ浩尤不レ主レ用レ兵。

浚卿持重して、卒に允文と合はず。允文の爲す所、人亦た其虛誕を譏し、竟に效あらず。浩の如きは、尤も兵を用ふるを主とせざりき。

●宋室に於ける金使の接待法●その守舊なるをいふ

必大從二容廟堂一。善類多レ所二引進一。朱熹以二淳熙十五年一被レ召。必大作レ相時也。初程頤卒二於徽宗之世一。其徒楊時在二欽宗光堯時一。皆被レ擢。

○必大、廟堂に從容として、善類引き進むる所多し。朱熹、淳熙十五年を以て召さる。必大、相と作りし時也。初め程頤、徽宗の世に卒す。其徒楊時、欽宗、光堯の時に在りて、皆擢んでらる。趙鼎、頤を識るに及ばずと雖も、而も其學を主張す。之を惡む者、楊時を以て還魂と爲し、鼎を尙魂と爲し、胡安國を強魂と爲す。其後又尹焞有り、召されて經筵に入る。焞は蓋し頤の晩年の高弟也。士大夫、程氏の學を名づけて道學と曰ふ。時好の尙ぶ所、或は此名を冒して以て進み、

湯思退密有㆓召㆑虜議㆑和之迹㆒。言者論。罷竄㆑之。道死。康伯復相。和議成。先㆑是。國書。大宋去㆓大字㆒。皇帝去㆓皇字㆒。書用㆓君臣之禮㆒。有㆓再拜等語㆒。金使至。則起立問㆓金主起居㆒。降㆑坐受㆑書。奉使者自同㆓陪臣㆒。館伴之屬。皆拜㆓其來使㆒。至㆑是。始稱㆑上爲㆓宋皇帝㆒。止爲㆓叔姪之國㆒。易㆓歲貢㆒

○湯思退、密に虜を召し、和を議するの迹有り。言者論ず。罷めて之を竄す。道にて死す。康伯復た相たり。和議成る。是より先、國書、大宋は大の字を去り、皇帝は皇の字を去り、書は君臣の禮を用ひて再拜等の語有り。金の使至れば、則ち起立して金主の起居を問ひ、坐を降りて書を受く。奉使の者は、自ら陪臣に同じ。館伴の屬、皆其來使を拜す。是に至り、始めて上を稱して宋皇帝と爲し、止だ叔姪の國と爲し、歲貢を易へて歲幣と爲し、歲幣十萬の數を減じ、地界は紹興の時の如くす。而れども、餘の禮は往往竟に盡く改むること能はず。上、身を終るまで之を憤る。其後、屢〻河南、陵寢の地を還し、受書の禮を改めんことを請ひしが、金人卒に從はざりき。蓋し、上、復讐に志有りと雖も、而も能く其志を輔くる者無し。陳康伯の卒せしより後、共适・葉顒・魏杞・蔣芾・陳浚卿・虞允文・梁克家・曾懷・葉衡・史浩・趙雄・王淮・周必大・留正、相繼ぎて相と爲る。惟だ俊卿と允文と竝に相たりし時、北方を經營するの議有りしが、而も

遂北伐。請不レ與二其鋒一。乃再舉。李顯忠出二濠州。圍二靈壁。敗二金兵。邵宏淵出二泗州。圍二虹縣。降二金將。進克二宿州。金副元帥紇石烈志寧、率レ兵至。顯忠與戰連日。未レ決。諜報。金人大興二河南兵。將二至會。宏淵與二顯忠一不二相能。而顯忠又不レ綏士。士憤怨。遂潰而歸。金人亦解去。上鋭二意恢復。是役不レ利。乃復講レ和。陳康伯罷。湯思退。張浚爲二左右相。浚仍以二都督一視レ師。數月而罷。未レ幾卒。浚許レ國之心。白首不レ渝。終身不レ主二和議一。遺命付二其二子一。以レ不レ能下復二中原一雪中國恥上。不レ得レ祔二葬先人之墓一。

を敗る。邵宏淵、泗州より出で、虹縣を圍みて金の將を降し、進みて宿州に克つ。金の副元帥、紇石烈志寧、兵を率ゐて至る。顯忠、與に戰ふこと連日、未だ決せず。諜、報ずらく、金人大に河南の兵を興して、將に至り會せんとすと。宏淵、顯忠と相能からず。(一)而して顯忠又士を綏はず。士憤り怨み、遂に潰えて歸る。金人亦た解きて去る。上、恢復に鋭意せしが、是役利あらず。乃ち復た和を議す。陳康伯罷められ、湯思退、張浚、左右の相と爲る。浚、仍ほ都督を以て師を視る。數月にして罷められ、未だ幾くならずして卒す。浚、國に許すの心、(二)白首まで渝らず。終身和議を主とせず。遺命して、其二子に付するに、中原を復し國恥を雪ぐ能はずんば先人の墓に祔葬する(三)を得ざれといふを以てす。

(一) 仲惡し　(二) 身を國に捧ぐる心　(三) 白髮の老年　(四) 先人の墓側に合せ葬むる

安僖。子偁之子。太祖七世孫也。母張氏。夢崔府君擁ニ一羊一來曰。以レ此爲レ識。高宗爲ニ康王一。出使至ニ磁州一。磁人夢ニ崔府君出迎一。張氏以ニ是歲丁未一。生ニ伯琮於秀州一。有ニ嘉禾之瑞一。小名羊。高宗喪ニ太子勇一。命選ニ太祖之後一。得ニ伯琮一。鞠ニ宮中一。賜ニ名瑗一。適與ニ崔府君名一同。封ニ晉安郡王一。秦檜疾ニ其英明一。而不レ能レ害也。竟立爲ニ皇子一。賜ニ名瑋一。封ニ楚王一。紹興末。賜ニ名眘一。立爲ニ皇太子一。尋詔卽レ位。尊ニ奉上皇帝一。爲ニ光堯壽聖皇帝一。皇后吳氏爲ニ壽聖太上皇后一。

子勇を喪ふ。命じて太祖の後を選ばしめ、伯琮を得て宮中に鞠ふ。名を瑗と賜ふ。適ゝ崔府君の名と同じ。晉安郡王に封ぜらる。秦檜、其英明を疾み、而も害すること能はざりき。竟に立ちて皇子と爲り、名を瑋と賜ひ、楚王に封ぜらる。紹興の末、名を眘と賜ふ。(三)立てゝ皇太子と爲し、尋ぎて詔して位に卽かしむ。上皇帝を尊奉して、光堯壽聖皇帝と爲し、皇后吳氏を壽聖太上皇后と爲す。

(一) 後漢の崔瑗を祀れる神 (二) めでたき稻穗の瑞兆 (三) 愼の古字

以ニ史浩一爲ニ右相一。張浚樞密使。督ニ師江淮一。

○史浩を以て右相と爲す。張浚樞密使たり。師を江淮に督す。遂に北伐す。浩、其議に與らず、力め丐ひて罷めらる。李顯忠、濠州より出で、靈壁に趨きて、金兵

流而下。慾其。乃回揚州。召諸將約。三日必濟。過期盡殺。諸將遂弑亮。方亮之引而南也。渤海一軍叛去。已擁立烏禄于遼陽。聞亮死。遂入燕京。追廢亮爲海陵王。謚曰煬。烏禄太祖之孫也。後改名雍。先是數年。張浚嘗言。金必渝盟。時相湯思退等大駭。以爲狂。至是浚起判建康。上自臨安如建康。浚迎謁。衛士見其復用。以手加額。

三十二年。上還臨安。金使來。遣使報之。復尋和議。夏六月。上內禪。退居德壽宮。在位三十六年。改元者二。曰建炎紹興。皇太子立。是爲孝宗皇帝。

孝宗皇帝。初名伯琮。宗室追封秀王。謚

○三十二年、上、臨安に還る。金使來る。使を遣して之に報せしめ、復た和議を尋ぐ。夏六月、上、內禪し、退きて德壽宮に居る。在位三十六年、改元する者二、曰く建炎・紹興。皇太子立つ。是を孝宗皇帝と爲す。

孝宗皇帝

孝宗皇帝、初めの名は伯琮、宗室追封は秀王、諡は安僖、子偁の子、太祖七世の孫也。母は張氏といふ、夢に崔府君一羊を擁し來りて曰く、此を以て識と爲せと。高宗、康王たりしとき、出で使して磁州に至る。磁人、崔府君出で迎ふと夢む。張氏、是歳丁未を以て、伯琮を秀州に生む。(三)嘉禾の瑞有り。小名は羊。高宗、太

制置使劉錡遣二王權一迎レ敵。權逗留。已而退。還奔二采石一。報至。中外大震。有二浮レ海避レ狄之議一。陳康伯不レ可。命二葉義問一視レ師。中書舍人虞允文。參二謀軍事一。金人陷二揚州一。趨二瓜州一。劉錡遣レ將敗二之於皐角林一。有レ詔令レ錡還レ軍。專防二江上一。金主欲下由二采石一渡上。朝廷以二李顯忠一代レ權。而未レ至。金人舟來。虞允文亟督二水軍一。海鰍船迎擊死鬪。金人不レ能レ濟。時亮聞レ有二內變一。又聞下舟師由二海道一來者。已爲二李寶一所レ焚。而荊鄂諸軍方自二上

内變有りと聞き、又、舟師の海道より來る者は、已に李寶の爲に焚かれ、而も荊鄂の諸軍方に上流よりして下ると聞き、忿ること甚し。乃ち揚州に回り、諸將を召して約すらく、三日にして必ず濟らん、期を過ぎれば盡く殺さんと。諸將遂に亮を弑す。亮の引きて南するに方り、渤海の一軍叛き去る。已にして葛王褎を遼陽に擁立す。亮の死を聞き、遂に譙京に入り、亶を追謚して閔宗と爲し、亮を廢して海陵王と爲し、謚して煬と曰ふ。褎は晟の孫也。後、名を雍と改む。是より先數年、張浚嘗て言ふ、金必ず盟を渝へんと。時の相湯思退等大に駭き、以て狂と爲す。是に至り、浚起ちて建康に判たり。上、臨安より建康に如く。浚迎へ謁す。衞士其復び用ひらるゝを見、(三)手を以て額に加ふ。

(一) 戰艦の名　(二) 望み見て喜ぶ也

三十一年。欽宗囚問至。以去年冬死於五國城。年六十。金主亮修汴京。蓋經營南侵幾年矣。嘗因使來。密遣畫工。圖繪臨安山水城市宮室以歸。題詩其上。有立馬吳山第一峰之句。是秋。徙居汴。遂渝盟舉兵。其母諫殺之。以威衆。兵號百萬。陷淮西諸郡。江淮浙西

○三十一年、欽宗の囚問至る。去年冬を以て五國城に死す。年六十○金主亮、汴京を修す。蓋し南侵を經營すること幾年なり。嘗て使の來るに因りて、密に畫工を遣し、臨安の山水、城市、宮室を圖繪して以て歸らしめ、詩を其上に題す。馬を吳山の第一峰に立つの句有り。是秋、徙りて汴に居る。遂に盟を渝へて兵を擧ぐ。其母諫む。之を殺して以て衆を威す。兵百萬と號す。淮西の諸郡を陷る。江淮浙西制置使劉錡、王權を遣して敵を迎ふ。權、逗留す。已にして退き、還りて釆石に奔る。報至り、中外大に震ふ。海に浮びて狄を避けんの議有り。陳康伯可かず。葉義問に命じて師を視しむ。中書舍人虞允文、軍事に參謀す。金人揚州を陷れ、瓜州に趨く。劉錡、將を遣して之を皁角林に敗る。詔有り、錡をして軍を還し、專ら江上を防がしむ。金主、釆石より渡らんと欲す。李顯忠を以て權に代ふ。而して未だ至らざるに、金人の舟來る。虞允文、亟に水軍を督し、海鰍船（一）もて迎へ擊ちて死鬪す。金人、濟ること能はず。時に、亮、

金主亮。以三上京僻二在一隅一。城二燕京一。徙レ居之。改二燕京析津府一爲二大興府一。號二中都一。以二中京會寧府一爲二北京一。汴京開封府爲二南京一。而舊遼陽府爲二東京一。大同府爲二西京一。如レ故。分二蕃漢地一爲二十四路一。置二總管府一。

と爲し、汴京開封府を南京と爲す。而して、舊の遼陽府を東京と爲し、大同府を西京となすこと、故の如し。蕃漢の地を分ちて十四路と爲し、總管府を置けり。

(一) 片隅の方にかたより在る

二十五年。秦檜卒。檜秉レ政十八年。臨レ終猶起二大獄一。欲レ殺二異レ己者張浚。李光。胡寅等五十三人一。幸檜病已不レ能レ書。得レ免。沈該。万俟卨。湯思退。陳康伯。朱倬。相繼爲レ相。

○二十五年、秦檜卒す。檜、政を秉ること十八年、終に臨みて猶ほ大獄を起し、己(一)に異なる者、張浚・李光・胡寅等五十三人を殺さんと欲す。幸に檜病みて已に書すること能はずして、免るゝを得たり。沈該・万俟卨・湯思退・陳康伯・朱倬、相繼ぎて相と爲る。

(一) 己れの意見に反對せる者

廢レ帝改レ元。連歲用レ兵。卒不レ能レ討。而與レ之和。南使又不レ得レ還。而宋之猛將精兵方日盛。恢復實不レ難。沮二於秦檜一。有志之士扼腕歎息。兀朮且レ死曰。南朝軍勢强甚。宜下益加二和好一俟中十數年。南軍衰老。然後圖レ之。張浚。趙鼎皆遠竄。鼎卒二於海外一。當時異議之人。貶竄殆盡。無三復敢言レ兵者一。

盛に、恢復すること實に難からず。秦檜に沮まれ、有志の士扼腕(一)して歎息す。兀朮の且に死せんとするや、曰く、南朝の軍勢、強きこと甚し。宜しく益〻和好を加へて十數年を俟つべし。南軍衰へ老いて、然る後之を圖れと。張浚・趙鼎、皆遠竄せらる。鼎、海外に卒す。當時、異議(二)の人、貶竄せられて殆んど盡き、復た敢て兵を言ふ者無し。

(一) 腕をまくりて　(二) 議論に反對する人

紹興十九年。金主亶。爲二其下一所レ弑。共立二丞相岐王亮一。旻之孫也。

紹興二十年。

○紹興十九年、金主亶、其下の爲に弑せらる。共に丞相岐王亮を立つ。旻の孫也。

○紹興二十年、金主亮、上京の一隅(一)に僻在するを以て、燕京に城き、徙りて之に居り、燕京析津府を改めて、太興府と爲し、中都と號し、中京會寧府を以て北京

忠。張俊ニ爲ニ樞密使一。岳飛副使。飛世忠尋罷。兀朮以レ書抵レ檜曰。爾朝夕以レ和請。而岳飛方爲ニ河北圖一。必殺レ飛乃可。張俊又構ニ成飛罪一。逮赴レ獄。檜奏誅ニ飛及張憲岳雲一。和議遂諧。歸ニ韋太后及徽宗梓宮於宋一。金人不ニ惟盡悔ニ所レ許陝西河南地一。仍割ニ唐鄧等州一入レ金。盡ニ淮中流一爲レ界。西割ニ商秦之半一。棄ニ和尚方山原一。時宣撫使吳玠卒四年矣。胡世將代レ之。力以ニ和尚原等地一爲レ不レ可レ棄。兀朮必欲レ之。遂以ニ大散關一爲レ界。

州を割きて金に入れしめ、淮の中流を盡して界と爲し、西のかた商秦の半を割き、和尚・方山原を棄てしむ。時に宣撫使吳玠、卒して四年なり。胡世將之に代り、力めて和尚・原等の地を以て棄つ可からずと爲す。兀朮必ず之を欲す。遂に大散關を以て界と爲す。

㊀天子の親兵とす　㊁上意を伺ひて擧行せんとす　㊂金に屬する河北の地をはからんとす　㊃無實の罪を構へ成す　㊄逮捕して　㊅天子のひつぎの稱　㊆悔いて取り戻したるのみならず

于レ時金國屢有ニ内叛一。宗戚大臣相繼誅夷。且北有ニ蒙兀一。自號ニ大蒙一。

時に、金國屢〻内叛有り、宗戚大臣相繼ぎて誅夷せらる。且つ北に蒙兀有り。自ら太蒙と號し、帝と稱し、元を改む。連歲兵を用ひしも卒に討つと能はずして之と和し、南侵すれども又逞しくするを得ず。而して宋の猛將精兵、方に日に

敗之於郾城。後捷兀朮。飛至朱仙鎮。檜急啓上召飛還。韓世忠敗金人於淮陽之漁口。兀朮還汴。檢兩河軍與寄部。以謀再擧。

を謀る。

十一年。兀朮陷廬州。侵和州。劉錡・楊沂中敗之於橐皐。檜又啓上亟班師。沂中自瓜州渡返行在。張俊自宣化歸建康。劉錡自采石歸太平州。罷宣撫司。以其兵隷御前。遇出師時。臨時取旨。以韓世

○十一年、兀朮、廬州を陷れ、和州を侵す。劉錡、楊沂中、之を橐皐に敗る。檜又上に啓して、亟に師を班さしむ。沂中、瓜州渡より行在に返る。張俊、宣化より建康に歸る。劉錡、采石より太平州に歸る。宣撫使を罷め、其兵を以て御前に隷す。師を出す時に遇へば、時に臨みて旨を取る。韓世忠・張俊を以て、樞密使と爲し、岳飛、副使たり。飛・世忠、尋ぎて罷めらる。兀朮、書を以て檜に抵して曰く、爾、朝夕、和を以て請ふ。而るに岳飛、方に河北の圖を爲す。必ず飛を殺さば乃ち可ならんと。張俊、又飛の罪を構成す。逮して獄に赴かしむ。檜、奏して、飛及び張憲・岳雲を誅して、和議遂に諧ふ。韋太后及び徽宗の梓宮を宋に歸す。金人、惟に盡く許す所の陝西河南の地を悔ゆるのみならず、仍ほ唐・鄧等の

欲歸朝。金兵來追。縱之而奔西夏。其父母及二子一孫。皆被戮。至是乞兵於夏以復。既出則知陝西已還宋。乃部夏兵而來。上慰勞加賜賚。賜名顯忠。金國有謀反者。事連宗盤等。皆坐誅。左副元帥撻辣。實楊割長子。金主亶之大父行也。自粘罕死。宗戚大臣皆懼。撻辣與悟室。尋亦以謀叛先後誅。金與宋和。實撻辣主之。撻辣既死。於是右副元帥兀朮爲左相。乃密奏於其主。以宋未議歳貢正朔誓表冊命。而撻辣擅許割地。遂渝盟。

和せしは、實に撻辣之を主とせり。撻辣既に死す。是に於て右副元帥兀朮、左相たり。乃ち密に其主に奏するに、宋、未だ歳貢、正朔(七)、誓表(八)、冊命(九)を議せざるに、而も撻辣擅に地を割くことを許しゝを以てす。遂に盟を渝ふ。

(一)先帝の墳陵寢廟 (二)境界を配分す (三)敍任す (四)仇を復せんとす (五)賜物 (六)祖父の舊行 (七)年號 (八)誓約書 (九)冊立の勅命

紹興十年。金兵分四道南侵。劉錡大破兀朮於順昌府。檜急啓上召錡還。岳飛

○紹興十年、金兵四道に分れて南侵す。劉錡大に兀朮を順昌府に破る。檜急に上に啓して錡を召し還さしむ。岳飛之を郾城に敗り、殆んど兀朮を擒にせんとす。飛、朱仙鎭に至る。檜急に上に啓して、飛を召し還さしむ。韓世忠、金人を淮陽の泇口に敗る。兀朮、汴に還り、兩河の軍と蕃部とを檢して以て再擧

致北使。以招諭江南爲名。欲臣妾我。執政孫近附會秦檜。臣義不與檜等共戴天。乞斬檜近三人頭。竿之藁街。然後羈北使。責無禮。興問罪之師。三軍之士。不戰而氣自倍。不然。臣有赴東海而死耳。寧能處小朝廷求活邪。書上。連貶竄。

紹興九年。金人先以陝西河南地歸宋。朝廷遣官。謁陵寢。交地界。除汴京留守。靑澗城李世輔來歸。世輔之先。累世爲蕃族都巡檢使。父子雖嘗仕齊。每相泣恨不得歸宋。齊用世輔知同州。嘗得閒生擒撒離喝。

○紹興九年、金人先づ陝西河南の地を以て宋に歸す。朝廷、官を遣して、陵寢に謁し、地界を交し、汴京の留守を除す○靑澗城の李世輔來り歸る。世輔の先は累世蕃族都巡檢使爲り。父子嘗て齊に仕ふと雖も、每に相泣きて宋に歸るを得ざるを恨む。齊、世輔を用ひて同州に知とす。嘗て閒を得て撒離喝を生擒し、朝に歸らんと欲せしが、金兵來り追ひしかば之を縱ちて西夏に奔り、其父母及び二子一孫皆戮せられぬ。是に至りて兵を夏に乞ひて以て復せんとす。旣に出づれば、則ち陝西已に宋に還りしを知り、乃ち夏兵を部して來る。上、慰勞して賜賚を加へ、名を顯忠と賜ふ○金國、反を謀る者有り、事宗磐等に連り、皆坐して誅せらる。左副元帥撻辣は、實は楊割の長子にして、金主亶の大父行也。粘罕の死せしより、宗戚大臣皆懼る。撻辣、悟室と、繼ぎて亦た叛を謀れるを以て先後に誅せらる。金、宋と

利。知二江南不一レ可レ圖。然後遣レ檜爲レ間。至二豫廢一。和議乃決。金使張通古來。編修官胡銓上疏。以爲。陛下一屈レ膝。則祖宗廟社之靈。盡汚二夷狄一。祖宗之赤子。盡爲二左衽一。朝廷宰執。皆爲二陪臣一。異時豺狼無レ厭。安知レ不下加レ我。以二無禮一如中劉豫上。夫三尺童子無知。指二犬豕一而使レ拜。則怫然怒。堂堂天朝。相率而拜二犬豕一。曾無二童稚之羞一邪。奉使王倫誘二

ん。異時、豺狼厭くこと無く、安んぞ我に加ふるに無禮を以てすること劉豫(四)の如くならざるを知らん。夫れ、三尺の童子は無知なり、犬豕を指して拜せしめば、則ち怫然として怒らん。堂堂たる天朝、相率ゐて犬豕を拜せば、曾て童稚の羞無らんや。奉使王倫、北使を誘致し、江南(五)を招諭するを以て名と爲し、我を臣妾にせんと欲す。執政孫近、秦檜に附會す。臣、義として檜等と共に天を戴かず。乞ふ、倫・檜・近三人の頭を斬りて之を藁街(六)に竿し、然して後其使を覊し、無禮を責め問罪の師を興さば、三軍の士、戰はずして氣自ら倍せん。然らずんば、臣、東海を蹈みて死する有らんのみ。寧んぞ能く小朝廷に處りて、活くることを求めんやと。書、上る。遂りに貶竄せらる。

(一) 反間の計を爲さしむ　(二) 衣服を左まへにすること、夷狄の風なり　(三) 宰相執政　(四) 劉豫は虜に臣事し、南面して王と稱せしも、後父子共に縛せられて捕虜となる　(五) 宋也　(六) 蠻夷の居留地

光世以言者論其退師後誤事罷兵柄。張浚以王德統其軍。德與酈瓊等夷。不相下。交訟詣督府訴德。浚乃召德還爲督府都統制。而以呂祉爲督府參謀。領其軍。祉簡傲。不通將士之情。聞瓊等反側。密乞罷之。瓊叛。執祉。以所部數萬降齊。張浚遂以言罷。浚之用德與祉。岳飛嘗言其不可。浚不聽。故敗。趙鼎復相。金人以劉豫不能立國。廢之。齊立八歲而亡。

て亡ぶ。

㊀ 並みの大將より抜け出でゝ、軍を總す　㊁ 母の喪を以て官を去る　㊂ 同等　㊃ 叛かんとする志あると

紹興八年。上自建康還臨安。秦檜復相。趙鼎罷。詔講和。自建炎以來。無歲不遣使。直願去尊號。奉其正朔。比於藩臣。金人不從。使者往多拘囚。後數南侵不

○紹興八年、上、建康より臨安に還る。秦檜復た相たり。趙鼎罷めらる。詔して講和を議せしむ。建炎より以來、歳として、使を遣して、直に尊號を去り、其正朔を奉じ、藩臣に比せんを願はざること無し。金人從はず。使者往けば多く拘囚せらる。後、數〻南侵して利あらず。江南の圖る可からざるを知り、然る後、檜を遣して閒を爲さしむ。豫の廢せらるゝに至りて、和議乃ち決す。金使張通古來る。編修官胡銓上疏す、以爲らく、陛下一たび膝を屈せば、則ち祖宗廟社の靈盡く夷狄に汚され、祖宗の赤子盡く左衽と爲り、朝廷の宰執皆陪臣と爲ら

使韓世忠。江東宣撫使張俊。皆久已立功。而飛以列將拔起。世忠。俊不平。飛屈己下之。二人皆不答。及飛破楊么。俊益忌之。於是嫌隙日深。上自如平江。如建康。飛因扈駕以行。入見。疏論恢復。秦檜時爲樞密副使。主和議。忌飛成功沮之。飛以內艱去。上力起之。劉

己を屈して之に下れども、二人皆答へず。飛が楊么を破るに及び、俊益〻之を忌む。是に於て、嫌隙日に深し。上、自ら平江に如き、建康に如く。飛、因りて、駕に扈して以て行き、入りて見え、疏して恢復を論ず。秦檜時に樞密副使たり。和議を主とし、飛の成功を忌みて之を沮む。飛、內艱を以て去る。上、力めて之を起す。劉光世、言者の、其師を退けて幾んど事を誤らんとせしを論ぜるを以て、兵柄を罷めらる。張浚、王德を以て其軍を統べしむ。德、酈瓊と等夷にして相下らず。大に譟ぎ、督府に詣りて德を訴ふ。浚、乃ち德を召して還らしめ、督府都統制と爲し、而して呂祉を以て督府參謀と爲し、其軍を領せしむ。祉、簡倨にして將士の情に通ぜず。瓊等の反側を聞き、密に之を罷めんと乞ふ。瓊叛き、祉を執へ、所部數萬を以て齊に降る。張浚遂に言を以て罷めらる。浚の德と祉とを用ひしとき、岳飛嘗て其不可なるを言ひしが、浚聽かず。故に敗れたり。趙鼎復た相たり

○金人、劉豫の國を立つること能はざるを以て、之を廢す。齊立つこと八歲にし

其衆。若有二一人渡一レ江。即斬以徇。乃責二光世一復還二廬州一。光世不レ得レ已。乃駐レ兵。遣二王德。酈瓊一。三敗二齊兵於霍丘正陽及前羊市一。時劉猊至二淮東一。阻二韓世忠兵一。不二敢進一。乃從二淮西一渡。浚遣二張俊統制官楊沂中一至二濠州一。與レ俊合レ兵。沂中敗二猊前鋒一。猊引レ兵欲レ會二劉麟于合肥一。而後進。沂中與遇二於藕塘一。合戰。猊大敗。麟聞二猊敗一。棄レ衆潰去。光世乘レ勝追襲亦捷。北方大恐。上曰。克敵之功皆出二右相一。趙鼎遂罷。

上皇以二五年四月一殂。至二七年春一。凶問始至。壽五十四。二帝自二建炎初一。由二燕山一如二中京一。古奚國舊都也。在二燕山北千里一。次年。又自二中京一移二韓州一。在二中京東北千五百里一。後二年。又自二韓州一移二五國城一。在二金國所レ都東北千里一。上皇終レ焉。

○上皇、五年四月を以て殂す。七年春に至りて、凶問始めて至る。壽五十四。二帝、建炎の初より、燕山より中京に如く。古への奚國舊都也。燕山の北千里に在り。次年、又中京より韓州に移る。中京の東北千五百里に在り。後二年、又韓州より五國城に移る。金國都する所の東北千里に在り。上皇焉に終れり。

㊀ 徽欽の轉徙

岳飛爲二湖北京西宣撫使一。時淮東宣撫

○岳飛、湖北京西宣撫使と爲る。時に淮東宣撫使韓世忠、江東宣撫使張俊、皆久しく已に功を立つ。而して飛、列將を以て拔起す。世忠、俊、平かならず。飛、

而遣二兀朮一。提二兵黎陽一。以觀レ釁。劉光世時駐二廬州一。以爲レ難レ守。張俊駐二泗州一。亦請レ益レ兵。衆情洶懼。張浚以レ書戒二俊及光世一。有二進擊一無二退保一。趙鼎等請二上親書付一レ浚。欲二退レ師還レ南保一レ江。浚力爭。以爲可レ保二必勝一。一退則大事去矣。光世已舍二廬州一而退。浚卽星馳至二采石一。遣レ人喩二

ひ、師を退け、南に還りて江を保たんと欲す。浚、力め爭ふ。以爲らく、必勝を保す可し。一たび退かば則ち大事去らんと。光世、已に廬州を舍てゝ退く。浚、卽ち星馳して采石に至り、人を遣して其衆を喩さしむ、若し一人の江を渡るもの有らば、卽ち斬りて以て徇へんと。仍りて光世を督して復た廬州に還らしむ。光世、已むことを得ず、乃ち兵を駐め、王德・酈瓊を遣し、三たび齊の兵を霍丘・正陽及び前羊市に敗る。時に劉猊、淮東に至り、韓世忠の兵に阻まれて敢て進まず。乃ち淮西より渡る。浚、張俊の統制官楊沂中を遣して濠州に至らしめ、俊と兵を合す。沂中、猊の前鋒を敗る。猊、兵を引きて、劉麟に合肥に會し、而る後進まんと欲す。沂中、與に藕塘に遇ひて合戰す。猊大に敗る。麟、猊の敗れたるを聞き、風を望みて潰え去る。光世、勝に乘じ追ひ襲ひて、亦た捷つ。北方大に恐る。上曰く、敵に克つの功皆右相より出づと。趙鼎遂に罷めらる。

㊀ 人心洶々として危ぶみおそる

而立晏長孫曷懶馬。爲諳版孛極烈。諳副位也。曷懶馬。名亶。至是遂即位。宗盤與晏之別子及粘罕。皆爭立而不得。粘罕時已失兵柄。與悟室竝相。粘罕絶食。縱飲而死。蒙國叛金。蒙在女眞之北。在唐爲蒙兀部。亦號蒙骨斯。

ひ、悟室と竝に相たり。粘罕、食を絶ち、縱飲して死す○蒙國、金に叛く。蒙は女眞の北に在り。唐に在りては蒙兀部たり。亦た蒙骨斯と號す。

(一) ほしいまゝに酒を飲む

紹興六年。張浚復出視師。上自臨安如平江。齊人分道入寇。初劉豫因粘罕得立。知粘罕而已。蔑視他帥。及是請兵於金。宗盤沮之。聽豫自行。

○紹興六年、張浚復た出でゝ師を視る。上、臨安より平江に如く。齊人、道を分ちて入寇す。初め劉豫、粘罕に因りて立つことを得たり。粘罕を奉ずることを知るのみ。他の帥を蔑視す。是に及びて、兵を金に請ふ。宗盤之を沮み、豫の自ら行くことを聽す。而して兀朮を遣し、兵を黎陽に提げて以て釁を覩しむ。劉光世、時に廬州に駐る。以爲らく、守り難しと。張俊、泗州に駐る。亦た兵を益さんことを請ふ。衆情洶懼す。張浚、書を以て俊及び光世を戒むらく、進み撃つこと有りて退き保つこと無れと。趙鼎等、上の親書して浚に付せんことを請

相敗就レ擒。其徒有二楊么者一。據二洞庭一。遂爲二劇寇一。官軍陸襲レ之。則入レ湖。水攻レ之。則登レ岸。曰有二能害一レ我。除是飛來。浚謂上流不二先去一レ么。爲二腹心害一。將レ無二以立一レ國。請自行。浚至二湖南一。會二岳飛兵至一。急攻二其水寨一。么窮蹙赴レ水死。遂平。浚自二湖南一轉。由二兩淮一。會二諸將一議二防秋一。乃入見。

んとするものあらば、除だ是れ飛び來れと。浚謂ふ、上流(二)先づ么を去らざれば、腹心の害を爲し、將に以て國を立つること無からんとすと。請ひて、自ら行く。浚、湖南に至り、岳飛の兵の至るに會し、急に其水寨を攻む。么、窮蹙し、水に赴きて死す。遂に平ぐ。浚湖南より轉じ、兩淮より諸將を會して防秋(三)を議し、乃ち入りて見ゆ。

㊀盜賊出沒の區域　㊁洞庭は建康の上流に當る　㊂胡人の秋の入寇を防ぐこと

金主晟殂。諡二文烈一。初旻與レ晟約。兄終弟立。而後復二歸旻之子一。故晟捨二己子宗盤一。

○金主晟殂す。文烈と諡す。初め旻、晟と約すらく、兄終らば弟立ち、而る後旻の子に復歸せんと。故に、晟、己の子宗盤を捨てゝ、旻の長孫曷囉馬を立て、諳版孛極烈と爲す。儲副の位也。曷囉馬、名は亶、是に至りて遂に位に卽く。宗盤、旻の別子及び粘罕と皆立たんとを爭ひて得ず。粘罕、時に已に兵柄を失

紹興五年。上自㆓平江㆒還㆓臨安㆒。趙鼎。張浚。爲㆓左右相㆒。浚使㆑都㆓督諸路軍馬㆒。尋復命㆑浚。視㆓師江上㆒。浚至㆓鎭江㆒。召㆓韓世忠㆒。使㆔擧㆑兵移㆓屯楚州㆒。浚至㆓建康㆒。撫㆓張俊軍㆒。至㆓太平州㆒。撫㆓劉光世軍㆒。無㆑不㆓踊躍思㆒㆑奮。以㆓岳飛㆒爲㆓河北京西招討使㆒。

○紹興五年、上、平江より臨安に還る。趙鼎・張浚、左右の相たり。浚、兼ねて諸路の軍馬を都督す。尋ぎて復た浚に命じて師を江上に視しむ。浚、鎭江に至り、韓世忠を召し、兵を擧げて移りて楚州に屯せしむ。浚、建康に至りて、張俊の軍を撫し、太平州に至りて、劉光世の軍を撫す。踊躍して、奮はんことを思はざる無し。岳飛を以て河北京西の招討使と爲す。

○こをどりして

先㆑是。建炎庚戌中。有㆓武陵人鍾相㆒。起㆓於鼎州㆒。僭號㆑楚。鼎澧潭辰岳之境。皆盜區。

○是より先、建炎、庚戌中、武陵の人鍾相といふものあり、鼎州に起り、僭して楚と號す。鼎・澧・潭・辰・岳の境、皆盜區なり。相敗れて擒に就く。其徒に楊么といふ者有り。洞庭に據り、遂に劇しき寇を爲す。官軍、陸より之を襲へば、則ち湖に入り、水より之を攻むれば、則ち岸に登る。曰く、能く我を害せ

相。齊以二金兵一分レ道南侵。上詔親征。出如二平江一。以二張浚一知二樞密院一。先レ是浚極言。北方既無二西顧憂一。必併レ力窺二東南一。上思二其言一。遂召レ之。浚至。請遣二岳飛一渡レ江入二淮西一。以牽下制北兵之在二淮東一者上。從レ之。上命レ浚視二師江上一。將士見二浚來一勇氣皆倍。時韓世忠駐二揚州一。先已大敗二金兵於大儀鎭一。擒二其將撻也一。解元。成閔。與戰二于承州一。十三捷。仇悆孫暉敗二之於壽春安豐一。王德敗二之於滁州一。岳飛遣二牛皐等一。攻二之於廬州一。撻辣。兀朮知下爲二世忠一所レ扼。江不上レ可レ渡。引還。齊劉麟。劉猊棄二輜重一遁去。

之を召す。浚至り、請ひて岳飛を遣して江を渡りて淮西に入らしめ、以て北兵の淮東に在る者を牽制せんとす。之に從ふ。上、浚に命じて、師を江上に視しむ。將士、浚の來るを見て、勇氣皆倍す。時に、韓世忠、揚州に駐る。先に已に大に金兵を大儀鎭に敗り、その將撻也を擒にす。解元・成閔、與に承州に戰ひて十三捷あり。仇悆、孫暉、之を壽春安豐に敗る。王德、之を滁州に敗る。岳飛、牛皐等を遣して之を廬州に攻めしむ。撻辣・兀朮、世忠の爲に扼せられて、江の渡る可からざるを知り、引きて還る。齊の劉麟・劉猊、輜重を棄てゝ遁れ去る。

保二泉縣潭毒山一。遂離鳥食盡。乃引還。吳璘以レ無レ糧拔レ寨。棄二和尚原一。金人得レ之。玠度二其必深入一。乃整レ兵以待。兀朮果與二撤離喝一來。犯二仙人關一。玠璘與戰七日。金人不レ能レ支。宵遁。玠設レ伏挑二其歸路一。又敗レ之。是舉也。金人決レ意入レ蜀。卒不レ得レ志。是後。浚又失二洮岷關外一。惟存二階成秦鳳一。浚召還。尋與二劉子羽一皆貶竄。浚是行。本欲下由二關陝一取中中原上。乃盡喪二關陝一而歸。賴得二玠璘一保レ蜀而已。

を取らんと欲す。乃ち盡く關・陝(五)を喪ひて歸る。賴ひに玠・璘を得て蜀を保てるのみ。

(一)呂頤浩が偽劉史實四年をして建節せしめし也　(二)二州の名　(三)とりでを引きあぐ　(四)金人の必らず深く攻入り來るべしと推測す　(五)關中・陝西

齊遣二李成一。攻陷二鄧襄隨郢唐州信陽軍等一。岳飛復二隨郢一。成棄二襄陽一而遁。呂頤浩。朱勝非。相繼罷。趙鼎爲二右

○齊、李成を遣し、攻めて鄧・襄・隨・郢・唐州・信陽軍等を陷る。岳飛、隨・郢を復す。成、襄陽を棄てゝ遁る○呂頤浩・朱勝非、相繼ぎて罷めらる。趙鼎、右相と爲る○齊、金兵を以て道を分ちて南侵す。上、詔して親征し、出でゝ平江に如く。張浚を以て、樞密院に知たらしむ。是より先、浚、極めて言ふ、北方、既に西顧の憂無し、必ず力を併せて東南を窺はんと。上、其言を思ひて、遂に

紹興二年。上自二越州一還二臨安一。言者劾下秦檜專主二和議一。沮中止恢復遠圖上。檜罷。朱勝非爲二右相一。紹興三年春。金撒離喝。自二鳳翔長安一。聲二言東去一。實由二商於一出二漢陰一。直趨二金商一。吳玠急引レ兵扼二之饒風嶺一。金人間道遶出二其後一。玠遽還二仙人關一。金人遂進陷二興元一。知府劉子羽退

○紹興二年、上、越州より臨安に還る。言ふ者、秦檜の專ら和議を主として、恢復の遠圖を沮止せしことを劾せしかば、檜罷められ、朱勝非右相となりぬ○紹興三年春、金の撒離喝、鳳翔・長安より東に去ると聲言し、實は商於より漢陰に出で、直に金(二)・商に趨く。吳玠、急に兵を引いて之を饒風嶺に扼す。金人、間道より遶りて其後に出づ。玠、遽に仙人關に還る。金人、遂に進みて興元を陷る。知府劉子羽、退きて、三泉縣、潭毒山を保つ。撒離喝食盡く。乃ち引きて還る。吳璘、糧無きを以て寨(三)を抜き、和尚原を棄つ。金人之を得たり。玠、其必(四)ず深く入るを度る。乃ち兵を嚴にして以て待つ。兀朮、果して撒離喝と來りて、仙人關を犯す。玠・璘、與に戰ふこと七日。金人支ふること能はず、宵遁る。玠、伏を設けて、其歸路を扼し、又之を敗る。是舉や、金人意を決して蜀に入らんとし、卒に志を得ず。是歲、浚又洮・岷・關外を失ひ、惟階・成・秦・鳳を存す。浚、召し還され、尋ぎて劉子羽と皆貶竄せらる。浚の是行、本と關・陝より中原

之方山原一而已。浚退保二閬州一。統制曲端有二賊名一。浚先用レ譖罷二其兵柄一。安二置萬州一。四人倚レ端爲レ重。及レ貶。軍情不レ悦。至レ是又送二恭州獄一殺レ之。士大夫軍民皆悵恨。四人益以レ是非レ浚。金人分二兩道一向レ蜀。吳玠與二弟璘一。大敗二之於和尙原一。又還レ將敗二之於箭筈關一。兩道皆不レ能レ入。

はず。

●箒にて物を掃く如く片端より地を略取すること　●兵權　●曲端あるために重視せらる

范宗尹罷。秦檜昌言曰。我有二二策一。可三以聳二動天下一。遂爲二右相一。呂頤浩爲二左相一。兀朮會二諸道及女眞兵一。造二浮梁於寶雞縣一。渡レ渭攻二和尙原一。玠璘三日三十餘戰。大破レ之。兀朮中二流矢一。僅以レ身免。始自二河東一歸二燕山一。

○范宗尹罷めらる。秦檜、昌言して曰く、我に二策有り、以て天下を聳動す可しと。遂に右相と爲る。呂頤浩、左相と爲る○兀朮、諸道及び女眞の兵を會し、浮梁を寶雞縣に造り、渭を渡りて和尙原を攻む。玠・璘、三日に三十餘戰し、大に之を破る。兀朮、流矢に中る。僅に身を以て免れ、始めて河東より燕山に歸れり。

●綱目に揚言に作る、從よくし、盛んにいひふらしての意　●船橋

天下無事。須是南自南。北自北。乞上。致書撻辣以求好。其言皆撻辣意也。是歲。劉豫稱帝。豫景州人。於建炎戊申。以濟南守降金。爲之用。得知東平府。兼節制河南。粘罕白金主。循邦昌故事立豫。國號大齊。後遷都于汴。粘罕既得關中地。悉割以與豫。

紹興元年。命張浚。討江淮盜李成。成據江淮六七州。連兵數萬。有席卷東南之意。尋陷江筠臨江。浚擊其軍。復三郡。成遁降齊。張浚盡失陝西之地。惟餘階成岷鳳洮五郡。及鳳翔府之和尚原。隴州

○紹興元年、張浚に命じて、江淮の盜李成を討たしむ。成、江淮の六七州に據り、兵數萬を連ぬ。東南を席卷(一)するの意有り。尋ぎて江筠・臨江を陷る。浚、其軍を撃ちて三郡を復す。成、遁れて齊に降る○張浚、盡く陝西の地を失ひ、惟だ階・成・岷・鳳・洮の五郡、及び鳳翔府の和尚原、隴州の方山原を餘すのみ。浚、退きて閬州を保つ。統制曲端、威名有り。浚、先に譖を用ひて、其兵柄(二)を罷め、萬州に安置す。西人、端(三)に倚りて重きを爲す。貶せらるゝに及び、軍情悦ばず。是に至りて又恭州の獄に送りて之を殺す。士大夫、軍民、皆悵み恨む。西人益ゝ是を以て浚を非る。金人、兩道に分れて蜀に向ふ。吳玠、弟璘と、大に之を和尚原に敗り、又將を選びて之を箭筈關に敗る。兩道皆入ること能

六路兵至富平。婁室擁兵驟至。鐵騎直擊環慶路趙哲軍。他路不援。哲離所部。諸軍退。金遂乘勝而前。浚斬趙哲。諸路兵皆散去。陝西大震。浚駐軍興州。遣劉子羽訪諸將所在。各引所部來會。人心粗安。吳玠走保大散關東和尚原。

上自海道回駐越州。呂頤浩罷。范宗尹爲相。秦檜南歸赴行在。檜在北依撻辣。爲所任用。撻辣南侵。檜參謀其軍。嘗爲草檄。下山東州郡。挈全家。泛小舟。抵漣水軍。自言逃歸。朝士多疑之。檜言如欲

○上、海道より回りて越州に駐まる。呂頤浩罷められ、范宗尹相と爲る。秦檜南に歸りて行在に赴く。檜北に在りて撻辣に依り、爲に任用せらる。撻辣の南侵するや、檜其軍に參謀たり。嘗て爲に檄を草して、山東の州郡を下す。全家を挈へ、小舟を泛べて漣水軍に抵る。自ら言ふ、逃れ歸ると。朝士多く之を疑ふ。檜言ふ。如し天下の無事を欲せば、須らく是れ南は自ら南、北は自ら北たるべしと。上に乞ひ、書を撻辣に致して以て好を求む。其言皆撻辣の意也○是歲、劉豫、帝と稱す。豫は景州の人なり。建炎の戊申に於て、濟南の守を以て金に降り、之が用を爲し、東平府に知たるを得、兼ねて河南に節制たり。粘罕、金主に白し、邦昌の故事に循ひて豫を立つ。國を大齊と號す。後、都を汴に遷す。粘罕、既に關中の地を得たり、悉く割きて以て豫に與ふ。

適。統制岳飛、邀擊敗之於六合。

初張浚西行。上命浚三年而後用師。及是撻辣兀朮皆在淮東。浚聞兀朮躊躇。必再犯東南。議出師攻取以分其勢。士大夫及諸將皆以爲不可。浚決策。移檄粘罕問罪。遣吳玠入長安。金人遂調兀朮。自京西星馳赴陝西。與婁室合。浚合

初め張浚の西に行くや、上、浚に命じ、三年にして後、師を用ひしむ。是に及び、撻辣、兀朮、皆淮東に在り。浚、兀朮の躊躇するを聞き、必ず再び東南を犯すならんとし、議して師を出し、攻め取りて以て其勢を分たんとす。士大夫及び諸將皆以て不可と爲す。浚、策を決し、檄を粘罕に移して罪を問ひ、吳玠を遣して長安に入らしむ。金人、遂に兀朮を調す(一)。京西より星馳して(二)、陝西に赴き、婁室と合す。浚、六路の兵を合して富平に至る。婁室、兵を擁して驟に至る。鐵騎直に環慶路の趙哲の軍を擊つ。佗路、援けず、哲、所部を離る。諸軍退く。金遂に勝に乘じて前む。浚、趙哲を斬る。諸路の兵皆散じ去る。陝西大に震ふ。浚、軍を興州に駐め、劉子羽を遣して、諸將の在る所を訪はしむ。各〻所部を引きて來り會す。人心粗ぼ安し。吳玠、走りて大散關の東の和尚原を保つ。

(一)選びて出發せしむ (二)流星の如く疾く馳せて

不ㇾ作二他邦臣一。衆擁出二兀朮一。誘ㇾ之累日。輒叱罵。卒大罵見ㇾ殺。兀朮長驅陷二杭州一。上去已七日。兀朮進陷二越州一。四年春。陷二明州一。時上已次二台州章安鎭一。金人以ㇾ艦犯二昌國縣一。欲三追二襲上舟一。提領海舟張公裕。引二大舶一擊二散之一。乃退。回ㇾ兵陷二秀平江常州一至二鎭江一。韓世忠邀ㇾ之。以二海舟一與戰數十合。多二俘獲一。伏二卒金山龍王廟一。幾獲二兀朮一。相二持於黃天蕩一。兀朮求ㇾ假ㇾ道甚恭。不ㇾ許。欲下自二建康一北歸上。不ㇾ得ㇾ去。或敎於二治城西南隅蘆場地一鑿二大渠一。一夕成。次早出ㇾ舟趨二建康一。世忠大驚。尾二擊之一。一日値ㇾ無ㇾ風。海舟不ㇾ能ㇾ動。兀朮乃引二其舟一出ㇾ江北去。疾如ㇾ飛。以二火箭一射二海舟一。世忠軍亂奔還。兀朮乃得二北

多し。卒を金山の龍王廟に伏せ、幾んど兀朮を獲んとす。黃天蕩に相持す。兀朮、道を假らんことを求めて甚だ恭し。許さず。建康より北に歸らんと欲す。去ることを得ず。或ひと敎へて、治城の西南隅の蘆場(一)の地に於て、大渠(二)を鑿たしむ。一夕にして成る。次早(三)、舟を出して建康に趨く。世忠大に驚きて之を尾擊す。一日風なきに値ひ、海舟動くこと能はず。兀朮乃ち其舟を引き、江を出でて北に去る。疾きこと飛ぶが如し。火箭を以て海舟を射る。世忠、軍亂れて奔り還る。兀朮乃ち北に還ることを得たり。統制岳飛、邀へ擊ちて之を六合に敗れり。

(一) 蘆の生えたる場所 (二) おほみぞ (三) 翌早朝 (四) 退散

爲二右僕射一。守二建康一。上如二杭州一。升レ杭爲二臨安府一。自二臨安一如二浙東一。金人分二兩道一。一軍自二蘄黃一渡レ江。劉光世在二江州一。以爲二蘄黃小盜一。遣二王德一拒二之於興國軍一。始知レ爲二金人一。

金人自二大冶一。趨二洪撫建昌臨江吉州一。追二隆祐太后一。不レ及。遂陷二袁潭荊南澧州一。乃自二石首一北渡而去。一軍自二滁和一。向二江東馬家渡一。濟レ江。陷二建康一。杜充及守臣皆降二於兀朮一。通判楊邦乂不レ從。刺レ血書レ裾曰寧爲二趙氏鬼一。

金人、大冶より、洪撫・建昌・臨江・吉州に趨き、隆祐太后を追ふ。及ばず。遂に袁・潭・荊南・澧州を陷る。乃ち石首より北に渡りて去り、一軍は滁和より江東の馬家渡に向ひ、江を濟りて建康を陷る。杜充及び守臣皆兀朮に降る。通判楊邦乂從はず、血を刺して裾に書して曰く、寧ろ趙氏の鬼となるとも、他邦の臣と作らじと。衆擁して兀朮に見えしむ。誘ひ諭すこと累日なり。輒ち叱り罵る。卒に大に罵りて殺さる。兀朮、長驅して杭州を陷る。上、去りて已に七日なり。兀朮進みて越州を陷る。四年春、明州を陷る。時に、上已に台州章安鎭に次す。金人、船を以て昌國縣を犯し、上の舟を追ひ襲はんと欲す。提領海舟張公祐、大船を引きて之を撃ち散す。乃ち退き、兵を回して秀平江常州を陷れ、鎭江に至る、韓世忠、之を邀へ、海舟を以て與に戰ふこと數十合、俘獲

矣。呂頤浩張浚追及上於瓜洲。得小舟以渡。至鎭江。遂如杭州。罷潛善・伯彦。以朱勝非爲相。御營將苗傅・劉正彦作亂。請上禪位於皇子旉。未三歲。孟太后聽政。呂頤浩・張浚帥師勤王。韓世忠爲前軍。張俊翼之。劉光世游擊。爲殿。勝非說二兇反正。尊孟后爲隆祐皇太后。勝非罷。呂頤浩爲相。二兇走。世忠追之。皆伏誅。上如建康。以浚爲川陝宣撫處置使。隆祐太后如南昌。聞兀朮請於粘罕將犯江浙故也。杜充

未だ三歳ならず。孟太后政を聽く。呂頤浩・張浚、師を帥ゐて勤王す。韓世忠前軍たり。張俊之を翼く。劉光世、游擊して殿と爲る。勝非、二兇(三)に說きて、正に反らしむ。孟后を尊びて、隆祐皇太后と爲す。勝非罷められ、呂頤浩、相と爲る。二兇走る。世忠、之を追ふ。皆誅に伏す。上、建康に如く。浚を以て、川陝宣撫處置使と爲す。隆祐太后、南昌に如く。兀朮の粘罕に請ひて、將に江浙を犯さんとするを聞けるが故也。杜充、右僕射と爲り、建康を守る。上、杭州に如く。杭を升せて、臨安府と爲す。臨安より浙東に如く。金人、兩道に分れ、一軍は、蘄黃より江を渡る。劉光世、江州に在り。以て蘄黃の小盜と爲し、王德を遣して、之を興國軍に拒がしめ、始めて金人たるを知る。

● 二兇 (三) 苗傅・劉正彦となり

十日而罷。潛善伯彦爲相。首誅上書人陳東歐陽澈。決策幸東南。無復經制兩河之意。此冬。車駕遂至揚州。金人分三道南來。二年春。金人至汴。爲宗澤所敗。澤招撫羣盜。募四方義士。合百餘萬。糧支半歳。表疏連數十。請上還汴。潛善忌其成功。從中沮之。憂憤疽發背而沒。臨終無一語及家事。但連呼過河者三。都人爲之號慟。聞者皆相弔出涕。

羣盜を招き撫で、四方の義士を募りて、百餘萬を合し、糧半歳を支ふ。表疏數十を連ね、上に汴に還らんことを請ふ。潛善其成功を忌みて、中より之を沮む。憂憤して疽背に發して沒す。終に臨み一語の家事に及ぶ無し。但だ河を過ぎんと連呼する者三たび。都人之が爲に號慟し、聞く者皆相弔ひて涕を出す。

(一)いとぐちがつく　(二)二帝の南歸を訴請する使者　(三)經營統制　(四)上奏書　(五)できもの

三年春。金人將至揚州。上得報亟出。二相方會食堂。吏呼曰。駕行矣。乃戎服南走。回望揚州。烟焰已漲天。

三年春、金人將に揚州に至らんとす。上、報を得て亟に出づ。二相方に堂に會食す。吏呼びて曰く、駕、行くと。乃ち戎服して南に走る。揚州を回望すれば、烟焰已に天に漲る。呂頤浩・張浚、上に瓜洲に追ひ及ぶ。小舟を得て以て渡り、鎭江に至り、遂に杭州に如く。潛善、伯彦を罷め、朱勝非を以て相と爲す。御營の將苗傅・劉正彦、亂を作し、上に請ひて位を皇子旉に禪らしむ。

河開府黄潛善亦領ㇾ兵至。遣屯二濟州一。探報二帝北行。張邦昌爲二金所一ㇾ立、國號ㇾ楚。是日風霾。日有二薄暈一。百官慘沮。邦昌亦有二變色一。惟王時雍・范瓊等欣然若ㇾ有ㇾ所ㇾ得。邦昌在ㇾ位三十三日。御史馬伸貽二書邦昌一、請下速行二改正一、易ㇾ服歸省上。遂迎二元祐孟太后一、聽ㇾ政。太后遣ㇾ立二康王一。詔告二中外一。有ㇾ曰、漢家之厄十世、宜二光武之中興一。獻公之子九人、惟重耳之尚在。遣使奉ㇾ表。及以二孟后詔一來。邦昌繼至。伏ㇾ地慟哭請ㇾ死。使臣自二河北一眞來。進二道君手札一曰、便可三卽ㇾ眞、來救二父母一。王慟哭拜受、遂趨二應天府一卽ㇾ位。改二元建炎一。

㊀ 蠟丸に封じ籠めたる密書　㊁ 立札をして勤王の兵を募る　㊂ 風立ちて土を降らし　㊃ 心をいたむ　㊄ 位號を去り帝服を易へ、尚書省に歸りて臣列に就くべし　㊅ 上表　㊆ 眞の帝位

以ㇾ主ㇾ和誤ㇾ國、罷二竄耿南仲一。召二李綱一爲ㇾ相。以二宗澤一知二開封一、爲二留守一。綱至。邊防軍政、略有ㇾ緒。而潛善伯彥復主ㇾ和。亟遣二祈請使一。綱相數

和を主として國を誤れるを以て、耿南仲を罷め竄し、李綱を召して相と爲し、宗澤を以て開封に知として、留守と爲す。綱至りて、邊防、軍政、略ぼ緒有り。而して潛善、伯彥、復た和を主とし、亟に祈請使を遣す。綱、相たること數十日にして罷めらる。潛善•伯彥、相と爲り、首として上書の人、陳東、歐陽澈を誅し、策を決して東南に幸し、復た兩河を經制するの意無し。此冬、車駕遂に揚州に至る。金人三道に分れて南に來る。二年春、金人汴に至り、宗澤の爲に敗らる。澤、

澤止之。相州守以蠟書言。金人方遣騎物色康王所在。乃回相州。與南仲揭榜。召兵勤王。有詔以康王爲大元帥。汪伯彥。宗澤爲副。領兵入衞。王從伯彥議。出北門。渡河至太名。聞京師陷。澤請進兵向京城。伯彥請王移兵東平。措身安地。南仲亦以爲然。遂東去。知

地に措かんと請ふ。南仲も亦以て然りと爲す。遂に東に去る。知河開府黃潛善亦た兵を領して至り、進みて濟州に屯し、探り報ず、二帝北に行き、張邦昌、金の爲に立てられて、國を楚と號すと。是日(三)風霾あり、日に薄暈有り。百官慘怛(四)し、邦昌亦た憂ふる色有り。惟王時雍・范瓊等、欣然として得る所有るが如し。邦昌位に在ること三十三日。御史馬紳、書を邦昌に貽りて、速に改正(五)を行ひ、服を易へて省に歸らんことを請ふ。遂に元祐孟太后を迎へて政を聽かしむ。太后、康王を迎へ立つ。詔して中外に告ぐ。曰へる有り、漢家の厄十世、光武の中興に宜しく獻公の子九人、惟重耳之れ尙ほ在りと。使を遣して表を奉じ、及び孟后の詔を以て來らしむ。邦昌繼ぎて至り、地に伏し慟哭して死を請ふ。使臣、河北より竄げ來り、道君(六)の手札を進む。曰く、便ち眞(七)に卽き來りて父母を救ふ可しと。王、慟哭して拜受し、遂に應天府に趨きて位に卽く。元を建炎と改む。

高宗皇帝。名構。徽宗第九子也。母韋氏。徽宗夢二吳越武肅錢王入一宮。已而生レ構。封二康王一。靖康初。嘗出使二斡離不軍一。是冬斡離不再來。奉レ詔再出使。耿南仲偕行。至二相州一。民遮レ道請レ無レ往。至二磁州一。守臣宗

南宋

高宗皇帝

高宗皇帝、名は構、徽宗の第九子也。母は韋氏。徽宗、吳越の武肅錢王、宮に入ると夢み、已にして構を生む。康王に封ぜらる。靖康の初、嘗て出で、斡離不の軍に使す。是冬、斡離不再び來る。詔を奉じて再び出で使す。耿南仲、偕に行く。相州に至るや、民、道を遮りて往く無からんことを請ふ。磁州に至るや、守臣宗澤之を止む。相州の守、蠟書を以て言ふ、金人方に騎を遣して康王の所在を物色すと。乃ち相州に回り、南仲と榜を揭げ、兵を召して勤王せしむ。詔有り、康王を以て大元帥と爲し、汪伯彥・宗澤を副と爲し、兵を領して入りて衛らしむ。王、伯彥の議に從ひ、北門を出で、河を渡りて大名に至る。京師陷ると聞きて、澤は兵を進めて京城に向はんと請ひ、伯彥は王に兵を東平に移し、身を安

城一。逼易二御服一。時惟李若水抱持。大呼奮罵。金人刀裂二其頤一。斷二其舌一。而後梟レ之。相謂曰。大遼破。死レ義者十數。今南朝惟李侍郎一人。然一時憤死者甚衆。金人不レ知也。吳革結レ衆。欲レ劫二還二帝一。爲二范瓊一誘殺。何㮚孫傅張叔夜秦檜司馬朴。皆爭論乞レ存二立趙氏一。金人驅レ之。從レ上北行。叔夜不レ食レ粟。惟飲レ湯。過二界河一死。㮚至レ燕。亦不レ食死。當二京城危急時一。四方勤王之師至者。皆詔止不レ進。恐レ妨二和議一。訖二金人之退一未二嘗交一レ兵。上在位不二二年一國破。改元曰二靖康一。弟康王立二于南京一。是爲二高宗皇帝一。

劫し還さんと欲し、范瓊の爲に誘殺せらる。何㮚・孫傅・張叔夜・秦檜・司馬朴、皆爭ひ論じて趙氏を存立せんことを乞ふ。(三)金人之を驅りて上に從ひて北に行かしむ。叔夜、粟を食はず、惟湯を飲むのみ。界河を過ぎて死す。㮚、燕に至り、亦た食はずして死す。京城危急の時に當り、四方勤王の師の至る者、皆詔して止まりて進まざらしむ。和議を妨げんことを恐るゝなり。金人の退くに訖るまで、未だ嘗て兵を交へず。上、在位二年ならずして國破る。改元して靖康と曰ふ。弟康王南京に立つ。是を高宗皇帝と爲す。

(一) 吳革は姓、莫儔は名 (二) 帝を抱き支ふ (三) 宋の姓也

罷。不猶生留聖東狩乎。上皇欲飲藥。爲范瓊所奪。逼上皇出宮。皇后太子。親王。帝姬。皇族。前後三千餘人。悉赴軍前。城中子女。金帛。寶玩。車服。器用。圖書。百物括索。公私上下俱空。然後宣金主詔書。選立異姓。逐冊前太宰張邦昌爲楚帝。以宋二帝北歸。

公私上下俱に空し。然る後金主の詔書を宣して、異姓を選び立つ。遂に前の太宰張邦昌を冊して楚帝と爲し、宋の二帝を以て北に歸る。

（一）本國の内にて　（二）青城　（三）ことごとく取り集めて

金人在汴凡七閲月而去。始至張叔夜嘗力戰。餘皆主和。以至吳幵。莫儔。王時雍。徐秉哲。范瓊等。往來逼逐上皇以下出郊。議擧異姓。方上在青

金人汴に在ること凡そ七閲月にして去る。始めて至りしとき、張叔夜嘗て力戰す。餘は皆和を主として、以て吳幵・莫儔・王時雍・徐秉哲・范瓊等に至るまで、往來して上皇以下を逼り逐ひて郊に出でしめ、異姓を擧ぐることを議し、上の青城に在るに方りて、逼りて御服を易へしむ。時に惟だ李若水のみ抱持して大に呼ひ罵る。金人刀もて其頤を裂き、其舌を斷ちて後之を梟す。相謂ひて曰く、大遼の破れしとき、義に死せし者十數あり。今、南朝、惟李侍郎一人のみと。然れども一時憤死せし者甚だ衆し。金人知らざる也。吳革、衆を結びて、二帝を

入。鬻而食レ之。何㮚欲下率二都民一巷戰上。聞者爭奮。金人出レ是斂兵不レ下。惟以下割レ地責二金幣一和議上爲レ辭。以説二戰守之計一。侍郎耿南仲力主レ議レ和。上以爲レ然、遂墮二其計一。二元帥請下與二上皇一和見上。上曰。上皇驚憂已病、朕當二自往一。遂如二青城一見レ之。二宿而返。

き憂ひて已に病めり。朕當に自ら往くべしと。遂に青城(四)に如きて之を見、二宿して返る。

(一)上位の大將　(二)肉をきりきざみて　(三)市街戰を行はんとす　(四)金人の屯せる城

明年春。復請レ上出レ郊。續逼出二上皇一。張叔夜諫曰。今上一出不レ歸。陛下不レ可二再往一。臣當下率二勵精兵一。護レ駕以出上。縱虜騎追至。臣決レ死戰。或可二僥倖一。若天不レ祚。死二於封

明年春、復た上に請ひて郊に出でしめ、續きて逼りて上皇を出さんとす。張叔夜、諫めて曰く、今、上、一たび出でゝ歸らず。陛下再び往く可からず。臣、當に精兵を率ゐ勵し、駕を護りて以て出づべし。縱ひ虜騎追ひ至るとも、臣、死を決して戰はん。或は僥倖す可し。若し天祚せずんば、(一)封疆に死せん。猶ほ生きながら夷狄に陷らざらんかと。上皇藥(二)を飲まんと欲し、范瓊の爲に奪はる。上皇に逼りて宮を出でしむ。皇后、太子、親王、帝姫、皇族、前後三千餘人、悉く軍前に赴く。城中の子女、金帛、寶玩、車服、器用、圖書、百物、(三)括索して

圍京師自二十一月受圍凡四十日。有二卒郭京者一。言能用二六甲法一。生二擒粘罕幹離不一。盡令三守禦人下二城。圍坐二城樓上一。以二親兵數百一自衛。俄頃金人鼓譟而進。京紿衆曰。須三自下二城作二法一。因引二餘兵一南遁。虜兵登二城者纔四人。衆皆披靡大潰。上聞二城陷一慟哭曰。朕不レ用二种師道言一。以至二於此一。時師道前一月卒矣。

（一）數十萬の兵を　（二）遁甲の法、六甲とは甲子、甲寅、甲辰、甲午、甲申、甲戌也、甲年生れの兵七千七百七十七人を以てこの法を行ふといふ　（三）いけどり　（四）遁甲の法　（五）金の兵の城に入るもの僅か四人に過ぎざるに早くも之に恐れなびきたりと也

護レ駕人猶有二萬餘一。馬亦數千。張叔夜連戰四日。斬二其貴將一人一。欲三護レ駕突レ圍而出二。上惑二於和議一不レ定。士卒號哭而散。虜使劉晏請二上出レ城。都民爭

駕を護るの人猶ほ萬餘有り。馬亦た數千。張叔夜、連戰四日、其貴將一人を斬る。駕を護り圍を突きて出でんと欲す。上、和議に惑ひて定まらず。士卒號哭して散ず。虜の使劉晏、上に城を出でんことを請ふ。都民爭ひ入り、臠して之を食ふ。何㮚、都民を率ゐて巷戰せんと欲す。聞く者爭ひ附ふ。金人是に由りて兵を斂めて下さず、惟地を割き金帛を責むるの和議を以て辭と爲し、以て戰守の計を誤らしめんとす。侍郎耿南仲、力めて和を議するを主とす。上、以て然りと爲し、遂に其計に墮つ。二元帥、上皇と相見んことを請ふ。上曰く、上皇驚

上皇歸二京師一。數月金兵復至。斡離不由二東路一陷二眞定一。長驅先抵二京師一。粘罕由二西路一陷二隆德。太原府。汾澤州。平定軍。平陽府。河南府。河陽府。鄭州。懷州一。抵二京師一。張叔夜等統レ兵赴レ闕。唐恪。耿南仲專主二和議一。曰今百姓困匱。養二數十萬於城下一。何以給レ之。乃止二各道兵一。毋レ得レ

○上皇、京師に歸る。數月にして金の兵復た至る。斡離不、東路より眞定を陷れ、長驅して先づ京師に抵る。粘罕、西路より、隆德・太原府・汾澤州・平定軍・平陽府・河南府・河陽府・鄭州・懷州を陷れ、京師に抵る。張叔夜等、兵を統べて闕に赴く。唐恪、耿南仲、專ら和議を主とす。曰く、今百姓困み匱し。(一)數十萬を城下に養はゞ、何を以て之に給せんと。乃ち各道の兵を止めて、動くことを得る勿らしむ。京師、十一月圍を受けしより凡そ四十日、卒郭京といふ者有り。言ふ、能く六甲(二)の法を用ひて、粘罕・斡離不を生擒せんと。(三)盡く守禦の人をして城を下らしめ、獨り城樓の上に坐し、親兵數百を以て自ら衛る。俄頃にして金人鼓譟して進む。京、衆を紿きて曰く、須らく自ら城を下りて法を作すべしと。因りて餘兵を引きて南に遁る。(五)虜兵、城に登る者纔かに四人。(四)衆皆披き靡きて大に潰ゆ。上、城陷ると聞き、慟哭して曰く、朕、种師道の言を用ひずして、以て此に至れりと。時に師道前つこと一月にして卒せり。

金一僅得二十餘萬錠。銀四百餘萬兩。藏蓄已空。金人圍京城。凡三十三日。得割地詔。不俟金幣數足而退。种師道請臨河要擊之。綱亦以爲彼兵六萬。而我勤王之師二十餘萬。候其半渡而擊之。必勝。邦彥等不從。惟詔三鎮。仍堅守不割。

堅く守らしめて割かず。

一 上の許可の實を得て 二 在京の者の金を總括して 三 地を割き與へず

京師受圍時。梁師成已誅。至是竄蔡京於儋州。至潭而死。年八十。蔡攸竄萬安軍。尋有詔。即所在斬之。童貫亦遠竄。追斬於南雄。李邦彥罷。張邦昌吳敏竝相。邦昌罷。徐處仁相。處仁敏罷。唐恪相。恪罷。何㮚相。

○京師圍を受けし時、梁師成已に誅せらる。是に至りて蔡京を儋州に竄す。潭に至りて死す。年八十。蔡攸、萬安軍に竄せらる。尋ぎて詔あり、所在に即きて之を斬らしむ。童貫亦た遠竄せらる。追ひて南雄に斬る○李邦彥罷めらる。張邦昌・吳敏、竝に相たり。邦昌罷められ、徐處仁相たり。處仁・敏、罷められ、唐恪相たり。恪罷められ、何㮚相たり。

一 其在る所に就きて 二 栗の古字

太子與二康王一同射。連發三矢。皆中レ筈。金人謂。是將家子。非二親王一。遣レ歸。更請二肅王一爲レ質。种師道等諸路勤王兵至。師道奏。京城周回八十里。城高數十丈。粟支二數年一。宜下與二城內一劄レ寨拒守。俟レ困擊上レ之。綱亦奏。金以二孤軍一深入。如二虎投レ檻。不レ可三與角二一旦之力一。縱歸擊レ之。必勝之計。上然レ之。而李邦彥。吳敏等專主レ和。議論不レ一。致下虜有中待二汝議論定時一。我已渡レ河之譏上。

未レ幾統制官姚平仲。宵攻二金營一。不レ克。上大驚懼。廢二行營一。罷二李綱一。以謝二金人一。大學生陳東及都人數萬。伏レ闕乞二復用レ綱。得レ旨復二右丞一。充二守禦使一。衆乃散。金使復來。乃以下割二三鎭一詔書上。遣レ使持往。時括二在京

未だ幾くならず、統制官姚平仲、宵に金の營を攻む。克たず。上、大に驚懼し、行營を廢し、李綱を罷めて、以て金人に謝す。大學生陳東及び都人數萬、闕に伏して、復た綱を用ひんことを乞ふ。(二)旨を得て右丞に復し、守禦使に充つ。衆乃ち散ず。金の使復た來る。乃ち三鎭を割くの詔書を以て、使を遣して持ち往かしむ。時に京に在る金を括して、僅かに二十餘萬兩、銀四百餘萬兩を得たり。藏蓄已に空し。金人(二)、京城を圍むこと、凡そ三十三日、地を割くの詔を得、金幣の數の足るを俟たずして退く。种師道、河に臨みて之を要擊せんと請ふ。綱も亦た以爲らく、彼の兵六萬にして、我が勤王の師は二十餘萬なり。其半ば渡るを縱して之を擊たば、必ず勝たんと。邦彥等從はず。惟三鎭に詔して、仍

皆主和。惟綱欲戰。上是邦彥之計。遣鄭望之出使。未至而遇王汭。與俱入見。又遣李悅出使。悅又與金使偕來。金人需犒軍金五百萬兩。銀五千萬兩。牛馬萬頭。表段百萬匹。割中山河閒太原三鎭地二十餘郡。且欲宰相親王爲質。遣張邦昌副康王如其營。金國

兩、銀五千萬兩、牛馬萬頭、表段百萬匹と、中山・河閒・太原、三鎭の地二十餘郡を割かんことを需め、且つ宰相・親王を質と爲さんと欲す。張邦昌をして、康王に副として其營に如かしむ。金國の太子、康王と同じく射る。連發三矢皆管に中る。金人謂ふ、是れ將家の子にして、親王に非ずと。歸らしめ、更めて肅王を請ひて質と爲す。种師道等、諸路の勤王の兵至る。師道奏すらく、京城は周回八十里、城の高さ數十丈、粟數年を支ふ。宜しく城内に寨を劄して拒ぎ守り、困むを俟ちて之を擊つべしと。綱も亦た奏す、金、孤軍を以て深く入る。虎の檻に投ずるが如し。與に一旦の力を角ぶ可らず。縱ち歸らしめて之を擊たば、必勝の計ならんと。上、之れを然りとす。而るに李邦彥、吳敏等は、專ら和を主とし、議論一ならず。虜をして、汝が議論定まるの時を待たば、我已に河を渡らんの譏あらしむるを致せり。

(一) 綵帛の表衣と爲すべきもの、帛　(二) 後の矢が前の矢の矢筈にあたると也　(三) とりでを設く

騷動。結ニ怨於東南一者也。靖康元年。首竄ニ黼勔彥一。尋皆殺之。

有下狐升ニ御榻一而坐者上。詔毀ニ狐王廟一。上皇奔ニ應天府一。以ニ李綱一爲ニ行營使一。定ニ城守策一。除ニ元祐黨籍一。追ニ贈范仲淹。司馬光等官一。白時中罷。李邦彥。張邦昌爲レ相。

○狐の御榻(一)に升りて坐する者有り。詔して狐王廟(二)を毀たしむ○上皇應天府に奔る○李綱を以て行營使と爲し、城守の策を定めしむ○元祐の黨籍(三)を除き、范中淹・司馬光等に官を追贈す○白時中罷められ、李邦彥・張邦昌、相と爲る。

(一) 天子の寢臺 (二) 狐を祀りたる廟 (三) 黨人の籍

春正月。斡離不抵ニ京師一。先レ是。朝廷遣ニ李鄴一求レ和。斡離不携ニ鄴一以攻ニ京城一。不レ克。乃遣ニ王汭一與ニ鄴一偕來。邦彥等

○春正月、斡離不京師に抵る。是より先、朝廷李鄴を遣して和を求む。斡離不、鄴を携へて以て京城を攻む。克たず。乃ち王汭を遣し、鄴と偕に來らしむ。邦彥等、皆和を主とす。惟綱のみ戰はんと欲す。上邦彥の計を是とし、鄭望之を遣して出でゝ使せしむ。未だ至らずして王汭に遇ひ、與に倶に入り見ゆ。又李梲を遣して出でゝ使せしむ。梲、又、金の使と偕に來る。金人、軍を犒ふ金五百萬

肯降。時王黼先一年已罷。由白時中。李邦彥爲レ相。皆鄙夫也。金兵來。時中但建二出奔之策一而已。上內禪。在位二十六年。改元者六。曰建中靖國。曰崇寧。大觀。政和。重和。宣和。太子立。是爲二欽宗皇帝一。

欽宗皇帝。名桓。在二東宮一無二失德一。蔡京童貫輩咸憚レ之。欲二動搖一不可。至レ是即レ位。大學生陳東等。伏レ闕上書。乞レ誅二蔡京。童貫。王黼。梁師成。李彥朱勔六賊一以謝中天下上。彥以下根二括民田一。破中蕩百姓上。結二怨於河北京東西三路一者也。勔以二花石綱一所在

欽宗皇帝

欽宗皇帝、名は桓。東宮に在りて失德無し。蔡京・童貫の輩、咸な之を憚る。動かし搖かさんと欲すれども不可なり。是に至りて位に即く。大學生陳東等、闕に伏して上書し、蔡京・童貫・王黼・梁師成・李彥・朱勔の六賊を誅して以て天下に謝せんことを乞ふ。彥は、民田を根括し㈠、百姓を破蕩せし㈡を以て、怨を河北と京の東・西との三路に結べる者也。勔は、花石綱㈢を以て所在騷動し、怨を東南に結べる者也。靖康元年、首として、黼・勔・彥を竄し、尋ぎて皆之を殺す。

㈠田を根本よりしらべ、地券面より餘分なるものは之を沒收す　㈡破壞し盡す　㈢七五四頁に出づ

童貫自二太原一逃歸。粘罕圍二太原一。太原帥張孝純歎曰。平時童太師作二多少威重一。乃畏怯如レ此。身爲二大臣一。不レ能レ死レ難。何面目見二天下士一。孝純以二冀景一守レ關。知朔寧府孫翊來救。兵不レ滿二二千一。與二金人一戰二于城下一。張孝純曰。賊已在レ近。不二敢開レ門。觀察可二盡レ忠報レ國。翊曰但恨二兵少一耳。乃復引戰。金人大沮。再益レ兵。力不レ能レ敵。翊死焉。無二一騎

何の面目ありて天下の士に見えんと。孝純、冀景を以て關を守らしむ。(一)知朔寧府孫翊、來り救ふ。兵二千に滿たず。金人と城下に戰ふ。張孝純曰く、賊已に近きに在り。敢て門を開かず。觀察、忠を盡し國に報ず可し。翊曰く、但だ兵少きを恨むのみと。乃ち復た引きて(二)戰ふ。金人大に沮む。再び兵を益す。力敵すること能はず。翊、死す。一騎の肯て降るもの無し。時に、王黼、先つこと一年、已に罷められて、白時中・李邦彥、竝に相たり。皆鄙夫也。(三)金兵の來るや、時中但だ出奔の策を建るのみ。上、內禪す。(四)位に在ること二十六年。改元する者六、曰く建中靖國、曰く崇寧・大觀・政和・重和・宣和。太子立つ。是を欽宗皇帝と爲す。

(一) 朔寧府の知事の孫翊　(二) 兵を引きて　(三) 心のいやしき男　(四) 位を太子にゆづる

金已遣レ人招レ穀。穀曰、契丹凡八路。今特平州存耳。敢有二異志一。既而乃以二平州一南附。宋遂納レ之。趙良嗣力爭。以爲必招二金兵一。金人諜知。即襲二平州一陷レ之。得二宋詔札一。自レ是歸レ曲累レ檄取レ穀。不レ得レ已。命二王安中一縊レ之。而函二送其首一。未レ幾金太子斡離不。已由二平州路一將レ入レ燕矣。宋方且遣レ人。密誘二天祚一來降。以二童貫一宣二撫兩河燕山路一。將レ迎二天祚一。金人方退。天祚入二陰夾山一。不レ可レ得。至レ是領レ衆南出。遂爲二金人一所レ敗。就レ禽。契丹自二阿保機一至二天祚一。九世而亡。時宣和七年。乙巳歲也。

契丹、阿保機より天祚に至るまで、九世にして亡ぶ。時に宣和七年、乙巳の歲也。

㊀えびすと中國　㊁南のかた中國に附きしたがふ　㊂間者を入れて　㊃宋に曲ありとして責む　㊄檄文を遞送す　㊅はこに入れて送る

是冬。金斡離不粘罕。分レ道而南。斡離不陷二燕山一。郭藥師降レ之。金兵長驅而進。郭藥師爲前驅。

是冬、金の斡離不・粘罕、道を分ちて南す。斡離不、燕山を陷る。郭藥師之に降る。金兵長驅して進む。郭藥師爲に前驅す。童貫、太原より逃れ歸る。粘罕、太原を圍む。太原の帥張孝純、歎じて曰く、平時、童太師、多少の威重を作す。乃ち畏れ怯るゝこと此の如し。身、大臣と爲りて、難に死すること能はず、

古北關。景州之北。乃松亭關。平州之東。乃楡關。楡關之東。乃金人來路。凡此數關天限二蕃漢一。得レ之則燕境可レ保。然關内之地。平灤營三州。自下後唐爲二契丹阿保機一所上陷。以二營灤一隷レ平。爲二平州路。得レ燕而不レ得二平州一。則關内之地。蕃漢雜處。而燕爲レ難レ保矣。遼張穀守二平州一。

し。然れども、關内の地、平・灤・營の三州は、後唐、契丹の阿保機の爲に陷れられしより、營・灤を以て平に隷し、平州路と爲す。燕を得て平州を得ずんば、則ち關内の地、蕃漢雜處(一)して、燕、保ち難しと爲す。遼の張穀、平州を守る。金、已に人を遣して穀を招く。穀曰く、契丹凡そ八路あり。今特だ平州存するのみ。敢て異志有らんやと。既にして乃ち平州を以て南附(二)す、宋遽に之を納る。趙良嗣力め爭ふ。以爲らく、必ず金の兵を招かんと。金人(三)、諜して知り、卽ち平州を襲ひて之を陷る。宋の詔札を得たり。是れより曲(四)を歸し、檄(五)を累ねて、穀を取らんとす。已むことを得ず、王安中に命じて之を縊らしめて、其首を函送(六)す。未だ幾くならず、金の太子斡離不、已に平州路より將に燕に入らんとす。宋方に且つ人を遣し、密に天祚を誘ひて來り降らしめ、童貫を以て兩河燕山路を宣撫せしめ、將に天祚を迎へんとす。金人方に退く。天祚、陰夾山に入らんとす。得べからず。是に至りて、衆を領して南に出で、遂に金人の爲に敗られて、禽に就く。

兩京河浙路災異屢見。都城有賣青菓男子孕而誕子。又有豐樂樓酒保朱氏。其妻年四十。忽生髭髯長六七寸。詔度爲女道士。

河北山東盗起。連歳凶荒。民食楡皮野菜不給。至相食。饑民竝起爲盗。有張仙者衆十萬。張迪衆五萬。高托山衆三十萬。自餘二三萬者。不可勝計。金主稱帝。六年而殂。號太祖大聖武元皇帝。弟吳乞買立。改名晟。

○河北、山東、盗起る。連歳凶荒にして、民楡皮を食ひ、野菜給せず、相食むに至る。饑民竝に起りて盗を爲す。張仙といふ者有り、衆十萬、張迪の衆五萬、高托山の衆三十萬、自餘二三萬の者、勝げて計る可からず○金主、帝と稱す。六年にして殂す。太祖大聖武元皇帝と號す。弟吳乞買立つ。名を晟と改む。

(一)きさん　(二)にれの木の皮　(三)人々互に食ひ合ふ

燕山之地。易州西北。乃金坡關。昌平之西。乃居庸關。順州之北。乃

○燕山の地、易州の西北は乃ち金坡關、昌平の西は乃ち居庸關、順州の北は乃ち古北關、景州の北は乃ち松亭關、平州の東は乃ち楡關、楡關の東は乃ち金人の來路なり。凡そ此數關は、天、蕃と漢とを限れり。之を得ば、則ち燕の境保つ可

鬼使㆑催㆑納㆑土者。上亦微服觀㆑之後數日旨禁。京師河東陝西地震。宮中殿門搖動且有㆑聲。蘭州草木沒入。山下麥苗乃在㆓山上㆒。

り。

㈠俗に二郎神と稱する神也 ㈡城内殘らずの男女

金國無㆓城郭宮室㆒。用㆓契丹舊禮㆒。如㆓結綵山㆒作㆓倡樂㆒。鬪鷄擊鞠之戲。與㆓中國㆒同。但於㆓衆樂後㆒飾㆓舞女數人㆒。兩手持㆑鏡。類㆓電母㆒。其國茫然。皆芟舍以居。至㆑是方營㆓大屋數千間㆒。盡倣㆓中國所㆑爲。

○金國、城郭宮室無し。契丹の舊禮を用ひ、結綵山に如きて倡樂を作す。鬪鷄、擊鞠の戲、中國と同じ。但だ衆樂の後に於て、舞女數人を飾り、兩手に鏡を持たしめて、電母に類す。其國茫然たり。皆芟舍して以て居る。是に至りて、方に大屋數千間を營み、盡く中國の爲す所に倣ふ○兩京河浙の路、災異、疊見す。都城に青菓を賣る男子有り。孕みて子を誕む。又豐樂樓の酒保朱氏有り。其妻年四十、忽ち髭髯を生じ、長さ六七寸、宛として一男子なり。詔して、度して女道士となす。

㈠芝居や音樂 ㈡いなづま也、俗說に、電の光るは電母の鏡を持つなりといふ ㈢野原のひろびろとしたる狀 ㈣草にて屋を葺く ㈤つゞけざまにあらはる ㈥あだかも ㈦得度

道襲ㇾ燕。幹還救死鬪。藥師屢敗。僅以ㇾ身免。逃還。盧溝之師遂潰。貫攸懼二無ㇾ功獲一ㇾ罪。時金主在二奉聖州一。乃遣ㇾ介請二金主圖一ㇾ之。金主分二三道一進ㇾ兵。遂入二居庸關一。燕降二於金一。金使來言。燕京以二金兵一攻下。其地與ㇾ宋。租稅當二以輸一ㇾ金。宋使趙良嗣往議ㇾ之。許二歲幣一如二契丹一。舊數外更以二百萬一代二租稅一。而併求二營中之地一。金人僅以二燕京涿易檀順景薊六州一來歸。貫攸入ㇾ燕。燕之金帛子女。職官民戶。金人席卷而東。所ㇾ得空城而已。貫攸歸。以二王安中一知二燕山府一。詹度郭藥師同知。

山府に知たらしめ、詹度・郭藥師、同知たり。

㊀死物ぐるひとなりて戰ふ　㊁其地よりの租税は金の方へ送る　㊂地を宋に與へたる以上當然其地の租税をも與ふべきを議す　㊃其議に從はざりし故、歳々の幣物を許すこと嘗て契丹と約せしが如くし　㊄契丹と契約したる時の數　㊅片はしより掠め取る

有ㇾ星如ㇾ月。徐徐南行而落。光照二人物一與ㇾ月無ㇾ異。修二神保觀一。其神都人素畏ㇾ之。傾城男女負ㇾ土以獻。名曰二獻土一。又有下飾二作

○星有り、月の如し。徐徐として南に行きて落つ。光、人物を照し、月と異なること無し○神保觀を修す。其神、都人素より之を畏る。傾城の男女、土を負ひて以て獻じ、名づけて獻土と曰ふ。又鬼使を飾り作り、土を納るゝことを催す者有り。上亦た微服して之を觀る。後數日、旨ありて禁ず○京師・河東・陝西、地震ひ、宮中の殿門搖ぎ動き、且つ聲有り。蘭州の草木沒入し、山下の麥苗乃ち山上に在

主先已引避。或言。金前鋒將レ至。遼主震驚。亟奔二雲中一。入二夾山一。時。燕王淳守レ燕。蕭幹立レ淳爲レ主。宋童貫蔡攸帥レ師。東路至二白溝一。西路至二范村一。蕭幹迎戰甚力。宋師敗退。耶律淳死。宋師再擧。遼涿州將郭藥師領二常勝軍一來降。宋兵五十萬。進駐二盧溝河一。蕭幹拒レ之。藥師間

東路は白溝に至り、西路は范村に至る。蕭幹、迎へ戰ひて甚だ力む。宋の師敗れ退く。耶律淳死す。宋の師再擧す。遼の涿州の將郭藥師、常勝軍を領して來り降る。宋兵五十萬、進みて盧溝河に駐まる。蕭幹、之を拒ぐ。藥師、間道より燕を襲ふ。幹、還り救ひて死鬪す。藥師、屢〻敗れ、僅かに身を以て免れ、遁れ還る。盧溝の師遂に潰ゆ。貫、(一)攸、功無くして罪を獲んことを懼る。時に金主、奉聖州に在り。乃ち客を遣はして、金主に之を圖らんことを請む。金主、三道に分ちて兵を進め、遂に居庸關に入る。燕、金に降る。金使來り言ふ、燕京は金の兵を以て攻め下す。其地は宋に與へ(二)、租税は當に以て金に輸すべしと。宋の使趙良嗣、往きて之を議す。(三)(四)歲幣を許すこと契丹の如くし、(五)舊數の外、更に百萬を以て租税に代へ、而して併せて雲中の地を求む。金人、僅に燕京と涿・易・檀・順・景・薊の六州とを以て來歸す。貫・攸、燕に入る。燕の金帛、子女、職官、民戶は、金人(六)、席卷して東し、得る所は空城のみ。貫・攸、歸る。王安中を以て燕

軍校呼慶送二其使一。由二海道一歸レ國。是歲王黼爲レ相。力贊二攻レ遼之策一。及下呼慶復與二金使一來。時阿骨打在二上京一。遂遣二良嗣一往。約金國取二遼中京一。本朝取二燕京一。歲幣如二與レ遼之數一。良嗣曰。燕京一帶。則幷二西京一是也。金主亦許レ之。以二札付二良嗣一。期以下女眞兵自二平地松林一趨二古北一。南兵自二白溝一夾攻上。良嗣歸。馬政復與二子擴一持二國書一往。訂下彼此兵不上レ得レ過レ關。未レ幾金使復來。又以二國書一就付二其使一歸レ國。時淮南京西河北江南相繼盜起。山東宋江方戴二招安一。睦寇方臘適陷二浙郡一。中都爲震。童貫甫平二方臘一而北事作矣。

陥る。中都爲に震ふ。童貫、甫めて方臘を平らげて北事作る。

一 邊境の事を總理するの責に任ず 二 その者を召し連れて歸る 三 毎年の幣物 四 書札を良嗣に渡し條約を削絶す 五 北征事件

金人悉レ師度レ遼。趨二中京一攻二陷之一。中京者故奚國也。遂引レ兵至二松亭關一。以三與レ宋有二各不レ過レ關之約一止。引レ兵由二其西一而過。遼

金人、師を悉して遼を度り、中京に趨きて之を攻め陷る。中京は、故の奚國也。遂に兵を引きて松亭關に至る。宋と各〻關を過ぎざるの約有るを以て止まり、兵を引きて其西よりして過ぐ。遼主、先に已に引き避く。或ひと言ふ、金の前鋒將に至らんとすと。遼主震ひ驚き、亟かに雲中に奔り、夾山に入る。時に、燕王淳、燕を守る。蕭幹、淳を立てゝ主と爲す。宋の童貫、蔡攸、師を帥ゐて、

有二燕人馬植者一。陳二滅レ燕之策一。貫挾以歸。更二姓名趙良嗣一。復レ燕之議遂起。政和末。有二漢人泛レ海來一。具言二女眞攻レ遼事一。重和春。乃用二蔡京童貫議一。遣二馬政一。由二海道一至二阿骨打所レ居阿芝川淶流河一。與議二共攻レ遼一。阿骨打遂遣レ使來。宣和初至レ京。詔二京貫一。諭以二夾攻取レ燕之意一。差二

芝川、淶流河に至らしめ、與に共に遼を攻めんことを議す。阿骨打、遂に使を遣して來らしむ。宣和の初、京に至る。京・貫に詔して、諭すに、夾み攻めて燕を取るの意を以てし、軍校呼慶を差して、其使を送らしむ。海道より國に歸る。是歲、王黼、相と爲り、力めて遼を攻むるの策を贊す。呼慶、復た金使と來るに及ぶ。時に阿骨打、上京に在り。遂に良嗣を遣して往かしめ、約すらく、金國は遼の中京を取り、本朝は燕京を取らん。(三)歲幣は遼に與ふるの數の如くせんと。良嗣曰く、燕京一帶は、則ち西京を併せて是れ也と。金主も亦た之を許し、札(四)を以て良嗣に付す。期するに、女眞の兵は平地松林より古北に趨き、南兵は白溝より夾み攻むるを以てす。良嗣歸る。馬政、復た子擴と、國書を持して往き、彼此の兵、關を過ぐることを得ざるを訂(五)す。未だ幾くならず、金使復た來る。又、國書を以て、就きて其使に付し、國に歸らしむ。時に、淮南・京西・河北・江南、相繼ぎて盜起る。山東の宋江方に招安に就き、睦の寇方臘、連りに浙郡を

圖二契丹一。謂苟存二契丹一猶足レ爲二中國一捍レ邊。女眞狼虎不レ可レ交。宜二早爲一之備。上聞レ之不レ樂。上嘗微二行都市酒肆妓館一。正字曹輔上言。謫二管郴州一。

宜しく早く之が備を爲すべしと。上之を聞きて樂まず〇上、嘗て都市の酒肆、妓館に微行す。正字曹輔、上言す。郴州に編管せらる。

●其地に編籍管束せらるゝ義、罪を以て地方に流さるゝをいふ當時の語也

童貫自二崇寧間一。與二王韶之子一領レ兵復二湟州一。任二貫措二置邊事一。已而復二鄯州廓州一。貫遂建レ節爲二宣撫一。既得二志於西邊一。遂謂北邊亦可レ圖。政和初。乃自請奉レ使覘二遼國一。

〇童貫、崇寧の間より、王韶の子と兵を領して湟州を復し、貫に邊事を措置することに任ず。已にして、鄯州・廓州を復す。貫、遂に節を建てゝ宣撫と爲る。既に志を西邊に得たり、遂に謂ふ、北邊も亦た圖る可しと。政和の初、乃ち自ら請ひて、使を奉じて遼國を覘ふ。燕人馬植といふ者有り、燕を滅すの策を陳ず。貫、挾みて以て歸る。姓名を趙良嗣と更む。燕を復するの議遂に起る。政和の末、漢人の海に泛びて來る有り、具に女眞、遼を攻むるの事を言ふ。重和の春、乃ち蔡京、童貫の議を用ひ、馬政を遣し、海道より阿骨打が居る所の阿

女眞。女眞與ニ其隣東北五國一戰鬭。乃能獲ニ此禽一以獻。不レ勝ニ其擾一。阿骨打遂叛。攻ニ陷混同江東之寧江州。遼遣レ將討レ之而敗。又起ニ中京上京長春西遼四路兵。並進。獨涞流河一路。深入大敗。三路皆退。女眞悉虜ニ遼東界熟女眞ニ鐵騎益衆。天祚親征復大敗。女眞乘レ勝。并ニ渤海遼陽五十四州。又度ニ遼西一降ニ五州。阿骨打遂建レ號改ニ名旻。國號ニ大金。明年破ニ遼上京。

四路の兵を起して、並に進む。獨り涞流河の一路、深く入りて大敗す。三路皆退く。女眞悉く遼の東界の熟(三)女眞を虜にす。鐵騎、益々衆し。天祚、親征して、復た大に敗る。女眞勝に乘じて、渤海・遼陽五十四州を幷せ、又遼西を度りて五州を降す。阿骨打遂に號を建て丶名を旻と改め、國を大金と號す。明年遼の上京を破る。

(一)海東青といふ名高き鷹　(二)わづらはしさ　(三)遼東に服屬せる女眞の稱

高麗來求レ醫。上遣ニ二醫一往。還奏。實非レ求レ醫。乃彼知下中國將丙與ニ女眞一

○高麗來りて醫を求む。上、二醫を遣して往かしむ。還り奏す、實は醫を求むるに非ず。乃ち彼、中國の將に女眞と契丹を圖らんとするを知り、謂ふ、苟くも契丹を存せば、猶ほ中國の爲に邊を捍ぐに足らん。女眞は狼虎なり。交る可からず。

雲現。飛鶴獻空。竹生紫花。芝草產于艮嶽。及諸州進理木。雙花芙渠芍藥牡丹。至下指臘月雷。三月雪皆稱瑞表賀上。內侍童貫梁師成用事。師成專務應奉。以蠱上心。勢焰熏灼。竊威福於中。童貫專務開邊。生事於外。皆與蔡京父子相表裏。

三月の雪を指して、皆瑞と稱し、表賀するに至る○内侍童貫・梁師成、事を用ふ。師成、專ら應奉(九)を務めて、以て上の心を蠱はす。勢焰熏灼し(一〇)、威福を中に(一一)竊む。童貫、專ら邊を開く(一二)を務め、事を外に生ず。皆、蔡京父子と相表裏す(一三)。

(一) 靈異　(二) 進され木獻る　(三) 偽り獻す　(四) めでたき雲　(五) 靈芝　(六) 二本の木の、根が別にて枝の一緒になれるもの　(七) 一莖に二花ある蓮　(八) 十二月　(九) 上の意を迎ふること　(一〇) 勢の極めて盛んなるをいふ　(一一) 宮中　(一二) 邊境の開拓　(一三) 内外氣脈を通じて聯絡を成す

女眞阿骨打。以重和元年戊戌稱帝。初遼主天祚刑賞僭濫。荒於禽色。歲求名鷹海東青於

○女眞の阿骨打、重和元年戊戌を以て帝と稱す。初め遼主天祚、刑賞僭濫、禽色に荒み、歲ごとに名鷹海東青(一二)を女眞に索む。女眞、其隣東北の五國と戰鬪し、乃ち能く此禽を獲て以て獻ず。其擾に勝へず(一三)。阿骨打遂に叛き、混同江東の寧江州を攻め陷る。遼、將を遣し之を討ちて敗る。又中京、上京、長春、西遼、

大用。至二父子權勢自相軋一。上寵レ攸而尊二京子弟親戚一。滿朝皆其父子之黨。京倡二邪説一。以爲當二豐亨豫大之運一。專以二奢侈一勸レ上。窮二極土木之功一。廣二京城一。修二大内一。盛築二内苑一。鑄二九鼎一。鼎成。以二九州水土一納二鼎中一。及レ奉二安北方寶鼎一。忽水漏二于外一。作二大晟樂一。作二玉清神霄宮一。崇二信道士林靈素一。策レ上爲二教主道君皇帝一。作二延福宮一。作二保和殿一。作二萬歳山一。以二朱勔一領二花石綱一。奇花異木怪石珍禽奇獸無二遠不一レ致。民間一花一木之妙輒令二上供一。有下一花費二數千緡一。一石費二數萬緡一者上。二十年間。山林高深。麋鹿成レ羣。改二名艮嶽一。又爲二村居野店酒肆青帘於其間一。毎歳冬至後。即放レ燈縱二令飲博一。謂三之先賞二元宵一。

即ち燈を放ち、縦に飲博せしむ。(八)之を、先づ元宵を賞すと謂ふ。(九)

(一)意見を異にす　(二)おとしりぞく　(三)權勢と上の寵遇　(四)易に、豐は亨(トホ)る、王之れに假(イタ)るとあり、又、豫の時と義とは大なるかなとあり。今や天下富むを以て、奢侈にして欲する所を逞しくするも妨げずとの意と曲解せる也　(五)花卉石材を舟載して淮水・汴河を運漕すると　(六)大鹿や小鹿　(七)酒家の軒に掲ぐるしるしの青旗　(八)飲酒博奕　(九)正月十五日の夜

時星芒屢見。地震河決。怪異迭出。率以爲レ常。京等誣奏。甘露降。祥

○時に、星芒屢〻見はれ、(一)地震ひ河決す。(二)怪異迭ひに出で、率ね以て常と爲す。京等誣奏す、(三)甘露降り、祥(四)雲現はれ、飛鶴空を蔽ひ、竹紫の花を生じ、(五)芝草、艮嶽に產し、及び諸州に(六)連理の木、(七)雙花の芙渠、芍藥、牡丹有りと。(八)臘月の雷、

重和、爲大師。皆暫罷、輒復入。雖罷之日、實執國命。其間趙挺之、張商英、作相。皆與京異。然在位各不過數月。或一年而罷。如何執中。鄭居中、劉正夫、余深、雖在相位、或久或淺。居中亦與京異。常相排。正夫亦小異。然於京之權寵無損也。京子攸之婦、出入宮禁。攸遂

亦た京と異にして、常に相排し、正夫も亦た小異なり。然れども京の權寵に於て損ずること無し。京の子攸の婦、宮禁に出入す。攸、遂に大に用ひられ、父子權勢自ら相軋るに至る。上、攸を寵して、京の子弟の權威を奪ふ。滿朝皆其父子の黨なり。京、邪說を倡ふ。以爲らく、豐亨豫大の運に當ると。專ら奢侈を以て上に勸め、土木の功を窮極し、京城を廣め、大內を修め、盛に內苑を築き、九鼎を鑄る。鼎成りて、九州の水土を以て鼎中に納る。北方の寶鼎を奉安するに及びて、忽ち水外に漏る。大晟樂を作る。玉清神霄宮を作り、道士林靈素を崇め信じ、上を策して敎主道君皇帝と爲し、延福宮を作り、保和殿を作り、萬歲山を作る。朱勔を以て花石綱を領せしめ、奇花異木怪石珍禽奇獸、遠しとして致さゞること無し。民間の一花一木の妙も、輒ち上供せしむ。一花に數千緡を費し、一石に數萬緡を費す者有り。二十年間、山林高く深くして、巖壑を成す。艮嶽と改名す。又、村居、野店、酒肆(七)、青帘を其間に爲り、每歲冬至の後、

勿吉。唐所レ謂黑水靺鞨者其地也。有二七十二部落一。本不二相統一。自二太中祥符一以後。絕不下與二中國一通上。有二生女眞者一。其類猶繁。其酋曰二巖版一。有レ孫。曰二楊哥太師一。遂雄二諸部一。或曰。楊割之先。新羅人完顏氏。女眞妻レ之以レ女。生二子二人一。長曰二胡來一。傳二三人一而至二楊割一。阿骨打其子也。爲レ人沈毅有二大志一。

に至る。阿骨打は其子也と。人となり(三)沈毅にして、大志有り。

(一)酋長　(三)沈著にして剛毅

建中靖國。一年而改二崇寧一。韓忠彥罷。再追二奪司馬光等官一。籍二元祐黨人一。曾布罷。蔡京爲レ相。蔡卞執レ政。再貶二竄元祐人一。立二姦黨碑一。京自二崇寧一爲二僕射一。歷二大觀。政和。

○建中靖國、一年にして崇寧と改む。韓忠彥罷めらる。再び司馬光等の官を追奪し、元祐の黨人を籍す○曾布罷めらる。蔡京、相と爲り、蔡卞、政を執る。再び元祐の人を貶竄し、姦黨の碑を立つ。京、崇寧より僕射と爲り、大觀•政和•重和を歷て、大師と爲る。嘗て暫く罷められ、輒ち復た入る。罷められし日と雖も、實は國命を執れり。其間、趙挺之•張商英、相と作り、嘗て京と異なり。然れども位に在ること各〻數月に過ぎず、或は一年にして罷めらる。何執中•鄭居中•劉正夫•余深の如きは、相位に在りと雖も、或は久しく或は淺く、居中も

中靖國初、舊曄變二章惇蔡卞所一レ爲。既而布迎二上旨一。正人任伯雨・江公望・陳瓘等不レ容二於朝一。小人雖二各有一レ黨、更迭出入、意向則同、祖二安石一而已。

られず、小人各〻黨有りと雖も、更〻迭ひに出入す。意向は則ち同じく安石を祖とするのみ。

（一）先人の志をつぎ、其政を襲復す　（二）四字の年號也

遼主弘基殂。號二道宗一。孫延禧立。號二天祚一。女眞阿骨打立。女眞本名朱里眞。肅愼之遺種、而渤海之別族也。或曰、本姓拏。辰韓之後。三國志所レ謂挹婁。元魏所レ謂

○遼主弘基殂す。道宗と號す。孫延禧立つ。天祚と號す○女眞の阿骨打立つ。女眞、本の名は朱里眞といふ、肅愼の遺種にして、渤海の別族也。或は曰く、本姓は拏、辰韓の後、三國志に所謂挹婁、元魏に所謂勿吉、唐に所謂黑水靺鞨といふ者、其地也と。七十二の部落あり、本相統べず。太中祥符より以後、絕えて中國と通ぜず。生女眞といふ者有り、其類猶繁し。（二）其酋を巖版と曰ふ。孫有り、楊哥太師と曰ふ。遂に諸部に雄たり。或は曰く、楊割の先は、新羅の人完顏氏なり、女眞之に妻はすに女を以てす。子二人を生む。長を胡來と曰ふ。三人に傳へて楊割

貶二蔡京蔡卞一。卞安石婿也。先レ是臺諫龔夬陳瓘任伯雨等攻レ卞。罷二其執政一。京爲二翰林承旨一。瓘見二其視レ日不一レ瞬。謂此人必大貴。然以二其區區精神一敢抗二太陽一。他日

○蔡京・蔡卞を貶す。卞は、安石の婿也。是より先、臺諫龔夬・陳瓘・任伯雨等、卞を攻めて、其執政を罷めしむ。京、翰林承旨と爲る。瓘、其の日を視て瞬せざるを見、謂ふ、此人必ず大に貴からん。然れども其區區たる精神を以て、敢て太陽に抗す。他日志を得ば、必ず天下の患を爲さんと。瓘、人に語りて曰く、人を射んとせば先ず馬を射よ。賊を擒にせんとせば先づ王を擒にせよと。連に疏して之を攻むること甚だ力めしかば、京罷めらる。尋ぎて又御史陳次升等の言を以て、卞と倶に貶せられぬ。

得レ志。必爲二天下患一。瓘語レ人曰。射レ人先射レ馬。擒レ賊先擒レ王。連疏攻レ之甚力。京罷。尋又以二御史陳次升等言一。與レ卞俱貶。

上意專欲レ紹二述熙豐之政一。而曾布微有下兩二存熙豐元祐一之意上。故建

○上の意、專ら熙豐の政を紹述せんと欲す。而るに曾布は微かに熙豐・元祐兩ながら存するの意有り。故に建中靖國の初、嘗て略〻章惇・蔡卞の爲しゝ所を變ず。既にして、布、上の旨を迎へしかば、正人任伯雨、江公望・陳瓘等、朝に容れ

端王。哲宗崩。欽聖憲肅皇太后向氏。召二宰執一議レ立。聞后欲レ立二端王一。章惇曰。端王浪子耳。曾布身長。望見端王已在二簾下一。叱曰。章惇聽二太后處分一。王出レ簾。惇惶恐失レ措。王即レ位。請二太后一權同處二分軍國事一。范純仁等二十餘人並收叙。龔夬陳次升鄒浩爲二臺諫一。韓忠彥爲二右僕射一。忠彥琦子也。文彥博。司馬光等。三十三人。追二復官一。太后垂レ簾半年而還レ政。章惇罷。尋竄。韓忠彥。曾布左右僕射。貶二邢恕一。

欲す。章惇曰く、端王は浪子のみと。曾布、身長し。望み見れば、端王已に簾下に在り。叱して曰く、章惇、太后の處分を聽けと。王、簾より出づ。惇、惶れ恐れて措を失す。王、位に即く。太后に請ひて、權に同じく軍國の事を處分せしむ。范純仁等二十餘人、並に收叙せらる。龔夬・陳次升・鄒浩、臺諫たり○韓忠彥、右僕射と爲る。忠彥は琦の子也○文彥博・司馬光等三十三人、官を追復せらる。太后、簾を垂るゝこと半年にして政を還す○章惇罷められ、尋ぎて竄せらる○韓忠彥・曾布、左右僕射と爲る○邢恕を貶す。

(一) 宰相執政　(二) 當時の俗語にて、かるはずみにて識見なき者の意　(三) 身のたけ高し　(四) まごついて爲す所を知らず　(五) 前文に追貶の事見ゆ、後に至りてまたもとの如く其官を復したる也　(六) 簾中に在りて政を聽くと

冊禮一。別選中名族上。詔浩除レ名勒停。羈ニ管新州一。浩道過ニ其友田晝一。臨レ別出レ涕。晝正レ色曰。使三君隱默官ニ京師一。遇ニ寒疾一不レ汗。五日死矣。豈獨嶺海之外能死レ人哉。願無ニ自沮一。士所レ當レ爲者未レ止レ此也。元符三年上崩。在位十五年。改元者三。壽三十五。皇弟立。是爲ニ徽宗皇帝一。

晝に過り、別に臨みて涕を出す。晝、色を正して曰く、君をして隱默して京師に官たらしむとも、寒疾に遇ひて汗せずんば、五日にして死せむ。豈獨り嶺海の外のみ、能く人を死せしめんや。願はくは、自ら沮むこと無かれ。士の當に爲すべき所の者、未だ此に止まらざる也と〇元符三年、上崩ず。在位十五年、改元する者三。壽三十五。皇弟立つ。是を徽宗皇帝と爲す。

㊀皇后册立の禮　㊁停職　㊂留めて其地を管せしむ　㊃傷寒　㊄此後も忠諫すべき場合あらん

徽宗皇帝。名佶。神宗第十一子也。初封ニ

徽宗皇帝

徽宗皇帝、名は佶、神宗の第十一子也。初め端王に封ぜらる。哲宗崩ず。欽聖憲肅皇太后向氏、宰執を召して、嗣を立つることを議す。后、端王を立てんと

以漸並復煕豐之法。治元祐人之罪。無遺司馬光。呂公著。王巖叟。趙瞻。韓維。孫固。范百祿。胡宗愈。司馬康等。已死者。皆追貶奪贈。呂大防。劉摯。蘇轍。梁燾。范純仁。劉奉世。韓維。王覿。韓川。孫升。呂陶。范純禮。趙君錫。馬默。顧臨。范純粹。孔武仲。王欽臣。呂希哲。呂希純。呂希績。姚勔。吳安詩。王份。張耒。晁補之。黄庭堅。賈易。程頤。秦觀。朱光庭。孫覺。趙卨。李之純。杜純。李周。蘇軾。范祖禹。劉安世。鄭俠等。皆連貶竄。文彦博久致仕降爲太子太保。褫節鉞。尊堯。皇后孟氏。太皇太后所選聘也。在中宮五年而廢。章惇蔡卞。請追廢太皇太后。賴太后向氏。太妃朱氏泣諫。上悟。惇卞堅請施行。上怒曰。卿等不欲朕入英宗廟庭乎。抵其奏於地。

孟氏は太皇太后の選び聘せし所也。中宮に在ること五年にして廢せらる。章惇、蔡卞、太皇太后を追廢せんと請ふ。太后向氏、太妃朱氏の泣き諫むるに賴りて、上悟る。惇・卞堅く施行せんことを請ふ。上怒りて曰く、卿等、朕が英宗の廟庭に入ることを欲せざるかと。其奏を地に抵つ。

㊀事を行ふは元祐の今日に於てすと雖も　㊁同罪せんと　㊂一方に偏するとは　㊃左方の罪を物を　㊄節度使を罷める

立賢妃劉氏爲后。右正言鄒浩。乞追停

○賢妃劉氏を立て、后と爲す。右正言鄒浩、冊禮を追停し、別に名族を選ばんことを乞ふ。詔して、浩は名を除きて勒停し、新州に羈管せしむ。浩、道に其友田

大防罷。惇爲二右僕射一。純仁罷。惇之來也。道遇二陳瓘一。惇素聞二其名一。獨請二共載一。訪以二世務一。瓘曰。請以二所レ乘舟一爲レ喩。偏重其可レ行乎。或左或右。其偏一也。惇默然。良久曰。司馬光姦邪。所レ當二先辨一。瓘曰。相公誤矣。此猶下欲レ平二舟勢一而移レ左以置中右也上。果然將レ失二天下之望一。惇既至。

世務を以てす。瓘曰く、請ふ、乘る所の舟を以て喩へと爲さん。偏重なれば其れ行る可けんや。或は左し、或は右せん。(三)其偏は一也と。惇默然たり。良久しくして曰く、司馬光の姦邪、當に先づ辨ずべき所なり。瓘曰く、相公誤れり。此れ猶ほ舟の勢ひを平かにせんと欲して、(四)左を移して以て右に置くがごとき也。果して然らば、將に天下の望を失はんとすと。惇既に至るや、漸を以て盡く熙豐の法を復し、元祐の人の罪を治すること、虚日無し、司馬光、呂公著、王巖叟・趙瞻・韓維・孫固・范百祿・胡宗愈・司馬康等、已に死せし者は、皆追貶(五)して贈を奪ひ、呂大防・劉摯・蘇轍・梁燾・范純仁・劉奉世・韓維・王覿・韓川・孫升・呂陶・范純禮・趙君錫・馬默・顧臨・范純粹・孔武仲・王欽臣・呂希哲・呂希純・呂希績・姚勔・吳安詩・王汾・張耒・鼂補之・黃庭堅・賈易・程頤・秦觀・朱光庭・孫覺・趙卨・李之純・杜純・李周・蘇軾・范祖禹・劉安世・鄭俠等、皆連りに貶竄せらる。文彥博、久しく致仕す。降りて、太子太保と爲り、(五)節鉞を罷められ、尋きで薨ず。皇后

飯時。思ニ量老身一也、后聽ㇾ政九年。天下稱爲ニ女中堯舜一。不ㇾ比ニ外家一。以下擁ニ佑嗣君一之故上。二子一女皆疎。以ニ至公一御ニ天下一。當世賢者畢集ニ于朝一。君子之盛。後世以ニ慶曆元祐一並稱焉。本ニ神宗厭ㇾ兵之後一。與ㇾ民休息。西蕃鬼章爲ニ邊將一擒獻。釋不ㇾ誅以招ニ其部屬一。夏國自ニ其主秉常卒。乾順立一。政亂主幼。屢寇ㇾ邊。失ニ藩臣禮一。皆强臣爲ㇾ之。以ニ其君民非一ㇾ有ㇾ罪。不ㇾ忍ニ興ㇾ師討伐一。詔ニ諸路一。嚴ㇾ兵自備而已。

立ちてより、政亂れ、主幼なり。屢〻邊に寇して、藩臣の禮を失ふ。皆、强臣之を爲し、其君民、罪有るに非ざるを以て、師を興して討伐するに忍びず、諸路に詔し、兵を嚴にして自ら備へしむるのみ。

● 天子を輔りてまもるのである ● 一番に當時の俗語にて、一遍即ち一交代の義、すつかりかはつた人の意也 ● 宮中より出し賜はる秋の社日の飯 ● 因りて社飯を賜ひて曰く ● 自分の生家に私せず

上始親ㇾ政。侍郎楊畏。首叛ニ呂大防一。自謂迹雖ニ元祐一。心在ニ熙豐一。入對乞ㇾ召ニ章惇一。明年改ニ元紹聖一。

○上、始めて政を親らす。侍郎楊畏、首として呂大防に叛く。自ら謂へらく、迹は元祐と雖も、心は熙豐に在りと。入對して章惇を召さんことを乞ふ。明年、紹聖と改元す。大防罷められ、惇、右僕射と爲る。純仁罷めらる。惇の來るや、道にして陳瓘に遇ふ。惇素より其名を聞く。獨り共に載らんことを請ひ、訪ふに

免耳。爭レ之不レ得。臺諫交章攻二純仁黨一レ確。純仁遂罷。劉摯爲二右僕射一。大防摯欲下引二用元豐黨人一。以平中舊怨上。謂二之調停一。蘇轍等力陳二其不可一。摯罷。蘇頌爲二右僕射一。頌罷。純仁又代レ之。

元祐八年九月。宣仁聖烈太皇太后崩。臨レ崩對レ上。謂二大防。純仁等一曰。老身歿後。必多有下調二戲官家一者上。宜レ勿レ聽レ之。公等亦宜三早退令二官家別用二一番人一。呼二左右一問。曾賜二出社飯一否。因曰。公等各去喫二一匙社飯一。明年社

○元祐八年九月、宣仁聖烈太皇太后、崩ず。崩ずるに臨み、上に對し、大防・純仁等に謂ひて曰く、老身、歿せし後、必ず多く官家(一)を調戲する者有らん。宜しく之を聽く勿かるべし。公等亦た宜しく早く退き、官家をして、別に一番(二)の人を用ひしむべしと。左右を呼びて問ふ、曾て社飯(三)を賜ひ出しゝや否やと。因りて曰く、公等各〻去りて、一匙の社飯を喫し、明年社飯の時、老身を思量せよと。(四)后、政を聽くこと九年、天下稱して女中の堯舜と爲す。(五)外家に比せず、嗣君を擁し佑くるの故を以て、二子一女皆疎んぜらる。至公を以て、天下を御し、當世の賢者畢く朝に集まる。君子の盛んなること、後世、慶曆・元祐を以て竝べ稱す。神宗、兵を厭へるの後を承けて、民と休息す。西蕃の鬼章、邊將の爲に擒へ、獻ぜらる。釋して誅せず、以て其部屬を招く。夏國、其主秉常卒し、乾順

陰伺間隙。諸賢不悟。方自分黨相攻。有洛黨川黨朔黨。洛黨以頤爲領袖。光庭。易爲羽翼。川黨以軾爲領袖。陶等爲羽翼。朔黨以劉摯。王巖叟。劉安世爲領袖。而羽翼尤衆。未幾頤罷。不復召。久之軾亦罷。後再入三入。皆不久而出。呂公著爲司空同平章軍國事。呂大防。范純仁左右僕射。純仁仲淹子也。公著尋薨。

知漢陽軍吳處厚。言蔡確謫安州日。作夏中登車蓋亭詩。譏訕朝廷。論確不已。安置新州。呂大防。劉摯。范純仁。王存等。以爲不宜令過嶺置死地。純仁曰。此路荊棘八十年矣。奈何開之。吾曹政恐不免。

○知漢陽軍吳處厚言ふ、蔡確安州に謫せられし日、夏中車蓋亭に登るの詩を作りて、朝廷を譏り訕りぬと。確を論じて已まず。新州に安置す。呂大防・劉摯・范純仁・王存等以爲らく、宜しく嶺を過ぎて死地に置かしむべからずと。純仁曰く、此路荊棘㊀八十年なり。奈何ぞ之を開かん。吾曹、政に免れざるを恐るゝのみと。之を爭へども得ず。臺諫、交章㊁して、純仁の確に黨するを攻む。純仁遂に罷めらる。劉摯、右僕射と爲る。大防・摯、元豐の黨人を引き用ひて、以て舊怨を平げんと欲す。之を調停㊂と謂ふ。蘇轍等、力めて、其不可なるを陳ず。摯、罷められて、蘇頌右僕射爲り。頌罷められて、純仁又之に代れり。

㊀ 此路八十年來いばらに埋れり　㊁ 交々上章して　㊂ 和解兩全の義

方有二慶禮一事畢欲二往弔一。頤不レ可曰。子於二是日一哭則不レ歌。或曰不レ言二歌則不一レ哭。軾曰。此枉死市叔孫通、制二此禮一也。頤怒。二人遂成レ隙。門人朱光庭賈易爲二言官一。力攻レ軾。傅堯兪。王巖叟。呂陶等相繼論列。堯兪。巖叟。右二光庭一。陶右レ軾。是時元豐大臣。退二於散地一。皆銜レ怨入レ骨。

を制せし也と。頤怒る。二人、遂に隙を成しぬ。門人朱光庭・賈易、言官たり。力めて軾を攻む。傅堯兪・王巖叟・呂陶等、相繼ぎて論列す。堯兪・巖叟は光庭を右け、陶は軾を右く。是時、(四)元豐の大臣、散地に退き、皆怨を銜みて骨に入り、陰に間隙を伺ふ。諸賢悟らず、方に自ら黨を分ちて相攻む。洛黨・川黨・朔黨有り。洛黨は、頤を以て領袖と爲す。光庭・易、羽翼たり。川黨は、軾を以て領袖と爲す。陶等、羽翼たり。朔黨は、劉摯・王巖叟・劉安世を以て領袖と爲す。而して羽翼尤も衆し。未だ幾くならず、頤、罷めて復た召されず。之を久しくして、軾も亦た罷められ、後再び入り、三たび入り、皆久しからずして出づ○呂公著、司空同平章軍國事と爲る。呂大防・范純仁、左右僕射たり。純仁は仲淹の子也。公著尋ぎて薨ず。

(一) おどけ　(二) 孔夫子は人を哀哭したる日は遠慮して歌はず　(三) 市中に枉死すべき筈の叔孫通　(四) 元豐時代の大臣閑散の地に退きて

來。必問二光起居一。而邊人勅二其邊吏一曰。中國相二司馬一矣。切毋三生レ事開二邊隙一。及レ卒。京師民罷レ市。畫二其像一印鬻レ之。畫工有レ致レ富者一。及レ葬。四方來會者。哭レ之如レ哭二其親戚一。光嘗謂二晁無咎一曰。吾無レ過レ人。但平生所レ爲。未三嘗不レ可二對レ人言一者上耳。劉安世問下光一言可二以終レ身行一レ之者上。光曰。其誠乎。安世問三其所二從入一。曰。自レ不二妄語一入。

るに及びて、四方の來り會する者、之を哭する其親戚を哭するが如し。光、嘗て晁無咎に語りて曰く、吾、人に過ぎたること無し。但だ平生爲す所、未だ嘗て人に對して言ふ可からざる者あらざるのみと。劉安世、光に、一言にして以て身を終ふるまで之を行ふべき者を問ふ。光曰く、其れ誠かと。安世、其の從ひて入る所を問ふ。曰く、妄語せざるより入ると。

(一)邊境の役人を戒めて　(二)邊境の紛端　(三)虛言

蘇軾。程頤。同在二經筵一。軾喜二諧謔一。而頤以二禮法一自持。軾毎嘲二侮之一。光之薨也。百官

○蘇軾、程頤、同じく經筵に在り。軾は諧謔を喜び、頤は禮法を以て自ら持す。軾、毎に之を嘲り侮る。光の薨ずるや、百官方に慶禮有り。事畢り往きて弔はんと欲す。頤、可かずして曰く、子、是日に於て哭すれば、則ち歌はずと。或ひと曰く、歌へば則ち哭せずと言はずと。軾曰く、此れ枉死市の叔孫通、此禮

王安石卒。安石在二金陵一。常獨語二福建子一。恨二惠卿一也。惠卿叛二安石一。惟章惇終始不レ叛。安石又常曰。新法之行。始終以爲レ可レ行者、曾子宣也。始終以爲二不可一者。司馬君實也。呂公著右僕射。文彥博軍國重事。程頤崇政殿說書。蘇軾翰林學士。竄二貶呂惠卿鄧綰等一。

惠卿を恨む也。惠卿、安石に叛く。唯だ章惇のみ、終始叛かず。安石又常に曰く、新法の行はるゝや、始終以て行ふ可しと爲せる者は曾子宣也。始終以て不可と爲せる者は司馬君實也と○呂公著、右僕射たり。文彥博、軍國重事たり。程頤、崇政殿說書たり。蘇軾、翰林學士たり。呂惠卿、鄧綰等を竄貶す。

● 福建子々々々とひとりごとす。惠卿は福建の人なれば也

司馬光爲レ相。八閱月而薨。太皇太后哭レ之慟。上亦感涕不レ已。贈二太師溫國公一。諡二文正一。光在レ位。遼人夏人使

○司馬光、相と爲りて、八閱月にして薨ず。太皇太后、之を哭して慟す。上亦た感涕して已まず。太師溫國公を贈り、文正と諡す。光の位に在るや、遼人・夏人の使來れば、必ず光の起居を問ふ。而して遼人、其邊吏を勅めて曰く、中國、司馬を相とす。切に事を生じて邊隙を開くこと毋れと。卒するに及び、京師の民、市を罷む。其像を畫き、印して之を鬻ぐ。畫工、富を致しゝ者有り。葬

示之安石曰。司馬十二作相矣。悵然久之。議者或謂。三年無改父道。新法姑稍損其甚者足矣。光慨然爭之曰先帝之法。善者雖百世不可變。若安石。惠卿等所建爲天下害。非先帝本意者。當如救焚拯溺。猶恐不及。況太皇太后以母改子。非子改父。衆議乃定。或謂光曰章惇呂惠卿輩他日有以父子之議間於上則朋黨之禍作矣。光起立拱手。勵聲曰天若祚宋必無此事。安石毎聞朝廷變其法。夷然不以爲意。及聞罷助役復差役。愕然失聲曰。亦罷至此乎。良久曰。此法終不可罷。安石與先帝議之二年。乃行。無不曲盡。

章惇。韓縝罷。

に謂ひて曰く、章惇・呂惠卿の輩、他日、父子の議を以て上に間すること有らば、則ち朋黨の禍作らんと。光、起立拱手し、勵聲して曰く、天若し宋に祚せば、必ず此事無からんと。安石、朝廷の其法を變ずるを聞く毎に、夷然として以て意と爲さず。助役を罷め、差役を復するを聞くに及び、愕然聲を失して曰く、亦た罷むると此に至れるかと。良や久しくして曰く、この法終に罷む可らず。安石、先帝と之を議すること二年、乃ち行へり。曲さに盡さゞること無しと。

(一)確と惇との間に往來して　(二)有司讒　(三)徒黨を結びて罪咎を爲すこと　(四)焚くるを救ひ、溺るゝを救ふ、事の極めて急なるべきをいふ　(五)平氣なるさま　(六)思はず聲を放ちて

○章惇・韓縝罷めらる○王安石卒す。安石、金陵に在りて、常に福建子と獨語す。

文一倡中天下上。文章雖二大變一。而儒者義理之學。至二周程出一。然後大明。雍惇頤載。皆歿二於神宗之世一。至レ是顥又歿。惟頤在。學者宗レ之。爲二伊川先生一。

元祐元年。蔡確罷。確與二章惇。邢恕一相交結。恕往來傳二送語言一。自謂有二定策功一。言官王覿。極二言惇確及韓縝。張璪朋邪一。劉摯。朱光庭。蘇轍。累二數十疏一論劾。確先黜。以二司馬光一爲二左僕射一。時王安石已病。其弟以二邸吏狀一

○元祐元年、蔡確罷めらる。確、章惇・邢恕と相交り結ぶ。恕往來(一)し、語言を傳送し、自ら謂ふ、定策の功有りと。言官(二)王覿、惇・確及び韓縝・張璪の朋邪(三)を極言し、劉摯・朱光庭・蘇轍、數十疏を累ねて論劾す。確先づ黜けらる。司馬光を以て左僕射と爲す。時に王安石已に病む。其弟、邸吏の狀を以て、之に示す。安石曰く、司馬十二、相と作ると。悵然たること之を久しくす。議者或は謂ふ、三年、父の道を改むること無し。新法も姑く稍其甚しき者を損じて足らんと。光、慨然之を爭ひて曰く、先帝の法、善き者は百世と雖も變ず可からず。安石・惠卿等の建つる所、天下の害を爲し、先帝の本意に非ざる者の若き、當に焚(四)を救ひ、溺を拯ふが如くなるべくして、猶ほ及ばざらんことを恐る。況んや太皇太后、母を以て子を改む。子、父を改むるに非ざるをやと。衆議、乃ち定まる。或ひと光に

之學。玩レ心高明。觀二天地變化。陰陽消長一。以達二萬物之變一。精二於物數一。推無レ不レ中。頤嘗在二考試院一。以二其數一推レ之。出謂レ雍曰。堯夫數只是加一倍法。雍歎二其聰明一。雍欲下以二數學一傳中二程上。二程不レ受。邢恕欲レ受。雍不レ許曰。徒長二姦雄一。雍有二皇極經世書十二巻。撃壌集歌一。傳二于世一。人謂二之康節先生一。富弼。司馬光等。皆深敬二重之一。宋自三歐陽修以二古

く、推して中らざること無し。頤、嘗て考試院に在り。其數を以て之を推す。出で、雍に謂ひて曰く、堯夫の數は、只是れ加一倍の法なりと。雍其聰明を歎ず。雍、數學を以て二程に傳へんと欲す。二程受けず。邢恕、受けんと欲す。雍、許さずして曰く、徒に姦雄を長ぜんと。雍、皇極經世書十二巻、撃壌集歌有り、世に傳ふ。人之を康節先生といふ。富弼・司馬光等、皆深く之を敬ひ重んず。宋、歐陽修が古文を以て天下に倡へしより、文章大に變ぜりと雖も、而も儒者義理の學は、周程出づるに至りて、然して後大に明かなり。雍・惇頤・載、皆神宗の世に歿す。是に至りて、顥又歿し、惟頤のみ在り。學者之を宗とし、伊川先生と爲す。

㊀ 玩味すること　㊁ 物の數理に精通し　㊂ 一倍を加ふる法。太極兩儀即ち陰陽を生じ、兩儀四象を生じ、四象八卦を生ずる類

愛レ物。於レ人必有レ所レ濟。熙寧中以二新法一不レ合去レ國。神宗嘗使レ推二擇人才一。所レ薦數十人。以二表叔張載弟頤一爲レ首。其死也。文彦博采二衆論一。表二其墓一曰二明道先生一。而弟頤爲二之序一曰。周公沒。聖人之道不レ行。孟子死。聖人之學不レ傳。道不レ行。百世無二善治一。學不レ傳。千載無二眞儒一。無二善治一。士猶得レ明二夫善治之道一。以淑二諸人一。以傳二諸後一。無二眞儒一。天下貿貿焉。莫レ知レ所レ之。人欲肆而天理滅矣。先生生二乎千四百年之後一。得二不傳之學於遺經一。辨二異端一。息二邪說一。使三聖人之道。復明二於世一。蓋自二孟子之後一一人而已。頤嘗語レ人。欲レ知二吾之道一者。觀二此序一可矣。張載字子厚。初無レ所レ不レ學。後聞二二程之言一。乃盡棄二其學一而講焉。有二東銘。西銘。正蒙。理窟等書一。行二于世一。人謂二之橫渠先生一。

共城邵雍字堯夫。居二河南一與二二程一友。雍

後より一人のみと。頤嘗て人に語るらく、吾の道を知らんと欲する者は、此序を觀ば可なりと。張載字は子厚、初め學ばざる所無し。後二程の言を聞き、乃ち盡く其學を棄てゝ講ず。東銘・西銘・正蒙・理窟等の書有り、世に行はる。人之を橫渠先生と謂ふ。

(一) 草の生々するは自家生々の意思と同じ、刈るべからず (二) 聖人の道 (三) 一たび命を拜して士となりたる以上 (四) 母方の叔父 (五) 之を人に取りて以て其身をよくし (六) 目の明かならざる貌

共城の邵雍、字は堯夫、河南に居りて二程と友たり。雍の學、心を玩ぶこと高明にして、天地の變化、陰陽の消長を觀て、以て萬物の變に達す。(一)物數に精し

過レ事剛果。有二古人風一。爲レ政嚴恕。務盡レ理。以二名節一自礪。雅有二高趣一。聰前草不レ除曰。與二自家意思一一般。黄庭堅稱。其人品甚高。胸中灑落如二光風霽月一。有二太極圖通書一行二于世一。顥頤初從レ之。言令レ尋二仲尼顏子所レ樂何事一。學成。各以二斯文一爲二己任一。顥嘗言。一命以上。苟存二心於

霽月の如しと。太極圖・通書有り、世に行はる。顥・頤の初めて之に從ふや、首として、仲尼・顏子の樂む所の何事なるかを尋ねしむ。學成るや、各ゝ斯文を以て己の任と爲せり。顥嘗て言ふ、一命以上、苟くも心を物を愛するに存せば、人に於て必ず濟す所有らんと。熙寧中新法の合はざるを以て國を去る。神宗、嘗て人才を推擇せしめしに、薦むる所數十人、表叔の張載、弟頤を以て首と爲す。其死するや、文彦博、衆論を采り、其墓に表して明道先生と曰ふ。而して弟頤、之が序を爲りて曰く、周公沒して聖人の道行はれず、孟子死して聖人の學傳はらず。道行はれざれば、百世善治無し。學傳はらざれば、千載眞儒無し。善治無くとも、士は猶ほ夫の善治の道を明かにするを得て、以て諸を人に淑し、以て諸を後に傳へん。眞儒無くば、天下貿貿焉として之く所を知ること莫く、人欲肆にして、天理滅せん。先生、千四百年の後に生れて、不傳の學を遺經に得、異端を辨じ、邪說を息め、聖人の道をして、復び世に明かならしめぬ。蓋し孟子の

樞密院。司馬光門下侍郎。光居レ洛十五年。兒童走卒皆知二司馬君實一。神宗升遐。赴レ闕入臨。衞士望見以レ手加レ額曰。司馬相公也。爭擁二馬首一呼曰。公毋レ歸レ洛。留相二天子一活二百姓一。所在數千人聚觀レ之。光懼歸レ洛。已而召爲二執政一。

升遐するや、闕に赴きて、入り臨む。衞士、望見し、手を以て額に加へて曰く、司馬相公也と。爭ひて、馬首を擁して呼びて曰く、公、洛に歸ること毋れ。留りて天子に相として百姓を活せと。所在數千人、聚りて之を觀る。光、懼れて洛に歸る。已にして召されて執政と爲る。

(一)走りづかひの者　(二)崩御　(三)望見する狀也、或はいふ敬意を表する作法と

河南程顥以二是歲一卒。顥字伯淳。弟頤字正叔。兄弟皆從二濂溪周惇頤一受レ學。惇頤字茂叔。博學力行。聞レ道早。

〇河南の程顥是歲を以て卒す。顥、字は伯淳、弟頤、字は正叔、兄弟皆濂溪の周惇頤に從ひて學を受く。惇頤、字は茂叔、博く學び、力め行ひ、道を聞くこと早く、事に遇ひて剛果に、古人の風有り。政を爲すこと嚴恕にして、務めて理を盡し、名節を以て自ら礪く。雅より高趣有り。牕前の草、除かずして曰く、(一)自家の意思と一般なりと。黄庭堅稱す、其人品甚だ高く、胸中灑落、光風

鴞吾家亟去。怨包藏禍心。反謂太后與王珪表裏。欲捨延安而立子顥。賴已及章惇蔡確得無變。且播其說於士大夫閒矣。神宗崩。太子即位。甫

涕を流して、神宗の爲に言ふ、安石の變法、便ならずと。旣に簾を垂れて、天下の厭ひ苦むこと、日久しきを知る。首として東京の戸馬を罷め、京の東西路の保馬を罷め、京の東西の物貨場を罷め、諸州の鎭寨市易の抵當を罷め、汴河堤岸司の地課、放市易、常平免役の息錢を罷め、在京免行錢を罷め、提擧、保甲、錢糧、巡教等の官を罷め、方田等を罷む。皆中より出で、大臣は與らず。

(一) 病氣の危篤なるとき　(二) 神宗の母高太后の姪（ヲヒ）也　(三) 內外相應じて　(四) 宮中即ち太后の英斷に出づと也

十歲。太皇太后同聽政。熙寧中太后已嘗流涕。爲神宗言。安石變法不便。既垂簾知天下厭苦日久。首罷東京戶馬。罷京東西路保馬。罷京東西物貨場。罷諸州鎭寨市易抵當。罷汴河堤岸司地課。放市易常平免役息錢。罷在京免行錢。罷提擧保甲。錢糧巡教等官。罷方田等。皆從中出。大臣不與。

王珪卒。蔡確。韓縝爲左右僕射。章惇知

〇王珪卒す。蔡確・韓縝、左右僕射と爲り、章惇、樞密院に知たり。司馬光、門下侍郎たり。光、洛に居ること十五年、兒童走卒も、皆、司馬相公を知る。神宗の

哲宗皇帝。名煦。初爲二延安郡王一。神宗大漸。立爲二太子一。先レ是蔡確遣二舍人邢恕一。邀二高公繪一。欲レ使レ白二太后一。言延安冲幼。岐嘉皆賢王也。公繪懼曰。公欲レ

卷之七

宋

哲宗皇帝

哲宗皇帝、名は煦。初め、延安郡王たり。神宗の大漸(一)なるとき、立ちて太子と爲る。是より先、蔡確、舍人邢恕を遣して、高公繪(二)を邀へ、太后に白さしめんと欲す。言ふ、延安は冲幼なり、岐・嘉は皆賢王也と。公繪、懼れて曰く、公、吾が家に禍せんと欲するか、亟に去れと。恕、禍心を包藏し、反りて謂ふ、太后、王珪と表裏し、延安を捨てゝ子顥を立てんと欲せしが、己及び章惇・蔡確に賴りて、變無き(三)を得たりと。且つ其說を士大夫の閒に播く。神宗崩じ、太子位に卽く。甫めて十歳なり。太皇太后、同じく政を聽く。熙寧中、太后已に嘗て

舊人一兩用之。曰御史大夫非司馬光不可。蔡確曰。國是方定。願少遲之。既而上有疾。又曰。來春建儲。當以司馬光。呂公著爲師保。公著夷簡子也。上在位十八年。改元者二。曰熙寧。元豐。勵精求治。日昃不暇食。平生不御游畋。不治宮室。惟勤惟儉。將以大有爲也。奈何熙寧以來誤於安石。元豐以後用事者終始皆安石之黨。竟爲天下患。憤北狄倔強。慨然有恢復幽燕之志。欲先取靈夏。滅西羌。乃圖北伐。及安南失律。喟然歎赤子無罪而死。永樂之敗。益知用兵之難。始息念征伐。卒無一事如意。崩。年三十八。皇太子立。是爲哲宗皇帝。

年三十八。皇太子立つ。之を哲宗皇帝と爲す。

㊀死後に遺留する善人 ㊁へつらひ ㊂三公補弼たるべき人器 ㊃十二年 ㊄一國の是とする方針 ㊅建太子 ㊆[illegible] ㊇[illegible] ㊈人民

而彌篤。家居一紀。斯須不レ忘ニ朝廷一。至レ是薨。宰相同對。上有下無ニ人才一之歎上。蒲宗孟曰。人才半爲ニ司馬光邪說一所レ壞。上不レ語。視ニ宗孟一久レ之曰。蒲宗孟。乃不レ取ニ司馬光一邪。宗孟尋罷。司馬光資治通鑑成。上卽位之初。已嘗御製序。至ニ元豐七年一。書始上。初官制將レ行。上欲下取ニ新

已に嘗て御製の序あり。元豐七年に至り、書始めて上る。初め官制の將に行はれんとするや、上、新舊人を取りて、兩つながら之を用ひんと欲す。曰く、御史大夫は司馬光に非ざれば不可なり。蔡確曰く、(五)國是方に定まる。願はくは少しく之を遲てと。既にして上疾有り。又曰く、來春(六)儲を建てば、當に司馬光・呂公著を以て師保となすべしと。公著は夷簡の子也。上在位十八年。改元する者二、熙寧・元豐と曰ふ。勵精治を求め、日昃くまで食ふに暇あらず。平生(七)畋游を御せず、宮室を治めず、惟れ勤惟れ儉、將に以て大に爲す有らんとす。奈何せん、熙寧以來安石に誤られ、元豐以後事を用ふる者終始皆安石の黨にして、竟に天下の患と爲る。北狄の倔强を憤り、慨然として、幽燕を恢復するの志有り。先づ靈夏を取り、西羌を滅し、乃ち北伐を圖らんと欲す。安南、律を失ふに及びて、(八)喟然として(九)赤子の罪なくして死するを歎じ、永樂の敗に、益〻兵を用ふるの難きを知り、始めて征伐を念ふを息め、卒に一事の意の如くなる無くして崩ず。

惟曰ㇾ取₂聖旨₁。得₂聖旨₁則曰ㇾ領₂聖旨₁。退書ㇾ之則曰ㇾ奉₂聖旨₁而已。上顒ㇾ之。確謂ㇾ珪曰。上久欲ㇾ取₂靈武₁。公能任ㇾ責。則相位可ㇾ保也。珪喜如₂其言₁。命₂內侍李憲等₁分ㇾ道伐₂夏國₁。攻₂靈州₁不ㇾ克。士卒死。及凍餒者十五六。憲上₂再擧之議₁。徐禧又議ㇾ築₂永樂新城₁。夏人大擧攻ㇾ城。城陷。禧等蕃漢官。及諸軍死者萬三千。上聞ㇾ奏慟哭。

● 面識して奏請す　● 以著・満エ・・官史

富弼上₂遺表₁。言忠諫杜絶。諂諛日進。興利之臣爲ㇾ國斂ㇾ怨。又言西事大可ㇾ憂。望留₂聖念₁。弼早有₂公輔之望₁。名聞₂夷狄₁。遼使每ㇾ至。必問₂其出處安否₁。忠義之性。老

○富弼遺表を上る。言ふ、忠諫杜絶し、諂諛日に進み、興利の臣國の爲に怨を斂むと。又言ふ、西事大に憂ふ可し、望むらくは聖念を留めよと。弼早く公輔の望有り、名、夷狄に聞え、遼の使至る毎に、必ず其出處安否を問ふ。忠義の性、老いて彌〻篤く、家居一紀、斯須も朝廷を忘れず。是に至りて薨ず○宰相同じく對せしとき、上人才無きの歎有り。蒲宗孟曰く、人才半は司馬光が邪說の爲に壞らると。上語らず、宗孟を視ると之を久しくして曰く、蒲宗孟は乃ち司馬光を取らざるかと。宗孟慙ぢて罷めらる。司馬光の資治通鑑成る。上即位の初、

吳充罷。踰レ月而卒。元豐元年。大正ニ官名一。元豐五年。官制成。改ニ平章事一爲ニ左右僕射一。以ニ王珪。蔡確一爲レ之。參知政事爲ニ門下中書侍郎一。章惇張璪爲レ之。置ニ尙書左右丞一。蒲宗孟。王安禮爲レ之。以ニ三省一統ニ領百職一。中書取レ旨。門下覆奏。尙書施行。珪爲レ相。人謂ニ之三旨宰相一。凡事

○吳充罷められ、月を踰えて卒す○元豐元年、大に官名を正す。元豐五年、官制成る。平章事を改めて左右僕射と爲し、王珪・蔡確を以て之と爲し、參知政事を門下中書侍郎と爲し、章惇・張璪を之と爲し、尙書左右丞を置き、蒲宗孟・王安禮を之と爲し、三省を以て百職を統領せしむ。中書旨を取り、門下は覆奏し、尙書施行す。珪、相と爲る。人之を三旨宰相と謂ふ。凡そ事惟だ聖旨を取ると曰ひ、聖旨を得れば則ち聖旨を領すと曰ひ、退きて之を書すれば、則ち聖旨を奉ずと曰ふのみ。上、之を厭ふ。確、珪に謂ひて曰く、上久しく靈武を取らんと欲す。公能く責に任ぜば、則ち相位保つ可き也と。珪、喜びて其言の如くし、內侍李憲等に命じ、道を分ちて夏國を伐ち、靈州を攻めしむ。克たず。士卒死し、及び凍餒する者十に五六なり。憲、再擧の議を上る。徐禧又承樂の新城を築かんことを議す。夏人大擧して城を攻む。城陷り、禧等の蕃漢官及び諸軍の死する者萬三千。上、奏を聞きて慟哭す。

卷不讀律。致君堯舜終無術。興水利則曰。東海若知明主意。應教斥鹵變桑田。謹鹽禁則曰。豈是聞韶解忘味。邇來三月食無鹽。其他觸物即事。無不以譏謗為主。乃追軾繫御史獄。詔定與張璪推治。王珪言。軾有不臣意。擧軾檜詩。根到九泉無曲處。世間惟有蟄龍知。陛下飛龍御天。而軾彼欲求之地下之蟄龍。非不臣而何。上曰。彼自詠檜。何預朕事。上本無意罪軾。吳充王安禮皆勸上容之。獄成而有是命。弟轍亦坐救軾而貶。坐軾詩案謫罰者。張方平司馬光以下二十二人。上實憐軾。尋移汝州。且復用之。為蔡確張璪等所沮。

の檜の詩を擧ぐ。根は九泉に到りて曲處無し、世間惟蟄龍の知る有りと。陛下は飛龍天に御す。而して軾は彼れ之を地下の蟄龍に求めんと欲す。不臣に非ずして何ぞ。上曰く、彼自ら檜を詠ず。何ぞ朕の事に預らんと。上、本軾を罪するに意無し。吳充・王安禮、皆上に勸めて之を容さしむ。獄成りて是命有り。弟轍亦た軾を救ふに坐して貶せらる。軾の詩案に坐して謫罰せられし者、張方平・司馬光以下二十二人なり。上、實に軾を憐む。尋ぎて汝州に移し、且に復た用ひんとして、蔡確・張璪等の爲に沮まる。

● 一に律を讀する本以ことと訓ず ● 守嫉なかひ好くなりしのみ ● 併鹽の運輸出來ずして一年の過半は城中によび付けられある故にと也 ● 鹽分ある荒地 ● 孔子は韶の音樂を聞きて面白く感じ、三月の間肉の味を知らざりしといふも、今世鹽無の鹽を解せん、三月間鹽なしに物を食ひて既に其味を知らずと也 ● 詩の事案に連坐して

濱甲。於海集舟師。教水戰。禁止州縣與交人貿易。交人大擧入寇。圍邕州。陷欽廉。聲言中國作青苗助役法以困民。出兵相救。安石怒。遣趙禼等討之。官軍死者十六。兵禍訖安石之去而未已。吳充王珪繼安石爲相。充先在政府。數言政事非便。既代安石。蔡確鄧潤甫等共攻之。不能去

元豐元年。知湖州蘇軾安置黃州。先是中丞李定言。軾自熙寧以來。怨謗君父。舒亶亦言。軾議時事。陛下發錢本以業貧民。則曰。贏得兒童語音好。一年強半在城中。明法以課試羣吏。則曰。讀書萬

○元豐元年、知湖州蘇軾を黃州に安置す。是より先、中丞李定言ふ、軾、熙寧より以來、君父を怨謗すと。舒亶も亦た言ふ、軾、時事を議す。陛下、錢本(一)を發して、以て貧民を業くれば、則ち曰く、贏ち得たり兒童語音(二)好きを、一年強半は城中に在りと。明法、以て羣吏を課試すれば、則ち曰く、讀書萬卷律(三)を讀まず。君を堯舜に致すこと終に術無しと。水利を興せば、則ち曰く、東海若し明主の意を知らば、應に斥鹵をして桑田に變ぜしむべしと。鹽禁を謹めば、則ち曰く、豈是れ韶(五)を聞きて味(四)を忘るゝを解せんや、邇來三月食に鹽無しと。其他物に觸れ事に卽きて、譏謗を以て主と爲さゞる無しと。乃ち軾を追ひて御史の獄に繫ぎ、定と張璪とに詔して推治せしむ。王珪言ふ、軾、不臣の意有りと。軾

恃二其無一レ是理一也。天下騷然。而國未二嘗富一。邊鄙生レ事。徒多喪敗。而國未二嘗強一。西鄙自二治平末种諤取二綏州一。夏人即欲レ興レ兵報復一。夏主諒祚卒。子秉常立。大入寇。安石雖レ用二王韶取二熙河一之策上。徒構二怨西蕃一。致三鬼章等屢爲二寇患一。初不レ能三以レ此制二西夏一。所レ用沈起・劉彝又生二釁南方一。交趾李日遵卒。子乾德立。起・彝相繼知二桂州一。集二土丁一爲二保

すを致し、初めより此を以て西夏を制する能はざりき。用ふるところの沈起・劉彝又釁を南方に生じぬ。(四)交趾の李日遵卒し、子乾德立つ。起・彝相繼ぎて桂州に知たり。土丁(五)を集めて保甲と爲し、海濱に於て、舟師を集めて水戰を敎へ、州縣と交人(六)と貿易するを禁止す。交人大擧して入寇し、邕州を圍み、欽・廉を陷れ、聲言すらく中國青苗・助役の法を作りて以て民を困しむ、兵を出して相救はんと。安石怒りて、趙卨等を遣して之を討たしむ。官軍の死する者十に六(七)。兵の禍安石の去るに及ぶまで未だ已まざりき。吳充・王珪、安石に繼ぎて相となる。充、先に政府に在りても數〻政事の便に非ざるを言ふ。既にして安石に代る。蔡確・鄧潤甫等、共に之を攻めしも、去る能はず。

(一) 病を申立て、官を去らんとす　(二) 管仲商鞅の政　(三) その欲望を滿す方法　(四) 釁即ち不和を南方に生ず　(五) 本土の兵丁　(六) 交趾の人　(七) 十中に六、十人に六人は死す

成塁。起鋪舍。使入彼國蔚應朔州界。乞行毀撤別立界至。蓋遼人見朝廷招高麗。建熙河。西山植楡柳。創保甲。築河北城池。創都作院。降弓刀新様。置界北三十七將。疑有復燕之意。故以爭地界爲名。覘朝廷所以應。安石斷之曰。將欲取之。必姑與之。東西失地七百里。

安石再相二年。屢謝病。子雱死。求去尤力。上益厭其所爲。出判江寧府。遂不復用。自安石用事。口談先王。而專行管商之政。知上有富強之志。思所以濟其欲。謂立法當用小人。而後以君子守之。不

○安石再び相たること二年、屢々病を謝す。子雱死す。去らんを求むること尤も力む。上、益々其爲す所を厭ひ、出して江寧府に判たらしむ。遂に復た用ひられず。安石の事を用ひしより、口に先王を談じて、專ら管商(二)の政を行ひ、上の富強の志有るを知りて、(三)其欲を濟す所以を思ふ。謂ふ、法を立つるには當に小人を用ひ、而る後君子を以て之を守るべしと。其の是理無きを悟らざりし也。天下騒然として國未だ嘗て富まず。邊鄙事を生じ、徒に多く喪ひ敗れて、國未だ嘗て強からず。西鄙は、治平の末に、种諤、綏州を取りしより、夏人卽ち兵を興して報復せんと欲す。夏主諒祚卒し、子秉常立つ。大に入寇す。安石、王韶が熙河を取るの策を用ひしと雖も、徒に怨を西蕃に構へて、鬼章等が屢々寇患を爲

能斷二大事一。治平間。啓二首相一。政事問二集賢一。典故問二東廳一。宦學問二西廳一。大事則自決レ之矣。出判二相州一。初言二青苗不レ便。朝廷不レ從。卽命散給。曰。藩臣之體。當レ如レ是。在二鄉郡一八年而終。御製碑曰。兩朝顧命定策元勳之碑。命二韓縝一如二河東一割レ地。先レ是遼使屢至言河東沿レ邊增二修

大事は則ち自ら之を決す。出でゝ相州に判たり。初め青苗の不便を言ふ。朝廷從はず。卽ち命じて散給して曰く、藩臣の體、當に是の如くなるべしと。鄉郡に在ること八年にして終る。御製の碑に曰く、兩朝顧命定策元勳之碑と○韓縝に命じ、河東に如きて地を割かしむ。是より先、遼の使屢ゝ至りて言ふ、河東、邊に沿ひて戍壘を增修し、舖舍を起して、彼の國の蔚應朔の州界に侵入す。乞ふ、〔一〕毀撤を行ひ、別に界至を立てんと。蓋し遼人、朝廷の高麗を招き、熙河を建て、西山に楡柳を植ゑ、保甲を創め、河北の城池を築き、都作院を創め、弓刀の新樣を降し、界北の三十七將を置けるを見て、燕を復するの意有るを疑ひ、故に地界を爭ふを以て名と爲し、朝廷の應ずる所以を觀るなり。安石之を斷じて曰く、將に之を取らんと欲せば、必ず姑く之を與へよと。東西地を失ふこと七百里。

(一) 英宗の治平年間　(二) 集賢學士の曾公亮　(三) 典章故實　(四) 東の官廳に出仕せる參政樞密　(五) 西の官廳に出仕せる參政歐陽修　(六) 官錢を散じて人民に貸し　(七) 取拂ひ

罷而獻者。安上門逐日所見。百不及一。亦可流涕。況千萬里外哉。時以旱故求直言。言者皆告新法。上疑欲罷之。安石不悅求去。除知江寧府。安石薦韓絳。代已爲相。呂惠卿爲參政。時號絳爲傳法沙門。惠卿爲護法善神。惠卿建議。免役出錢不均。出於簿書之不善。行手實法。惠卿既得勢。恐安石復入。遂逆閉其途。出安石私書。有勿令上知之語。凡可以害安石者。無所不用其智。又數與絳忤。絳乘閒白上。復相安石。安石罷不一年再入。聞命不辭。自金陵七日至闕下。後數月絳與惠卿相繼罷。

錢均しからざるは、簿書の不善に出づと。手實の法を行ふ。惠卿既に勢を得て、安石の復び入らんことを恐れ、遂に逆め其途を閉ぢ、安石の私書を出す。上をして知らしむる勿れの語有り。凡そ以て安石を害ふべき者、其智を用ひざる所無し。又數〻絳と忤ふ。絳、閒に乘じて上に白し、復た安石を相とす。安石、罷められて一年ならず、再び入る。命を聞きて辭せず。金陵より七日にして闕下に至る。後數月、絳と惠卿と相繼ぎて罷めらる。

(一) 人戸より丁口田宅の實を具申せしめ、隱蔽を告發する者には其家財の三分の一を與ふ、一種の民財調査也

行戸馬法。判相州韓琦薨。琦天資忠厚。

○戸馬の法を行ふ○判相州韓琦、薨ず。琦、天資忠厚、能く大事を斷ず。治平の閒、首相と爲り、政事は集賢に問ひ、典故は東廳に問ひ、文學は西廳に問ひ、

惇察訪湖北。始議經制南北江。辰州南北江、乃古錦州之地。接施黔牂牁。命章惇措置。惇言招諭梅山蠻徭。令作省民。皆歡迎。其實殺戮。浮屍蔽江。置詩書周禮三經義局。安石提舉。呂惠卿及安石子雱等爲檢討。

熙寧七年。天久不雨。河東北陝西流民。皆流入京城。而京城外饑民尤多。監安上門鄭俠畫爲圖。上書曰。陛下南征北伐。皆以勝捷之勢作圖來上。無一人以天下憂苦。妻子不相保。遷移困頓。追逮不給之狀爲

○熙寧七年、天久しく雨ふらず。河の東北陝西の流民、皆流れて京城に入る。而して京城の外、饑民尤も多し。安上門を監する鄭俠、畫きて圖と爲し、上書して曰く、陛下、南征北伐皆勝捷の勢を以て圖を作りて來り上るあるも、一人の、天下憂苦し妻子相保せず、遷移困頓して、追逮給せざるの狀を以て、圖を爲りて獻ずる者無し。安上門、日を逐ひて見る所、百、一に及ばざるも、亦た涕を流す可し。況んや千萬里の外をやと。時に旱を以ての故に直言を求む。言者皆新法を咎む。上疑ひて、之を罷めんと欲す。安石悦ばず、去らんことを求む。知江寧府に除す。安石、韓絳を薦めて、己に代りて相たらしめ、呂惠卿を參政と爲す。時に絳を號して傳法沙門と爲し、惠卿を護法善神と爲す。惠卿、建議す、免役出

安撫等使。先是詔上平戎策。謂欲平西夏。當復河湟。今古渭之西。熙河蘭鄯皆漢隴西等郡。吐蕃唃厮囉一族國其間。宜併有之。以絕夏人右臂。安石以爲奇謀。始開熙河之役。詔克河洮岷疊宕等州。又撫青唐咽喉之地。邊堠益斥。役兵之死亡甚多。中書檢正章

上る。謂ふ、西夏を平げんと欲せば、當に河湟(一)を復すべし。今、古渭の西より、熙・河・蘭・鄯まで、皆漢の隴西等の郡にして、吐蕃唃厮囉の一族、其間に國せり。宜しく之を併有して、以て夏人の右臂を絕つべしと。安石以て奇謀と爲し、始めて熙河の役を開く。詔、河・洮・岷・疊・宕等の州に克ち、又青唐の咽喉の地に據る。邊堠(二)は益す斥けたれど、役兵の死亡するもの甚だ多し○中書檢正章惇、湖北を察訪す。始めて議して、南北江蠻を經制す。辰州の南北江は乃ち古の錦州の地にして、施黔牂柯に接す。章惇に命じて措置(三)せしむ。惇、言ふ、梅山の蠻傜を招き諭し、令して戸を省くことを作さしめ、皆歡迎せりと。其實は殺戮して、浮屍江(四)を蔽へり○詩・書・周禮三經義局を置く。安石提擧たり、呂惠卿及び安石の子雱等檢討たり。

(一) 河湟の地方を取りかへすべし　(二) 邊堠の里程のしるしの塚は益々向ふの方まで廣まりたれど　(三) 處分せしむ　(四) 水に浮き上りたるしかばね

永興一。移二許州一。上言、臣之不才、最出二臣之下一。先見不レ如二呂誨一。公直不レ如二范純仁、程顥一。敢言不レ如二蘇軾、孔文仲一。勇決不レ如二范鎮一。歴請レ判二四京留司御史臺一。至レ是得レ請。後四任、提二擧嵩山崇福宮一。

歐陽修先知二青州一。以四擅止三給二散青苗錢一。徙レ知二蔡州一。至レ是乞致仕。富弼先知二亳州一。坐レ格二青苗法一。徙レ知二汝州一。中丞楊繪、裏行劉摯以レ議二新法一罷。罷二差役一。行二募役法一。立二太學三舍法一。行二市易法一。行二保馬法一。頒二方田均税法一。

○歐陽修、先に青州に知たり。擅に青苗錢を給散するを止めしを以て、徙されて蔡州に知たり。是に至りて乞ひて致仕す○富弼先に亳州に知たり。青苗の法を格めしに坐し、徙されて汝州に知たり○中丞楊繪・裏行劉摯、新法を議せしを以て罷めらる○差役(一)を罷め、募役(二)の法を行ふ○太學三舍(三)の法を立つ○市易の法を行ふ○保馬(四)の法を行ふ○方田均税(五)の法を頒つ。

㊀ 民戸に差役を設けて夫役を課する法 ㊁ 民戸より免役錢を取り立て人を雇ひて代役せしむる法 ㊂ 太學生を外舍・内舍・上舍の三階級に分つ法 ㊃ 保甲に馬を給附して養はしむる法 ㊄ 田を五等に分ちて租税を均くする法

置二熙河路一。以二王韶一爲二經略

○熙河路を置き、王韶を以て經略安撫等の使と爲す。是より先、韶、平戎の策を

同平章事。立二保甲法一。曾布爲二中書檢正一。更二科學法一。罷二詩賦明經諸科一。以二經義論策一試二進士一。

司馬光。光自二學士一除二樞副一。力辭不レ拜。數言二新法之害一。上喩二安石一曰。聞二三不足之說一否。曰不レ聞。上曰。外人云。朝廷以爲天變不レ足レ畏。人言不レ足レ恤。祖宗法不レ足レ守。昨學士院進二館職策問一。專指二此三事一。策問光所レ爲也。光屢請レ外。得二

○司馬光、先に學士より樞副に除せらる。力め辭して拜せず。數〻新法の害を言ふ。上、安石に喩して曰く、三不足の說を聞きしや否や。曰く、聞かず。上、曰く、外(一)人云ふ、朝廷以爲らく、天變畏るゝに足らず、人言恤ふるに足らず、祖宗の法守るに足らずと。昨、學士院、館職の策問を進めしに、專ら此三事を指せりと。策問は光の爲る所也。光、屢〻外(二)を請ひて永興を得、許州に移る。上言すらく、臣の不才最も羣臣の下に出づ。先見は呂誨に如かず、公直は范純仁・程顥に如かず、敢言は蘇軾・孔文仲に如かず、勇決は范鎭に如かずと。屢〻西京の留司御史臺に判(三)たらんことを請ひしが、是に至りて請を得たり。後四たび任ぜられて嵩山の崇福宮に提擧たり。

(一) 政府外の人　(二) 地方官たらんとを願ひ　(三) 判官

御史知雜一。直史館蘇軾以下皆上二萬言書一。及撰レ對二廷試策一。譏二新法一忤中安石上。爲二最過一所レ劾去。鄧綰上書言。陛下得二伊呂之佐一。百姓歌二舞青苗免役等法一。又與二安石書及頌一。置二中書檢正一。以レ綰爲レ之。鄉人皆笑罵。綰曰。笑罵從二他笑罵一。好官我須レ爲レ之。

及び頌を與ふ。中書檢正を置き、綰を以て之を爲さしむ。鄉人皆笑ひ罵る。綰曰く、(三)笑罵は佗の笑罵に從せん、好官は我須らく之を爲すべしと。

(一)李定の任官の御沙汰書を封還せし故により　(二)伊尹、呂尚の如き輔佐の功臣、安石を此二人に擬す　(三)民の貢賦を計り五等に分ち錢を出させてこれを免役錢と名づけ夫役に出る者の代人を官より雇ふ法

曾公亮罷。策二制科人一。呂陶。張綸。孔文仲。力詆二新法一。皆報罷。范鎭以下數議二新法一。及嘗薦中蘇軾孔文仲上。罷。乞致仕。陳升之罷。韓絳。王安石。

○曾公亮罷めらる○科人を策制す。呂陶・張綸・孔文仲、力めて新法を詆る。皆、報じ罷めらる○范鎭、數〻新法を議し、及び嘗て蘇軾・孔文仲を薦めしを以て罷めらる。乞ひて致仕す。陳升之罷めらる○韓絳・王安石、同平章事たり○保甲の法(一)を立つ○曾布、中書檢正と爲る○科擧の法を更め、詩賦明經の諸科を罷め、經義論策を以て進士を試む。

(一)保、大保、都保等の制を定め、民を以て兵となすの法

之同平章事。升之初附二安石一。既相頗爲二異同一。行二預買法一。令二諸路一。預給レ錢。和二買紬絹一。趙抃罷。抃日所レ爲事。夜必焚レ香告二於天一。親二試擧人一。初用レ策。葉祖洽以レ附二會新法一。擢爲二第一一。右正言孫覺。御史裏行程顥以レ議二新法一罷。

る異同を爲す○預買(一)の法を行ひ、諸路に令して預め錢を給して紬絹を和買(二)せしむ○趙抃罷めらる。抃、日に爲す所の事、夜は必ず香を焚きて天に告ぐ○擧人を親試(三)し、初めて策を用ふ。葉祖洽、新法に附會(四)せしを以て、擢んで第一と爲す○右正言孫覺・御史裏行程顥、新法を議せしを以て罷めらる。

(一) 代金を協定して買取らしむ　(二) 示談の上買取る　(三) 上自ら試驗し　(四) うまくあふ樣にこじつける

中丞呂公著。裏行張戩。以レ議二新法一罷。李定爲二裏行一。知制誥宋敏求。蘇頌。李大臨。以レ繳二定詞頭一罷。謝景溫爲二

○中丞呂公著・裏行張戩、新法を議せしを以て罷めらる○李定、裏行と爲る。知制誥宋敏求・蘇頌・李大臨、定の詞頭(一)を繳せしを以て罷めらる○謝景溫、御史知雜となる○直史館蘇軾、嘗て萬言の書を上り、及び廷試の策に對するに擬し、新法を議して、安石に忤へるを以て、景溫の爲に劾せられて去る○鄧綰上書して言ふ、陛下、伊呂(二)の佐を得たり。百姓、青苗・免役(三)等の法を歌舞すと。又安石に書

論新法ニ不レ便。疽發レ背卒。時人有ニ生老病死苦之喩一。謂ニ安石一爲レ生。曾公亮爲レ老。介死。富弼議論不レ合。稱レ病。參政趙抃無レ如ニ安石一何。惟稱ニ苦苦一而已。安石折レ抃曰。君輩坐レ不レ讀書耳。抃曰。皐夔稷契。何書可レ讀。安石亦不レ能レ對。

書を讀まざるに坐するのみ。抃曰く、皐・夔・稷・契、(四)何の書をか讀むべきと。安石亦た對ふる能はず。

(一) 春青苗を植ゑつくる頃に民に資本を貸與し、秋に利を附して取り返す法 (二) 官より民に物を貸すに有司其價を定め、各々其國事に關する所の貢物を利足として之を返納せしむる法 (三) 返納の期限に違ふ (四) 三代よりも前の賢人

遣レ使察ニ農田水利一。罷ニ義倉一。行ニ均輸法一。臺諫劉琦錢顗以レ議ニ新法一貶。諫院范純仁。檢詳文字蘇轍以レ議ニ新法一罷。行ニ青苗法一。置ニ常平官一。

○使を遣して農田水利を察せしむ○義倉を罷む(一)○均輸法を行ふ○臺諫劉琦・錢顗、新法を議せしを以て貶せらる○諫院范純仁・檢詳文字蘇轍、新法を議せしを以て罷めらる○青苗の法を行ひ、常平官を置く。(二)

(一) 凶荒貯蓄の爲めにせる一郷一社の共同の米倉 (二) 物價の調節を司る官

富弼罷陳升

○富弼罷められ、陳升之同平章事たり。升之初め安石に附く。既に相として頗

客散二歩天津橋上一。聞二杜鵑聲一。愀然不レ樂。客問二其故一。雍曰、洛陽舊無二杜鵑一。今始至。天下將レ治。地氣自レ北而南。將レ亂。自レ南而北。今南方地氣至矣。禽鳥飛類。得二氣之先一者也。不二二年一。上用二南士一作レ相。多引二南人一。專務二更變一。天下自レ此多事矣。至レ是雍言果驗云。

(一) 鹽鐵度支戸部の三司の條例を制置するを司る (二) 市の征布を掌らしめ、市の售れず貨の民間に滯りたる者を斂め其價にて賣りて物價を調節する役所 (三) 南方に棲む杜鵑の北方に來れるによりて此事を知れる也

安石欲レ行二青苗法一。以爲周官國服爲息法也。蘇轍曰。以レ金貸レ民。吏緣爲レ姦。錢入二民手一。雖二良民一。不レ免二妄用一。及二其納一レ錢。雖二富民一。不レ免二違限一。鞭箠必用。州縣不レ勝レ煩矣。參政唐介爭二

安石、青苗法(一)を行はんと欲す。以爲らく、周官の國服爲息(二)の法也。蘇轍曰く、金を以て民に貸さば、吏、緣りて姦を爲さん。錢民の手に入らば、良民と雖も妄に用ふるを免れじ。其錢を納るゝに及びては、富民と雖も違限(三)を免れじ。鞭箠必ず用ひば、州縣煩に勝へざらんと。參政唐介、新法を爭論して勝たず。疽、背に發して卒す。時の人、生老病死苦の喩有り。安石を謂ひて生と爲し、曾公亮を老と爲す。介は死し、富弼は議論合はずして、病と稱し、參政趙抃、安石を如何ともすること無く、惟苦苦と稱するのみ。安石、抃を折きて曰く、君が輩、

往疑二其太過一。誨言。大姦似レ忠、大詐似レ信。安石外示二朴野一。中藏二巧詐一。驕蹇慢レ上。陰賊害レ物。疏二其十事一。上爲降二手詔一。諭レ誨。誨論レ之不レ已。遂罷レ誨

安石建議。創二制置三司條例司一。議レ行二新法一。言周置二泉府之官一。變二通天下之財一。後世惟桑弘羊。劉晏。粗合二此意一。今當下修二泉府之法一以收中利權上。安石多與二呂惠卿一謀。人號二安石一爲二孔子一。惠卿爲二顏子一。先レ是治平中。邵雍與レ

安石、建議して制置三司條例司を創め、新法を行はんことを議す。言ふ、周、泉府の官を置きて天下の財を變通す。後世、惟桑弘羊・劉晏粗ぼ此意に合す。今當に泉府の法を修めて、以て利權を收むべしと。安石多く呂惠卿と謀る。人、安石を號して孔子と爲し、惠卿を顏子と爲す。是より先治平中、邵雍、客と天津橋上に散歩し、杜鵑の聲を聞きて、愀然として樂まず。客、其故を問ふ。雍曰く、洛陽舊と杜鵑無し。今始めて至る。天下將に治まらんとするや、地氣北よりして南し、將に亂れんとするや、南よりして北す。今、南方の地氣至る。禽鳥飛類は、氣の先を得る者也。二年ならずして、上、南士を用ひて相と作し、多く南人を引きて、專ら更變を務め、天下此れより多事ならんと。是に至りて、雍の言果して驗ありと云ふ。

事。王安石參政。安石既執ㇾ政。士大夫素重二其名一。以爲太平可二立致一。呂誨時爲二御史中丞一。將ㇾ對。學士侍讀司馬光。亦將ㇾ詣二經筵一。相遇竝行。光密問。今日所ㇾ言何事。誨曰。袖中彈文。乃新參也。光愕然曰。衆喜ㇾ得ㇾ人。奈何論ㇾ之。誨曰。君實亦爲二此言一邪。安石執二偏見一。喜二人佞一ㇾ己。天下必受二其弊一。光退而思ㇾ之。不ㇾ得二其說一。搢紳間。有下傳二其疏一者上。往

名を重んず。以爲らく、太平立どころに致す可しと。呂誨時に御史中丞たり。將に對せんとす。學士侍讀司馬光、亦た將に經筵に詣らんとし、相遇ひて竝び行く。光密に問ふ、今日言ふ所は何事ぞ。誨曰く、袖中の彈文(一)は乃ち新參なりと。光、愕然として曰く、衆人を得たるを喜ぶ。奈何ぞ之を論ずる。誨曰く、君實(二)も亦た此言を爲すか。安石偏見を執り、人の己に佞するを喜ぶ。天下必ず其弊を受けんと。光、退きて之を思へども、其說を得ず。搢紳の間に(三)其疏を傳ふる者有り、往々其太だ(四)過ぎたるを疑ふ。誨言ふ、大姦は忠に似たり、大詐は信に似たり。安石、外、朴野を示し、中、巧詐を藏し、驕蹇上を慢り、陰賊物を害ふと。其十事を疏す。上、兩び手詔を降して、誨を諭す。誨、之を論じて已まず。遂に誨を罷む。

(一)袖の中なる彈劾文は新參政の事也　(二)司馬光の字　(三)其上疏を寫し傳ふる者あり　(四)過激なるを

神宗皇帝。名項。母曰二宣仁聖烈皇后高氏一。曹太后之甥也。幼與二英宗一同鞠二后所一。後爲二英宗配一生レ項。自二潁王一爲二太子一。尋即レ位。

神宗皇帝、名は項。母を宣仁聖烈皇后高氏と曰ふ。曹太后の甥也。(一)幼にして、英宗と同じく、后の所に鞠はる。後英宗の配と爲りて項を生む。潁王より太子と爲り、尋ぎて位に即く。

㊀ めひ也、甥の字ヲヒに、メヒにも用ふ

自レ有二濮議一以來。言者攻二歐陽修一不レ已。遂罷。韓琦亦罷。王安石爲二翰林學士一。入對。首以レ擇レ術爲レ言。言必稱二堯舜一。

○濮の議有りしより以來、言者、歐陽修を攻めて已まず。遂に罷めらる。韓琦亦た罷めらる○王安石、翰林學士と爲り、入對す。(二)首に術を擇ぶを以て言と爲し、言必ず堯舜を稱す。

㊁ 參內して上の諮問に對ふ

富弼同平章

○富弼同平章事たり。王安石參政たり。安石既に政を執る。士大夫、素より

稱レ親。司馬光。范鎭。呂誨。范純仁。呂大防。呂公著。交論以爲二不可一。鎭罷二翰林一。誨純仁大防解二言職一。公著罷二侍講一。議竟不レ決。

て、以て不可と爲す。鎭は翰林を罷められ、誨・純仁・大防は言職を解かれ、公著は侍講を罷めらる。議竟に決せざりき。

㊀上の生父也　㊁濮王を親と稱せしめんとす

契丹改二號大遼一。

○契丹、大遼と改號す。

上崩。在位四年。改元者一。曰治平。年三十八。皇太子立。是爲二神宗皇帝一。

○上、崩ず。在位四年。改元する者一。曰く、治平。年、三十八。皇太子立つ。之を神宗皇帝と爲す。

神宗皇帝

爲二皇子一。賜二名曙一。仁宗崩。避數四。而後卽レ位。以二憂疑一致レ疾。慈聖光獻曹太后權同聽レ政。上擧措或改二常度一。遇二宦官一尤少レ恩。左右多不レ悅。乃共爲二讒間一。兩宮遂成レ隙。賴二宰相韓琦。參政歐陽修等調護一。上旣康復親レ政。太后撤レ簾。琦一日出二空頭勅一。修已僉。趙槩未レ僉。修曰第書レ之。韓公必有レ說。琦坐二政事堂一。召二內侍任守忠一。立二庭下一曰。汝罪當レ死。責蘄州安置。蓋交鬪二兩宮一之人也。

措、或は常度を改め、宦官を遇する尤も恩少し。左右多く悅ばず。乃ち共に讒間を爲す。兩宮遂に隙を成す。宰相韓琦、參政歐陽修等の調護せるに賴り、上、旣に康復して政を親らし、太后簾を撤す。琦、一日、空頭の勅を出す。修已に僉す。趙槩未だ僉せず。修曰く、第之に書せよ。韓公、必ず說有らん。と。琦、政事堂に坐し、內侍任守忠を召して、庭下に立たしめて曰く、汝の罪死に當ると。責めて蘄州に安置す。蓋し交〻兩宮を鬪かはしめし人也。

(一) 擧動措置常規を逸す　(二) 讒言離間　(三) 調停保護　(四) 授くる人の名を空白にせる勅書　(五) 署名す

議下崇二奉濮王一典禮上。執政欲レ稱二皇考一。又以二太后詔一。令二上

(一)濮王を崇奉する典禮を議す。執政、皇考と稱せんと欲す。又太后の詔を以て、上をして親と稱せしめんとす。司馬光・范鎭・呂誨・范純仁・呂大防・呂公著、交〻論じ

二年。改元者九。天聖。明道。則垂簾之政也。景祐以來。政由已出。寶元康定間。西鄙多事。慶曆更化。君子滿朝。至皇祐至和嘉祐。天下承平無事。恭儉之德。愛人恤物之心。自即位至升遐。終始如一日。遺制下。雖深山窮谷。莫不奔走。悲號而不能止。壽五十四。皇子立。是爲英宗皇帝。

づ。寶元・康定の間は西鄙多事なりき。慶曆更め化し、君子朝に滿つ。皇祐・至和・嘉祐に至りて、天下承平無事なり。恭儉の德、人を愛し物を恤むの心、即位より升遐(二)に至るまで、終始一日の如し。遺制下りて、深山窮谷と雖も奔走(三)せざる莫く、悲號して止む能はず。壽五十四。皇子立つ。これを英宗皇帝と爲す。

(一) 太后の御簾を垂れて政を聽きたる時代也　(二) 崩御　(三) 皆奔走して相告げ

英宗皇帝。初名宗實。濮安懿王允讓之子。太宗之曾孫也。仁宗立

英宗皇帝

英宗皇帝、初めの名は宗實。濮の安懿王允讓の子、太宗の曾孫也。仁宗立てて皇子と爲し、名を曙と賜ふ。仁宗崩ず。固く避くること數四、而して後位に即く。憂疑を以て疾を致す。慈聖光獻曹太后、權に同じく政を聽く。上の擧(一)

石。遷レ官。遷遷不レ已。至二知制誥一。則不二復辭一レ官矣。安石侍二侍宴一。賞レ花釣魚宴。誤食二釣餌一。已悟而食之。旣上以二其不情而遂一レ非惡レ之。安石有二重名一。士爭向レ之。惟蘇洵不レ見。著二辯姦論一。亦以爲三不レ近二人情一必大姦慝。司馬光知二諫院一進二三劄一。一論二君德有一レ三。曰仁。曰明。曰武。二論レ御レ臣。曰任レ官。曰信レ賞。曰必レ罰。三論レ揀レ軍。又進二五規一。曰保レ業。曰惜レ時。曰遠レ謀。曰謹レ微。曰務レ實。

安石重名有り。士爭ひて之に向ふ。惟蘇洵のみ見ず、辯姦論を著し、亦た以爲らく、人情に近からず、必ず大姦慝あらんと○司馬光、諫院に知たり。三劄を進む。一に君德に三有るを論ず。曰く仁、曰く明、曰く武。二に臣を御するを論ず。曰く、官に任ず。曰く、賞を信にす。曰く、罰を必す。三に軍を揀ぶを論ず。又、五規を進む、曰く、業を保つ。曰く、時を惜む。曰く、謀を遠くす。曰く、微を謹む。曰く、實を務むと。

● 釣針につきたる餌 ● 大姦惡 ● 三通の書面

策二制科人一。得二蘇軾蘇轍一。曾公亮平章事。上在位四十

○制科の人を策して、蘇軾・蘇轍を得たり。曾公亮、平章事たり○上、在位四十二年、改元するもの九。天聖・明道は則ち垂簾の政也。景祐以来は、政己より出

使二麗箝一罷。陳執中梁適平章事。適罷。劉沆代レ之。執中罷。文彦博。富弼竝同平章事。士大夫相慶得レ人。上曰。人情如レ此。豈不レ賢二於夢卜一哉。上嘗問二王素一。孰可レ爲レ相。素曰。惟宦官宮妾不レ知二姓名一者。可レ充二其選一。上慨然曰。如レ此則富弼耳。

の如し、豈に夢卜に賢らずやと。上嘗て王素に問ふ、孰か相と爲す可き。素曰く、惟宦官宮妾の、姓名を知らざる者、其選に充つ可しと。上、慨然として曰く、此の如くんば則ち富弼のみと。

● 殷の高宗は夢によりて傅説を擧げ、周の文王は卜によりて呂尙を得たり、今文彦博と富弼とを得たるに一般の人情之を喜ぶこと斯くの如し、豈夢と卜との故事にもまさらずやと也

契丹主宗眞殂。號二興宗一。子洪基立。交趾李德政卒。子日遵立。劉沆罷。文彦博罷。韓琦平章事。富弼罷。王安石知制誥。安

○契丹の主宗眞、殂す。興宗と號す。子洪基立つ○交趾の李德政、卒す。子日遵立つ○劉沆罷められ、文彦博罷められ、韓琦、平章事たり。富弼罷めらる○王安石知制誥たり。安石、官を遷さるゝ毎に遜避して已まざりしが、知制誥に至りて則ち復た官を辭せず。安石、嘗て花を賞し、魚を釣る宴に侍し、誤りて鉤餌を食ふ。已に悟りて、之を食ひ既す。上、其不情にして非を遂ぐるを以て、之を惡む。

臣。策命爲二夏國王一。名二曩霄一。歲賜二銀絹茶綵二十五萬五千一。遂不二復寇一レ邊。卒。子諒祚立。陳執中以レ無レ所二建明一罷。夏竦罷。宋庠代レ之。尋同平章事。未レ幾罷。張貴妃兄。堯佐。一日除二四使一。監察御史裏行唐介論レ之。不レ聽。遂劾奏。文彥博向守レ蜀。以二燈籠錦一獻二貴妃一。得二執政一。故黨二堯佐一。上怒遠二貶介一。彥博亦求レ罷。龐籍平章事。

事たり。未だ幾くならずして罷めらる○張貴妃の兄堯佐、一日、四使に除せらる。監察御史裏行唐介之を論ず。聽かれず。遂に劾奏すらく、文彥博向に蜀に守たりしとき、燈籠錦を以て貴妃に獻じ、執政を得たり。故に堯佐に黨すと。上、怒りて介を遠貶す。彥博亦た罷めんと求む。龐籍平章事たり。

㊀ 貝州の宣毅軍の卒の王則　㊁ 關節を通じて　㊂ いろ糸　㊃ 彈劾上奏するやう

廣源州儂智高寇二廣州一。連歲陷二諸州一。自レ邕至二廣西一。皆被二其害一。命二樞副狄靑一。討平レ之。還爲二樞密

○廣源州の儂智高、廣州に寇し、連歲諸州を陷れ、邕より廣西に至るまで皆其害を被る。樞副狄靑に命じ討ちて之を平げしむ。還りて樞密使と爲る○龐籍罷めらる○陳執中・梁適、平章事たり。適罷められ、劉沆之に代る。執中罷められ、文彥博・富弼竝に同平章事たり。士大夫、人を得たるを相慶す。上曰く、人情此

誘。故仲淹等不レ安二於朝一。歐陽修亦出使二河北一。晏殊罷。杜衍同平章事。衍務裁二僥倖一。毎二内降一。率寢格不レ行。積二詔旨一十數。輒納二上前一。上嘗語二諫官一曰。外人知三衍封二還内降一邪。朕在二宮中一。毎以レ不レ可告而止者。多三於所二封還一也。會衍婿蘇舜欽。監二進奏院一。用下鬻二故紙一公錢上。祀レ神會レ客。御史中丞王拱辰。素不レ便二衍等所一レ爲。因攻二其事一。置レ獄得レ罪者數人。拱辰喜曰。吾一網打去盡矣。衍相七十日而罷。賈昌朝平章事兼樞密使。韓琦罷二樞副一知二揚州事一。章得象罷。陳執中平章事。昌朝罷。夏竦代爲二樞密使一。

平章事たり。昌朝罷められ、夏竦代りて樞密使と爲る。

(一)條目をつらねて奏す (二)恩惠と威信とをひろくしき及ぼせ (三)此人々を信じ心の傾き向へる最中なれば (四)内意の降るもの (五)握りつぶして (六)杜衍が承知せぬからと

貝州卒王則反。文彦博宣二撫河北一。討平レ之。彦博入爲二平章事一。趙元昊慶曆初嘗因二范仲淹一請レ和。反覆數歲。竟納レ款復稱レ

○貝州の卒王則反す。文彦博河北を宣撫す。討ちて之を平らぐ。彦博入りて平章事と爲る○趙元昊、慶曆の初、嘗て范仲淹に因りて和を請ひ、反覆數歲竟に款を納れて復た臣と稱す。策命して夏國王と爲し、曩霄と名づけ、歲ごとに銀絹茶綵二十五萬五千を賜ふ。遂に復た邊に寇せず。卒す。子諒祚立つ○陳執中、建明する所無きを以て罷めらる○夏竦罷められ、宋庠之に代る。尋ぎて同平章

黜陟。二曰抑僥倖。三曰精貢擧。四曰擇官長。五曰均公田。六曰厚農桑。七曰修武備。八曰減徭役。九曰覃恩信。十曰重命令。上方信向。悉用其說。惟武備欲復府兵。一說宰相以爲不可。時章得象。晏殊竝同平章事。未幾。仲淹宣撫陝西河東。富弼宣撫河北。竦等造

と。上方に信向せるをもて悉く其說を用ふ。惟だ武備、府兵を復せんと欲する一說は、宰相以て不可と爲す。時に章得象・晏殊竝に同平章事たり。未だ幾くならず、仲淹、陝西・河東を宣撫し、富弼、河北を宣撫す。竦等謗を造る。故に仲淹等朝に安んぜず、歐陽修亦た出でゝ河北に使す。晏殊罷めらる。杜衍同平章事たり。衍務めて僥倖を裁す。內降ある每に、率ね寢格して行はず、詔旨を積むこと十數なれば、輒ち上の前に納る。上、嘗て諫官に語りて曰く、外人、衍が內降を封じ還すを知るか。朕宮中に在りて每に可かざるを以て告げて止むる者封じ還す所よりも多しと。會〻衍の婿蘇舜欽、進奏院に監とし、故紙を鬻ぎし公錢を用て、神を祀り客を會す。御史中丞王拱辰、素より衍等の爲す所を便とせず。因りて其事を攻む。獄を置きて罪を得る者數人なり。拱辰喜びて曰く、吾、一網に打ち去り盡せりと。衍、相たること七十日にして罷めらる。賈昌朝平章事兼樞密使たり。韓琦、樞副を罷められて、揚州の事に知たり。章得象罷められ、陳執中

竦也。仲淹琦適自二陝西一來。道中得レ詩。仲淹拊レ股謂レ琦曰。爲二此怪鬼輩一壞レ事。竦因與二其黨一造レ論。目二衍等一爲二黨人一。歐陽修乃作二朋黨論一上レ之。略曰。小人無レ朋。惟君子有レ之。小人同レ利之時。暫爲レ朋者僞也。及二其見レ利而爭レ先。或利盡而情疎。反相賊害。君子修レ身則同レ道而相益。事レ國則同レ心而共濟。終始如レ一。此君子之朋也。爲レ君者。但當下退二小人之僞朋一。進中君子之眞朋上則天下治矣。

者、但だ當に小人の僞朋を退けて、君子の眞朋を進むべし。則ち天下治まらんと。

㊀一本のちがやを引き拔くに、根相連りて幾本も同時に拔くるが如し　㊁鷄のけづめのぬけ落ちて他の鷄の害を爲す能はざるが如し　㊂怪しき鬼の如き夏竦の輩　㊃友情うとくなる

仲淹遷二參政一。富弼爲二樞副一。上既擢二仲淹等一。每二進見一。必以二太平一責レ之。開二天章閣一召對。賜レ坐給二筆札一。仲淹等皆惶恐。退列二奏十事一。一曰。明二

○仲淹參政に遷り、富弼、樞副と爲る。上、既に仲淹等を擢んで、進見する每に、必ず太平を以て之を責め、天章閣を開きて召對し、坐を賜ひ、筆札を給す。仲淹等皆惶恐す。退きて十事(一)を列奏す。一に曰く、黜陟を明にせよ。二に曰く、僥倖を抑へよ。三に曰く、貢擧を精しくせよ。四に曰く、官長を擇べ。五に曰く、公田を均しくせよ。六に曰く、農桑を厚くせよ。七に曰く、武備を修めよ。八に曰く、徭役を減ぜよ。九に曰く、恩信を覃べよ(二)。十に曰く、命令を重くせよ

呂夷簡求レ罷。上遂欲レ更二天下弊事一。增二諫官員一。命二王素。歐陽修。余靖。蔡襄一。供二諫院職一。以二韓琦。范仲淹一。爲二樞密副使一。召二夏竦一爲二樞密使一。諫官論罷レ竦。以二杜衍一代レ之。國子直講石介喜曰。此盛德事也。乃作二慶曆聖德詩一。有レ曰。衆賢之進如二茅斯拔一。大姦之去如二距斯脫一。大姦指レ

○呂夷簡罷めんことを求む。上、遂に天下の弊事を更めんと欲す。諫官の員を增し、王素・歐陽修・余靖・蔡襄に命じて、諫院の職に供せしめ、韓琦・范仲淹を以て樞密副使と爲し、夏竦を召して樞密使と爲す。諫官、論じて竦を罷め、杜衍を以て之に代ふ。國子直講石介喜びて曰く、此れ盛德の事也と。乃ち慶曆聖德の詩を作る。曰へる有り、衆賢の進むは（一）茅の斯に拔くるが如く、大姦の去るは距の斯に脫するが如しと。大姦は竦を指す也。仲淹・琦、適〻陝西より來り、道中に詩を得たり。仲淹、股を拊ちて琦に謂ひて曰く、此（二）怪鬼輩の爲に事を壞らると。竦、因りて其黨と論を造り、衍等を目して黨人と爲す。歐陽修乃ち朋黨論を作りて之を上る。略に曰く、小人は朋無し、惟だ君子のみ之有り。小人の利を同じくする時、暫く朋を爲す者は僞也。其の利を見るに及びて先を爭ひ、或は利盡きて（三）情疎に、反りて相賊害す。君子身を修むれば則ち道を同じくして相益し、國に事ふれば則ち心を同じくして共に濟ふ。終始一の如し。此れ君子の朋也。君たる

語ニ曰。軍中有ニ一韓一。西賊聞レ之心膽寒。軍中有ニ一范一。西賊聞レ之驚ニ破膽一。昊之不レ得ニ大逞一。蓋藉ニ琦仲淹之宣レ力居レ多。

契丹乘ニ朝廷有ニ西夏之撓一。遣ニ泛使一求ニ石晉所レ割周世宗所レ取關南地一。知制誥富弼接伴。時夷簡任レ事。人莫ニ敢抗一。弼數侵レ之。夷簡欲ニ因レ事罪レ弼。以レ弼報使。弼至。往返論難。力拒ニ其割レ地。使還。再遣。而國書故爲ニ異同一。夷簡欲ニ以陷レ弼。弼疑而啓觀。乃復回奏。面ニ責夷簡一。易レ書而往。增ニ歲賂銀絹各十萬一。定ニ和議一而還。

契丹、朝廷の西夏の撓有るに乘じて、泛使(一)を遣して、石晉の割きし所、周の世宗の取りし所の關南の地を求めしむ。知制誥富弼接伴す。時に夷簡事に任じ、人敢て抗する莫し。弼、數ゝ之を侵す。夷簡事に因りて弼を罪せんと欲し、弼を以て報(三)使とす。弼至り、往返論難(二)力めて其の地を割くを拒む。使し還れば再び遣る。而も國書故らに異同を爲す。夷簡以て弼を陷れんと欲せしなり。弼疑ひて啓き觀る。乃ち復た回奏し、夷簡を面責し、書を易へしめて往き、(四)歲賂銀絹各ゝ十萬を增し、和議を定めて還る。

(一) 常使外の臨時の使者。原註は泛海之使とす (二) 反抗す (三) 返報の使者 (四) 年々の賂

略西夏。聞元昊將攻延州。雍甚閉門不救。劉平戰。中官黄德和誣奏平降賊。以兵圍其家。將收其族。富弼言。平自環慶來援。邊臣不救。故敗。爲賊而死。德和誣人以免。坐腰斬。范雍罷。時軍興多事。張士遜無所補。諫官韓琦上疏曰、政事府豈養病坊邪。於是士遜致仕。呂夷簡復相。用韓琦范仲淹爲邊帥。仲淹嘗兼知延州。夏人相戒曰、毋以延州爲意。小范老子胸中自有數萬甲兵。不比大范老子可欺也。邊人爲之

故に敗れ、賊を爲りて死す。德和人を誣ひて免れんことを冀ふなりと。坐して腰斬せらる。范雍罷めらる。時に軍興りて多事なれども、張士遜補ふ所無し。諫官韓琦上疏して曰く、政事府は豈養病坊ならんやと。是に於て士遜致仕す。呂夷簡復た相たり。韓琦・范仲淹を用ひて邊帥と爲す。仲淹、嘗て兼ねて延州に知たり。夏人、相戒めて曰く、延州を以て意と爲す毋れ。小范老子、胸中自ら數萬の甲兵有り。大范老子の欺く可きに比せざる也と。邊人之が語を爲して曰く、軍中に一韓有り。西賊之を聞きて、心膽寒し。軍中一范有り。西賊之を聞きて膽を驚破すと。昊の大に逞しくするを得ざりしは、蓋し琦・仲淹の力を宣ぶること多きに居りしに藉れるなり。

(一)辭職　(二)病院　(三)邊境守備の將　(四)延州を取らんとの考をおこす勿れ　(五)仲淹を指す　(六)范雍を指す　(七)韓琦をさす　(八)范仲淹を指す

罷也。以二郭皇后之言一。及二復入一。而后有二尙美人爭レ寵之隙一。遂廢二郭后一。夷簡有レ力焉。臺諫孔道輔。范仲淹爭。不レ得而出。仲淹還レ朝爲二待制一。知二開封府一。言レ事愈急。數議二時政一。夷簡訴二其越一レ職。罷知二饒州一。館閣余靖尹洙爭レ之。皆坐貶。歐陽修責二諫官高若訥不一レ諫。謂不レ知二人間有一レ羞恥事一。若訥奏二其書一。亦貶。蔡襄作二四賢一不肖詩一。四賢指二仲淹。洙。靖。修一。不肖指二若訥一也。王曾因レ對斥二夷簡納レ賂示一レ恩。夷簡曾並罷。王隨陳堯佐代レ之。以レ無レ所二建明一而罷。張士遜。章得象代レ之。

らる。張士遜・章得象之に代る。

㈠上の寶母李氏、一言の不平もなく默して眞宗のきさきの中にまじり居り、上の母として特別に威張る如き事なかりき ㈡夷簡の言、他日夷簡云々の夷簡は自ら名いふ也 ㈢建議開明する所

趙元昊。據二有夏銀綏宥靈鹽會勝甘涼瓜沙肅州之地一。居二興州一。阻二賀蘭山一爲レ固。僭二號大夏皇帝一。入寇。西邊騷然。范雍經二

○趙元昊、夏・銀・綏・宥・靈・鹽・會・勝・甘・涼・瓜・沙・肅州の地を據有し、興州に居り、賀蘭山を阻して固と爲し、大夏皇帝と僭號して入寇す。西邊騷然たり。范雍、西夏を經略す。元昊が將に延州を攻めんとするを聞き、懼るゝこと甚しく、門を閉ぢて救はず。劉平戰ふ。中官黃德和、平、賊に降ると誣奏し、兵を以て其家を圍み、其族を收めんと議す。富弼言ふ、平、環慶より來り援ひ、姦臣救はず。

敢言疾革。乃進位宸妃而薨。宰相呂夷簡奏太后宜備禮以葬曰他日莫道夷簡不曾說來。宸妃卒。臨一年太后崩。稱制十一年。上始親政。先是呂夷簡張士遜竝相。夷簡罷。李迪相。而士遜爲首相。無所發明而罷。夷簡復相。迪罷。王曾復相。而權在夷簡。夷簡之初

制を稱すると十一年。上、始めて政を親らす。是より先呂夷簡・張士遜竝に相たり。夷簡罷められ、李迪相たり。而して士遜首相たり。發明する所無くして罷めらる。夷簡、復た相たり。迪罷む。王曾復た相たり。而して權は夷簡に在り。夷簡の初め罷められしは郭皇后の言を以てす。復た入るに及びて、后、尚美人が寵を爭ふの隙有り。遂に郭皇后を廢す、夷簡力有り。臺諫孔道輔・范仲淹爭へども得ずして出づ。仲淹、朝に還りて待制と爲り、開封府に知たり。事を言ふこと愈ゝ急に、數ゝ時の政を議す。夷簡、其職を越ゆるを訴ふ。罷めて饒州に知たらしむ。館閣余靖・尹洙之を爭ふ。皆坐して貶せらる。歐陽修諫官高若訥の諫めざるを責め、謂ふ、人間羞恥の事有るを知らずと。若訥、其書を奏す。亦た貶せらる。蔡襄、四賢一不肖の詩を作る。四賢は仲淹・洙・靖・修を指し、不肖は若訥を指す也。王曾、對に因りて夷簡が賂を納れて恩を示すを斥く。夷簡・曾竝に罷めらる。王隨・陳堯佐之に代る。建明する所無きを以て罷め

交趾黎桓。景德中卒。子龍廷殺其兄龍鉞而自立。來貢。賜名至忠。大中祥符閒。至忠卒。子幼。弟爭立。大校李公蘊遂殺之而自立。至是。公蘊卒。子德政立。來告喪。封交趾郡王。契丹主隆緒殂。號聖宗。子宗眞立。西夏趙德明卒。子元昊立。

○交趾の黎桓、景德中に卒す。子龍廷其兄龍鉞を殺して自立し、來貢す。名を至忠と賜ふ。大中祥符の閒、至忠卒す。子幼なり。弟立つを爭ふ。大校李公蘊、遂に之を殺して自立す。是に至りて公蘊卒す。子德政立ち、來りて喪を告ぐ。交趾郡王に封ぜらる○契丹主隆緒、殂す。聖宗と號す。子宗眞立つ○西夏の趙德明卒す。子元昊立つ。

(一) 眞宗の景德三年なり (二) 綱目に「至忠」に作る、從ふべし

劉太后以上爲己子。而上母李氏默默處先朝嬪御中。未嘗自異。人亦畏后。不

○劉太后、上を以て己の子と爲す。而して上の母李氏默默として先朝の嬪御の中に處りて、未だ嘗て自ら異にせず。人亦后を畏れて敢て言はず。疾革まる、乃ち位を宸妃に進めて薨ず。宰相呂夷簡太后に奏す。宜しく禮を備へて以て葬るべし。曰く、他日、夷簡嘗て說き來らずと道ふ莫れと。宸妃卒し、一年を踰えて太后崩ず、

に至りて七年にして罷めらる。曾、初め進士に擧げられ、青州の發解、禮部、廷試、皆第一なり。人曰く、狀元三場喫著して盡きずと。曾、曰く、曾、平生の志、溫飽に在らずと。眞宗の末、色を正しくして朝に立つ。朝廷賴りて以て重きを爲す。相と作るの日、進退する所の士、知る者ある莫し。或ひと其故を問ふ。曾曰く恩を己に歸せんと欲せば、怨誰をして當らしめんと。

(一) 下文の「一笑す」に同じ (二) 呼也 (三) 天帝が (四) はぎあらはすこと (五) むほん心 (六) 水石多くして堤岸斷崖せる地 (七) 罪狀を責むる書 (八) 春秋の解釋と漢法の不道といふ語を引用して準の事を證する材料とせり。春秋に「君親無將將而必誅焉」の語あり、將に叛せんとする意あれば凡て謀叛を持たずして誅すと也。漢法不道とは大逆無道の意 (九) 丁は釘也、目の中の釘即ち邪魔物 (一〇) 郷の試驗、禮部の試驗、殿中の試驗 (一一) 狀元は進士第一の稱。三場所の試驗共第一なれば、生涯衣食に困することなかるべし (一二) 溫衣飽食

尸。參政王曾密奏。謂包二藏禍心一。眞宗山陵擅移二皇堂於絶地一。遂罷レ謂貶至二崖州司戸一。謂初命二學士一草二準貶詞一。令レ用二春秋無將漢法不道一。爲二中書事一。及二謂竄一。學士乃用二其語一。人快レ之。方二竄レ準時一。京師語曰。欲レ得二天下寧一。當レ拔二眼中丁一。欲レ得二天下好一。莫レ如レ召二寇老一。然準竟不レ及二北還一而卒。王曾爲レ相。王欽若再相。欽若卒。張知白相。知白卒。張士遜相。士遜罷。呂夷簡相。惟王曾自二天聖初一居二相位一。至レ是七年而罷。曾初舉二進士一。青州發解。禮部。廷試。皆第一。人曰。狀元三場喫著不レ盡。曾曰。曾平生之志。不レ在二溫飽一。眞宗末。正レ色立レ朝。朝廷賴以爲レ重。作レ相日。所二進退一士。莫レ有二知者一。或問二其故一。曾曰。恩欲レ歸レ己。怨使二誰當一。

不レ止。有二道人一言。能止二兒啼一。召入。則曰。莫レ叫莫レ叫。何似二當初莫一レ笑。啼卽止。蓋謂眞宗嘗籲二上帝一祈レ嗣。問二羣仙一誰當レ往者。皆不レ應。獨赤脚大仙一笑。遂命降爲二眞宗子一。在二宮中一。好二赤脚一。其驗也。自二昇王一。爲二太子一。年十三卽レ位。劉太后垂レ簾同聽レ政。丁謂用レ事。竄二寇準一爲二雷州司

を祈る。羣仙に問ふ、誰か當に往くべき者ぞと。皆應ぜず。獨り赤脚大仙一笑す。遂に(三)命じて、降りて眞宗の子と爲らしむ。宮中に在りて、(四)赤脚を好むは其驗也。昇王より太子と爲り、年十三、位に卽く。劉太后、簾を垂れて同じく政を聽く。丁謂、事を用ふ。寇準を竄して雷州の司戶と爲す。參政王曾、密に奏すらく、謂、(五)禍心を包藏し、眞宗の山陵擅に皇堂を(六)絶地に移すと。遂に謂を罷め、貶して崖州の司戶に至らしむ。謂、初め學士に命じて、準の(七)責詞を草するに、(八)春秋無將・漢法不道を用ひて證事と爲さしむ。謂の竄せらるゝに及び、學士乃ち其語を用ふ。人之を快とす。準を逐ふ時に方り、京師語りて曰く、天下の寧きを得んと欲せば、當に眼中の丁を拔くべく、天下の好みを得んと欲せば、寇老を召すに如くは莫しと。(九)然れども準竟に北に還るに及ばずして卒す。王曾、相と爲り、王欽若再び相たり。欽若卒す。張知白相たり。知白卒す。張士遜相たり。士遜罷められ、呂夷簡相たり。惟王曾、天聖の初より相位に居り、是

欲去則上遇之厚。及薨于位。遺令削髮披緇以斂。議者謂旦得君而不能以正自終。或比之馮道云。張詠嘗言。吾慚中得人最多。謹重有德望。無如李文靖。深沈才德鎮服天下。無如王公。面折廷爭素有風采。無如寇公。當方面之寄。則詠不敢辭。當旦之世。王欽若已相。欽若罷。寇準再入相。參政丁謂事準甚謹。嘗會食。羹汚準鬚。謂起拂之。準笑曰。參政國大臣。乃爲官長拂鬚邪。謂甚愧恨。準罷。李迪。丁謂爲相。準遂貶。迪罷。謂獨相。時上已有疾昏眊。如準罷貶。皆謂白中宮行之。上不知矣。尋崩。年五十五。在位改元者五。曰咸平。景德。曰大中祥符。曰天禧。乾興。太子立。是爲仁宗皇帝。

ずりき　偉人の名札　一方を鎮し一面に當るの寄託

仁宗皇帝。名禎。母李氏。章獻明肅劉皇后子之。眞宗得皇子已晩。始生晝夜啼

仁宗皇帝

仁宗皇帝、名は禎。母は李氏。章獻明肅劉皇后之を子とす。眞宗、皇子を得ること已に晩し。初め生れしとき、晝夜啼きて止まず。道人あり言ふ、能く兒啼を止めんと。召し入るれば、則ち曰く、叫ぶ莫かれ、叫ぶ莫かれ、何ぞ當初の笑ふ莫きに似かんと。啼くこと卽ち止む。蓋し謂ふ、眞宗嘗て上帝を籲びて嗣

細事。不ㇾ足ㇾ煩二上聽一。沆曰。人主少年。當ㇾ使ㇾ知二人間疾苦一。不ㇾ然。血氣方剛。不ㇾ留二意聲色犬馬一。則土木甲兵禱祠之事作矣。吾老。不ㇾ及ㇾ見。此參政他日之憂也。及二大中祥符。封禪祠祀土木並興。且乃歎曰。李文靖眞聖人也。每ㇾ有二大禮一。且輒以二首相一。奉二天書一以行。常悒悒不ㇾ樂。

を馮道に比すといふ。張詠嘗て言ふ、吾が榜中人を得ること最も多し。謹重にして德望あるは、李文靖に如くは無く、(四)深沈才德天下を鎭め服するは、王公に如くは無く、面折廷爭して素より風采有るは、寇公に如くは無し。(五)方面の寄に當りては、則ち詠、敢て辭せずと。旦の世に當りて、王欽若已に相たり。欽若罷められ、寇準再び入りて相たり。參政丁謂、準に事へて甚だ謹む。嘗て會食せしとき、羮、準の鬚を汚す。謂、起ちて之を拂ふ。準、笑ひて曰く、參政は國の大臣なり、乃ち官長の爲に鬚を拂はんやと。謂甚だ愧ぢ恨む。準罷められ、李迪・丁謂、相と爲る。準、遠く貶せられ、迪罷められ、謂獨り相たり。時に上已に疾有り、昏眩す。準の罷め貶せられたる如き、皆謂、中宮に白して之を行ひ、上は知らざりき。尋ぎて崩ず。年五十五。位に在りて改元する者五。曰く咸平・景德。曰く大中祥符。曰く天禧・乾興。太子立つ。是を仁宗皇帝となす。

(一) 心を音樂・女色・犬馬などに留めずとすれば (二) 暈染の衣 (三) 君の信任を得たれど正道を以て身を終る能は

六年。自元年呂端罷後張齊賢。李沆。呂蒙正。向敏中。畢士安。寇準。王旦。相繼爲相。惟旦居位十一年。嘗李沆爲相時。旦甫參政。沆喜讀論語。嘗曰。爲宰相如論語中節用而愛人使民以時兩句尚不能行。聖人之言終身誦之可也。沆日取四方水旱盜賊奏之。旦謂

畢士安・寇準・王旦、相繼ぎて相と爲る。惟り旦、位に居ること十一年。李沆の相たりし時に當りて、旦、甫めて參政たり。沆、喜びて論語を讀む。嘗て曰く、宰相と爲りて、論語中の、用を節して人を愛し、民を使ふに時を以てすといふ兩句の如き、尚行ふ能はず。聖人の言は、終身之を誦して可也と。沆、日〻に四方の水旱盜賊を取りて之を奏す。旦謂ふ、細事なり、上聽を煩すに足らずと。沆曰く、人主少年なり、當に人間の疾苦を知らしむべし。然らざれば、血氣方に剛なり、意を聲色犬馬に留めずんば、則ち土木甲兵禱祠の事作らん。吾老いたり、見るに及ばじ。此れ參政他日の憂也と。大中祥符に及んで、封禪祠祀土木竝び興る。旦、輙ち首相を以て天書を奉じ以て行く、常に悒悒として樂まず。去らんと欲すれば、則ち上之を遇すること厚し。位に歿するに及びて遺令すらく、髮を削り緇を披せて以て斂せよと。議者謂ふ、旦、君を得たれども、正を以て自ら終る能はざりきと。或は之

自遣二衆來取一。德明再拜受レ詔曰。朝廷有レ人。上既入二欽若之言一。數問二欽若一。何以刷レ恥。欽若知二上厭レ用レ兵。謬曰取二幽薊一乃可。上令レ思二其次一。乃請封禪以鎭二服四海一。誇二示夷狄一。又言。封禪當レ得二天瑞一。前代有下以二人力一爲ヒ之。河圖洛書果有レ此邪。聖人以二神道一設レ教耳。於レ是自二大中祥符一以來。數有二天書一降。東封二泰山一。西祀二后土於汾陰一。又有二趙氏祖九天司命天尊一降。天下立二天慶觀一。置二聖祖殿一。諱二聖祖名玄朗一。京師作二玉淸昭應宮一。且不レ能レ止二其事一。

薊を取らば乃ち可なりと。上其次を思はしむ。乃ち請ふ。封禪して以て四海を鎭服し、夷狄に誇示せんと。又言ふ、封禪は當に天瑞を得べし。前代、人力を以て之を爲す有り。河圖洛書果して此有らんや。聖人神道を以て敎を設けしのみと。是に於て、大中祥符より以來、數〻天書有りて降る。東のかた泰山に封じ、西のかた后土を汾陰に祀る。又趙氏の祖九天司命天尊有りて降る。天下に天慶觀を立て、聖祖殿を置き、聖祖の名玄朗を諱み、京師に玉淸昭應宮を作る。且も其事を止むる能はず。

㈠下の如き詔を與へんとす　㈡邊塞にたくはへある兵粮　㈢朝廷に賢人あり

上在位二十

○上、在位二十六年。元年、呂端罷められてより後、張齊賢・李沆・呂蒙正・向敏中・

章事。且王祐之子也。太祖嘗遣祐按事。謂祐還與王溥官職。祐不徇太祖意。竟不大用。祐曰。祐不做。兒子二郎必做。植三槐于庭曰。吾後世必有爲三公者。旦果爲相。深沈有德望。能斷大事。上心深屬之。

む。謂ふ、祐還らば王溥の官職を與へんと。祐、太祖の意に徇はず。竟に大に用ひられず。祐曰く、祐、做らずとも(一)兒子二郎は必ず做らんと。三槐(二)を庭に植ゑて曰く、吾が後世必ず三公と爲る者有らんと。是に至りて、旦、果して相と爲る。深沈にして德望有り。能く大事を斷ず。上、心深く(三)之に屬す。

(一)高官とならずとも　(二)三本のゑんじゆの木　(三)心の内に深く頼みに思へり

趙德明嘗以民饑上表乞糧。羣臣皆請責之。旦曰臣欲詔德明云。塞上儲糧不可與。已於京師積百萬。可

趙德明、嘗て民の饑ゑたるを以て、表を上りて糧を乞ふ。羣臣皆な之を責めんと請ふ。旦曰く、臣、德明に詔(一)せんと欲す。云く、塞(二)上の儲糧は與ふ可からず。已に京師に於て百萬を積む。自ら衆をして來り取らしむ可しと。德明再拜して詔を受けて曰く、朝廷人有りと。(三)上、既に欽若の言を入れ、數〻欽若に問ふ、何を以て恥を刷はんと。欽若、上の兵を用ふるを厭ふを知り、謬りて曰く、幽

曰。百姓皆兵。府庫皆財。不レ責ニ汝浪戰一。但失ニ一城一壁一。當下以ニ軍法一從上事。恐欽若沮ニ親征之議一。以ニ其有レ智且有レ福。出ニ欽若一知ニ天雄軍一。契丹至ニ城下一。欽若閉レ門束レ手無レ策。修レ齋誦レ經而已。上還レ自ニ澶淵一。待レ準極厚。欽若歸深恨レ準。嘗退レ朝。上目ニ送準一。欽若進曰。陛下敬レ準。爲三其有ニ社稷功一邪。城下之盟。春秋小國所レ恥也。上愀然。欽若每曰。澶淵之役。準以ニ陛下一爲ニ孤注一。上待レ準遂寢薄。尋罷レ相。

浪りに戰ふを責めず。但だ一城一壁を失はゞ、當に軍法を以て事に從ふべし(一)と。欽若が親征の議を沮まんことを恐れ、其智有り且福有るを以て、欽若を出して天雄軍に知たらしむ。契丹城下に至る。欽若、門を閉ぢ、手を束ねて策なく、(二)齋を修し、經を誦するのみ。上、澶淵より還り、準を待つこと極めて厚し。欽若歸りて深く準を恨む。嘗て朝より退くや、上、準を目送す。欽若進みて曰く、陛下の準を敬するは、其社稷の功有るが爲か。城下の盟は、春秋の小國も恥づる所なりと。上、愀然たり。欽若每に曰く、澶淵の役、準、陛下を以て孤(三)注と爲すと。上、準を待つこと遂に寢く薄し。尋ぎて相を罷む。

(一) 處分すべし　(二) ものいみして佛經を誦す　(三) 賭博にありたけの錢をかけて勝負を決する其錢をいふ

以ニ王旦一同平

王旦を以て同平章事とす。旦は王祐の子也。太祖嘗て祐を遣して事を按せし

帛一以和。準意亦不レ欲レ與。且畫策以進曰。如レ此則可レ保二百年無事一。不レ然數十歲後戎復生レ心。準豈欲三擊レ之使二隻輪不一レ返。上曰數十歲後。當レ有二能禦レ之者一。吾不レ忍二生靈重困一。姑聽二其和一。遂再遣二利用往一。利用請二歲賂金帛之數一。上曰。必不レ得レ已。雖二百萬一亦可。準召語レ之曰。雖レ有二勅旨一。不レ得レ過二三十萬一。如過二此數一。勿二來見一レ準。準斬レ汝矣。利用卒以二絹二十萬。銀十萬一定二和議一。南朝爲レ兄。北朝爲レ弟。交誓約。各解レ兵歸。

用をして往かしむ。利用歲ごとに賂ふ金帛の數を請ふ。上曰く、必ず已むを得ずんば百萬と雖も亦た可なりと。準召して之に語りて曰く、勅旨有りと雖も三十萬に過ぐるを得ず。如し此數を過ぎば、來りて準を見る勿れ。準汝を斬らんと。利用卒に絹二十萬、銀十萬を以て和議を定め、南朝(五)を兄とし、北朝(六)を弟とし、交〻誓約し、各〻兵を解きて歸る。

(一) 大いに兵を擧げしかども (二) どうありても與ふるを得べからず (三) 之を擊ちて鏖(ミナゴロシ)にし、車の片輪だにも國へは返さじと思ひし也 (四) 人民 (五) 中國 (六) 契丹

準初發二京師一。命二朝士一。出知二諸州一。皆於二殿廊一受レ勅。戒レ之

準、初め京師を發せしとき、朝士に命じて出でゝ諸州に知たらしめ、皆殿廊に於て勅を受けしむ。之を戒めて曰く、百姓は皆兵にして、府庫は皆財なり。汝に

誓死。大挫退却。不二敢動一。寇準力勸レ上渡レ河。殿前帥高瓊亦力贊。猶豫閒。瓊麾二衞士一進レ輦曰。陛下若不レ過レ河。百姓如レ喪二考妣一。梁適訶レ之。瓊怒曰。君輩此時尙責二人失禮一。何不下賦二一詩一退上レ虜耶。遂擁レ上以渡。既至二澶州一。登二北城一。張二黃旗幟一。諸軍皆呼二萬歲一。聲聞二數十里一。契丹氣奪。

父母の喪に居るが如く力を落してなげき悲まん　(五) 近侍の文臣梁適、その禮を失するをしかる

先レ是王繼忠者陷レ虜。嘗言二和好之利一。故雖二大擧一。亦遣レ使以二繼忠書一來。上命二曹利用一報レ之。至レ是利用與二契丹使者韓杞一偕來。請二世宗所レ取關南故地一。上曰。地必不レ可レ得。寧與二金

是より先王繼忠といふ者虜に陷る。嘗て和好の利を言ふ。故に大擧すと雖も亦使を遣はし繼忠の書を以て來らしむ。上、曹利用に命じて之に報ぜしむ。(一)是に至り利用、契丹の使者韓杞と偕に來り、世宗が取りし所の關南の故地を請ふ。上曰く、地は必ず得可からず。寧ろ金帛を與へて以て和せんと。準の意亦與ふるを欲せず。且畫策(二)して以て進めて曰く、此の如くならば則ち百年の無事を保つ可し。然らざれば數十歲の後戎復た心を生ぜんと。準は蓋し之を擊ちて隻輪(三)をも返らざらしめんと欲せしなり。上曰く、數十歲の後は當に能く之を禦ぐ者有るべし。吾、生靈(四)の重ねて困しむに忍びず。姑く其和を聽かんと。遂に再び利

參政陳堯叟蜀人。請レ幸レ蜀。王欽若江南人。請レ幸二江南一。上以問二宰相寇準一。準問誰畫二此策一。上曰。卿姑斷二其可否一。勿レ問也。準曰。臣欲レ得二獻策之臣一。斬以釁レ鼓。然後北伐耳。上定二親征之議一。上駐二蹕韋城一。尋至二衞南一。契丹擁レ兵抵二澶州一。圍二合三面一。李繼隆等出禦レ之。契丹撻覽中レ

ことを請ふ。上以て宰相寇準に問ふ。準問ふ、誰か此策を畫せる。上曰く、卿姑く其可否を斷ぜよ。問ふこと勿れ。準曰く、臣、策を獻ずるの臣を得て、斬りて以て鼓に釁り、然る後北伐せんと欲するのみと。遂に親征の議を定む。(二)上、蹕を韋城に駐め、尋ぎて衞南に至る。契丹兵を擁して澶州に抵り、三面を圍合す。李繼隆等出でゝ之を禦ぐ。契丹の撻覽、弩に中りて死す。大に挫けて退却し、敢て動かず。寇準力めて上を勸めて河を渡らしむ。殿前師高瓊も亦力め贊く。(三)猶豫の間、瓊衞士を麾きて、輦を進めて曰く、陛下若し河を過ぎざれば、百姓、(四)考妣を喪ふが如けんと。(五)梁適之を呵す。瓊、怒りて曰く、君が輩此時尚ほ人の失禮を責む。何ぞ一詩を賦して虜を退けざるかと。遂に上を擁して以て渡る。既にして澶州に至り、北城に登り、黃旗幟を張る。諸軍皆萬歲と呼ぶ。聲數十里に聞え、契丹氣奪はる。

(一)逃れ去らんことをすゝむる也　(二)所謂出陣の血祭を舉げんと也　(三)彼れ此れとしばらくためらふ間に　(四)

契丹。求二援於高陽關都部署康保裔一。亟赴レ之。延召潛遁。保裔爲レ所レ圍。力戰死レ之。

李繼遷。先朝奪二所レ賜姓名一。寇レ邊不レ已。攻陷二靈州一。西涼六合酋長潘羅支。乞會二王師一討レ之。繼遷攻陷二西涼府一。潘羅支要而擊レ之。繼遷中二流矢一。死二於靈州之境一。其子德明請レ降。復賜二姓趙一。後封爲二西平王一。楊嗣楊延朗。智勇善戰。加二團練使一。虜憚レ之。目曰二楊六郞一。

○李繼遷、先朝賜ふ所の姓名(一)を奪はれ、邊に寇して已まず。攻めて靈州を陷る。西涼六合の酋長潘羅支、乞ひて王師に會して之を討つ。繼遷攻めて西涼府を陷る。潘羅支要して之を擊つ。繼遷流矢に中りて靈州の境に死す。其子德明降を請ふ。復姓を趙と賜ふ。後封ぜられて西平王と爲る○楊嗣•楊延朗は智勇にして善く戰ふ。團練使(二)を加ふ。虜之を憚り、目して楊六郞と曰ふ。

(一)趙保吉といふ姓名　(二)官職の名

景德元年。契丹主與二其母蕭氏一。大擧入寇。中外震駭。

景德元年、契丹主、其母蕭氏と大擧して入寇す。中外震ひ駭く。參政陳堯叟は蜀の人なり。蜀に幸(一)せんことを請ふ。王欽若は江南の人なり。江南に幸せん

上一者上語レ之曰。我非二汝主一。來和天尊汝主也。指示令レ謁レ之。礪後進士第一。入爲二襄王府記室一。既謁。如二夢中所一レ見。太宗嘗遣二相者一詣二襄王一。及レ門而返曰。王門厮役皆將相也。王可レ知矣。立爲二太子一。至レ是卽レ位。更二名恆一。

て襄王府の記室と爲る。既に謁すれば、夢中見る所の如し。太宗嘗て相者を遣はして襄王に詣らしむ。門に及び返りて曰く、王の門は厮役も皆將相也、王は知る可しと。立ちて太子と爲る。是に至りて位に卽き、名を恆と更む。

(一)道家の奉ずる神の名　(二)賤き役　(三)厮は薪を折る者

咸平二年。契丹入寇。上親征。至二大名府一而還。三年。益州卒王均反。僭二號大蜀一。以二雷有終一知レ州。討擒レ之。益州平。范廷召擊二

○咸平二年、契丹入寇す。上、親征し、大名府に至りて還る○三年、益州の卒王均反し、大蜀と僭號し、雷有終を以て州に知とす。討ちて之を擒にす。益州平ぐ○范廷召、契丹を擊ち、援を高陽關の都部署康保裔に求む。亟に之に赴く。廷召潛に遁る。保裔爲に圍まれ、力戰して之に死す。

見ニ其箋一則論語也。嘗謂レ上曰。臣有ニ論語一部一。以ニ半部一。佐ニ太祖一定ニ天下一。以ニ半部一。佐ニ陛下一致ニ太平一。蒙正晩出。嘗與レ普並相。普甚推レ之。蒙正嘗置ニ册子夾袋中一。疏ニ四方人才姓名一。以待ニ選用一。初太祖嘗以ニ張齊賢一屬レ上。至三齊賢擧ニ進士一。上欲レ置ニ之上第一。而有司第ニ其名一在レ下。乃詔一榜特與ニ通判一。卒至ニ大用一。呂端爲レ相。人謂呂相作レ事糊塗。上知レ之曰。端小事糊塗。大事不ニ糊塗一。自ニ上即レ位以來。以ニ小人一爲レ相者。盧多遜一人而已。太子立。是爲ニ眞宗皇帝一。

と。上、位に即きてより以來、小人を以て相と爲しゝは、盧多遜一人のみ。太子立つ。是を眞宗皇帝と爲す。

㊀事務の敏活 ㊁晩年に出身す ㊂はさみぶくろ ㊃事前に出づ、六七四頁を見よ ㊄齊賢の名を記したる進士の木札一枚に特に京官通判の役を授く ㊅コットツとも訓ず。曖昧にごまかして間にあはず

眞宗皇帝。初名元侃。封ニ襄王一。有ニ擧人楊礪一。嘗夢至ニ一大殿一。有下坐ニ殿

眞宗皇帝

眞宗皇帝、初めの名は元侃。襄王に封ぜらる。擧人楊礪といふもの有り、嘗て夢に一大殿に至る。殿上に坐する者有り、之に語りて曰く、我は汝の主に非ず。㊀來和天尊は汝の主也と。指し示して之に謁せしむ。礪後進士第一たり。入り

十二年。改元者五。曰太平興國。日雍熙。端拱。淳化。至道。壽五十九。薛居正。沈倫。趙普。宋琪。李昉。呂蒙正。張齊賢。呂端等。相繼爲相。普凡再入再罷。尋薨。普初以吏道聞。寡學術。太祖嘗勸以讀書。普遂手不釋卷。每朝有大議。輒闔戶自啓一篋。取一書閲之。及卒。家人

至道。壽五十九。薛居正・沈倫・趙普・宋琪・李昉・呂蒙正・張齊賢・呂端等、相繼ぎて相と爲る。普、凡そ再び入りて再び罷めらる。尋いで薨ず。普、初め吏道を以て聞え、學術寡し。太祖、嘗て勸むるに讀書を以てす。普、遂に手に卷を釋かず。朝に大議有る毎に、輒ち戶を闔ぢ、自ら一篋を啓き、一書を取りて之を閲す。卒するに及び、家人其篋を見れば、則ち論語也。嘗て上に謂ひて曰く、臣に論語一部有り。半部を以て太祖を佐けて天下を定め、半部を以て陛下を佐けて太平を致せりと。蒙正晩に出づ。嘗て普と竝びに相たり。普、甚だ之を推す。蒙正嘗て册子を夾袋の中に置き、四方人才の姓名を疏して以て選用を待つ。初め太祖、嘗て張齊賢を以て上に屬す。齊賢の進士に舉げらるゝに至り、上、之を上第に置かんと欲す。而るに有司其名を第して下に在り。乃ち詔して、一榜特に通判を與ふ。卒に大に用ひらるゝに至れり。呂端、相と爲る。人謂ふ、呂相事を作して糊塗すと。上之を知りて曰く、端、小事は糊塗すれど、大事は糊塗せず

交趾丁璉卒。大校黎桓囚二其宗族一。而專二其國一。上初命討レ之。無レ功。已而桓奉貢。竟以レ桓爲二交趾郡王一。時霖潦過レ度。上曰。朕於二刑獄一盡レ心。安得二積陰之讁一。寇準越レ班對言。某州局吏。侵二官錢一若干。於レ法爲二小過一。陛下殺レ之。王淮參政王沔之弟。盜二錢數百萬一。於レ法爲二大憝一。陛下以二沔故一。務相容蔽。如レ此而曰二刑獄盡一レ心。如レ之何無二積陰之讁一。上即日誅レ淮罷レ沔。俄而雨止。

上崩。在位二

○交趾の丁璉卒す。大校黎桓、其宗族を囚へて其國を專らにす。上、初め命じて之を討たしむ。功無し。已にして桓、奉貢す。竟に桓を以て交趾郡王と爲す。

○時に霖潦(一)、度に過ぐ。上曰く、朕、刑獄に於て心を盡す。安んぞ積陰の讁を得たる(二)。寇準、班を越えて(三)對へて言ふ、某州の局吏、官錢を侵すこと若干。法に於て小過と爲す。陛下之を殺せり。王淮は、參政王沔の弟なり。錢數百萬を盜む。法に於て大憝(四)と爲す。陛下、沔の故を以て、務めて相容し蔽ふ。此の如くにして刑獄に心を盡すと曰ふ。之を如何ぞ積陰の讁無からんやと。上、即日、淮を誅し、沔を罷む。俄にして雨止みぬ。

(一)なが雨　(二)陰氣の積りてなれる長雨の天罰　(三)己の席順を越えて　(四)大惡

○上、崩ず。在位二十二年。改元する者五。曰く太平興國、曰く雍熙・端拱・淳化・

繼遷。繼遷降。賜二姓名趙保吉一。保吉復寇レ邊。命二李繼隆一討レ之。保忠實已與二保吉一解レ仇。乞繼レ兵。上怒。命二繼隆一先移レ兵討レ之。繼隆入二夏州一。檻二送保忠於闕下一。保吉等亦請レ降而復叛。命二繼隆一討レ之。

めんと。上怒り、繼隆に命じて先づ兵を移して之を討たしむ。繼隆、夏州に入り、保忠を闕下に檻送す。保吉、尋ぎて亦降を請ひ、而して復叛す。繼隆に命じて之を討たしむ。

（一）中をはりを爲したり　（二）檻車に入れて送る

蜀自二既平一之後。府庫之物。悉載歸二內府一。土狹民稠。有司不レ無二賦外之科一。王小波起爲レ盜。小波死。李順繼レ之。攻二陷成都一。僭二號蜀王一。上命二王繼恩一討二擒之一。蜀平。

○蜀既に平ぎしより後、府庫の物悉く載せて內府に歸す。土狹く、民稠く、有司、賦外の科無きにあらず。王小波、起りて盜を爲す。小波死して、李順之に繼ぎ、成都を攻陷し、蜀王と僭號す。上、王繼恩に命じ、討ちて之を擒へしむ。蜀平ぐ。

（一）城內の府庫に該る　（二）規定の賦稅以外の取立物

爲ニ金碧熒煌一。臣以爲ニ塗レ膏釁レ血。上不レ怒。先レ是西夏李光叡卒。子繼筠嗣。又卒。弟繼捧嗣。繼捧來朝。獻ニ四州地一。其弟繼遷叛去。數入ニ寇邊一。契丹主明記殂。號ニ景宗一。子隆緒立。年十二。母蕭氏專ニ其國政一。上命ニ曹彬等一。分レ道伐ニ契丹一。彬兵大敗ニ於岐溝關一。詔班レ師。契丹自レ是連年入寇。後女眞以三契丹隔ニ其朝貢之路一。請レ撃レ之。不レ許。女眞遂臣ニ於契丹一。

邊に入寇す○契丹の主明記、殂す。景宗と號す。子隆緒立つ。年十二。母蕭氏、其國政を專らにす○上、曹彬等に命じ、道を分ちて契丹を伐たしむ。彬の兵、大に岐溝關に敗る。詔して師を班さしむ。契丹是より連年入寇す。後女眞、契丹が其朝貢の路を隔つるを以て、之を撃たんと請ふ。許さず。女眞遂に契丹に臣たり。

㊀ 金碧光り輝く、碧は青く美しき石の名　㊁ 人民の膏血を塗りたるもの

上賜ニ李繼捧姓名趙保忠一。授ニ節度使一。命管ニ夏銀綏宥靜五州一。使レ圖ニ

○上、李繼捧に姓名を趙保忠と賜ひ、節度使を授け、命じて夏・銀・綏・宥・靜の五州を管して、繼遷を圖らしむ。繼遷降る。姓名を趙保吉と賜ふ。保吉、復邊に寇す。李繼隆に命じて之を討たしむ。保忠言ふ、已に保吉と仇を解く(一)。乞ふ兵を罷

南山。結レ草爲レ廬。以二講習一爲レ務。後進多從レ之學。上聞召レ之。辭以二母老一。上高二其節一。厚賜二錢帛一旌レ之。呂蒙正爲二參政一。有二朝士一。指レ之曰。此子亦參政邪。蒙正佯不レ聞。同列欲レ詰二其姓名一。蒙正止レ之曰。若一知二名姓一。則終レ身不レ忘。不レ如レ無レ知也。

に従ひて學ぶ。上、聞きて之を召す。辭するに母の老いたるを以てす。上、其節を高しとし、厚く錢帛を賜ひて之を旌す○呂蒙生參政と爲る。朝士有り、之を指して曰く、(一)此子も亦參政かと。蒙生佯りて(二)聞かざるごとくす。同列其姓名を詰らんと欲す。蒙生之を止めて曰く、若し一たび名姓を知らば、則ち身を終ふるまで忘れじ。知る無きに如かざる也と。

(一) 侮嫚の言也　(二) 聞かぬふりす

召二華山陳摶一。賜二號希夷先生一。開寶寺塔成。前後八年。所レ費億萬。田錫奏曰。衆以

○華山の陳摶を召し、號を希夷先生と賜ふ○開寶寺の塔成る。前後八年、費す所億萬。田錫奏して曰く、衆は以て(一)金碧熒煌たりと爲し、臣は以て(二)膏を塗り血を釁ると爲すと。上怒らず○是より先西夏の李光叡卒す。子繼筠嗣ぐ。又卒す。弟繼捧嗣ぐ。繼捧、來朝して、四州の地を獻ず。其弟繼遷、叛きて去り、數々

中嘗夜驚。不レ知二上所一レ在。有下謀レ立二德昭一者上。上聞不レ悦。及レ歸以二北征不一レ利。不レ行下平二北漢一之賞上。德昭言レ之。上大怒曰。待二汝自爲一レ之。賞未レ晩也。德昭退而自刎。後二年。岐王德芳卒。自二太祖二子相繼死。齊王廷美不二自安一。佗日上嘗以二傳國意一訪二趙普一。普曰。太祖已誤。陛下豈容二再誤一邪。於レ是普復入相。廷美遂得レ罪。降二涪陵縣公一。普復使三知開封府李符告二其怨望一。南遷二房州一。尋殺レ之。普恐二李符漏一レ言。因下彈德超譖二曹彬一故上。以三符薦二德超一。貶二符春州一。卒。

く、汝の自ら之を爲さんことを待つも、賞は未だ晩しとせざる也と。德昭退きて自ら刎ぬ。後二年、岐王德芳卒す。太祖の二子相繼ぎて死せしより、齊王廷美自ら安んぜず。佗日、上、嘗て傳國の意を以て、趙普に訪ふ。普曰く、太祖已に誤る。陛下豈再び誤る容けんやと。是に於て普復た入りて相たり。廷美遂に罪を得て涪陵縣公に降さる。普、復、知開封府李符をして其怨望を告げしむ。南、房州に還し[三]、尋ぎて之を殺す。普、李符の言を漏さんことを恐れ、彈德超が曹彬を譖するの故に因りて、符が德超を薦めしを以て、符を春州に貶す。卒す。

(一) 騷動す　(二) 汝が天子と爲りて後之を行ふとも　(三) 「還」は「遷」の字の誤

种放隱二于終

○种放、終南山に隱れ、草を結びて廬と爲し、講習を以て務めと爲す。後進多く之

秩不ㇾ勝ㇾ任。惰慢不ㇾ親ㇾ事。免ㇾ官。贓吏配者。遇ㇾ赦不ㇾ叙。大理評事陳舜封奏ㇾ事口捷。擧止類二倡優一。問二誰氏子一。對以三父爲二伶官一。上曰汝眞雜類。豈得ㇾ任二清望官一。改授二殿直一。陳洪進來朝。獻二漳泉二州一。吳越王錢俶來朝。遂獻二其地一。命二潘美一伐二北漢一。尋親征圍二太原一。劉繼元出降。北漢亡。

遇ふも叙せず○大理評事陳舜封、事を奏するに、口捷くして擧止倡優に類す。誰が氏の子ぞと問ふ。對ふるに、父の伶官たるを以てす。上曰く、汝眞の雜類なり。豈清望の官に任ずることを得んやと。改めて殿直を授く○陳洪進、來朝し、漳・泉二州を獻ず○吳越王錢俶、來朝し、遂に其地を獻ず○潘美に命じて北漢を伐たしめ、尋ぎて親征して太原を圍む。劉繼元出で降り、北漢亡ぶ。

(一) 次第せしむ　(二) 政に倦み且つ軟弱　(三) 藝人　(四) 樂人　(五) 雜色下賤の徒　(六) 清要にして名譽ある官

詔征二契丹一。易州涿州來降。上攻二幽州一。踰ㇾ旬不ㇾ下。遂班ㇾ師。郡王德昭從征二幽州一。軍

○詔して契丹を征す。易州・涿州來り降る。上、幽州を攻む。旬を踰えて下らず、遂に師を班す。郡王德昭、從ひて幽州を征す。軍中嘗て夜驚く。上の在る所を知らず。德昭を立てんと謀る者有り。上、聞きて悅ばず。歸るに及び、北征利あらざるを以て、北漢を平げしの賞を行はず。德昭之を言ふ。上大に怒りて曰

太祖不豫。后遣王繼恩召皇子德芳。繼恩徑召晉王。王至宮中。散遣左右。所言皆不可得聞。但遙見燭影下。王有離席之狀。既而上引柱斧戳地。大聲曰。好爲之。遂崩。后見晉王。愕然曰。吾母子命皆託官家。王曰。共保富貴。無憂也。王卽位。更名炅。秦王廷美尹開封。改封齊王。德昭封武功郡王。

太祖不豫なり。后、王繼恩をして皇子德芳を召さしむ。繼恩徑ちに晉王を召す。王宮中に至れば左右を散遣す。(一)言ふ所皆聞くことを得可からず。但だ遙かに燭影の下を見れば、王、席を離るゝの狀有り。既にして、上、柱斧(二)を引きて地に戳し、大聲して曰く、好く之を爲せと。遂に崩ず。后、晉王を見、愕然として曰く、吾母子の命、皆官家(三)に託す。王曰く、共に富貴を保たん。憂ふること無れと。王、位に卽きて、名を炅と更む。秦王廷美、開封に尹たり。改めて齊王に封ぜらる。德昭、武功郡王に封ぜらる。

(一) 近侍の人々を遠ざく　(二) 座右なる大斧　(三) 天子の事にて晉王を指す

遣使分行州縣。廉察官吏。第其優劣。罷

○使を遣して、州縣を分行し、官吏を廉察し、其優劣を第せしめ、(一)罷軟にして任に勝へず、惰慢にして事を親らせざるは官を免ず○贓吏の配せらるゝ者は、赦に

考與二太后一之餘慶。太后笑曰。不然。正由三柴氏使二幼兒主二天下一耳。汝萬歲後。當三傳二位晉王一。晉王傳二秦王一。秦王以傳二德昭一。國有二長君一。社稷之福也。太祖曰。謹受レ教。太后呼二趙普一曰。趙普記共記二吾言一。不レ可レ違。因命三普於二榻前一爲二誓書一。普署二紙尾一曰。臣普記。藏二之金匱一。太祖友愛篤至。晉王嘗寢レ疾灼艾。太祖亦自灸。以分二其痛一。嘗曰。晉王龍行虎步。且生時有レ異。他日必作二太平天子一。福德非三吾所二能及一也。太祖幸レ蜀。有二布衣張齊賢一。獻二十策一。召問賜レ食。且啗且對。太祖善二其某策一。齊賢固稱二餘策皆善一。太祖怒斥。使出。既還語二晉王一。吾幸二西都一。得二一張齊賢一。吾不レ欲レ用レ之。他日留與レ汝作二宰相一。蓋傳位之定久矣。

篤く至る。晉王嘗て疾に寢ね、灼艾す。(四)太祖も亦た自ら灸して以て其痛を分つ。嘗て曰く、晉王は、龍行虎步す。(五)且つ生れし時異有りき。他日必ず太平の天子と作らん。福德吾が能く及ぶ所に非ずと。太祖蜀に幸す。布衣張齊賢有り、十策を獻ず。召し問ひて食を賜ふ。且啗ひ且對ふ。太祖、其某策を善しとす。齊賢固く稱す、餘の策も皆善しと。太祖、怒り斥けて使ち出す。既にして還り、晉王に語るらく、吾西都に幸して一の張齊賢を得たり。吾之を用ひんことを欲せず。他日留めて汝に與へて宰相と作さんと。蓋し傳位の定まれること久し。(六)

㊀ 亂暴を働かぬやうにと諭る　㊁ 祖先と父　㊂ 周の世宗が恭帝に傳へしを　㊃ 灸をすう　㊄ その動作を龍虎にたとへて、高貴なる事をいふ　㊅ 位を晉王に傳ふべきことは、久しき以前よりの決定なりし也

太宗皇帝。初名匡乂。太祖長弟也。太祖入二京城一。匡乂首請下號二令諸將一戢中士卒上。仍自於二馬前一戒二摽掠一。太祖受レ禪。乃改二名光義一。尹二開封一。同平章事。封二晉王一。建隆二年。昭憲杜太后臨レ崩謂二太祖一曰。汝知下所三以得二天下一者上乎。太祖曰皆祖

太宗皇帝

太宗皇帝、初めの名は匡乂、太祖の長弟也。太祖の京城に入りしとき、匡乂首として諸將に號令し、士卒を戢めんと請ふ。(一)仍りて自ら馬前に於て摽掠を戒む。太祖、禪を受く。乃ち名を光義と改め、開封に尹として、同平章事たり。晉王に封ぜらる。建隆二年、昭憲杜太后崩ずるに臨み、太祖に謂ひて曰く、汝天下を得し所以の者を知るか。太祖曰く、皆祖考と太后との餘慶なり。太后笑ひて曰く、然らず。正に柴氏が幼兒をして天下に主たらしめしに由るのみ。(二)汝、萬歲の後、當に位を晉王に傳へ、(三)晉王は秦王に傳へ、秦王は以て德昭に傳ふべし。國に長君有るは社稷の福也。太祖曰く、謹みて敎を受くと。太后、趙普を呼びて曰く、趙書記共に吾が言を記せよ。違ふ可からずと。因りて普に命じて榻前に於て誓書を爲らしむ。普、紙尾に署して曰く、臣普記すと。之を金匱に藏む。太祖、友愛

曰、吾聞學士草制、依樣畫葫蘆耳、何勞之有。卒不登之政府。內外官有時望者。籍記姓名。以待不次選用。稱職者多久任不遷。定銓選法。嚴舉主連坐法。嚴贓吏法。有實極刑者。懲五代藩鎮苛征重斂之弊。寬商征。寬麴鹽酒禁。倉吏多入民租者。或棄市。五代多以武人為牧守。率意用刑。上懲之。故入者必抵罪。定大辟詳覆法。定折杖法。頒新刑統。定差役法。作版籍戶帖戶鈔。長吏有度民田不實者。或杖流之。諸州旱蝗。賑饑蠲租。惟恐不及。舉行孝悌。罷殿第制科舉人。放進士榜。嚴復試法。御殿覆試進士。試書判拔萃。數幸國子監。詔天下求遺書。初用和峴所定雅樂。初行劉溫叟所上開寶通禮二百卷。命宰執。日記時政。送史館。撰日曆。制度典章。彬彬有條理。太弟晉王立。是為太宗皇帝。

萃を試み、數〻國子監(二〇)に幸し、天下に詔して遺書を求む。初めて和峴が定むる所の雅樂を用ひ、初めて劉溫叟が上る所の開寶通禮二百卷を行ふ。宰執(二一)に命じて、日〻に時政を記して史館に送り、日曆を撰せしむ。制度典章、彬彬(二二)として條理有りき。太弟晉王立つ。是を太宗皇帝と爲す。

(一) 晩年 (二) 共工等四人の惡人 (三) 朝廷への記錄 (四) 合併せられたる者 (五) 節度使と爲さず (六) 位をゆづる詔勅 (七) 舊帝に對する不忠の心をうとんず (八) 舊格によつて文をつゞるのみと也、葫蘆は瓢也手本に依りて瓢を畫くは容易なりとの喩 (九) 薦擧の者も亦た罪せらる、の法 (一〇) 税をむごく取りたつ (一一) 商人より税を取ること (一二) 人を罪に引入る、者 (一三) 死刑は詳かに重ねて審査する法 (一四) 杖にてうつ罪を減ずること (一五) 夫役 (一六) 版籍は戶口資產等を記しゝもの、戶帖は家毎に給して官の帳簿と對照せしむる戶口財產等の記錄、戶鈔は戶券 (一七) 杖刑、流刑 (一八) 再試驗 (一九) 事情文理の兼てゐるを取ると。唐時取士の法に身・言・書・判の四あり (二〇) 大學 (二一) 宰相執政 (二二) あきらかに盛なる貌

恭帝封二鄭王一。後遷二于房州一。上以二辛文悅長者一。俾レ爲二房州守一。恭帝先レ上二年始卒。上發レ哀。輟レ朝十日。還葬如レ禮。上初入レ京時。周韓通死レ節。追贈優厚。王彥昇棄レ命專レ殺。終身不レ授二節鉞一。受レ禪之際倉卒。未レ有二恭帝禪制一。學士陶穀出二諸懷中一。上薄レ之。穀久在二翰林一。頗怨望。上

上、之を薄しとす。穀、久しく翰林に在りて、頗る怨望す。上曰く、吾聞く、學士の草制(七)は、樣(八)に依りて葫蘆を畫くのみ。何の勞か之れ有らんと。卒に之を政府に登せず。內外の官、時望有る者は姓名を籍記して以て不次の選用を待つ。職に稱ふ者は、久しく任じて遷らざること多し。銓選の法を定め、擧主連坐(九)の法を嚴にし、贓吏の法を嚴にして、極刑に寘く者有り。五代の藩鎭、苛征重斂(一〇)の弊に懲りて、商征(一一)を寬にし、麴鹽酒の禁を寬にし、倉吏の多く民租を入るゝ者は、或は棄市す。五代、多く武人を以て牧守と爲しゝに、意に率ひて刑を用ひぬ。上、之に懲り、故らに入るゝ(一二)者は、必ず罪に抵る。大辟詳覆(一三)の法を定め、折杖の法(一四)を定め、新刑統(一五)を頒ち、差役の法(一六)を定め、版籍・戶帖・戶鈔を作る。長吏、民田を度りて實ならざる者有れば、或は之を杖流(一七)す。諸州に旱蝗あれば、饑を賑し租を蠲きて惟だ及ばざらんことを恐る。德行孝悌を擧げ、親しく制科の擧人を策し、進士の榜を放ち、覆試(一八)の法を嚴にし、殿に御して親しく進士を試み、書判拔(一九)

革二節鎮之横一。又置二諸州通判一。以分二刺史之權一。自是諸侯勢解。禍亂不レ作。専務レ愛二養民力一。罷二御貢献一。禁レ進二羨餘一。常衣二澣濯之衣一。寝殿青布縁二葦簾一。

晩節好レ讀レ書。嘗歎曰。堯舜之世。四凶之罪。止二於投竄一。何近代法網之密耶。削二平諸國一。必招レ之。不レ至而後用レ兵。及二其既降一。皆不レ加レ戮。禮而存レ之。終二其世一。嘗幸二武成王廟一。觀二從祀一有二白起一。指曰。起殺二已降一。不武。命去レ之。周

晩節、書を讀むことを好む。嘗て歎じて曰く、堯舜の世、四凶の罪、投竄に止まる。何ぞ近代法網の密なるやと。諸國を削平するに、必らず之を招き、至らずして而る後に兵を用ふ。其既に降るに及びては、皆戮を加へず、禮して之を存し、其世を終へしむ。嘗て武成王の廟に幸し、從祀を觀るに白起有り。指して曰く、起は已に降れるを殺せり。不武なりと。命じて之を去らしめぬ。周の恭帝、鄭王に封ぜられ、後房州に遷さる。上、辛文悦の長者なるを以て、房州の守たらしむ。恭帝、上に先つこと二年、始めて卒す。上、哀を發し、朝を輟むること十日、還り葬むること禮の如くす。上、初め京に入りし時、周の韓通節に死す。追贈すること優厚なり。王彦昇、命を棄てゝ殺を專らにせしかば、終身節鉞を授けざりき。禪を受くるの際倉卒にして未だ恭帝の禪制有らず。學士陶穀、諸を懷中より出す。

内一。營繕畢。上坐二寢殿一。令レ洞二開諸門一。皆端直軒豁。無レ有二蘊蔽一。因謂二左右一曰。此如二我心一。少有二邪曲一。人皆見レ之矣。平レ蜀之後。嘗擇二其兵百餘一。爲二川班殿直一。郊禮行レ賞。以二御馬直扈從一。特增レ給。川班擊二登聞鼓一。援レ例陳乞。上怒曰。朕之所レ與。卽爲二恩澤一。豈有レ例邪。斬二其妄訴者四十餘人一。餘悉配二隸諸軍一。遂廢二其直一。內臣有下逮レ事二後唐一者上。上問。莊宗英武定二天下一。享レ國不レ久何也。其人言二其故一。上撫レ髀歎曰。二十年夾レ河戰爭。取二得天下一。不レ能下用二軍法一約束上。誠爲二兒戲一。朕今撫二養士卒一。不レ吝二爵賞一。苟犯二吾法一。惟有レ劍耳。五代以來。藩鎭强盛。上以レ漸削レ之。罷二諸節鎭一。專用二儒臣一。分二理郡國一。以

得て、軍法を用ひて約束すること能はざりしは誠に兒戲たり。朕今士卒を撫養し、爵賞を吝まず。苟くも吾が法を犯さば、惟だ劍有らんのみと。五代以來、藩鎭强盛なり。上、漸を以て之を削り、諸々の節鎭を罷め、專ら儒臣を用ひて、郡國を分ち理めて、以て節鎭の横を革め、又諸州の通判を置きて、以て刺史の權を分つ。是より諸侯勢輕くして、禍難作らず。專ら民力を愛養するを務め、貢獻を罷め卻け、(八)羨餘を進むることを禁じ、常に(九)澣濯の衣を衣、寢殿は青布もて葦簾に緣せり。

(一) 前出、六百五十頁を見よ (二) 市中の商店の樣子を改めず (三) 豆と麥の區別もつかず (四) 正しくますぐに高く廣し (五) 天子に奏聞する者の打ちならす太鼓 (六) 增給を乞ふ、御馬直の例を引いて也 (七) もゝを撫でて (八) 租稅の取り殘しを搜し出して進むること (九) 洗濯したる衣服

衆心ニ洽。入ニ京師ニ市不レ易レ肆。嘗一日罷レ朝。坐ニ便殿ニ不レ樂者久レ之。左右問ニ其故ヲ。上曰。爾謂ニ爲ニ天子一容易一耶。適乘レ快指ニ揮一事一而誤。故不レ樂耳。嘗宴ニ近臣ヲ紫雲樓下一。因論ニ及民事一。謂ニ宰相一曰。愚下之民。雖レ不レ分ニ菽麥一。藩侯不レ爲ニ撫養一。務行ニ苛虐一。朕斷不レ容レ之。開寶初。修ニ京城及大

指揮して誤れり。故に樂まざるのみと。嘗て近臣を紫雲樓の下に宴し、因りて民事に論及し、宰相に謂ひて曰く、愚下の民、菽麥を分たずと雖も、藩侯撫養を爲さず、務めて苛虐を行はゞ、朕斷じて之を容さじと。開寶の初、京城及び大內を修め、營繕畢る。上、寢殿に坐して諸門を洞開せしむ。皆端直軒豁にして壅蔽有る無し。因りて左右に謂ひて曰く、此れ我が心の如し。少しく邪曲有らば、人皆之を見んと。蜀を平けし後、嘗て其兵百餘を擇びて川班殿直と爲す。郊禮して賞を行ふに、御馬直扈從を以て、特に給を增す。川班、登聞鼓を撃ち、例を援きて陳べ乞ふ。上、怒りて曰く、朕の與ふる所は、即ち恩澤たり。豈例有らんやと。其妄りに訴ふる者四十餘人を斬り、餘は悉く諸軍に配隸し、遂に其直を廢す。內臣に、後唐に事ふるに逮べる者有り。上問ふ、莊宗、英武にして天下を定めしに、國を享くること久しからざりしは何ぞやと。其人其故を言ふ。上、髀を撫して歎じて曰く、二十年、河を夾みて戰爭し、天下を取り

上欲三留都二洛陽一。羣臣咸諫。上曰。吾且レ都二長安一。晉王叩レ頭曰。在レ德不レ在レ險。上曰。吾將二西遷一者。欲下據二山河之勝一而去中冗兵上。晉王之言固善。今姑從レ之。不レ出二百年一。天下民力殫矣。乃還二大梁一。

○上、留りて洛陽に都せんと欲す。羣臣咸く諫む。上曰く、吾且に長安に都せんとす。晉王、頭を叩きて(一)曰く、德に在りて險に在らず(二)。上曰く、吾の將に西に遷らんとする者は、山河の勝に據りて冗兵(三)を去らんと欲してなり。晉王の言固に善し。今姑らく之に從はん。百年を出でずして天下の民力殫きんと。乃ち大梁に還る。

(一)頓首して (二)國家の安危は德に在りて地の險にあらず (三)むだな兵

上崩。在位十七年。改元者三。曰二建隆。乾德。開寶一。壽五十。上仁孝豁達。有二大度一。陳橋之變。迫二於

○上、崩ず。在位十七年、改元する者三。建隆・乾德・開寶と曰ふ。壽五十。上、仁孝豁達にして大度有り。陳橋(一)の變は衆心に迫られしなり。京師に入るに洎び、市(二)、肆を易へざりき。嘗て一日朝を罷め、便殿に坐して樂まざる者之を久しくす。左右其故を問ふ。上曰く、爾天子たると容易なりと謂へるか。適〻快に乘じて一事を

之所。一日彬忽稱疾。諸將來問。彬曰。彬之疾非藥能愈。諸公若共爲信誓。破城不妄殺一人。則彬病愈矣。諸將皆許諾。焚香約誓。翌日城陷。煜出降。南唐亡。煜至。上泣曰。宇縣分割。民受其禍。攻城之際。必有橫罹鋒鏑者。可哀也。彬還。舟中惟圖籍衣衾。閤門通其榜子曰。奉勅江南。幹事回。其不伐如此。

語釋　(四)[illegible]　(五)宇内の縣邑　(六)書物や衣服夜具　(七)禁中の小門　(八)厚紙の名刺　(九)始末して

九年吳越王錢俶來朝。辭歸。上賜以黃袱。封緘甚固。曰途中宜密觀。及啓之。皆羣臣乞留俶章疏。俶感懼。上如西京。謁宣祖安陵。夏四月郊。都民垂白者相謂曰。我輩少經離亂。不圖今日復視太平天子儀衞。有泣下者。

○九年、吳越王錢俶、來朝す。辭し歸るとき、上、賜ふに黃袱を以てす。封緘甚だ固し。曰く、途中にして宜しく密に觀るべしと。之を啓くに及び、皆羣臣が俶を留めんことを乞へる章疏なり。俶、感じ懼る○上、西京に如きて、宣祖の安陵に謁す○夏四月、郊す。都民の垂白なる者、相謂ひて曰く、我輩少きより離亂を經たり。圖らざりき今日復た太平の天子の儀衞を視んとはと。泣下る者有り。

(一)黃色のふくさ包み　(二)郊外にて天をまつる　(三)白髮を垂るゝ者、老人

説果二數百一。上曰、爾謂二父子一。爲二兩家一可乎。鉉不レ能レ對還。尋復至奏言。江南無レ罪、辭氣益厲。上怒。按レ劍曰。不レ須二多言一。江南亦有二何罪一。但天下一家。臥榻之側。豈容二佗人鼾睡一乎。鉉惶恐而退。金陵受レ圍。自レ春徂レ冬。勢愈窮蹙。彬終欲レ降レ之。累遣二人告一煜曰。某日城必破。宜三早爲二

益々厲し。上、怒り、劍を按じて曰く、多言を須ゐざれ。江南亦何の罪有らん。但だ天下は一家なり。(二)臥榻の側、豈佗人の鼾睡を容さんや。鉉、惶恐して退く。金陵、圍を受け、春より冬に徂りて勢愈々窮蹙す。彬、終に之を降さんと欲し、累りに人をして煜に告げしめて曰く、某日城必ず破れん。宜しく早く之が所(三)を爲すべしと。一日、彬、忽ち疾と稱す。諸將來り問ふ。彬曰く、彬の疾は藥の能く愈すべきに非ず。諸公若し共に信誓を爲し、城を破るに妄に一人を殺さずば、則ち彬が病愈えんと。諸將皆許諾し、香を焚きて約誓す。翌日城陷り、煜出で降り、南唐亡ぶ。(四)捷書至る。上、泣きて曰く、(五)宇縣の分割、民其禍を受く。城を攻むるの際、必ず横に鋒鏑に罹れる者有りしならん。哀む可き也と。彬、還る。舟中惟だ圖籍(六)衣衾のみ。(七)閤門より、其榜子(八)を通じて曰く、勅を江南に奉じ、事を幹(九)して回りぬと。其伐らざること此の如し。

(一) 宋と江南と並立すべからざるをいふ也　(二) 自分の寢所のそばにて他人のいびきをかくことを許さず　(三)

使二自歸順一。不レ須二急擊一取二謹。劍一授レ彬曰。副將而下。不レ用レ命者斬レ之。美以下皆失レ色。自二王全斌平レ蜀多殺レ人。上每恨レ之。彬性仁厚。故專任焉。先レ是江南樊若水擧二進士一不レ第。上書言レ事。不レ報。乃釣二魚采石江上一。以レ繩度二江廣狹一。詣レ闕陳レ策。上用二其言一。令二荊南造二大艦一。爲二浮梁一。以濟レ師。至レ是用レ之。不レ差二尺寸一。

多く人を殺したるより、上、每に之を恨む。彬、性仁厚なり。故に專ら任ず。是より先江南の樊若水、進士に擧げられて第せず。上書して事を言ふ。報あらず。(二)乃ち魚を采石江上に釣り、繩を以て江の廣狹を度り、闕に詣りて策を陳ぶ。上、其言を用ひ、荊南に令して大艦を造らしめ、浮梁(三)と爲して以て師を濟さしむ。是に至りて之を用ふるに尺寸を差へず。(四)

(一)はこの中の第　(二)何等の沙汰なし　(三)浮はし　(四)實際に用ひたるに其測量少しも違はず

八年。曹彬圍二金陵一急。李煜遣二徐鉉入貢一。求レ緩レ兵。鉉曰。煜以レ小事レ大。如二子事一レ父。其

○八年、曹彬、金陵を圍むこと急なり。李煜、徐鉉をして入貢せしめ、兵を緩めんことを求む。鉉、曰く煜、小を以て大に事ふること、子の父に事ふるが如しと。其說數百を累ぬ。上曰く、爾父子と謂ふ。兩家と爲りて可ならんやと。鉉、對ふること能はずして還る。尋ぎて復た至り、奏して言く、江南、罪無しと。辭氣

上不レ聽起。普隨レ之。上入レ宮。普立二宮門一不レ去。上卒可レ之。普常設二大甕一於閣後一。表疏意不レ可者。投二其中一焚レ之。其多得レ謗以レ此。雷德驤之子又訐レ之。上始疑レ普。先レ是雖下置二參知政事一以副上レ普。不レ宣レ制。不レ押レ班。不レ知レ印。不レ升二政事堂一。至レ是始詔二參政一升二政事堂一同議レ政。更知レ印押レ班。與レ普齊。未レ幾普遂罷。薛居正。呂餘慶等。其後繼爲レ相。

しからしむ。未だ幾くならず、普遂に罷めらる。薛居正・呂餘慶等其後繼ぎて相と爲る。

㊀任じて　㊁其命を下さんことを請ふ　㊂おほがめ　㊃普の陰事をあばき訴ふ　㊄天子の詔命を受けて中外に宣べ傳ふることをせず　㊅宰相の位次に列りて書類に押字を記入す　㊆日を分ちて宰相の官印を保管す

七年。命二曹彬一伐二江南一。初上屢遣レ使。諭二江南國主李煜一入朝。不レ至。乃以二彬及潘美等一討レ之。戒以下切勿レ暴二略生民一。務廣二威信一。

○七年、曹彬に命じて江南を伐たしむ。初め上、屢〻使を遣し、江南の國主李煜に諭して入朝せしむ。至らず。乃ち彬及び潘美等を以て之を討たしめ、戒むるに切に生民を暴略すること勿く、務めて威信を廣め、自ら歸順せしめて、須らく急に撃つべからざることを以てす。匣劍(一)を取りて彬に授けて曰く、副將より下、命を用ひざる者は之を斬れと。美以下皆色を失ふ。王全斌、蜀を平げて

河陽三城節度。普沈毅果斷。以二天下一爲二己任一。嘗欲下除二某人一爲中某官上。上不レ用。明日又奏レ之。上怒裂二其奏一。普徐拾以歸。補綴以進。上悟乃可レ之。又有下立レ功當レ遷レ官者上。上素嫌二其人一。不レ與。普力請レ下。曰朕固不レ與奈何。普曰刑賞天下之刑賞。安得下以二私喜怒一專上之。

任と爲す。嘗て某人を除して某官と爲さんと欲す。上、用ひず、明日、又之を奏す。上、怒りて其奏を裂く。普、徐に拾ひて以て歸り、補綴して以て進む。上、悟りて、乃ち之を可す。又功を立てゝ當に官を遷すべき者有り。上、素より其人を嫌ひて與へず。普、力めて下さんことを請ふ。曰く、朕固く與へずんば奈何。普曰く、刑賞は天下の刑賞なり、安んぞ私の喜怒を以て之を專らにすることを得んと。上、聽かずして起つ。普、之に隨ふ。上、宮に入る。普、宮門に立ちて去らず。上、卒に之を可す。普、常に大甕を閣後に設け、表疏、意に可とせざる者は、其中に投じて之を焚く。其多く謗を得たるは此を以てなり。雷德驤の子、又之を訐く。上、始めて普を疑ふ。是より先參知政事を置きて以て普に副とすと雖も、宣制せず、押班せず、知印せず、政事堂に升らず。是に至りて始めて二參政に詔して、政事堂に升りて同じく政を議し、更に知印押班すると普と齊

默然良久曰。非二臣所一レ知也。太原當二西北二邊一。使二一擧而下一。邊患我獨當レ之。何不下姑留以俟上レ削二平諸國一。彼彈丸黑子之地。將何所レ逃。上笑曰。吾意正爾。姑試レ卿耳。於レ是用二師荊湖一。繼取二西川一。嘗因二北漢諜者一。語二北漢主鈞一曰。吾家與二周氏一世仇。宜レ不レ屈。今我與レ汝無レ所レ閒。何爲困二此一方之人一。鈞遣二諜者一復命曰。河東土地兵甲不レ足レ當二中國之什一一。區區守レ此。蓋懼二漢氏之不一レ血食一也。上哀二其言一。終二鈞之世一。不下以二大軍一北伐上。及二繼元立一。始用レ兵。是歲契丹弑二其主述律一。號二穆宗一。迎二立其伯父兀欲之子明記一。更二名賢一。三年命二潘美一伐二南漢一。四年克二廣州一。劉鋹降。南漢亡。六年交趾丁璉。上レ表求二内附一。詔以爲二靜海節度使安南都護一。

つ。名を賢と更む〇三年、潘美に命じて南漢を伐たしむ。四年、廣州に克つ。劉鋹降り、南漢亡ぶ〇六年、交趾の丁璉、表を上りて内附を求む。(一四)詔して以て靜海の節度使安南都護と爲す。

(一)止む (二)何時來るとも測られず (三)坐蒲團をかさぬ (四)夜ふけて (五)當時自立の國なほ四方に在り宋の地甚だ廣からず、故にいふ 榻はねだい也 (六)もくろみ (七)一たび兵を擧げて (八)極めて狹小なる地の喩 (九)軍也 (一〇)閒隙なし (一一)戰爭を爲して此一方面の人民を苦しむるか (一二)區々は小なる貌、小心翼々として (一三)國亡び祖先の祭の絶ゆること (一四)内國に附屬せんことを乞ふ

趙普罷レ相。領二

〇趙普、相を罷められ、河陽三城の節度を領す。普、沈毅果斷、天下を以て己の

雪一。甚。亟出則上立二雪中一。普惶恐迎拜。即二普堂一。設二重裀一地坐。熾レ炭燒レ肉。普妻行レ酒。上以レ嫂呼レ之。普從容問曰。夜久寒甚。陛下何以出。上曰吾睡不レ能レ著。一榻之外。皆他人家也。故來見レ卿。普曰。陛下少二天下一邪。南征北伐此其時也。願聞二成算所一レ向。上曰。吾欲レ取二太原一。普

天下を少とするか。南征北伐、此れ其時也。願くは成算の向ふ所を聞かん。上曰く、吾は太原を取らんと欲す。普、默然たること良久しくして(六)曰く、臣の知る所に非ざる也。太原は西北の二邊に當る。(七)一擧して下らしめば、邊の患は我獨り之に當らん。何ぞ姑らく留めて、以て諸國を削平するを俟たざる。彼の彈丸黑子(八)の地、將た何の逃るゝ所あらん。上、笑ひて曰く、吾が意正に爾り、姑らく卿を試みしのみと。是に於て師を荊湖(九)に用ひ、繼ぎて西川を取る〇嘗て北漢の諜者に因りて、北漢主鈞に語げて曰く、吾が家は周氏と世々の仇なり。宜なり、屈せざること。今我、汝と間(一〇)ある所無し。何の爲にか此一方(一一)の人を困しむると。鈞、諜者を遣して復命して曰く、河東の土地、兵甲は中國の什の一に當るに足らず。區區(一二)として此を守るは、蓋し漢氏の血食(一三)せざらんことを懼るゝ也と。上、其言を哀み、鈞の世を終ふるまで大軍を以て北伐せず。繼元の立つに及びて始めて兵を用ひぬ〇是の歳契丹、其主述律を弑す。穆宗と號す。其伯父兀欲の子明記を迎へ立

普强市二人第宅一。聚二斂財賄一。上怒叱曰。鼎鐺尙有レ耳。汝不レ聞二趙普吾之社稷之臣一乎。引二柱斧一撃二折其二齒一。命曳出黜レ之。

さしめて之を黜く。

(一)刑獄を司る官　(二)自說を曲げて宰相の意見につく　(三)買也　(四)鐺はかなへの類　(五)帝側におく大斧

二年命二曹彬等一伐二北漢一。尋親征。攻二太原一。城久不レ下。頓二兵百草池一。中二暑雨一。軍中疾疫。詔班レ師。上自レ卽レ位。或微行幸二功臣之家一。不レ可レ測。趙普每レ退レ朝。不三敢脫二衣冠一。一夕大雪。普意上不二復出一矣。久レ之聞二叩レ門

○二年、曹彬等に命じて北漢を伐たしめ、尋ぎて親征し、太原を攻む。城久しく下らず。兵を百草池に頓す。暑雨に中り、軍中疾疫す。詔して師を班す(一)○上位に卽きてより、或は微行(二)して功臣の家に幸すること測る可からず。趙普、朝より退く每に、敢て衣冠を脫せず。一夕大に雪ふる。普、意へらく、上復た出でじと。之を久うして門を叩く聲を聞く。異しむこと甚し。亟かに出づれば、則ち上雪中に立つ。普、惶れ恐れて迎へ拜す。普の堂に卽き、重裀(三)を設けて地坐し、炭を熾にして肉を燒く。普の妻、酒を行ふ。上、嫂を以て之を呼ぶ。普、從容(四)として問ひて曰く、夜久しく寒甚し、陛下何を以てか出づる。上曰く、吾睡りて著くこと能はず。一榻(五)の外皆他人の家也。故に來りて卿を見る。普曰く、陛下

聚ㇾ奎。先ㇾ是周顯德中、實儼・楊徽之・盧多遜、同爲二諫官一。儼善二推步一。嘗曰、丁卯歲五星聚ㇾ奎。自ㇾ此天下太平。二拾遺見ㇾ之。儼不ㇾ預也。至ㇾ是果然。夏州李彝興卒。元賀領二防一開寶元年。北漢主劉鈞殂。養子繼恩立。郭無爲弑ㇾ之、而立二其同母弟繼元一。皆異姓之子也。

の主劉鈞殂す。養子繼恩立つ。郭無爲之を弑して、其同母弟繼元を立つ。皆異姓(六)の子也。

(一)乾德といふ年號　(二)儼也　(三)木火土金水の五星が奎星の場所に聚りたり、奎は文章を主る星なれば、これ卽ち天下文明の象なりとす　(四)天文を推し測ること　(五)楊徽之と盧多遜の二人の諫官は之を見ん、儼は既に死して之を見ざらんと也　(六)此二人は共に他姓の子也

雷德驤判二大理寺一。官屬與二堂吏一附二會宰相一、擅增二減刑名一。德驤直詣二講武殿一奏ㇾ之。幷言趙

○雷德驤、(一)大理寺に判たり。官屬・堂吏と(二)宰相に附會し、擅に刑名を增減す。德驤、憤惋し、直に講武殿に詣りて之を奏し、幷に言ふ、趙普强ひて人の第宅を(三)市ひ、財賄を聚斂すと。上、怒り叱して曰く、(四)鼎鐺だに尙耳有り。汝、趙普は吾の社稷の臣なるを聞かざるかと。(五)柱斧を引きて、其二齒を擊折し、命じて曳き出

蜀。乾德三年。蜀相李昊勸二蜀主孟昶一出降。蜀亡。前蜀王氏之亡也。降表亦昊所レ草。蜀人夜書二其門一曰。世修二降表一李家。

降らしむ。蜀亡ぶ。前蜀王氏の亡びしときの降表も亦た昊の草せし所なり。蜀人、夜其門に書して曰く、(一)世々降表を修する李家と。

㊀ 代々降参状のみを書く李氏との意

初上命二宰相一。擇二前代未レ有年號一。以改二今元一。及レ是得二蜀鑑一。乃有二乾德四年鑄字一。怪レ之召二問學士竇儀一。曰。昔僞蜀王衍有二此號一。上歎曰。宰相須レ用二讀書人一。五年。五星

○初め上、宰相に命じ、前代未だ有らざる年號を擇びて、以て今の元に改む。(一)是に及びて蜀の鑑(二)を得たり。乃ち乾德四年鑄の字有り。之を怪しみて、學士竇儀を召し問ふ。曰く、昔僞蜀王衍、此號有りと。上歎じて曰く、宰相は須らく書を讀みたる人を用ふべしと○五年、(三)五星、奎に聚まる。是より先周の顯德中、竇儼・楊徽之・盧多遜同じく諫官たり。儼、(四)推步を善くす。嘗て曰く、丁卯の歲、五星、奎に聚り、此より天下太平ならん。(五)一二拾遺は之を見ん。儼は預からじと。是に至りて果して然り○夏州の李彜興卒す。子光叡軍務を領す○開寶元年、北漢

出降。荊南平。延釗至二湖南一。文表先已敗死。保權聞三宋師下二荊南一。懼而拒守。師進討レ之。獲二保權一。湖南平。二年宰相范質。王溥。魏仁浦乞罷。質等周朝舊相也。自レ唐以來。宰相惟面二奏大政事一。餘號令刑賞除拜。但入二熟狀一。質等自以二前朝大臣一。稍存二形跡一。每レ事具二劄子一進呈。退批二所レ得聖旨一。同列皆書レ字以志レ之。奏御之多始レ此。質等既罷。以二趙普一同平章事。

保權を獲たり。湖南平ぐ〇二年、宰相范質・王溥・魏仁浦、乞ひて罷めらる。質等は周朝の舊相也。唐より以來、宰相は惟だ大政事を面奏し、(二)餘の號令刑賞除拜(三)は、但だ熟狀(四)を入る。質等自ら前朝の大臣を以て稍形跡(五)を存し、事毎に劄子(六)を具へて進呈し、退きて得る所の聖旨を批す。同列皆字(七)を書して以て之を志す。奏御の多きこと此に始まる。質等既に罷めらる。趙普を以て同平章事とす。

(一) 荊南の高季興、梁の太祖の開平元年に命を受けて王と稱りしより是に至るまで五主五十七年にて亡びたり (二) まのあたり奏聞し (三) 官吏の任免 (四) 書面にて上意を伺ひ聴許のしるしに可字の記入を受けて之を施行するもの (五) 君臣の形跡を存して嫌疑を避く (六) 上申書 (七) 押字（カキハン）を書して評議に與りたるしるしとす

命二王全斌一伐レ

○王全斌に命じて蜀を討たしむ。乾德二年、蜀相李昊、蜀主孟昶に勸めて出で

上於滁州。用爲節度掌書記。上卽位後。專與謀議。倚信之。女眞貢馬。回鶻于闐來貢。建隆三年。泉州留從效卒。衙將陳洪進。推張漢思領軍務。定難節度使周西平王李彝興貢馬。武平武安鎭帥周行逢卒。子保權領軍府。衡州太守張文表作亂。起兵據潭州。保權表請救于宋。荊南高寶勗卒。兄子繼沖代之。高麗來貢。

後、專ら與に謀議し、之に倚信す○女眞、馬を貢す○回鶻・于闐、來貢す○建隆三年、泉州の留從效卒す。衙將(一)陳洪進、張漢思を推して軍務を領せしむ○定難の節度使周の西平王李彝興、馬を貢す○武平武安鎭帥周行逢、卒す。子保權、軍府を領す。衡州の太守張文表、亂を作し、兵を起して潭州に據る。保權、表して救を宋に請ふ○荊南の高寶勗卒す。兄の子繼沖之に代る○高麗來貢す。

(一) 牙兵卽ち旗下の兵の將

乾德元年。命慕容延釗等。會周保權。討張文表。師出江陵。高繼沖

○乾德元年、慕容・延釗等に命じ、周保權に會して、張文表を討たしむ。師、江陵に出づ。高繼沖出で降る。荊南平ぐ。延釗、湖南に至る。文表、先に已に敗れ死す。保權、宋の師荊南に下ると聞き、懼れて拒ぎ守る。師進みて之を討ち、

不レ至レ此。然終夕未二嘗安レ枕也。居二此位一者。誰不レ欲レ爲レ之。守信等頓首曰。陛下何爲出二此言一。天命已定。誰敢有二異心一。上曰。汝曹雖レ無二異心一。如二麾下之人欲二富貴一何。一旦以二黄袍一加二汝之身一。雖レ不レ欲レ爲。其可レ得乎。皆頓首泣曰。臣等愚不レ及レ此。惟陛下哀矜。指二示可レ生之途一。上曰。人生如二白駒過一レ隙。所レ爲レ好二富貴一者。不レ過レ欲下多積二金錢一。厚自娛樂。使中子孫無上レ貧乏耳。汝曹何不下釋二去兵權一。出守二大藩一。擇二便好田宅一。爲中子孫計上。多置二歌童舞女一。日飲レ酒相安。不二亦善一乎。皆拜謝曰。陛下念二臣等一至レ此。所レ謂生レ死而肉レ骨也。明日皆稱レ疾請レ罷。

し、子孫をして貧乏なる無からしめんと欲するに過ぎざるのみ。汝曹何ぞ兵權を釋き去り、出でゝ大藩を守り、便好の田宅を擇びて子孫の計を爲さゞる。多く歌童舞女を置き、日に酒を飲みて相安んぜんこと亦た善からずやと。皆拜謝して曰く、陛下、臣等を念ふこと此に至る。所謂死を生して骨に肉つくるなりと。明日皆病と稱して罷められんことを請ふ。

㊀節度兵權 ㊁制限し ㊂終夜 ㊃此天子の位に居ることを欲せざる者なし ㊄天子と爲る ㊅考へ及ばざりき ㊆あはれみて ㊇甚だ迅速に過ぎて了ふ喩 ㊈枯れたる骨に肉を付く

趙普薊人。過二

○趙普は薊の人なり、上に滁州に過ふ。用ひて節度の掌書記となす。上即位の

學士趙普二問曰。吾欲下息二天下兵一。爲中國家長久計上。其道何如。普曰。唐季以來。帝王數易。由二節鎭太重。君弱臣強一而已。今莫レ若三稍奪二其權一。制二其錢穀一。收二其精兵一。則天下自安。又言。殿前師石守信等。皆非二統御才一。宜レ授二他職一。上悟。召二守信等一。宴酣屛二左右一。謂曰。我非二爾曹之力一。

息めて、國家長久の計を爲さんと欲す。其道何如。普曰く、唐季より以來、帝王數〻易るは、節鎭(一)太だ重く、君弱くして、臣強きに由るのみ。今稍く其權を奪ふに若くは莫し。其錢穀を制し、其精兵を收めば、則ち天下自ら安からんと。又言ふ、殿前の師石守信等、皆(二)統御の才に非ず。宜しく他の職を授くべしと。上悟る。守信等を召し、宴酣にして左右を屛けて謂ひて曰く、我、爾曹の力に非ざれば此に至らじ。然れども(三)終夕未だ嘗て枕を安んぜず。(四)此位に居る者、誰か之を爲すことを欲せざらん。守信等頓首して曰く、陛下何爲れぞ此言を出せる。天命已に定まれり、誰か敢て異心有らん。上曰く、汝曹異心無しと雖も、麾下の人富貴を欲するを如何せん。一旦、黃袍を以て汝が身に加へば、(五)爲ることを欲せずと雖も、其れ得べけんや。皆頓首して泣きて曰く、臣等愚にして此に及ばざ(六)りき。惟だ陛下(七)哀矜して生く可きの途を指示せよ。上曰く、人生は(八)白駒の隙を過ぐるが如し。富貴を好むことを爲す所の者は、多く金錢を積み、厚く自ら娯樂

徴行愈數。曰。有ニ天命ー者。任ニ自爲ヒ之。不ニ汝禁ー也。中外讋服。

昭義節度使李筠。故周宿將。反ニ於澤州ー。上命ニ石守信ー討レ之。尋親征。筠自焚死。澤潞平。淮南節度使李重進周祖之甥也。亦反。上命ニ石守信ー討レ之。尋親征。重進自焚死。淮南平。荊南高寶融卒。弟寶勗代レ之。南唐泉州留從效稱レ藩。建隆二年南唐主李景遷ニ都于南昌ー。以ニ其子從嘉ー守ニ建康ー。景殂。從嘉立。更ニ名煜ー。

○昭義の節度使李筠は、故周の宿將なり。澤州に反す。上、石守信に命じて之を討たしめ、尋ぎて親征す。筠、自焚して死す。澤潞、平ぐ○淮南の節度使李重進は、周祖の甥也。亦た反す。上、石守信に命じて之を討たしめ、尋ぎて親征す。重進、自焚して死す。淮南平ぐ。荊南の高寶融卒す。弟寶勗之に代る○南唐の泉州留從效、藩と稱す○建隆二年、南唐の主李景、都を南昌に遷し、其子從嘉を以て、建康を守らしむ。景、殂す。從嘉立つ。名を煜と更む。

上既誅ニ筠重進ー。召ニ樞密直

○上、既に筠・重進を誅し、樞密直學士趙普を召して、問ひて曰く、吾天下の兵を

張永德爲二點檢一。世宗乃遷レ之。而易以二匡胤一。世宗殂。恭帝即位之明年。命領二宿衛一。禦二契丹一。時主少國危。中外始有二推戴之議一。大軍既出。軍校苗訓見下日下復有二一日一。黑光相盪上。指曰。此天命也。夕次二陳橋驛一。軍士聚議。先立二點檢一爲二天子一。然後北征。環列待レ旦。點檢醉臥不レ知也。黎明軍士擐レ甲執レ兵。直叩二寢門一曰。諸將無レ主。願策二大尉一爲二天子一。點檢驚起。披レ衣。則相與扶出。被以二黃袍一。羅拜呼二萬歲一。擁上レ馬南行。拒レ之不レ可。乃攬レ轡誓二諸將一。整レ軍自二仁和門一入。秋毫無レ所レ犯。恭帝遂禪レ位。以三所レ領節鎭爲二宋州歸德軍一。故國號曰レ宋。即位之初。欲三陰察二羣情一。頗爲二微行一。或諫レ毋二輕出一。上曰。帝王之興。自有二天命一。周世宗見二諸將方面大耳者一。皆殺レ之。我終日侍レ側不レ能レ害也。

ひ、軍を整へて仁和門より入る。秋毫も犯す所無し。恭帝遂に位を禪る。領する所の節鎭、宋州の歸德軍たるを以て、故に國號を宋と曰ふ。即位の初、陰に羣情を察せんと欲し、頗る微行を爲す。或ひと輕々しく出づることを毋れと諫む。上曰く、帝王の興るは自ら天命有り。周の世宗、諸將の方面大耳(六)なる者を見れば、皆之を殺せり。我終日側に侍したれども、害すること能はざりし也と。微行することを愈々數々す。曰く、天命有る者は、自ら之を爲すに任す、汝(七)を禁ぜざる也と。中外讋服(八)す。

㊀木札 ㊁殿前都點檢の官に在る者天子とならん ㊂匡胤を推し戴きて天子とせんとの議 ㊃宿す ㊄黃衣、天子の衣也 ㊅四角なる顏、大なる耳の者は高貴の相として忌める也 ㊆汝等が如何なる事をたくらむも亦禁ぜず ㊇おそれて服す

京兆尹廣漢之後。父弘殷。爲洛陽禁衞將校。生匡胤於甲馬營。赤光滿室中。異香一月。人謂之香孩兒營。少從辛文悦學。文悦嘗夢邀駕。乃匡胤也。周世宗時。掌軍政。凡六年。士卒服其恩威。屢從征伐。立大功。世宗一日於文書囊中。得一木書。曰。點檢作天子。時

從ひて學ぶ。文悦嘗て夢に駕を邀ふ。乃ち匡胤也。周の世宗の時、軍政を掌ること凡て六年、士卒其恩威に服す。屢〻征伐に從ひて大功を立つ。世宗、一日、文書嚢中に於て一の木書を得たり。曰く、點檢、天子と作らんと。時に張永德、點檢たり。世宗、乃ち之を遷して、易ふるに匡胤を以てす。世宗、殂し、恭帝卽位の明年、命じて宿衞を領し、契丹を禦がしむ。時に主少くして國危し。中外始めて推戴の議有り。大軍旣に出づ。軍校苗訓、日下に復た一日有り、黑光相盪くを見、指して曰く、此れ天命也と。夕に陳橋驛に次す。軍士聚り議す。先づ點檢を立てゝ天子と爲し、然して後北征せんと。環列して旦を待つ。點檢、醉ひ臥して知らざる也。黎明に、軍士甲を擐き兵を執り、直に寢門を叩きて曰く、諸將主無し、願くは大尉を策して天子と爲さんと。點檢驚き起ちて衣を披れば、則ち相與に扶け出で、被らしむるに黃袍を以てし、羅拜して萬歲と呼び、擁して馬に上らしめて南行す。之を拒めども可かず。乃ち轡を攬りて諸將に誓

七歳即レ位。以二趙匡胤一爲二歸德節度使。明年春鎭定言。契丹入寇。遣二匡胤將レ兵禦レ之。至二陳橋驛一。軍士擁還策立。周主在レ位半年。遂禪二于宋。周自二太祖一至レ是三世。實二姓。十年而亡。

年春、鎭・定(一)言ふ、契丹入寇すと。匡胤をして兵に將として之を禦がしむ。陳橋驛に至りしとき、軍士擁し還りて策立(二)す。周主、位に在ること半年、遂に宋に禪る。周、太祖より是に至るまで三世、實は二姓なり、十年にして亡ぶ。

(一) 鎭・定の二州より　(二) 天子に推し立つ

宋

太祖皇帝

宋太祖皇帝。姓趙氏。名匡胤。其先涿人也。相傳爲二漢

宋の太祖皇帝、姓は趙氏、名は匡胤。其先は涿の人也。相傳へて漢の京兆の尹廣漢の後と爲す。父弘殷、洛陽禁衛將校たり。匡胤を甲馬營に生む。赤き光室に滿ち、營中異香あると一月。人之を香孩兒の營と謂ふ。少にして辛文悅に

始服其英武。號令嚴明。人莫敢犯。攻城對敵。矢石落左右。略不動容。應機決策。出人意表。又勤於政事。發姦摘伏。聰察如神。閒暇則召儒者。讀史。商搉大義。性不好絲竹珍玩之物。常言朕必不因喜賞人。因怒刑人。文武參用。各盡其能。人畏其明。而懷其惠。故能破敵廣地。所向無前。登遐之日。遠近哀慕。子梁王立。是爲恭帝。

き伏を摘み、聰察神の如し。閒暇あれば、則ち儒者を召して史を讀ましめ、大義を商搉す。（四）性、絲竹、珍玩の物を好まず。常に言く、朕は必らず喜に因りて人を賞し、怒に因りて人を刑せじと。文武參へ用ひ、各〻其能を盡さしむ。人其明を畏れて、其惠に懷く。故に能く敵を破り地を廣めて、向ふ所前無し。登遐（五）の日、遠近、哀み慕ふ。子梁王立つ。之を恭帝と爲す。

（一）才能をつゝみくらます　（二）思ひも掛けざる所に出づ　（三）姦邪を發見し、かくしある惡事を摘撥す　（四）搉一に確に作る、適用す。是非得失を論究するをいふ　（五）崩御

恭帝。名宗訓。

恭帝

恭帝、名は宗訓。七歳にして位に卽く○趙匡胤を以て歸德節度使と爲す。明

周行逢入レ朗。行逢併二潭朗一有レ之。南漢主劉晟殂。子鋹立。周主自將伐二契丹一。取二瀛莫易州一。離レ京四十二日。而關南悉平。議レ趨二幽州一。會二不豫一而止。以二瓦橋關一爲二雄州一。益津關爲二霸州一。置レ戍而還。往還六十日。趙匡胤。先レ是爲二殿前都指揮使一。從攻二淮南一。又從征二契丹一。至レ是爲二殿前都點檢一。

て契丹を伐ち、瀛・莫・易の州を取る。京を離るゝこと四十二日にして、關南悉く平ぐ。幽州に趨かんことを議せしが、不豫(一)に會ひて止む。瓦橋關を以て雄州と爲し、益津關を霸州と爲し、戍を置きて還る。往還(二)六十日○趙匡胤、是より先殿前都指揮使と爲り、從ひて淮南を攻め、又從ひて契丹を征す。是に至りて殿前都點檢と爲る。

(一) 病氣 (二) 往復の日數

周主在位六年殂。改元者一。曰二顯德一。周主在レ藩韜晦。及レ即レ位。首破二高平之寇一。人

○周主、在位六年にして殂す。改元する者一。顯德と曰ふ。周主、藩に在りて韜晦(一)す。位に即くに及び、首めに高平の寇を破る。人始めて其英武に服す。號令嚴明、人敢て犯すこと莫し。城を攻め敵に對して、矢石左右に落つるも略ゝ容を動かさず。機に應じて策を決すること、人の意表(二)に出づ。又政事に勤め、姦(三)を發

兵拒二周師一。復取二泰州一。攻二揚州一。周主命二匡胤一屯二六合一。唐兵来攻。奮撃大破レ之。將士有二不レ致レ力者一。匡胤陽爲二督戰一。以レ劍斫二其皮笠一。明日遍閲二其笠一。有二劍跡一者數十人。皆斬レ之。由是部兵莫二敢不一レ盡レ死。周主還二大梁一。留レ兵圍二壽州一。唐兵復二江北諸州一。周守將皆棄去。并レ兵攻二壽州一。周主復自將如レ壽。唐人以レ城降。周主還二大梁一。已而復自將攻二濠泗一。皆降。進攻二楚州一。遣レ兵取二揚泰一。周主克二楚州一。還至二揚州一。唐主遣レ使。盡獻二江北地一。周主乃還。唐主更二名景一。去二帝號一。奉二周正朔一。

盡さゞること莫し。周主、大梁に還り、兵を留めて壽州を圍む。唐の兵、江北諸州を復す。周の守將皆棄て去る。兵を并せて壽州を攻む。周主、復た自ら將として壽に如く。唐人、城を以て降る。周主大梁に還る。已にして復た自ら將として濠泗を攻む。皆降る。進んで楚州を攻め、兵を遣はして揚泰を取る。周主、楚州に克ち、還りて揚州に至る。唐主使を遣はして盡く江北の地を獻ず。周主乃ち還る。唐主名を景と更め、帝號を去りて、周の正朔(四)を奉ず。

㊀二日の行程を一日に進みて　㊁敵を蔑視するやうに見せ掛けて軍中を馳せ廻り　㊂皮造りの陣笠　㊃暦也

朗州王逵爲二潘叔嗣一所レ殺。將吏迎二潭州

○朗州の王逵、潘叔嗣の爲に殺さる。將吏、潭州の周行逢を迎へて朗に入らしむ。行逢、潭朗を併せて之を有つ○南漢主劉晟殂す○子鋹立つ。周主、自ら將とし

遼憲嵐石沁沂州。皆入ニ于周一。周主攻ニ晉陽一。不レ克。引レ軍還。北漢主劉旻殂。子鈞立。周伐レ蜀。取ニ秦階成鳳州一。

克たず。(一)軍を引きて還る○北漢主劉旻殂す。子鈞立つ○周、蜀を伐ちて、秦・階・成・鳳の州を取る。

(一) 契丹の來援するに會ひて敗れたる也

周伐ニ南唐一。唐遣レ兵拒ニ於壽州一而敗。周主自將。大敗ニ唐兵於正陽一。唐將皇甫暉。姚鳳保ニ清流關一。主命ニ趙匡胤一。倍レ道襲レ之。擒ニ暉鳳一克ニ滁州一。周師取ニ揚泰光舒蘄州一。唐

○周、南唐を伐つ。唐、兵を遣はし壽州に拒ぎて敗る。周主自ら將として大に唐の兵を正陽に敗る。唐の將皇甫暉・姚鳳、清流關を保つ。主、趙匡胤に命じて、(一)道を倍して之を襲はしむ。暉・鳳を擒にし滁州に克つ。周の師、揚・泰・光・舒・蘄州を取る。唐の兵、周の師を拒ぎて、復た泰州を取り、揚州を攻む。周主、匡胤に命じて六合に屯せしむ。唐の兵來り攻む。奮撃して大に之を敗る。將士に力を致さゞる者有り。(二)匡胤陽りて督戰を爲し、劍を以て其(三)皮笠を斫る。明日遍く其笠を閲す。劍の跡有る者數十人、皆之を斬る。是に由りて部兵敢て死を

軍勢危。自引ニ親兵一。犯ニ矢石一。督戰。宿衞將趙匡胤曰。主危如レ此。吾屬何得レ不レ致レ死。又謂ニ禁兵將張永德一曰。賊氣驕可レ破也。公引レ兵乘レ高。西出爲ニ左翼一。我爲ニ右翼一以擊レ之。國家安危。在ニ此一擧一。永德從レ之。各將ニ二千人一進戰。匡胤身先ニ士卒一。馳犯ニ其鋒一。士卒死戰。無レ不ニ一當ニ百。北漢兵大敗。楊袞不ニ敢救一。北漢主晝夜北走。僅得レ入ニ晉陽一。周主收ニ樊愛能何徽及所部軍使以上七十餘人一。責レ之曰。汝輩非レ不レ能レ戰。正欲下以レ朕爲ニ奇貨一賣中與劉崇上耳。悉斬レ之。自レ是驕將惰卒始知レ所レ懼。不レ行ニ姑息之政一矣。張永德盛稱ニ趙匡胤智勇一。擢ニ殿前都虞侯一。周主謂ニ侍臣一曰。兵務レ精不レ務レ多。農夫百。未レ能レ養ニ戰士一一。奈何浚ニ民之膏血一。養ニ此無用之物一乎。乃命大簡ニ諸軍一。又詔ニ諸道一。募ニ天下壯士一。咸遣レ詣レ闕。命ニ匡胤一選ニ其尤者一。爲ニ殿前諸班一。其騎步諸軍。各命ニ將帥一選レ之。由レ是士卒精強。所レ向克捷。

命じて大に諸軍を簡ばしむ。又諸道に詔して、天下の壯士を募り、咸く闕に詣らしめ、匡胤に命じて其尤なる者を選びて、殿前の諸班と爲し、其騎步諸軍は各〻將帥に命じて之を選ばしむ。是に由りて士卒精強にして、向ふ所克く捷つ。

㈠ 國軍の節度使　㈡ 一に楊袞に作る　㈢ 極めて容易なる事　㈣ 高地を利用して　㈤ よきしろもの　㈥ 一時のがれの政　㈦ 百人の農夫より取立つる物

周攻ニ北漢一。汾

○周、北漢を攻む。汾・遼・憲・嵐・石・沁・忻の州、皆周に入る。周主、㈠晉陽を攻めて

新立。此必自來。朕不可不往。以吾兵力之强破崇。如山壓卵耳。馮道力爭。惟王溥勸行。北漢主軍于高平。周前鋒擊之。北漢兵卻。主慮其遁去。趣諸軍亟進。後軍未至。衆心危懼。而主志氣益銳。合戰未幾。周右軍將樊愛能。何徽先遁。右軍潰。步軍千餘解甲降。主見

胤曰く、主の危きこと此の如し。吾が屬何ぞ死を致さゞることを得んと。又禁兵の將張永德に謂ひて曰く、賊、氣驕る。破る可し。公、兵を引きて(四)高きに乘じ、西に出でゝ左翼と爲れ。吾右翼と爲りて以て之を擊たん。國家の安危此一擧に在りと。永德之に從ふ。各〻二千人に將として進み戰ふ。匡胤身ら士卒に先ち、馳せて其鋒を犯す。士卒死戰し、一、百に當らざるもの無し。北漢の兵大に敗る。楊袞敢て救はず。北漢主、晝夜北に走り、僅に晉陽に入ることを得たり。周主、樊愛能・何徽及び所部の軍使以上七十餘人を收へ、之を責めて曰く、汝が輩戰ふこと能はざるに非ず。正に朕を以て(五)奇貨と爲して、劉崇に賣り與へんと欲せしのみと。悉く之を斬る。是より驕將惰卒も始めて懼るゝ所を知り、(六)姑息の政を行はず。張永德盛に趙匡胤の智勇を稱す。周主、殿前都虞侯とす。周主、侍臣に謂ひて曰く、兵は精を務めて多きを務めず。(七)農夫の百は、未だ戰士の一を養ふ能はず。奈何ぞ民の膏血を浚ひて此無用の物を養はんやと。乃ち

榮、本姓柴氏。周祖妻兄柴守禮之子也。周祖無レ子。故養レ之。周初領ニ節鎮一。已而尹ニ開封一。封ニ晉王一。周主臨レ終。命ニ晉王一聽レ政。尋卽レ位。北漢主聞ニ周主殂一大喜。請ニ兵於契丹一。契丹遣ニ將楊衮將ニ萬騎一。北漢主自將ニ三萬人一來。周主欲ニ自將禦一レ之。羣臣皆諫。主曰。崇幸ニ大喪一。輕ニ朕年少

に之を養ふ。周の初めより節鎮を領す。已にして開封に尹たり。晉王に封ぜらる。周主、終るに臨み、晉王に命じて政を聽かしむ。尋ぎて位に卽く。北漢主、周主の殂せしを聞きて大に喜び、兵を契丹に請ふ。契丹、將楊衮を遣して萬騎に將たらしめ、北漢主自ら三萬人に將として來る。周主自ら將として之を禦がんと欲す。羣臣皆諫む。主曰く、崇、大喪を幸とし、朕の年少くして新に立つを輕んず。此れ必ず自ら來らん。朕、往かずんばある可からず。吾が兵力の強きを以て崇を破らんこと、山の卵を壓するが如きのみと。馮道力め爭ふ。惟だ王溥のみ勸め行かしむ。北漢主、高平に軍す。周の前鋒之を擊つ。北漢の兵卻く。主、其遁れ去らんことを慮り、諸軍を趣して亟かに進ましむ。後軍未だ至らず、衆心危み懼る。而して主の志氣益々鋭し。合戰未だ幾くならざるに、周の右軍の將樊愛能・何徽先づ遁れ、右軍潰ゆ。步軍千餘、甲を解きて降る。主、軍勢の危きを見、自ら親兵を引き、矢石を犯して督戰す。宿衞の將趙匡

軋一而代レ之。楚自二希廣一。希蕚一以來相攻奪無二寧歲一。其下又廢二希蕚一。而立二希崇一。南唐遣二邊鎬一擊レ楚。希崇降。南唐遷二馬氏之族于金陵一。楚亡。故楚將劉言。自二朗州一攻レ潭。邊鎬走。言取二湖南一。請二命于周一。周以レ言鎭レ朗。王逵鎭レ潭。逵襲殺二言於朗一。以二周行逢一守レ朗。逵還レ潭。後又以二行逢一鎭レ潭。逵自居レ朗。周主在位三年殂。改元者一。曰二廣順一。晉王立。是爲二世宗皇帝一。

唐、邊鎬を遣はして楚を擊つ。希崇降る。南唐、馬氏の族を金陵に遷す。楚亡ぶ〇故の楚の將劉言、朗州より潭を攻む。邊鎬走る。言、湖南を取り、命を周に請ふ。(二) 周、言を以て朗を鎭せしめ、王逵に潭を鎭せしむ。逵、襲ひて言を朗に殺し、周行逢を以て朗を守らしむ。逵、潭に還る。後又行逢を以て潭を鎭せしめ、逵自ら朗に居る〇周主、在位三年にして殂す。改元する者一。廣順と曰ふ。晉王立つ。是を世宗皇帝と爲す。

(一) 述軋は兀欲の子、述律は述軋の弟也　(二) 處分の命令を周に請ふ

世宗皇帝。名

世宗皇帝

世宗皇帝、名は榮、本姓は柴氏。周祖の妻の兄柴守禮の子也。周祖子無し。故

日官、契丹在レ汴。威勸二漢祖一擧レ兵。遂成二帝業一。漢隱帝時。威專主二征伐一。隱帝欲レ殺レ之不レ克。威擁レ兵入レ汴。已而出禦二契丹一。軍士擁還レ汴。時已迎二贇於徐州一。乃以二漢太后令一。廢レ贇爲二湘陰公一。威爲二監國一。尋即位。自謂周虢叔之後。國號レ周。贇崇子也。崇初聞二隱帝遇一レ害。欲二起レ兵南向一。及レ聞レ迎二立贇一。則曰。吾兒爲レ帝。吾復何求。贇廢死。崇乃稱二帝於晉陽一。所レ有幷汾忻代嵐憲隆蔚沁遼麟石十二州之地。謂二其臣一曰。顧我是何天子。汝等是何節度使邪。是爲二北漢一。遣二子承鈞一伐レ周。不レ克。遣レ使乞二師於契丹一。契丹策二命北漢主一。更二名旻一。

た何をか求めんと。贇、廢せられて死す。崇、乃ち帝を晉陽に稱す。有つ所は、幷・汾・忻・代・嵐・憲・隆・蔚・沁・遼・麟・石、十二州の地なり。其臣に謂ひて曰く、顧ふに我は是れ何の天子にして、汝等は是れ何の節度使ぞやと。是を北漢と爲す。子承鈞を遣はして周を伐たしむ。克たず。使を遣して師を契丹に乞ふ。契丹北漢の主に策名し、名を旻と更めしむ。

㊀官女　㊁威は項(ウナジ)に雀の子のはりものあり、時人因りて郭雀兒と渾名す

契丹述軋弑二兀欲一而自立。述律討二殺述

○契丹の述軋、兀欲を弑して自立す。述律、討ちて述軋を殺して之に代る○楚、希廣・希蕚より以來、相攻奪して寧歲無し。其下又希蕚を廢して希崇を立つ。南

周太祖皇帝。姓郭氏。名威。太原人也。唐莊宗有二宮人柴氏一。歸二其家一擇レ姻。一日窺二于門一。見レ有二疾走而過者一。柴氏大驚。問二何人一。告者曰。從馬軍使郭雀兒也。柴氏欲レ嫁レ之。父母不レ肯曰。汝帝左右人。當レ嫁二節度使一。奈何嫁二此人一。柴氏堅不レ嫁二他人一。竟歸レ威。漢祖鎭二河東一。威爲二孔

周の太祖皇帝、姓は郭氏、名は威。太原の人也。唐の莊宗に宮人柴氏有り、其家に歸りて姻を擇ぶ。一日門に窺ふ。疾走して過ぐる者有るを見る。柴氏、大に驚き、何人ぞと問ふ。告ぐる者曰く、從馬軍使郭雀兒なりと。柴氏之に嫁せんと欲す。父母肯ぜずして曰く、汝は帝の左右の人なり。當に節度使に嫁すべし。奈何ぞ此人に嫁せんと。柴氏堅く他人に嫁せず、竟に威に歸す。漢祖の河東に鎭せしとき、威、孔目官たり。契丹汴に在り。威、漢祖に勸めて兵を擧げしめ、遂に帝業を成す。漢の隱帝の時、威專ら征伐を主る。隱帝之を殺さんと欲して克はず。威、兵を擁して汴に入り、已にして出でゝ契丹を禦ぐ。軍士、擁して汴に還る。時に已に贇を徐州に迎ふ。乃ち漢の太后の令を以て、贇を廢して湘陰公と爲し、威を監國と爲す。尋ぎて卽位す。自ら謂ふ、周の虢叔の後なりと。國を周と號す。贇は崇の子也。崇初め隱帝の害に遇へるを聞き、兵を起して南に向はんと欲せしが。贇を迎へ立つと聞くに及び、則ち曰く、吾が兒帝と爲らば、吾復

張掊ㇾ斂、不ㇾ知二縱橫一。何益二於用一。漢主左右嬖倖浸用ㇾ事。親戚干ㇾ政。郭等每裁二抑之一。漢主益壯。厭下爲二大臣一所上ㇾ制。楊邠嘗議二事於前一曰。陛下但禁ㇾ聲。有二臣等在一。漢主積不ㇾ能ㇾ平。左右因譖ㇾ之。乾祐三年。殺二邠弘肇章一。遣二密詔一。欲ㇾ殺二郭威於鄴一。將佐勸ㇾ威入朝自訴。威引二大軍一至。漢主遣ㇾ兵拒ㇾ之。或降或不ㇾ戰而還。漢主爲二亂兵一所ㇾ弑。威白二太后一。迎二武寧節度贇一。未ㇾ至。聞二契丹入寇一。遣ㇾ威將ㇾ兵擊ㇾ之。威至二澶州一。將士大譟。裂二黃旗一以被二威體一。共扶二抱之一。呼二萬歲一。震ㇾ地。擁ㇾ威南行。遂代ㇾ漢。漢二世四年而亡。

るに、契丹の入寇を聞き、威を遣はして兵に將として之を撃たしむ。威、澶州に至りしとき、將士大に譟ぎ、(八)黃旗を裂きて以て威の體に被らしめ、共に之を扶け抱きて萬歲と呼ぶ。地に震ふ。威を擁して南に行く。遂に漢に代る。漢、二世四年にして亡ぶ。

(一) 官人に取られたる利益を拾ひ集む　(二) 侯益[illegible]　(三) 皆　(四) 算を握りても縱と橫との數取りだに知らず
(五) ひきへつく　(六) 口を閉ぢて何事をも言はざれ　(七) 積憤積りて　(八) 天子の服する黃衣に擬したる也

周

太祖皇帝

以來。同平章事楊邠總ニ機政ヲ。樞密使郭威主ニ征伐ヲ。侍衞指揮使史弘肇典ニ宿衞ヲ。三司使王章掌ニ財賦ヲ。邠頗公忠。弘肇察ニ京師ヲ。道不レ拾レ遺。章捃ニ拾遺利ヲ。供饋不レ乏。國家相安。弘肇嘗謂。天下須レ用ニ長槍大劍ヲ。安用ニ毛錐子ヲ。章曰。若無ニ毛錐ヲ。財賦何由取辦。章輕ニ文人ヲ。嘗曰。此

主り、侍衞指揮使史弘肇、宿衞を典り、三司使王章、財賦を掌る。邠、頗る公忠なり。弘肇、京師を察し、道遺ちたるを拾はず。章、(一)遺利を捃拾して、供(二)饋乏しからず。國家相安し。弘肇嘗て謂く、天下須らく長槍大劍を用ふべし。安んぞ(三)毛錐子を用ひん。章曰く、若し毛錐無くんば、財賦何に由りてか取辦せんと。章は文人を輕んず。嘗て曰く、(四)此輩、算を握りて縱横を知らず。何ぞ用に益あらんと。漢主の左右の嬖倖寖く事を用ひ、親戚政を干す。邠等毎に之を裁抑す。(五)漢主益〻壯にして、大臣の爲に制せらるゝを厭ふ。楊邠嘗て事を前に議して曰く、(六)陛下但だ聲を禁ぜよ、臣等の在る有りと。(七)漢主積みて平なること能はず。左右因りて之を譖す。乾祐三年、邠・弘肇・章を殺す。密詔を遣はして、郭威を鄴に殺さんと欲す。將佐、威に勸めて入朝して自ら訴へしむ。威、大軍を引きて至る。漢主、兵を遣はして之を拒ぐ。或は降り、或は戰はずして還る。漢主、亂兵の爲に弑せらる。威、太后に白して、武寧の節度贇を迎ふ。未だ至らざ

弟崇ニ尹ニ太原ー。爲ニ留守河東節度使ー。崇與ニ郭威ー有レ隙。先レ是威爲ニ樞密使侍中ニ執レ政。崇爲ニ自全之計ー。選ニ募勇士ー。招ニ納亡命ー。繕ニ甲兵ー。實ニ府庫ー。罷レ上ニ供財賦ー。朝廷詔令。多不ニ稟承ー。

と爲りて政を執る。崇自ら全くするの計を爲す。勇士を選び募り、亡命を招き納れ、甲兵を繕ひ、府庫を實し、財賦を上供することを罷め、朝廷の詔令(一)多くは稟承(二)せず。

㊀かけもち書　㊁うけ承せず

荊南高從誨卒。子寶融知ニ軍府ー。河中李守貞反。郭威督ニ諸軍ー。討克レ之。守貞自殺。漢以ニ郭威ー爲ニ鄴都留守ー。楚王馬希廣之兄希萼殺ニ希廣ー而自立。

○荊南の高從誨卒す。子寶融、軍府に知たり(一)○河中の李守貞反す。郭威諸軍を督して討ちて之に克つ。守貞自殺す○漢、郭威を以て鄴都の留守と爲す○楚王馬希廣の兄希萼、希廣を殺して自立す。

㊀知事たり

漢主自レ即レ位

○漢主の位に即きてより以來、同平章事楊邠、機政を總べ、樞密使郭威、征伐を

丹滅レ晉入二大梁一。知遠稱二帝於晉陽一。契丹去。乃發二太原一入レ洛。遂入レ汴。國號レ漢。後更二名暠一。

契丹主耶律德光歸。至二殺胡林一而死。剖レ腹實レ鹽載去。人謂二之帝羓一。子兀欲立。楚王馬希範卒。子希廣立。吳越王錢弘佐卒。弘倧立。其下廢レ之。而立二弘俶一。漢主殂。在位一年。改二元乾祐一。子周王立。是爲二隱帝一。

○契丹の主耶律德光歸り、殺胡林に至りて死す。(一)腹を剖き鹽を實てゝ載せ去る。人之を帝羓と謂ふ。子兀欲立つ○楚王馬希範卒す。子の希廣立つ○吳越王錢弘佐卒す。弘倧立つ。其下之を廢して公俶を立つ○漢主殂す。在位一年、元を乾祐と改む。子周王立つ。是を隱帝と爲す。

(一) 其屍の腐敗を防ぐ爲め也

隱帝。名承祐。年十八卽レ位。先レ是漢祖以二

隱帝

隱帝、名は承祐。年十八にして位に卽く○是より先漢祖、弟崇を以て太原に尹とし、留守河東の節度使と爲す。崇、郭威と隙有り。是に至りて威、樞密使侍中

最多。晉祖在河東。唐潞王移之鎭鄆。知遠曰。明公久將兵。得士卒心。今據形勝之地。士馬精強。若稱兵傳檄。帝業可成。奈何以一紙制書。自投虎口。遂拒命。唐遣將攻之不克。晉祖舉兵滅唐入洛陽。知遠時爲侍衞馬軍都指揮使。分漢兵入營。館契丹兵於寺。城中肅然。後晉祖以知遠鎭河東。晉祖殂。遺命以知遠入輔政。晉人匿之。知遠由是怨朝廷。契丹連入寇。晉雖以知遠爲行營都統。知遠不行。契

馬精強なり。若し兵を稱げ檄を傳へば、帝業成る可し。奈何ぞ一紙の制書を以て自ら虎口に投ぜんと。(二) 遂に命を拒む。唐、將を遣はして之を攻め、(一) 克たず。晉祖、兵を舉げ、唐を滅して洛陽に入る。知遠、時に侍衞馬軍都指揮使たり。漢の兵を分ちて營に入れ、契丹の兵を寺に館せしむ。(三) 城中肅然たり。後晉祖、知遠を以て河東を鎭せしむ。晉祖殂す。遺命して知遠を以て入りて政を輔けしむ。晉人之を匿す。知遠、是に由りて朝廷を怨む。契丹連に入寇す。晉、知遠を以て行營都統と爲すと雖も、知遠行かず。契丹、晉を滅して大梁に入る。知遠、帝を晉陽に稱す。契丹去る。乃ち太原を發して洛に入り、遂に汴に入り、國を漢と號す。後名を暠と更む。

(一) 鄆也　(二) 國任の辭令書を受けて身を危地に投ずるは不可と也　(三) 洛陽の天宮寺

杜威降。契丹遣ㇾ兵入ㇾ汴。執二晉主一以歸二其國一。在位五年。改元者一。曰二開運一。晉自二高祖一至ㇾ是再世。一十二年而亡。契丹主入二大梁一。胡騎四出剽掠。謂二之打草穀一。丁壯斃二鋒刃一。老弱委二溝壑一。自二東西兩畿一。及二鄭滑曹濮一。數百里間。財帛殆盡。契丹主謂二判三司劉昫一曰。契丹兵應ㇾ有二優賜一。遂括二都城士民錢帛一。遣二使者數千人一。括二於諸州一。皆迫以二嚴誅一。人不ㇾ聊ㇾ生。括至。初無二頒給一。皆欲二輦歸一。中外怨憤。皆思ㇾ逐ㇾ之。所在盜起。契丹主曰。我不ㇾ知二中國難ㇾ治如ㇾ此。居ㇾ汴三月而還。晉劉知遠。先一月即二位於晉陽一。

る ㊄ 雜草穀物を刈り取る意 ㊅ 丁年壯年 ㊆ 財寶をしらべ取り立つ ㊇ 手車に載せ自領に持歸らんとす

漢高祖皇帝。姓劉氏。初名知遠。沙陀人也。事二晉祖敬塘於兵間一。功

漢

高祖皇帝

漢の高祖皇帝、姓は劉氏、初の名は知遠。沙陀の人也。晉祖敬塘に兵間に事へて功最も多し。晉祖の河東に在りしとき、唐の潞王之を移して鄆を鎭せしめんとす。知遠曰く、明公久しく兵に將として士卒の心を得たり。今形勝の地に據り、士

十萬橫磨劍
相待桑維翰
屢請遜辭以
謝契丹。每爲
延廣所沮於
是契丹入寇
渡河。晉主自
將。及遣李守
貞等。分道擊
之。契丹敗走。
契丹再至相
州引還。晉主
又自將追之。
契丹旋兵南
下。晉人擊之。
契丹又敗走。
晉主旣再勝。
意契丹不足
畏。契丹主大
舉入寇。晉將

丹の主大舉して入寇す。晉の將杜威降る。契丹兵を遣はして汴に入り、晉主を執へて以て其國に歸る。在位五年、改元する者一。開運と曰ふ。晉、高祖より是に至るまで再世、一十二年にして亡ぶ。契丹の主、大梁に入る。胡騎四出して剽掠(四)し、之を打草穀(五)と謂ふ。丁壯(六)は鋒刃に斃れ、老弱は溝壑に委し、東西兩畿より鄭・滑・曹・濮に及び、數百里の間、財帛殆んど盡く。契丹の主、判三司劉昫に謂ひて曰く、契丹の兵應に優賜有るべしと。遂に都城士民の錢帛を括(七)し、使者數千人を遣はして諸州に括す。皆迫るに嚴誅を以てす。人〻生を聊んぜず。括し至れば初めより頒ち給すること無く、皆斂して歸らんと欲す。中外怨み憤り、皆之を逐はんことを思ふ。所在盜起る。契丹(八)の主曰く、我、中國の治め難きこと此の如くなるを知らざりきと。汴に居ること三月にして還る。晉の劉知遠先つこと一月、位に晉陽に卽く。

(一) 高祖の喪を告げ知らするに　(二) 契丹より晉に往來し音物の貨品を齎る役人　(三) 契丹を指す　(四) かすめと

立。殷主延政遣レ兵討レ之。閩人殺二文進一。傳二首於殷一。殷改二國號一曰レ閩。唐人攻拔二建州一。延政出降。閩亡。唐攻二福州一。不レ克。後呉越遣レ兵取レ之。

初晉高祖事二契丹一甚謹。至二少主一卽レ位。景延廣主議。告レ哀不二復稱レ臣。契丹大怒。延廣又囚二其回圖使一。已而遣レ歸。大言曰。歸語二而主一。先帝爲二北朝一所レ立。故稱レ臣奉レ表。今上乃中國所レ立。爲レ隣稱レ孫足矣。翁怒則來戰。孫有下

○初め晉の高祖、契丹に事ふること甚だ謹む。少主位に卽くに至りて、景延廣主として議し、(一)哀を告ぐるに、復た臣と稱せず。契丹大に怒る。延廣又其(二)回圖使を囚ふ。已にして歸らしむるとき、大言して曰く、歸りて而の主に語げよ。先帝は北朝に立てらる。故に臣と稱して表を上れり。今上は中國の立つる所なり、(三)隣と爲し、孫と稱すれば足る。翁怒らば、則ち來り戰へ。孫に十萬の磨劍を横へて相待てる有りと。桑維翰、屢〻遜辭して以て契丹に謝せんと請ひ、毎に延廣の爲に沮まる。是に於て契丹入寇して河を渡る。晉主、自ら將とし、及び李守貞等をして道を分ちて之を擊たしむ。契丹敗れ走る。契丹再び相州に至り、引き還る。晉主又自ら將として之を追ふ。契丹、兵を旋して南に下り、晉人之を擊つ。契丹又敗れ走る。晉主既に再び勝つ。意へらく、契丹畏るゝに足らずと。契

出帝、名重貴。高祖兄子也。高祖臨レ終、命二幼子重璿一拜二宰相馮道一、欲二其輔立一。景延廣議以、國家多難、宜レ立二長君一。遂立二重貴一。延廣用レ事。

出帝、名は重貴。高祖の兄の子也。高祖、終るに臨み、幼子重璿(一)に命じて、宰相馮道を拜せしめ、其輔立(二)を欲す。景延廣の議に以へらく、國家多難なり、宜しく長君を立つべしと。遂に重貴を立つ。延廣事を用ふ。

(一) 璿の字當に睿に作るべしといふ　(二) たすけ立つ

南唐主李昪殂。子璟立。閩王之弟王延政、據二建州一稱二殷帝一。南漢主劉玢之弟弘熙弑レ玢而自立。更レ名晟。閩主朱文進弑二其主王曦一而自

○南唐の主李昪殂す。子璟立つ○閩王の弟王延政、建州に據りて殷帝と稱す○南漢主劉玢の弟弘熙、玢を弑して自立し、名を晟と更む○閩の朱文進、其主王曦を弑して自立す。殷主延政、兵を遣はして之を討つ。閩人、文進を殺し、首を殷に傳ふ。殷、國號を改めて閩と曰ふ。唐人、攻めて建州を拔く。延政、出で降る。閩亡ぶ。唐福州を攻む。克たず。後、吳越、兵を遣はして之を取る。

書令一鎮レ昇。而留二其子一輔二吳政一。廣二金陵城一。吳加二知誥大元帥一。封二齊王一。備二殊禮一。至レ是遂受二吳禪一。知誥本徐州李氏子也。自謂二唐後一。國號レ唐。尋復二姓李一。更二名昇一。是稱二南唐一。

し、名を昇と更む。是を南唐と稱す。

一　とり別けてあつき禮遇

契丹改レ國號二大遼一。閩王曦弑二其主昶一。而自立。吳越王錢元瓘卒。子弘佐嗣。南漢主劉龔。又更二名龑一。尋殂。子玢立。晉主在レ位不二七歳一殂。改元者一。曰二天福一。齊王立。是爲二出帝一。

○契丹、國を改めて大遼と號す○閩王曦、其主昶を弑して自立す○吳越王錢元瓘卒す。子弘佐嗣ぐ○南漢の主劉龔、又名を龑と更む。尋ぎて殂す。子玢立つ○晉主、位に在ること七歳ならずして殂す。改元する者一。天福と曰ふ。齊王立つ。是を出帝と爲す。

出帝

桑維翰爲二敬塘一草レ表。爲レ臣二於契丹。事以二父禮一。約二事捷割レ地。劉知遠以爲太過。厚賂二金帛一。足レ致二其兵一。不三必許以二土田一。恐異日大爲二中國之患一。敬塘不レ聽。表至。契丹主大喜。許二騎五萬一而來。與二唐兵一戰二於晉陽一。大敗レ之。契丹主立二敬塘一稱レ帝。國號レ晉。割二幽薊瀛莫涿檀順新嬀儒武雲應寰朔蔚十六州一與レ之。契丹以二晉主一南下。又破二唐兵一于二潞州一。契丹北還。晉主引而南。唐將校皆飛レ狀以迎。唐主殂。晉主入都レ洛。已而還レ汴。

唐の將校、皆狀を飛して以て迎ふ。唐主殂す。晉主、入りて洛に都し、已にして汴に還る。

(一) 石敬塘に嫁したる唐明宗の女　(二) 夫の石敬塘也。郎は妻の夫を指していふ語、爰にその口氣を假る也

呉徐知誥稱レ帝。奉二呉主溥一爲二讓皇一。初徐溫命二知誥一治二昇州一。致二繁富一。城市府舍甚盛。溫自徙居レ之。知誥入二廣陵一。輔二呉政一。溫卒。知誥以二中

○呉の徐知誥、帝と稱し、呉主溥を奉じて讓皇と爲す。初め徐溫、知誥に命じて昇州を治めしむ。繁富を致し、城市府舍甚だ盛なり。溫自ら徙りて之に居る。知誥、廣陵に入りて呉の政を輔く。溫卒す。知誥、中書令を以て昇を鎭し、而して其子を留めて呉の政を輔けしむ。金陵城を廣くす。呉、知誥に大元帥を加へ、齊王に封じ、殊禮(一)を備ふ。是に至りて遂に呉の禪を受く。知誥は本と徐州の李氏の子也。自ら唐の後なりと謂ひ、國を唐と號す。尋ぎて李姓を復

明宗之壻也。初與二從珂一皆勇力善鬪。事二明宗一。皆有レ功。內相忌。從珂稱レ帝。敬塘自二河東一來朝。將佐皆勸留レ之。時久病骨立。唐主不二以爲レ虞。遂得レ歸レ鎭。公主在二洛陽一。辭歸。唐主醉曰。何不二且留一遽歸。欲下與二石郎一反上邪。敬塘聞レ之益懼。尋命移二鎭鄆州一。敬塘拒レ命。唐主發レ兵討レ之。

帝と稱す。敬塘、河東より來朝す。將佐皆勸めて之を留めしむ。時に久しく病みて骨立つ。唐主以て虞るゝことを爲さず、遂に鎭に歸ることを得たり。公主(一)、洛陽に在り。辭し歸らんとす。唐主醉ひて曰く、何ぞ且く留らずして遽に歸る。石郎(二)と反せんと欲するかと。敬塘之を聞きて益々懼る。尋ぎて命じて、鄆州に移り鎭せしむ。敬塘命を拒む。唐主兵を發して之を討つ。桑維翰、敬塘の爲に表を草すらく契丹に臣と爲り、事ふるに父の禮を以てし、事捷たば地を割くことを約せんと。劉知遠以爲らく、太だ過ぎたり。厚く金帛を賂はゞ、其兵を致すに足らん。必ずしも許すに土田を以てせざれ。恐くは異日大に中國の患を爲さんと。敬塘聽かず。表至る。契丹の主大に喜び、騎五萬を將ゐて來り、唐兵と晉陽に戰ひて大に之を破る。契丹の主、敬塘を立て、帝と稱せしむ。國を晉と號す。幽・薊・瀛・莫・涿・檀・順・新・嬀・儒・武・雲・應・寰・朔・蔚の十六州を割きて之に與ふ。契丹、晉主を以て南に下り、又唐の兵を破りて潞州に至る。契丹北に還り、晉主引きて南す。

國人殺其王璘而立其子繼鵬。更名昶。

唐主初與河東節度使石敬瑭不相悅。唐主立。敬瑭不得已入朝。尋歸鎭。陰爲自全之計。唐主移之。遂反。求援於契丹。契丹敗唐兵。立敬瑭爲晉帝。引兵向洛陽。唐主自焚死。在位不三年。改元者一。曰淸泰。唐自莊宗至是四主。凡一十四年。

歸り、陰に自全(一)の計を爲す。唐主之を移す(二)。遂に反し、援を契丹に求む。契丹、唐の兵を敗り、敬瑭を立てゝ晉帝と爲し、兵を引きて洛陽に向ふ。唐主自ら焚死す。在位三年ならず。改元する者一。淸泰と曰ふ。唐、莊宗より是に至るまで四主、凡て一十四年なり。

(一) 自ら身を全うするの計　(二) 天平の節度使に移す

晉

晉高祖皇帝。姓石氏。名敬瑭。沙陀人。唐

高祖皇帝

晉の高祖皇帝、姓は石氏、名は敬瑭。沙陀の人にして、唐の明宗の壻也。初め從珂と皆勇力にして善く鬪ふ。明宗に事へて皆功有り。內、相忌む。從珂、

潞王。名從珂。本姓王氏。明宗之養子也。少從二明宗一征伐。有二功名一。得二衆心一。用レ事者忌レ之。從珂鎭二鳳翔一。閔帝命移二鎭河東一。將佐以爲。離レ鎭必無二全理一。乃移二檄鄰道一。起レ兵入淸二帝側一。從珂至レ陝。諸軍皆迎降。至レ洛。宰相馮道等。百官班迎。遂卽レ位。遣レ人鴆二殺閔帝於衛州一。

潞王、名は從珂、本姓は王氏。明宗の養子也。少くして明宗に從ひて征伐し功名有り、衆の心を得たり。事を用ふる者、之を忌む。從珂、鳳翔に鎭す。閔帝、命じて河東に移鎭す。將佐以爲らく、鎭を離るれば必ず(一)全き理無しと。乃ち檄を鄰道に移し、兵を起して入りて帝側を淸めんとす。從珂、陝に至る。諸軍皆迎へ降る。洛に至る。宰相馮道等、百官(二)班迎す。遂に位に卽く。人を遣はして閔帝を衛州に鴆殺せしむ。

(一) 安全なるべき道理なし　(二) 班列を正して出て迎ふ

蜀主孟知祥殂。子昶立。夏州李彝超卒。兄彝殷代レ之。

○蜀主孟知祥、殂す。子昶立つ○夏州の李彝超卒す、兄彝殷之に代る○閩人、其王璘を殺して、其子繼鵬を立つ。名を昶と改む○唐主、初め河東の節度使石敬塘と素より相悅ばず。唐主立つ。敬塘已むことを得ずして入朝す。尋ぎて鎭に

聖人。爲生民主。在位八年。改元者二。曰天成。長興。內無聲色。外無遊畋。不任宦官。廢內藏庫。賞廉吏。治贓蠧。雖不知書。所行暗合於道。年數屢豐。兵革罕用。校於五代粗爲小康。子宋王立。是爲閔帝。

閔帝。名從厚。明宗次子也。即位有志爲治。然不知其要。寬柔少斷。蜀孟知祥稱帝。唐潞王反於鳳翔。舉兵長驅至洛陽。閔帝出奔。在位改元應順。數月而已。潞王立。

閔帝

閔帝、名は從厚。明宗の次子也。位に即きて、治を爲すに志有り。然れども、其要を知らず。寬柔にして斷少かりき。蜀の孟知祥、帝と稱す○唐の潞王、鳳翔に反し、兵を舉げて、長驅して洛陽に至る。閔帝出で奔る。位に在りて、應順と改元す。數月のみ。潞王、立つ。

● 寬大柔弱にして決斷に乏しかりき

潞王

唐秦王從榮驕狠。自知ニ時論不ヒ與。常懼レ不レ得レ爲レ嗣。唐主寢レ疾。遽率ニ牙兵千人一至ニ端門下一。將レ入。禁衞討レ之。從榮兵潰。走歸レ府。皇城使斬レ之。唐主悲駭疾劇。遂殂。唐主性不ニ猜忌一。與レ物無レ競。登極之年。已踰ニ六十一。每夕於ニ宮中一焚レ香祝レ天曰。某胡人。因レ亂爲レ衆所レ推。願天早生ニ

○唐の秦王從榮、驕狠なり。(一)自ら時論の與せざることを知り、常に嗣と爲るを得ざらんことを懼る。唐主疾に寢ぬ。遽に牙兵(二)千人を率ゐて、端門(三)の下に至り、將に入らんとす。禁衞之を討つ。從榮の兵潰ゆ。走りて府に歸る。皇城使之を斬る。唐主悲み駭きて疾劇し。遂に殂す。唐主、性、猜忌せず、物と競ふこと無し。(四)登極の年、已に六十を踰ゆ。每夕宮中に於て、香を焚き、天に祝して(五)曰く、某は胡人なり、亂に因りて衆の爲に推さる。願はくは天早く聖人を生じて生民の主と爲せと。在位八年。改元する者二。天成・長興と曰ふ。內に聲色(六)無く、外に遊畋(七)無し。宦官に任ぜず、內藏庫を廢し、廉吏を賞し、贓蠹(八)を治む。書を知らずと雖も、行ふ所暗に道に合ふ。年穀屢〻豐にして、兵革用ふること罕なり。五代に校ぶるに、粗ぼ小康(九)と爲す。子宋王立つ。是を閔帝と爲す。

(一) 心もごり、もとる (二) 旗下の兵 (三) 王城の正門 (四) 物事に對しきそひ爭ふことなし (五) 祈りて (六) 音樂女色 (七) 遊行田獵 (八) 收賄の吏又は政をそこなふ者 (九) 少しく安康なる時代

嗣源功最高。爲二中書令蕃漢馬歩總管一。受レ命討レ鄴、爲二叛卒一所レ推。自レ鄴趨レ汴。入レ洛、遂即レ位。更二名亶一。

名を亶と更む。

㊀ 胡狄及び中國の騎兵歩兵の總監督

契丹阿保機卒。子德光立。閩王王審知卒。子延翰立。驕淫殘暴。其下弑レ之。而立二其弟延鈞一。後稱レ帝。更二名璘一。吳王楊溥稱レ帝、南平王高季興卒。子從誨立。楚王馬殷卒。子希聲立。後希聲卒。希範立。吳越王錢鏐卒。子元瓘立。夏州李仁福卒。子彝超嗣。西川孟知祥併二東川一。以二知祥一爲二蜀王一。

○契丹阿保機卒す。子德光立つ○閩王王審知卒す。子延翰立つ。驕淫殘暴なり。其下之を弑して、其弟延鈞を立つ。後帝と稱し、名を璘と更む○吳王楊溥、帝と稱す○南平王高季興卒す。子從誨立つ○楚王馬殷卒す。子希聲立つ。後希聲卒す。希範立つ○吳越王錢鏐卒す。子元瓘立つ○夏州の李仁福卒す。子彝超嗣ぐ○西川の孟知祥、東川を併す。知祥を以て蜀王と爲す。

㊀ おごりみだらにして下をしへたぐ

兵攻ニ亂者一。安重誨曰。公爲ニ元帥一。不幸爲ニ凶人一所レ劫。不レ若星行詣レ闕見ニ天子一。庶可ニ自明一。嗣源乃南趨ニ相州一。譖者奏ニ嗣源已叛一。嗣源上レ章自理。遏不レ得レ通。始疑懼。石敬瑭曰。安有下上將與ニ叛卒一入レ城。而ニ佗日得レ保レ無レ恙者上乎。大梁天下都會。願先往取レ之。始可ニ自全一。康義誠曰。主上無道。軍民怨望。公從レ衆則生。守レ節必死。嗣源乃以ニ敬瑭一爲ニ前鋒一。李從珂爲レ殿。引レ兵入ニ大梁一。唐主如ニ關東一。聞下嗣源已據ニ大梁一。諸軍離叛上。神色沮喪。歎曰。吾不レ濟矣。卽命旋レ師。從馬直郭從謙帥レ兵攻ニ帝於汜水一。唐主中ニ流矢一而殂。稱レ帝僅三歲。而遇レ弑。改元者一。曰ニ同光一。伶人斂ニ樂器一覆レ屍而焚レ之。嗣源聞レ之。痛哭。乃入ニ洛陽一。百官上レ牋勸進。不レ許。又三請ニ嗣源一監レ國。乃許レ之。繼岌自レ蜀歸。途聞ニ內難一。至ニ長安一。自殺。監國立。是爲ニ明宗皇帝一。

分ちて四指揮を置き、從馬直と號す (八) さわぎさそふ。從馬直の軍士王溫等五人軍使を殺して亂を爲せるをいふ (九) いつはり說きて (一〇) 星を戴きて馳せ行き (一一) 罪なきを明す (一二) 書面を上りて天子たらんことをすゝむ

明宗皇帝。本胡人邈佶烈也。爲ニ晉王克用養子一。名ニ嗣源一。莊宗滅レ梁。

明宗皇帝

明宗皇帝は、本と胡人邈佶烈也。晉王克用の養子と爲り、嗣源と名づく。莊宗の梁を滅すや、嗣源功最も高し。中書令・蕃漢(一)馬步の總管と爲り、命を受けて鄴を討ち、叛卒の爲に推されて、鄴より汴に趨き、洛に入り、遂に位に卽く。

入據鄴都。唐遣將李嗣源討之。至城下。軍士大譟曰。將士從主上十年。百戰以得天下。今貝州戍卒思歸。主上不赦。從馬直數卒喧競。遂欲盡誅其族。我輩初無叛心。但畏死。今欲與城中合勢。擯百刃。擁嗣源入城。城中不受外兵。逆擊之。皆潰。嗣源詭辭得出。將召

城に入りて他日恙無きを保つことを得る者有らんや。大梁は天下の都會なり。願はくは、先づ往きて之を取れ。始めて自ら全くす可し。康義誠曰く、主上無道にして、軍民怨望す。公、衆に從はゞ則ち生きん。節を守らば必ず死せんと。嗣源、乃ち敬塘を以て前鋒と爲し、李從珂を殿と爲し、兵を引きて大梁に入る。唐主、關東に如き、嗣源已に大梁に據り、諸軍離叛すと聞き、神色沮喪し、歎じて曰く、吾濟らじと。卽ち命じて師を旋す。從馬直郭從謙、兵を帥ゐて帝を汜水に攻む。唐主、流矢に中りて死す。帝と稱すること僅に三歳にして弑に遇ふ。改元する者一。同光と曰ふ。伶人、樂器を斂め、屍を覆ひて之を焚く。嗣源之を聞きて痛哭す。乃ち洛陽に入る。百官牋を上りて勸め進む。許さず。又三たび嗣源に請ひて國を監せしむ。乃ち之を許す。繼岌、蜀より歸り、途にて內難を聞き、長安に至りて自殺す。監國立つ。是を明宗皇帝と爲す。

㊀樂人　㊁白粉をつけ粧裝を施す　㊂蕃名　㊃李天下の李と理と音通なるを以て顏を撫したる也　㊄それからそれにと手蔓を求めて天子の根源を得んとす　㊅老功の將軍　㊆莊、諸軍の驍勇なる者を選びて親軍とし、

失レ色。新磨徐曰。理二天下一只一人。尙誰呼邪。帝悅。諸伶出二入宮掖一。侮二弄搢紳一。羣臣憤疾。莫二敢出一レ氣。亦有三反相附託。納レ貨賂轉以干二恩澤一。蠹レ政害レ人。恣爲二讒慝一。帝疏二忌宿將一。不レ恤二軍士一。數出遊獵。蹂二踐民田一。上下咨怨。魏博將戍二瓦橋一。代歸。復遣三留屯二貝州一。遂作レ亂。奉二趙在禮一。

を蹂り踐み、上下咨き怨む。魏博の將、瓦橋を戍る。代り歸るや、復た留りて貝州に屯せしむ。遂に亂を作し、趙在禮を奉じて入りて鄴都に據る。唐、將李嗣源を遣はして之を討つ。城下に至れば、軍士大に譟ぎて曰く、將士、主上に從ふこと十年、百戰して以て天下を得たり。今貝州の戍卒歸らんことを思ふ。主上赦さず。從馬直の數卒(八)諠競すれば、遽に盡く其族を誅せんと欲す。我輩初めより叛心無し(七)。但だ死を畏るゝのみ。今城中と勢を合せんと欲すと。白刃を拔き、嗣源を擁して城に入る。城中外兵を受けず、之を逆へ擊つ。皆潰ゆ。嗣源、詭辭(九)して出づることを得たり。將に兵を召して亂者を攻めんとす。安重誨曰く、公、元帥と爲りて、不幸にして凶人に劫かさる。若かず、星行(一〇)して闕に詣り、天子に見えんには。庶はくは自ら明かにす可しと。嗣源、乃ち南のかた相州に趨る。譖者、嗣源已に叛すと奏す。嗣源、章を上りて自ら理す。遏められて通ずることを得ず。始めて疑ひ懼る。石敬塘曰く、安んぞ上將(一一)叛卒と

衍盤遊淫湎。國亂盜起。唐遣皐子繼岌與郭崇韜代之。遂滅蜀。衍降唐。亦其族。繼岌信讒殺崇韜而還。

崇韜を殺して還る。

(一)あそびまはりて、酒色にふける　(二)ほろぼす

唐以孟知祥爲西川節度使。唐帝自克梁後寖驕。首以伶人爲刺史。帝幼習音律。或時自傅粉墨。與優人共戲。優名謂之李天下。嘗自呼曰李天下李天下。優人敬新磨。遽前批其頰。帝

○唐、孟知祥を以て西川の節度使と爲す○唐帝、梁に克ちてより後寖驕る。首めに(三)伶人を以て刺史と爲す。帝、幼より音律に習ひ、或は時に自ら粉墨を傅けて、優人と共に戲る(二)。優名を李天下と謂ふ。嘗て自ら呼びて、李天下、李天下と曰ふ。優人敬新磨、遽に前みて其頰を批つ。帝色を失ふ。新磨徐に曰く、(四)天下を理むるは只一人のみ。尙ほ誰を呼ぶかと。帝悅ぶ。諸伶、宮掖に出入して搢紳を侮弄す。羣臣憤り疾めども、敢て氣を出すもの無く、亦反りて相附託して、貨を納れ(五)展轉して以て恩澤を干むるもの有り。政を蠹し人を害し、恣に讒慝を爲す。帝、(六)宿將を疎んじ忌み、軍士を恤まず、數ゝ出でゝ遊獵し、民の田

必能成二吾事一。年十七。嗣二晉王位一。即擧レ兵破レ梁。解二潞圍一。自レ是連勝。梁祖歎曰。生レ子當レ如二李亞子一。吾兒豚犬耳。存勗東併二幽州一。北卻二契丹一。南與レ梁夾レ河百戰。先レ是晉陽監軍故唐宦者張承業。爲二晉王一捃二拾財賦一。召二補兵馬一。攻戰連年。接應不レ乏。皆承業力。承業意在レ復二唐宗社一。聞二王將レ稱レ帝力諫。知レ不レ可レ止。慟哭曰。諸侯血戰。本爲二唐家一。今王自取レ之。誤二老奴一矣。悒悒成レ疾而卒。王卽レ位。改レ晉爲レ唐。奉二唐祀一。入レ汴滅レ梁。都二大梁一。已而遷二雒陽一。侍中郭崇韜有二謀略一。佐二唐主一成レ業。至レ是權兼二内外一。謀猷規益。竭レ忠無レ隱。薦二引人物一。他相受レ成而已。

の祀を奉ず。汴に入り梁を滅し、大梁に都し、已にして雒陽に遷る。侍中郭崇韜謀略有り。唐主を佐けて業を成さしむ。是に至りて權内外を兼ね、謀猷規(一〇)益、忠を竭して隱すこと無く、人物を薦引す。他の相は成を受くるのみ。(一一)

(一)少し見えず　(二)晩年　(三)時勢に順ひ、退いて德を養ひ、その才をかくす　(四)力を落して　(五)存勗の幼名、　(六)をさめとり立つ　(七)召集して補充す　(八)輜重の接續、士卒の應援　(九)宗廟社稷　(一〇)はかりごとをめぐらし、君の過をたゞし、君の行を益す　(一一)出來上りたる事柄

荊南高季興入朝。季興者季昌之改レ名也。唐以爲二南平王一。蜀主王

○荊南の高季興、入朝す。季興は季昌の名を改めたる也。唐、以て南平王と爲す。○蜀主王衍、盤遊淫湎なり。(一)國亂れ盜起る。唐、皇子繼岌と郭崇韜とを遣はして之を伐たしめ、遂に蜀を滅す。衍、降る。唐、其族を赤す。(二)繼岌、讒を信じ、

日微眇。號二獨眼龍一。爲レ唐平二黃巢一。立二大功一。王二子晉一。與二朱氏一爲レ仇。暮年頗爲所レ憂愛形二於色一。存勗幼進言曰。朱氏窮レ凶極レ暴。人怨神怒。極將レ斃矣。吾家世襲二忠貞一。大人當下遵養時晦以待中其衰上。奈何輕爲二沮喪一使二羣下失一レ望乎。克用說。臨レ終立爲レ嗣。謂二其下一曰。此子志氣遠大。

神怒る。極めて將に斃れんとす。吾が家世〻忠貞を襲ぬ。大人當に(二)遵養時晦して、以て其衰を待つべし。奈何ぞ輕〻しく(三)沮喪を爲し、羣下をして望を失はしめんやと。克用說ぶ。終るに臨み、立てゝ嗣と爲す。其下に謂ひて曰く、此子志氣遠大なり。必ず能く吾が事を成さんと。年十七、晉王の位を嗣ぐ。卽ち兵を擧げて梁を破り、潞の圍を解く。是より連に勝つ。梁祖歎じて曰く、子を生まば當に(五)李亞子の如くなるべし。吾が兒は豚犬のみと。存勗、東のかた幽州を併せ、北のかた契丹を卻け、南のかた梁と河を夾みて百戰す。是より先晉陽の監軍故の唐の宦者張承業、晉王の爲に財賦を(六)措拾し、兵馬を(七)召補す。攻戰連年、(八)接應して乏しからざりしは、皆承業の力なり。承業の意は、唐の(九)宗社を復するに在り。王の將に帝と稱せんとするを聞きて力諫し、止む可からざるを知るや、慟哭して曰く、諸侯の血戰するは本と唐家の爲なり。今王自ら之を取り、老奴を誤まると。悒悒として疾を成して卒す。王、位に卽き、晉を改めて唐と爲し、唐

王討平之。先是呉蜀屢書勸晉王稱帝。晉王自謂先王有遺言。當務復唐社稷。既而得傳國寶於魏州。將佐皆賀。勸進不已。遂即帝位於魏。國號唐。遣李嗣源。襲取梁鄆州。梁以王彥章爲招討。唐主戒德勝守者曰。王鐵槍勇決。謹之。彥章果拔南城。進拔諸寨。至楊劉力攻。不克而退。梁遣彥章攻鄆。唐主救之。梁敗彥章死。唐以嗣源爲前鋒。五日入大梁。梁主猶慮諸兄弟乘危謀亂。盡殺之。尋命其下殺己。在位十一年。改元者二。曰貞明龍德。梁自太祖稱帝。至是二世一十七年而亡。

にして亡ぶ。

(一) くひ止む　(二) 帝と僭せん事をすゝむ　(三) 彥章常に二本の鐵槍を用ひて戰ふ、故に時人斯く呼べり

唐莊宗皇帝。名存勗。沙陀人也。本姓朱邪。先世立功。賜姓李。父克用有勇略。一

唐

莊宗皇帝

唐の莊宗皇帝、名は存勗。沙陀の人也。本姓は朱邪。先世功を立て、姓を李と賜ふ。父克用、勇略有り。一目微眇、獨眼龍と號す。唐の爲めに黄巣を平げて大功を立て、晉に王たり。朱氏と仇を爲し、暮年頗る爲に蹙められ、憂色に形はる。存勗、幼なりしとき、進言して曰く、朱氏、凶を窮め暴を極む。人怨み

又遣レ兵襲二晉陽一。晉人擊卻レ之。晉克二衞磁洺相邢滄貝州一。掠二淮鄆一。梁人決レ河以限レ晉。晉王攻拔二其四寨一。已而大擧伐レ梁。戰二于胡柳一。晉周德威敗死。晉王收レ兵復戰。大破二梁軍一。晉築二德勝南北兩城一。梁攻レ之不レ克。梁招討王瓚爲レ晉所レ敗。梁河中降レ晉。鎭州將弑二趙王王鎔一。晉

德勝南北兩城を築く。梁之を攻めて克たず。梁の招討王瓚、晉の爲に敗らる。梁の河中、晉に降る。鎭州の將、趙王王鎔を弑す。晉王、討ちて之を平ぐ。是より先、吳・蜀屢〻書もて晉王に勸めて帝と稱せしめんとす。晉王自ら謂ふ、先王遺言有り、當に務めて唐の社稷を復すべしと。既にして傳國の寶を魏州に得たり。將佐皆賀し、勸進して已まず。遂に帝位に魏に卽き、國を唐と號す。李嗣源を遣はして梁の鄆州を襲ひ取らしむ。梁、王彦章を以て招討と爲す。唐主、德勝の守者を戒めて曰く、（三）王鐵槍、勇決なり。之を謹めよと。彦章、果して南城を拔き、進みて諸寨を拔き、楊劉に至りて力攻す。克たずして退く。梁、彦章を遣はして鄆を攻めしむ。唐主之を救ふ。梁敗れ彦章死す。唐、嗣源を以て前鋒と爲し、五日、大梁に入る。梁主、猶ほ諸兄弟の危きに乘じて亂を謀らんことを慮り、盡く之を殺し、尋ぎて其下に命じて己を殺さしむ。在位十一年。改元する者二。貞明・龍德と曰ふ。梁、太祖の帝と稱せしより、是に至りて二世、一十七年

帝。改ニ國號一曰レ漢。後又更名レ龔。吳徐溫徙治ニ昇州一。以ニ徐知誥一。入輔ニ吳政一。蜀主王建殂。子宗衍立。吳王楊隆演卒。弟溥普立。梁以ニ錢鏐一爲ニ吳越國王一。

更めて龔と名づく○吳の徐溫、徙りて昇州を治む。徐知誥を以て入りて吳の政を輔けしむ○蜀主王建、殂す。子宗衍立つ○吳王楊隆演卒す。弟溥普(一)立つ○梁、錢鏐を以て吳越國王と爲す。

㊀ 通鑑綱目に溥の一字に作る蓋し溥音普とあるを誤りて本文中に入れたるならんといふ

晉與レ梁連歲交レ兵。梁魏州降ニ于晉一。晉王入レ魏拔ニ德州澶州一。梁劉鄩襲ニ晉陽一。不レ克而還。攻ニ鎭定營一。晉師敗レ之。鄩攻ニ魏州一。晉王又敗レ之。梁

○晉、梁と連歲兵を交ふ。梁の魏州、晉に降る。晉王、魏に入りて德州・澶州を拔く。梁の劉鄩、晉陽を襲ひ、克たずして還る。鎭定の營を攻む。晉の師之を敗る。鄩、魏州を攻め、晉王又之を敗る。梁又兵を遣して晉陽を襲ふ。晉人擊ちて之を卻く。晉、衞・磁・洛・相・邢・滄・貝の州に克ち、濮鄆を掠む。梁人、河を決して以て晉を限る。(二)晉王、攻めて其四寨を拔く。已にして大擧して梁を伐ち、胡柳に戰ふ。晉の周德威敗れ死す。晉王、兵を收めて復た戰ひ、大に梁の軍を破る。晉、

入二幽州一。執二燕劉仁恭及守光一。歸斬レ之。梁賜二荊南節度使高季昌爵一爲レ王。

契丹阿保機稱レ帝。古東胡種也。其國先在二横山南一。本鮮卑舊地。元魏時自號二契丹一。初太賀氏有二八子一。號二八部太人一。推二一人一爲レ主。三歲一代。唐開元中。有二邵固者一。統レ衆。詔許二襲王一。至レ是諸部以二耶律斡里少子阿保機一爲レ主。幷二奚渤海諸國一。始建レ元。不二復受一代。國人謂二之天皇王一。

○契丹の阿保機、帝と稱す。古の東胡の種也。其國先に横山の南に在りて、本と鮮卑の舊地なり。元・魏の時自ら契丹と號す。初め太賀氏八子有り。八部太人と號す。一人を推して主と爲し、三歲に一たび代る。唐の開元中、邵固といふ者有り、衆を統ぶ。詔して襲ぎて王たること（一）を許す。是に至りて諸部、耶律斡里が少子阿保機を以て主と爲し、奚・渤海の諸國を幷せ、始めて元を建て（二）、復た代を（三）受けず。國人之を天皇王と謂ふ。

（一）交代に及ばず子々孫々承けつぎて王たるを許す　（二）年號を定む　（三）交代の請求を受けず

廣州劉巖稱二越王一。已而稱レ

○廣州の劉巖、越王と稱す。已にして帝と稱し、國號を改めて漢と曰ふ。後又

梁主救レ之。大敗走歸。先レ是梁主已有レ疾。至レ是慙憤曰。我經ニ營天下一三十年。不レ意太原遺孽。更昌熾如レ此。吾觀ニ其志一不レ小。我死諸兒非ニ彼敵一也。吾無ニ葬地一矣。疾愈劇。且加ニ躁怒一。愛ニ假子友文之妻一。將下立ニ友文一爲中嗣上。遂爲ニ其子友珪一所レ弑。在位六年。改元者二。曰ニ開平。乾化一。初以ニ汴州一爲ニ東都開封府一。洛陽爲ニ西都一。遷ニ都洛陽一者凡四年。友珪自立。尋伏レ誅。均王立。

嗣と爲さんとす。遂に其子友珪の爲に弑せらる。在位六年、改元する者二。開平・乾化と曰ふ。初め汴州を以て東都開封府と爲し、洛陽を西都と爲す。遷りて洛陽に都する者凡そ四年。友珪自立し、尋ぎて誅に伏す。均王立つ。

㊀ 晉の子孫、遺孽は妾腹と遺子にて晉王存勗を指す ㊂ さかんなり ㊃ 短氣にてむやみに怒る ㊄ 養子

均王

均王。名友貞。初爲ニ東都指揮使一。友珪簒弑。起レ兵誅レ之。而卽ニ位於汴一。更ニ名瑱一。晉王

均王、名は友貞。初め東都の指揮使と爲る。友珪簒弑す。兵を起し之を誅して、位に汴に卽き、名を瑱と更む。晉王幽州に入る。燕の劉仁恭及び守光を執へ、歸りて之を斬る○梁、荆南の節度使高季昌に爵を賜ひて、王と爲す。

㊀ 帝を弑して其の位をうばふ

治レ之。梁以二王審知一爲二閩王一。梁以二劉守光一爲二燕王一。守光者盧龍節度使仁恭之子也。先レ是因二其父一。而自領二軍府一。梁夏州亂。殺二節度李彝昌一。以二其族父仁福一代レ之。夏州李氏本姓拓跋。上世自レ唐賜レ姓。領レ鎭久矣。

を殺し、其族父(一)仁福を以て之に代ふ。夏州の李氏、本姓は拓跋。上世、唐より姓を賜ふ。鎭を領すること久し。

(一) 父のまたいとこ

廣州劉隱卒。弟巖代レ之。劉守光稱二燕帝一。鎭州王鎔。定州王處直。推二晉王一爲二盟主一。梁攻二鎭州一。襲二取諸郡一。晉王伐二其兵於柏鄉一。大破レ之。晉帥二二鎭一伐レ燕。

○廣州の劉隱卒す。弟巖之に代る○劉守光、燕帝と稱す○鎭州の王鎔、定州の王處直、晉王を推して盟主と爲す。梁、鎭州を攻め、諸郡を襲ひ取る。晉王、其兵を柏鄉に伐ちて大に之を破る。晉、二鎭を帥ゐて燕を伐つ。梁主之を救ひ、大敗して走せ歸る。是より先梁主已に疾有り。是に至りて慙憤して曰く、我天下を經營すること三十年、意はざりき、太原の遺孽、更に昌熾なること此の如くならんとは。吾其志を觀るに小ならず。我死せば、諸兒は彼の敵に非ず。吾、葬地無からんと。疾愈〻劇しく、且躁怒を加ふ。假子友文の妻を愛し、將に友文を立てゝ

兵直抵二晉陽一城下一。克用登レ城。備禦不レ遑ニ寢食一。後汴兵再圍二晉陽一。以レ疫還。克用幾欲レ走。會ニ汴兵去一而止。克用不レ能下與ニ汴人一爭上者累年。悒悒以至ニ于卒一。子存勗立。時梁兵侵レ晉圍ニ潞州一。晉李嗣昭閉レ城固守踰レ年。梁築ニ夾寨一守レ之。存勗與ニ諸將一謀曰。朱溫所レ憚者先王耳。聞ニ吾新立一。以爲ニ童子一。必有ニ驕怠之心一。若簡ニ精兵一。倍レ道趨レ之。出ニ其不意一。取レ威定レ霸在ニ此一擧一。不レ可失也。帥レ兵發ニ晉陽一。伏ニ三垂岡下一。且乘ニ大霧一。直抵ニ夾寨一。塡レ塹鼓譟而入。梁兵大潰。遂解ニ潞圍一。

からずと。兵を帥ゐて晉陽を發し、三垂岡の下に伏し、旦に大霧に乘じて直に夾寨に抵り、塹を塡め鼓譟(六)して入る。梁の兵大に潰え、遂に潞の圍を解く。

㊀そなへふせぐ ㊁軍中に流行病の發せし爲め ㊂樂しまざる貌 ㊃城をとりまきて設けたるとりで ㊄二日の行程を一日に進むをいふ ㊅せめ太鼓を打ちならしさわぎ立てゝ進む

淮南將張顥。徐溫弑ニ楊渥一。溫復殺レ顥。將吏推立ニ楊隆演一。徐溫自領ニ昇州一。而以ニ養子徐知誥一往

○淮南の將張顥・徐溫、楊渥を弑す。溫、復た顥を殺す。將吏推して楊隆演を立つ。徐溫自ら昇州を領し、養子徐知誥を以て往きて之を治めしむ○梁、王審知を以て閩王と爲す○梁、劉守光を以て燕王と爲す。守光は盧龍の節度使仁恭の子也。是より先其父を囚へて自ら軍府を領す○梁の夏州亂る。節度李彝昌

王李克用卒。初克用有二養子一曰二存孝一。最驍勇有レ功。養子存信疾而譖レ之。存孝懼レ禍而叛。克用討獲囚歸。惜二其才一。意臨レ刑必有二爲レ之請者一。諸將疾二其能一。竟無二一人言一。遂死。又有二薛阿檀一。亦勇。密與二存孝一通。恐二事泄一自殺。自レ是克用兵勢寖弱。唐末數爲二汴人一所レ攻。失二數州一。汴

存孝、禍を懼れて叛す。克用討ち獲へて囚して歸る。其才を惜み、意へらく、刑に臨まば、必ず之が爲に請ふ者有らんと。諸將其能を疾み、竟に一人の言ふもの無し。遂に死す。又薛阿檀といふもの有り。亦勇なり。密に存孝と通ず。事の泄れんことを恐れて自殺す。是より克用の兵勢寖く弱し。唐の末、數〻汴人の爲に攻められて、數州を失ふ。汴の兵、直に晉陽の城下に抵る。克用、城に登り、備(一)禦して、寢食に遑あらず。後汴の兵再び晉陽を圍み、(二)疫を以て還る。克用幾んど走らんと欲す。汴の兵の去るに會ひて止む。克用、汴人と爭ふこと能はざる者累年、(三)悒悒として以て卒するに至る。子存勗立つ。時に梁の兵晉を侵して潞州を圍む。晉の李嗣昭、城を閉ぢて固く守り、年を踰ゆ。梁、(四)夾寨を築きて之を守る。存勗、諸將と謀りて曰く、朱溫の憚る所の者は先王のみ。吾が新に立てるを聞かば、以て童子と爲して必ず驕怠の心有らん。若し精兵を簡び、道を倍して(五)之に趨き、其不意に出でば、威を取り霸を定めんこと此一擧に在らん。失ふ可

攻二河北河東諸郡一。屢與二李克用一交レ兵。尋取二河中晉絳一。用二兵華岐一。東降二青州一。南取二荊襄一。橫二行諸鎭閒一。劫二遷唐都於洛一。遂簒レ唐。更二名晃一。封二其兄全昱一爲レ王。全昱嘗罵レ之曰。朱三。汝作二天子一邪。汝從二黃巢一作レ賊。天子用レ汝爲二四鎭節度使一。何負二於汝一。奈何滅二唐家三百年社稷一。自爲二帝王一。行當二族滅一矣。是時李克用王レ晉。李茂貞王レ岐。楊行密爲二吳王一王二淮南一。行密已卒。子渥代レ之。王建王レ蜀。錢鏐王二兩浙一。王潮據レ閩。已卒。弟審知代レ之。馬殷據二湖南一。劉隱據レ廣。皆自二唐末一以來。割二據諸州一。

と作るか。汝、黃巢に從ひて賊を作す。天子、汝を用ひて四鎭の節度使と爲す、何ぞ汝に負かん。奈何ぞ唐家三百年の社稷を滅して、自ら帝王と爲れる。行くゆく當に族滅せらるべしと。是の時李克用、晉に王たり。李茂貞、岐に王たり。楊行密、吳王と爲りて淮南に王たり。行密已に卒す。子渥之に代る。王建、蜀に王たり。錢鏐、兩浙に王たり。王潮、閩に據り、已に卒す。弟審知之に代る。馬殷、湖南に據り、劉隱、廣に據る。皆唐の末より以來、諸州に割據す。

一 朱全忠は兄弟の行第三番目也

梁主以二馬殷一爲二楚王一。蜀主王建稱レ帝。晉

○梁主、馬殷を以て楚王と爲す。蜀主王建、帝と稱す○晉王李克用卒す。初め克用養子有り。存孝と曰ふ。最も驍勇にして功有り。養子存信疾みて之を譖す。

梁太祖皇帝。初名温。姓朱氏。碭山人。朱五經之子也。少無頼。從二黄巢一爲レ盜。降レ唐賜二名全忠一。初鎭レ汴。攻二併徐州兗州鄆州一。

巻之六

五代

梁

太祖皇帝

梁の太祖皇帝、初めの名は温、姓は朱氏。碭山の人、朱五經の子也。少きとき無頼にして黄巣に從ひて盜を爲す。唐に降り、名を全忠と賜ふ。初め汴に鎭し、徐州・兗州・鄆州を攻め併せ、河北・河東の諸郡を攻め、屢〻李克用と兵を交ふ。尋ぎて河中の晉・絳を取り、兵を華・岐に用ひ、東のかた青州を降し、南のかた荊・襄を取り、諸鎭の間を橫行し、唐の都を洛に劫し遷し、遂に唐を簒ひ、名を晃と更む。其兄全昱を封じて王と爲す。全昱嘗て之を罵りて曰く、朱三、汝天子

裕等九人。皆昭宗子。全忠爲二相國一。加二九錫一。帝在ㇾ位仍稱二天祐一。不二四年一。禪二于梁一。尋被ㇾ弑。唐自二高祖一至ㇾ是二十世。凡二百九十年。

二十世、凡べて二百九十年なり。

● やはり前代の天祐の年號を稱へたり

好二恢諧一。多爲二歇語詩一。嘲二時事一。上意三其有二所レ蘊。手注二班簿一以爲レ相。堂吏走告不レ信。已而賀客至。綮搔レ首曰。歇後鄭五作二宰相一。時事可レ知矣。上在位十七年。改元者七。曰二龍紀。大順。景福。乾寧。光化。天復。天祐一。子立。是爲二哀皇帝一。

信ぜず。已にして賀客至る。綮、首を搔きて曰く、歇後の鄭五、宰相と作る。時事知る可しと〇上、在位十七年。改元する者七。龍紀・大順・景福・乾寧・光化・天復・天祐と曰ふ。子立つ。是を哀皇帝と爲す。

㈠ をどけ　㈡ 詩の終の語句を缺き、人をしてその含意を想像せしむるもの　㈢ 朝士の班列を記錄せる帳簿にかき入る　㈣ 鄭氏の五番目、自稱也

哀皇帝。初名祚。昭宗有二廢太子裕一。已壯。全忠惡レ之。祚以レ幼得レ立。更二名祝一。全忠殺二

哀皇帝

哀皇帝、初めの名は祚。昭宗に廢太子裕有り。已に壯なり。全忠之を惡みしかば、祚、幼を以て立つことを得たり。名を祝と更む。全忠、裕等九人を殺す。皆昭宗の子なり。全忠、相國と爲り、九錫を加ふ。帝、位に在りて、仍ほ天祐と(一)稱す。四年ならずして梁に禪る。尋ぎて弑せらる。唐、高祖より是に至るまで

下。有二篡奪之志一。胤懼爲レ是備。全忠表請レ除レ胤。密使二其黨殺一レ之。遂請レ上遷二都東京一。促二百官一東行。驅二徙士民一。上謂二侍臣一曰。鄙語云。紇干山頭凍二殺雀一。何不二飛去生處樂一。朕今漂泊不レ知三竟落二何所一。泣下沾レ巾。上至二洛陽一。李茂貞等移レ檄。以二興復一爲レ辭。全忠將二西討一。以三上有二英氣一。恐レ生レ變。遣二人入一レ洛弑レ之。

胤を除かんと請ひ、密かに其黨をして之を殺さしむ。遂に上に請ひて都を東京に遷し、百官を促して東に行かしめ、士民を驅り徙す。上、侍臣に謂ひて曰く、鄙語に云ふ、（一）紇干山頭、雀を凍殺す。何ぞ飛び去りて生處に樂まざると。朕今漂泊して竟に何の所に落つるを知らずと。泣下りて巾を沾す。上、洛陽に至る。李茂貞等檄を移して、（二）興復を以て辭と爲す。全忠、將に西討せんとす。上が英氣有るを以て、變を生ぜんことを恐れ、人をして洛に入りて之を弑せしむ。

㈠ 紇干山は雪し紇眞山の稱也、雲中郡にありて四時雪を戴く故に此語あり　㈡ 王室の回復を口實とす

上自レ即レ位。非レ不レ夢二想賢豪一。卒不レ用レ之。嘗有二朝士鄭綮一。

○上、位に即きてより、賢豪を夢想せざりしに非ず。卒に之を用ひざりき。嘗て朝士鄭綮といふもの有り、（一）恢諧を好み、多く（二）歇語の詩を爲りて時事を嘲る。上、其蘊む所有るを意ひ、手から（三）班簿を注して以て相と爲す。堂吏走り告ぐれども、

宦官謀レ去レ胤。時朱全忠有下挾二天子一令二諸侯一之意上。胤以レ書召レ之。全忠擧レ兵來。宦者韓全誨等。劫レ上如二鳳翔一。全忠圍レ之。李茂貞遂殺二全誨等一。奉レ上還二長安一。全忠以レ兵驅二宦官一。盡殺レ之。其出使二外方一者。詔二所在一誅レ之。存二黄衣幼弱三十人一。備二洒掃一。宦官自二文宗一已後。廢置在二其掌握一。至レ有二定策國老。門生天子之號一。及レ是大被二誅殺一。全忠由二東平王一。進二爵梁王一。還レ汴。

宦官、胤を去らんと謀る。時に朱全忠、天子を挾みて諸侯に令するの意有り。胤、書を以て之を召す。全忠、兵を擧げて來る。宦者韓全誨等、上を劫して長鳳翔に如かしむ。全忠之を圍む。李茂貞、遂に全誨等を殺し、上を奉じて長安に還る。全忠、兵を以て宦官を驅りて盡く之を殺し、其出でゝ外方に使せる者は、所在に詔して之を誅し、黄衣の幼弱なるもの三十人を存して、洒掃に備ふ。宦官、文宗より已後、廢置其掌握に在り。定策國老・門生天子の號有るに至る。是に及びて大に誅殺せらる。全忠、東平王より爵を梁王に進め、汴に還る。

(一) 宦官の幼きもの、黄衣は宦官の衣なり　(二) 君を廢するも置くも其手中にあり　(三) 定策國老とは天子策立の功勞有る國家の老臣の義、門生天子は天子を視ること試驗官の實擧人に於けるが如しとの意

全忠威震二天

○全忠、威天下に震ひ、簒奪の志有り。胤、懼れて是が爲に備ふ。全忠、表して

初李克用屯二渭北一。李茂貞。韓建憚レ之。事二朝廷一甚恭。克用去。二鎭復驕慢。茂貞擧レ兵犯レ闕。上出二奔華州一。克用遣レ援。又聞下朱全忠營二洛陽一迎上レ駕。茂貞與レ建皆懼。奉レ上還二長安一。先レ是嘗令下諸王將レ兵巡警上。又欲レ使下出二四方一撫中慰藩鎭上。南北司用レ事者。恐三其不二利於己一。交諫以爲二不可一。上不レ得レ已罷レ之。上在レ華時。宦官劉季述。圖殺二諸王十一人一。至レ是季述幽二上於少陽院一。而立二太子裕一。同平章事崔胤說二神策將一。討誅二季述一。上復レ位。

○初め李克用渭北に屯す。李茂貞・韓建之を憚り、朝廷に事ふること甚だ恭し。克用去る。二鎭復た驕慢なり。茂貞、兵を擧げて闕を犯す。上、華州に出奔す。克用、援を遣はす。又朱全忠が洛陽に營みて駕を迎ふと聞き、茂貞、建と皆懼れ、上を奉じて長安に還る。是より先嘗て諸王をして兵に將として巡警(一)せしむ。又四方に出して藩鎭を撫慰せしめんと欲す。南北司の事を用ふる者、其の己に不利ならんことを恐れ、交々諫めて以て不可と爲す。上、已むことを得ずして之を罷む。上、華に在りし時、宦官劉季述圖みて諸王十一人を殺す。是に至りて季述、上を少陽院に幽して、太子裕を立つ。同平章事崔胤、(二)神策の將に說きて、討ちて季述を誅す。上、位に復す。

(一) 各地を巡りて警察す (二) 近衛兵の名、將といふは其指揮使孫德昭也

朝廷日卑。有下恢二復前烈一之志上。踐祚之始。中外忻忻焉。然而内制二於宦寺一。外有二強鎮一。初志竟不レ遂。

越州董昌僭號。昌先據二杭州一。錢鏐爲二兵馬使一。朝廷命レ昌帥二浙東一。鏐領二杭州一。至レ是昌稱二帝於越一。詔レ鏐討レ之。鳳翔李茂貞。華州韓建。邠州王行瑜。三鎮擧レ兵犯レ闕。殺二宰相一。謀二廢立一。聞二李克用來討一。乃去。克用攻二邠州一。斬二行瑜一。將レ移二兵岐・華一。貴近恐二沙陀太盛一止レ之。克用自二隴西郡王一進二爵晉王一。引レ兵還二晉陽一。錢鏐克二越州一。董昌伏レ誅。

越州の董昌僭號す。昌、先に杭州に據る。錢鏐、兵馬使と爲る。朝廷、昌に命じて浙東に帥とす。鏐、杭州を領す。是に至りて、昌、帝を越に稱す。鏐に詔して之を討たしむ○鳳翔の李茂貞、華州の韓建、邠州の王行瑜、三鎭、兵を擧げて闕を犯し、宰相を殺し、廢立を謀る。李克用が來り討つと聞きて、乃ち去る。克用、邠州を攻め、行瑜を斬り、將に兵を岐・華(一)に移さんとす。貴近(二)、沙陀の太だ盛なるを恐れて之を止む。克用、隴西郡王より、爵を晉王に進め、兵を引きて晉陽に還る○錢鏐、越州に克ち、董昌、誅に伏す。

(一) 岐州即ち鳳翔府と華州　(二) 朝廷の貴戚近臣

滅レ臣。引レ兵趣ニ河中一。京師震恐。令孜劫レ上奔ニ鳳翔一。朱玫追逼不レ及。立ニ肅宗玄孫襄王熅一爲レ帝。玫將王行瑜斬レ玫。熅走ニ河中一。王重榮斬レ首送ニ行在一。上還ニ長安一。上在位十五年。改元者五。曰ニ乾符。廣明。中和。光啓。文德一。日與ニ宦官一相處而已。天下大亂。盜賊蠭起。豪傑因起ニ其間一。互相呑噬。朝廷不レ能レ制。上崩。壽王立。是爲ニ昭宗皇帝一。

つ。是を昭宗皇帝と爲す。

㈠ わきばさむ意、救ひてお遁れ申したりと也 ㈡ 互に氣脈を通じ相應じて

昭宗皇帝。名傑。僖宗之弟也。僖宗大漸。宦者立レ之爲ニ太弟一。遂卽レ位。後更ニ名曄一。帝明粹有ニ英氣一。喜ニ文學一。以ニ僖宗威令不レ振。

昭宗皇帝

昭宗皇帝、名は傑。僖宗の弟也。僖宗大漸㈠となり、宦者之を立てゝ太弟と爲す。遂に位に卽く。後に名を曄と更む。帝、明粹㈡にして英氣有り。文學を喜む。僖宗の威令振はず、朝廷日に卑しきを以て、前烈㈢を恢復するの志有り。踐祚の始、中外忻忻(四)たり。然れども内は宦寺に制せられ、外には强鎭有りて、初志竟に遂げざりき。

㈠ 病氣が危篤となりて ㈡ 賢明にしてすぐれたる氣象あり ㈢ 前代の威光武烈 (四) 喜ぶ貌

乃張目援弓起而走。會大雷雨晦冥。扶醉乘電光縋城出。汴人扼橋。從者力戰。得度而免。克用還晉陽。治甲兵。數乞討全忠。詔和解之。不聽。

上發成都還長安。秦宗權僭號。上之奔蜀也。宦者田令孜實挾之。自以爲功。權自己出。河中王重榮。前作亂自立。令孜遣朱玫等攻之。重榮求救於克用。克用方怨朝廷不罪全忠。上言。玫等與全忠相表裏。欲共

○上、成都を發して長安に還る○秦宗權、僭號す○上の蜀に奔るや、宦者田令孜、實に之を挾む。自ら以て功と爲し、權己より出づ。河中の王重榮、前に亂を作して自立す。令孜、朱玫等をして之を攻めしむ。重榮、救を克用に求む。克用、方に朝廷の全忠を罪せざるを怨み、上言すらく、玫等、全忠と相表裏して、共に臣を滅せんと欲すと。兵を引きて河中に趣く。京師震恐す。令孜、上を劫かして鳳翔に奔らしむ。朱玫、追ひ逼れども及ばず。肅宗の玄孫襄王熅を立てゝ帝と爲す。玫の將王行瑜、玫を斬る。熅、河中に走る。王重榮首を斬りて行在に送る。上、長安に還る。上、在位十五年、改元する者五。乾符・廣明・中和・光啓・文德と曰ふ。日に宦官と相處るのみ。天下大に亂れ、盜賊蠭起す。豪傑因りて其間に起り、互に相呑噬す。朝廷、制すること能はず。上崩す。壽王立

用寇二忻代一。逼二晉陽一。已而大爲二盧龍兵一所レ破。蔚朔兵亦討敗二其父國昌一。父子亡二走達旦一。朝廷赦二其罪一。召二其兵一討レ賊。克用將二沙陀一來。賊憚レ之曰。鴉軍至矣。連破レ賊。復二長安一。巢焚二宮室一而遁至二蔡州一。節度秦宗權降レ之。巢趨二汴州一。克用等追擊大破レ之。未レ幾賊黨斬レ巢以降。

克用之至二汴州一也。朱全忠襲レ之。全忠者巢將朱溫也。先爲レ巢所レ遣。攻二陷同華一。尋以二華州一降。賜二名全忠一。爲二宣武節度使一。館二克用一甚恭。克用乘レ酒頗侵レ之。全忠不レ平。發レ兵圍レ驛攻レ之。克用醉。左右以レ水沃二其面一告レ之。克用

克用の汴州に至るや、朱全忠之を襲ふ。全忠は巢の將朱溫也。先に巢の爲に遣はされて同華(一)を攻陷す。尋ぎて華州を以て降る。名を全忠と賜ひ、宣武の節度使と爲す。克用を館(二)して甚だ恭し。克用、酒に乘じて頗る之を侵(三)す。全忠、平ならず。兵を發し驛(四)を圍みて之を攻む。克用醉ふ。左右水を以て其面に沃ぎて之に告ぐ。克用乃ち目を張り、弓を援き、起ちて走る。大雷雨、晦冥(五)なるに會ふ。醉を扶け、電光に乘じ、城に縋(六)して出づ。汴人、橋を扼す。從者力戰し、度ることを得て免る。克用、晉陽に還りて、甲兵を治め、表して全忠を討たんと乞ふ。詔して之を和解せしめんとせしも、聽かず。

(一) 二つの州の名　(二) 宿泊せしむ　(三) 侮辱す　(四) 克用の館せる驛　(五) まつくら　(六) 繩をかけて

先是沙陀李國昌之子克用爲兵馬使。戍蔚州。大同軍諸將謀曰。今天下大亂。朝廷號令不復行於四方。此乃英雄功名富貴之秋。李振武名聞天下。其子勇冠諸軍。若輔以擧事。代北不足平也。遣人潛詣蔚州。說克用。克用趨雲州取之。河東招義討之而大敗。克

是より先沙陀の李國昌の子克用、兵馬使と爲りて、蔚州を戍る。大同軍の諸將謀りて曰く、今天下大に亂れ、朝廷の號令復た四方に行はれず。此れ乃ち英雄功名富貴の秋なり。李振武、名天下に聞え、其子、勇、諸軍に冠たり。若し輔けて以て事を擧げば、代北は平ぐるに足らずと。人をして潛かに蔚州に詣りて克用に說かしむ。克用、雲州に趨きて之を取る。河東の招義之を討ちて大敗す。克用、忻代に寇し、晉陽に逼る。已にして大に盧龍の兵の爲に敗らる。蔚朔の兵も亦討ちて其父國昌を敗る。父子達旦に亡け走る。朝廷其罪を赦し、其兵を召して賊を討たしむ。克用、沙陀を將ゐて來る。賊之を憚りて曰く、鴉軍[一]至ると。連りに賊を破り、長安を復す。巢、宮室を焚きて遁れ、蔡州に至る。節度秦宗權之に降る。巢、汴州に趨く。克用等追ひ擊ちて大に之を破る。未だ幾くならず、賊の黨、巢を斬りて以て降る。

[一] 蓋し兵皆黑き服を著したるを以て目してカラス軍といへる也

殍。無所控訴。所在相聚爲盜。濮州人王仙芝起。曹州寃句人黄巢應之。巢善騎射。喜任俠。嘗擧進士不第。與仙芝共販私鹽。至是聚衆。攻剽州縣。窮民歸之。數月數萬。仙芝攻陷汝鄭唐鄧。寇鄂州。陷安州。寇荊南。與招討曾元裕。戰於申州而大敗。又大敗於黄梅。斬之。黄巢陷鄆沂濮。掠宋汴。南渡陷洪虔吉饒信。寇宣州。入浙東。爲鎭海節度使高駢所破。遂趨廣南。陷廣州。出潭州。北渡向襄陽。敗於荊門。復引而南。陷宣州。自采石渡江。已而渡淮。陷申州。入潁宋徐兗之境。陷東都。引而西。入潼關。入長安。上出奔蜀。巢僭號大齊皇帝。諸道發兵赴援。

州を陥れ、荊南に寇し、招討曾元裕と申州に戰ひて大敗し、又黄梅に大敗す。(六)之を斬る。黄巢、鄆・沂・濮を陥れ、宋・汴を掠め、南に渡りて洪・虔・吉・饒・信を陥れ、宣州に寇し、浙東に入り、鎭海の節度使高駢の爲に破られ、遂に廣南に趨き、廣州を陥れ、潭州に出で、北に渡りて襄陽に向ひ、荊門に破れ、復た引きて南し、宣州を陥れ、采石より江を渡る。已にして淮を渡り、申州を陥れ、潁・宋・徐・兗の境に入り、東都を陥れ、引きて西し、潼關に入り、長安に入る。上、蜀に出で奔る。巢、大齊皇帝と僭號す。諸道兵を發して赴き援く。

(一) 税の取り立て (二) 洪水とひでり (三) 流浪餓死 (四) 男だて (五) 鹽は官より拂下ぐるもの、即ち密造品を密賣する也 (六) 曾元裕が仙芝を斬りたる也

爲レ主。擁レ兵北還。所レ過剽掠。至二徐州一。因殺二節度使一。陷二諸郡一。招討使康承訓擊レ之。以二沙陀朱邪赤心一爲二的鋒一。勛敗死。賜二赤心姓名李國昌一。爲二大同軍節度使一。尋又爲二振武節度使一。咸通十四年。上崩。在位十五年。改元者一。子晉王立。是爲二僖宗皇帝一。

四年、上崩ず。在位十五年、改元する者一。子晉王立つ。之を僖宗皇帝と爲す。

（一）人をおびやかし物を掠め取る

僖宗皇帝。名儇。懿宗少子也。年十三。爲二宦官所一レ立。自二懿宗一以來。奢侈日甚。用レ兵不レ息。賦斂愈急。水旱不二以レ實聞一。百姓流

僖宗皇帝

僖宗皇帝、名は儇、懿宗の少子也。年十三、宦者の爲に立てらる。懿宗より以來、奢侈日に甚しく、兵を用ひて息まず、賦斂（二）愈〻急なり。水旱（三）も實を以て聞せず。百姓、流殍し、控訴する所無し。所在相聚りて盜を爲す。濮州の人王仙芝起る。曹州寃句（一）の人黄巢之に應ず。巢、騎射を善し、任俠（四）を喜ぶ。嘗て進士に擧げられ、第せず。仙芝と共に私鹽（五）を販ぐ。是に至りて衆を聚めて州縣を攻剽す。窮民之に歸し、數月にして數萬なり。仙芝、汝鄭・唐鄧を攻陷し、鄂州に寇し、安

懿宗皇帝。初名溫。封二鄆王一。以レ無レ寵不レ得レ爲二太子一。宣宗崩。宦者立レ之。更名レ漼。浙東賊裘甫起。聲振二中原一。觀察使王式討斬レ之。

懿宗皇帝、初の名は溫。鄆王に封ぜらる。寵無きを以て太子と爲ることを得ず。宣宗崩ず。宦者之を立つ。更めて漼と名づく○浙東の賊裘甫起る。聲(一)中原に振ふ。觀察使王式討ちて之を斬る。

(一) 其名聲盛んにして中土を振ひ動かしたり

九年。徐州賊龐勛起。先レ是南詔稱二大理皇帝一。擧レ兵入寇。陷二播邕交趾一。勅二徐泗兵一戍二桂州一。過レ期不レ代。遂作レ亂。勛爲二糧料判官一。戍卒推以

○九年、徐州の賊龐勛起る。是より先、南詔、大理皇帝と稱し、兵を擧げて入寇し、播邕・交趾を陷る。徐・泗の兵に勅して桂州を戍らしむ。期を過ぎて代らず。遂に亂を作す。勛、糧料判官たり。戍卒推して以て主と爲し、兵を擁して北に還り、過ぐる所(二)剽掠す。徐州に至り、因りて節度使を殺し、諸郡を陷る。招討使康承訓之を擊つ。沙陀の朱邪赤心を以て前鋒と爲す。勛、敗死す。赤心に姓名を李國昌と賜ひ、大同軍節度使と爲し、尋ぎて又振武節度使と爲す○咸通十

常恐罹禍負貽。不得再相見。綯嘗罰入曰。吾十年秉政。最承恩遇。每延英奏事。未嘗不汗沾衣也。嘗召學士韋澳屏左右問之曰。近日內侍權勢如何。對曰。陛下威斷。非前朝比。上閉目搖首曰。全未。全未。尙畏之在。又嘗與綯謀。盡誅宦官。恐濫及無辜。綯密奏曰。但有罪勿捨。有缺勿補。自然消耗至盡。宦者竊見其奏。由是益與朝士相惡。南北司如水火。

りに無辜に及ばんことを恐る。綯、密かに奏して曰く、但だ罪有らば捨すこと勿れ。缺(九)ありとも補ふこと勿れ。自然に消耗して盡くるに至らんと。宦者竊かに其奏を見、是より益〻朝士と相惡む。南北司水火の如し。(一〇)

(一)京都の外より直ちに館に轉任する勿れ　(二)面前に於て其良否を奏せしめよ　(三)友人　(四)隣りの州の刺史　(五)禁止　(六)濡れたるかはごろも　(七)擯む狀　(八)御殿の名　(九)缺員　(一〇)南司は宰相の役所、北司は宦官の役所

大中十三年。上崩。在位十四年。改元者一。長子立。是爲懿宗皇帝。

○大中十三年、上崩ず。在位十四年、改元する者一。長子立つ。是を懿宗皇帝と爲す。

懿宗皇帝

嘗詔。刺史毋レ得二外徙一。必令二至レ京面察一。絢嘗徙二故人一爲二鄰州一便道之レ官。上問レ之曰。詔命既行。直廢格不レ用。宰相可レ謂レ有レ權。時方寒。絢汗透二重裘一。上臨レ朝對二羣臣一。未三嘗有二惰容一。每二宰相奏一レ事。旁無二一人一。威嚴不レ可二仰視一。奏レ事畢忽怡然閑語一刻許。徐復整レ容曰。卿輩善爲レ之。

嘗て詔す、刺史は外より徙る(一)を得ること毋れ。必ず京に至りて面察せしめよと。絢、嘗て故人(三)を徙して鄰州(四)と爲し、便道より官に之かしむ。上、(二)之に問ひて曰く、詔命既に行はれ、直に廢格(五)して用ひず。宰相は權有りと謂ふ可しと。時方に寒し。絢、汗重裘(六)に透る。上、朝に臨みて羣臣に對するに、未だ嘗て惰容有らず。宰相事を奏する毎に、旁に一人無し。威嚴仰ぎ視る可からず。事を奏すること畢れば、忽ち怡然(七)として閑語すること一刻許、徐ろに復た容を整へて曰く、卿が輩善く之を爲よ。常に恐らくは卿が輩朕に負きて再び相見るを得ざらんことをと。絢、嘗て人に謂ひて曰く、吾、十年政を秉り、最も恩遇を承く。(八)延英にて事を奏する毎に、未だ嘗て汗衣を沾さずんばあらずと。嘗て學士韋澳を召し、左右を屛け、之に問ひて曰く、近日内侍の權勢如何。對へて曰く、陛下の威斷前朝の比に非ずと。上、目を閉ぢ、首を搖かして曰く、全く未し、全く未し。尙ほ之を畏るゝ在りと。又嘗て絢と謀り、盡く宦官を誅せんとし、濫

貞觀政要於屏風。每正色拱レ手而讀。嘗與二學士畢諴一論二邊事一。諴具陳二方略一。上悅曰。不レ意頗牧在二吾禁中一。卽用爲二邊帥一。果稱二其任一。上聰察強記。嘗密令三學士韋澳纂二次州縣境土風物及諸利害一。爲二一書一。號曰二處分語一。刺史有二入謝而出者一。曰。上處二分本州事一驚レ人。建州刺史入辭。上問。建州去二京師一幾何。曰。八千里。上曰。卿到レ彼爲レ政。朕皆知レ之。勿レ謂レ遠。此階前則萬里也。令狐綯奏擬二李遠杭州刺史一。上曰。吾聞遠詩云。長日惟消一局棊。安能理レ人。綯曰。詩人託二此高興一。未二必實然一。

と爲す。果して其任に稱ふ。上、聰察強記なり。嘗て密かに學士韋澳をして、州縣の境土風物及び諸々の利害を纂次せしめて、一書を爲り、號して處分語と曰ふ。刺史入り、謝して出づる者有れば、曰く、上、本州の事を處分して人を驚かすと。建州の刺史入りて辭す。上問ふ。建州、京師を去ること幾何ぞ。曰く、八千里。上曰く、卿、彼に到りて政を爲す、朕皆之を知る、遠しと謂ふこと勿れ、此階前は則ち萬里也と。令狐綯、奏して李遠を杭州の刺史に擬す。上曰く、吾聞く、遠の詩に云く、長日惟だ消す一局の棊と。安んぞ能く人を理めん。綯曰く、詩人此高興に託す。未だ必ずしも實に然らずと。

㈠ 廉頗將軍と李牧　㈡ 次第を立て編纂せしむ　㈢ 萬里は近く殿階の前に在り居ながらにして遠きを知ると也

恰。憲宗子也。幼號二不慧一。太和後益自韜匿。文宗好誘二其言一。以爲レ笑。武宗豪邁。尤不レ禮レ之。名爲二光叔一。武宗疾篤。子幼。宦官定二策禁中一。詔立レ怡爲二皇太叔一。更名レ忱。權勾二當軍國事一。裁決咸當レ理。人始知二其隱德一焉。尋卽レ位。李德裕罷。僧孺。宗閔等北遷。德裕三貶。至二崖州司戸一以死。

韜匿す。(二)文宗好みて其言を誘ひて、以て笑と爲す。武宗豪邁にして、尤も之を禮せず。名づけて光叔と爲す。武宗疾篤し。子幼なり。宦官、策を禁中に定め、詔して怡を立てゝ皇太叔と爲し、更めて忱と名づけ、權に軍國の事を勾當(三)せしむ。裁決咸な理に當る。人始めて其隱德を知る。尋ぎて位に卽く○李德裕罷む。僧孺、宗閔等、北に遷る。德裕三たび貶せられ、崖州の司戸に至りて以て死す。

(一)愚かなりとの評判あり　(二)才能力をかくしくらます　(三)取扱はしむ

令狐綯同平章事。先レ是綯爲二學士一。上嘗以二太宗所レ選金鏡錄一。授レ綯使レ讀レ之。又書二

○令狐綯、同平章事たり。是より先綯、學士と爲る。上、嘗て太宗選ぶ所の金鏡錄を以て、綯に授けて之を讀ましめ、又貞觀政要を屛風に書し、每に色を正しくし、手を拱きて讀む。嘗て學士畢誠と邊事を論ず。誠、具さに方略を陳ぶ。上、悅びて曰く、意はざりき、頗牧(一)吾が禁中に在らんとはと。卽ち用ひて邊帥

遂ㇾ歸。士良歛ㇾ之曰。天子不ㇾ可ㇾ令ㇾ閑。常宜下以二奢靡一娯ㇾ之。使ㇾ無ㇾ暇ㇾ及二他事一。愼勿ㇾ使三之讀ㇾ書親二近儒生一。見二前代興亡一。心知二憂懼一。則吾輩疎斥矣。毀二天下佛寺一。僧尼勒ㇾ歸ㇾ俗。會昌六年。上崩。在位七年。改元者一。曰二會昌一。光王立。是爲二宣宗皇帝一。

儒生を親近せしむること勿れ。前代の興亡を見て、心に憂懼を知らば、則ち吾が輩(三)疎斥せられんと○天下の佛寺を毀ち、僧尼は勒(四)して俗に歸らしむ○會昌六年、上崩ず。在位七年、改元する者一。會昌と曰ふ。光王立つ。是を宣宗皇帝と爲す。

(一)其家の財寶を帳簿に書き上げ、悉く官に沒收す　(二)士良の私第に歸るを送る　(三)うとんじ斥けられん　(四)取りおさへて

宣宗皇帝。名

宣宗皇帝

宣宗皇帝、名は怡。憲宗の子也。幼にして不慧(一)と號す。太和の後、益〻自ら

中一大言。相公須三早與二之節一。自二牙門一至二柳子列一十五里。曳二地光明甲一。若レ之何取レ之。德裕詰レ之。辭屈。奏徵賊決不レ可レ恕。如國力不レ支。寧捨二劉稹一。河東兵出戍者。聞四朝廷令三客軍取二太原一。恐二妻拏被一レ居。乃歸擒レ弁送二京師一。斬レ之。未レ幾劉稹勢窮蹙。潞人殺レ稹以降。澤潞平。加二德裕太尉衞國公一。貶二牛僧孺一。爲二循州長史一。流二李宗閔於封州一。

ず。如し國力支へずんば、寧ろ劉稹を捨てんと。河東の兵出でゝ戍る者、朝廷の客軍をして太原を取らしむと聞き、妻拏(六)の居られんことを恐れ、乃ち歸りて弁を擒にして京師に送る。之を斬る。未だ幾くならず。劉稹勢窮り蹙る。潞人稹を殺して以て降る。澤潞平ぐ。德裕に太尉衞國公を加へ、牛僧孺を貶して循州の長史と爲し、李宗閔を封州に流す。

㈠さとす　㈡德裕を指していふ也　㈢節度に任ずべしと也　㈣鐵の甲（ヨロヒ）の名、甲士の多きをいふ　㈤答辯の辭に窮す　㈥妻子

削二宦者仇士良官爵一。籍二沒其家一。先レ是士良致仕。其黨

○宦者仇士良の官爵を削り、其家を籍沒(一)す。是より先士良致仕す。其黨歸るを(二)送る。士良之に教へて曰く、天子は閑ならしむ可からず。常に宜しく奢靡を以て之を娛ましむべし。他事に及ぶに暇無からしめよ。愼みて之をして書を讀み、

果朝廷之度外。澤潞近在二心腹一。若又因而授レ之。威令不三復行二於諸鎮一矣。上問何以制レ之。曰稹所レ恃者三鎮。但得三鎮魏不二與レ之同一。稹無二能爲一也。遣二重臣一諭二鎮魏一討レ之。詔曰。澤潞一鎮。與レ朔事體不レ同。勿下爲二子孫之謀一。使上レ存二輔車之勢一。鎮魏悚息。聽レ命。二鎮兵與二朝廷所レ遣行營將王宰石雄一。各進討。

と同ぜざることを得ば、稹は能く爲すこと無からん。重臣を遣はし、鎮・魏に諭して之を討たしめん。詔して曰く、澤・潞の一鎮、朔と事體同じからず。子孫の謀を爲して、輔車の勢を存せしむること勿れと。鎮・魏、悚息して命を聽く。二鎮の兵と、朝廷遣はす所の行營の將王宰石雄と、各々進み討つ。

（一）成德・魏博・幽州の三節度をいふ　（二）むねと腹、近きにある喩　（三）鎭は成德節度、魏は魏博節度をいふ　（四）頰輔（ウハアゴ）と牙車（シタアゴ）の相待つて立つが如き形勢　（五）畏れ屏息して

河東都將楊弁作レ亂。逐二節度使一。遣二中使馬元贄一曉諭。且覘レ之。元贄受レ賂還。於二衆

○河東の都將楊弁、亂を作し、節度使を逐ふ。中使馬元贄を遣はして曉諭（一）し、且之を覘はしむ。元贄賂を受けて還り、衆中に於て大言す、相公（二）須らく早く之に（三）節を與ふべし。牙門より柳子列に至るまで十五里、地に光（四）明甲を曳く。之を若何ぞ之を取らんと。德裕之を詰る。（五）辭、屈す。奏すらく、微賊決して恕す可から

軍旅一習二邊事一者上訪以二險易遠近一。皆若二身歷一。練二士卒一。葺二堡障一以備レ邊。吐蕃將悉怛謀以二維州一來降。維州本漢地。入レ兵之路。吐蕃得レ之。號爲二無憂城一。德裕極以レ得二此州一爲レ便。牛僧孺以爲レ不レ可レ納。以三城併二叛將一歸。吐蕃誅二之境上一。極二慘酷一。牛李之怨。自レ是愈深。僧孺尋罷。德裕入相。宗閔亦罷。宗閔再相。德裕又罷。二黨互相擠援。文宗每歎曰。去二河北賊一易。去二朝廷朋黨一難。德裕連被二貶黜一。及二上立一。召二德裕一相レ之。德裕言二於上一曰。正人指二邪人一爲レ邪。邪人亦指二正人一爲レ邪。在二人主辨一レ之。上嘉納。德裕追二論維州事一。悉怛謀加二褒贈一。

て曰く、正人は邪人を指して邪と爲し、邪人も亦正人を指して邪と爲す。人主の之を辨ずるに在りと。上、嘉納す。德裕の維州の事を追論して、悉怛謀に褒贈を加ふ

(一) きびしくそしる　(二) 讒をかまへ役をおとす　(三) 邊境の事に熟す　(四) 牛僧孺と李德裕

昭儀節度使劉從諫卒。姪稹自領二軍府一。德裕謂。澤潞事體。與二河朔三鎭一不レ同。河朔習レ亂已久。

○昭儀の節度使劉從諫卒す。姪の稹自ら軍府を領す。德裕謂く、澤・潞の事體は、河朔三鎭と同じからず。(一)河朔、亂に習ふこと已に久し。累朝之を度外に置く。澤潞は近く心腹に在り。(二)若し又、因りて之に授けば、威令復た諸鎭に行はれじ。上問ふ、何を以て之を制せん。曰く、稹の恃む所の者は三鎭なり。但だ鎭魏の(三)之

吉甫上恨レ之。構二貶宗閔一。自レ是各分二朋黨一。更相排軋者。垂二四十年一。在二文宗時一。德裕爲二侍郎一。裴度薦二其可レ爲レ相。宗閔有二宦官之助一。遂相。惡二德裕逼一レ己而出レ之。且引二牛僧孺一並相。相與排二擯德裕之黨一。尋以二德裕一。鎭二西川一。德裕作二籌邊樓一。圖二蜀地形一。南入二南詔一。西達二吐蕃一。日召下老二於

有りて、遂に相たり、德裕の己に逼るを惡みて之を出し、且つ牛僧孺を引きて並に相たり。相與に德裕の黨を排擯し、尋ぎて德裕を以て西川を鎭せしむ。德裕、籌邊樓を作り、蜀の地形を圖して、南のかた南詔に入り、西のかた吐蕃に達す。日に軍旅に老け邊事に習ふ者を召して、訪ふに險易遠近を以てし、皆身歷るが若し。士卒を練り、堡障を脩して以て邊に備ふ。吐蕃の將悉怛謀、維州を以て來り降る。維州は本と漢の地にして、兵を入るゝの路なり。吐蕃之を得て、號して無憂城と爲す。德裕、極めて此州を得たるを以て便と爲す。牛僧孺、以て納る可からずと爲し、城と叛將とを以て歸す。吐蕃之を境上に誅し、慘酷を極む。牛・李の怨是より愈ゝ深し。僧孺、尋ぎて罷めらる。德裕入りて相たり。宗閔も亦罷めらる。宗閔再び相たり。德裕、又罷めらる。二黨互に相擠援す。文宗毎に歎じて曰く、河北の賊を去ることは易く、朝廷の朋黨を去ることは難しと。德裕連に貶黜せらる。上の立つに及び、德裕を召して之を相とす。德裕、上に言ひ

武宗皇帝。名瀍。穆宗子也。文宗嘗立二敬宗子成美一爲二太子一。臨レ崩欲下以二成美一監上レ國。官者以爲立不レ由レ己。廢レ之。而立レ瀍爲二太弟一。遂殺二成美一而卽レ位。後改二名炎一。

武宗皇帝

武宗皇帝、名は瀍。穆宗の子也。文宗嘗て敬宗の子成美を立てゝ太子と爲す。崩ずるに臨み、成美を以て國を監せしめんと欲す。官者以爲らく、立つこと己に由らずと。之を廢して、瀍を立てゝ太弟と爲す。遂に成美を殺して位に卽く。後に名を炎と改む。

● 己等の力によりて立ちしに非ず

以二李德裕一同平章事。德裕在二穆宗初一爲二學士一。以下李宗閔者嘗對二制策一譏中切其父

○李德裕を以て同平章事とす。德裕、穆宗の初めに在りて學士と爲る。李宗閔といふ者、嘗て制策に對して其父吉甫を譏切するを以て之を恨み、宗閔を構貶す。是より各〻朋黨を分ち、更〻相排軋する者四十年に垂んとす。文宗の時に在りて、德裕、侍郎と爲る。裴度、其相と爲す可きを薦む。宗閔、官官の助くる

平章軍國重事。與ㇾ時浮沈而已。然四朝將相。威望遠逮二四夷一。四夷見二唐使一。輒問二度安否一。以ㇾ身繫二國家輕重一。如二郭子儀一者二十餘年。

五年上崩。上卽位之初。勵ㇾ精求ㇾ治。去ㇾ奢從ㇾ儉。中外翕然。謂二太平可ㇾ冀。然制二於宦寺一。竟不ㇾ能ㇾ有ㇾ爲。嘗問二宰相一。何時太平。牛僧孺答以二太平無ㇾ象。末年嘗問二近臣一。朕何二如周赧漢獻一。對者憮然。上曰赧獻受二制強臣一。今朕受二制家奴一。殆不ㇾ如也。在位十五年。改元者二。曰二太和。開成一。弟穎王立。是爲二武宗皇帝一。

五年、上崩ず。上、卽位の初め、精を勵まして治を求め、奢を去りて儉に從ひ、中外翕然として太平冀ふ可しと謂ふ。然るに宦(一)寺に制せられて、竟に爲す有ると能はず。嘗て宰相に問ふ、何の時か太平ならんと。牛僧孺、答ふるに太平は(二)象無きを以てす。末年に、嘗て近臣に問ふ、朕、周赧・漢獻(三)と何如ぞやと。對ふる者憮然(四)たり。上曰く、赧・獻は制を強臣に受く。今朕は制を家奴に受く。殆んど如かざる也と。在位十五年。改元する者二。太和・開成と曰ふ。弟穎王立つ。是を武宗皇帝と爲す。

(一) 宦官の役所卽ち北司　(二) 太平は名狀すべき形象なきもの也　(三) 周の赧王と漢の獻帝　(四) 驚き畏る、貌

如レ此則功專歸レ注。乃謀ニ先發一。令三人奏三金吾廳事後柘榴有二甘露一。宰相帥ニ百官一拜賀。後勸レ上往觀。上令ニ宰相先往視一。訓陽言。非レ眞。上顧ニ仇士良一。帥ニ諸宦官一往視。士良等既至。見ニ風吹幕起。執レ兵者無數一。驚走告レ變。訓呼ニ金吾衞士等一上レ殿。僅擊ニ死傷宦者十餘人一。知ニ事不一レ濟而走。士良等命ニ神策兵一。殺ニ金吾吏卒一。執ニ宰相王涯賈餗舒元輿等一。誣以ニ謀反一。腰ニ斬之一。訓之謀。惟元輿知レ之。他相實不レ知也。自レ是天下事。皆決ニ於北司一。宰相行ニ文書一而已。李訓爲レ人所レ殺。傳レ首。鄭注亦爲ニ鳳翔監軍宦者一所レ殺。

開成三年。司徒中書令晉公裴度卒。度自ニ憲宗時一罷レ相後。無レ意ニ世事一。治ニ園池一有ニ綠野堂子午橋等別墅之勝一。與ニ詩人一觴詠自娛。穆宗。敬宗時。皆嘗一入輔レ政。至ニ上之世一。亦嘗

○開成三年、司徒中書令晉公裴度卒す。度、憲宗の時、相を罷めしより後、世事に意無し。園池を治め、綠野堂・子午橋等の別墅の勝有り、(一)詩人と觴詠して(二)自ら娛む。穆宗・敬宗の時、皆嘗て一たび入りて政を輔く。上の世に至りても亦嘗て平章軍國重事たり。(三)時と浮沈するのみ。然して四朝の將相となり、威望遠く四夷に達す。四夷、唐の使を見れば、輒ち度が安否を問ふ。(四)身を以て國家の輕重に繫ぐこと郭子儀の如きもの二十餘年なり。

(一)別莊　(二)酒を飲み詩を詠ず　(三)世の形勢につれて浮きつ沈みつするのみ　(四)一身を以て國家の輕重に關係す、所謂國家柱石の臣たるをいふ

以レ誠告レ之。訓注逢以レ誅二宦官一爲二己任一。訓既與レ注勢位俱盛。頗忌レ注。託以二中外協レ勢一。出レ注鎭二鳳翔一。進二擢宦者仇士良一。以分二王守澄之權一。訓同平章事。請レ除二守澄一。遣二中使一鴆二殺之一。注始與レ訓謀。至レ鎭。選二壯士數百入護一レ守澄葬一。仍請レ令二內官盡送一。然後殺レ之。無レ遺類一。訓心以爲

先ちて發せんと謀り、人をして金吾廳事(六)の後の石榴に甘露有りと奏せしむ。宰相、百官を帥ゐて拜賀す。後上に勸めて往きて觀しめんとす。上、宰相をして先づ往きて視しむ。訓、陽りて(七)曰く、眞に非ずと。上、仇士良を顧み、諸宦官を帥ゐて往きて視しむ。士良等既に至る。風吹き幕起ちて兵を執る者無數なるを見る。驚き走りて變を告ぐ。訓、金吾の衞士等を呼びて殿に上らしめ、僅かに擊ちて宦者十餘人を死傷せしめ、事の濟らざるを知りて走る。士良等、神策の兵に命じて、金吾の吏卒を殺さしめ、宰相王涯・賈餗・舒元輿等を執へて、誣ふるに謀反を以てして之を腰斬す。訓の謀、惟だ元輿のみ之を知り、他の相は實に知らざる也。是より天下の事、皆北司(八)に決し、宰相は文書を行ふのみ。李訓、人の爲に殺され、(九)首を傳へらる。鄭注も亦鳳翔監軍の宦者の爲に殺さる。

(一) 志操大にして任俠の氣風を尚ぶ (二) 權謀術數 (三) 暗々裏に宦官を誅すべしとの意を含めていふ也 (四) 內外より力を併せて事を謀らんといふに事寄せて (五) 天子の私の使 (六) 金吾の役所 (七) もと〳〵虛構して人に見せしめしものを又殊更に非眞といふ、故に陽りてと書せる也 (八) 宦官の役所 (九) 其首を京師に送り傳へらる

太和五年。上與二同平章事宋申錫一。謀レ誅二宦官一。不レ克。申錫貶死。九年。上與二李訓鄭注等一。謀レ誅二宦官一。不レ克。注本宦者王守澄所レ引。訓本名仲言。又爲レ注所レ引。得レ見二守澄一。守澄薦二於上一。倜儻尙レ氣。有二文辭口辯一。多二權數一。上悅レ之。訓注揣二知上意一。數以二微言一動レ上。上意二其可レ謀二大事一。

○太和五年、上、同平章事宋申錫と、宦官を誅せんと謀る。克はず。申錫貶せられて死す○九年、上、李訓・鄭注等と、宦官を誅せんと謀る。克はず。注は本と宦者王守澄の引く所なり。訓、本の名は仲言。又注の爲に引かれ、守澄を見ることを得たり。守澄、上に薦む。(一)倜儻にして氣を尙ぶ。文辭口辯有り。(二)權數多し。上、之を悅ぶ。訓・注、上の意を揣り知り、數〻(三)微言を以て上を動かす。上、其大事を謀る可きを意ひ、誠を以て之に告ぐ。訓・注、遂に宦官を誅するを以て己の任と爲す。訓、既に注と勢位倶に盛なり。頗る注を忌む。(四)託するに、中外勢を協するを以てし、注を出して鳳翔を鎭せしめ、宦者仇士良を進め擢んでゝ、以て王守澄の權を分つ。訓、同平章事たり。守澄を除かんと請ひ、(五)中使をして之を鴆殺せしむ。注、始め訓と謀りて鎭に至り、壯士數百をして、入りて守澄の葬を護せしめ、仍りて請ふ、內官をして盡く送らしめ、然る後に之を殺さば、遺類無からんと。訓、心に以爲らく、此の如くならば則ち功專ら注に歸せんと。乃ち

文宗皇帝。名涵。穆宗子也。爲二宦者王守澄一所レ立。後改二名昂一。太和二年。親策制二擧人一。宦者益横。建二置天子一。在二其掌握一。權出二人主之右一。無二人敢言一。賢良方正劉蕡。對策極二言之一。考官皆歎服。而不二敢取一。中レ第者裴休。李郃。杜牧。崔愼由等。二十二人。皆除レ官。物論囂然稱レ屈。郃曰劉蕡下第。我輩登科。能無二顏厚一。上疏乞レ回二所レ授官於蕡一。不レ報。

文宗皇帝

文宗皇帝、名は涵。穆宗の子也。宦者王守澄の爲に立てらる。後、名を昂と改む。太和二年、親ら策(一)して人を制擧(二)す。宦者益々横なり。天子を建置すること、其掌握に在り。權、人主の右に出づ。人敢て言ふ無し。賢良方正劉蕡、對策して之を極言す。考官(三)皆歎服すれども、而も敢て取らず。第に中る者、裴休・李郃・杜牧・崔愼由等二十二人、皆官に除せらる。物論囂然として屈(四)と稱す。郃曰く、劉蕡下第し、我輩登科す。能く顏厚きこと無からんやと。上疏して授けられし所の官を蕡に回さんと乞ふ。報ぜず。

(一) 試也 (二) 天子自ら策して士を登用するを制擧といふ (三) 試驗官 (四) 屈は枉屈されたる也

敬宗皇帝。名湛。卽レ位荒淫。嬖倖用レ事。李德裕獻二丹扆六箴一。一曰宵衣。二曰正服。三曰罷獻。四曰納誨。五曰辨邪。六曰防微。上遊戲無レ度。性復褊急。宦官動遭二捶撻一。皆怨。夜獵還レ宮。酒酣爲二宦者劉克明一所レ弑。在位三年。改元者一。曰二寶曆一。江王立。是爲二文宗皇帝一。

敬宗皇帝

敬宗皇帝、名は湛。位に卽きて荒淫なり。(一)嬖倖事を用ふ。李德裕、(二)丹扆の六箴を獻ず。一に曰く、(三)宵衣。二に曰く、(四)正服。三に曰く、(五)罷獻。四に曰く、(六)納誨。五に曰く、(七)辨邪。六に曰く、(八)防微○上、遊戲度無し。性復た(九)褊急なり。宦官動もすれば(一〇)捶撻に遭ふ。皆怨む。夜獵して宮に還り、酒酣にして、宦者劉克明の爲に弑せらる。在位三年、改元する者一。寶曆と曰ふ。江王立つ。是を文宗皇帝と爲す。

(一) お氣に入りの臣が政事を自由にす (二) 丹扆は御座の背後に立つる赤き屛風狀のもの、箴は戒辭。天子座右の銘也 (三) 朝早く起きて衣服を着く (四) 服裝を正しくす (五) 獻上物を禁ず (六) 敎誨を納る (七) 邪惡なる者を見わく (八) 微行を用心すべし、輕出遊幸を戒する也 (九) 度量狹くして氣短し (一〇) むちうつ

王公士民。瞻奉捨施。惟恐レ不レ及。侍郎韓愈上レ表極諫。乞下以投二之水火一。上大怒。貶二潮州刺史一。平盧將執二斬李師道一。裴度罷。十五年。上暴崩。上服二金丹一多躁。左右獲レ罪有二死者一。人人自危。宦者陳弘志弑逆。其黨諱レ之。但言二藥發一。在位十六年。改元者一。曰二元和一。太子立。是爲二穆宗皇帝一。

州の刺史に貶す○平盧の將、李師道を執へ斬る○裴度、罷めらる○十五年、上暴かに崩ず。上、金丹を服して多躁なり。(二)左右罪を獲て死する者有り。人人自ら危む。宦者陳弘志、弑逆す。其黨之を諱みて、但だ藥發(三)と言ふ。在位十六年、改元する者一。元和と曰ふ。太子立つ。是を穆宗皇帝と爲す。

㊀瞻奉は瞻仰してをがむをいひ、捨施は財寶を喜捨するをいふ　㊁躁氣にしてあら〳〵しく落つきなし　㊂藥の中毒にて發したる病

穆宗皇帝。名恆。卽レ位。改元曰二長慶一。四年崩。太子立。是爲二敬宗皇帝一。

穆宗皇帝

穆宗皇帝、名は恆。位に卽き、改元して長慶と曰ふ。四年崩ず。太子立つ。是を敬宗皇帝と爲す。

賊暗射殺之。又擊度傷首。上怒。討賊愈急。以度同平章事。上曰。吾倚度一人。足破賊。命度。兼彰義節度使。充淮西宣慰招討使。督諸軍進討。唐鄧節度使李愬。先擒賊將丁士良。吳秀琳。李祐。釋而用之。用祐計。雪夜七十里。引兵入蔡州城。擊鵝鴨池混軍聲。鷄鳴入據元濟之外宅。元濟登牙城拒戰。已而就擒。檻送京師斬之。自叛及誅。凡用兵二歲。時元和十二年也。淮西既平。上寖驕侈。先是二歲。已用李逢吉同平章事。至十三年。又用度支使皇甫鎛。鹽鐵使程昇進羨餘。有寵。竝同平章事。朝野駭愕。元和之政非矣。

に平ぎ、上、寝く驕侈なり。是より先二歳、已に李逢吉を用ひて同平章事とす。十三年に至り、又度支使皇甫鎛を用ふ。鹽鐵使程昇、羨餘(五)を薦めて、寵有り、竝に同平章事たり。朝野駭愕す。元和の政非なり。

(一) かけもちもの　(二) 砲を打ちて水鳥のさわぎに人馬の音を紛らす　(三) 城外の居宅　(四) 本丸をいふ　(五) 一定の賦の外の餘物

十四年迎鳳翔法門寺塔佛指骨至京師。留禁中三日。歷送諸寺。

〇十四年、鳳翔の法門寺の塔の佛指骨を迎へて京師に至らしめ、禁中に留むること三日、諸寺に歷送す。王公士民(一)、瞻奉(二)捨施して、惟だ及ばざらんことを恐る。侍郎韓愈、上表して極諫し、以て之を水火に投ぜんと乞ふ。上大に怒り、潮

養亡命。少陽死。子元濟自領軍府。縱兵侵掠及東畿。詔發二十六道兵討之。平盧節度使李師道請赦元濟。不許。裴度宣慰淮西行營。還言淮西可決取。上悉以兵事委同平章事武元衡。師道素養刺客姦人。客請密往刺元衡。則佗相必爭勸天子罷兵矣。元衡入朝。

して十六道の兵を發して之を討つ。平盧の節度使李師道、元濟を赦さんと請ふ。許さず。裴度、淮西の行營を宣慰し、還りて言く、淮西決して取る可しと。上、悉く兵事を以て同平章事武元衡に委す。師道、素より刺客・姦人を養ふ。客請ふ、密に往きて元衡を刺さば、則ち佗の相は必ず爭ひて天子に勸めて兵を罷めんと。元衡入朝す。賊、暗に之を射殺し、又度を擊ちて首を傷つく。上怒り、賊を討ずること愈〻急なり。度を以て同平章事とす。上曰く、吾、度一人に倚りて賊を破るに足ると。度に命じて彰義の節度使を兼ねしめ、淮西の宣慰招討使に充て、諸軍を督して進み討たしむ。唐鄧の節度使李愬、先づ賊將丁士良・吳秀琳・李祐を擒にし、釋して之を用ひ、祐の計を用て、雪夜に七十里、兵を引きて蔡州城に入り、鵝鴨の池を擊ちて(二)軍聲を混じ、鷄鳴に入りて元濟の(三)外宅に據る。元濟、(四)牙城に登りて拒ぎ戰ふ。已にして擒に就く。檻して京師に送る。之を斬る。叛より誅に及ぶまで、凡べて兵を用ふること二歲。時に元和十二年也。淮西既

則狀也。何名ニ批勅一。㨿薦レ之爲レ相。知無レ不レ言。絳鯁直。吉甫善逢迎。絳毎三與爭ニ論於上前一。上多直レ絳。時在レ朝。如ニ崔羣白居易等一皆讜讜直。元和之世朝廷淸明以レ此。

七年、魏博兵馬使田興、請レ吏奉貢。詔以爲ニ節度使一。遣ニ裴度一宣慰。賜ニ錢百五十萬緡一犒ニ其軍一。六州百姓皆給復一年。軍受レ賜歡聲如レ雷。成德兗鄆諸鎭使者見レ之。相顧失レ色。歎曰。倔強者果何益乎。賜ニ興名弘正一。

○七年、魏博の兵馬使田興、吏を請ひて(一)奉貢す。詔して以て節度使と爲し、裴度を遣はして宣慰し、錢百五十萬緡を賜ひて其軍を犒ふ。六州の百姓皆給復すること(二)一年。軍、賜を受けて歡聲雷の如し。成德・兗・鄆諸鎭の使者之を見て、相顧みて色を失ふ。歎じて曰く、倔強なる者(三)果して何の益あらんやと。興に名を弘正と賜ふ。

(一)官吏の出張を請ひて　(二)賦役をゆるす　(三)柔服せずして朝廷に抵抗するをいふ

初彰義節度使吳少誠死。弟少陽自領ニ軍府一。少陽陰

○初め彰義の節度使吳少誠死し、弟少陽自ら軍府を領す。少陽陰に亡命を養ふ。(一)少陽死す。子元濟、自ら軍府を領し、兵を縱ちて侵掠し、東畿に及ぶ。詔

以征討。皆捷。

自杜黄裳以後。相繼爲相者。武元衡。李吉甫。裴垍。李藩。李絳皆賢相。垍嘗爲李吉甫疏人才三十餘。數月用盡。翕然稱爲得人。垍器局峻整。人人不敢干以私。藩嘗爲給事中。制勅有不可者。即批之。吏請更連素紙。藩曰。如此

○杜黄裳より以後、相繼ぎて相と爲れる者、武元衡・李吉甫・裴垍・李藩・李絳皆賢相なり。垍、嘗て李吉甫の爲に人才を疏すること(一)三十餘、數月に用ひ盡す。翕然として稱して人を得たりと爲す。垍、器局峻整(二)、人人敢て干すに私を以てせず。藩、嘗て給事中たり。制勅に不可なる者有れば、即ち之を批す。吏、更に(三)素紙を連ねんことを請ふ。藩曰く、此の如くなれば則ち狀也。何ぞ批勅(四)と名づけんと。垍之を薦めて相と爲す。知りて言はざること無し。絳は鯁直にして、吉甫は善く逢迎(五)す。絳、與に上の前に爭論する毎に、上、多く絳を直とす。時に朝に在るもの、崔羣・白居易等の如き、皆讜讜(六)として直し。元和の世、朝廷の清明なりしは此を以てなり。

(一) 一打書きに記載して薦出すをいふ　(二) 才識氣度嚴格にして正し　(三) いきなり制勅の黄紙に認めずして、別に紙を貼り足さんとなり　(四) 勅書の批評　(五) 上の意をむかふ　(六) 直言する貌

尋卽ㇾ立。貶二王伾王叔文一。伾病死。叔文賜ㇾ死。其黨皆遠貶。元和元年。西川節度使劉闢反。同平章事杜黃裳。薦二高崇文一討ㇾ之。夏州留後楊惠琳拒二朝命一。詔討ㇾ之。爲二兵馬使一所ㇾ斬。高崇文克二成都一。擒二劉闢一送二京師一斬ㇾ之。

元和元年、西川の節度使劉闢反す。同平章事杜黃裳、高崇文を薦めて之を討たしむ○夏州の留後楊惠琳、朝命を拒む。詔して之を討つ。兵馬使の爲に斬らる。

○高崇文、成都に克ち、劉闢を擒にす。京師に送りて之を斬る。

❶國政監督の任に在り

二年。鎭海節度使李錡反。詔討ㇾ之。兵馬使執ㇾ錡。送二京師一斬ㇾ之。三年。沙陀朱邪盡忠與二其子執宜一來降。沙陀勁勇冠二諸胡一。吐蕃每ㇾ戰。以爲二前鋒一。後疑三其貳二於回鶻一。欲ㇾ遷二之河外一。懼而歸ㇾ唐。置二之靈州一。用

○二年、鎭海の節度使李錡反す。詔して之を討つ。兵馬使錡を執へて、京師に送り、之を斬る○三年、沙陀の朱邪盡忠、其子執宜と來り降る。沙陀は勁勇諸胡に冠たり。吐蕃戰ふ每に以て前鋒と爲す。後其の回紇に貳あるを疑ひ、之を河外に遷さんと欲す。懼れて唐に歸す。之を靈州に置き、用ひて以て征討す。皆捷つ。

❷二心あることを疑ふ

逝進ノ者ト。陸淳。呂温。李景儉。韓曄。韓泰。陳諫。柳宗元。劉禹錫等定爲ニ死友一。日與游處。蹤跡詭秘莫レ有ニ知ニ其端倪一者上。德宗崩。太子即レ位。先レ是有ニ風疾一。失レ音五閲月矣。伾叔文等用レ事。

㊀ 遊び相手としてそばに侍す　㊁ 約を定めて生死を共にすべき親友となり　㊂ 行動の祕密なるをいふ　㊃ 端は緒、倪は畔。何等の手がゝりを得る者なかりしと也　㊄ 音聲をなくす

追ニ陸贄陽城一赴レ京。未レ至卒。上在位改元曰ニ永貞一。僅八月。自稱ニ太上皇一。傳ニ位於太子一。是爲ニ憲宗章武皇帝一。

○陸贄・陽城を追ひて㊀京に赴かしめんとす。未だ至らずして卒す。上、在位、改元して永貞と云ふ。僅かに八月、自ら太上皇と稱し、位を太子に傳ふ。是を憲宗章武皇帝と爲す。

㊀ 追ひ召して

憲宗皇帝

憲宗皇帝。名純。年二十八。爲ニ太子一監國。

憲宗皇帝、名は純。年二十八、太子と爲りて監國たり。嗣ぎて位に卽く。王伾・王叔文を貶す。伾は病みて死し、叔文には死を賜ふ。其黨皆遠く貶せらる○

齡。城曰、朕以延齡爲相。當取白麻與之。慟哭於庭。遂沮。城左遷國子司業。後又貶道州刺史。治民如治家。自書其考曰。撫字心勞。催科政拙。考下下。十四年。淮西吳少誠叛。二十一年。上崩。在位二十七年。改元者三。曰建中。興元。貞元。初政淸明者二歲。而盧杞用矣。叛亂相繼。末年姑息而已。太子立。是爲順宗皇帝。

順宗皇帝。名誦。方爲太子時。有善書者王伾。善棋者王叔文。俱出入娛侍。因言某可相。某可將。幸異日用之。密結學士韋執誼。及朝士有名而求

順宗皇帝

順宗皇帝、名は誦。太子たりし時に方り、書を善くする者王伾、棋を善くする者王叔文有り。倶に出入して(一)娛侍す。因りて言く、某は相とす可し、某は將とす可しと。異日之を用ひんことを幸ふ。密に學士韋執誼及び朝士の有名にして速進を求むる者に結ぶ。陸淳・呂溫・李景儉・韓曄・韓泰・陳諫・柳宗元・劉禹錫等、(二)定めて死友と爲り、日に與に游處す。(三)蹤跡詭祕にして、(四)其端倪を知る者有ること莫し。德宗崩ず。太子位に卽く。是より先風疾有り、(五)音を失ふこと五閱月。伾・叔文等事を用ふ。

年。貶二贄忠州別駕一。贄自二奉天一以來。宣レ力最多。隨レ事論諫。類二切百奏一。帝追二仇盡言一。又被レ譖。故貶。初夏縣陽城以二處士一徵。爲二諫議大夫一。皆想二望風采一。在レ職七年而不レ諫。韓愈作二爭臣論一譏レ之。至是判度支裴延齡譖レ贄。城率二諸諫官一。守レ閤論二延齡姦佞贄無罪一。時朝廷且レ相延

想望す。職に在ること七年にして諫めず。韓愈、爭臣論を作りて之を譏る。是に至りて判度支裴延齡、贄を譖す。城、諸諫官を率ゐ、閤を守りて、延齡の姦佞、贄の無罪を論ず。時に朝廷且に延齡を相とせんとす。城曰く、脫し延齡を以て相と爲さば、當に白麻(五)を取りて之を壞るべしと。庭に慟哭す。遂に沮む。城、國子司業に左遷せられ、後又道州の刺史に貶せらる。民を治むること家を治むるが如し。自ら其考(六)を書して曰く、(七)撫字は心勞し、催科は政拙し。考は下の下と。○十四年、淮西の吳少誠叛す○二十一年、上崩ず。在位二十七年。改元する者三。曰く建中・興元・貞元。初め政清明なる者二歲。而るに盧杞用ひられ、叛亂相繼ぎ、末年は姑息のみ(八)。太子立つ。是を順宗皇帝と爲す。

(一) 長官に副たる官 (二) 諫の奏聞をびし〳〵と手嚴しく爲す (三) 忠諫の言を後から〳〵讎みに思ふ (四) 其立派なる樣子を想像し、其官職に居るを願す (五) 辭令書、白色の麻紙を用ふる也 (六) 考功也、五六二頁の註参照 (七) 民を撫でいつくしむに心を勞すれど、賦税を催促するは政の拙なる也。當時道州は不作にて賦税よく納まらず、觀察使度々督促の事ありし也 (八) 一時の安を偸みたる姑息の政のみ

瑊走免。吐蕃畏ニ晟燧瑊一曰。去ニ此三人一則唐可レ圖也。於レ是離ニ間晟一。因レ燧以求レ盟。欲下執レ瑊以賣レ燧。使ニ併得レ罪。因縱レ兵直犯中長安上。會失レ瑊而止。

李泌同平章事。上與レ泌從容論ニ即位以來宰相一。人言ニ盧杞姦邪一。朕殊不レ覺。泌曰。此乃所ニ以爲ニ姦邪一也。倘覺レ之。豈有ニ建中之亂一乎。泌有ニ謀略一。而好談ニ神仙詭誕一。故爲レ世所レ輕。爲レ相未ニ三歲一而卒。

○李泌、同平章事たり。上、泌と從容として即位以來の宰相を論じ、人は盧杞を姦邪なりと言へども、朕殊に覺らずと。泌曰く、此れ乃ち姦邪たる所以也。倘し之を覺らば、豈建中(一)の亂有らんやと。泌、謀略有り。而れども好みて神仙を談じて詭誕(二)なり。故に世の爲に輕んぜらる。相たること未だ三歲ならずして卒す。

(一) 上が奉天に奔りたる時の亂をいふ　(二) 空言を弄して眞摯ならず

八年。陸贄同平章事。九年。太尉中書令。西平忠武王李晟卒。十年。陸贄罷。十一

○八年、陸贄、同平章事たり○九年、太尉中書令西平忠武王李晟卒す○十年、陸贄罷む○十一年、贄を忠州の別駕(一)に貶す。贄、奉天より以來、力を宣ぶること最も多し。事に隨ひて論諫し、百奏(二)を剴切にす。帝、盡言(三)を追仇す。又譖せらる。故に貶せらる。初め夏縣の陽城、處士を以て徵されて諫議大夫と爲る。皆風采(四)を

之將二歲。不屈。竟爲賊所縊。貞元元年。盧杞量移將二再入而卒。幽州朱滔卒。馬燧及諸軍平河中。李懷光縊死。二年。淮西將陳仙奇殺李希烈以降。吳少誠殺仙奇。朝廷因以少誠領鎭。三年。張延賞同平章事。先是吐蕃尚結贊。據鹽夏州。李晟嘗破其一堡。渾瑊馬燧各擧兵臨之。懼而請和。卑辭厚禮。求於馬燧。燧信而請於朝。晟曰。戎狄無信。不如擊之。延賞與晟有隙。數言和便。遣渾瑊與吐蕃盟於平涼。吐蕃劫盟。

晟曰く、戎狄信無し。之を擊つに如かずと。延賞、晟と隙有り。數〻和を便なりと言ふ。渾瑊をして吐蕃と平涼に盟はしむ。吐蕃盟を劫かす。瑊走りて免る。吐蕃、晟・燧・瑊を畏れて曰く、此三人を去らば、則ち唐圖る可しと。是に於て晟を離間し、燧に因りて以て盟を求め、瑊を執へて以て燧を賣り、併せて罪を得しめ、因りて兵を縱ちて直に長安を犯さんと欲す。會〻瑊を失ひて止む。(七)

(一) 克復の事を朝に奏し、竿に建て、むき出しにして封せず、以て中外に示す也　(二) 歴代の廟につゝしみ藏す

(三) 簴は鐘鼓の跗(タイ)。廟内の樂器なば他に移らずと也簴一に虡(キヨ)に作る　(四) 量は度（ハカル）也、貶謫せられたる官吏の罪に隨ひ、路程の遠近を量りて他に移さるゝをいふ。杞は新州司馬より吉州長史に移されし也

(五) 朝廷に入らんとして　(六) 和睦の執成しを求む　(七) 取り逃したるを以て此計謀を止む

李晟克ニ復長安一。朱泚走。其將斬レ之以降。晟露布至ニ行在一曰。臣已肅ニ淸宮禁一。祗ニ謁寢園一。鐘簴不レ移。廟貌如レ故。上覽レ之泣曰。天生ニ李晟一。以爲ニ社稷一。非レ爲レ朕也。車駕還ニ長安一。顏眞卿爲ニ李希烈一所レ殺。先レ是眞卿爲ニ盧杞一所レ陷。遣レ奉ニ使希烈所一。人言失ニ一元老一。爲ニ國家一羞。至ニ賊中一。留レ

○李晟、長安を克復す。朱泚走る。其將之を斬りて以て降る。晟、露布(一)し、行在に至りて曰く、臣已に宮禁を肅淸す。寢園(二)に祗謁せしに、鐘簴(三)移らず、廟貌故の如しと。上、之を覽て泣きて曰く、天、李晟を生じて以て社稷の爲にす。朕の爲に非ざる也と○車駕長安に還る○顏眞卿、李希烈の爲に殺さる。是より先眞卿、盧杞の爲に陷れられ、希烈の所に奉使せしめらる。人は言ふ、一元老を失ふ、國家の爲に羞づと。賊中に至れば、之を留めて將に二歲ならんとす。屈せず。竟に賊の爲に縊らる○貞元元年、盧杞、量移(四)せられ、將に再び入らん(五)として卒す○幽州の朱滔卒す○馬燧及び諸軍河中を平ぐ。李懷光縊死す○二年、淮西の將陳仙奇、李希烈を殺して以て降る。吳少誠、仙奇を殺す。朝廷因りて少誠を以て鎭を領せしむ○三年、張延賞、同平章事たり。是より先吐蕃の尙結贊、鹽夏州に據る。李晟、嘗て其一堡を破る。渾瑊・馬燧各々兵を擧げて之に臨む。懼れて和を請ひ、辭を卑くし、禮を厚くして、馬燧に求む(六)。燧、信じて朝に請ふ。

桑道茂、言數年後有離宮之厄。奉天有天子氣。宜高大其城。以備非常。上從之。至是遂奔奉天。泚犯奉天。李晟率兵赴援。渾瑊擊泚破之。奉天圍解。李懷光赴難、亦破泚兵。至奉天。欲入自盧杞之姦。杞隔之。不得入見而行。上表暴杞惡。衆論亦喧。貶杞。上不得已遂貶之。興元元年。大赦。陸贄勸上。罪己以謝天下。奉天所下書詔。驕將悍卒聞之。無不感激揮涕。王武俊。田悅。李納。上表謝罪。

大赦す。陸贄、上に勸め、己を罪して以て天下に謝せしむ。奉天にて下す所の書詔は、驕將悍卒も之を聞きて感激して涕を揮はざること無し。王武俊・田悅・李納、表を上りて罪を謝す。

(一) 玄米の飯と野菜にてつゝみたる團子　(二) おごれる大將も、兇悍なる兵卒も

李希烈僭號大楚皇帝。置瓊林大盈庫於行宮。陸贄諫去其榜。李懷光反。上奔梁州。魏博田緒。殺田悅。自領軍府。

○李希烈、大楚皇帝と僭號す○瓊林大盈庫を行宮に置く。陸贄、諫めて其榜を去らしむ○李懷光反す。上、梁州に奔る○魏博の田緒、田悅を殺して自ら軍府を領す。

(一) 玄宗の時京師に設ける庫の名、之を行宮に設き、諸道の貢物を貯ふ　(二) 瓊林大盈庫と書したる木札

李希烈寇二襄城一。詔發二涇原等道兵一救レ之。涇原節度使姚令言。將レ兵過二京師一。犒レ師惟糲食菜餤。衆怒作レ亂入レ城。上出奔。亂兵奉二太尉朱泚一爲レ主。司農卿段秀實謀レ誅レ泚。不レ克。泚召レ衆議レ稱レ帝。秀實唾二其面一大罵。以レ笏擊二泚額一。血濺レ地。泚殺レ之。遂僭二號大秦皇帝一。先レ是有二術士

○李希烈、襄城に寇す。詔して涇原等の道兵を發して之を救ふ。涇原の節度使姚令言、兵を將ゐて京師を過ぐ。師を犒ふに惟だ糲食菜餤のみ。衆怒りて亂を作し城に入る。上、出で奔る。亂兵、太尉朱泚を奉じて主と爲す。司農卿段秀實、泚を誅せんと謀る。克たず。泚、衆を召して帝と稱せんことを議す。秀實、其面に唾して大に罵り、笏を以て泚の額を擊つ。血地に濺ぐ。泚、之を殺し、遂に大秦皇帝と僭號す。是より先術士桑道茂といふもの有り。言ふ、數年の後に宮を離るゝの厄有らん。奉天に天子の氣有り。宜しく其城を高大にして以て非常に備ふべしと。上、之に從ふ。是に至りて、遂に奉天に奔る。泚、奉天を犯す。李晟、兵を率ゐて赴き援く。渾瑊、泚を擊ちて之を破る。奉天の圍み解く。李懷光、難に赴き、亦泚の兵を破り、奉天に至り、入りて盧杞の姦を白さんと欲す。杞、之を隔つ。入り見ゆることを得ずして行り、表を上りて杞の惡を暴はす。衆論亦喧騰して杞を咎む。上、已むことを得ずして、之を遠貶す○興元元年

危者三十年。功蓋天下。而主不疑。位極人臣。而衆不疾。嘗遣使至魏博。田承嗣西望拜之曰。此膝不屈於人久矣。今爲公拜。校中書令。凡二十四考。家人三千人。八子七婿皆顯。諸孫數十人。毎問安不能盡辨。頷之而已。年八十三而終。平盧李正己卒。子納自領鎭。朱滔。田悅。王武俊。李納。先後皆反。三年。四人皆自稱王。李希烈反。兩河用兵。府庫不支數月。先括富商錢。増諸道税。四年。行税間架。除陌錢等法。

子納自ら鎭を領す。朱滔・田悅・王武俊・李納、先後して皆反す○三年、四人皆自ら王と稱す○李希烈反す○兩河に兵を用ひ、府庫支へざること數月なり。先づ富商の錢を括し、(五)諸道の税を増す○四年、税間架(六)・除陌錢(七)等の法を行ふ。

(一) 盤石の如く堅くして、恰も磐盤の如し　(二) 天下の柱石たる者　(三) 唐の制に考功の法あり、一歳の終に一考功して、考上は褒し、考下は貶す、子儀、肅宗の乾元元年中書令となりてより二十四年、毎に上考たり。本文は校考の數を擧げて子儀の功績多きをいふ也　(四) 此人々が子儀の安否を訪ふ毎に、子儀は其人々を皆々辨別する能はず、只頷にてうなづき挨拶するのみ　(五) 錢の所有高を總括し一萬緡以上に達せる分は借り上ぐ　(六) 屋の二架を間とし、上間は錢二千、中間は一千、下間は五百を課する一種の家屋税　(七) 公私の給與及び買賣に、毎一緡一千錢毎に五十錢を官に留む、買者賣者各五十錢を納むるを以て官は百錢を除留する事となる。陌は百に通ず

事一充ㇾ使。通ニ漕運一。幹ニ鹽利一。制ニ百貨之低昂一。軍國之用。賴以充足。然久典ニ利權一。衆頗疾ㇾ之。又與ニ楊炎一不ニ相悦一。竟貶ニ忠州一。人希ニ炎旨一。告ニ晏怨望一。上遣ㇾ人縊ㇾ之。

㈠戸籍　㈡會計　㈢運送　㈣取計らひ世話す　㈤炎の氣に入らんとして

二年。成德李寶臣卒。子惟嶽自領ニ軍務一。後王武俊斬而代ㇾ之。楊炎盧杞同平章事。炎未ㇾ幾罷。杞藍面鬼色。有ニ口辯一。上悦ㇾ之。尚父太尉中書令汾陽忠武王郭子儀卒。子儀以ㇾ身爲ニ天下安

〇二年、成德李寶臣卒す。子惟嶽自ら軍務を領す。後王武俊斬りて之に代る〇楊炎・盧杞、同平章事たり。炎、未だ幾くならずして罷む。杞、㈠藍面鬼色、口辯有り。上之を悦ぶ〇尚父太尉・中書令・汾陽の忠武王郭子儀卒す。子儀、身を以て天下の安危と爲る者三十年、功天下を蓋ひて、主疑はず、位人臣を極めて、衆疾まず。㈡嘗て使をして魏博に至らしむ。田承嗣、西望して之を拜して曰く、茲の膝人に屈せざること久し。今公の爲に拜すと。㈢中書令を校すること凡べて二十四考。家人三千人。八子七婿皆顯はる。諸孫數十人。㈣安を問ふ毎に盡く辨ずること能はず、之を頷くのみ。年八十三にして終る〇平盧の李正己卒す。

玄宗之末。版籍寖壞。至德兵起。所在賦斂迫趣取辦。無復常準。下戶不勝困弊。率皆逃徙。至是楊炎建議。先計州縣每歲所用。及上供之數。而賦於人。量出以制入。戶無主客。以見居爲簿。人無丁中。以貧富爲差。爲行商者。在所州縣。稅三十之一。居人之稅。秋夏兩徵之。其租庸調雜徭。悉省。

の數を計りて人に賦し、出づるを量りて以て入るを制す。戶は主客と無く、見居(五)を以て簿と爲し、人は丁中と無く、貧富を以て差と爲し、行商を爲す者は、在所の州縣、三十の一を稅す。居人の稅は秋夏に之を兩徵し、其租・庸・調・雜徭(六)は、悉く省く。

(一)稅を取り立つる法　(二)戶籍法漸くくづる　(三)貧民　(四)朝廷の入費　(五)現住所　(六)雜種の取立て

崔祐甫卒。殺忠州刺史劉晏。晏善治財計。自肅宗代宗以來。領戶部度支鑄錢鹽鐵轉運等事。以同平章

○崔祐甫卒す○忠州の刺史劉晏を殺す。晏、善く財計を治め、肅宗・代宗より以來、戶(一)部・度支(二)・鑄錢・鹽鐵(三)・轉運等の事を領し、同平章事を以て使に充てられ、漕運を通じ、鹽利を斡し(四)、百貨の低昂を制す。軍國の用、賴りて以て充足す。然れども久しく利權を典り、衆頗る之を疾む。又楊炎と相悅ばず。竟に忠州に貶せらる。人、炎の旨を希ひ、晏、怨望すと告ぐ。上、人を遣はして之を縊らしむ。

何也。對曰。臣爲陛下擇人。不敢不愼。非親非故。何以諳其才行而用之。

淄青李正己畏上威名。表獻錢三十萬緡。崔祐甫請。遣使慰勞淄青將士。因以賜之。正己慚服。天下以爲太平庶幾可望。上方勵精求治。不次用人。祐甫薦楊炎。自司馬除。爲同平章事。既而祐甫病不視事。

○淄青の李正己、上の威名を畏れ、表して錢三十萬緡を獻ず。崔祐甫、請ひて使を遣はして淄青の將士を慰勞し、因りて以て之を賜ふ。正己、慚服(一)す。天下以爲らく、太平庶幾くは望む可しと○上、方に精を勵まし治を求め、不次(二)に人を用ふ。祐甫、楊炎を薦む。司馬より除せられて、同平章事と爲る。既にして祐甫病みて事を視ず。

(一) はぢて服す　(二) 順序に拘はらず人をあげ用ふ

建中元年。始作兩稅法。唐初賦斂之法。有田則有租。有身則有庸。有戶則有調。

○建中元年、始めて兩稅の法を作る。唐初賦斂(一)の法。田有れば則ち租有り、身有れば則ち庸有り、戶有れば則ち調有り。玄宗の末、版籍(二)寢く壞る。至德、兵起り、所在の賦斂迫り趣して取り辨じ、復た常準(三)無し。下戶、困弊に勝へず、率ね皆逃れ徙る。是に至りて、楊炎、議を建て、先づ州縣の每歲用ふる所及び上供(四)

希烈。遂節度使詔。因以鎭授希烈。上在位十八年。改元者三。曰廣德。永泰。大曆。崩。太子立。是爲德宗皇帝。

大曆と曰ふ。太子立つ。是を德宗皇帝と爲す。

德宗皇帝。名适。自雍王爲太子。至是卽位。常袞以欺罔貶。崔祐甫同平章事。祐甫欲收時望。未二百日。除官八百人。上曰。人謗卿所用多涉親故。

德宗皇帝

德宗皇帝、名は适。雍王より太子と爲る。是に至りて卽位す○常袞、欺罔(一)を以て貶せらる。崔祐甫、同平章事たり。祐甫、時望(二)を收めんと欲し、未だ二百日ならざるに、官に除するもの八百人。上曰く、人の卿が用ふる所多く親故に渉る(三)と謗るは何ぞや。對へて曰く、臣、陛下の爲に人を擇ぶこと敢て愼まずんば非ず。親に非ず故に非ずんば、何を以て其才行を諳んじて之を用ひんやと。(四)

(一)欺きしふ　(二)時の人望　(三)親戚故舊を用ふること多しとなり　(四)親戚故舊の者ならずば、いかでその才能行狀を知悉して之を用ふることを得ん

十二年。有下告三元載圖二不軌一者上。案問賜レ死。籍二其家一。胡椒至二八百斛一。他物稱レ是。

○十二年、元載、不軌を圖ると告ぐる者有り。案問して死を賜ふ。(一)其家を籍するに、胡椒八百斛に至り、他物是に稱ふ。(二)

(一) 其家財を記録没收す　(二) 其他の物もこれに相當するだけ澤山ありき

以二楊綰常袞一同平章事。綰素清儉。制下。郭子儀方宴。減二坐中聲樂五分之四一。京兆尹黎幹。騶從甚盛。即日省レ之。止存二十騎一。綰相三月而卒。上痛二悼之一曰。天乎不レ欲三朕致二太平一。何奪二朕楊綰一之速也。

楊綰・常袞を以て同平章事とす。綰、素と清儉なり。(一)制下りしとき、郭子儀方に宴す。坐中の聲樂五分の四を減ず。京兆の尹黎幹、騶從甚盛んなり。(二)即日之を省き、止十騎を存す。綰、相たること三月にして卒す。上、之を痛悼して曰く、天か、朕が太平を致すことを欲せず。何ぞ朕が楊綰を奪ふの速かなるやと。

(一) 清廉にして儉素　(二) 車馬隷卒をいふ

十四年。田承嗣卒。姪悅代レ之。淮西將李

○十四年、田承嗣卒す。姪の悅之に代る○淮西の將李希烈、節度使を逐ふ。詔して、因りて鎭を以て希烈に授く○上、在位十八年、改元する者三。廣德・永泰・

皆爲二觀軍容使一。軍容之名始レ此。九節度相州之敗。其時也。至二廣德初一。爲二人下觀軍容宣慰處置使一。專總二禁兵一。勢傾二朝野一。大暦之初。判二國子監一。升レ座講二鼎覆レ餗以譏二宰相一。王縉怒。元載怡然。朝恩曰。怒者常情。笑者不レ可レ測也。朝政有二不レ預者一。輒怒曰。天下事有二不レ由レ我者一邪。上聞レ之不レ懌。載乘レ間奏二其專恣不軌一。遂誅レ之。七年盧龍將殺二朱希彩一。而以二朱泚一領レ鎭。詔因授レ之。九年。朱泚以二弟滔一領レ鎭。而入朝。

國子監に判たり（四）。座に升り、鼎（五）、餗を覆へすといふを講じて以て宰相を譏る。王縉怒る。元載怡然たり。朝恩曰く、怒る者は常の情なり。笑ふ者は測る可かずと。朝政預らざる者有れば、輒ち怒りて曰く、天下の事我に由らざる者有らんやと。上、之を聞きて懌ばず。載、間に乘じて其專恣不軌（六）を奏す。遂に之を誅す○七年、盧龍の將、朱希彩を殺し、而して朱泚を以て鎭を領せしむ。詔して因りて之を授く○九年、朱泚、弟滔を以て鎭を領せしめて入朝す。

（一）軍陣の樣子を觀察する使者の義　（二）近衞兵　（三）左右する程也　（四）判事　（五）鼎が足を折りて公の餗を覆すと也。餗は米の粉を羹に和して煮たるものといふ。鼎は三足、之を三公にたとへ、三公其任に堪へずして天下の事を亂すとの意に喩へ、以て宰相をそしる也　（六）不臣不忠

二虜爭レ長不レ睦。子儀遣二人說二回紇一。欲三共擊二吐蕃一。先レ是懷恩欺二回紇一。謂二子儀已死一。使至。回紇不レ信曰。郭公在可レ得レ見乎。使還報。子儀與二數騎一出。使二人呼傳一曰令公來。回紇大驚。藥葛羅執二弓矢一。立二陣前一。子儀免レ冑釋レ甲而進。諸酋長相顧曰。是也。皆下レ馬羅拜。子儀亦下レ馬。執レ手與レ之語。取レ酒相與誓約而還。吐蕃聞レ之。夜遁。諸軍與二回紇一共追。大破レ之。

立つ。子儀、冑を免ぎ甲を釋きて進む。諸々の酋長相顧みて曰く、是れ也と。皆馬より下りて羅拜す。子儀も亦馬より下り、手を執りて之と語り、酒を取り、相與に誓約して還る。吐蕃之を聞き、夜遁る。諸軍回紇と共に追ひて、大に之を破る。

(一) 因りて懷玉をして平盧節度使たらしむ　(二) 子儀を指す、子儀時に中書令たり　(三) 回紇の元帥

三年。幽州將朱希彩。殺二李懷仙一。詔因以二希彩一領レ鎭。大曆五年。誅二宦者魚朝恩一。朝恩在二肅宗時一。

〇三年、幽州の將朱希彩、李懷仙を殺す。詔して、因りて希彩を以て鎭を領せしむ〇大曆五年、宦者魚朝恩を誅す。朝恩、肅宗の時に在りて、嘗て(一)觀軍容使と爲る。軍容の名、此より始まる。九節度相州の敗は其時也。廣德の初に至り、天下觀軍容宣慰處置使と爲り、專ら(二)禁兵を總べ、勢(三)朝野を傾く。大曆の初、

臨淮王李光弼卒。上之幸レ陝、光弼不レ至。上撫レ之加レ厚。素與二子儀一齊レ名。及レ在二徐州一擁レ兵不レ朝。麾下諸大將不二復憚畏一。光弼愧恨。成レ疾而死。

○臨淮王李光弼卒す。上の陝に幸せしとき、光弼至らず。上、之を撫すること加ゝ厚し。素と子儀と名を齊しくす。(一)徐州に在るに及び、兵を擁して朝せず。麾下の諸大將復た憚畏せず。(二)光弼愧ぢ恨みて疾を成して死す。

(一) 名聲ひとしかりき　(二) 光弼を憚び畏れず

永泰元年。平盧將李懷玉。逐二節度使侯希逸一。而自知二留後一。詔因而授レ之。賜二名正己一。叛將僕固懷恩。誘二回紇吐蕃一入寇。任二郭子儀一。屯二涇陽一。懷恩道死。

○永泰元年、平盧將李懷玉、節度使侯希逸を逐ひて、自ら留後に知たり。詔して(一)因りて之を授け、名を正己と賜ふ○叛將僕固懷恩、回紇・吐蕃を誘ひて入寇す。郭子儀を召し、涇陽に屯せしむ。懷恩道にて死す。二虜、長を爭ひて睦じからず。子儀人をして回紇に說かしめ、共に吐蕃を擊たんと欲す。是より先懷恩、回紇を欺きて、子儀已に死すと謂ふ。使至る。回紇信ぜずして曰く、郭公在らば見ることを得可きかと。使還り報ず。子儀、數騎と出で、人をして傳呼せしめて曰く、(二)令公來ると。回紇大に驚き、(三)藥葛羅、弓矢を執りて陣前に

斬ニ朝義ー以降。以ニ賊將張忠志ー爲ニ成德軍ー。賜ニ姓名李寶臣ー。薛嵩領ニ相衛洺貝磁等州ー。田承嗣領ニ魏博德滄瀛等州ー。李懷仙領ニ盧龍ー。朝廷厭ニ苦兵革ー。苟ニ冀無事ー。因而授レ之。諸鎮自爲ニ黨援ー。河朔敢抗ニ朝命ー始レ此。

㊀戰亂を厭ふ　㊁苟めに希ふ　㊂降將の據る所に因りて鎮撫の任を授く

廣德元年。吐蕃入寇。上出ニ奔陝州ー。吐蕃入ニ長安ー。關內副元帥郭子儀擊レ之。吐蕃遁去。二年。流ニ宦者程元振ー。元振初附ニ李輔國ー。輔國死。元振專レ權。自恣尤甚。忌下有ニ諸將大功ー者上。皆欲レ害レ之。吐蕃入。元振掩蔽不ニ以レ時奏ー。致ニ上狼狽ー。中外切齒。至レ是流ニ溱州ー。

○廣德元年、吐蕃入寇す。上、陝州に出で奔る。吐蕃、長安に入る。關內の副元帥郭子儀之を擊つ。吐蕃遁れ去る○二年、宦者程元振を流す。元振、初め李輔國に附す。輔國死す。元振、權を專して、自ら恣にすること尤も甚し。諸將の大功有る者を忌み、皆之を害せんと欲す。吐蕃入る。元振、掩蔽して㊀時を以て奏せず、上の狼狽を致す。中外切齒す。是に至りて溱州に流す。

㊀おほひかくして奏すべき時に上奏せず

元。寶應。初張皇后與李輔國相表裏。專擅用事。晩更有隙。上疾篤。后召太子謂曰。輔國久典禁兵。除詔作亂。不可不誅。太子恐震驚上體不可。輔國聞其謀。上崩。殺后而後引太子立之。是爲代宗皇帝。

代宗皇帝。初名俶。封廣平王。爲元帥定兩京。封楚王。改成王。已而爲太子。改名豫。至是卽位。誅李輔國。以雍王适爲天下兵馬元帥。率諸將及回紇援兵。討史朝義。大敗之。賊將李懷仙。

代宗皇帝

代宗皇帝、初めの名は俶。廣平王に封ぜらる。元帥と爲りて兩京を定む。楚王に封ぜられ、成王に改めらる。已にして太子と爲り、名を豫と改む。是に至りて位に卽く。李國輔を誅し、雍王适を以て天下兵馬元帥と爲し、諸將及び回紇の援兵を率ゐて、史朝義を討たしむ。大に之を敗る。賊將李懷仙、朝義を斬りて以て降る。賊將張志忠を以て成德軍に鎭せしめ、姓名を李寶臣と賜ふ。薛嵩、相・衛・邢・洺・貝・磁等の州を鎭し、田承嗣は、魏・博・德・滄・瀛等の州を鎭し、李懷仙は、盧龍に鎭す。朝廷、(一)兵革を厭苦し、(二)無事を苟冀す。(三)因りて之を授く。諸鎭自ら黨援を爲す。河朔の敢て朝命に抗するは此れより始まる。

敗軍一、欲レ斬レ之。朝義使三人射二殺思明一、而自立。李光弼爲二大尉一、統二八道行營一、鎭二臨淮一。

爲り、八道の行營を統べて、臨淮に鎭す。(一)

(一)前に所謂九節度也、光弼、子儀に代り、朔方の節度を兼ぬるを以て八道の行營といふ

寶應元年。郭子儀知二諸道節度行營一。兼二興平定國等軍副元帥一。復入二朔方一。上皇崩二於西內一。傳位後七年也。壽七十八。上寢レ疾。聞二上皇登遐一。轉劇遂崩。在位七年。改元者四。曰二至德。乾元。上

○寶應元年、郭子儀、諸道の節度行營に知(一)として、興平・定國等軍副元帥を兼ね、復朔方に入る○上皇西內に崩ず。傳位の後七年也。壽七十八○上疾に寢ぬ。上皇の登遐(二)せるを聞き、轉た劇し。遂に崩ず。在位七年。改元する者四。至德・乾元・上元・寶應と曰ふ。初め張皇后、李輔國と相表裏(三)して、權を專らにし事を用ふ。晩(四)に更に隙有り。上、疾篤し。后、太子を召して謂ひて曰く、輔國久して禁兵を典り、陰に亂を作さんと謀る。誅せざる可からずと。太子、上の體を震驚せんことを恐れて可かず。輔國、其謀を聞く。上、崩ず。后を殺して後に太子を引きて之を立つ。是を代宗皇帝と爲す。

(一)知事　(二)崩御　(三)內外相協力す　(四)晩年に至りて更に仲あしくなる

倶卿李輔國。遷二上皇於西内一。上皇愛二興慶宮一。自レ蜀歸卽居レ之。多レ御レ樓。父老過者。往往瞻拜呼二萬歳一。上皇常於二樓下一賜以二酒食一。又嘗召二將軍郭英乂等一。上レ樓賜レ宴。輔國言。上皇居二興慶一。日與二外人一交通。陳玄禮高力士。謀レ不二利於上一。數啓レ上遷レ之。不レ許。乘二上不豫一。率レ衆劫遷。上皇日以不レ懌。因不レ茹レ葷。辟レ穀。寖以成レ疾。

歸りて卽ち之に居る。樓に御すること多し。父老の過ぐる者、往往瞻拜して萬歳と呼ぶ。上皇常に樓下に於て賜ふに酒食を以てす。又嘗て將軍郭英乂等を召し、樓に上らしめて宴を賜ふ。輔國言ふ、上皇、興慶に居りて、日々外人と交通す。陳玄禮・高力士上に不利を謀ると。數々上に啓して之を遷さんとす。許さず。上の不豫なるに乘じ、衆を率ゐて劫かし遷す。上皇日に以て懌ばず。因りて葷を茹はず、穀を辟け、寖く以て疾を成す。

㊀西内の内　㊁葷は辛菜の義なれど通して肉食の事にもいふ、肉を食はずと也

二年。史朝義殺二史思明一。思明愛二少子一。而惡二朝義一。因二其

○二年、史朝義、史思明を殺す。思明、少子を愛して朝義を惡み、其敗軍に因りて之を斬らんと欲す。朝義人をして思明を射殺さしめて自立す○李光弼、太尉と

掘レ鼠。雀鼠又盡。巡殺二愛妾一以食レ士。四萬人僅餘二四百一。終無二叛者一。賊登レ城。將士困病不レ能レ戰。巡西向再拜曰。臣力竭矣。生既無三以報二陛下一。死當下爲二厲鬼一以殺上レ賊。城遂陷。巡遠被レ執。南霽雲。雷萬春等三十六人。皆被レ殺。

上皇發二蜀郡一還二西京一。乾元元年。命二郭子儀等九節度一。討二安慶緒一。二年。史思明引レ兵救二慶緒一。九節度之兵潰二于鄴一。思明殺二慶緒一。還二范陽一僭號。李光弼代二郭子儀一。爲二朔方節度使兵馬元帥一。光弼號令嚴正。始至。號令一施。士卒壁壘旗幟精明皆變。與二史思明一戰。屢敗レ之。

○上皇蜀郡を發して西京に還る。乾元元年、郭子儀等九節度に命じて、安慶緒を討たしむ○二年、史思明兵を引きて慶緒を救ふ。九節度の兵、鄴に潰ゆ。思明、慶緒を殺し、范陽に還りて僭號す○李光弼、郭子儀に代りて、朔方の節度使●兵馬元帥と爲る。光弼、號令嚴正なり。始めて至り、號令一たび施せば、士卒壁壘、旗幟精明(一)に皆變ず。史思明と戰ひて、屢々之を敗る。

●(一) 皆きは立ちて立派に變じたり

上元元年。太

○上元元年、太僕卿李輔國、上皇を西内に遷す(二)。上皇、興慶宮を愛し、蜀より

回紇西域之衆一救二鳳翔一至二長安一。擊レ賊。賊大潰。大軍入二西京一。假留鎭撫三日。引レ軍東出。至二洛陽一。與二回紇一夾擊。賊大敗。遂復二東京一。安慶緒走保レ鄴。

賊將尹子奇陷二睢陽一。張巡許遠死レ之。巡先守二雍丘一。移二軍寧陵一。屢破レ賊。既而入二睢陽一。與レ遠共守。屢却レ賊。食盡。或欲レ棄レ城。巡遠謀曰。睢陽江淮之保障。若棄レ之。賊必長驅。是無二江淮一也。不レ如三堅守以待レ救。食二茶紙一盡。遂食レ馬。馬盡。羅レ雀

賊將尹子奇、睢陽を陷る。張巡・許遠之に死す。巡、先に雍丘を守る。軍を寧陵に移し、屢〻賊を破る。既にして睢陽に入り、遠と共に守り、屢〻賊を却く。食盡く。或は城を棄てんと欲す。巡・遠謀りて曰く、睢陽は江淮の保障なり。若し之を棄てば、賊必ず長驅せん。是れ江淮無き也。如かず、堅く守りて以て救を待たんにはと。茶紙を食ふ。盡く。遂に馬を食ふ。馬盡く。雀を羅し(二)、鼠を捕る。雀鼠又盡く。巡、愛妾を殺して以て士に食はしむ。四萬人僅に四百を餘す。終に叛く者無し。賊、城に登る。將士困病して戰ふこと能はず。巡、西に向ひて再拜して曰く、臣力竭きたり。生きては既に以て陛下に報ゆること無し。死しては當に厲鬼(三)と爲りて、以て賊を殺すべしと。城遂に陷る。巡・遠執へらる。南霽雲・雷萬春等三十六人皆殺さる。

(二) 網を張りてとらふ　(三) 死神、疫病神

遣レ使徵二兵於回紇一。招討節度使房琯與レ賊戰二于陳濤邪一。琯用二車戰一大敗。至德二載。安慶緒殺二祿山一。祿山自レ起レ兵以來日昏。至レ是不二復見一レ物。又病レ疽躁暴。欲下以二嬖妾子一代二慶緒一爲上レ嗣。慶緒使二人弑一レ之。而自立。祿山僭號僅一年餘。

○使を遣はして、兵を回紇に徵す○招討節度使房琯、賊と陳濤邪に戰ふ。琯、車戰を用ひて大敗す○至德二載、安慶緒、祿山を殺す。祿山兵を起してより以來目昏し。是に至りて復た物を見ず。又疽を病みて躁暴なり。嬖妾の子を以て慶緒に代へて嗣と爲さんと欲す。慶緒、人をして之を弑せしめて自立す。祿山の僭號僅かに一年餘なり。

● 急性にして暴々し

上至二鳳翔一。回紇遣二子葉護一。將二精兵四千人一至。天下兵馬都元帥廣平王俶。副元帥郭子儀。將二朔方等軍及

○上、鳳翔に至る。回紇、子葉護を遣はし、精兵四千人に將として至る。天下兵馬都元帥廣平王俶・副元帥郭子儀、朔方等の軍及び回紇西域の衆を將ゐ、鳳翔を發して長安に至り、賊を擊つ。賊大に潰ゆ。大軍西京に入る。俶、留りて鎭撫すること三日、軍を引きて東に出で、洛陽に至り、回紇と夾み擊つ。賊大に敗る。遂に東京を復す。安慶緒走りて鄴を保つ。

妃一。然後發。父老遮レ道請レ留。上命二太子一慰二撫之一。父老擁二太子馬一。不二復得一レ行。使二皇孫俶白一レ上。上曰。天也。使レ唱二太子一曰。汝勉レ之。西北諸胡。吾撫レ之素厚。汝必得二其力一。且宣旨欲レ傳レ位。太子至二平涼一。朔方留後杜鴻漸。迎二入靈武一。請レ遵二馬嵬之命一。牋五上。乃許。尊レ上爲二上皇天帝一。上在位四十五年。改元者三。曰二先天。開元。天寶一。太子立。是爲二肅宗皇帝一。

肅宗皇帝。初名璵。改二名亨一。自二忠王一爲二太子一。二十年。而遇二祿山之亂一。至レ是卽レ位。京兆李泌。自レ幼以二才敏一聞。上在二東宮一。嘗與レ泌爲二布衣交一。遣レ使召レ之。謁二見於靈武一。事無二大小一與レ之謀。上皇至二成都一。遣二冊寶一如二靈武一。

肅宗皇帝

肅宗皇帝、初の名は璵。名を亨と改む。忠王より太子と爲り、二十年にして祿山の亂に遇ふ。是に至りて卽位す。京兆の李泌、幼より才敏を以て聞ゆ。上、東宮に在りしとき、嘗て泌と布衣の交(一)を爲す。使を遣はして之を召す。靈武に謁見す。事大小と無く之と謀る。上皇成都に至り、冊寶(二)を遣はして靈武に如かしむ。

(一) 身分の高下を問はざる平民的交際　(二) 玉册即ち讓位の書付と傳國の寶

眞源令張巡。帥吏民。哭於玄元皇帝廟。起兵於雍丘討賊。朔方節度使郭子儀。河北節度使李光弼。與賊將史思明戰。大破之。首復河北數郡。副元帥哥舒翰。與賊戰大敗。麾下執翰降賊。賊遂入關。上出奔。次于馬嵬。將士飢疲。皆憤怒。殺楊國忠等。及適上縊殺貴

○眞源の令張巡、吏民を帥ゐて玄元皇帝の廟に哭し、兵を雍丘に起して賊を討つ○朔方の節度使郭子儀、河北の節度使李光弼、賊將史思明と戰ひて、大に之を破り、首として河北の數郡を復す。副元帥哥舒翰、賊と戰ひて大敗す。麾下、翰を執へて賊に降る。賊遂に關に入る。上、出で奔り、馬嵬に次す。將士飢ゑ疲る。皆憤怒し、楊國忠等を殺し、及び上に逼りて貴妃を縊り殺し、然る後發す。父老、道を遮りて留まらんことを請ふ。上、太子に命じて之を慰撫せしむ。父老、太子の馬を擁し、復た行くことを得ず。皇孫俶をして上に白さしむ。上曰く、天也と。太子に喩さしめて曰く、汝之を勉めよ。西北の諸胡、吾之を撫すること素より厚し。汝必ず其力を得んと。且つ宣旨して位を傳へんと欲す。太子、平涼に至る。朔方の留後杜鴻漸、靈武に迎へ入れ、馬嵬の命に遵はんことを請ふ。牋五たび上りて乃ち許す。上を尊びて上皇天帝と爲す。上、在位四十五年。改元する者三。先天・開元・天寶と曰ふ。太子立つ。是を肅宗皇帝と爲す。

北從レ賊。歎曰。二十四郡。曾無二一人義士一邪。及二眞卿奏至一。大喜曰。朕不レ識二眞卿何狀一。乃能如レ此。常山太守顏杲卿。起レ兵討レ賊。河北諸軍皆應レ之。

く、朕、眞卿の何の狀たるを識らず(一)。乃ち能く此の如しと○常山の太守顏杲卿、兵を起して賊を討つ。河北の諸軍皆之に應ず。

(一) 眞卿は如何なる樣子の者なるかさへも知らず

十五載。安祿山僭號稱二大燕皇帝一。賊將史思明陷二常山一。執二顏杲卿一送二洛陽一。祿山數二其反レ己。杲卿曰。我爲レ國討レ賊。恨不レ斬レ汝。何謂レ反也。臊羯狗何不二速殺レ我。祿山大怒。縛而咼レ之。比レ死罵不レ絕レ口。

○十五載、安祿山、僭號して大燕皇帝と稱す○賊將史思明、常山を陷れ、顏杲卿を執へて洛陽に送る。祿山其己に反せしを數む。杲卿曰く、我國の爲に賊を討つ。恨むらくは汝を斬らざることを。何ぞ反と謂ふや。(一)臊羯狗何ぞ速に我を殺さゞると。祿山大に怒り、縛して之を咼す(二)。死に比るまで罵りて口を絕たざりき。

(一) なまぐさきえびすの犬め　(二) 骨の出るまで肉をそぐ

十四載。祿山請下以二蕃將一代中漢將上。上猶不レ疑。表請獻二馬三千匹一。每レ匹二人執レ鞚。二十二將部送二河南一。上始疑レ之。遣レ使止二其獻一。祿山踞レ床不レ拜曰。馬不レ獻亦可。十月當レ詣二京師一。使還。亦無レ表。是冬祿山遂反。發二所部兵及奚契丹一。凡十五萬。發二范陽一引而南。步騎精銳。煙塵千里。時承平久。百姓不レ識二兵革一。州縣皆望レ風瓦解。進陷二東京一。

○十四載、祿山、蕃將(一)を以て漢將に代へんと請ふ。上、猶ほ疑はず。表し請ひて馬三千匹を獻ず。匹每に二人鞚(二)を執り、二十二將に部(三)して河南に送らしむ。上、始めて之を疑ひ、使を遣はして其獻を止む。祿山、床に踞し拜せずして曰く、馬は獻ぜざるも亦可なり。十月當に京師に詣るべしと。使還る。亦表(四)無し。是冬祿山遂に反す。所部の兵及び奚契丹を發すること凡べて十五萬、范陽を發し、引きて南す。步騎精銳、煙塵千里。時に承平久しく、百姓兵革を識らず。州縣風を望みて瓦解す。進みて東京を陷る。

(一) 胡人の大將 (二) くつわを執り (三) 隊伍を部署して (四) 返事の上表

平原太守顏眞卿起レ兵討レ賊。上始聞二河

○平原の太守顏眞卿、兵を起して賊を討ず。上始め、河北、賊に從ふと聞き、歎じて曰く、二十四郡、曾て一人の義士無きかと。眞卿の奏至るに及び、大に喜びて曰

合上意。以固寵。杜絶言路。掩蔽聰明。嘗語諸御史曰。不見立仗馬乎。一鳴輒斥去。妬賢嫉能。排抑勝己。性陰險。人以爲口有蜜腹有劍。毎夜獨坐偃月堂。有所深思。明日必有誅殺。屢起大獄。自太子以下皆畏之。在相位十九年。養成天下之亂。而上不悟。然祿山畏林甫術數。故終其世。未敢反。是歲國忠爲相。言祿山必反。且曰。試召必不來。十三載。祿山聞召卽至。上由是不信國忠之言。加祿山左僕射而歸。

つ馬を見ずや。一たび鳴けば輒ち斥け去らると。賢を妬み能を嫉み、己に勝るものを排抑す。性陰險なり。人以て口に蜜有り腹に劍有りと爲す。毎夜獨り偃月堂に坐し、深思する所有れば、明日必ず誅殺有り。屢〻大獄を起す。太子より以下皆之を畏る。相位に在ること十九年、天下の亂を養成す。而して上悟らず。然れども祿山、林甫の術數を畏る。故に其世を終ふるまで未だ敢て反せず。是歲、國忠、相と爲る。祿山必ず反せんと言ひ、且曰く、試みに召せ、必ず來らじと。○十三載、祿山召を聞きて卽ち至る。上、是より國忠の言を信ぜず。祿山に左僕射を加へて歸らしむ。

㊀ 儀仗に立つ馬が鳴き立つれば儀の妨となる故之を斥く。御史は言論を任務とす、林甫其口を塞がんとして此喩話を爲せるなり　㊁ 林甫の書齋の名

先母而後父。祿山生日。賜予甚厚。後三日召入。貴妃以錦繡爲大襁褓。使宮人以綵輿舁之。上聞歡笑。問故。左右以貴妃洗祿兒對。上賜妃浴兒金銀錢。盡歡而罷。自是出入宮掖。通宵不出。頗有醜聲聞于外。上亦不疑。又以祿山兼河東節度使。李林甫與祿山語。毎揣知其情先言之。祿山驚服。毎見盛冬必汗。謂林甫爲十郎。既歸范陽。其下自長安歸。必問十郎何言。得美言則喜。或但云。語安大夫。須好點檢。即曰噫嘻我死矣。

です、頗る醜聲の外に聞ゆる有り。上亦疑はず。又祿山を以て河東の節度使を兼ねしむ。李林甫、祿山と語り、毎に其情を揣り知りて先づ之を言ふ。祿山驚き服し、見る毎に盛冬にも必ず汗す。林甫を謂ひて十郎と爲す。既に范陽に歸る。其下(四)長安より歸れば、必ず十郎何をか言ふと問ひ、美言を得れば則ち喜ぶ。或は但だ云ふ、安大夫に語れ、須らく好く點檢(五)すべしと。即ち曰く、噫嘻我死せんと。

(一) 下賜の品　(二) 五色の綵にて飾りたる輿　(三) 宮中の大奥　(四) 林甫の配下　(五) よく注意せよ

十一載。李林甫卒。林甫媚事上左右。迎

○十一載、李林甫卒す。林甫、上の左右に媚び事へ、上の意に迎合して、以て寵を固くし、言路を杜絶し、聰明を掩蔽す。嘗て諸御史に語りて曰く、仗に立

北道採訪處置使。祿山入朝、楊銛兄弟姊妹。皆往二戲水一迎レ之。銛貴妃之從祖兄也。得レ出二入禁中一。先レ是州度支屢奏。府藏充牣。上帥二羣臣一觀レ之。由レ是視二金帛一如二糞土一。賞賜無レ限。賜二銛名國忠一。

る。是に由りて金帛を視ること糞土の如く、賞賜限り無し。銛に名を國忠と賜ふ。

(一) またいとこ　(二) 出納を司る官　(三) 金ぐら一ぱいにみつ

十載。爲二安祿山一起レ第。窮二極華麗一。上日遣二諸楊與レ之游一。祿山體肥大。上嘗指二其腹一曰。此胡腹中何所レ有。對曰。有二赤心一耳。祿山入二禁中一。先拜二貴妃一。上問二其故一。曰胡人

○十載、安祿山の爲に第を起し、華麗を窮極す。上、日に諸楊をして之と游ばしむ。祿山、體肥大なり。上、嘗て其腹を指して曰く、此胡の腹中何の有る所ぞ。對へて曰く、赤心有るのみと。祿山禁中に入れば、先づ貴妃を拜す。上、其故を問ふ。曰く、胡人は母を先にして父を後にすと。祿山の生日(一)、賜予甚だ厚し。後三日召し入る。貴妃、錦繡を以て大襁褓を爲り、宮人をして綵輿(二)を以て之を舁かしむ。上、歡笑を聞きて、故を問ふ。左右、貴妃が祿兒を洗ふを以て對ふ。上、妃に浴兒の金銀錢を賜ひ、歡を盡して罷む。是より宮掖(三)に出入し、通宵出

天寶元年。以二祿山一爲二平盧節度使一。二年。祿山入朝。三年。改レ年曰レ載。以二祿山一兼二范陽節度使一。四載以二楊大眞一爲二貴妃一。故蜀州司戸玄琰也。爲二上子壽王妃一十年矣。上見二其美一。令下自以二其意一乞爲中女官上。且爲二壽王一別娶。而後納レ之。遂專レ寵。

○天寶元年、祿山を以て平盧の節度使と爲す。二年、祿山入朝す○三年、年を改めて載と曰ふ○祿山を以て范陽の節度使を兼ねしむ○四載、楊大眞を以て貴妃と爲す。故の蜀州の司戸玄琰の女也。上の子壽王の妃たること十年。上、其美を見て、自ら其意を以て乞ひて女官(一)と爲らしめ、且つ壽王の爲に別に娶り、而して後之を納る。遂に寵を專らにす。

(一) 女官の名　(二) 妃自身の發意にて

六載。以二祿山一兼二御史大夫一。祿山請爲二楊貴妃兒一。九載賜二祿山爵東平郡王一。兼二河

○六載、祿山を以て御史大夫を兼ねしむ。祿山、請ひて楊貴妃の兒と爲る○九載祿山に爵を東平郡王と賜ひ、河北道採訪處置使を兼ねしむ。祿山入朝す。楊銛の兄弟姉妹、皆戲水に往きて之を迎ふ。銛は貴妃の從祖兄也。禁中に出入することを得たり。是より先判度支(一)屢〻奏す、帑藏充牣すと。上、羣臣を帥ゐて之を觀

勿下以三王夷甫識二石勒一枉害中忠良上竟不レ誅。祿山本營州雜胡也。初名阿犖山。母再適安氏一。故冒二其姓一。部落破散逃來。狡黠爲二守珪一所レ愛。又有二史窣干者一。與二祿山一同二里閈一。亦驍勇。守珪遣二入奏一事。上賜二名思明一。千秋節。群臣皆獻二寶鏡一。九齡述二前世興廢一。爲二千秋金鑑錄五卷一上レ之。九齡罷。李林甫兼二中書令一。上在レ位久。漸肆二奢欲一。林甫遂得レ專レ政。

を獻ず〇九齡、前世の興廢を述べて、千秋金鑑錄五卷を爲り之を上る。九齡罷められ。李林甫、中書令を兼ぬ。上、位に在ること久しく、漸く奢欲を肆にす。林甫、遂に政を專らにすることを得たり。

㊀批判して意見を述ぶ　㊁晉の王夷甫が石勒の他日反すべきを豫言せしに倣ひて　㊂あひのこの胡人　㊃再嫁　㊄鄕里。閈は里門

二十六年。立二忠王一爲二太子一。二十九年。以二安祿山一爲二營州都督一。祿山傾巧善事レ人。上左右至二平盧一。皆厚賂。歸譽レ之。上益以爲レ賢。

〇二十六年、忠王を立てゝ太子と爲す〇二十九年、安祿山を以て營州の都督と爲す。祿山、傾巧にして善く人に事ふ。上の左右、平盧に至れば、皆厚く賂ふ。歸りて之を譽む。上益ゝ以て賢と爲す。

㊀心正しからずして巧に人に諂ふ　㊁安祿山の居城

下殊痩ニ於舊一。上歎曰。吾雖レ瘠天下肥矣。休罷。張九齡繼レ之。二十二年九齡爲ニ中書令一。李林甫同三品。林甫柔佞多ニ狡數一。深結ニ宦官及妃嬪家一。伺ニ上動靜一。無レ不レ知レ之。由レ是每ニ奏對一常稱レ旨。

(一)彊は弩を張る意、弩射を習はしむる也　(二)嚴格にして正直　(三)帝の言終る頃、已に諫めの上疏來る　(四)柔順便佞　(五)狡猾にして、はかりごとに富む　(六)上奏奉答皆天子の御氣に入る

二十四年。幽州節度使張守珪。執ニ敗軍將安祿山一送ニ京師一。張九齡批曰。守珪軍令若行。祿山不レ宜レ免レ死。上惜ニ其才勇一赦レ之。九齡力爭曰。祿山有ニ反相一。不レ誅必爲ニ後患一。上曰。卿

○二十四年、幽州の節度使張守珪、敗軍の將安祿山を執へて京師に送る。張九齡、批して曰く、守珪の軍令、若し行はれば、祿山死を免るべからずと。上、(一)其才勇を惜みて之を赦さんとす。九齡力め爭ひて曰く、祿山反相有り、誅せざれば必ず後患を爲さん。上曰く、卿、王夷甫が石勒を識りしを以て、枉げて忠良を害すること勿れと。竟に誅せず。祿山(二)は本と營州の雜胡(三)也。初めの名は阿犖山。母、安氏に再適す(四)。故に其姓を冒す。部落破散し逃れ來る。狡黠にして、守珪の爲に愛せらる。又史窣干といふ者有り。祿山と里閈(五)を同じくす。亦驍勇なり。守珪入りて事を奏せしむ。上、名を思明と賜ふ○千秋の節に、羣臣皆寶鏡

同平章事源乾曜贊成之。以融爲勸農使。奏設勸農判官十人。分行天下。競爲刻急。州縣承風勞擾。百姓苦之。同三品張說。建議召募壯士。旬日得精兵十三萬。分隷諸衞。更番上下。兵農之分始此。

し、百姓之に苦しむ○同三品張說、建議して壯士を召し募り、旬日に精兵十三萬を得たり。分ちて諸營に隷し、更番上下せしむ。兵農の分るゝ此より始まる。

㊀しらべ取り歸る　㊁きびしきを　㊂州縣これをまねて煩はしき手數を掛く

十三年。更命長從宿衞爲彍騎。二十一年。韓休同平章事。休爲人峭直。上或宴遊小過。輒謂左右曰。韓休知否。言終諫疏已至。左右曰。休爲相。陛

○十三年、長從宿衞を更め命けて彍騎と爲す○二十一年、韓休、同平章事たり。休、人と爲り峭直なり。上、或は宴遊小過すれば、輒ち左右に謂ひて曰く、韓休、知るや否やと。言終れば諫疏已に至る。左右曰く、休、相となりしより、陛下殊に舊より痩せたり。上、歎じて曰く、吾瘠せたりと雖も天下肥えたりと。休罷められ。張九齡之に繼ぐ○二十二年、九齡、中書令と爲り、李林甫、同三品たり。林甫、柔佞にして狡數多し。深く宦官及び妃嬪の家に結び、上の動靜を伺ひて、之を知らざること無し。是に由りて奏對する毎に常に旨に稱ふ。

宋璟爲二黄門監一。璟爲レ相。務擇レ人。百官各得二其職一。好犯レ顏正諫。上甚敬二憚之一。璟與二姚崇一。相繼爲レ政。崇善應レ變。璟善守レ文。志操不レ同。然協レ心輔佐。使二賦役寛平。刑罰淸省一。百姓富庶。唐世賢相。前稱二房杜一。後稱二姚宋一。佗莫レ得レ比。二人每二進見一。上輒爲レ之起。去則臨レ軒送レ之。

各〻其職を得たり。好みて顏を犯して正諫す。(一)上、甚だ之を敬ひ憚る。璟と姚崇と、相繼ぎて政を爲す。崇は善く變に應じ、璟は善く文を守り、志操同じからず。然れども心を協せて輔佐す。賦役をして寛平に、(二)刑罰をして淸省ならしめ、(三)百姓富庶なり。唐の世の賢相、前には房・杜を稱し、後には姚・宋を稱す。佗に比を得るもの莫し。二人、進み見ゆる每に、上輒ち之が爲に起ち、去れば則ち軒に(四)臨みて之を送る。

(一)君の怒りを顧みずしていさむ　(二)寛大にして公平　(三)正しくして少なくす　(四)御殿の軒階

八年宋璟罷。九年。宇文融言。天下戶口逃移。巧僞甚衆。請加二檢括一。

○八年宋璟罷めらる○九年宇文融言ふ、天下、戶口逃れ移り、巧僞甚だ衆し。請ふ、(一)檢括を加へんと。同平章事源乾曜之を贊成す。融を以て勸農使と爲し、奏して(二)勸農判官十人を置く。天下を分行し、競ひて刻急を爲す。州縣風を承けて勞擾

帝梨園弟子一。焚二珠玉錦綉於殿前一。作二興慶宮一。置レ樓。西曰二花萼相輝一。南曰二勤政務本一。宋王成器等宅環二其側一。

宅、其側を環る。

(一) 音樂を司る役人　(二) 俗樂を敎ふる處　(三) 儉約を示すなり

三年。盧懷愼爲二黄門監一。懷愼淸謹儉素。妻子不レ免二饑寒一。所レ居不レ蔽二風雨一。姚崇嘗謁告十餘日。政事委積。懷愼不レ能レ決。崇出。須臾裁決盡。謂二齊澣一曰。我爲レ相如何。澣曰可レ謂二救レ時之相一。懷愼知二才不一レ及。毎レ事推レ崇。時謂二之伴食宰相一。

○三年、盧懷愼、黄門監と爲る。懷愼、淸謹儉素なり。妻子饑寒を免れず、居る所風雨を蔽はず。姚崇、嘗て謁告すること十餘日。政事委積す。懷愼決すること能はず。崇出で、須臾に裁決し盡す。顧みて齊澣に謂ひて曰く、我の相たること如何。澣曰く、時を救ふの相と謂ふ可しと。懷愼、才の及ばざることを知り、事毎に崇を推す。時に之を伴食宰相と謂ふ。

(一) 淸廉にして愼みぶかく且つ儉約なり　(二) 暇を請ひて休む　(三) 政事堆積す

四年。姚崇罷。

○四年、姚崇罷む。宋璟、黄門監と爲る。璟、相と爲り、務めて人を擇ぶ。百官

領レ之。隆基皆厚結ニ其豪傑一。卒誅ニ韋氏一。奉ニ睿宗一。封爲ニ平王一。睿宗將レ建レ儲。嫡長子成器。以ニ平王有ヒ功。力讓レ之。遂爲ニ太子一。尋受レ禪。

開元元年。高力士爲ニ右監門將軍一。知ニ內侍省事一。初太宗定レ制。內侍省不レ置ニ三品官一。黃衣廩食守レ門。傳レ命而已。至レ是除ニ三品將軍一者寖多。宦官增至ニ三千人一。內侍之盛始レ此。

○開元元年、高力士、右監門將軍と爲り、內侍省の事を知る。初め太宗制を定めしとき、內侍省に三品の官を置かず、(一)黃衣廩食、門を守り、命を傳ふるのみ。是に至りて三品將軍に除せらるゝ者寖く多く、宦官增して三千人に至る。內侍の盛んなること此に始まる。

(一) 黃色の衣服を着、領地なくしてたゞ廩米(オクラマイ)を受く

姚崇爲ニ紫微令一。二年以ニ太常不ヒ應三倂ニ典俗樂一。置ニ左右敎坊一。謂ニ之皇

○姚崇、紫微令と爲る○二年、(一)太常の應に俗樂を倂せ典るべからざるを以て、左右の(二)敎坊を置く。之を皇帝梨園の弟子と謂ふ○(三)珠玉錦綉を殿前に焚く○興慶宮を作り、樓を置く。西を花萼相輝と曰ひ、南を勤政務本と曰ふ。宋王成器等の

宋璟。張說。姚元之等。感二悟上意一。政事皆取二太子處分一。上自二復爲レ帝。改元者二。曰二景雲。太極一。至レ是三年。自稱二太上皇一。傳二位於太子一。是爲二玄宗明皇帝一。

㊀ 太子の處分する所によりて政事を爲す

玄宗明皇帝。名隆基。初爲二臨淄王一。韋氏之亂。陰聚二才勇之士一。密謀二匡復一。太宗初選二饒勇一。爲二百騎一。武后增爲二千騎一。隷二左右羽林一。中宗謂二之萬騎一。置レ使

玄宗明皇帝

玄宗明皇帝、名は隆基。初め臨淄王と爲る。韋氏の亂に、陰に才勇の士を聚め、密に匡復(一)を謀る。太宗初め饒勇を選びて百騎と爲し、武后增して千騎と爲す。左右の羽林に隷す。中宗之を萬騎と謂ひ、使を置きて之を領せしむ。隆基、皆厚く其豪傑に結び、卒に韋氏を誅し、睿宗を奉じ、封ぜられて平王と爲る。睿宗將に儲(二)を建てんとす。嫡長子成器、平王の功有るを以て、力めて之に讓る。遂に太子と爲り、尋ぎて禪を受く。

㊀ 國事を匡正恢復せんと謀る　㊁ 皇太子。一に「儲嗣を建てんとす」と訓ず、亦通ず

爲二周皇嗣一者九年。改二封相王一者十年。至レ是復爲レ帝。立二隆基一爲二太子一。宋璟。姚元之爲レ政。二人協レ心革二弊政一。進二忠良一。退二不肖一。賞罰盡レ公。請託不レ行。紀綱修擧。當時翕然。貶二祝欽明等一。欽明嘗爲二八風舞一。人曰。五經掃レ地矣。

を協せて弊政を革む。忠良を進め、不肖を退け、賞罰公を盡し、請託(一)行はれず、紀綱修り擧る。當時翕然(二)たり。祝欽明等を貶す。欽明嘗て八風(三)の舞を爲す。人曰く、五經地(四)を掃ふと。

(一)賄賂等にて物事を賴み込むこと　(二)人心歸一せり　(三)八方の風俗に象りたる卑しき舞　(四)すたる

帝妹太平公主。於下誅二二張一誅二韋氏一時上。皆有レ力。既屢立二大功一。勢尊重。上嘗與議レ政。權傾二人主一。其門如レ市。憚二太子英武一。欲レ易レ之。賴三韋安石。

○帝の妹太平公主、二張を誅し、韋氏を誅する時に於て、皆力有り。既に屢〻大功を立て、勢ありて尊重せらる。上、嘗て與に政を議す。權、人主を傾け、其門市の如し。太子の英武なるを憚りて、之を易へんと欲す。韋安石・宋璟・張説・姚元之等、上の意を感悟せしめしに賴りて、政事皆太子の處分(一)に取りぬ。上、復び帝と爲りしより、改元する者二、景雲・太極と曰ふ。是に至りて三年、自ら太上皇と稱し、位を太子に傳ふ。是を玄宗明皇帝と爲す。

封付二中書一。時謂二之斜封官一。凡數千人。人有レ上レ言皇后淫亂一。上面詰レ之。其人抗言不レ撓。中書令宗楚客。撟レ制撲二殺之一。上意快快。后及其黨始懼。馬秦客。楊均皆幸二於后一。恐二事泄一。安樂公主亦欲三后臨レ朝。以レ己爲二皇太女一。乃相與謀。於二餅餤中一進レ毒。上復レ位。改元者二。曰二神龍。景龍一。四年而遇レ弑。立二溫王重茂一。后攝レ政。相王子隆基。起レ兵討レ亂。斬二后及安樂公主一。幷二其黨一皆誅レ之。廢二重茂一。奉二相王一立レ之。是爲二睿宗皇帝一。

弑に遇ふ。溫王重茂を立て、后、政を攝す。相王の子隆基、兵を起して亂を討ち、后及び安樂公主を斬り、其黨を幷せて皆之を誅し、重茂を廢し、相王を奉じて之を立つ。是を睿宗皇帝と爲す。

㊀ 勝敗の點數をしるす　㊁ 遠ざけむとす　㊂ 賄賂　㊃ 朱印を押さず、ただ墨書のみの詔書　㊄ 正しく封ぜざる也　㊅ 主上の仰せなりと僞りて　㊆ 食物の名、團餅の類といふ

睿宗皇帝。名旦。初高宗崩。中宗廢。武氏立レ旦。爲レ帝者七年矣。而廢。

睿宗皇帝

睿宗皇帝、名は旦。初め高宗崩じ、中宗廢せらるゝや、武氏、旦を立つ。帝たる者七年にして廢せられ、周の皇嗣たる者九年、相王に改封せらるゝ者十年。是に至りて復た帝と爲る。隆基を立てゝ太子と爲す。宋璟・姚元之、政を爲す。二人心

自殺一。后毎止レ之。上與私誓。異時幸復見二天日一。惟所レ欲不レ禁。至レ是毎レ臨レ朝。后必施二帷幔一。坐二殿上一。預二聞朝政一。如三武氏在二高宗之世一。

上女安樂公主。適二武三思之子一。三思以レ是得レ入二宮禁一。通二於韋后一。后與二三思一雙陸。而上爲點籌。上遂與二三思一圖二議政事一。張柬之等皆受レ制。五人皆賜二王爵一而罷レ政。已而遠貶殺レ之。安樂公主等依レ勢用レ事。請謁受レ賕。降二墨勅一除レ官。斜

上の女安樂公主、武三思の子に適く。三思是を以て宮禁に入ることを得て、韋后に通ず。后、三思と雙陸して、上、爲に點籌(一)す。上、遂に三思と政事を圖議し、張柬之等皆制を受く。五人に皆王爵を賜ひて政を罷め、已にして遠貶(二)して之を殺す。安樂公主等、勢に依りて事を用ふ。請謁して賕(三)を受け、墨勅(四)を降して官に除し、斜(五)に封じて中書に付す。時に之を斜封官と謂ふ。凡べて數千人。人、皇后淫亂なりと上言するもの有り。上、面り之を詰る。其人抗言して撓まず。中書令宗楚客、制(六)を矯めて之を撲殺す。上の意、怏怏たり。后及び其黨始めて懼る。馬秦客・楊均皆后に幸せられ、事の泄れんことを恐る。安樂公主も亦后が朝に臨み、己を以て皇太女と爲さんことを欲す。乃ち相與に謀り、餅餤(七)の中に於て毒を進む。上、位に復して、改元する者二。神龍・景龍と曰ふ。四年にして

薦レ賢爲レ國、非レ爲レ私也。曌嘗問二仁傑一。欲下得二一佳士一用上レ之。仁傑曰。有二張柬之者一。雖レ老宰相才也。後竟用二柬之一爲レ相。曌寢レ疾甚。柬之與二崔玄暉・敬暉・桓彦範・袁恕己一。率二羽林將軍李多祚等一。擧レ兵討二內亂一。迎二太子於東宮一。斬レ關入。斬二易之昌宗於廡下一。遷二曌於上陽宮一。上二曌號一曰二則天大聖皇帝一。是冬殂。年八十二。易レ唐爲レ周者十有六年。改元者十。曰二天授・如意・長壽・延載一。曰二萬歲通天一。曰二神功・聖曆・久視・大足・長安一。

聖曆・久視・大足・長安と曰ふ。

(一) 面前朝廷にて直諫す (二) 諫めたゞすこと (三) 尊君 (四) 天下の人才 (五) 宮門のとびら

長安之五年。帝復レ位。號レ唐。帝卽位二月而被レ廢。居二均州一者一年。居二房州一者十三年。還爲二太子一者又八年。而後反レ正。韋氏復爲二皇后一。上在二房陵一。毎レ欲二

長安の五年、帝位に復し、唐と號す。帝、卽位二月にして廢せられ、均州に居る者一年、房州に居る者十三年、還りて太子と爲る者又八年、而る後正に反る。韋氏復た皇后と爲る。上、房陵に在りて、自殺せんと欲する毎に、后、常に之を止む。上、與に私に誓ふ、(一)異時幸に復た天日を見ば、惟だ欲する所禁ぜじと。(二)是に至りて朝に臨む毎に、后必ず帷幔を施し、殿上に坐して、(三)朝政に預り聞くこと、武氏の高宗の世に在りしが如し。

(一) 他日 (二) 帝位に復せば (三) 汝の欲する所のまゝにして何事をも禁ぜざるべし

仁傑最見㆓信重㆒。好面折廷爭。曌常屈從。稱爲㆓國老㆒而不レ名。仁傑卒。曌泣歎。元行沖博學多通。仁傑重レ之。行沖多㆓規諫㆒。曰明公之門珍味多矣。請備㆓藥物之末㆒。仁傑笑曰。吾藥籠中物。何可㆓一日無㆒也。姚元崇等數十人。皆仁傑所レ薦。或曰。天下桃李。悉在㆓公門㆒矣。仁傑曰。

仁傑最も信重せられ、好んで面折廷爭す。(一)曌常に屈從す。稱して國老と爲して名いはず。仁傑卒す。曌、泣歎す。元行沖、博學多通なり。仁傑之を重んず。行沖、規諫(二)多し。曰く、明公(三)の門珍味多し。請ふ藥物の末に備はらん。仁傑、笑ひて曰く、吾が藥籠中の物、何ぞ一日も無かる可けんやと。姚元崇等數十人、皆仁傑の薦むる所なり。或ひと曰く、天下(四)の桃李悉く公の門に在り。仁傑曰く、賢を薦むるは國の爲なり、私の爲に非ずと。曌、嘗て仁傑に問ひ、一佳士を得て之を用ひんと欲す。仁傑曰く、張柬之といふ者有り。老いたりと雖も宰相の才也と。後、竟に柬之を用ひて相と爲す。曌、疾に寢ね甚し。柬之、崔玄暉・敬暉・桓彦範・袁恕己と、羽林將軍李多祚等を率ゐ、兵を擧げて內亂を討じ、太子を東宮に迎へ、關(五)を斬りて入り、易之・昌宗を廡下に斬り、曌を上陽宮に遷し、尊號を上りて則天大聖皇帝と曰ふ。是冬、殂す。年八十二。唐を易へて周と爲す者十有六年。改元する者十。天授・如意・長壽・延載と曰ひ、萬歲通天と曰ひ、神功・

免。弟曰。自今人雖唾面。拭之而已。師德愀然曰。此所以爲吾憂也。人唾汝面。怒汝也。而拭之。則逆其意。而重其怒矣。唾不拭自乾。當笑而受之耳。師德每薦仁傑。而仁傑。每毀師德。曌語仁傑曰。朕用卿。師德所薦也。仁傑退而歎曰。婁公盛德。我爲所容久矣。武承嗣三思。營求爲太子。仁傑從容言於曌曰。太宗櫛風沐雨。親冒鋒鏑。以定天下。傳之子孫。太帝以二子託陛下。今乃欲移之他族。無乃非天意乎。姑姪與母子孰親。陛下立子。則千秋萬歲後。配食太廟。立姪則未聞姪爲天子。而祔姑於廟者也。曌稍悟。已而又力勸之。遂自房州召廬陵王。還都。立爲皇太子。以子旦爲相王。

婁公、盛德、我爲に容れらるゝこと久しと。武承嗣三思、太子たらんことを營求す。仁傑、從容として曌に言ひて曰く、太宗、風に櫛り、雨に沐し、親ら鋒鏑を冒して、以て天下を定め、之を子孫に傳ふ。太帝、二子を以て陛下に託す。今乃ち之を他族に移さんと欲す。乃ち天意に非ざること無からんや。姑姪と母子と孰れか親しき。陛下、子を立てば、則ち千秋萬歲の後、太廟に配食せん。(三)姪を立てば、則ち未だ姪天子と爲りて姑を廟に祔する(四)者を聞かざる也と。曌、稍悟る。已にして又力めて之を勸む。遂に房州より廬陵王を召して、都に還らしめ、立てゝ皇太子と爲し、子旦を以て相王と爲す。

㈠ 無理を仕向けられても其曲直を校せず　㈡ 一に「汝を怒らしむ」と訓ず　㈢ 併せ祭られん　㈣ 合祭

正。長二人讒ヒ己。盛開二告密之門一。用二酷吏侯思止。索元禮。周興。來俊臣。吉頊等一。鍛錬羅織。率以二反逆一誣レ人。誅殺不レ可二勝紀一。用レ此拑二制天下一。

然有二權數一善用レ人。賢才亦樂レ爲二之用一。徐有功仁恕執レ法。曌每屈レ意從レ之。將相多得レ人。魏元忠。婁師德。狄仁傑。姚元崇。皆名相。宋璟亦顯二於朝一。師德寬厚淸愼。犯而不レ校。弟除二代州刺史一。師德謂。兄弟榮寵過盛。人所レ疾也。何以自

然れども權數有りて善く人を用ひ、賢才も亦之が用を爲すことを樂む。徐有功、仁恕にして法を執る。曌、每に意を屈して之に從ふ。將相多くは人を得たり。魏元忠・婁師德・狄仁傑・姚元崇、皆名相たり。宋璟も亦朝に顯はる。師德、寬厚淸愼、(二)犯さるれども校せず。弟、代州の刺史に除せらる。師德謂ふ、兄弟、榮寵過盛なるは、人の疾む所也。何を以て自ら免れん。弟曰く、今より人某の面に唾すと雖も、之を拭はんのみ。師德、愀然として曰く、此れ吾が憂と爲す所以也。人の汝の(二)面に唾するは、汝を怒りでなり。而るに之を拭はゞ、則ち其意に逆ひて、其怒を重ねん。唾は拭はずとも自ら乾かん。當に笑ひて之を受くべきのみと。師德、每に仁傑を薦む。而して仁傑は每に師德を毀る。曌、仁傑に語りて曰く、朕が卿を用ふるは、師德の薦むる所也と。仁傑退きて歎じて曰く、

政事。攝與二人主一侔。人謂二之二聖一。在二高宗之世一。后自殺二子弘一。廢二子賢一。高宗既崩。子哲即レ位。廢爲二廬陵王一。而立二子旦一。后臨レ朝稱レ制。立二武氏七廟一。英公李敬業起レ兵討レ之。檄曰。一抔之土未レ乾。六尺之孤安在。又曰。試觀二今日之域中一。竟是誰家之天下。太后遣レ將擊殺レ之。越王貞又舉レ兵匡復。不レ克而死。太后遂大殺二唐宗室一。自名レ曌。稱二皇帝一。國號レ周。以レ旦爲二皇嗣一。改二姓武一。時曌年六十七矣。

(一) 才人武氏が高宗を見て也　(二) めきひをわづらふ　(三) 高宗死して其陵土未だ乾かざるに、六尺之孤即ち先帝の遺されたる幼少のみなし子今いづくぞや　(四) 宇内　(五) 朝廷を正しくし、もとの天下にかへさんとす

初寵二僧懷義一。後寵二張易之。張昌宗一。兄弟居レ中用レ事。易之五郎。昌宗六郎。佞者曰。人言六郎似二蓮花一。吾謂。蓮花似二六郎一耳。曌知二人心不一レ服。且內行不レ

初め僧懷義を寵し、後張易之・張昌宗を寵す。兄弟中に居りて事を用ふ。易之は五郎(一)、昌宗は六郎。佞者曰く、人は言ふ、六郎、蓮花に似たりと。吾は謂はん、蓮花六郎に似たるのみと。曌、人心の服せざるを知り、且つ内行正しからずして、人の己を議せんことを畏れ、盛に告密の門(二)を開き、酷吏、侯思止・索元禮・周興・來俊臣・吉頊等を用ひ、鍛錬羅織(三)、率ね反逆を以て人を誣ひ、誅殺勝げて紀す可からず。此を用つて天下を排制す。

(一) 第五男　(二) 人の秘密を告げて來る門戸　(三) 罪名を構成し、無罪をも網羅して其反狀を鍛成す

寺。見レ之而泣。時王皇后。與ニ蕭淑妃一爭レ寵。密令レ長レ髮。勸ニ高宗一納レ之。既入而后與ニ淑妃一。皆失レ寵。武氏年三十二。遂自ニ昭儀一爲レ后。王蕭皆爲レ所レ殺。贈ニ父士彠周國公一。尋加ニ贈太原王一。高宗苦ニ風眩一。不レ能レ視ニ百司奏事一。或使ニ皇后決レ之。后性明敏。涉ニ獵文史一。處レ事皆稱レ旨。由レ是委以ニ

に入りて后と淑妃と皆寵を失ふ。武氏年三十二、遂に昭儀より后と爲る。王・蕭皆爲に殺さる。父士彠に周國公を贈り、尋ぎて太原王を加贈す。高宗、風眩(二)を苦しみ、百司の奏事を視ること能はず。或は皇后をして之を決せしむ。后、性明敏にして、文史を涉獵す。事を處して、皆旨に稱ふ。是に由りて委ぬるに政事を以てす。權、人主と侔し。人之を二聖と謂ふ。高宗の世に在りて、后自ら子弘を殺し、子賢を廢す。高宗既に崩じ、子哲位に卽く。廢して廬陵王と爲し、而して子旦を立つ。后、朝に臨みて制を稱し、武氏の七廟を立つ。英公李敬業、兵を起して之を討つ。檄に曰く、(三)一抔の土未だ乾かず、六尺の孤安にか在ると。又曰く、試みに今日の域中を觀よ、竟に是れ誰が家の天下ぞと。太后、將を遣はし擊ちて之を殺す。越王貞(四)、又兵を擧げて匡復(五)せんとし、克たずして死す。太后遂に大に唐の宗室を殺し、自ら曌と名づけ、皇帝と稱し、國を周と號し、旦を以て皇嗣と爲し、姓を武と改めしむ。時に曌年六十七なり。

州都督武士彠之女也。太原人。年十四。太宗聞二其美一。召入二後宮一。以二貞觀十一年一爲二才人一。時天下歌曲名二娟娘一。已成レ讖。貞觀末。太白屢晝見。太史占云。女主昌。又傳二祕記一。唐三世後。女主武王代有二天下一。太宗惡レ之。嘗與二羣臣一宴。令三各言二小名一。武衞將軍李君羨。官稱封邑。皆有二武字一。而小名五娘。太宗愕曰。何物女子。乃爾健邪。或奏。君羨謀二不軌一。遂誅レ之。密問二太史李淳風一。對曰。臣仰觀二天象一。俯察二曆數一。其人已在二陛下宮中一。不レ過二三十年一。當レ王二天下一。殺二唐子孫一殆盡。其兆已成矣。

りて、小名は五娘なり。太宗愕きて曰く、何物の女子ぞ乃ち爾く健なるやと。或ひと奏す、君羨、不軌を謀ると。遂に之を誅す。密に太史李淳風に問ふ。對へて曰く、臣、仰ぎて天象を觀、俯して曆數を察するに、其人已に陛下の宮中に在り。三十年を過ぎずして、當に天下に王たるべく、唐の子孫を殺して殆ど盡すべし、其兆已に成れりと。

㈠ 女官名　㈡ 天下流行の歌曲　㈢ 娟娟娘といふ曲名は武氏の女の媚ぶる意と解すべく武后榮ゆべきを豫言となると也　㈣ 幼名　㈤ 李君羨は男子なれど、幼名五娘なるによりて女子といへる也　㈥ むはん

太宗崩。才人年二十四矣。爲レ尼。高宗幸レ

太宗崩ず。才人、年二十四。尼と爲る。高宗、寺に幸す。之を見て泣く。時に王皇后、蕭淑妃と寵を爭ふ。密に髮を長へしめ、高宗に勸めて之を納る。已

者三十年矣。自₂褚遂良等死₁後。羣臣無₂敢諫者₁。李善感嘗因ㇾ事一諫。人以爲₂鳳鳴₁朝陽₁。上崩。太子哲卽ㇾ位。是爲₂中宗皇帝₁。

中宗皇帝

中宗皇帝。初名顯。改₂名哲₁。既卽ㇾ位。立₂韋妃₁爲ㇾ后。改元曰₂嗣聖₁。明年武后廢ㇾ帝。爲₂盧陵王₁。而立₂其弟旦₁。旦擁₂虛器₁者七年。改元曰₂垂拱₁。曰₂永昌₁。太后廢ㇾ旦爲₂皇嗣₁。而稱ㇾ帝。是爲₂則天武氏₁。則天武氏。故荊

中宗皇帝、初めの名は顯。哲と改名す。既に位に卽き、韋妃を立てゝ后と爲す。改元して嗣聖と曰ふ。明年、武后、帝を廢して盧陵王と爲し、而して其弟旦を立つ。旦、虛器を擁する者七年。改元して垂拱と曰ひ、永昌と曰ふ。太后、旦を廢して皇嗣と爲し、而して帝と稱す。是を則天武氏と爲す○則天武氏は、故の荊州の都督武士彠の女也。太原の人。年十四、太宗其美を聞き、召して後宮に入る。貞觀十一年を以て才人と爲す。時に天下の歌曲、娬媚娘と名づく。已に讖を成す。(一)貞觀の末、太白屢〻晝見はる。(二)太史占して云く、女主昌ならんと。(三)又祕記を傳ふ、唐三世の後、女王武王代りて天下を有たんと。太宗之を惡む。嘗て羣臣と宴し、各〻をして小名を言はしむ。(四)武衛將軍李君羨、官稱封邑、皆武字有

封二泰山一。至二亳州一。尊二老君一。爲二太上玄元皇帝一。以二李勣一爲二遼東大總管一。伐二高麗一。總章元年。李勣拔二平壤一。降二其王一。高麗悉平。置二安東都護府一。上元元年。帝稱二天皇一。后稱二天后一。初帝以二賤妾子忠一爲二太子一。武后廢レ之。立二后之子弘一。弘仁孝。中外屬レ心。忤二后意一。鴆レ之。立二其次一。曰レ賢。又以レ事廢レ之。而立二其次哲一。

し、后、天后と稱す○初め帝、賤妾の子忠を以て太子と爲す。武后之を廢し、后の子弘を立つ。弘、仁孝なり。中外(四)心を屬す。后の意に忤ふ。之を鴆(五)して、其次を立つ。賢と曰ふ。又事を以て之を廢して、其次の哲を立つ。

(一)土を積みて上天を祭る　(二)楚の苦縣にて老子の生地　(三)老子なり　(四)内外の人皆心を寄す　(五)毒殺して

上在位改元者十三。曰二永徽。顯慶。龍朔。麟德。乾封。總章。咸亨。上元。儀鳳。永隆。開耀。永淳。弘道一。凡三十四年。而政在二中宮一

○上、在位改元する者十三。永徽・顯慶・龍朔・麟德・乾封・總章・咸亨・上元・儀鳳・永隆・開耀・永淳・弘道と曰ふ。凡べて三十四年にして、政(一)中宮に在る者三十年なり。褚遂良等の死せしより後、群臣敢て諫むる者無し。李善感嘗て事に因りて一たび諫む。人以て鳳(二)、朝陽に鳴くと爲す。上、崩ず。太子哲位に即く。是を中宗皇帝と爲す。

(一)皇后の宮中　(二)鳳が朝日に向つて鳴けるが如し、珍らしき事なりとの意

敬宗李義府贊ㇾ之。褚遂良不可。以問二李勣一。勣曰。此陛下家事。何必更問二外人一。事遂決。褚遂良貶。義府參知政事。義府貌若二溫恭一。與ㇾ人嬉怡。而狡險忌克。人謂。笑中有ㇾ刀。柔而害ㇾ物。謂二之李猫一。

ごとく、人と嬉怡す。而して狡險忌克なり。人謂ふ、笑中に刀有り。柔にして物を害すと。之を李猫と謂ふ。

㈠女官の名 ㈡女官の名 ㈢和ぎたのしむ ㈣ずるくして陰險、人をいみ嫌ひ、人に勝つ事を好む

武后以二長孫無忌不一ㇾ助ㇾ己。深怨ㇾ之。顯慶四年。削二無忌官一。黔州安置。遂良先一年卒。至ㇾ是無忌與二初議者柳奭韓瑗一。皆被ㇾ殺。

○武后、長孫無忌が己を助けざるを以て、深く之を怨む。顯慶四年、無忌の官を削りて、黔州に安置す。遂良、先つこと一年にして卒す。是に至りて無忌と初めの議者たる柳奭・韓瑗と、皆殺さる。

㈠最初皇后の廢立に異議を申立てし

乾封元年。上

○乾封元年、上、泰山に封じ、亳州に至り、老君を尊びて、太上玄元皇帝と爲す。○李勣を以て遼東大總管と爲し、高麗を伐つ○總章元年、李勣、平壤を拔き、其の王を降す。高麗悉く平ぐ。安東都護府を置く○上元元年、帝、天皇と稱

高宗皇帝。名治。母長孫皇后。承乾廢。長孫無忌。力勸二太宗一立レ治。在二東宮一七年。太宗嘗作二帝範十二篇一以賜。曰修身治國盡在二其中一。一旦不諱。更無レ言矣。至レ是卽レ位。長孫無忌。褚遂良。受二先帝遺詔一輔レ政。以二李勣一爲二左僕射一。尋爲二司空一。

高宗皇帝、名は治。母は長孫皇后なり。承乾の廢せらるゝや、長孫無忌、力めて太宗に勸めて治を立つ。東宮に在ること七年。太宗嘗て帝範十二篇を作りて以て賜ふ。曰く修身治國盡く其中に在り。一旦不諱(一)ありとも、更に言ふこと無しと。是に至りて位に卽く。長孫無忌・褚遂良、先帝の遺詔を受けて政を輔く。李勣を以て左僕射と爲し、尋ぎて司空と爲す。

(一)朕が身に萬一の事ありとも、これ以上更に言ふことなし

永徽五年。以二太宗才人武氏一爲二昭儀一。六年。上欲下廢二皇后王氏一。立二武昭儀一爲上レ后。許

○永徽五年、太宗の才人武氏を以て昭儀と爲す○六年、上、皇后王氏を廢し、武昭儀を立てゝ后と爲さんと欲す。許敬宗・李義府之を贊し、褚遂良不可とす。以て李勣に問ふ。勣曰く、此れ陛下の家事のみ。何ぞ必ずしも更に外人に問はんやと。事遂に決す。褚遂良貶せられ、義府、參知政事たり。義府、貌溫恭なるが

主少懈而受ニ其一ー則危亡隨レ之。此其所ニ以難ー也。嘗問ニ侍臣ー。創業守成孰難。玄齡曰。草昧之初。羣雄並起。角レ力而後臣レ之。創業難矣。魏徵曰。自レ古帝王。莫レ不下得ニ之於艱難ー。失中之於安逸上。守成難矣。上曰。玄齡與レ吾共取ニ天下ー。出ニ百死ー得ニ一生ー。故知ニ創業之難ー。徵與レ吾共安ニ天下ー。常恐下驕奢生ニ於富貴ー。禍亂生中於所上レ忽。故知ニ守成之難ー。然創業之難往矣。守成之難方與ニ諸公ー愼レ之。自知下神采爲ニ臣下ー所上レ畏。常溫顏接ニ羣臣ー。導レ人使レ諫。賞ニ諫者ー以來レ之。惟末年東征之役。褚遂良嘗諫不レ聽。太子立。是爲ニ高宗皇帝ー。

故に創業の難きを知る。徵、吾と共に天下を安んじ、常に驕奢の富貴より生じ、禍亂の忽にする所より生ぜんことを恐る。故に守成の難きことを知る。然れども創業の難きは往けり、守成の難きは、方に諸公と之を愼まんと。自ら神采(五)の臣下の爲に畏れらるゝを知り、常に溫顏もて羣臣に接す。人を導きて諫めしめ、諫むる者を賞して、以て之を來す。惟だ末年東征の役に、褚遂良嘗て諫めしも聽かざりき。太子立つ。是を高宗皇帝と爲す。

(一) へつらひ (二) 惡だくみ (三) 集る (四) 業をはじむると、その成りたる業を永く保持すると (五) 風神光彩、威嚴ありてすぐれたる風姿をいふ

高宗皇帝

川爲ニ僕射一親ニ任之一。若徘徊顧望。則當レ殺レ之耳。乃左ニ遷疊州都督一。受レ詔不レ至レ家而去。

一 恩を與へしことなし　二 我命ヲ不滿に思ひ、ぐづ〳〵してゐるやうならば汝の爲めに殺すべしと也

上崩。在位二十四年。改元者一。曰ニ貞觀一。上雖下以ニ武功一定中禍亂上。終以ニ文德一綏ニ海內一。常自以ニ驕侈一爲レ懼。嘗曰。人主惟一心。攻レ之者衆。或以ニ勇力一。或以ニ辯口一。或以ニ諂諛一。或以ニ姦詐一。或以ニ嗜欲一。輻輳各求ニ自售一。人

○上、崩ず。在位二十四年。改元する者一。貞觀と曰ふ。上、武功を以て禍亂を定むと雖も、終に文德を以て海內を綏んず。常に自ら驕侈を以て懼と爲す。嘗て曰く、人主は惟だ一心にして、之を攻むる者は衆し。或は勇力を以てし、或は辯口を以てし、或は諂諛を以てし、或は姦詐を以てし、或は嗜欲を以てし、輻輳して各〻自ら售らんことを求む。人主少しく懈りて其一を受くれば、則ち危亡之に隨はん。此れ其の以て難しとする所也と。嘗て侍臣に問ふ。創業と守成と孰れか難き。玄齡曰く、草昧の初め、羣雄竝び起り、力を角して後之を臣とす。創業難し。魏徵曰く、古より帝王之を艱難に得て、之を安逸に失はざること莫し。守成難し。上曰く、玄齡、吾と共に天下を取り、百死を出でゝ一生を得たり。

二十二年。司空梁公房玄齡卒。上悲不自勝。玄齡佐上定天下。及終相位三十二年。號爲賢相。然無迹可尋。上定禍亂。而房杜不言功。王魏善諫諍。而房杜讓其賢。英衞善將兵。而房杜行其道。理致太平。善歸人主。爲唐宗臣。

○二十二年、司空梁公房玄齡卒す。上、悲しみて自ら勝へず。玄齡、上を佐けて天下を定む。相の位に終るに及ぶまで三十二年。號して賢相と爲す。然れども迹の尋ぬ可き無し。上、禍亂を定めて、房・杜(一)功を言はず。王・魏(二)善く諫諍して、房・杜其賢に讓り、英・衞(三)善く兵に將として、房・杜其道を行ふ。理、(四)太平を致し、善、人主に歸す。唐の宗臣たり。

(一) 房玄齡と杜如晦　(二) 王珪と魏徵　(三) 英公李勣と衞公李靖　(四) 世の治めかたはよく太平を致し

二十三年。上有疾。謂太子曰。李世勣才知有餘。然汝與之無恩。我今黜之。我死。

○二十三年、上、疾有り。太子に謂ひて曰く、李世勣は才知餘有り。然れども汝之と恩無し。我今之を黜けん。我死なば、用ひて僕射と爲して之を親任せよ。若し徘徊顧望せば、則ち當に之を殺すべきのみと。乃ち疊州の都督に左遷す。詔を受け家に至らずして去る。

留。且録將士盡。勅班師。是行拔十城。徙戸口七萬。三大戰。斬首四萬餘級。然戰士死者。幾三千人。戰馬死什七八。不能成功。深悔之。歎曰。魏徵若在。不使我有此行也。命馳騎。祠徵以少牢。復立所製碑。

二十年。上如靈州。遣李世勣擊薛延陀。破降之。招諭勅勒諸部。回紇等十一姓。各遣使歸命。乞置官司。詔曰。朕聊命偏師。遂擒頡利。始弘廟略。已滅延陀。鐵勒百餘萬戸。請爲州郡。混元以降。殊未前聞。宜備禮告廟。仍頒示天下。上爲詩曰。雪恥酬百王。除兇報千古。刻石於靈州。

○二十年、上、靈州に如き、李世勣をして薛延陀を撃たしむ。破りて之を降す。勅勒の諸部を招諭す。回紇等十一姓、各〻使を遣はして命に歸し（一）、官司を置かんことを乞ふ。詔して曰く、朕聊か偏師（二）に命じて、頡利を逐ひ擒へ、始めて廟略（三）を弘む。已に延陀を滅し、鐵勒百餘萬戸、請ひて州郡と爲る。混元（四）より以降、殊に未だ前に聞かず。宜しく禮を備へて廟に告ぐべしと。仍りて天下に頒ち示す。上、詩を爲りて曰く、恥を雪ぎて百王に酬い、兇を除きて千古に報ずと。石に靈州に刻ましむ。

（一）命令に歸服し　（二）一方の軍。師一に帥に作る、將帥也　（三）廟堂の策略　（四）天地開闢以來

十九年。上發洛陽。至定州。進諸軍。上渡遼水。拔遼東城。降白巖城。攻安市城。大破其救兵於城下。安市城險兵精。堅守不下。議者欲下拔烏骨城。渡鴨綠水。直取平壤。覆其本根。則餘可不戰而降。或又謂。親征異於諸將。不可乘危。上以遼左早寒。草枯水凍。士馬難久

○十九年、上、洛陽を發して定州に至り、諸軍を進む。上、遼水を渡り、遼東城を拔き、白巖城を降し、安市城を攻め、大に其救兵を城下に破る。安市城險にして兵精なり。堅く守りて下らず。議する者、烏骨城を拔き、鴨綠水を渡りて、直に平壤を取らんと欲す。其本根を覆さば、則ち餘は戰はずして降す可しと。或は又謂ふ。親征は諸將に異なり。危きに乘ず可からずと。上、遼左早く寒く、草枯れ水凍りて、士馬久しく留まり難く、且つ糧將に盡きんとするを以て、勅して師を班す。是の行、十城を拔き、戶口七萬を徙し、三たび大に戰ひ、首を斬ること四萬餘級なり。然れども戰士の死する者、幾んど三千人、戰馬の死する什に七八にして、功を成すこと能はず。深く之を悔ゆ。歎じて曰く、魏徵若し在らば、我をして此行有らしめじと。命じて騎を馳せ、徵を祠るに少牢を以てし、復た製せし所の碑を立つ。

(一) 遼東の地 (二) 還也 (三) 祭のいけにへとして羊と豕とを供ふるをいふ

政會。唐儉。李勣。秦叔寶等於凌煙閣㆖。太子承乾不才。魏王泰多能有㆑寵。潛有㆓奪㆑嫡之志㆒。侯君集負㆑功怨望。以㆓承乾暗劣㆒。欲㆑乘㆑釁。因勸㆓之反㆒。事覺廢爲㆓庶人㆒。君集坐誅。泰亦以㆓險詐㆒不㆑立。立㆓晉王治㆒爲㆓太子㆒。魏徵嘗薦㆓君集㆒。上始疑㆓徵阿黨㆒。又有㆑言。徵自錄㆓前後諫辭㆒。示㆓起居郎褚遂良㆒。上愈不㆑悅。徵臨㆑終。上面㆓指公主㆒。欲㆑妻㆓其子叔玉㆒。至㆑是停㆓其婚㆒。踣㆓所㆑立碑㆒。十八年。上親征㆓高麗㆒。先㆑是高麗泉蓋蘇文弑㆓其君㆒。新羅又遣㆑使言。百濟與㆓高麗㆒。連㆑兵謀㆑絕㆓新羅入貢之路㆒。乞㆑兵救援。上遂討㆑之。先如㆓洛陽㆒。

かを疑ふ。又言ふもの有り。徵自ら前後の諫辭を錄して、起居郎褚遂良に示す。上、愈悅ばず。徵が終に臨みしとき、上、公主を面指し、其子叔玉に妻はさんと欲す。是に至りて其婚を停め、立つる所の碑を踣す〇十八年、上、親ら高麗を征す。是より先高麗の泉蓋蘇文其君を弑す。新羅又使を遣はして言く、百濟、高麗と兵を連ねて新羅入貢の路を絕たんことを謀ると。兵を乞ひて救援せしむ。上、遂に之を討たんとし、先づ洛陽に如く。

(一)すきにつけこむ　(二)陰險にして詐術多し　(三)此事あるに至り徵が君集に阿り徒黨せしかを疑ひ始む　(四)天子の動作法度を錄する國史の官　(五)皇女衡山公主を目前に指して

成公主ㇾ嫁ㇾ之。十七年。鄭公魏徵卒。上曰。以ㇾ銅爲ㇾ鏡。可ㇾ正二衣冠一。以ㇾ古爲ㇾ鏡。可ㇾ見二興替一。以ㇾ人爲ㇾ鏡。可ㇾ知二得失一。徵沒。朕亡二一鏡一矣。徵葬。上自製ㇾ碑書ㇾ石。

(一) さへぎり食ひ止む (二) 皇女也 (三) 其鏡に照して衣冠を正しくすべし (四) 替は廢也、世のおこりすたり (五) 照して以て身の得失を知るべき一つの鏡卽ち大事なる人物

圖ㇳ畫功臣長孫無忌。趙郡王孝恭。杜如晦。魏徵。房玄齡。高士廉。尉遲敬德。李靖。蕭瑀。段志玄。劉弘基。屈突通。殷開山。柴紹。長孫順德。張亮。侯君集。張公謹。程知節。虞世南。劉

○功臣長孫無忌・趙郡王孝恭・杜如晦・魏徵・房玄齡・高士廉・尉遲敬德・李靖・蕭瑀・段志玄・劉弘基・屈突通・殷開山・柴紹・長孫順德・張亮・侯君集・張公謹・程知節・虞世南・劉政會・唐儉・李勣・秦叔寶等を凌煙閣に圖畫せしむ○太子承乾不才なり。魏王泰、多能にして寵有り。潛に嫡を奪ふの志有り。侯君集、功を負みて怨望す。承乾の暗劣なるを以て、(一)釁に乘ぜんと欲し、因りて之に反を勸む。事覺はる。廢して庶人と爲す。君集坐して誅せらる。泰も亦(二)險詐を以て立たず。晉王治を立てゝ太子と爲す。魏徵嘗て君集を薦む。上、(三)始めて徵が阿り黨せし

六十員。自二屯營飛騎一。亦給二博士一授レ經。有二能通レ經者一。聽レ得二貢擧一。於レ是四方學者雲二集京師一。乃至二高麗。百濟。新羅。高昌。吐蕃諸酋長一。亦遣二子弟一請レ入二國學一。升二講筵一者。至二八千餘人一。上以二師說多門。章句繁雜一。命二孔穎達一與二諸儒一定二五經疏一。謂二之正義一。

るを以て、孔穎達に命じ、諸儒と五經の疏(三)を定めしむ。之を正義と謂ふ。

(一)貢進擧して文官登用試驗に應ずることを得しむ　(二)經學の師たるべき古來の說に門派多し　(三)疏注

高昌王麴文泰。先レ是多過二絕西域朝貢一。及拘二留中國人一。以二侯君集一。爲二交河大總管一。將レ兵擊レ之。至レ是滅二高昌一。以二其地一爲二西州一。十五年。吐蕃求レ婚。以二文

○高昌王麴文泰、是より先多く西域の朝貢を過絕し(一)、及び中國の人を拘留す。侯君集を以て交河の大總管と爲し、兵に將として之を擊たしむ。是に至りて、高昌を滅し、其地を以て西州と爲す○十五年、吐蕃、婚を求む。(二)文成公主を以て之に嫁せしむ○十七年、鄭公魏徵卒す。上曰く、銅を以て鏡と爲せば、衣冠(三)を正す可し。古を以て鏡と爲せば興替(四)を見る可し。人を以て鏡と爲せば得失を知る可し。徵、沒して、朕一鏡を亡へりと。徵葬るとき、上自ら碑を製(五)して石に書す。

十三年。夏旱。詔二五品以上一言レ事。魏徵言。陛下比二貞觀初一。漸不レ克レ終者十條。上深獎歎。

○十三年、夏旱す。五品以上に詔して事を言はしむ。魏徵言く、陛下、貞觀の初めに比するに、漸く終を克くせざる者十條ありと。上、深く獎歎す。(一)

(一) その言ふ所をほめ且つなげく

十四年。上詣二國子監一。親釋奠。是時大徵二天下名儒一爲二學官一。數幸二國子監一。使二之講論一。學生能明二一經已上一者。皆得レ補レ官。增二築學舍一。千二百間。增二學生一滿二三千二百

○十四年、上、國子監に詣り、親ら釋奠す。是時大に天下の名儒を徵して學官と爲し、數〻國子監に幸して之をして講論せしむ。學生能く一經已上に明かなる者は、皆官に補せらるゝことを得。學舍を增築すること千二百間、學生を增して三千二百六十員に滿つ。屯營飛騎よりして、亦博士を給して經を授け、能く經に通ずる者有れば、(一)貢擧を得ることを聽す。是に於て四方の學者京師に雲集す。乃ち高麗・百濟・新羅・高昌・吐蕃の諸酋長に至るまで、亦子弟を遣し、請ひて國學に入らしむ。講筵に升る者、八千餘人に至る。上、(二)師說多門にして、章句繁雜な

定㆓府兵㆒。凡十道。置㆑府六百三十四。而關內二百六十一。皆隷㆓諸衛及東宮六率㆒。上府兵凡千二百人。中府千人。下府八百人。三百人爲㆑團。團有㆓校尉㆒五十人爲㆑隊。隊有㆑正。十人爲㆑火。火有㆑長。每㆑人兵甲糧裝各有㆑數。輸㆓之庫㆒。征行給㆑之。二十爲㆑兵。六十而免。能騎射者。爲㆓越騎㆒。其餘爲㆓步兵㆒。更㆓命統軍別將㆒。爲㆓折衝果毅都尉㆒。每㆓歲季㆒。各折衝都尉。帥以敎㆑戰。當㆑給㆑馬者。官與㆑直。當㆓宿衛㆒者番上。兵部以㆓遠近㆒給㆑番。遠疎近數。皆一月而更。

○府兵を定む。凡べて十道。府を置くこと六百三十四。而して關內に二百六十一。皆諸衛及び東宮六率に隷す。上府の兵凡べて千二百人、中府は千人、下府は八百人。三百人を團と爲す。團に校尉有り。五十人を隊と爲す。隊に正有り。十人を火と爲す。火に長有り。人每に兵甲糧裝、各〻數有り。之を庫に輸し、征行に之を給す。二十にして兵と爲り、六十にして免ず。能く騎射する者を越騎と爲し、其餘を步兵と爲す。統軍別將を更命(一)して、折衝果毅都尉と爲す。歲の季每に、各折衝都尉、帥ゐて以て戰を敎ふ。當に馬を給すべき者は官より直を與へ、當に宿衛すべき者は番上(二)す。兵部、遠近を以て番を給す。(三)遠は疎に、近は數〻す。皆一月にして更る。

(一) あらためなづく　(二) 交替に上京せしむ　(三) 遠き者は上京の數少なく、近き者は多し

八年。吐蕃遣レ使入貢。九年。太上皇崩。上皇即位九年而禪レ位。至レ是又九年。吐谷渾先レ是入二寇涼州一。以二李靖一帥二諸軍一討。破レ之。十年吐谷渾遣レ子入侍。治書侍御史權萬紀言。宣饒銀大發。采レ之歲可レ得二數百萬一。上曰。卿未三嘗進二一賢才一。而專言二銀利一。昔堯舜抵二璧於山一。投二珠於谷一。漢之桓靈。乃聚レ錢爲二私藏一。卿欲下以二桓靈一俟上レ我耶。黜レ之。

○八年、吐蕃使を遣はして入貢す○九年、太上皇崩ず。上皇即位九年にして位を禪る。是に至りて又九年なり○吐谷渾、是より先涼州に入寇す。李靖を以て諸軍を帥ゐて討たしむ。之を破る○十年、吐谷渾、子を遣はして入り侍せしむ○治書侍御史權萬紀言く、宣・饒(二)、銀大に發す。之を采らば歲ごとに數百萬を得可しと。上曰く、卿未だ嘗て一賢才を進めずして、專ら銀の利を言ふ。昔堯舜、(三)璧を山に抵ち、珠を谷に投ぐ。漢の桓靈は、乃ち錢を聚めて私藏と爲しき。(四)卿、桓靈を以て我を俟たんと欲するか(五)と。之を黜く。

(一)宮中に入りて侍坐せしむ、人質と爲す也　(二)宣州と饒州　(三)璧を山になげすて、寶とせず　(四)自己の私有とす　(五)桓帝靈帝の如き貪慾の君たらしめんとするか

舞。輒俛首不視。七德舞者。秦王破陣曲也。見九功舞。則諦觀之。王珪、魏徵爲侍中。上親錄囚徒。見應死者閔之。縱使歸家。期以來秋就死。仍勅天下死囚。皆縱遣。至期來詣京師。至是皆如期。自詣朝堂。上皆赦之。凡三百九十人。上奉太上皇。置酒未央宮。上皇命頡利可汗起舞。馮智戴詠詩。笑曰。胡越一家。古未有也。

しめ、期するに來秋を以てして死に就かしむ。仍りて天下の死囚に勅し、皆縱し遣り期に至りて京師に來り詣らしむ。是に至りて皆期の如く自ら朝堂に詣る。上、皆之を赦す。凡べて三百九十人〇上、太上皇を奉じて、(四)未央宮に置酒す。上皇、頡利可汗に命じて起ちて舞はしむ。馮智戴、詩を詠ず。笑ひて曰く、(五)胡越一家は、古より未だ有らずと。

(一) 七德は禁暴・戢兵・保大・定功・安民・和衆・豐財の義、武の舞也。九功は六府三事の功の義にて文の舞也 (二) 太宗が秦王たりし時劉武周を破る、軍中相共に秦王破陣樂曲を作る、後に七德の舞と改めたる也 (三) 氣をつけてよく見物す (四) 西安に在り、前漢高帝の建つる所也 (五) 胡と越と一家の如くになりて樂しむは古來あらざる事也。胡は頡利を指し越は智戴を指していふ

化。湯武皆乘ニ大亂之後ー。身致ニ太平ー。行ニ帝道ー而帝。行ニ王道ー而王。顧ニ所レ行何如ー耳。上卒從ニ徵言ー。元年關中饑。斗米直ニ絹一匹ー。二年天下蝗。三年大水。上勤而撫レ之。未ニ嘗嗟怨ー。至レ是天下大稔。米斗三四錢。終レ歲斷ニ死刑ー。纔十九人。東至ニ于海ー。南及ニ五嶺ー。皆外戶不レ閉。行旅不レ齎レ糧。取ニ給於道路ー焉。上曰。魏徵勸レ我行ニ仁義ー。今既效矣。惜不レ令ニ封德彝見ヒ之。蓋德彝元年六月死矣。

效あり。惜むらくは封德彝をして之を見しめざることをと。蓋し德彝は元年六月に死せるなり。

㊀ 話如眴の事に及べば ㊁ 豐年なり ㊂ 人心頽落して輕薄詐謟なり ㊃ いなむし多く發生す ㊄ なげき殺むとなし ㊅ 盜賊なきを以て戶じまりをせず ㊆ 行く先さきにて飲食の供給を受く

五年。林邑新羅入貢。党項內附。開ニ其地ー。爲ニ十六州ー。七年春宴ニ玄武門ー。奏ニ七德九功舞ー。徵欲ニ上偃レ武修ヒ文。每レ侍レ宴。見ニ七德

○五年、林邑・新羅入貢す○党項、內附す。其地を開きて、十六州と爲す○七年春、玄武門に宴し、(一)七德九功の舞を奏す。徵、上の武を偃せ、文を修めんことを奏す。宴に侍する每に、七德の舞を見れば、輒ち首を俛して視ず。七德の舞は、秦(二)王破陣の曲也。九功の舞を見れば、則ち之を(三)諦觀す。王珪罷められ、徵侍中と爲る○上、親ら囚徒を錄す。應に死すべき者を見て之を閔み、縱して家に歸ら

貞觀四年。蔡公如晦卒。上語及必流涕。是歲大有年。上之初卽位也。常與羣臣語及敎化。曰。大亂之後。其難治乎。魏徵對曰饑者易爲食。渴者易爲飮。封德彝曰。三代以還。人漸澆訛。故秦任法律。漢雜霸道。蓋欲化不能。豈能之而不欲邪。徵曰。五帝三王。不易民而

貞觀四年、蔡公如晦卒す。上、語及べば必ず涕を流す○是歲大に年有り。上の初め位に卽くや、常て羣臣と語りて敎化に及ぶ。曰く、大亂の後、其れ治め難きか。魏徵對へて曰く、饑うる者は食を爲し易く、渴する者は飮を爲し易し。封德彝曰く、三代以還、人漸く澆訛なり。故に秦は法律に任じ、漢は霸道を雜ふ。蓋し化せんと欲して能はざりしなり。豈之を能くして欲せざりしならんや。徵曰く、五帝・三王は民を易へずして化す。湯武は皆大亂の後に乘じて、身太平を致す。帝道を行はゞ帝たり、王道を行はゞ王たり。行ふ所何如を顧みんのみと。上、卒に徵の言に從ふ。元年關中饑ゑ、斗米、絹一匹に直す。二年、天下蝗あり。三年、大水あり。上、勤めて之を撫す。未だ嘗て嗟怨せず。是に至りて天下大に稔り、米斗三四錢のみ。歲を終ふるまで、死刑を斷ずると纔に十九人。東のかた海に至り、南のかた五嶺に及びて、皆外戶閉ぢず、行旅糧を齎らさずして、給を道路に取る。上曰く、魏徵我に勸めて仁義を行はしむ。今既に

爲二定襄道行軍總管一。統二諸軍一討レ之。靖襲二破突厥於陰山一。頡利可汗遁走。唐將擒レ之以獻。時突利可汗先已入朝。上處二突厥降衆一。東自二幽州一。西至二靈州一。分二突利地一爲二四州一。分二頡利地一爲二六州一。左置二定襄都督一。右置二雲中都督一。以統二其衆一。以二突利一爲二順州都督一。頡利爲二右衛大將軍一。

頡利を右衛大將軍と爲す。

(一) 砂漠の北　(二) 邊境を守る將

林邑遣レ使入貢。伊吾來降。置二伊西州一。高昌王麴文泰入朝。先レ是四夷君長詣レ闕。請三帝爲二天可汗一。上曰我爲二大唐天子一。又下行二可汗事一乎。羣臣及四夷皆稱二萬歲一。自レ是後。璽書賜二西北君長一。皆稱二天可汗一。

○林邑、使を遣はして入貢す○伊吾來り降る。伊西州を置く。高昌王麴文泰、入朝す○是より先四夷の君長、闕に詣りて、帝を天可汗と爲さんと請ふ。上曰く我大唐の天子と爲る。又下可汗の事を行はんやと。羣臣及び四夷皆萬歲と稱す。是より後、璽書(一)西北の君長に賜ふもの、皆天可汗と稱す。

(一) 西北の戎狄の君長に賜ふ詔書には皆其君長を指して某々天可汗と書く

射一。魏徵守二祕書監一。參二預朝政一。玄齡謀レ事。必曰。非二如晦一不レ能レ決。及二如晦至一。卒用二玄齡策一。蓋玄齡善謀。如晦善斷。二人同レ心徇レ國。故唐世稱二賢相一。推二房杜一焉。徵嘗告レ上曰。願使三臣爲二良臣一。勿レ使三臣爲二忠臣一。上曰。忠良異乎。徵曰。稷契皐陶。君臣協レ心。倶享二尊榮一。所謂良臣。龍逢比干。面折廷爭。身誅國亡。所レ謂忠臣。上悅。

誅せられ國亡ぶ。所謂忠臣なりと。上悅ぶ。

㊀故例に　㊁しらべ察すること　㊂誤りを駁し正すこと　㊃まのあたり諫め、朝廷にて是非を爭ふ

初突厥既强。勅勒諸部分散。有二薛延陀回紇等十五部一。皆居二磧北一。頡利政亂。薛延陀回紇等叛レ之。加以二民大飢羊馬多死一。奉レ使者還。及邊帥。皆言二突厥可レ取之狀一。詔以二李靖一

○初め突厥既に强く、勅勒の諸部分散す。薛延陀、回紇等十五部有り、皆磧北に居る。頡利政亂る。薛延陀、回紇等之に叛く。加ふるに民大に飢ゑ、羊馬多く死するを以てす。使を奉ずる者還り、及び邊帥皆突厥取る可きの狀を言ふ。詔して李靖を以て定襄道の行軍總管と爲し、諸軍を統べて之を討たしむ。靖、突厥を陰山に襲ひ破る。頡利可汗遁れ走る。唐の將之を擒にして以て獻ず。時に突利可汗先に已に入朝す、上、突厥の降衆を處するに、東幽州より、西靈州に至るまで、突利の地を分ちて四州と爲し、頡利の地を分ちて六州と爲し、左に定襄都督を置き、右に雲中都督を置きて、以て其衆を統べしめ、突利を以て順州の都督と爲し、

梁師都。其下殺レ之以降。以二其地一爲二夏州一。太常祖孝孫。奏二唐雅樂一。貞觀二年。又出二宮女三千餘人一。

故事。軍國大事。中書舍人。各執二所見一。雜二署其名一。謂二之五花判事一。中書侍郎。中書令。省二審之一。給事中。黄門侍郎。駁二正之一。上謂二王珪一曰。國家本置二中書門下一。以相檢察。卿曹勿二雷同一也。時珪爲二侍中一。房玄齡杜如晦爲二僕

○故事に、軍國の大事は、中書舍人、各〻所見を執りて、其名を雜へ署す。之を五花判事と謂ふ。(一)中書侍郎・中書令之を省審し、(二)給事中・黄門侍郎之を駁正す。(三)上王珪に謂ひて曰く、國家本と中書門下を置きて、以て相檢察す。卿が曹雷同すること勿れと。時に珪、侍中と爲り、房玄齡・杜如晦、僕射と爲り、魏徵、祕書監に守として、朝政に參預す。玄齡事を謀るに必ず曰く、如晦に非ざれば決すること能はずと。如晦至るに及び、卒に玄齡の策を用ふ。蓋し玄齡善く謀り、如晦善く斷ず。二人心を同じくして國に徇ふ。故に唐の世に賢相を稱すれば、房・杜を推す。徵、嘗て上に告げて曰く、願はくは臣をして良臣と爲らしめよ、臣をして忠臣と爲らしむること勿れ。上曰く、忠良異なるか。徵曰く、稷・契・皐陶、君臣心を協せて、倶に尊榮を享く、所謂良臣なり。龍逢・比干、(三)面折廷爭し、身

不下以二天下一奉中一人上。又曰。壯二九重於內一。所レ居不レ過レ容レ膝。彼昏不レ知。瑤二其臺一而瓊二其室一。羅二八珍於前一。所レ食不レ過レ適レ口。惟狂罔レ念。丘二其糟一而池二其酒一。又曰。勿二沒沒而闇一。勿二察察而明一。雖二冕旒蔽一レ目。而視二於無形一。雖二黈纊塞一レ耳。而聽二於無聲一。上嘉二其言一。分二天下一爲二十道一。因二山川形便一。曰二關內。河南。河東。河北。山南。隴右。淮南。江南。劍南。嶺南一。遣レ將討二

過ぎず。彼の昏くして知らざるものは、其臺を瑤(二)にして其室を瓊にす。八珍を前に羅ぬれども、食ふ所は口に適ふに過ぎず。惟れ狂にして念ふこと罔きものは、其糟を丘にして其酒を池にす。又曰く、(三)沒沒として闇きこと勿れ。察察として明なること勿れ。(四)冕旒目を蔽ふと雖も、而も無形に視よ。(五)黈纊耳を塞ぐと雖も、而も無聲に聽けと。上、其言を嘉す○天下を分ちて十道と爲し、山川の形便に因る。關內・河南・河東・河北・山南・隴右・淮南・江南・劍南・嶺南と曰ふ○將を遣はして梁師都を討つ。其下之を殺して以て降る。其地を以て夏州と爲す○太常の祖孝孫、唐の雅樂を奏す○貞觀二年、又宮女三千餘人を出す。

(一) 帝王の戒めの書　(二) 瑤も瓊も寶玉　(三) 外物に沈冥して暗昧なること勿れ　(四) 冕は冠、旒は其前後に垂るゝ玉、卽ち以て目を蔽ふ也　(五) 冕に垂れて兩耳の旁に當つる飾

賛。輟ㇾ徭薄ㇾ賦。選二用廉吏一。使二民衣食有ㇾ餘。自不ㇾ爲ㇾ盜。安用二重法一邪。自ㇾ是數年之後。路不ㇾ拾ㇾ遺。商旅野宿。上嘗曰。君依二於國一。國依二於民一。刻ㇾ民以奉ㇾ君。猶二割ㇾ肉以充ㇾ腹。腹飽而身斃。君富而國亡矣。又嘗謂二侍臣一曰。聞西域賈胡。得二美珠一。剖ㇾ身而藏ㇾ之。有ㇾ諸。曰有ㇾ之。曰吏受ㇾ賕抵ㇾ法。與下帝王徇二奢欲一而亡ㇾ國者上。何以異二此胡之可ㇾ笑邪。魏徵曰。昔魯哀公謂二孔子一曰。人有二好忘者一。徙ㇾ宅而忘二其妻一。孔子曰。又有二甚者一。桀紂乃忘二其身一。亦猶ㇾ是也。

身斃れん、君富みて國亡びんと。又嘗て侍臣に謂ひて曰く、聞く、西域の賈胡(三)、美珠を得れば身を剖きて之を藏むと。諸れ有りや。曰く、之れ有り。曰く、吏、賕(四)を受けて法に抵ると、帝王、奢欲に徇ひて國を亡す者と、何を以て此胡の笑ふ可きに異ならんや。魏徵曰く、昔魯の哀公、孔子に謂ひて曰く、人好く忘るる者有り、宅を徙して其妻を忘る。孔子曰く、又甚しき者有り、桀紂は乃ち其身を忘ると。亦猶ほ是のごとしと。

(一) 盜難の憂なきを以て、行商旅客も野宿す　(二) 人民を苦む　(三) 胡の商人　(四) 賄賂を取りて法に當てらる

張蘊古獻二大寶箴一。有ㇾ曰。以二一人一治二天下一。

○張蘊古、大寶(一)の箴を獻ず。曰へること有り。一人を以て天下を治む、天下を以て一人に奉とせず。又曰く、九重を內に壯んにすとも、居る所は膝を容るゝに

學之士。虞世南等以本官。兼學士。聽朝之隙。引入內殿。講論前言往行。商権政事。或夜分乃罷。取三品以上子孫。充弘文館學士。

権す。或は夜分にして乃ち罷む。三品以上の子孫を取りて、弘文館學士に充つ。

(一)經史子集の四部の書二十餘萬卷　(二)古今政事の得失をはかりくらぶ

有上書請去佞臣者。上曰。願陽怒以試之。執理不屈者直臣也。畏威順旨者佞臣也。上曰。吾自爲詐。何以責臣下之直乎。朕方以至誠治天下。或請重法禁盜。上曰。當去奢省

○上書して佞臣を去らんと請ふ者有り。曰く、願はくは陽り怒りて以て之を試みよ。理を執りて屈せざる者は直臣也。威を畏れて旨に順ふ者は佞臣也。上曰く、吾自ら詐を爲さば、何を以て臣下の直を責めんや。朕方に至誠を以て天下を治めんと。或ひと法を重くして盜を禁ぜんと請ふ。上曰く、當に奢を去りて費を省き、徭を輕くし賦を薄くし、廉吏を選び用ふべし。民の衣食をして餘有らしめば、自ら盜を爲さじ。安んぞ重法を用ひんやと。是より數年の後、路遺ちたるを拾はず、商旅野宿す。上嘗て曰く、君は國に依り、國は民に依る。(二)民を刻して以て君に奉ずるは、猶は肉を割きて以て腹を充すがごとし。腹飽きて

蓋文達。許敬宗。爲二文學館學士一。分爲二三番一。更レ日直宿。王暇日輒至二館中一。討二論文籍一。或至二夜分一。使二閻立本圖一レ像。褚亮爲レ贊。號二十八學士一。士大夫得レ預二其選一者。時人謂二之登瀛州一。時府僚多補レ外。如晦亦出。玄齡曰。餘人不レ足レ惜。如晦王佐才。大王欲レ經二營四方一。非二如晦一不可。王即奏留レ之。使レ參二謀帷幄一。剖決如レ流。玄齡每二入奏一レ事。高祖曰。玄齡爲二吾兒一謀レ事。雖レ隔二千里一。如二對レ面語一。秦王功蓋二天下一。身幾危。賴二玄齡如晦一決レ策。至レ是即位。首放二宮女三千餘人一。

突厥頡利突利二可汗。合二十餘萬騎一入寇。進至二渭水便橋之北一。上自與二房玄齡等六騎一。徑詣二渭水上一。與二頡利一隔レ水語。責以レ負レ約。突厥大驚。皆下レ馬羅拜。俄而諸軍繼至。旗甲蔽レ野。頡利懼。請レ盟而退

○突厥の頡利・突利二可汗、十餘萬騎を合せて入寇し、進みて渭水便橋(一)の北に至る。上、自ら房玄齡等六騎と徑に渭水の上に詣り、頡利と水を隔てゝ語り、責むるに約に負くを以てす。突厥大に驚き、皆馬より下りて羅拜(二)す。俄にして諸軍繼ぎて至り、旗甲野を蔽ふ。頡利懼れて盟を請ひて退く。

(一) 長安城の北面西頭の門を便門といふ、此門と相對する橋也　(二) ならんで拜す

置二弘文館一。聚二四部二十餘萬一。選二天下文

○弘文館を置き。四部(一)二十餘萬を聚め、天下文學の士を選ぶ。虞世南等本官を以て學士を兼ぬ。朝を聽くの隙、內殿に引き入れて、前言往行を講論し、(二)政事を商

祖。色尙傲。及レ見二秦王一。不二敢仰視一。退而歎曰。眞英主也。高祖以二秦王功高一。特置二天策上將一位在二王公上一。以二秦王一爲レ之。開レ府置レ屬。開レ館以延二文學之士一。杜如晦。房玄齡。虞世南。褚亮。姚志廉。李玄道。蔡允恭。薛元敬。顏相時。蘇勗。于志寧。蘇世長。薛收。李守素。陸德明。孔穎達。

明・孔穎達・蓋文達・許敬宗を文學館の學士と爲す。分ちて三番と爲し、日を更へて直宿す。王、暇日には輒ち館中に至りて、文籍を討論し、或は夜分(四)に至る。閻立本をして像を圖し、褚亮に贊を爲らしむ。十八學士と號す。士大夫の其選に預かることを得る者、時の人之を登瀛州(五)と謂ふ。時に府僚多くは外に補せられ、如晦も亦出づ。玄齡曰く、餘人は惜むに足らず、如晦は王佐の才なり。大王、四方を經營せんと欲せば、如晦に非ざれば不可なりと。王卽ち奏して之を留め、帷幄に參謀せしむ。剖決流るゝが如し(六)。玄齡入りて事を奏する每に、高祖曰く、玄齡吾が兒の爲に事を謀る。千里を隔つと雖も、面に對ひて語るが如しと。秦王功天下を蓋ひ、身幾んど危し。玄齡・如晦に賴りて策を決す。是に至りて卽位す。首に宮女三千餘人を放つ。

(一) 天子となるべき人相也　(二) 元服加冠の頃に至れば　(三) 濟世安民の語を取りて世民と名づく　(四) 夜半　(五) 仙境に登る意　(六) 物事をさばくこと水の流るゝが如し

太子ニ處決。然後聞奏。初東宮官屬魏徵。屢勸ニ建成一除ニ世民一。及レ是世民召レ徵。責下以レ離ニ間兄弟一。徵擧止自若。對不レ屈。世民禮レ之。王珪亦嘗爲ニ建成一謀。皆以爲ニ諫議大夫一。帝自稱爲ニ太上皇帝一。詔傳ニ位於太子一。是爲ニ太宗文武皇帝一。

太宗文武皇帝

太宗文武皇帝。名世民。幼日。有ニ書生一。見レ之曰。龍鳳之姿。天日之表。其年幾レ冠。必能濟レ世安レ民。書生去。高祖使ニ人追レ之。不レ見。乃採ニ其語一爲レ名。年十八擧ニ義兵一。李密降レ唐。初見ニ高

太宗文武皇帝、名は世民。幼なりし日、書生有り、之を見て曰く、(一)龍鳳の姿、天日の表、其年(二)冠するに幾くして、必ず能く世を濟ひ民を安んぜんと。書生去る。高祖人をして之を追はしむ。見えず。乃ち(三)其語を採りて名と爲す。年十八、義兵を擧ぐ。李密、唐に降り、初め高祖に見えて、色尚ほ傲る。秦王に見ゆるに及びて、敢て仰ぎ視ず。退きて歎じて曰く、眞の英主也と。高祖、秦王の功高きを以て、特に天策上將を置く。位王公の上に在り。秦王を以て之と爲す。府を開きて屬を置き、館を開きて以て文學の士を延く。杜如晦・房玄齡・虞世南・褚亮・姚志廉・李玄道・蔡允恭・薛元敬・顏相時・蘇勗・于志寧・蘇世長・薛收・李守素・陸德

武德九年六月。太白經レ天。見二秦分一。建成元吉欲レ殺二世民一。秦府僚屬。勸レ王行二周公之事一。力請乃決。於レ是密奏。兄弟專欲レ殺レ臣。似下爲二世充建德一報上レ讐。明日帥レ兵伏二玄武門一。建成元吉入。覺レ有レ變欲レ還。世民追射二建成一殺レ之。尉遲敬德射殺二元吉一。遂立二世民一爲二太子一。軍國事悉委二

○武德九年六月、太白(一)、天に經り、秦の分に見る。建成•元吉、世民を殺さんと欲す。秦府の僚屬、王に勸めて周公(二)の事を行はしめんとす。力め請ひて乃ち決す。是に於て密に奏すらく、兄弟專ら臣を殺さんと欲す。世充•建德の爲に讐を報ずるに似たりと。明日兵を帥ひて玄武門に伏す。建成•元吉入り、變有るを覺りて還らんと欲す。世民追ひて建成を射て之を殺し、尉遲敬德、射て元吉を殺す。遂に世民を立てゝ太子と爲し、軍國の事悉く太子に委ねて處決せしめ、然る後聞奏せしむ。初め東宮の官屬魏徵、屢々建成に勸めて世民を除かしめんとす。是に及び世民、徵を召し、責むるに兄弟を離間するを以てす。徵、舉止自若、對して屈せず。世民之を禮す。王珪も亦嘗て建成の爲に謀る。皆以て諫議大夫と爲す。帝自ら稱して太上皇帝と爲り、詔して位を太子に傳ふ。是を太宗文武皇帝と爲す。

㊀ 太白星が日中太陽の下を經過して秦の分野に見る　㊁ 周公旦兄の管叔弟の蔡叔を誅戮せる故事

者。旬有五日免二其調一。三旬租調俱免。水旱蟲霜。十損二四以上一免レ租。損二六以上一免レ調。損二七以上一。課役俱免。民貲業分二九等一。百戶爲レ里。五里爲レ鄉。四家爲レ鄰。四鄰爲レ保。在二城邑一者爲レ坊。田野者爲レ村。食レ祿之家。無レ得二與レ民爭一レ利。工商雜類。無レ預二士伍一。男女始生爲レ黃。四歲爲レ小。十六爲レ中。二十爲レ丁。六十爲レ老。歲造二計帳一。三歲造二戶籍一。

田を人民にひとしく分つ法、租は田地の農產に對する課税、庸は人口に對する税、調は戸數に對する税　(五)　丁年即ち滿二十歲と中年即ち滿十六歲の者　(六)　十分の二即ち百畝中二十畝を永代の不動產とし、八十畝を一人口の得分とす　(七)　資產

初唐之起二晉陽一。皆世民之謀。帝欲下以二世民一爲中儲嗣上。世民固辭而止。太子建成喜二酒色遊畋一。齊王元吉多二過失一。而世民功名日盛。建成乃與二元吉一協レ謀傾二世民一。曲レ意諂二事諸妃嬪一。世民獨不レ事レ之。由レ是左右皆譽二建成元吉一。而短二世民一。

○初め唐の晉陽に起りしは、皆世民の謀なり。帝、世民を以て儲嗣(一)と爲さんと欲す。世民固辭して止む。太子建成、酒色遊畋(二)を喜ぶ。齊王元吉過失多し。而して世民の功名日に盛なり。建成乃ち元吉と謀を協せて、世民を傾けんとし、意を曲げて諸妃嬪に諂ひ事ふ。世民獨り之を事とせず(三)。是に由りて左右皆建成・元吉を譽めて、世民を短る。

(一)　あとつぎ　(二)　遊行田獵　(三)　一切そのやうなる事をせず

置二州縣鄕學一。帝自詣二國子學一、釋二奠于先聖先師一。始定二官制一。頒二新律令一。定二均田租庸調法一。丁中之民、給二田一頃一。篤疾減二十之六一。寡妻妾減レ七。皆以二十之二一爲二世業一。八爲二口分一。每レ丁歲入二租粟二石一。調隨二土地所一レ宜、綾絹絁布。歲役二旬、不レ役則收二其傭一。日三尺。有レ事而加レ役、

を頒つ。(四)均田租庸調の法を定め、(五)丁中の民に田一頃を給し、篤疾は十の六を減じ、寡妻妾は七を減ず。(六)皆十の二を以て世業と爲し、八を口分と爲し、丁毎に歲に租粟二石を入れしめ、調は土地の宜しき所に隨ひて、綾絹絁布あり。歲役は二旬。役せざれば則ち其傭を收むること日に三尺なり。事有りて役を加ふる者は、旬有五日なれば、其調を免じ、三旬なれば租調倶に免ず。水旱蟲霜には、十に四以上を損ずれば租を免じ、六以上を損ずれば調を免じ、七以上を損ずれば課役倶に免ず。民の(七)貲業九等に分つ。百戶を里と爲し、五里を鄕と爲し、四家を鄰と爲し、四鄰を保と爲す。城邑に在る者を坊と爲し、田野は村と爲す。祿を食むの家は、民と利を爭ふを得ること無く、工商雜類は士伍に預かること無し。男女始めて生るゝを黃と爲し、四歲を小と爲し、十六を中と爲し、二十を丁と爲し、六十を老と爲す。歲ごとに計帳を造り、三歲に戶籍を造る。

(一) 上を僭し僞りて帝王と稱せし者　(二) 王公の子弟を就學せしむる學校　(三) 孔子と顏氏とを祭る　(四) 均田は

安。被黄金甲。二十五將從其後。鐵騎萬四。甲士三萬。獻俘太廟。斬建德於市。赦世充。尋使人滑殺之。竇建德故將劉黒闥。始起兵於漳南。唐遣將李靖伐梁。梁主蕭銑降。送長安。斬之。杜伏威擊呉主李子通。執送長安。伏誅。劉黒闥自稱漢東王。楚主林士弘卒。其衆逡散。漢東將。執黒闥降唐。斬之。唐淮南道行臺僕射輔公祏。反於丹陽。唐將擊斬之。慶州都督楊文幹反。遣秦王世民討平之。突厥入寇。遣秦王世民禦之。遇於豳州。世民帥騎馳詣虜陣。告之曰。我秦王也。虜不敢戰。受盟而退。

ぐ○突厥入寇す。秦王世民をして之を禦がしむ。豳州に遇ふ。世民、騎を帥ゐ、馳せて虜の陣に詣り、之に告げて曰く、我は秦王也と。虜敢て戰はず、盟を受けて退く。

㊀よろひ ㊁鐵のよろひにて身を堅めたる騎馬武者 ㊂尚書臺を外に立てたるものの稱、隋にては行省とも行臺省ともいへり、行は行宮の行と同意にて、都に在る臺省に對していふ也

唐興七年。僭僞皆亡。天下既定。是歳初

○唐興りてより七年、僭僞皆亡び、天下既に定まる。是の歳初めて州・縣・郷の學を置く。帝自ら國子學に詣りて、先聖先師に釋奠す。始めて官制を定め、新律令

沈法興稱二梁王於毗陵一。李子通稱二吳帝於江都一。杜伏威降レ唐。唐秦王世民擊二定陽將宋金剛一破レ之。定陽可汗劉武周及金剛皆走死。唐秦王世民。督二諸軍一伐レ鄭。吳主李子通襲レ梁。梁王沈法興走死。夏王竇建德救レ鄭。唐秦王世民大破擒レ之。鄭主王世充降。世民至二長

○沈法興、梁王を毗陵に稱す○李子通、吳帝を江都に稱す○杜伏威、唐に降る○唐の秦王世民、定陽の將宋金剛を擊ちて之を破る。定陽の可汗劉武周及び金剛、皆走り死す。唐の秦王世民、諸軍を督して鄭を伐つ。吳主李子通、梁を襲ふ、梁王沈法興、走り死す○夏王竇建德、鄭を救ふ。唐の秦王世民、大に破りて之を擒にす。鄭主王世充降る。世民、長安に至るや、黃金の甲を被り、二十五將を其後に從ふ。鐵騎萬匹、甲士三萬。俘を太廟に獻じ、建德を市に斬り、世充を赦し、尋ぎて人をして潛に之を殺さしむ○竇建德の故の將劉黑闥、始めて兵を漳南に起す○唐、將李靖を遣して、梁を伐たしむ。梁主蕭銑、降る。長安に送りて之を斬る○杜伏威、吳主李子通を擊ち、執へて長安に送る。誅に伏す○劉黑闥自ら漢東王と稱す○楚主林士弘卒す。其衆遂に散ず○漢東の將、黑闥を執へて、唐に降る。之を斬る○唐の淮南道の行臺僕射輔公祏、丹陽に反す。唐の將擊ちて之を斬る○慶州の都督楊文幹反す。秦王世民を遣はして之を討ち平

洛陽一。秦主薛擧卒。子仁杲立。魏公李密。與二隋兵一戰。大敗降二於唐一。宇文化及。弑二其所レ立主浩一。自稱二許帝一。涼王李軌稱レ帝。唐秦王世民破レ秦。秦主薛仁杲降。送二長安一。斬二於市一。李密之將徐世勣。據二密舊境一。降レ唐。賜二姓李一。竇建德。取二河北諸州一。自稱二夏王一。李密叛レ唐。唐人獲而斬レ之。夏主竇建德。破二宇文化及一誅レ之。隋主侗立一年。王世充廢レ之。而自立爲二鄭帝一。尋弑レ侗。唐遣レ將襲二涼主李軌一。軌歸殺レ之。河西平。

○宇文化及、其の立つる所の主浩を弑し、自ら許帝と稱す○涼王李軌、帝と稱す○唐の秦王世民、秦を破る。秦主薛仁杲降る。長安に送りて市に斬る○李密の將徐世勣、密が舊境(一)に據る。唐に降る。姓を李と賜ふ○竇建德、河北の諸州を取り、自ら夏王と稱す○李密、唐に叛す。唐人獲て之を斬る○夏主竇建德、宇文化及を破りて之を誅す○隋主侗立ちて一年、王世充之を廢し、自立して鄭帝と爲り、尋ぎて侗を弑す○唐、將を遣はして涼王李軌を襲ひ、執へ歸りて之を殺す。河西平ぐ。

(一) 李密の未だ唐に降らざりし時に領有せし山東の舊地

如レ探二嚢中物一耳。淵乃召募起レ兵。遠近赴集。仍遣レ使借二兵於突厥一。世民引レ兵擊二西河一拔レ之。斬二郡丞高德儒一。數レ之曰。汝指二野鳥一爲レ鸞。以欺二人主一。吾興二義兵一。正爲レ誅二佞人一耳。進レ兵取二霍邑一。克二臨汾絳郡一。下二韓城一。降二馮翊一。淵留レ兵圍二河東一。自引レ兵西。遣二世子建成守二潼關一。世民徇二渭北一。關中羣盜悉降二於淵一。合二諸軍一圍二長安一。克レ之。立二恭帝一。淵爲二大丞相唐王一。加二九錫一。尋受レ禪。立二子建成一爲二皇太子一。世民爲二秦王一。元吉爲二齊王一。

し、馮翊を降す。淵、兵を留めて河東を圍み、自ら兵を引きて西し、世子建成をして潼關を守らしめ、世民に渭北を徇へしむ。關中の羣盜悉く淵に降る。諸軍を合せ長安を圍みて之に克つ。恭帝を立て、淵、大丞相唐王と爲り、九錫を加ふ。尋ぎて禪を受け、子建成を立てゝ皇太子と爲し、世民を秦王と爲し、元吉を齊王と爲す。

〔一〕羣盜して之を收有せば天下を取らんこと易々たるのみ　〔二〕隋の大業十二年、二孔雀あり、西苑より寶[illegible]朝堂の前に飛び來る、佞倖等奏して瑞と爲し、百官慶賀す、詔して德儒を朝散大夫に拜す

隋東都留守越王侗。煬帝孫也。亦爲レ衆所レ立。稱二帝於

○隋の東都の留守越王侗は、煬帝の孫也。亦衆の爲に立てられて、帝を洛陽に稱す○秦王薛擧卒す。子仁杲立つ○魏公李密、隋の兵と戰ひ、大敗して唐に降る。

覩二天時人事一如レ此。故敢發レ言。必執告。不二敢辭一レ死。淵曰。吾豈忍レ告。汝愼勿レ出レ口。明日復說曰。人皆傳李氏當レ應二圖讖一。故李金才無レ故族滅。大人能盡レ賊。則功高不レ賞。身益危矣。惟昨日之言。可二以救一レ禍。此萬全策。願勿レ疑。淵歎曰。吾一夕思二汝言一。亦大有レ理。今日破レ家亡レ身。亦由レ汝。化レ家爲レ國。亦由レ汝矣。先レ是。裴寂私以二晉陽宮人一侍レ淵。淵從レ寂飲。酒酣。寂曰。二郎陰養二士馬一。欲レ擧二大事一。正爲下寂以二宮人一侍上レ公。恐二事覺併誅一耳。

會煬帝以二淵不一レ能レ禦レ寇。遣二使者一執詣二江都一。世民與二寂等一。復說曰。事已迫矣。宜二早定一レ計。且晉陽士馬精强。宮監蓄積巨萬。代王幼冲。關中豪傑竝起。公若鼓行而西。撫而有レ之。

會〻煬帝、淵が寇を禦ぐこと能はざるを以て、使者を遣して執へて江都に詣らしめんとす。世民、寂等と復た說きて曰く、事已に迫る、宜しく早く計を定むべし。且つ晉陽の士馬は精强、宮監の蓄積は巨萬、代王幼冲にして、關中の豪傑竝び起る。公若し鼓行して西し、(二)撫して之を有せば、囊中の物を探るが如きのみと。淵乃ち召し募りて兵を起す。遠近赴き集まる。仍りて使を遣はして兵を突厥に借る。世民、兵を引きて西河を擊ちて之を拔き、郡丞高德儒を斬り、之を數めて曰く、(二)汝野鳥を指して鸞と爲して、以て人主を欺く。吾義兵を興すは、正に佞人を誅せんが爲のみと。兵を進めて霍邑を取り、臨汾絳郡に克ち、韓城を下

可レ得二十萬人一。尊公所レ將兵復數萬。以レ此乘レ虛入レ關。號二令天下一。不レ過二半年一。帝業成矣。世民笑曰。君言正合二我意一。乃陰部署。而淵不レ知也。會淵兵拒二突厥一不レ利。恐レ獲レ罪。世民乘レ閒說レ淵辟二民心一興二義兵一。轉レ禍爲レ福。淵大驚曰。汝安得レ爲二此言一。吾今執レ汝告二縣官一。世民徐曰。世民

民、天の時人の事を視るに此の如し。故に敢て言を發す。必ず執へて告げらるとも敢て死を辭せず。淵曰く、吾豈告ぐるに忍びんや。汝愼みて口より出すこと勿れと。明日復た說きて曰く、人皆傳ふ、李氏當に圖讖(四)に應ずべしと。故に李金才故無くして族滅せらる。大人能く賊を盡さば、則ち功高くして賞せられず、身益〻危からん。惟だ昨日の言、以て禍を救ふ可し。此れ萬全の策なり。願はくは疑ふこと勿れ。淵、歎じて曰く、吾一夕汝の言を思ふに、亦大に理有り。今日家を破り身を亡すも、亦汝に由らん。家を化して國と爲すも、亦汝に由らんと。是より先裴寂私に晉陽の宮人を以て淵に侍せしむ。淵、寂に從ひて飮す。酒酣なるとき、寂曰く、(五)二郎陰に士馬を養ひ、大事を擧げんと欲す。正に寂が宮人を以て公に侍せしむるが爲に、事覺はれ倂せ誅せられんことを恐るゝのみと。

(一) 盜賊共を驅りあつめて利用せば　(二) 御大人、お父上　(三) それ〳〵手分けして受持を定む　(四) 未來記に適合す。蓋し李氏將に興らんとすの語ありし也　(五) 次男、世民をいふ

之。煬帝以三淵相表奇異。名應二圖讖一忌レ之。淵懼。縱レ酒納レ賂以自晦。天下盜起。以レ淵爲二山西河東撫慰大使一。承レ制黜陟。討二捕羣盜一多捷。突厥寇レ邊。詔レ淵擊レ之。

淵次子世民。聰明勇決。識量過レ人。見二隋室方亂一。陰有下安二天下一之志上。與下晉陽宮監裴寂。晉陽令劉文靜上相結。文靜謂二世民一曰。今主上南巡。羣盜萬數。當二此之際一。有二眞主一驅駕而用レ之。取二天下一如レ反レ掌耳。太原百姓收拾。

淵の次子世民、聰明勇決、識量人に過ぐ。隋室の方に亂るゝを見て、陰に天下を安んずるの志有り。晉陽の宮監裴寂、晉陽の令劉文靜と相結ぶ。文靜、世民に謂ひて曰く、今主上南巡し、羣盜萬もて數ふ。此際に當り、眞主有り驅駕(一)して之を用ひば、天下を取ること掌を反すが如きのみ。太原の百姓收拾せば十萬人を得可し。尊公、將たる所の兵復た數萬あり。此を以て虛に乘じて關に入り、天下に號令(二)せば、半年を過ぎずして帝業成らん。世民笑ひて曰く、君が言正に我が意に合へりと。乃ち陰に部署(三)す。而して淵は知らず。會〻淵が兵、突厥を拒ぎて利あらず、罪を獲んことを恐る。世民、閒に乘じて淵に說く、民心に順ひて義兵を興さば、禍を轉じて福と爲さんと。淵大に驚きて曰く、汝安んか此言を爲すことを得る。吾今汝を執へて縣官に告げん。世民徐ろに曰く、世

唐高祖神堯皇帝。姓李氏。名淵。隴西成紀人也。西涼武昭王暠之後。祖虎仕西魏有功。封隴西公。父昞於周世封唐公。淵襲爵。隋煬帝以淵爲弘化留守。御衆寬簡。人多附。

卷之五

唐

高祖神堯皇帝

唐の高祖神堯皇帝、姓は李氏、名は淵。隴西成紀の人也。西涼の武昭王暠の後なり。祖の虎、西魏に仕へて功有り。隴西公に封ぜらる。父の昞、周の世に於て唐公に封ぜらる。淵、爵を襲ふ。隋の煬帝、淵を以て弘化の留守と爲す。衆を御すること寛簡(一)なり。人多く之に附く。煬帝、淵が相表奇異(二)にして、名、圖讖に應ずる(三)を以て之を忌む。淵懼れ、酒を縱にし賂を納れて以て自ら晦ます。天下盜起る。淵を以て山西・河東の撫慰大使と爲す。制を承けて黜陟(四)し、羣盜を討ち捕へて多く捷つ。突厥、邊に寇す。淵に詔して之を撃たしむ。

(一) 寛大にして簡約　(二) 人相奇異　(三) 淵の名が未來記に符合す、即ち其書に深水黄楊を沒すとあり、深水は淵にして、黄楊の楊は隋の姓也　(四) 官吏を斥け又は進む

及㆒爲㆑主。夜引㆑兵入㆑宮。縊㆓殺煬帝㆒。宗室無㆓少長㆒皆死。惟存㆓秦王浩㆒立㆑之。而自爲㆓大丞相㆒。擁㆑衆而西。梁蕭銑稱㆓帝於江陵㆒。隋帝侑。卽㆑位。半年禪㆓于唐㆒。隋自㆓高祖㆒至㆑是三世。凡三十七年而亡。

長安。時隋大業十二年。帝在江都。淵遙尊爲太上皇。而立代王。是爲恭皇帝。

恭皇帝。名侑。煬帝之孫也。年十三。爲李淵所立。改大業十三年爲義寧。淵爲大丞相。封唐王。煬帝在江都。淫虐日甚。酒巵不離口。見中原已亂。無心北歸。從駕多關中人。思歸遂謀叛。以許公宇文化

恭皇帝

恭皇帝、名は侑。煬帝の孫也。年十三、李淵の爲に立てらる。大業十三年を改めて義寧と爲す。淵、大丞相となり、唐王に封ぜらる。煬帝、江都に在りて淫虐日に甚しく、酒巵口を離れず(一)。中原已に亂るゝを見て、北に歸るに心無し(二)。駕に從ふもの關中の人多し。歸らんことを思ひて遂に謀叛し、許公宇文化及を以て主と爲し、夜兵を引きて宮に入り、煬帝を縊り殺す。宗室少長と無く、皆死す。惟り秦王浩を存して之を立て、自ら大丞相と爲り、衆を擁して西す○梁の蕭銑、帝を江陵に稱す。隋帝侑、位に卽き、半年にして唐に禪る。隋、高祖より是に至るまで三世、凡べて三十七年にして亡ぶ。

(一) さかづきを口より離さず　(二) 只江東の地を保たんと欲するのみと也

鄱陽賊帥林士弘。稱二楚帝一。據二江南一。杜伏威據二歷陽一。竇建德稱二長樂王一。馬邑校尉劉武周。朔方郎將梁師都。各據レ郡起レ兵。李密據二興洛倉一。略二取河南諸郡一。稱二魏公一。突厥立二劉武周一。爲二定陽可汗一。取二樓煩定襄雁門諸郡一。梁師都。取二雕陰弘化延安等郡一。自稱二梁帝一。金城校尉薛擧。起二兵隴西一。自稱二西秦霸王一。武威司馬李軌。起二兵河西一。自稱二涼王一。薛擧自稱二秦帝一。徙據二天水一。蕭銑起二兵巴陵一。自稱二梁王一。唐公李淵起二兵太原一。克二諸郡一。入二

○鄱陽の賊帥林士弘、楚帝と稱し、江南に據る○杜伏威、歷陽に據る○竇建德、長樂王と稱す○馬邑の校尉劉武周、朔方の郎將梁師都、各〻郡に據りて兵を起す○李密、興洛倉に據り、河南の諸軍を略取し、魏公と稱す○突厥、劉武周を立てゝ定陽可汗と爲し、樓煩・定襄・雁門の諸郡を取る○梁師都、雕陰・弘化・延安等の郡を取り、自ら梁帝と稱す○金城の校尉薛擧、兵を隴西に起し、自ら西秦霸王と稱す○武威の司馬李軌、兵を河西に起し、自ら涼王と稱す○薛擧、自ら秦帝と稱し、徙りて天水に據る○蕭銑、兵を巴陵に起し、自ら梁王と稱す○唐公李淵、兵を太原に起し、諸郡に克ちて、長安に入る。時に隋の大業十二年なり。帝、江都に在り。淵遙かに尊びて太上皇と爲し、而して代王を立つ。是を恭皇帝と爲す。

擊之。玄感自洛陽引兵趨潼關。兵敗走死。帝又如涿郡。伐高麗。高麗遣使請降。帝還長安。已而如洛陽。如汾陽。如江都。巡遊仍無虛歲。蒲山公李密兵起。密少有才略。志氣雄遠。輕財好士。嘗乘黃牛。以漢書掛牛角讀之。楚公楊素遇而奇之。由是與素子玄感游。初從玄感起兵。玄感敗。密變姓名亡匿。時人皆云。楊氏將滅。李氏將興。又有民謠。歌曰。桃李子。皇后走揚州。宛轉花園裏。勿浪語。誰道許。謂桃李子者。逃亡李氏子也。莫浪語誰道許者。密也。密遂與羣盜翟讓等起。攻滎陽下之。建牙統所部西行。說下諸城大獲。

従ひて兵を起す。玄感敗る。密、姓名を變じて亡げ匿る。時の人皆云ふ、楊氏將に滅びんとし、李氏將に興らんとすと。又民謠有り、歌ひて曰く、(三)桃李子あり、皇后揚州に走り、花園の裏に宛轉せん。浪りに語ること勿れ、誰か許く道ふと。桃李子と謂ふは、逃亡李氏の子也。浪りに語ること莫れ誰か許く道ふとは、(四)密也。密、遂に羣盜翟讓等と起り、滎陽を攻めて之を下し、(五)牙を建て、所部を統べて西行し、說きて諸城を下して大に獲たり。

(一) 兵糧を運搬する人夫　(二) 兵糧の運送を監督しながら　(三) 桃、李子は李密、皇后は共にキミの意、宛轉は遊びすさみて踊るを言ふゝ意とも解し、又溝壑にころげおちて死する義とも解す。要するに李密事を起し天子亡びんと也　(四) 謠言の意と李密とを兼ねいふ　(五) 牙旗、大將旗

死者相枕。天下騷動。百姓窮困。始相聚爲レ盜。

漳南竇建德兵起。帝所レ徵四方兵。皆集ニ涿郡ニ。一百一十三萬。餽運者倍レ之。首尾亙ニ千餘里ニ。帝至ニ遼東ニ。攻レ城不レ克。諸軍大敗而還。明年再徵レ兵。自將擊レ之。楚公楊玄感見ニ朝政日紊ニ。潛謀レ作レ亂。至レ是督ニ運黎陽ニ。遂反。帝引レ軍還。遣レ將

○漳南の竇建德の兵起る○帝徵す所の四方の兵、皆涿郡に集る。一百一十三萬、餽運する者之に倍し、首尾千餘里に亙る。帝、遼東に至り、城を攻めて克たず。諸軍大に敗れて還る。明年再び兵を徵し、自ら將として之を擊つ○楚公楊玄感、朝政の日に紊るゝを見て、潛に亂を作さんとを謀る。是に至りて黎陽に督運して遂に反す。帝、軍を引きて還り、將を遣はして之を擊つ。玄感、洛陽より、兵を引きて潼關に趨り、兵敗れて走り死す。帝又涿郡に如き、高麗を伐つ。高麗使を遣はして降を請ふ。帝長安に還る。已にして洛陽に如き、汾陽に如き、江都に如き、巡遊すること仍ほ虛歲無し○蒲山公李密の兵起る。密少きより才略有り。志氣雄遠、財を輕んじ士を好む。嘗て黃牛に乘じ、漢書を以て牛角に掛けて之を讀む。楚公楊楚遇ひて之を奇とす。是に由りて素の子玄感と游ぶ。初め玄感に

餘里。穿二三千窖一。置二興洛倉於洛陽北一。城周十里。穿二三百窖一。窖皆容二八千石一。帝或如二洛陽一。或如二江都一。或北巡至二楡林金河一。或如二五原一。巡二長城一。或巡二河右一。營造巡遊無レ虚歳一。徵二天下靈師一。至者萬餘人。徵二天下散樂一。諸蕃來朝。陳二百戲於端門一。執二絲竹一者萬八千人。終レ月而罷。費巨萬。歲以爲レ常。

諸蕃来朝す。百戲を端門(三)に陳す。絲竹を執る者萬八千人。月を終へて罷む。費巨萬。歲ごとに以て常と爲す。

㊀三千個のあなぐら　㊁毎年土木を起し遊びめぐりの備しを爲す　㊂正門

徵二高麗王一入朝。不レ至。大業七年。帝自將擊二高麗一。徵二天下兵一。會二涿郡一。勅二河南淮南江南一。造二戎車五萬乘一。供二載衣甲等一。發二河南河北民夫一、供二軍須一。江淮以南民夫。船運二黎陽及洛口諸倉米一。舳艫千里。往還常數十萬人。晝夜不レ絕。

○高麗王を徵して入朝せしむ。至らず。大業七年、帝自ら將として高麗を擊ち、天下の兵を徵して、涿郡に會せしむ。河南・淮南・江南に勅して、戎車(一)五萬乘を造り、衣甲等を供載す。河南・河北の民夫を發して、軍須(二)に供す。江淮以南の民夫は、船もて黎陽及び洛口諸倉の米を運ぶ。舳艫千里、往還常に數十萬人、晝夜絕えず。死者相枕す。天下騷動し、百姓窮困し、始めて相聚りて盜を爲す。

㊀兵車　㊁軍用

置二離宮一四十餘所。遣レ人往二江南一。造二龍舟及雜船數萬艘一。以備二遊幸之用一。西苑周二百里。其内爲レ海。周十餘里。爲二蓬萊方丈瀛州諸山一。高百餘尺。臺觀宮殿。羅二絡山上一。海北有レ渠。縈紆注レ海。緣レ渠作二十六院一。門皆臨レ渠。窮二極華麗一。宮樹凋落。翦綵爲二花葉一綴レ之。沼内亦翦綵爲二荷芰菱芡一。色渝則易二新者一。好以二月夜一。從二宮女數千騎一。遊二西苑一。作二清夜遊曲一。馬上奏レ之。

奏す。

(一)運河の名　(二)廣陵に在る水の名　(三)船首に龍首を飾れる舟　(四)ならびつらなる　(五)うねりくねりて　(六)造り花にして　(七)荷ははす、芰菱はひし、芡は鷄頭の類といふ

後又開二永濟渠一。引二沁水一。南達二于河一。北通二涿郡一。又營二汾陽宮一。又穿二江南河一。自二京口一至二餘杭一八百里。置二洛口倉於鞏東南原上一。城周二十

○後又永濟渠を開き、沁水を引きて、南は河に達し、北は涿郡に通ず。又汾陽宮を營む。又江南の河を穿つ。京口より餘杭に至るまで八百里○洛口倉を鞏の東南の原上に置く。城の周二十餘里、三千窖を穿つ。興洛倉を洛陽の北に置く。城の周十里、三百窖を穿つ。窖皆八千石を容る。帝或は洛陽に如き、或は江都に如き、或は北巡して楡林・金河に至り、或は五原に如き、長城を巡り、或は河右を巡り、營造巡遊虛歲なし。天下の鷹師を徵す。至る者萬餘人。天下の散樂を徵す。

煬皇帝。名廣。開皇末立爲二太子一。是日天下地震。卽レ位。首營二洛陽顯仁宮一。發二江嶺奇材異石一。又求二海内嘉木異草。珍禽奇獸一。以實二苑囿一。又開二通濟渠一。自二長安西苑一。引二穀洛水一。達二于河一。引レ河入レ汴。引レ汴入レ泗。以達二于淮一。又發レ民開二邗溝一入レ江。旁築二御道一。樹以レ柳。自二長安一至二江都一。

煬皇帝、名は廣。開皇の末立ちて太子と爲る。是日天下地震す。位に卽き、首に洛陽の顯仁宮を營み、江嶺の奇材、異石を發す。又海内の嘉木、異草、珍禽、奇獸を求めて、以て苑囿に實つ。又濟渠を開通し、長安の西苑より穀・洛の水を引きて河に達し、河を引きて汴に入れ、汴を引きて泗に入れ、以て淮に達す。又民を發して邗溝を開いて江に入れ、旁ら御道を築き、植うるに柳を以てし、長安より江都に至る。離宮を置くこと四十餘所。人を遣して江南に往きて、龍舟及び雜船數萬艘を造らしめて、以て遊幸の用に備ふ。西苑の周二百里。其内海を爲る。周十餘里。蓬萊・方丈・瀛州の諸山を爲る。高さ百餘尺。臺觀宮殿、山上に羅絡す。海の北に渠有り、縈紆して海に注ぐ。渠に緣りて十六院を作る。門皆渠に臨み、華麗を窮極す。宮樹凋落すれば、翦綵して花葉を爲りて之を綴る。沼内も亦翦綵して荷芰菱芡を爲り、色渝れば則ち新らしき者に易ふ。好みて月夜を以て、宮女數千騎を從へて、西苑に遊び、清夜遊の曲を作りて、馬上に之を

夫人。出更衣。爲ニ太子一所レ逼。拒レ之得レ免。帝怪ニ其神色有一レ異。問レ故。夫人泫然曰。太子無禮。帝恚抵レ床曰。畜生何足レ付ニ大事一。獨孤誤レ我。將レ召ニ故太子勇一。廣聞レ之。令ニ右庶子張衡入侍一レ疾。因弑レ帝。遣レ人縊ニ殺勇一。帝性嚴重。勤ニ於政事一。令行禁止。雖レ嗇ニ於財一。賞レ功不レ吝。愛ニ養百姓一。勸ニ課農桑一。輕レ傜薄レ賦。自奉儉薄。天下化レ之。受レ禪之初。民戸不レ滿ニ四百萬一。末年踰ニ八百萬一。然自以ニ詐力一得ニ天下一。猜忌苛察。信ニ受讒言一。功臣故舊。無ニ終始保全者一。在位二十四年。改元者二。曰ニ開皇。仁壽一。太子立。是爲ニ煬皇帝一。

百姓を愛養し、農桑を勸課し、(五)傜を輕くし賦を薄くし、自ら奉ずること儉薄なり。天下之に化す。禪を受けし初め、民戸四百萬に滿たざりしが、末年八百萬を踰えき。然れども自ら詐力を以て天下を得たれば、(六)猜忌苛察、讒言を信受す。功臣故舊、終始保全の者無し。在位二十四年。改元する者二。開皇・仁壽と曰ふ。太子立つ。是を煬皇帝と爲す。

㊀疾病　㊁帝の崩後の後の事を準備す　㊂涙を流す貌　㊃馬牛犬豕の如きものと罵る也。正漢音は「キクセイ」、姑く通俗的に傍訓す　㊄夫役を輕くし課税を薄くし　㊅疑ひ深くして、細かく氣を廻す。

煬皇帝

遂移二周祚一。即レ位九年。幷レ陳。天下爲レ一。開皇二十年。廢二太子勇一。爲二庶人一。初帝使三勇參二決政事一。時有二損益一。勇性寬厚。率意無二矯飾一。帝性節儉。勇服用侈。恩寵始衰。勇多二內寵一。妃無レ寵死。而多二庶子一。獨孤皇后深惡レ之。晉王廣彌自矯飾。爲二奪レ嫡計一。后贊レ帝廢レ勇。而立レ廣爲二太子一。

龍門王通詣レ闕。獻二太平十二策一。帝不レ能レ用。罷歸。敎二授於河汾之間一。弟子自レ遠至者甚衆。仁壽四年。帝不豫。召二太子一入居二殿中一。太子預擬二帝不諱後事一。爲レ書問二僕射楊素一。得レ報。宮人誤送二帝所一。帝覽レ之大恚。帝所レ寵陳

○龍門の王通、闕に詣り、太平の十二策を獻ず。帝用ふること能はず。罷め歸りて、河汾の間に敎授す。弟子遠きより至る者甚だ衆し○仁壽四年帝不豫なり。太子を召し入りて殿中に居らしむ。太子預め帝の不諱後の事を擬し、書を爲りて僕射楊素に問ふ。報を得たり。宮人誤りて帝の所に送る。帝之を覽て大に恚る。帝が寵する所の陳夫人、出でゝ更衣し、太子の爲に逼られ、之を拒ぎて免るゝことを得たり。帝其神色に異有るを怪み、故を問ふ。夫人泫然として曰く、太子無禮なりと。帝恚りて床を抵ちて曰く、畜生何ぞ大事を付するに足らん。獨孤我を誤ると。將に故の太子勇を召さんとす。廣之を聞き、右庶子張衡をして入りて疾に侍せしめ、因りて帝を弑し、人を遣はして勇を縊り殺す。帝、性嚴重、政事に勤む。令行はれ禁止む。財に嗇なりと雖も、功を賞して吝ます。

公。堅襲レ爵。堅生而有レ異。宅旁有二尼寺一。一尼抱歸自鞠レ之。一日尼出。付二其母一自抱。角出鱗起。母大驚。墮二之地一。尼心動。亟還見レ之曰。驚二我兒一。致レ令三晩得二天下一。及レ長相表奇異。周人嘗告二武帝一。普六茹堅有二反相一。堅聞レ之。深自晦匿。女爲二周宣帝后一。周靜帝立。堅以二太后父一秉レ政。

心動き、亟かに還りて之を見て曰く、我が兒を驚かし、晩く天下を得しむるを致せりと。長ずるに及びて、(三)表相奇異なり。周人嘗て武帝に告ぐ、普六茹堅、反相有りと。堅之を聞きて、深く自ら晦まし匿す。女、周の宣帝の后と爲る。周靜の帝立つ。堅、太后の父を以て政を秉り、遂に周の祚を移す。位に卽きて九年、陳を平げ、天下一と爲る。開皇二十年、太子勇を廢して、庶人と爲す。初め帝、勇をして政事を參決せしむ。時に損益有り。勇、性寛厚、(四)率意にして矯飾無し。帝、性節倹なり。勇の服用侈れり。恩寵始めて衰ふ。勇、内寵多し。妃、寵無くして死す。而して庶子多し。(五)獨孤皇后深く之を惡む。晉の王廣、彌〻自ら矯飾し、嫡を奪ふの計を爲す。后、帝を贊けて勇を廢し、廣を立てゝ太子と爲す。

(一) 養育す (二) 龍の如き姿となりたる也 (三) 人相 (四) むき出しにて飾り氣なし (五) 皇后獨孤氏

渡。臣毎患二官卑一。虜若渡レ江。定作二太尉公一矣。陳主以爲レ然。奏レ伎縱レ酒賦レ詩不レ輟。賀若弼自二廣陵一渡レ江。韓擒虎自二橫江一宵濟二采石一。守者皆醉。擒虎遂自二新林一進直入二朱雀門一。陳主自投二景陽井中一。軍人窺レ井。將レ下レ石。乃叫。以レ繩引レ之。與二張麗華孔貴嬪一同レ束而上。俘以歸。後主在位七年。改元者二。曰二至德一。曰二禎明一。陳自二高祖武帝一至レ是五世。凡二十二年而亡。

陳、高祖武帝より是に至りて五世、凡べて二十二年にて亡ぶ。

㈠むかし郭璞の謝りし數に滿たんとす　㈡天然の溝壍（ホリ）　㈢捕虜

隋高祖文皇帝。姓楊氏。名堅。弘農人也。相傳爲二東漢太尉震之後一。父忠仕二魏及周一。以レ功封二隋

隋

高祖文皇帝

隋の高祖文皇帝、姓は楊氏、名は堅。弘農の人也。相傳へて東漢の太尉震の後と爲す。父忠、魏及び周に仕へ、功を以て隋公に封ぜらる。堅、爵を襲ぐ。堅生れて異有り。宅の旁に尼寺有り。一尼抱き歸りて自ら之を鞠す。㈡一日尼出づ。其母に付して自ら抱かしむ。角出で、鱗起る。㈢母大に驚き、之を地に墮す。尼

江陵。臣於西魏周隋。所統數郡而已。凡三十三年而亡。

隋以晉王廣。爲元帥。帥師伐陳。楊素。韓擒虎。賀若弼分道而出。高熲爲元帥長史。問薛道衡。江東可克乎。對曰。克之。郭璞言。江東分王三百年。與中國合。此數將周。陳主聞有隋兵。謂近臣曰。王氣在此。彼何爲者。孔範曰。長江天塹。豈能飛

○隋、晉王廣を以て元帥と爲し、師を帥ゐて陳を伐たしむ。楊素・韓擒虎・賀若弼、道を分ちて出づ。高熲、元帥の長史たり。薛道衡に問ふ、江東克つ可きか。對へて曰く、之に克たん。郭璞の言に、江東分れて王たるヿ三百年にして中國と合せんと。(一)此數將に周からんとすと。陳主、隋の兵有りと聞き、近臣に謂ひて曰く、王氣此に在り。彼何爲る者ぞ。孔範曰く、長江は天塹なり(二)。豈能く飛び渡らんや。臣毎に官の卑きを患ふ。虜若し江を渡らば、定らず太尉公と作らんと。陳主、以て然りと爲す。伎を奏し酒を縱にし詩を賦するヿ輟まず。賀若弼、廣漢より江を渡り、韓擒虎、横江より宵采石を濟る。守者皆醉ふ。擒虎遂に新林より進み、直に朱雀門に入る。陳主自ら景陽の井中に投ず。軍人井を窺ひ、將に石を下さんとす。乃ち叫ぶ。繩を以て之を引き、張麗華・孔貴嬪と同じく束ねて上げ(三)、俘へて以て歸る。後主在位七年。改元する者二。至德と曰ひ、禎明と曰ふ。

爲二之飾一。珠簾寶帳。服玩瑰麗。近古未レ有。其下積レ石爲レ山。引レ水爲レ池。雜二植花卉一。陳主居二臨春閣一。貴妃張麗華居二結綺一。龔孔二貴嬪居二望仙一。複道往來。江總爲二宰輔一。不レ親二政事一。日與二孔範等文士一侍二宴後庭一。謂二之狎客一。使二諸貴嬪與レ客唱和一。其曲有二玉樹後庭花等一。君臣酣歌。自レ夕達レ旦。宦官近習。內外連結。宗戚縱橫。貨賂公行。孔範與二貴嬪一結爲二兄弟一。範自謂。文武才能擧朝莫レ及。將帥微有二過失一。卽奪二兵權一。由レ是文武解體。以至二覆滅一。

範等の文士と後庭に侍宴す。之を狎客と謂ふ。諸貴嬪をして客と唱和せしむ。其曲に玉樹・後庭花等有り。君臣酣歌（四）して、夕より旦に達す。宦官近習、內外連結し、宗戚（五）縱橫し、貨賂（六）公行す。孔範、貴嬪と結びて兄弟と爲る。範自ら謂へらく、文武の才能擧朝（七）及ぶもの莫しと。將帥微しく過失有れば、卽ち兵權を奪ふ。是に由り文武解體（八）して、以て覆滅するに至る。

（一）宦官　（二）衣服や器具、珍麗は珍しくうるはしきこと　（三）狎れ親しむ客の意　（四）酒に醉ひ、うたを歌ふ　（五）親戚の人々わがまゝに振舞ふ　（六）賄賂公然と行はる　（七）朝廷を擧りて　（八）文官武官共に君主に離れそむき

後梁主巋殂。太子琮立。隋主廢而滅レ之。自三巋稱二帝於

○後梁の主巋、殂す。太子琮立つ。隋主廢して之を滅す。巋が帝を江陵に稱せしより、西魏・周・隋に臣たり。統ぶる所數郡のみ。凡べて三十三年にて亡びたり。

人。立未二一年一。傳二位於子闓一。自稱二天元皇帝一。驕侈彌甚。未二一年一而殂。諡曰二宣皇帝一。楊堅自爲二大丞相一。進二相國隋王一。加二九錫一。未レ幾。周主闡禪二位于隋一。尋被レ弑。隋主盡滅二宇文氏之族一。周自レ稱レ帝。至レ是五世。二十五年而亡。陳主在位十四年。改元者一。曰二太建一。殂。太子立。是爲二後主長城煬公一。

改元する者一。太建と曰ふ。殂す。太子立つ。是を後主長城煬公と爲す。

㈠親しみ近づく

後主長城煬公。名叔寶。自レ爲二太子一。與二詹事江總一。爲二長夜之飲一。即レ位未レ幾。起二臨春。結綺。望仙閣一。各高數十丈。連延數十閒。皆以二沈檀一爲レ之。金玉珠翠

後主長城煬公

後主長城煬公、名は叔寶。太子たりしより、詹事江總と、長夜の飲を爲す。位に卽きて未だ幾くならず、臨春・結綺・望仙閣を起す。各〻高さ數十丈、連延數十閒、皆沈檀を以て之を爲り、金玉珠翠を之が飾と爲し、珠簾寶帳、服玩瑰麗、近古未だ有らず。其下石を積みて山と爲し、水を引きて池と爲し、花卉を雜へ植う。陳主は臨春閣に居り、貴妃張麗華は結綺に居り、龔・孔の二貴嬪は望仙に居りて、複道より往來す。江總、宰輔と爲りて、政事を親らせず、日に孔

送ㇾ項遷ㇾ陳。至ㇾ是即位。周主邕誅二宇文護一。始親ㇾ政。北齊後主緯。多二嬖寵一。政亂。周伐ㇾ齊入ㇾ鄴。執ㇾ緯。歸殺ㇾ之。夷二其族一。北齊建ㇾ國五世。三十年而亡。

主緯、嬖寵多く、政亂る。周、齊を伐ちて鄴に入り、緯を執へ、歸りて之を殺し、其族を夷す。(二)北齊、國を建てしより五世、三十年にして亡ぶ。

(二) 一族を殘らずほろぼす

周主邕。深沈有二遠識一。政事嚴明。稱爲二賢主一。滅ㇾ齊一年而殂。壽三十六。諡曰二武皇帝一。太子贇立。立二皇后楊氏一。后父隋公楊堅用ㇾ事。爲二上柱國大司馬一。贇自下爲二太子一時上。好昵二近小

〇周主邕、深沈にして遠識有り。政事嚴明なり。稱して賢主と爲す。齊を滅してより一年にして殂す。壽三十六。諡して武皇帝と曰ふ。太子贇立つ。皇后楊氏を立つ。后の父隋公楊堅事を用ひ、上柱國大司馬と爲る。贇、太子たりし時より、好んで小人を昵近す。立ちて未だ一年ならざるに、位を子闡に傳へ、自ら天元皇帝と稱す。驕侈彌〻甚し。(二)未だ一年ならずして殂す。諡して宣皇帝と曰ふ。楊堅自ら大丞相と爲り、相國隋王に進み、九錫を加ふ。未だ幾ならず、周主闡、位を隋に禪り、尋ぎて弑せらる。隋主盡く宇文氏の族を滅す。周、帝と稱せしより、是に至るまで五世、二十五年にして亡ぶ〇陳主、在位十四年。

自立。尋弑殷。演立一年而殂。諡曰孝昭皇帝。母弟長廣王湛。又廢演子百年而自立。後殺百年。後梁主詧殂。太子巋立。北齊主湛傳位於太子緯。自稱太上皇帝。陳主起自艱難。知民疾苦。性明察儉勤。在位八年殂。改元者二。曰天嘉。曰天康。太子立。是爲廢帝臨海王。

廢帝臨海王。名伯宗。在位三年。改元者一。曰光大。爲安成王頊所廢。北齊上皇湛殂。諡曰武成皇帝。陳安成王自立。是爲高宗宣皇帝。

廢帝臨海王

廢帝臨海王、名は伯宗。在位三年。改元する者一。光大と曰ふ。安成王頊の爲に廢せらる○北齊の上皇湛、殂す。諡して武成皇帝と曰ふ○陳の安成王自立す。是を高宗宣皇帝と爲す。

宣皇帝。名頊。初陷入長安。文帝時。周人

宣皇帝

宣皇帝、名は頊。初め長安を陷入す。文帝の時、周人頊を送りて陳に還す。是に至りて即位す○周主邕、宇文護を誅して、始めて政を親らす○北齊の後

文皇帝。名蒨。武帝之兄子也。在下武帝平二梁亂一時上。已有レ功。至レ是卽レ位。周王毓稱レ帝。北齊主洋。盡滅二元氏之族一。洋殂。諡曰二文宣皇帝一。周宇文護僤三周帝明敏有二識量一。進レ毒弑レ之。諡曰二明皇帝一。毓弟邕立。北齊文宣帝之母弟常山王演。廢二其主殷一而

文皇帝

文皇帝、名は蒨。武帝の兄の子也。武帝が梁の亂を平げし時に在りて、已に功有り。是に至りて位に卽く○周王毓、帝と稱す○北齊の主洋、盡く元氏の族を滅す。洋、殂す。諡して文宣皇帝と曰ふ○周の宇文護、周帝の明敏にして識量有るを憚り、毒を進めて之を弑す。諡して明皇帝と曰ふ。毓の弟邕立つ○北齊の文宣帝の母弟常山王演、其主殷を廢して自立す。尋いで殷を弑す。演立ちて一年にして殂す。諡して孝昭皇帝と曰ふ。母弟長廣王湛、又演の子百年を廢して自立す。後百年を殺す○後梁の主詧、殂す。太子巋立つ○北齊の主湛、位を太子緯に傳へ、自ら太上皇帝と稱す○陳主、艱難より起りて、民の疾苦を知る。性明察にして儉勤なり。在元八年にして殂す。改元する者二。天嘉と曰ひ、天康と曰ふ。太子立つ。是を廢帝臨海王と爲す。

陳高祖武皇帝。姓陳。名霸先。呉興人也。梁武帝大同中。爲二廣州參軍一。廣有レ亂。討平レ之。以レ功爲二將軍一。尋爲二交州司馬。西江都護。高陽太守一。督二七郡諸軍一。屢平二寇亂一。侯景陷二臺城一。霸先時守二始興一。結二郡中豪傑一。起レ兵討レ景。先取二江州一。爲二州刺史一。引レ兵會二諸軍一。卒以平レ景。遂爲レ將二相於梁一。以至レ受レ禪。卽レ位三年殂。改元者一。曰二永定一。子二人。昌項皆以二江陵陷時一。沒二入長安一。臨川王立。是爲二世祖文皇帝一。

陳の高祖武皇帝、姓は陳、名は霸先。呉興の人也。梁の武帝の大同中、廣州の參軍と爲る。廣に亂有り。討ちて之を平ぐ。功を以て將軍と爲る。尋ぎて交州の司馬・西江の都護・高陽の太守と爲り、七郡の諸軍を督し、屢〻寇亂を平ぐ。侯景、臺城を陷る。霸先時に始興に守たり。郡中の豪傑と結び、兵を起して景を討ち、先づ江州を取りて、州の刺史と爲り、兵を引きて諸軍を會し、卒に以て景を平げ、遂に梁に將相と爲りて、以て禪を受くるに至る。位に卽きて三年にして殂す。改元する者一。永定と曰ふ。子二人あり。昌・項といふ。皆江陵陷りし時を以て長安に沒入す(一)。臨川王立つ。是を世祖文皇帝と爲す。

一 流れ込む

陳覇先爲丞相。西魏太師大冢宰安定公宇文泰卒。世子覺嗣。年十五。宇文護輔之。未幾。以覺爲周公。西魏主廓。禪于周。廓遇弑。後謚曰恭皇帝。西魏建國四世。二十四年而亡。覺稱周天王。性剛果。惡護之專。護弑之。後謚曰孝閔皇帝。立泰之長子毓。梁丞相陳覇先。爲相國。封陳公。加九錫。尋進爵爲王。梁主改元者二。曰紹泰。曰太平。尸位未三年。而禪于陳。尋遇弑。梁自高祖武帝至是四世。凡五十六年而亡。

輔く。未だ幾くならざるに覺を以て周公と爲す○西魏の主廓、周に禪る。廓、弑に遇ふ。後謚して恭皇帝と曰ふ。西魏、建國四世、二十四年にして亡ぶ。覺、周天王と稱す。性剛果なり。護の專を惡む。護之を弑す。後謚して孝閔皇帝と曰ふ。泰の長子毓を立つ○梁の丞相陳覇先相國と爲り、陳公に封ぜられ、九錫を加へらる。尋ぎて爵を進めて王と爲る。梁主、改元する者二。紹泰と曰ひ、太平と曰ふ。尸位未だ三年ならずして陳に禪り、尋ぎて弑に遇ふ。梁、高祖武帝より是に至りて四世。凡べて五十六年にして亡ぶ。

陳

高祖武皇帝

道今夜盡矣。乃出降。或問。何意焚レ書。曰。讀レ書萬卷。猶有二今日一。尋被レ殺。在位三年。改元者一。曰二承聖一。

西魏取二襄陽一。徙二梁王詧于江陵一。使レ稱レ帝。屯レ兵守レ之。是爲二後梁一。臣二于西魏一。王僧辯陳霸先。奉二晉安王一。稱二制于建康一。貞陽侯淵明。先レ是爲二北齊一所レ獲。至レ是以レ兵納レ之。王僧辯奉歸二建康一。稱レ帝。陳霸先殺二僧辯一。廢二淵明一。立二晉安王一。是爲二敬皇帝一。

○西魏、襄陽を取り、梁王詧を江陵に徙して、帝と稱せしめ、兵を屯して之を守る。是を後梁と爲す。西魏に臣たり。王僧辯・陳霸先、晉安王を奉じて、制を建康に稱せしむ。貞陽侯淵明、是より先北齊の爲に獲らる。是に至りて兵を以て之を納る。王僧辯奉じて建康に歸り、帝と稱せしむ。陳霸先、僧辯を殺し、淵明を廢して、晉安王を立つ。是を敬皇帝と爲す。

敬皇帝

敬皇帝。名方智。元帝子也。年十三卽レ位。

敬皇帝、名は方智。元帝の子也。年十三にして位に卽く。陳霸先丞相と爲る

○西魏の太師大冢宰安定公宇文泰卒す。世子覺嗣ぐ。年十五なり。宇文護之を

元皇帝。名繹。一目眇。性殘忍。卽二位于江陵一。自二侯景之亂一。州郡大半入二西魏一。蜀亦爲二魏有一。梁自二巴陵一以下至二建康一。以二長江一爲レ限。突厥攻二柔然一。北齊擊二突厥一。遷二柔然一。是時柔然衰。突厥始强大。

元皇帝、名は繹。一目眇(一)にして、性殘忍なり。江陵に卽位す。侯景の亂より、州郡大半西魏に入り、蜀も亦魏の有と爲る。梁は巴陵より以下建康に至り、長江を以て限と爲す○突厥、柔然を攻む。北齊、突厥を擊ちて柔然を遷す。是時柔然衰へ、突厥始めて强大なり。

(一) 一方の目小きをいふ

西魏宇文泰。廢二其主欽一。而立二其弟廓一。欽遇レ弑。西魏遣二柱國于謹一。伐レ梁入二江陵一。梁主焚二古今圖書十四萬卷一。歎曰。文武之

○西魏の宇文泰、其主欽を廢して、其弟廓を立つ。欽弑に遇ふ○西魏、柱國の于謹を遣はし、梁を伐ちて江陵に入る。梁主古今の圖書十四萬卷を燒き、歎じて曰く、文武の道今夜盡きぬと。乃ち出で降る。或ひと問ふ、何の意にて書を焚きしぞと。曰く、書を讀むこと萬卷なれど、猶ほ今日有りと。尋ぎて殺さる。在位三年、改元する者一、承聖と曰ふ。

孝靜皇帝。東魏建國一十七年而亡。西魏立二梁蕭詧一爲二梁王一。西魏主寶炬殂。諡曰二文皇帝一。太子欽立。

元皇帝

侯景自立爲二漢王一。廢二梁主一弑レ之。尸位不レ及二三年一。改元者一。曰二大寶一。景立二豫章王棟一。已而簒レ位。先レ是始興太守陳霸先。起レ兵討レ景。湘東王遣二王僧辯一討レ景。景簒數月。而爲二僧辯霸先一所レ敗。亡走レ呉。欲レ入レ海。爲二其下一所レ斬。送二尸建康一。傳二首江陵一。截二其手足一。送二於北齊一。湘東王立。是爲二元皇帝一。

○侯景自立して漢王と爲り、梁主を廢して之を弑す。尸位三年に及ばず。改元する者一。大寶と曰ふ。景、豫章王棟を立て、已にして位を簒ふ。是より先始興の太守陳霸先、兵を起して景を討ち、湘東王、王僧辯を遣はして景を討たしむ。景、簒ひて數月にして、僧辯・霸先の爲に敗られ、亡げて呉に走り、海に入らんと欲し、其下の爲に斬らる。尸を建康に送る。首を江陵に傳へ、其手足を截りて、北齊に送る。湘東王立つ。是を元皇帝と爲す。

(一) 位に居るのみにて其事を爲さゞること

簡文皇帝。名綱。在二東宮一二十八年。而後遇二侯景之亂一。既立。受二制於景一而已。湘東王繹鎭二江陵一。自稱二假黃鉞大都督中外諸軍承制一。岳陽王詧。昭明太子統之第三子也。鎭二襄陽一。與レ繹相攻。詧遣レ使降二于西魏一。以來レ援。

簡文皇帝、名は綱。東宮に在ること十八年にして、後侯景の亂に遇ふ。既に立ちて、制を景に受くるのみ(一)。湘東王繹、江陵に鎭し、自ら假黃鉞大都督中外諸軍承制と稱す。岳陽王詧は、昭明太子統の第三子也。襄陽に鎭し、繹と相攻む。詧、使を遣はして西魏に降り、以て援を求む。

(一) 景の制御を受くるのみ

東魏大將軍渤海王澄。先レ是爲二其下一所レ殺。弟洋爲二丞相一。封二齊王一。逼二東魏主一禪レ位。尋弑レ之。謚曰二

○東魏の大將軍渤海王澄、是より先其下の爲に殺さる。弟洋、丞相と爲り、齊王に封ぜらる。東魏の主に逼りて位を禪らしめ、尋ぎて之を弑す。謚して孝靜皇帝と曰ふ。東魏、建國一十七年にして亡ぶ○西魏、梁の蕭詧を立てゝ梁王と爲す○西魏の主寶炬、殂す。謚して文皇帝と曰ふ。太子欽立つ。

下。了無怖心。今見蕭公。使人自慴。豈非天威難犯。吾不可以復見此人。梁主爲景所制。飲膳亦被裁損。憂憤成疾。口苦索蜜不得。再曰荷荷。遂殂。在位四十八年。改元者七。曰天監。普通。大通。中大通。大同。中大同。太清。壽八十六。先是太子統。仁明孝儉好學有文。在東宮三十年而終。梁主舍嫡孫而立別子。至是即位。是爲太宗簡文皇帝。

蜜を索むれども得ず。再び荷荷と曰ひて遂に殂す。在位四十八年。改元する者七。天監・普通・大通・中大通・大同・中大同・太清と曰ひ、壽八十六。是より先太子統、仁明孝儉、學を好み文有り。東宮に在ること三十年にして終る。梁主、嫡孫を舍きて別子を立つ。是に至りて即位す。是を太宗簡文皇帝と爲す。

(一) 天より授かりし威光の犯し難き所あるならん　(二) 飲食迄も制限せらる　(三) 病氣の爲めに食物の味苦く感ず　(四) 怒りのゝしる聲。一説に喉かわきて苦しみ發する聲なり

簡文皇帝

國家如㆔金甌無㆓一傷缺㆒。恐納㆑景因以生㆑事。惟朱异力勸㆑納㆑之。東魏遣㆓慕容紹宗擊㆒㆑景。景收南走。襲㆓梁壽春㆒。據㆑之請㆑命。梁就以爲㆓南豫州牧㆒。既而東魏求㆓成於梁㆒。意欲㆑得㆑景。景恨㆔梁通㆓東魏㆒。遂反㆓於壽陽㆒。引㆑兵南渡。圍㆓建康㆒。梁主自㆑即㆑位以來。江左久無事。惟崇㆓佛法㆒。屢捨㆓身佛寺㆒。上下化㆑之。及㆓景逼㆒臺城。援兵至者爲㆑景所㆑敗。梁主遣㆓人與㆑景盟㆒。以爲㆓大丞相㆒。臺城受㆑圍五月而陷。

(一) 熒惑星が南斗星の居る場所に入る　(二) 災難よけの祈禱を爲す　(三) 吾が身の上かと思ひしに、さてはえびすの王の身の上にも天象は應ずるか、さりとは知らず祈りたるは恥しき次第也との意　(四) はびこること　(五) 制御し得ず　(六) 黃金のかめの、少しもきずなきが如し　(七) 和睦　(八) 三度同泰寺に幸し法衣を著し還宮をも忘れしと

景入見。引就㆓三公位㆒。梁主神色不㆑變。謂㆑景曰。卿在㆓軍中㆒久。毋㆓乃爲㆑勞。景不㆓敢仰視㆒。流㆑汗不㆑能㆑對。景退謂㆑人曰。吾常跨㆑鞍對㆑陣。矢石交

景入り見ゆ。引きて三公の位に就かしむ。梁主神色變ぜずして、景に謂ひて曰く、卿軍中に在ること久し。乃ち勞を爲すこと毋からんやと。景敢て仰ぎ視ず、汗を流して對ふること能はず。景退きて人に謂ひて曰く、吾常に鞍に跨り陣に對し、矢石交〻下れども、了に怖るゝ心無し。今蕭公を見るに、人をして自ら慴れしむ。(一)豈天威犯し難きに非ざらんや。吾以て復た此人を見る可からずと。梁主、景の爲に制せられ、(二)飮膳も亦裁損せらる。憂憤して疾を成す。(三)口苦し、

謚曰二孝武皇帝一。孝武既遇レ弑。泰立二南陽王寶炬一。歡與レ泰連年相攻戰。互有二勝負一。歡卒。遺言囑二其子澄一曰。侯景有二飛揚跋扈之志一。非三汝所二能御一。堪レ敵レ景者。惟慕容紹宗。景果以二河南一降二西魏一。未レ幾復附二于梁一。梁封レ景爲二河南王一。景使至レ梁。梁羣臣皆不レ欲レ納。梁主亦自謂。我

未だ幾くならざるに復た梁に附く。梁、景を封じて河南王と爲す。景の使梁に至る。梁の羣臣皆納るゝことを欲せず。梁主も亦自ら謂ふ、我が國家は金(六)甌の一傷缺無きが如し。恐らくは景を納るれば因りて以て事を生ぜんと。惟だ朱异のみ力め勸めて之を納れしむ。東魏、慕容紹宗をして景を撃たしむ。景敗れて南に走り、梁の壽春を襲ひて、之に據りて命を請ふ。梁、就きて以て南豫州の牧と爲す。既にして東魏成(七)を梁に求む。意、景を得んと欲す。景、梁の東魏に通ぜしを恨む。遂に壽陽に反し、兵を引きて南に渡り、建康を圍む。梁主位に卽きしより以來、江左久しく無事なり。惟だ佛法を崇び、屢〻身を佛寺に捨(八)つ。上下之に化す。景の臺城に逼るに及び、援兵の至る者、景の爲に敗らる。梁主人をして景と盟はしめ、以て大丞相と爲す。臺城圍を受くること五月にして陷る。

魏主奔二長安一。依二關西大都督宇文泰一。以泰爲二大丞相一。歡追二魏主一。不レ及。遂立二淸河王世子善見於洛陽一。還二于鄴一。魏自二道武一至レ是十二世。一百四十九年。而分爲二東魏西魏一。

世子善見を洛陽に立て、鄴に還る。魏、道武より是に至るまで十二世、一百四十九年にして、分れて東魏・西魏と爲る。

(一) 魏主を引留めんと追ひ掛けしも追ひ附かず

先レ是熒惑入二南斗一。梁主曰。熒惑入二南斗一。天子下レ殿走。乃跣下レ殿禳レ之。及レ聞二脩出奔一。慙曰。虜亦應二天象一邪。脩至二長安一。踰二半年一又與レ泰有レ隙。泰鴆レ之。後

○是より先、熒惑、南斗に入る。梁主曰く、熒惑、南斗に入れば、天子、殿を下りて走ると。乃ち跣して殿を下りて之を禳ふ。脩の出で奔りしことを聞くに及び、慙ぢて曰く、虜も亦天象に應ずるかと。脩、長安に至り、半年を踰えて又泰と隙有り。泰之を鴆す。後諡して孝武皇帝と曰ふ○孝武既に弑に遇ふ。泰、南陽王寶炬を立つ。歡、泰と連年相攻戰す。互に勝負有り。歡卒す。遺言して其子澄に囑して曰く、侯景は飛揚跋扈の志有り。汝が能く御する所に非ず。景に敵するに堪ふる者は、惟だ慕容紹宗のみと。景、果して河南を以て西魏に降り、

文之姪長樂王子攸。沈二胡后于河。封二榮太原王一。還二晉陽一。北海王顥奔レ梁。梁立レ之。遣三將送入二洛陽一。子攸出奔。爾朱榮渡レ河來救。顥走死。子攸歸。加二榮天柱大將軍一。榮蓄二不臣之志一。魏主陰謀レ誅レ榮。榮入。手刺レ之。爾朱世隆與二爾朱兆一。立二宗室長廣王曄一。入二洛陽一。子攸遇レ弑。後孝曰二諡莊皇帝一。世隆又以二曄疏遠一廢レ之。立二孝文之姪廣陵王恭一。高歡起レ兵誅二爾朱氏一。入二洛陽一。廢レ恭而立二孝文之孫平陽王脩一。脩弑レ恭。後諡曰二節閔皇帝一。

主陰に榮を誅せんと謀る。榮、入る。手から之を刺す。(三)爾朱世隆、爾朱兆と、宗室の長廣王曄を立て、洛陽に入る。子攸弑に遇ふ。後諡して孝莊皇帝と曰ふ。世隆又曄の(四)疏遠なるを以て之を廢し、孝文の姪廣陵王恭を立つ。高歡兵を起して爾朱氏を誅し、洛陽に入り、恭を廢して孝文の孫平陽王脩を立つ。脩、恭を弑す。後諡して節閔皇帝と曰ふ。

(一) 毒殺　(二) 反逆の志あり　(三) 魏主手づから榮を刺す　(四) 親族としての緣遠し

高歡爲二大丞相一。建二府於晉陽一。居レ之。魏主畏レ歡。謀レ伐二晉陽一。歡擁レ兵來。

高歡、大丞相と爲り、府を晉陽に建て之に居る。魏主、歡を畏れ、晉陽を伐たんと謀る。歡、兵を擁して來る。魏主、長安に奔りて、關西の大都督宇文泰に依る。泰を以て大丞相と爲す。歡、(一)魏主を追ひしも及ばず。遂に淸河王の

魏胡太后臨朝以來。嬖倖用事。政事縱弛。盜賊蠭起。封疆日蹙。魏主詡寖長。太后自知所爲不謹。務爲壅蔽。母子嫌隙日深。

魏の胡太后の朝に臨みて以來、嬖倖事を用ひ、(一)政事縱弛し、(二)盜賊蠭起して、封疆日に蹙まる。(三)魏主詡、寖く長じ、太后自ら、爲す所の不謹なるを知り、務めて壅蔽を爲し、(四)母子の嫌隙日に深し。(五)

(一)氣に入りの臣が政を專にし　(二)ゆるみて不取締になる　(三)領分が日々せまくなる　(四)ふさぎおほひて實情の分らぬやうにす　(五)互に相疑ひ仲あしくなること

時六州大都督秀容酋長爾朱榮兵強。高歡見榮。即勸擧兵淸帝側。會魏主殂。胡太后鴆之也。後諡曰孝明皇帝。爾朱榮擧兵。立孝

時に六州の大都督秀容の酋長爾朱榮、兵強し。高歡、榮を見て、即ち兵を擧げて帝側を淸めんことを勸む。會ゝ魏主、殂す。胡太后之を鴆せし也。後諡して孝明皇帝と曰ふ。爾朱榮、兵を擧げて、孝文の姪(一)長樂王子攸を立て、胡后を河に沈む。榮を太原王に封ず。晉陽に還る。北海王顥、梁に奔る。梁之を立て、將をして送りて洛陽に入らしむ。子攸出で奔る。爾朱榮、河を渡りて來り救ふ。顥、走り死す。子攸歸る。榮に天柱大將軍を加ふ。榮、不臣(二)の志を蓄ふ。魏

路。立二榜大巷一。剋レ期會集。居二其家一。彝父子不二以爲一レ意。至レ是羽林虎賁近二千人一相率至二尚書省一詬罵。以二瓦石一撃二省門一。上下懾懼。不二敢禁討一。遂至二彝第一。拽二其舍一。曳二彝父子一。毆撃投二火中一。仲瑀重傷走免。彝死。遠近震駭。胡后收二其凶强八人一斬レ之。餘不二復治一。大赦以安レ之。

八人を收へて之を斬り、餘は復た治せず、大赦して以て之を安んず。

㈠馬にてかけまはり遊獵すること　㈡そしる者甚だ多し　㈢標札　㈣宿衞の兵　㈤のゝしる　㈥うつ

懷朔鎭函使高歡。至二洛陽一。見二張彝之死一。還レ家傾レ貲以結レ客。或問二其故一。歡曰。宿衞相率焚二大臣之第一。朝廷懼而不レ問。爲レ政如レ此。事可レ知矣。財物豈可二常守一邪。歡自二先世一坐レ法徙二北邊一。遂習二鮮卑之俗一。沈深有二大志一。與二侯景等一相友善。以二任俠一雄二鄕里一。

懷朔鎭の函使㈠高歡、洛陽に至りて、張彝の死を見る。家に還り貲を傾けて㈡以て客と結ぶ。或ひと其故を問ふ。歡曰く、宿衞相率ゐて大臣の第を焚けども、朝廷懼れて問はず。政を爲すこと此の如くんば、事、知る可し。財物豈常に守る可けんやと。歡は先世より法に坐して北邊に徙り、遂に鮮卑の俗に習ふ。沈深㈢にして大志有り。侯景等と相友とし善し。任俠を以て鄕里に雄たり。

㈠狀函を持ちて京師に使ひする者　㈡資財を投じて味方をつくる也　㈢沈著にして深遠の思慮あり

亂。乃密修二武備一。聚二驍勇一以萬數。伐レ材沈二檀溪一。積レ茆如二岡阜一。兄懿死。衍建レ牙集レ衆。出二檀溪竹木一裝レ艦。葺レ之以レ茆。事皆立辨。兵起一年餘、遂入二建康一。受レ禪卽二帝位一。

禪を受けて帝位に卽く。

(一)逆黨の親類　(二)驍勇の士　(三)かやを積みて岡の如くす　(四)大將の旗

魏主恪殂。諡曰二宣武皇帝一。廟號二世祖一。子詡立。甫六歲。母胡氏。稱レ制。及二魏主旣長一。好二遊騁一。不レ親レ視レ朝。而胡后方淫亂。魏政始亂。將軍張彝之子仲瑀上二封事一。排二抑武人一。喧謗盈レ

○魏主恪、殂す。諡して宣武皇帝と曰ひ、廟を世祖と號す。子詡立つ。甫めて六歲。母胡氏、制を稱す。魏主既に長ずるに及び、(一)遊騁を好み、親ら朝を視ず。而して胡后方に淫亂なり。魏の政始めて亂る。將軍張彝の子仲瑀、封事を上りて、武人を排抑す。(二)喧謗路に盈つ。(三)榜を大巷に立て、期を尅して會集し、其家を屠らんとす。彝父子以て意と爲さず。是に至りて(四)羽林・虎賁千人に近く、相率ゐて尙書省に至りて(五)詬罵し、瓦石を以て省門を擊つ。上下慴懼し、敢て禁じ討たず。遂に彝の第に至り、其舍を焚き、彝の父子を曳き、(六)毆擊して火中に投ず。仲瑀、重傷して走りて免る。彝、死す。遠近震ひ駭く、胡后其凶强

太后稱レ制。以二蕭衍一爲二相國一。封二梁公一。加二九錫一。尋進レ爵爲レ王。齊主至二姑孰一。詔禪二于梁一。即レ位僅一年。被レ弑。齊自二高帝一至レ是七世。凡二十三年而亡。

高帝より是に至るまで七世、凡べて二十三年にして亡ぶ。

㊀命令を發し政治を行ふ　㊁姑熟に同じ

梁

高祖武皇帝

梁高祖武皇帝。姓蕭氏。名衍。齊之疎族也。母張氏。見二菖蒲生一レ花。旁人皆不レ見。呑レ之。已而生レ衍。英達有二文學一。東昏初。衍鎭二襄陽一。知二齊將一レ

梁の高祖武皇帝、姓は蕭氏、名は衍。齊の(一)疎族也。母張氏、菖蒲の花を生ずるを見る。旁人は皆見ず。之を呑む。已にして衍を生む。英達にして文學有り。東昏の初め、衍、襄陽を鎭す。齊の將に亂れんとするを知り、乃ち密に武備を修め、(二)驍勇を聚むること萬を以て數ふ。材を伐りて檀溪に沈め、(三)茆を積みて岡阜の如くす。兄懿、死す。衍、(四)牙を建て衆を集め、檀溪の竹木を出して艦を裝ひ、之を葺くに茆を以てす。事皆立ろに辨ず。兵起りて一年餘、遂に建康に入り、

州。遇レ兵過二建康一。時南豫州刺史蕭懿。將レ兵在レ近。齊主急召入援。懿既敗死。以レ懿爲二尚書一。懿弟南雍州刺史衍。使丁人勸丙懿行乙伊霍故事甲。不レ聽。亟還二歷陽一。懿不レ能レ用。竟賜レ死。衍起二兵襄陽一。引而東圍二建康一。齊人弑レ主而迎レ衍。主在位三年。改元者一。曰二永元一。時南康王先已自立。是爲二和皇帝一。

を襄陽に起し、引きて東して建康を圍む。齊人、主を弑して衍を迎ふ。主、在位三年。改元する者一。永元と曰ふ。時に南康王先に已に自立す。是を和皇帝と爲す。

㊀ 淫行にくらみ、わがまゝなり　㊁ 伊尹・霍光の君を廢せし手段を取るべしと也

和皇帝

和皇帝。名寶融。東昏末。寶融起二兵於江陵一。已而稱レ帝。改元曰二中興一。未レ及二東歸一。齊

和皇帝、名は寶融。東昏の末、寶融兵を江陵に起す。已にして帝と稱し、改元して中興と曰ふ。未だ東歸するに及ばず、齊太后、制を稱し、(一)蕭衍を以て相國と爲し、梁公に封じ、九錫を加ふ。尋ぎて爵を進めて王と爲す。齊主、姑孰(二)に至り、詔して梁に禪る。位に卽きてより僅かに一年にして、弑せらる。齊、

即位。不接朝士。惟親信嬖倖。屢誅大臣。魏主宏殂。在位二十七年。仁孝恭儉。制禮作樂。蔚然有太平之風。禁胡服胡語。改姓元氏。遷都洛陽。爲魏盛德之主。謚曰孝文皇帝。廟號高祖。太子恪立。

胡語を禁じ、姓を元氏と改め、都を洛陽に遷す。魏の盛德の主たるが爲に、謚して孝文皇帝と曰ひ、廟を高祖と號す。太子恪立つ。

(一)お氣に入りの近臣　(二)盛んなる貌　(三)えびすの服裝えびすの言葉

齊主昏淫狂恣。所幸潘妃。以金爲蓮花。帖地上。使步之曰。此步步生蓮花也。左右用事。賊虐日甚。大尉陳顯達。先擧兵襲建康。敗死。將軍崔慧景。受命出討叛

○齊主昏淫狂恣なり。幸する所の潘妃、金を以て蓮花を爲り、地上に帖し、之を步ましめて曰く、此れ步步蓮花を生ずる也と。左右事を用ひ、賊虐日に甚し。大尉陳顯達、先づ兵を擧げて建康を襲ひ、敗れ死す。將軍崔慧景、命を受けて出でゝ叛州を討ち、兵を還して建康に逼る。時に南豫州の刺史蕭懿、兵に將として近きに在り。齊主急に召して入り援けしむ。慧景敗れ死す。懿を以て尙書と爲す。懿の弟南雍州の刺史衍、人をして懿に伊霍の故事を行へ、爾らざれば亟かに歷陽に還れと勸めしむ。懿、用ふること能はず。竟に死を賜ふ。衍、兵

城王一。帝即レ位未二四月一。廢而弑レ之。宣城王自立。是爲二高宗明皇帝一。

明皇帝。名鸞。高帝之兄子也。高帝愛レ之過二於己子一。而武帝之太子長懋最惡レ之。及レ得レ志。殺二高武子孫一。無二遺類一。即レ位五年殂。改元者二。曰二建武。永泰一。太子立。是爲二廢帝東昏侯一。

廢帝東昏侯。名寶卷。自レ在二東宮一。不レ好レ學。嬉戲無レ度。旣

明皇帝

明皇帝、名は鸞。高帝の兄の子也。高帝之を愛すること己の子よりも過ぎたり。而して武帝の太子長懋最も之を惡む。志を得るに及び、高、武の子孫を殺して、遺類無し。位に卽きて五年にして殂す。改元する者二。建武•永泰と曰ふ。太子立つ。是を廢帝東昏侯と爲す。

廢帝東昏侯

廢帝東昏侯、名は寶卷。東宮に在りしより學を好まず。嬉戲度無し。旣に位に卽きて、朝士に接せず、惟だ嬖倖を親信し、屢〻大臣を誅す○魏主宏、殂す。在位二十七年。仁孝恭儉、禮を制し樂を作し、蔚然として太平の風有り。胡服•

武皇帝。名賾。即位十一年殂。改元者一。曰二永明一。太子長懋已卒。太孫立。是爲二廢帝鬱林王一。

廢帝鬱林王。名昭業。卽レ位一年。改元曰二隆昌一。西昌侯鸞弑レ之。新安王立。是爲二廢帝海陵王一。

廢帝海陵王。名昭文。爲レ鸞所レ立。改二元延興一。鸞自爲二宣

武皇帝

武皇帝、名は賾。即位十一年にして殂す。改元する者一。永明と曰ふ。太子長懋已に卒す。太孫立つ。是を廢帝鬱林王と爲す。

廢帝鬱林王

廢帝鬱林王、名は昭業。位に卽きて一年、改元して隆昌と曰ふ。西昌侯鸞、之を弑す。新安王立つ。是を廢帝海陵王と爲す。

廢帝海陵王

廢帝海陵王、名は昭文。鸞の爲に立てらる。延興と改元す。鸞自ら宣城王と爲る。帝位に卽きてより未だ四月ならず、廢して之を弑す。宣城王自立す。是を高宗明皇帝と爲す。

齊太祖高皇帝。姓蕭氏。名道成。蘭陵人也。相傳爲漢相國何之後。深沈有大量。博學能文。肩有赤誌。如日月狀。宋時在軍中久。民間或言其有異相。宋疑之。而不能殺也。竟代宋。性清儉。毎曰。使我治天下十年。當使黄金同土價。在位四年殂。改元者一。曰建元。太子立。是爲世祖武皇帝。

齊

太祖高皇帝

齊の太祖高皇帝、姓は蕭氏、名は道成。蘭陵の人也。相傳へて漢の相國何(一)の後と爲す。深沈(二)にして大量有り。博學にして文を能くす。肩に赤誌(三)有り、日月の狀の如し。宋の時軍中に在ること久し。民間或は其異相(四)有るを言ふ。宋之を疑へども、殺すこと能はず。竟に宋に代る。性清儉なり。毎に曰く、我をして天下を治むること十年ならしめば、當に黄金をして土の價と同じからしむべしと。在位四年にして殂す。改元する者一。建元と曰ふ。太子立つ。是を世祖武皇帝と爲す。

(一)蕭何　(二)沈着にして度量大なり　(三)赤きあざ　(四)凡人と異れる人相

順皇帝。名準。桂陽王休範子也。明帝子レ之。至レ是卽レ位。宋袁粲謀レ誅二蕭道成一。褚淵以二其謀一告二道成一。粲父子倶被レ殺二於石頭城一。百姓哀レ之曰。可レ憐石頭城。寧爲二袁粲一死。不下作二褚淵一生上。沈攸之亦擧二兵江陵一。討道成一。軍潰。走而縊死。道成爲二相國齊公一。加二九錫一。已而進レ爵爲レ王。宋主在位三年。改元者一。曰二昇明一。禪二于齊一。泣而彈レ指曰。願後身世世勿三復生二天王家一。齊弒レ之而滅二其族一。自二宋高祖一。至レ是八世。凡五十九年而亡。

順皇帝、名は準。桂陽王休範の子也。明帝之を子とす。是に至りて位に卽く○宋の袁粲、蕭道成を誅せんと謀る。褚淵、其謀を以て道成に告ぐ。粲の父子倶に石頭城に殺さる。百姓之を哀みて曰く、憐む可し石頭城、寧ろ袁粲と爲りて死すとも、褚淵と作りて生きじと。沈攸之も亦兵を江陵に擧げて道成を討つ。軍潰え、走りて縊死す。道成、相國齊公と爲り、九錫を加ふ。已にして爵を進めて王と爲る。宋主在位三年。改元する者一。昇明と曰ふ。齊に禪る。泣きて指を彈じて(一)曰く、願はくは後身(二)世世復た天王の家に生るゝこと勿らんをと。齊之を弑して其族を滅す。宋の高祖より是に至るまで八世、凡べて五十九年にして亡ぶ。

(一) つまはじきす。いたく之を厭ふ也　(二) 後生に同じ、來世のこと

立。十歳即位。桂陽王休範擧レ兵反。攻二建康一。蕭道成擊斬レ之。道成爲二中領軍一。先レ是魏獻文帝弘。傳二位於太子宏一。自稱二太上皇帝一。以二宏幼一。仍總二萬機一。太上聰睿夙成。剛毅有レ斷。而好二黄老浮屠之學一。故常有二遺世之意一。其母馮太后有二所レ幸李奕一。爲二太上一所レ誅。馮太后怒。遂弑レ之而稱レ制。宋主驕恣嗜レ殺。中外憂惶。蕭道成與二袁粲・褚淵一謀二廢立一。粲不レ可。淵贊レ之。遂弑レ之。在位六年。改元者一。曰二元徽一。安成王立。是爲二順皇帝一。

宏の幼なるを以て、仍ほ萬機を總ぶ。太上、聰睿夙成(一)、剛毅にして斷有り(二)。而して黄老・浮屠(三)の學を好む。故に常に遺世の意(四)有り。其母馮太后、幸する所の李奕といふもの有り。太上の爲に誅せらる。馮太后怒り、遂に之を弑して制を稱す(五)。宋主驕恣にして殺を嗜み、中外憂ひ惶る。蕭道成、袁粲・褚淵と廢立を謀る。粲可かず。淵之を贊す。遂に之を弑す。在位六年、改元する者一。元徽と曰ふ。安成王立つ。是を順皇帝と爲す。

(一) かしこくして、早成　(二) 決斷あり　(三) 黄帝老子の學と佛教と　(四) 世をのがれんとするの心　(五) 命を發し政治を行ふ

順皇帝

改元者一。曰二泰始一。自二帝之初一。蕭道成將レ兵征討有レ功。尋鎭二淮陰一。收二養豪俊一。賓客始盛。已而爲二南兗州刺史一。至レ是褚淵薦爲二右衞將軍一。與二顧命大臣一。共掌二機事一。太子立。是爲二後廢帝一。

帝の初めより、蕭道成、兵に將とし征討して功有り。尋ぎて淮陰に鎭し、豪俊を收め養ふ。賓客始めて盛なり。已にして南兗州の刺史と爲る。是に至りて褚淵薦めて右衞將軍と爲す。顧命の大臣と、共に機事を掌る。太子立つ。是を後廢帝と爲す。

(一) 幼主を助くべき遺詔を受けたる大臣

後廢帝

後廢帝。名昱。明帝無レ子。昱實嬖人李道兒之子也。明帝子レ之。殺二諸王十五六人一。惟恐二昱之不一レ

後廢帝、名は昱。明帝子無し。昱、實は嬖人李道兒の子也。明帝之を子とし、諸王十五六人を殺し、惟だ昱の立たざらんことを恐る。十歳にして卽位す。桂陽王休範、兵を舉げて反し、建康を攻む。蕭道成擊ちて之を斬る。道成を中領軍と爲す○是より先魏の獻文帝弘、位を太子宏に傳へ、自ら太上皇帝と稱す。

廢帝。名子業。即位居喪。傲惰無戚容。孝武疎忌骨肉。多誅殺。至是尤甚。魏帝濬殂。謚曰文成皇帝。廟號高宗。初太武經營四方。國頗虚耗。文成嗣以鎭靜。懷集中外。人心復安。子弘立。宋主畏忌諸父湘東王等。幽於殿内。極虐。無復人理。恣爲不道。中外騷然。宋人弑之。在位二年。改元者一。曰景和。湘東王立。是爲太宗明皇帝。

廢帝、名は子業。位に即き喪に居て、傲惰にして戚容無し。(一)孝武、骨肉を疎んじ忌みて、誅殺多かりき。是に至りて尤も甚し○魏帝濬、殂す。謚して文成皇帝と曰ひ、廟を高宗と號す。初め太武四方を經營し、國頗る虚耗す。文成嗣ぎて以て鎭靜し、中外を懷け集む。人心復た安し。子弘立つ○宋主、(二)諸父湘東王等を畏れ忌み、殿内に幽し、極虐す。(三)復た人理無く、(四)恣に不道を爲す。中外騷然たり。宋人之を弑す。在位二年。改元する者一。曰く景和。湘東王立つ。是を太宗明皇帝と爲す。

(一)むごりていたむ樣子なし　(二)衰へ貧し　(三)杖にてたゝきて引きずり廻す　(四)人間の常理にはづる

明皇帝

明皇帝。名或。即位八年殂。

明皇帝、名は或。位に即きて八年にして殂す。改元する者一。泰始と曰ふ。

卒。魏主追悼不レ已。愛懼弑レ主。後諡曰二太武皇帝一。廟號二世祖一。晃之子濬立。討レ愛誅レ之。

宋太子劭。巫蠱呪詛。事覺。宋主擬レ廢レ之。劭弑レ主而自立。主在位三十年。改元者一。曰元嘉。武陵王擧レ兵誅レ劭。王立。是爲二世祖孝武皇帝一。

○宋の太子劭、巫蠱(一)呪詛す。事覺はれ、宋主之を廢せんと擬す。劭、主を弑して自立す。主、在位三十年、改元する者一。曰く、元嘉。武陵王兵を擧げて劭を誅す。王立つ。是を世祖孝武皇帝と爲す。

(一)神巫を以て宋主をのろふ

孝武皇帝

孝武皇帝。名駿。即レ位十二年殂。改元者二。曰孝建。曰大明。太子立。是爲二廢帝一。

孝武皇帝、名は駿。位に卽きて十二年にして殂す。改元する者二。曰く、孝建。曰く、大明。太子立つ。是を廢帝と爲す。

廢帝

曰。乃壊二汝萬里長城一。既誅。魏人聞レ之喜曰。吳子輩不レ足二復憚一。至レ是驅。無二能禦者一。宋人或欲レ斬二玄謨一。沈慶之止レ之曰。佛狸威震二天下一。控弦百萬。豈玄謨所二能當一。殺二戰將一以自弱非レ計也。魏師還。殺掠不レ可二勝計一。丁壯者斬截。嬰兒貫二槊上一盤舞。所レ過赤地。春燕歸巣於林木一。自二宋主卽レ位二十八年間。號爲二小康一。至レ是兵革之後。邑里蕭條。元嘉之政衰矣。

能く當る所ならんや。戰將を殺して以て自ら弱くするは計に非ずと。魏の師還る。殺掠すること勝げて計ふ可からず。丁壯者は斬截し、(七)嬰兒は槊上に貫きて盤舞す。過ぐる所(八)赤地となり、春燕歸りて林木に巣ふ。宋主の位に卽きしより二十八年間、號して(九)小康と爲す。是に至りて兵革の後、邑里、蕭條たり。元嘉の政衰ふ。

(一)たいまつの如く目を光らせ　(二)頭巾をなげすつ　(三)建康は吳の地。子輩は小僧共といふ蔑辭也　(四)魏主の幼字　(五)弓をひく兵士　(六)首を斬り手足を截つ　(七)矛のさきに貫きてふり舞はす　(八)野原　(九)世の中少し穏か也

魏中常侍宗愛譖二東宮官屬一。多坐誅死。太子晃以レ憂

○魏の中常侍宗愛、東宮の官屬を譖す。多く坐して誅死せらる。太子晃憂を以て卒す。魏主追悼して已まず。愛、懼れて主を弑す。後諡して太武皇帝と曰ひ、廟を世祖と號す。晃の子濬立つ。愛を討ちて之を誅す。

先是魏主聞宋取河南。怒曰。我生髮未燥。已聞河南是我地。今天時尙熱。姑斂戍北歸。俟河冰合。以鐵騎蹂之。至冬魏主自將渡河。衆號百萬。鞞鼓之聲震天地。玄謨懼走。魏人追擊。玄謨敗走。魏帝引兵南下。直至瓜步。聲言欲渡江。建康震懼。民皆荷擔而立。

聲天地に震ふ。玄謨懼れ走る。魏人追ひ撃つ。玄謨敗れ走る。魏帝兵を引きて南に下り、直に瓜歩に至り、江を渡らんと欲すと聲言す。建康震ひ懼れ、民皆荷擔㈢して立つ。

㈠ 生れたてにて、まだうぶげの乾かぬ頃より　㈡ 馬上にて打つ攻めつゝみ　㈢ 荷物を持ちて逃げんとす

宋主登石頭城。北望歎曰。檀道濟若在。豈使胡馬至此。道濟立功前朝。老於用兵。先是以讒被收。目光如炬。脫幘投地

宋主、石頭城に登り、北望して歎じて曰く、檀道濟若し在らば、豈に胡馬をして此に至らしめんやと。道濟、功を前朝に立て、兵を用ふるに老いたり。是より先讒を以て收へらる。目光、炬の如く、幘を脫して地に投じて曰く、乃ち汝が萬里の長城を壞ると。㈠既に誅せらる。魏人之を聞きて善びて曰く、㈡㈢呉の子輩、復た憚るに足らずと。是に至りて長驅す。能く禦ぐ者無し、宋人或は玄謨を斬らんと欲す。沈慶之之を止めて曰く、㈣佛狸、威、天下に震ふ。㈤控弦百萬、豈玄謨の

浩自明元時。已爲謀臣。輒有功。信道士寇謙之。勸魏主崇奉。立天師道場。而最惡佛法。誅沙門。毀佛像佛書。魏主命浩修國史。書先世事。皆詳實。刊石立之衢路。北人忿恚。譖浩暴揚國惡。魏帝大怒。遂案誅之。夷其族。

を衢路に立つ。北人忿恚し、浩が國の惡を暴し揚ぐるを譖す。魏帝大に怒り、遂に案じて(三)之を誅し、其族を夷ぐ。

(一)道士寇謙之の道術を修むる祈禱場　(二)僧侶　(三)罪狀を取調べしめて

宋魏連年互相侵伐。王玄謨勸宋大擧。沈慶之諫曰。畊當問奴。織當問婢。今欲伐國。奈何與白面書生謀之。宋竟遣玄謨出師。取碻磝。進圍滑臺。

○宋・魏連年互に相侵し伐つ。王玄謨、宋に勸めて大擧せしめんとす。沈慶之諫めて曰く、畊すことは當に奴に問ふべく、織ることは當に婢に問ふべし。今國を伐たんと欲す。奈何ぞ白面の書生と之を謀らんと。宋、竟に玄謨をして師を出さしめ、碻磝を取り、進みて滑臺を圍む。是より先魏主、宋の河南を取りしと聞き、怒りて曰く、我生れて髪未だ燥かざるに、(二)已に河南は是れ我が地なりと聞けり。今天の時尚ほ熱す。姑く戍を斂めて北に歸り、河氷の合するを俟ちて、鐵騎を以て之を蹂しめんと。冬に至りて魏主自ら將として河を渡る。衆百萬と號す。鞞鼓(三)の

宋謝靈運以レ罪誅。靈運好爲ニ山澤之遊一。從者數百人。伐レ木開レ徑。百姓驚擾。或表ニ其有ニ異志一。爲ニ臨川內史一。有司糾レ之。被レ收。靈運興レ兵逃逸。作レ詩曰韓亡子房奮。秦帝魯連恥。追討擒レ之。徙ニ廣州一。已而棄市。

○宋の謝靈運、罪を以て誅せらる。靈運好みて山澤の遊を爲す。從者數百人、木を伐りて徑を開く。百姓驚き擾ぐ。或ひと其の異志有るを表す。臨川の內史と爲し、有司之を糾す。收へらる。靈運兵を興して逃逸す。詩を作りて曰く、韓亡びて子房奮ひ、(一)秦、帝となりて魯連恥づと。追ひ討ちて之を擒にし、廣州に徙す。已にして棄市せらる。

(一) 靈運は晉の遺臣なるが故に、自から張良・魯仲連に比し、宋の晉を滅しゝを暴秦に比して譏れるなり

魏伐レ燕。馮弘奔ニ高麗一而被レ殺。燕亡。魏伐レ涼。姑臧潰。牧犍降。後被レ殺。北涼亡。魏殺ニ其司徒崔浩一。

○魏、燕を伐つ。馮弘、高麗に奔りて殺さる。燕亡ぶ○魏、涼を伐つ。姑臧、潰ゆ。牧犍降り、後殺さる。北涼亡ぶ○魏、其司徒崔浩を殺す。浩、明元の時より、已に謀臣たり。輒ち功有り。道士寇謙之を信じ、魏主に勸めて崇奉せしめ、天師道場を立つ。而して最も佛法を惡み、(二)沙門を誅し、佛像・佛書を毀つ。魏主、浩に命じて國史を修めしむ。先世の事を書するに、皆實を詳かにし、石に刊して之

曰。應ニ束帶見一レ之。潛歎曰。我豈能爲ニ五斗米一。折レ腰向ニ鄕里小兒一。卽日解ニ印綬一去。賦ニ歸去來辭一。著ニ五柳先生傳一。徵不レ就。自以ニ先世爲ニ晉臣一。自ニ宋高祖王業漸隆一。不ニ復肯仕一。至レ是終レ世。號ニ靖節先生一。

先生と號す。

㊀高尚なる氣節　㊁郡縣を巡囘する役人　㊂今の俸給一月米十五石、一日五斗に當る

魏數與レ夏戰。至レ是執ニ其主昌一以歸。夏赫連定。稱ニ帝於平涼一。西秦主乞伏熾盤卒。子暮末立。北燕馮跋殂。弟弘立。夏主定擊ニ西秦一。以ニ暮末一歸。殺レ之。西秦亡。定又擊ニ北涼一欲レ奪ニ其地一。吐谷渾襲ニ其軍一。執レ定送レ魏。夏亡。吐谷渾者。慕容氏之別種也。北涼沮渠蒙遜卒。子牧犍立。

○魏、數〻夏と戰ふ。是に至りて其主昌を執へて以て歸る○夏の赫連定、帝を平涼に稱す○西秦の主乞伏熾盤卒す。子暮末立つ○北燕の馮跋、殂す。弟弘立つ○夏主定、西秦を擊ち。暮末を以て歸り、之を殺す。西秦亡ぶ。定又北涼を擊ちて其地を奪はんと欲す。吐谷渾、㊀其軍を襲ひ、定を執へて魏に送る。夏亡ぶ。吐谷渾は慕容氏の別種也○北涼の沮渠蒙遜卒す。子牧犍立つ。

㊀捕へてつれ歸り

諡ニ明元皇帝ー。廟號ニ太宗ー。子義立。宋主在位三年。改元者一。曰景平。徐羨之傅亮謝晦廢而弑レ之。宜都王立。是爲ニ太宗文皇帝ー。

立つ。是を太宗文皇帝と爲す。

(一) 通鑑に鄱陽王に作る、鄱陽は南方の地名也、從ふべし

文皇帝。名義隆。素有ニ令望ー。少帝廢。迎入即レ位。夏主勃勃殂。子昌立。晋徵士陶潛卒。潛字淵明。潯陽人。侃之曾孫也。少有ニ高趣ー。嘗爲ニ彭澤令ー。八十日。郡督郵至。吏

文皇帝

文皇帝、名は義隆。素より令望有り。少帝廢せらる。迎へ入れられて位に卽く〇夏主勃勃、殂す。子昌立つ〇晉の徵士陶潛卒す。潛、字は淵明。潯陽の人。侃の曾孫也。少くして(一)高趣有り。嘗て彭澤の令と爲り、八十日に、郡の督郵(二)至る。吏曰く、應に束帶して之を見るべし。潛歎じて曰く、我豈能く(三)五斗米の爲に腰を折りて、鄉里の小兒に向はんやと。卽日、印綬を解きて去り、歸去來の辭を賦し、五柳先生の傳を著はす。徵せども就かず。自ら先世は晉の臣たるを以て、宋の高祖の王業漸く隆なるより、復た肯て仕へず。是に至りて世を終ふ。靖節

王者。不レ死。裕叱レ之。卽散不レ見。初參二劉牢之軍事一。嘗遣レ覘レ賊。遇二賊數千人一。裕奮二長刀一。獨驅レ之。衆軍因乘レ勢。進擊大破レ之。裕由レ是知レ名。其後爲二將相二十餘年。誅二桓玄一。平二孫恩盧循一。滅二南燕後秦一。卒受二晉禪一。西涼李暠卒。諡曰二武昭王一。子歆立。數年。至レ是爲二北涼沮渠蒙遜一誘。與戰。殺レ之。西涼亡。宋主在位三年。改元者一。曰永初。殂。太子立。是爲二廢帝滎陽王一。

曰く、永初。殂す。太子立つ。是を廢帝滎陽王と爲す。

㈠漢の位　㈡假住居　㈢をば　㈣幼少の時のあざな　㈤虵は蛇に同じ　㈥自ら天命ありて、殺したりとて死なずと也　㈦計略にかゝりおびき出されて

廢帝滎陽王。名義符。年十七卽レ位。居レ喪無レ禮。遊戲無レ度。魏主嗣殂。

廢帝滎陽王

廢帝滎陽王㈠、名は義符。年十七にして卽位す。喪に居て禮無く、遊戲度無し○魏主嗣、殂す。明元皇帝と諡し。廟を太宗と號す。子燾立つ○宋主、在位三年。改元する者一。曰く、景平。徐羨之・傅亮・謝晦、廢して之を弑す。宜都王

宋高祖武皇帝。姓劉氏。名裕。彭城人也。相傳。爲二漢楚元王交之後一。裕生而母死。父僑二居京口一。將レ棄レ之。從母救而乳レ之。及レ長勇健有二大志一。僅識レ字。小字寄奴。嘗行遇二大蚰一。撃傷レ之。後至二其所一。見下有二羣兒一擣上藥。裕問何爲。答曰。吾王爲二劉寄奴一所レ傷。裕曰。何不レ殺レ之。兒曰。寄奴

宋の高祖武皇帝、姓は劉氏、名は裕。彭城の人也。相傳へて、漢の(一)楚の元王交の後と爲す。裕生れて母死す。父京口に僑居し(二)、將に之を棄てんとす。從母(三)救ひて之を乳す。長ずるに及び勇健にして大志有り。僅に字を識る。小字(四)は寄奴、嘗て行きて大蚰(五)に遇ひ、撃ちて之を傷つく。後其所に至り、羣兒ありて藥を擣くを見る。裕問ふ、何をか爲す。答へて曰く、吾が王劉寄奴の爲に傷つけらる。裕曰く、何ぞ之を殺さゞる。兒曰く、寄奴は王者なり、(六)死せずと。裕之を叱す。卽ち散じて見えず。初め劉牢の軍事に參たり。嘗て賊を覘はしむ。賊數千人に遇ふ。裕長刀を奮ひ、獨り之を驅る。衆軍因りて勢に乘じて、進み撃ちて大に之を破る。裕、是に由りて名を知らる。其後將相たること二十餘年、桓玄を誅し、孫恩・盧循を平げ、南燕・後秦を滅し、卒に晉の禪を受く○西涼の李暠卒す。諡して武昭王と曰ふ。子歆立ちて、數年、是に至りて、北涼の沮渠蒙遜の爲に(七)誘かれて、與に戰ひ、之に殺さる。西涼亡ぶ○宋主、在位三年。改元する者一。

建康。帝在レ位改元者一。曰二元熙一。禪二位于裕一。已而被レ弑。東晉自二元皇帝一至レ是凡十一世。一百四年。西晉レ東晉通一百五十六年而亡。

南北朝

南朝自レ晉以傳二之宋一。宋傳二之齊一。齊傳レ梁。梁傳レ陳。北朝自二諸國併二於魏一。魏後分爲二西魏東魏一。東魏傳二北齊一。西魏傳二後周一。後周併二北齊一。而傳二之隋一。隋滅レ陳。然後南北混爲レ一。今以レ南爲二提頭一。而附二北於其閒一。

南朝は晉より以て之を宋に傳へ、宋は之を齊に傳へ、齊は梁に傳へ、梁は陳に傳ふ。北朝は諸國魏に併せられてより、魏、後、分れて西魏・東魏と爲る。東魏は北齊に傳へ、西魏は後周に傳ふ。後周は北齊を併せて、之を隋に傳へ、隋、陳を滅し、然る後南北混じて一と爲る。今南を以て提頭と爲して、北を其閒に附す。

● 南朝を揭げ首とし、北朝は其間に附記す

宋

高祖武皇帝

晉以レ裕爲二相國宋公一。加二九錫一。裕以四讖云三昌明之後尙有二二帝一。乃使三人縊二晉帝一弑レ之。帝在位二十三年。改元者二。曰隆安義熙。義熙元年。至二十四年一。則劉裕爲レ政之日也。弟瑯琊王立。是爲二恭皇帝一。

○晉、裕を以て相國宋公と爲し、九錫を加ふ。裕、讖に、昌明の後尙ほ二帝有りと云ふを以て、乃ち人をして晉帝を縊らしめて之を弑す。帝在位二十三年。改元する者二。曰く劉安・義熙、義熙元年より十四年に至るまでは、則ち劉裕が政を爲しゝ日也。弟瑯琊王立つ。是を恭皇帝と爲す。

㊀ 未來記の文に

恭皇帝。名德文。卽位之明年。劉裕進レ爵爲二宋王一。自二彭城一移鎭二壽陽一。又明年裕還二

恭皇帝

恭皇帝、名は德文。卽位の明年、劉裕爵を進めて宋王と爲り、彭城より移りて壽陽に鎭す。又明年、裕、建康に還る。帝、位に在りて、改元する者一。曰く、元熙。位を裕に禪る。已にして弑せらる。東晉、元皇帝より是に至るまで凡べて十一世、一百四年なり。西晉・東晉通じて一百五十六年にして亡ぶ。

主禿髪烏孤卒。弟利鹿孤立。卒。弟傉檀立。至レ是為二乞伏熾盤所一レ襲。以二傉檀一歸。殺レ之。南涼亡。後秦主姚興卒。子泓立。晉太尉劉裕伐レ之。發二彭城一。由二洛陽一。道二武關潼關一。入二長安一。泓敗出降。送二建康一斬レ之。後秦亡。夏主勃勃。聞二裕伐一レ秦曰。裕必取二關中一。然不レ能二久留一。若以二子弟諸將一守レ之。吾取レ之。如レ拾レ芥耳。至レ是三秦父老。聞二裕將一レ還。詣レ門流涕曰。殘民不レ霑二王化一。於レ今百年。始視二衣冠一。人人相賀。公捨レ此欲レ何之乎。裕還二彭城一。勃勃陷二長安一。稱レ帝。歸二統萬一。

主姚興卒す。子泓、立つ。晉の大尉劉裕之を伐ち、彭城を發し、洛陽より、武關・潼關に道して、長安に入る。泓敗れて出で降る。建康に送りて之を斬る。後秦亡ぶ○夏主勃勃、裕の秦を伐つと聞きて曰く、裕必ず關中を取らん。然れども久しく留まること能はじ。若し子弟諸將を以て之を守らしめば、吾の之を取らんこと、(二)芥を拾ふが如きのみと。是に至りて三秦の父老、裕が將に還らんとするを聞き、門に詣りて流涕して曰く、(三)殘民王化に霑はざること、今に於て百年。始めて(四)衣冠を視て、人人相賀す。公此を捨てゝ何くに之かんとするかと。裕、彭城に還る。勃勃、長安を陥れて、帝と稱し、(五)統萬に歸る。

(一) 引退れて　(二) 極めて容易なる形容　(三) そこなはれたる民　(四) 久しくえびすに侵されしが、今漸く中國の衣冠の人を見たり　(五) 勃勃の舊都也

敗所滅。先是北燕主盛。爲其下所弑。叔父熙立。跋得罪於熙。弑之。而立熙之養子高雲。未幾又弑雲而自立。魏主殺人之夫。而納其妻。與之生子紹。兇狠無賴。弑珪。齊王嗣。殺紹而立。珪謚道武皇帝。廟號烈祖。晉劉裕拔廣固。執慕容超。送建康斬之。南燕亡。盧循乘劉裕北伐。出自番禺。直下襲建康。劉裕被徵急還。諸軍力戰。循乃退。裕追破之。循走交州。爲刺史所敗。斬首送建康。

固を拔き、慕容超を執へて、建康に送り、之を斬る。南燕亡ぶ○盧循、劉裕の北伐に乘じて、番禺より出で、直に下りて建康を襲ふ。劉裕徵されて急に還る。諸軍力戰す。循乃ち退く。裕追ひて之を破る。循、交州に走り、刺史の爲に敗らる。(四)首を斬りて建康に送る。

(一)抗は擧也。上表を朝廷に奉りて　(二)凶悪にして心もとれる不良のあばれ者也　(三)杜慶度といふ者　(四)刺史杜慶度が盧循の首を斬りて也

西秦乞伏韓歸爲其下所弑。子熾盤立。西秦襲滅南涼。先是南涼

西秦の乞伏韓歸、其下の爲に弑せらる。子熾盤立つ○西秦襲ひて南涼を滅す。是より先、南涼の主禿髮烏孤卒す。弟利鹿孤立つ。卒す。弟傉檀立つ。是に至りて乞伏熾盤の爲に襲はる。傉檀を以て(二)歸り、之を殺す。南涼亡ぶ○後秦の

曰。父爲二九州伯一。兒爲二五湖長一。棄レ官歸レ國。後爲二江州刺史一。尋都二督荊江等八州軍事一。鎮二江陵一。至レ是擧レ兵。入二建康一。殺二元顯一。又殺二道子一。玄爲二相國一。封二楚王一。加二九錫一。已而迫レ帝禪レ位。劉裕起二兵於京口一。討レ玄。與二玄兵一戰。大破レ之。玄出走。斬二首於江陵一。帝復レ位。劉裕鎮二京口一。

㈠ 引きつけられて其配下となり ㈡ 自己の才能と家柄とを自負して ㈢ 自ら英雄豪傑を以て任ず ㈣ 父は揚州の牧を領して九州の伯の一人に列したりしに、子たる吾は五湖に沿ひたる義興縣の長たるに過ぎずと也。五湖は太湖の稱、太湖に連りて其支湖五つあり、故に太湖又五湖の名ある也

秦赫連勃勃叛レ秦。據二朔方一。自稱二大夏天王一。勃勃故匈奴劉衞辰之子也。晉伐二南燕一。先レ是南燕主慕容德卒。兄子超立。侵二略晉邊一。劉裕抗表伐レ之。北燕爲二其臣馮

○秦の赫連勃勃、秦に叛し、朔方に據りて、自ら大夏天王と稱す。勃勃は故の匈奴の劉衞辰の子也○晉、南燕を伐つ。是より先南燕の主慕容德卒す。兄の子超立ち、晉の邊を侵略す。劉裕、抗表(一)して之を伐つ○北燕、其臣馮跋の爲に滅さる。是より先北燕の主盛、其下の爲に弑せらる。叔父熙立つ。跋、罪を熙に得、之を弑して、熙の養子高雲を立つ。未だ幾くならず又雲を弑して自立す○魏主、人の夫を殺して、其妻を納れ、之と子紹を生む。兇狠無賴(二)なり。珪を弑す。齊王嗣ぎ、紹を殺して立つ。珪を道武皇帝と謚し、廟を烈祖と號す○晉の劉裕、廣

柔然起二於漠北一。奪二高車之地一而居レ之。呑二併諸部一。士馬繁盛。雄二於北方一。其地西至二焉耆一。東接二朝鮮一。南臨二大漠一。旁小國皆羈屬。與レ魏爲レ敵。晉盜孫恩。數爲二劉裕等一所レ敗。赴レ海死。其黨盧循徐道覆。復起。晉桓玄反。初玄嗣二父溫一爲二南郡公一。負二其才地一。以二雄豪一自處。嘗守二義興一。歎

○柔然、漠北に起り、高車の地を奪ひて之に居り、諸部を呑併す。士馬繁盛、北方に雄たり。其地、西は焉耆に至り、東は朝鮮に接し、南は大漠に臨む。旁らの小國皆羈屬し(一)、魏と敵と爲る○晉の盜孫恩、數〻劉裕等の爲に敗られ、海に赴きて死す。其黨盧循・徐道覆復た起る○晉の桓玄反す。初め玄父溫に嗣ぎて南郡公と爲る。其才地(二)を負み、雄豪(三)を以て自ら處る。嘗て義興に守たり。歎じて曰く、(四)父は九州の伯たり。兒は五湖の長たりと。官を棄てて國に歸る。後江州の刺史と爲り、尋ぎて荊・江等八州の軍事を都督し、江陵に據る、是に至りて兵を擧げ、建康に入り、元顯を殺し、又道子を殺す。玄、相國と爲り、楚王に封ぜられ、九錫を加ふ。已にして帝に迫りて位を禪らしむ。劉裕、公を京口に起して玄を討ち、玄の兵と戰ひて大に之を破る。玄出で走る。首を江陵に斬らる。帝位に復す。劉裕、京口を鎭す。

城。涼段業稱涼王。據張掖。是爲北涼。

晉會稽王道子。專以政事委世子元顯。晉政亂。東土囂然。妖賊孫恩。因民心騷動。自海島出作亂。劉裕因討恩有功而起。北涼沮渠蒙遜弑段業而自立。蒙遜匈奴之種也。後遷姑臧。涼王呂光卒。子紹立。庶兄纂。弑而代之。呂超又弑纂。而立其兄隆。隆後降秦而涼亡。隴西李暠據敦煌。是爲西涼。後徙酒泉。

○晉の會稽王道子、專ら政事を以て世子元顯に委ぬ。晉の政亂れ、東土囂然(一)たり。(二)妖賊孫恩、民心の騷動に因りて、海島より出でゝ亂を作す。劉裕、(三)恩を討ちて功有るに因りて起る○北涼の沮渠蒙遜、段業を弑して自立す。蒙遜は匈奴の種也。後姑臧に遷る○涼王呂光卒す。子紹立つ。庶兄纂、弑して之に代る。呂超又纂を弑して、其兄隆を立つ。隆、後、秦に降りて涼亡ぶ○隴西の李暠、敦煌に據る。是を西涼と爲す。後酒泉に徙る。

(一)久しく安泰なりし江東の地も、晉の政の大いに亂れたるによりて、がや〳〵とさわがしくなりたりと也　(二)妖術を使ひて徒黨を集め亂を爲し、遂に誅せられたる瑯琊の人孫泰といへる者の兄の子也　(三)孫恩を討ち平げたる功に因りて身を起し、累進し遂に晉室を傾くるに至れり

不レ能レ言。寒暑饑飽不レ辨。飲食寢興皆非ニ己出一。既卽レ位。會稽王以ニ太傅一輔レ政。

ぜず、飲食寢興皆己より出づるに非ず。既に位に卽く。會稽王、太傅を以て政を輔く。

● 飲食起臥も他の指圖のまゝにて、自分の考より出でゝ爲すに非ずと也

魏王拓跋珪連歲攻レ燕。進圍ニ中山一。燕主慕容寶出奔。後爲ニ其下一所レ弑。燕慕容詳稱レ帝。慕容麟襲殺詳而自立。魏王珪破レ麟走レ之。麟奔ニ慕容德一。爲レ德所レ殺。德往據ニ廣固一。後稱レ帝。是爲ニ南燕一。燕慕容盛稱ニ帝於龍城一。是爲ニ北燕一。魏王珪稱レ帝。都ニ平

○魏王拓跋珪、連歲、燕を攻む。進みて中山を圍む。燕主慕容寶出で奔る。後、其下の爲に弑せらる○燕の慕容詳、帝と稱す。慕容麟、詳を襲ひ殺して自立す。魏王珪、麟を破りて之を走らす。麟、慕容德に奔り、德の爲に殺さる。德、往きて廣固に據る。後、帝と稱す。是を南燕と爲す○燕の慕容盛、帝を龍城に稱す。是を北燕と爲す○魏王珪、帝と稱し、平城に都す○涼の段業、涼王と稱し、張掖に據る。是を北涼と爲す。

● 一に「段業に」作る

後。江左無事。會稽王道子爲レ政。帝嗜レ酒流連而已。長星見。帝擧レ酒向レ之曰。長星勸二汝一杯酒一。世豈有二萬年天子一耶。

流連(一)するのみ。長星(二)見ゆ。帝、酒を擧げて之に向ひて曰く、長星汝に一杯の酒を勸む。世豈萬年の天子(三)有らんやと。

(一) 酒を毎日飲みつゞく　(二) 長く尾を引く星、兵革の兆と傳ふ　(三) 萬年の壽を保つ天子

張貴人年三十。寵冠二後宮一。醉中戲レ之曰。汝以レ年亦當レ廢矣。貴人使三婢蒙二其面一而弑レ之。在位十五年。改元者二。曰。寧康。太元。太子立。是爲二安皇帝一。

○張貴人年三十、寵、後宮に冠たり。醉中之に戲れて曰く、汝も年を以て(一)亦當に廢すべしと。貴人、婢をして其面を蒙はしめて之を弑す。在位十五年。改元する者二。曰く、寧康・太元、太子立つ。是を安皇帝と爲す。

(一) 年を取りたれば

安皇帝

安皇帝。名德宗。幼不慧。口

安皇帝、名は德宗、幼にして不慧なり。口言ふこと能はず。寒暑飢飽だに辨

于中山。西燕人。弑其主冲。立段隨。又殺隨立慕容忠。又殺忠立慕容永。永擊秦主苻丕。丕敗南走。爲晉將軍邀擊殺之。慕容永稱帝於長子。秦疏族苻登。稱帝於南安。後秦姚萇先是已入長安。稱帝。苻登引兵數與後秦戰。互有勝負。後秦主姚萇卒。子興立。擊登殺之。燕主垂擊西燕。拔長子。殺西燕主永。燕主垂卒。子寶立。

主永を殺す○燕主垂卒す。子寶立つ。

㊀一に「段隨」に作る　㊁遠緣の親族をいふ

自苻堅之敗。中原大亂。其大者。慕容氏。姚氏。迭擧大號。其乘時而起。如秦故臣呂光。據涼州。稱涼天王。鮮卑乞伏國仁據隴右。稱西秦王。國仁卒。弟乾歸繼之。後又有鮮卑禿髮烏孤。起河西。號南涼。

○苻堅の敗れしより、中原大に亂る。其大なる者慕容氏・姚氏迭ひに大號を擧ぐ。㊀其の時に乘じて起れるもの、秦の故の臣呂光の如きは、涼州に據りて、涼天王と稱し、鮮卑の乞伏國仁は、隴右に據りて、西秦王と稱す。國仁卒す。弟乾歸之を繼ぐ。後又鮮卑の禿髮烏孤といふもの有り。河西に起りて、南涼と號す。

㊀皇帝と稱するをいふ

晉自敗秦以

○晉、秦を敗りし以後、江左無事なり。會稽王道子、政を爲す、帝酒を嗜みて

朝野震動。安爽然圍レ碁賭レ墅。捷書至。安方與レ客碁。覽畢置二坐側一。無二喜色一。碁罷。客問レ之。徐曰。小兒輩已遂破レ賊。客去。安入レ戶。喜甚。不レ覺二屐齒折一。其矯レ情鎭レ物如レ此。

秦主符堅之子丕。稱二帝于晉陽一。拓跋珪復立爲二代王一。先レ是劉庫仁爲二其下一所レ殺。弟頭眷代領二其衆一。庫仁之子顯。殺二頭眷一而自立。又欲レ殺レ珪。珪奔二賀蘭部一。依二其舅一。諸部大人推レ珪爲レ主。遂卽二王位一。徙居二盛樂一。後改稱レ魏。燕王垂稱二帝

○秦主符堅の子丕、帝を晉陽に稱す○拓跋珪復た立ちて代王と爲る。是より先劉庫仁其下の爲に殺され、弟頭眷代りて其衆を領す。庫仁の子顯、頭眷を殺して自立し、又珪を殺さんと欲す。珪、賀蘭部に奔りて、其舅に依る。諸部の大人、珪を推して主と爲す。遂に王位に卽き、徙りて盛樂に居る。後改めて魏と稱す○燕王垂、帝を中山に稱す。西燕の人、其主沖を弑して段隨を立て、又隨を殺して慕容忠を立て、又忠を殺して慕容永を立つ。永、秦主符丕を擊つ。丕、敗れて南に走り、晉の將軍の爲に邀へ擊たれて、之に殺さる。慕容永帝を長子に稱す○秦の疏族符登、帝を南安に稱す。後秦の姚萇、是より先已に長安に入り、帝と稱す。符登、兵を引きて、數〻後秦と戰ひ、互に勝負有り○後秦の主姚萇卒す。子興立つ。登を擊ちて之を殺す○燕主垂、西燕を擊ちて長子を拔き、西燕の

陣。玄使二人謂一曰。移レ陣小却。使二我兵得一レ渉。以決二勝負一可乎。堅欲下聽二晉兵一。半渡擊上レ之。麾レ兵使レ却。秦兵退。不レ可二復止一。朱序在二陣後一。呼曰。秦兵敗矣。遂潰。玄等乘レ勝追擊。秦兵大敗。走者聞二風聲鶴唳一。皆以爲晉兵至。堅狼狽還二長安一。

慕容垂叛レ秦。起二於河内一。自稱二燕王一。姚萇叛レ秦。起二於北地一。自稱二秦王一。是爲二後秦一。慕容沖叛レ秦。起二兵平陽一。稱レ帝。是爲二西燕一。攻二長安一。秦主苻堅出奔。後秦主萇執而弑レ之。晉太保謝安卒。安文雅過二王導一。有二德量一。方二秦寇至一。

〇慕容垂、秦に叛き、河内に起りて、自ら燕王と稱す〇姚萇、秦に叛き、北地に起りて、自ら秦王と稱す。是を後秦と爲す〇慕容沖、秦に叛きて、兵を平陽に起し、帝と稱す。是を西燕と爲す。長安を攻む。秦主苻堅出で奔る。後秦の主萇、執へて之を弑す〇晉の太保謝安卒す。安、文雅、王導に過ぎ、徳量(一)有り。秦の寇至るに方りて、朝野震動す。安、夷然(二)として碁を圍み墅(三)を賭にす。捷書(四)至りしとき、安方に客と碁す。覽畢へて坐側に寘き、喜べる色無し。碁罷みて、客之を問ふ、徐ろに曰く、小兒輩(五)已に遂に賊を破れりと。客去る。安、戸に入り、喜ぶこと甚しく、屐歯の折れしを覺えず(六)。其情(七)を矯め物を鎭むること此の此し。

(一)道德の器量　(二)安らかに落着きたるさま　(三)別莊を碁のかけものとなす　(四)勝利の報知　(五)謝石、謝玄等を指す　(六)氣が附かぬ程夢中になりて喜ぶ　(七)感情をおさへ

於江。可レ斷二其流一。時中外皆諫。惟慕容垂姚萇。欲レ乘二其釁一。勸レ之南伐。堅遂發二長安戍卒六十餘萬。騎二十七萬一。晉以二謝石一爲二征討大都督一。謝玄爲二前鋒都督一。督二衆八萬一拒レ之。劉牢之帥二精兵五千一趨二洛澗一。直渡レ水。擊二秦前鋒梁成一斬レ之。石等水陸繼進。堅登二壽陽城一望二見晉兵部陣嚴整。又望二見八公山草木一。皆以爲二晉兵一。憮然有二懼色一。秦兵逼二肥水一而

都督と爲し、衆八萬を督して之を拒がしむ。劉牢之精兵五千を帥ゐて洛澗に趨き、直に水を渡り、秦の前鋒梁成を擊ちて之を斬る。石等、水陸繼ぎ進む。堅、壽陽城に登りて望み見るに、晉の兵、部陣嚴整なり。又八公山(二)の草木を望み見て、皆以て晉の兵と爲し、憮然(三)として懼るゝ色有り。秦の兵肥水に逼りて陣す。玄、人をして謂はしめて曰く、陣を移して小しく却き、我が兵をして渡ることを得しめ、以て勝負を決せんこと可ならんやと。堅、晉の兵に聽し(四)、半渡るとき、之を蹙めんと欲し、兵を麾きて却かしむ。秦の兵退きて復た止む可からず。朱序、陣の後に在りて、呼びて曰く、秦の兵敗ると。遂に潰ゆ。玄等、勝に乘じて追ひ擊つ。秦の兵大に敗る。走る者風聲鶴唳(五)を聞きて、皆以爲らく晉の兵至ると。堅、狼狽して長安に還る。

(一) すき間につけこみて　(二) 肥水の北方の山　(三) 失意の貌、意氣の沮喪せる様　(四) 晉の兵の進みを聽き入れ　(五) 風の音や鶴の聲

北方一者上。謝安以二兄子玄一應レ詔。郗超歎レ之曰。安之明。乃能違レ衆擧レ親。玄才不レ負レ所レ擧。吾嘗見二其使一レ才。雖二屐履閒一。未三嘗不二レ得二其任一。玄鎭二廣陵一。得二劉牢之等一爲二參軍一。戰無レ不レ捷。號二北府兵一。敵人畏レ之。

能く衆に違ひて親を擧ぐ。玄が才擧ぐる所に負かず。吾、嘗て其才を使ふを見るに、屐履(一)の閒と雖も、未だ嘗て其任を得ずんばあらずと。玄、廣陵に鎭し、劉牢之等を得て參軍と爲す。戰ひて捷たざること無し。北府兵と號す。敵人之を畏る。

(一) 衆人の常情に違ひ自ら進んで近親の者を推擧す　(二) 道を歩く閒にもの意、如何に匆卒の場合にもといふに當る

秦遣レ兵分レ道寇レ晉。陷二諸郡一。執二襄陽刺史朱序一以歸。已而議二大擧一。或謂。晉有二長江之險一。堅曰。以二吾之衆一。投二鞭

○秦、兵を遣し道を分ちて晉に寇し、諸郡を陷れ、襄陽の刺史朱序を執へて以て歸る。已にして大擧を議す。或ひと謂ふ、晉に長江の險有り。堅曰く、吾の衆を以てせば、鞭を江に投じて、其流を斷つ可しと。時に中外皆諫む。惟だ慕容垂・姚萇のみ、其釁(一)に乘ぜんと欲し、之に勸めて南伐せしむ。堅、遂に長安の戍卒六十餘萬、騎二十七萬を發す。晉、謝石を以て征討大都督と爲し、謝玄を前鋒

之。兵至二姑臧一。天錫面縛出。送二長安一。

代王拓跋什翼犍世子寔早卒。繼嗣未レ定。庶長子遂殺二其諸弟一。併殺二什翼犍一。會二秦兵撃レ代。部衆逃潰。國中大亂。秦主苻堅分レ代爲二二部一。自レ河以東。屬二代南部大人劉庫仁一。自レ河以西。屬二匈奴劉衛辰一。使レ統二其衆一。代世子寔之子珪。尚幼。母賀氏以レ珪走。依二賀訥一。已而依二庫仁一。庫仁奉レ珪恩勤。不下以二廢興一易上レ意。

○代王拓跋什翼犍の世子寔早く卒し、繼嗣未だ定まらず。庶長子遂(一)に其諸弟を殺し、併せて什翼犍を殺す。秦兵の代を撃つに會し、部衆逃れ潰え、國中大に亂る。秦主苻堅、代を分ちて二部と爲し、河より以東は、代の南部大人(二)劉庫仁に屬し、河より以西は、匈奴の劉衛辰に屬して、其衆を統べしむ。代の世子寔の子珪、尚ほ幼なり。母賀氏、珪を以て走り、賀訥に依り、已にして庫仁に依る。庫仁、珪を奉じて恩勤(三)し、廢興(四)を以て意を易へず。

(一) 陳殷の音釋に遂を名とするは誤也　(二) 長官　(三) 恩愛を加へて忠勤す　(四) 榮枯盛衰を以て心を二にせず

晉以二秦人強盛一爲レ憂。詔求下良將可レ鎭二禦

○晉、秦人の強盛なるを以て憂と爲し、詔して良將の北方を鎭め禦ぐ可き者を求む。謝安、兄の子玄を以て詔に應ず。郗超之を歎じて曰く、安の明、乃ち

秦丞相王猛卒。秦主堅哭之曰。天不欲使吾平一六合邪。何奪吾景略之速也。猛臨終謂堅曰。晉雖僻處江南。然正朔相承。上下安和。臣沒之後。願勿以晉爲圖。鮮卑西羌我之仇敵。終爲人患。宜漸除之以安社稷。

秦の丞相王猛卒す。秦主堅之を哭して曰く、天、吾をして六合(一)を平一せしむることを欲せざるか。何ぞ吾が景略(二)を奪ふの速かなると。猛、終に臨み堅に謂ひて曰く、晉、江南に僻り處ると雖も、然れども正朔(三)相承け、上下安和なり。臣が沒せし後、願はくは晉を以て圖(四)と爲すこと勿れ。鮮卑・西羌は我の仇敵なり。終に人の患と爲らん。宜しく漸(五)に之を除きて以て社稷を安んずべしと。

(一)天下を平定す　(二)王猛の字　(三)正統の天子の位を繼ぐ意。正朔は暦、暦は天子より諸侯に頒ち授くる所なるが故にいふ　(四)晉を略取せんとの企を爲す勿れ　(五)漸次に、次第に

涼降于秦。先是張玄靚之叔父天錫。殺玄靚而自立。天錫荒于酒色。政亂。秦伐

○涼、秦に降る。是より先張玄靚の叔父天錫、玄靚を殺して自立す。天錫、酒色に荒み、政亂る。秦之を伐ち、兵、姑臧に至る。天錫、面縛(一)して出づ。長安に送る。

(一)うしろ手になりて出て降る

十歳即位。桓溫來朝。詔二謝安王坦之一迎二于新亭一。都下洶洶。云欲下誅二王謝一因移中晉祚上。坦之甚懼。安神色不レ變。溫既至。百官拜二于道側一。溫大陳二兵衞一。延二見朝士一。坦之流汗沾レ衣。倒執二手板一。安從容就レ席。謂レ溫曰。安聞。諸侯有レ道。守在二四鄰一。明公何須二壁後置一レ人邪。溫笑曰。正自不レ能レ不レ爾。遂命撤レ之。與レ安笑語移レ日。郗超臥二帳中一聽二其言一。風動帳開。安笑曰。郗生可レ謂二入幕之賓一矣。溫有レ疾。還二姑孰一。疾篤。諷求二九錫一。安坦之故緩二其事一。尋卒。

に詔して新亭に迎へしむ。都下洶洶たり(一)。云く、王・謝を誅し、因りて晉の祚を移さん(二)と欲すと。坦之甚だ懼る。安、神色變せず。溫既に至る。百官道の側に拜す。溫大に兵衞(三)を陳ね、朝士を延き見る。坦之、流汗衣を沾し、倒に手板(四)を執る。安、從容として席に就き、溫に謂ひて曰く、安聞く、諸侯道有れば守(五)四鄰に在りと。明公何ぞ壁後(六)に人を置くを須ゐるんや。溫笑ひて曰く、正に自ら爾らざる能はずと。遂に命じて之を撤し、安と笑語して日を移す。郗超、帳の中に臥して其言を聞く。風動きて帳開く。安笑ひて曰く、郗生は入幕(七)の賓と謂ふ可しと。溫疾有り、姑孰に還る。疾篤し。諷して九錫を求む。安・坦之、故らに其事を緩くす。尋ぎて卒す。

(一) 人心動する貌　(二) 晉の帝位をうばふ　(三) 衞兵　(四) 笏　(五) 諸侯の身の行ひ道に叶へば四方の鄰國皆其守護となる　(六) 壁の後ろに警衞の人を置く要なし　(七) 幕内の客。其帳中に在るを笑ひていふ也

簡文皇帝。名昱。元帝子也。清虚寡欲。尤善二玄言一。桓溫迎即レ位。九閲レ月而不豫。急召二桓溫一入輔。如二諸葛武侯王丞相故事一。溫望二帝臨レ終禪レ位。否即居レ攝。不レ副レ所レ望。時謝安王坦之在レ朝。溫疑三坦之安沮二其事一。心甚銜レ之。帝在位改元者一。曰咸安。太子立。是爲二烈宗孝武皇帝一。

簡文皇帝

簡文皇帝、名は昱、元帝の子也。清虚寡欲、尤も玄言に善し。(一) 桓溫迎へて位に即かしむ。九たび月を閲て不豫なり。(二) 急に桓溫を召して入りて輔けしめ、諸葛武侯王丞相の故事の如くす。溫、帝が終に臨みて、位を禪り、否らざれば即ち攝に居らんことを望む。(三) 望む所に副はず。時に謝安・王坦之朝に在り。溫、坦之・安が其事を沮みしを疑ひ、心甚だ之を銜む。(四) 帝、在位改元する者一。曰く、咸安。太子立つ。是を烈宗孝武皇帝と爲す。

(一) 老子や莊子の唱へし、幽玄虚無の言說　(二) 病氣　(三) 假に天子に代りて萬機を總攝す　(四) 遺恨に思ふ

烈宗孝武皇帝。名昌明。年

烈宗孝武皇帝

烈宗孝武皇帝、名は昌明。年十歳にして即位す○桓溫來朝す。謝安・王坦之

溫帥レ師伐レ燕。戰二于枋頭一。大敗而還。燕慕容垂既擊二破晉軍一。威名日盛。燕王忌レ之。垂奔レ秦。秦王猛督二諸軍一伐レ燕。遂圍レ鄴。秦主苻堅入レ鄴。執二燕王慕容暐一以歸。

敗して還る○燕の慕容垂、既に晉の軍を擊ち破り、威名日に盛なり。燕王之を忌む。垂、秦に奔る○秦の王猛、諸軍を督して燕を伐ち、遂に鄴を圍む。秦主苻堅鄴に入り、燕王慕容暐を執へ、以て歸る。

㊀ [illegible]の將沈勁といふ者

晉桓溫陰蓄二不臣之志一。嘗撫レ枕歎曰。男子不レ能レ流二芳百世一。亦當レ遺二臭萬年一。欲三先立レ功。還受二九錫一。及二枋頭之敗一。威名頓挫。郗超勸レ溫行二伊霍之事一。以立二大威權一。溫遂入朝。白二太后一廢レ帝。在位六年。改元者一。曰太和。會稽王立。是爲二簡文皇帝一。

○晉の桓溫陰に不臣の志㊀を蓄ふ。嘗て枕を撫して歎じて曰く、男子芳㊁を百世に流すこと能はずんば、亦當に臭を萬年に遺すべしと。先づ功を立て、還りて九錫を受けんと欲す。枋頭の敗に及びて、威名頓に挫く。郗超、溫に勸む、伊霍㊂の事を行ひて、以て大威權を立てよと。溫遂に入朝し、太后に白して帝を廢す。在位六年。改元する者一。曰く、太和。會稽王立つ。是を簡文皇帝と爲す。

㊀ 君にそむかんとするの志 ㊁ 芳名 ㊂ 殷の伊尹・西漢の霍光が君を廢せしこと

即位二年而寢疾。又一年而崩。改元者二。曰。隆和。興寧。弟瑯琊王立。是爲帝奕。

二。曰く、隆和・興寧。弟瑯琊王立つ。是を帝奕と爲す。

帝奕

帝奕。名奕。成帝之幼子也。既即位。以會稽王昱爲丞相。桓溫自哀帝時。爲大司馬。都督中外諸軍事。錄尚書事。加揚州牧。移鎭姑孰。以郗超爲參軍。王珣爲主簿。人語曰。髯參軍。短主簿。能令公喜。能令公怒。

帝奕、名は奕。成帝の幼子也。既に位に即き、會稽王昱を以て丞相と爲す。○桓溫、哀帝の時より大司馬と爲り、中外の諸軍事を都督し、尚書の事を錄す。揚州の牧を加へられ、移りて姑孰(一)に鎭す。郗超を以て參軍と爲し、王珣を主簿と爲す。人語りて曰く、髯(二)參軍・短(三)主簿能く公を喜ばしめ、能く公を怒らしむと。

(一) 姑熟に同じ　(二) ひげ多き故にいふ　(三) たけ低き故にいふ

燕人攻陷洛陽。戍將死之。

燕人洛陽を攻陷す。戍將之に死す。(一)溫、師を帥ゐて燕を伐ち、枋頭に戰ひ、大

謂如三玄徳之於二孔明一。一歳中五遷レ官。舉二異才一。修二廢職一。課二農桑一。恤二困窮一。秦民大悦。燕主慕容儁卒。子暐立。晉桓温以二謝安一爲二征西司馬一。安少有二重名一。前後徵辟皆不レ就。士大夫相謂曰。安石不レ出。如二蒼生一何。年四十餘乃出。帝在位十七年崩。改元者二。曰。永和升平。無レ嗣。成帝子瑯琊王立。是爲二哀皇帝一。

燕主慕容儁卒す。子暐立つ○晉の桓温、謝安を以て征西司馬と爲す。安、少くして重名有り、前後の徵辟（三）皆就かず。士大夫相謂ひて曰く、安石出でずんば、（四）蒼生を如何せんと。年四十餘にして乃ち出づ○帝、在位十七年にして崩ず。改元する者二。曰く、永和・升平。嗣無し。成帝の子瑯琊王立つ。是を哀皇帝と爲す。

（一）一度會へるのみにて、舊知の如く相親し　（二）廢絶したる官職をもとの如くす　（三）朝廷諸侯より仕官せよと召されたれども何れも辭して就かず　（四）人民の不幸を救はんすべなしと也

哀皇帝

哀皇帝名丕。

哀皇帝、名は丕。即位二年にして疾に寢ね、又一年にして崩ず。改元する者

玄靚立。姚襄降二于燕一。北據二許昌一。又攻二洛陽一。桓温督二諸軍一討レ襄。進至二河上一。與二寮屬一。登二平乘樓一。北望二中原一。歎曰。使二神州陸沈一百年。王夷甫諸人不レ得レ不レ任二其責一。至二伊水一。襄戰連敗而走。温屯二金墉一。謁二諸陵一。置二鎭戍一而還。襄將三西圖二關中一。秦遣レ兵拒。擊斬レ襄。襄弟萇以レ衆降レ秦。

ち、進みて河上に至り、寮屬(一)と平乘樓に登りて、北のかた中原を望み、歎じて曰く、神州をして陸沈(二)せしむること百年、王夷甫諸人其責(三)に任ぜざるを得ずと。伊水に至りて、襄、戰連に敗れて走る。溫、金墉に屯し、諸陵(四)に謁し、鎭戍を置きて還る。襄將に西のかた關中を圖らんとす。秦、兵を遣はして拒ぎ、擊ちて襄を斬る。襄の弟萇、衆を以て秦に降る。

(一) 下役の者共と大船のやぐらに登りて (二) 陸地の沈没する事、國土のえびすに征服せられたるをいふ (三) 責任があると也、王衍等淸談を事として、國家を顧みざりしを指す (四) 諸帝のみささぎ

秦苻堅弑二其君生一自立。爲二秦天王一。有下薦二王猛於堅一者上。一見如レ舊。自

○秦の苻堅其君の生を弑して自立し、秦天王と爲る。王猛を堅に薦むる者有り。一見舊の如し(一)。自ら謂ふ、玄德の孔明に於けるが如しと。一歲の中五たび官を遷す。異才を擧げ、廢職(二)を修め、農桑を課し、困窮を恤む。秦の民大に悅ぶ○

安堵。民爭持二牛酒一迎勞。男女夾レ路觀レ之。耆老有二垂レ泣者一。曰。不レ圖今日復覩二官軍一。北海王猛字景略。倜儻有二大志一。隱二居華陰一。聞二温入レ關。被レ褐謁レ之。捫レ虱而談二當世之務一。旁若レ無レ人。温異レ之。問レ猛曰。吾奉レ命除二殘賊一。而三秦豪傑未レ有二至者一。何也。猛曰。公不レ遠二數千里一。深入二敵境一。今長安咫尺。而不レ渡二灞水一。百姓未レ知二公心一。所二以不一レ至。温默然無二以應一。温與二秦兵一戰二于白鹿原一。不利。秦人淸レ野。温軍乏レ食。欲下與レ猛俱還上。猛不レ就。

を被て之に謁し、虱を捫りて當世の務を談じ、旁に人無きが如し。温之を異とし、猛に問ひて曰く、吾、命を奉じて殘賊を除かんとす。而るに三秦の豪傑未だ至る者有らざるは、何ぞや。猛曰く、公、數千里を遠しとせずして深く敵境に入る。今長安、咫尺にして、灞水を渡らず。百姓未だ公の心を知らず。至らざる所以なりと。温、默然として以て應ずること無し。温、秦の兵と白鹿原に戰ふ。利あらず。秦人、野を淸む。(五)温の軍食に乏し。猛と俱に還らんと欲す。(六)猛就かず。

(一) 京兆・左馮翊・右扶風の稱　(二) 老人、六十を耆といふ　(三) 他に異なりすぐれて　(四) 賤者の着物　(五) 田野の作物を刈りて、敵の兵に掠められじとす　(六) 從ひ行かず

秦主健卒。子生立。涼張祚淫虐。被レ弑。子

○秦主健卒す。子生立つ○涼の張祚、淫虐なり。弑せらる。子玄靚立つ○姚襄、燕に降り、北のかた許昌に據り、又洛陽を攻む。桓温、諸軍を督して襄を討

庶人一。朝廷初以レ浩抗レ温。浩廢。自レ此內外大權一歸レ温矣。浩雖ニ愁怨一。不レ形ニ辭色一。嘗書レ空作ニ咄咄怪事字一。久レ之。郗超勸レ温處ニ浩令僕一。以レ書告レ之。浩欣然。答書慮レ有レ誤。開閉十數。竟達ニ空函一。温大怒遂絕。卒ニ於謫所一。

に形はさず。嘗て空に書して、(四)咄咄怪事の字を作る。之を久しうして、郗超、温に勸めて、浩を(五)令僕に處らしむ。書を以て之を告ぐ。浩、欣然たり。(六)答書に誤有らんことを慮り、開閉十數、竟に空函を達す。温大に怒り遂に絕つ。(七)謫所に卒す。

(一) 殷浩の山桑にて敗軍せしにつけこみて　(二) 對抗して權々專らにせざらしむ　(三) うれへうらむ　(四) 咄々は咨嗟の辭。我が不幸薄命はさて〳〵けしからぬ事よとの意　(五) 中書令又は僕射の地位　(六) 返書に誤りありてはならずと心配し、幾度も〳〵開閉して、遂に返書の入らざる空（カラ）状箱を屆けたり　(七) 既謫の地

桓温帥レ師伐レ秦。大敗ニ秦兵于藍田一。轉戰至ニ灞上一。秦主苻健閉ニ長安小城一自守。三輔皆來降。温撫ニ諭居民一使ニ

○桓温、師を帥ゐて秦を伐ち、大に秦の兵を藍田に敗り、轉戰して灞上に至る。秦主苻健、長安の小城を閉ぢて自ら守る。(一)三輔皆來り降る。温、居民を撫諭して安堵せしむ。民、爭ひて牛酒を持ちて迎へ勞ひ、男女路を夾みて之を觀る。(二)耆老泣を垂るゝ者有り。曰く、圖らざりき、今日復官軍を觀んとはと。北海の王猛、字は景略。(三)倜儻にして大志有り。華陰に隱れ居り。温が關に入ると聞き、(四)褐

公一。其後服ニ於前趙劉曜一。又事ニ後趙石勒石虎一。虎甚重レ之。以爲ニ冠軍大將軍一。虎死趙亂。至ニ冉閔滅レ趙。弋仲遣レ使降レ晉。弋仲卒。襄率ニ其衆一來レ晉。詔レ襄屯ニ譙城。後屯ニ歷陽。揚豫州都督殷浩。在ニ壽春。惡ニ襄強盛。遣レ將襲レ之。爲レ襄所レ斬。先レ是朝廷聞ニ中原大亂。復謀ニ進取。浩受レ任。連年北伐無レ功。至レ是率ニ諸軍一再擧。襄伏レ甲邀レ之。浩至ニ山桑。襄縱擊。浩大敗走。

大に亂ると聞き、復た進取を謀る(三)。浩、任を受け、連年北伐して功無し。是に至りて諸軍を率ゐて再擧す。襄、甲を伏せて(四)之を邀ふ。浩、山桑に至る。襄、縱擊す(五)。浩大に敗れ走る。

(一) 酒宴に乘じて毒殺せらる　(二) 子供を背負うてつき隨ふ　(三) 進みて中國の地を取らんことを圖る　(四) 伏兵を設く　(五) 其伏兵をはなちて擊つ

涼張重華卒。子曜靈立。其下廢レ之。而立ニ張祚。晉桓溫因ニ殷浩之敗一。請廢レ浩免爲ニ

○涼の張重華卒す。子曜靈立つ。其下之を廢して張祚を立つ○晉の桓溫、殷(一)浩の敗に因り、請ひて浩を廢し免じて庶人と爲す。朝廷初め浩を以て溫に抗せし(二)む。浩、廢せらる。此より內外の大權、一に溫に歸す。浩、愁怨(三)すと雖も、辭色

執。殺二虎三十八孫一。盡滅二石氏一。閔姓冉。爲二石氏一所レ養。至レ是復二其姓一。後爲レ燕所レ破。執而殺レ之。

蒲洪自稱二三秦王一。改二姓苻一。洪先擒二趙將麻秋一。不レ殺而用二其言一。因レ宴爲レ秋所レ鴆。子健斬レ秋。代領二洪衆一。健入二長安一。自稱二秦天王一。已而稱レ帝。燕王雋稱レ帝。趙姚襄歸レ晉。而復叛。襄父弋仲。南安赤亭羌酋也。懷帝末。戎夏襁負隨レ之者數萬。自稱二扶風

○蒲洪自ら三秦王と稱し、姓を苻と改む。洪、先に趙の將麻秋を擒にし、殺さずして其言を用ひ、宴に因りて秋の爲に鴆せらる。子健、秋を斬り、代りて洪の衆を領す。健、長安に入り、自ら秦天王と稱し、已にして帝と稱す○燕王雋、帝と稱す○趙の姚襄、晉に歸して、復た叛す。襄の父弋仲は、南安赤亭の羌酋也。懷帝の末に、戎夏、襁負して、之に隨ふ者數萬。自ら扶風公と稱す。其後前趙の劉曜に服し、又後趙の石勒•石虎に事ふ。虎甚だ之を重んじ、以て冠軍大將軍と爲す。虎死し、趙亂る。冉閔が趙を滅すに至りて、弋仲使を遣はして晉に降る。弋仲卒す。襄其衆を率ゐて、晉に來る。襄に詔して譙城に屯せしむ。後歷陽に屯す。揚豫州の都督殷浩、壽春に在り。襄の强盛なるを惡み、將を遣はして之を襲はしむ。襄の爲に斬らる。是より先朝廷、中原

威著西土。愼帝昭沒。軌遣レ兵助二愍帝於長安一。帝以二軌爲二涼州牧西平公一。軌卒。子寔立。寔爲二妖賊一所レ殺。弟茂立。趙主劉曜擊レ茂。茂降レ趙。茂卒。寔之子駿立。茂臨レ終語レ駿。必奉レ晉。不レ可レ失。駿雖三復臣二於後趙石勒一恥レ之。成帝時。假二道於蜀一。以通レ晉。駿卒。子重華立。晉遣レ使。仍拜二西平公一。重華自爲レ王。

軌を以て涼州の牧西平公と爲す。軌、卒す。子寔立つ。寔、妖賊(一)の爲に殺さる。弟茂立つ。趙主劉曜、茂を擊つ。茂、趙に降る。茂卒す。寔の子駿立つ。茂、終りに臨み駿に語る、必ず晉を奉ぜよ、失ふ可からずと。駿、復た後趙の石勒に臣たりと雖も、之を恥づ(二)。成帝の時、道を蜀に假りて、以に晉に通ず。駿卒す。子重華立つ。晉使を遣はし、仍りて西平公に拜せしむ。重華自ら王と爲る。

(一)孫弘といふあやしき賊　(二)石勒に臣たることを恥づ

後趙石鑑。弑二其主遵一而自立。石閔又幽レ鑑。殺レ之而自立。改二國號一曰レ

〇後趙の石鑑、其主遵を弑して自立す。石閔又鑑を幽し、之を殺して自立し、國號を改めて魏と曰ひ、虎の三十八孫を殺し、盡く石氏を滅す。閔、姓は冉、石氏の爲に養はる。是に至りて其姓に復す。後燕の爲に破らる。執へて之を殺す。

趙亂。晉征討都督褚裒。表請レ伐レ趙。朝野以爲。中原指レ期可レ復。蔡謨獨以爲。莫レ若二度レ德量一レ力。經二營分表一。恐憂及二朝廷一。裒遣レ將。果敗沒。

を經營せば、恐らくは憂朝廷に及ばんと。裒、將を遣る。果して敗れ沒す。

㈠いつ〳〵迄と期限を定めて　㈡分外の事をもくろむ時は

趙蒲洪遣レ使降レ晉。洪事レ趙累世。至レ是石閔言二於趙主遵一曰。蒲洪人傑也。今鎭二關中一。恐秦雍非二國家有一。遵罷二洪都督一。洪怒。歸二枋頭一。遂通二于晉一。

○趙の蒲洪、使を遣はして晉に降る。洪、趙に事ふること累世なり。是に至りて、石閔、趙主遵に謂ひて曰く、蒲洪は人傑也、今關中を鎭す。恐らくは、㈠秦雍、國家の有に非じと。遵、洪の都督を罷む。洪、怒りて㈡枋頭に歸り、遂に晉に通ず。

㈠秦・雍の地は、遂に洪のものとならんと也　㈡其鎭臺のありし地也

涼州張重華。稱二涼王一。初惠帝之世。張軌爲二涼州刺史一。

○涼州の張重華、涼王と稱す。初め惠帝の世、張軌、涼州の刺史と爲り、威、西土に著はる。懷帝、陷沒す。軌、兵を遣はして愍帝を長安に助く。帝、

事。翼初表二其子一領二荊州一。何充曰。荊楚國之西門。豈可下以二白面少年一當上レ之。桓溫英略過レ人。西任無二出レ溫者一。丹陽尹劉惔知三溫有二不臣之志一。謂レ翼曰。溫不レ可レ使レ居二形勝地一。翼不レ聽。竟以レ溫代レ翼。

臣の志有るを知り、翼に謂ひて曰く、溫は形勝(三)の地に居らしむ可からずと。翼聽かず、竟に溫を以て翼に代ふ。

㊀ 西方を守る任　㊁ 不忠叛逆の志　㊂ 地の利を得たる土地

漢主李勢。驕淫不レ恤二國事一。桓溫帥レ師伐レ漢。拜表卽行。進至二成都一。勢降。送二建康一。漢亡。燕王慕容皝卒。子儁立。趙天王石虎稱レ帝。尋卒。子世立。其兄遵弑レ之而自立。

○漢主李勢、驕淫にして國事を恤へず。桓溫、師を帥ゐて漢を伐つ。拜表(一)して卽ち行き、進みて成都に至る。勢、降る。建康に送る。漢亡ぶ○燕王慕容皝卒す。子儁立つ。

㊀ 上奏し、その勅命の降下を待たで出陣す

○趙天王石虎、帝と稱す。尋ぎて卒す。子世立つ。其兄遵之を弑して自立す。趙亂る。晉の征討都督褚裒、表して趙を伐たんと請ふ。朝野以爲らく、中原、(一)期を指して復す可しと。蔡謨獨り以爲らく、德を度り力を量るに若くは莫し。(二)分表

淵源不レ出。當下如二蒼生一何上。翼請レ浩爲二司馬一。不レ應。翼以二王夷甫一嘲レ之。瑯琊內史桓溫。豪爽有二風槩一。翼嘗薦レ之曰。英雄之才。宜三委以二方召之任一。至レ是翼以二滅レ胡取レ蜀爲一レ己任。欲二悉レ衆北伐一。移二鎭襄陽一。詔レ翼都二督征討諸軍一。翼以レ溫爲二前鋒督一。漢主李壽卒。子勢立。帝在位三年崩。改元者一。曰建元。太子立。是爲二孝宗穆皇帝一。

討諸軍を都督せしむ。翼、溫を以て前鋒の督と爲す○漢主李壽卒す。子勢立つ。帝、在位三年にして崩ず。改元する者一。曰く、建元。太子立つ。是を孝宗穆皇帝と爲す。

(一)差當りては不用の人物なれば高き棚の上に束ね置き (二)管仲と諸葛孔明 (三)出て仕ふると家に處りて仕へざると (四)浩の字 (五)風韻氣概 (六)周の宣王を輔けたる方叔・召公

孝宗穆皇帝。名聃。三歲卽位。會稽王昱輔レ政。庾翼卒。以二桓溫一都二督荊梁等州軍

孝宗穆皇帝

孝宗穆皇帝、名は聃、三歲にして卽位す。會稽王昱、政を輔く○庾翼卒す。桓溫を以て荊梁等の州の軍事を都督せしむ。翼、初め其子を表して荊州を領せしむ。何充曰く、荊・楚は國の西門なり、豈白面の少年を以て之に當つ可けんや。桓溫、英略人に過ぎたり。(一)西任、溫に出づる者無しと。丹陽の尹劉惔、溫が不(二)

康。崩。二子丕奕在ニ襁褓一。帝母弟瑯琊王立。是爲ニ康皇帝一。

康皇帝。名嶽。成帝臨レ崩。以レ嶽爲レ嗣。遂卽レ位。都督荊江等州軍事庾翼。爲レ人慷慨喜ニ功名一。不レ尚ニ浮華一。殷浩才名冠レ世。翼弗ニ之重一曰。此輩宜下束ニ之高閣一。俟ニ天下太平一。徐議中其任上耳。時人擬ニ浩管葛一。伺ニ其出處一。以卜ニ興亡一。曰。

康皇帝

康皇帝、名は嶽、成帝崩ずるに臨み、嶽を以て嗣と爲す。遂に位に卽く○都督荊・江等の州の軍事庾翼、人となり慷慨にして功名を喜み、浮華を尙ばず。殷浩才名世に冠たり。翼之を重んぜずして曰く、此輩宜しく之を高閣に束ね、天下の太平を俟ちて徐ろに其任を議すべきのみと。時の人浩を管・葛(二)に擬し、其出處(三)を伺ひて、以て興亡を卜す。曰く、淵源(一)出でずんば、當に蒼生を如何すべきと。翼、浩に請ひて司馬と爲さんとす。應ぜず、翼、王夷甫を以て之を嘲る。瑯琊の內史桓溫、豪爽にして風槩(五)有り。翼嘗て之を薦めて曰く、英雄の才、宜しく委するに方・召の任を以てすべしと。是に至りて、翼、胡を滅し、蜀を取るを以て己の任と爲し(六)、衆を悉して北伐せんと欲し、移りて襄陽に鎭す。翼に詔して征

所レ宗。亮欲レ開ニ復中原一。上疏請下率ニ大衆一移鎭ニ石城一。遣ニ諸軍一羅ニ布江沔一。爲中伐レ趙之規上。蔡謨曰。不レ能下以ニ大江一禦中蘇峻上。安能以ニ沔水一禦ニ石虎一。乃詔レ亮不レ聽レ移レ鎭。至レ是卒ニ于武昌一。

(一) 激成したる也 (二) 泥を以て其頭に塗ること刑人の狀の如くにして其罪を請ふ也、一說に物を以て頭に蒙ると (三) 識見度量淸くして遠大なり (四) 老子周易の流を汲む人を、當時風流の士と稱せし也 (五) 本家、根本 (六) はかりごと

晉封ニ慕容皝一爲ニ燕王一。自ニ皝父爲ニ遼東公一。立レ皝爲ニ世子一。雄毅多ニ權略一。喜ニ經術一。廆卒。皝立。其下勸稱レ王。皝使レ請ニ于晉一。遂封レ之。帝在位十八年。頗有ニ勤儉之德一。改元者二。曰。咸和。咸

○晉、慕容皝を封じて燕王と爲す。皝の父(一)、遼東公と爲りしより、皝を立てゝ世子と爲す。雄毅にして權略多く、(二)經術を喜む。廆卒す。皝立つ。其下勸めて王と稱せしむ。皝、(三)晉に請はしむ。遂に之を封ず○帝、在位十八年。頗る勤儉の德有り。改元する者二、曰く、咸和・咸康。崩ず。二子丕・奕、襁褓に在り。帝の母弟瑯琊王立つ。是を康皇帝と爲す。

(一) 廆なり (二) 經義學術 (三) 王たらんとを也

寄備。導曰。吾與二元規一休戚是同。元規若來。吾便角巾歸レ第。復何懼哉。亮雖レ居二外鎭一。而遙執二朝權一。據二上流一擁二強兵一。趨レ勢者多歸レ之。導內不レ能レ平。嘗遇二西風一塵起。擧レ扇自蔽。徐曰。元規塵汚レ人。導簡素寡欲。善因レ事就レ功。雖レ無二日用之益一。而歲計有レ餘。輔二相三世一。倉無二儲穀一。衣不レ重レ帛。

㈠幼稚　㈡家柄の高貴　㈢導が謙を見て　㈣元規（亮の字）とは其心の苦樂を同じうす　㈤隠者の用ふる頭巾をかぶらん卽ち辭職をすべしとの意　㈥大江の川上　㈦内心不平也　㈧簡素寡欲なる實證也

晉司空庾亮卒。初蘇峻之亂。亮激レ之也。峻平。亮泥首謝レ罪。求二外鎭一自效。後都二督江荊等州諸軍事一。辟二殷浩一參軍。浩與二褚裒一。皆識度淸遠。善談二老易一。擅二名江東一。而浩尤爲二風流

○晉の司空庾亮卒す。初め蘇峻の亂は亮之を激したれば也。峻平ぐ。亮、泥首して罪を謝し、外鎭を求めて自ら效さんとす。後江・荊等諸州の軍事を都督し、殷浩を辟して參軍とす。浩、褚裒と皆識度淸遠、善く老易を談じ、名を江東に擅にす。而して浩尤も風流に宗とせらる。亮、中原を開復せんと欲し、上疏して、大衆を率ゐ、移りて石城に鎭し、諸軍を遣はして、江・沔に羅布せしめ、趙を伐つの規を爲さんと請ふ。蔡謨曰く、大江を以て蘇峻を禦ぐこと能はざりき。安んぞ能く沔水を以て、石虎を禦がんと。乃ち亮に詔して鎭を移すことを聽さず。是に至りて武昌に卒す。

必拜。既冠猶然。委二政於導一。導以二門地一。王述爲レ掾。述未レ知レ名。人謂二之痴一。既見。問二江東米價一。述張レ目不レ答。導曰王掾不レ痴。導毎レ發レ言。一坐莫レ不二贊歎一。述正レ色曰。人非二堯舜一。何得二毎レ事盡一レ善。導改レ容謝レ之。導性寛厚。所二委任一諸將多不レ奉レ法。大臣患レ之。庾亮欲二起レ兵廢一レ導。或勸レ導

だ名を知られず。人之を痴と謂ふ。既に見るや、江東の米價を問ふ。述目を張りて答へず。導曰く、王掾、痴ならず(三)と。導、言を發する毎に、一坐贊歎せざる莫し。述、色を正して曰く、人堯舜に非ず、何ぞ事毎に善を盡すことを得んやと。導、容を改めて之を謝す。導、性寛厚、委任する所の諸將多くは法を奉ぜず。大臣之を患ふ。庾亮、兵を起して導を廢せんと欲す。或ひと導に勸めて、密かに備へしめんとす。導曰く、吾と元規(四)と休戚是れ同じ。元規若し來らば、吾は便ち角巾(五)して第に歸らんのみ。復た何ぞ懼れんやと。亮、外鎭に居ると雖も、而も遙かに朝權を執り、上流に據りて強兵を擁す、勢に趨く者多く之に歸す。導、内平(七)かなること能はず(六)。嘗て西風に遇ひて、塵起る。扇を舉げて自ら蔽ひ、徐ろに曰く、元規の塵、人を汚すと。導、簡素寡欲、善く事に因りて功を就す。日用の益無しと雖も、而も歲計餘有り。三世に輔相として、倉に儲穀無く、衣、帛を重ねず。

賀傉卒。弟紇那嗣。紇那出奔。鬱律子翳槐立。紇那復還。翳槐奔レ趙。趙納二翳槐于代一。翳槐臨レ卒。命二諸大人一。立二弟什翼犍一。自二猗盧死一。國多二内難一。部落離散。什翼犍雄勇有二智略一。能修二祖業一。始制二百官一。號令明白。政事清簡。百姓安レ之。於レ是東自二濊貊一。西及二破落那一。南距二陰山一。北盡二沙漠一。率皆歸服。有二衆數十萬人一。拓跋氏自レ是愈大。

律の子翳槐立つ。紇那復た還り、翳槐趙に奔る。趙、翳槐を代に納る。翳槐卒するに臨み、諸大人(一)に命じて、弟什翼犍を立つ。猗盧が死せしより、國、内難多く、部落、離散す。什翼犍、雄勇にして、智略有り、能く祖業を修む。始めて百官を制し、號令明白、政治清簡(二)、百姓之に安んず。是に於て東は濊貊より、西は破落那に及び、南は陰山を距て、北は沙漠を盡して、率ね皆歸服す。衆數十萬人有り。拓跋氏是より愈々大なり。

(一)諸酋長　(二)清くして簡易なり

晉丞相王導卒。初帝卽レ位沖幼。每レ見レ導

○晉の丞相王導卒す。初め帝位に卽きて沖幼なり。導を見る每に必ず拜す。既に冠して猶然り。政を導に委ぬ。導、(三)門地を以て王述を掾と爲す。述未

左翼一而下。力能跋扈。毎レ思二折レ翼之夢一。輒自制。在レ軍四十一年。明毅善斷。人不レ能レ欺。自二南陵一至二白帝一數千里。路不レ拾レ遺。後趙石虎。殺二其主弘一而自立。爲二趙天王一。殺二勒種一無レ遺。成改二國號一曰レ漢。李雄以二兄子班一爲二太子一。雄卒。班立。雄子越弑レ班。而立二其弟期一。期忌二雄弟漢王壽威名一。使三出二屯于外一。壽還襲弑レ期而自立。

遺ちたるを拾はず○後趙の石虎、其主弘を殺して自立し、趙天王と爲り、勒の種(六)を殺して遺すこと無し○成、國號を改めて漢と曰ふ。李雄、兄の子班を以て太子と爲す。雄卒す。班立つ。雄の子越、班を弑して、其弟期を立つ。期、雄の弟漢王壽の威名を忌み、出でゝ外に屯せしむ。壽還り、襲ひて期を弑して自立す。

(一) 威權名望甚だ盛也　(二) 通鑑註に陶侃に非望の圖ある筈なし、折翼の夢は蓋し庾亮の徒の附會のみと見えたり　(三) 九重ある天の八重目　(四) 跋扈は強梁の義、權勢を張るの力ある也　(五) 事理に明かなること　(六) 勒の種族の一人も殘らぬやうに根絶やしにす

代王什翼犍立。先レ是代王

○代王什翼犍立つ。是より先代王賀傉卒し、弟紇那嗣ぐ。紇那出で奔る。鬱

未レ知三鹿死二誰手一。大丈夫行レ事。當三礌礌落落如二日月皎然一。終不レ效下曹孟德司馬仲達欺二人孤兒寡婦一。狐媚以取中天下上也。勒雖レ不レ學。好使二人讀一レ書而聽レ之。時以二其意一論二得失一。聞者悅服。嘗聽レ讀二漢書一。至二酈食其勸レ立二六國後一驚曰。此法當レ失。何以遂得二天下一。及レ聞二張良諫一。乃曰。賴有レ此耳。後遣レ使。修二好于晉一。晉焚二其幣一。勒卒。子弘立。

く者悅び服す。嘗て漢書を讀むを聽きて、酈食其が六國の後を立てんことを勸むるに至り、驚きて曰く、此法當に失すべし。何を以て遂に天下を得たると。張良の諫めを聞くに及びて、乃ち曰く、賴ひに此れ有るのみと。後使を遣はして、好を晉に修む。晉、其幣を焚く。勒卒す。子弘立つ。

(一) 共に天下を爭はんと也　(二) 明々白々たること　(三) 狐の如くに人をたぶらかして諂ふ。

晉大尉陶侃卒。侃都二督八州一。威名赫然。或謂。侃嘗夢。生二八翼一上二天門一。至二八重一。折二

○晉の大尉陶侃卒す。侃、八州を都督し、威名赫然たり。或ひと謂く、侃、嘗て夢む、八翼を生じて天門に上り、八重に至りて、左翼を折りて下ると。(一)(二)(三) 力能く跋扈するも、翼を折るの夢を思ふ毎に、輒ち自制すと。(四) 軍に在ること四十一年。明毅にして善く斷じ、人欺くこと能はず。(五) 南陵より白帝に至るまで數千里、路

為二劉琨一所レ遣。使二江東一。母不レ欲。嶠絶レ裾而去。既至。不二復得一レ歸レ北。終レ身以為レ恨。嶠盡二心晉室一。敦峻之平。皆嶠力。

ず。嶠裾を絶ちて去る(一)。既に至れば、復た北に歸ることを得ず。身を終ふるまで以て恨みと爲す。嶠、心を晉室に盡す。敦・峻の平げるは、皆嶠の力なり。

(一) 母の押ふる裾をふりもぎりて去りし也。

後趙石勒稱二天王一。尋稱レ帝。嘗大饗二羣臣一。問曰。朕可レ方二古何主一。或曰。過二於漢高一。勒笑曰。人豈不二自知一。卿言太過。若遇二高帝一。當下北面事レ之。與二韓彭一比上レ肩耳。若遇二光武一。當レ並二驅中原一。

〇後趙の石勒、天王と稱し、尋ぎて帝と稱す。嘗て大に羣臣を饗す。問ひて曰く、朕は古の何れの主に方ぶ可きか。或ひと曰く、漢高に過ぎたりと。勒笑ひて曰く、人豈自ら知らざらんや。卿の言太だ過ぎたり。若し高帝に遇はゞ、當に北面して之に事へ、韓・彭と肩を比ぶべきのみ。若し光武に遇はゞ、當に中原(二)に並び驅すべし。未だ鹿の誰が手に死するかを知らず。大丈夫の事を行ふは、當に磊磊落落(一)たること、日月の皎然たるが如くなるべし。終に曹孟德・司馬仲達が、人の孤兒・寡婦を欺き、狐媚(三)して以て天下を取りしに效はずと。勒、學ばずと雖も、好みて人をして書を讀ましめて之を聞き、時に其意を以て得失を論ず。聞

守二臨淮一。於二王敦再犯レ闕時一。入衛有レ功。威望漸著。及レ在二歷陽一。卒銳器精。志輕二朝廷一。招二納亡命一。庾亮修二石頭城一以備レ之。建請徵レ峻。爲二大司農一。峻擧レ兵陷二姑孰一。尚書令卞壼督レ軍。與レ峻力戰死。二子隨レ之。亦赴レ敵死。母撫二其屍一曰。父爲二忠臣一。子爲二孝子一。何恨。庾亮出奔。峻兵犯レ闕。陶侃温嶠入討レ峻斬レ之。後趙主石勒大破二趙兵一。獲二趙主劉曜一。曜與レ勒連攻戰。互勝負。曜攻二後趙金墉城一。勒自將救レ之。大戰二于洛陽一。趙兵大潰。曜醉墮レ馬。爲レ勒所レ獲。歸殺レ之。前趙亡。

す。峻、兵を擧げて姑孰を陷る。尚書令卞壼、軍を督し、峻と力戰して死し、二子之に隨ひ、亦敵に赴きて死す。母其屍を撫して曰く、父は忠臣たり、子は孝子たり。何ぞ恨みんと。庾亮出で奔る。峻の兵闕を犯す。陶侃・温嶠、入りて峻を討ち之を斬る○後趙主石勒、大に趙の兵を破り、趙主劉曜を獲たり。曜、勒と連りに攻戰し、互に勝負あり。曜、後趙の金墉城を攻む。勒、自ら將として之を救ひ、大に洛陽に戰ふ。趙の兵大に潰ゆ。曜、醉ひて馬より墮ち、勒の爲に獲らる。歸りて之を殺す。前趙亡ぶ。

(一) かけおち者　(二) 姑孰に同じ

晉驃騎將軍温嶠卒。嶠初

○晉の驃騎將軍温嶠卒す。嶠初め劉琨の爲に遣はされて、江東に使す。母欲せ

致二力中原一。故習レ勞耳。至レ是復鎭二荊州一。士女相慶。侃性聰敏恭勤。嘗曰。大禹聖人。乃惜二寸陰一。衆人當レ惜二分陰一。取二諸參佐酒器蒲博具一。悉投二於江一曰。樗蒲者牧猪奴戲耳。嘗造レ船。籍二竹頭木屑一而掌レ之。後正會雪霽地濕。以二木屑一布レ地。及三後有二征レ蜀之師一。得二侃竹頭一。作レ釘裝レ船。其綜理微密類レ此。帝崩。在位三年。改元者一。曰太寧。太子立。是爲二顯宗成皇帝一。

㈠孝廉の科目に擧げられたる　㈡深山のしきかはら　㈢書齋也　㈣中國は劉氏石氏の據る所と爲り、朝廷は纔に江東を保てるのみ、吾之を恢復せんとすと也　㈤配下の參謀等の役人　㈥樗蒲雙六　㈦ぶたを飼ふしもべ　㈧殘りの竹きれ鋸屑を記帳管理せしむ　㈨正月元旦の朝會　㈩事を理むること綿密

顯宗成皇帝。名衍。母庾氏。五歲卽位。司徒導。與二帝舅中書令庾亮一輔レ政。太后臨レ朝。歷陽內史蘇峻反。峻前

顯宗成皇帝

顯宗成皇帝、名は衍、母は庾氏。五歲にして卽位す。司徒導、帝の舅中書令庾亮と政を輔く。太后朝に臨む○歷陽の內史蘇峻反す。峻、前に臨淮に守たり。王敦の再び闕を犯しゝ時に於て、入り衞りて功有り。威望漸く著はる。歷陽に在るに及びて、卒、鋭に、器、精なり。志、朝廷を輕んじ、(一一)亡命を招き納む。庾亮、石頭城を修めて以て之に備へ、建請して峻を徵して、大司農と爲さんと

貧。孝廉范逵過レ之。侃母湛氏、截レ髪賣爲二酒食一。逵薦レ侃。遂知レ名。初爲二荊州都督劉弘一所レ用。討二義陽叛蠻張昌一。又討二破江東叛將陳敏一。又擊二破湘州劇賊杜弢一。自二江夏太守一。爲二荊州刺史一。王敦疾レ之。左二遷廣州刺史一。侃在レ州。朝運二百甓於齋外一。暮運二齋内一。人問二其故一。答曰。吾方

名を知らる。初め荊州の都督劉弘の爲に用ひられ、義陽の叛蠻張昌を討ち、又江東の叛將陳敏を討ち破り、又湘州の劇賊杜弢を撃ち破り、江夏の太守より、荊州の刺史と爲る。王敦之を疾み、廣州の刺史に左遷す。侃、州に在りて、朝には百甓(一)を齋外(二)に運び、暮には齋内に運ぶ。人其故を問ふ。答へて曰く、吾方(四)に力を中原(三)に致さんとす。故に勞を習ふのみと。是に至りて復た荊州を鎭す。士女相慶す。侃、性、聰敏恭勤。嘗て曰く、大禹は聖人なり。乃ち寸陰を惜めり。衆人は當に分陰を惜むべしと。(五)諸參佐の酒器(六)蒲博の具を取り、悉く江に投じて曰く、樗蒲は牧猪奴(七)の戯のみと。嘗て船を造るに、竹頭木屑(八)を籍して之れを掌らしむ。後正會(九)に雪霽れ地濕ふ。木屑を以て地に布く。後蜀を征するの師有るに及び、侃の竹頭を得て釘を作り船を裝ふ。其綜理(一〇)微密なること此に類す○帝崩ず。在位三年。改元する者一。曰く、太寧。太子立つ。是を顯宗成皇帝と爲す。

曰。卿壽幾何。璞曰。命盡二今日日中一。敦斬レ之。帝自出覘二敦軍一。敦晝夢三日環二其營一。驚悟曰。黃鬚鮮卑兒來邪。帝母鮮卑出也。亟遣二人追一レ之。不レ及。帝帥二諸軍一。出屯二南皇堂一。夜募二壯士一。渡レ水掩二敦兄王含軍一。大破レ之。敦聞二含敗一曰。我兄老婢耳。門戶衰世事去矣。因作レ勢起。欲二自行一。困乏復臥。尋卒。敦黨悉平。發二敦屍一斬レ之。有司奏レ罪二王氏兄弟一。詔曰。司徒導以二大義一滅レ親。將二十世宥一レ之。悉無レ所レ問。

して之を追はしむ。及ばず。帝諸軍を帥ゐる、出でゝ南皇堂に屯す。夜、壯士を募り、水を渡りて敦の兄王含の軍を掩ひて、大に之を破る。敦、含の敗を聞きて曰く、我が兄は老婢のみ。門戶衰へ世事去ると。因りて勢を作して起ち、自ら行かんと欲す。困乏して復た臥す。尋ぎて卒す。敦の黨悉く平ぐ。敦の屍を發きて之を斬る。有司、王氏兄弟を罪せんと奏す。詔しく曰く、司徒導、大義を以て親を滅す、將に十世之を宥さんと欲すと。悉く問ふ所無し。

(一)敦に對する敬稱 (二)帝を指す、ひげの黃色なる鮮卑の子との意、鮮卑の人種はひげの色黃也 (三)不意に取り圍みて (四)おいぼれたる下婢の如く何の役にも立たず (五)吾が一門衰へ、吾が望絕えたり

以二陶侃一都二督荊湘等州諸軍事一。侃少孤

○陶侃を以て荊・湘等の州の諸軍事を都督せしむ。侃、少くして孤貧なり。孝廉の范逵、之に過る。侃の母湛氏、髮を截り、賣りて酒食を爲る。逵、侃を薦む。遂に

語ㇾ及之。復以問ㇾ紹。紹曰、日近。元帝愕然曰、何異ニ聞者之言一邪。紹曰、擧ㇾ頭見ㇾ日。不ㇾ見ニ長安一。元帝益奇ㇾ之。及ㇾ長仁孝。喜ニ文辭一。善ニ武藝一。好ㇾ賢禮ㇾ士。受ニ規諫一。與ニ庾亮温嶠等一。爲ニ布衣之交一。敦在ニ石頭一。以ニ其有ニ勇略一。欲下誣以ニ不孝一而廢上ㇾ之。賴ニ嶠等衆論一沮ニ其謀一。至ㇾ是卽ㇾ位。敦謀ニ簒位一。移ニ屯姑熟一。自領ニ揚州牧一。

有るを以て、誣ふるに不孝を以てして之を廢せんと欲す。嶠等の衆論に賴りて其謀を沮む。是に至りて位に卽く。敦、簒位（五）を謀り、屯を姑熟に移し、自ら揚州の牧を領す。

（一）驚く貌　（二）たゞし諫むる言葉をきゝ入る　（三）身分の高下に拘はらざる所謂平民的交際　（四）紹に武勇謀略あるを畏れ　（五）位をうばふ

以ニ王導一爲ニ司徒一。加ニ大都督一。督ニ諸軍一討ㇾ敦。敦復反。發ㇾ兵而病。使ニ郭璞筮一ㇾ之。璞曰、明公起ㇾ事。禍必不ㇾ久。敦大怒

○王導を以て司徒と爲し、大都督を加へ、諸軍を督して敦を討たしむ。敦復た反し、兵を發して病む。郭璞をして之を筮せしむ。璞曰く、明公（一）事を起さば、禍必ず久しからじと。敦大に怒りて曰く、卿が壽幾何ぞ。璞曰く、命は今日の日中に盡きんと。敦之を斬る。帝自ら出でゝ敦が軍を覘ふ。敦、晝、日の其營を環ると夢み、驚き悟めて曰く、（二）黃鬚鮮卑の兒來るかと。帝の母は鮮卑の出也。亟に人を

爲二先鋒大都督一。敦至二石頭城一據レ之。曰吾不三復得レ爲二盛德事一矣。協隗等分レ道出戰。大敗而還。帝令下百官詣二石頭一見上レ敦。敦殺二周顗一。導不レ救。後料二檢中書故事一。見二顗表一。執レ之流涕曰。吾雖レ不レ殺二伯仁一。伯仁由レ我而死。幽冥之閒。負二此良友一。敦不レ朝而去。還二武昌一。帝憂憤成レ疾而崩。在位六年。改元者三。曰建武。大興。永昌。太子立。是爲二肅宗明皇帝一。

肅宗明皇帝。名紹。幼而聰慧。嘗有二使者一。從二長安一來。元帝問レ紹曰。長安近歟。日近歟。紹曰長安近。但聞下人從二長安一來上。不レ聞下人從二日邊一來上。元帝奇二其對一。一日與二羣臣一

●肅宗明皇帝

肅宗明皇帝、名は紹。幼にして聰慧。嘗て使者有り、長安より來る。元帝、紹に問ひて曰く、長安近きか、日近きか。紹曰く、長安近し。但だ人の長安より來るを聞く、人の日邊より來るを聞かずと。元帝其對を奇とす。一日、羣臣と語りて之に及ぶ。復た以て紹に問ふ。紹曰く、日近しと。元帝愕然として(一)曰く、何ぞ閒者の言に異るや。紹曰く、頭を擧ぐれば日を見る、長安を見ずと。元帝益々之を奇とす。長ずるに及びて仁孝、文辭を喜み、武藝を善し、賢を好み、士を禮し、(二)規諫を受く。庾亮・溫嶠等と、(三)布衣の交を爲す。敦、石頭に在り。其勇略(四)

見レ帝。言ニ導忠誠一。申救甚至。帝納ニ其言一。顗醉而出。導又呼。顗不ニ與言一。顧ニ左右一曰。今年殺ニ諸賊奴一。取ニ金印如ニ斗大一繫ニ肘後一。既出。又上レ表明ニ導無レ罪。導不レ知恨レ之。帝召見レ導。導稽首曰。亂臣賊子。何代無レ之。不レ意今者近出ニ臣族一。帝跣而執ニ其手一曰。茂弘。方寄レ卿以ニ百里之命一。以

既に出でゝ、又表を上りて導の罪無きことを明かにす。導知らずして之を恨む。帝召して導を見る。導稽首して曰く、亂臣賊子、何の代にか之れ無からん。意はざりき、今者近く臣が族より出でんとはと。帝、跣して其手を執りて曰く、茂弘、方に卿に寄するに百里の命を以てせんと。以て(六)先鋒大都督と爲す。敦、石頭城に至りて之に據り、曰く、吾復た盛德の事を爲すことを得ずと。協・隗等、道を分ちて出で戰ひ、大に敗れて還る。帝、百官をして石頭に詣りて敦を見しむ。敦、周顗を殺す。導、救はず。後中書の故事を料檢して、顗が表を見、之を執りて流涕して曰く、吾、伯仁を殺さずと雖も、伯仁我に由りて死せり。幽冥の閒此良友に負くと。敦、朝せずして去り。武昌に還る。帝、憂憤して疾を成して崩ず。在位六年。改元する者三。曰く、建武・大興・永昌。太子立つ。是を肅宗明皇帝と爲す。

(一) 閒に同じ　(二) 周の顗字　(三) 百人也。王導一門眷族をいふ、我が家族の事を宜しく頼むと也　(四) 頸を伸べて救顧す　(五) 諸賊討伐の恩賞として諸侯の印たる金印の斗ほどの大さなるを拜領して　(六) 跣足のまゝ急ぐと

時人語曰。王與馬共天下。敦先領揚州刺史。都督征討諸軍。進爲鎭東大將軍。都督江揚荊湘交廣六州諸軍事。江州刺史。導領荊州。恃功驕恣。帝畏惡之。乃引劉隗刁協爲腹心。稍抑損王氏權。導亦漸見疏外。敦參軍錢鳳等凶狡。知敦有異志。陰爲畫策。至是敦遂擧兵武昌。以誅劉隗刁協爲名。

を抑損す。導も亦漸く疎外せらる。敦の參軍錢鳳等(四)凶狡なり。敦の異志有るを知り、陰に爲に畫策す。是に至りて敦遂に兵を武昌に擧げ、劉隗・刁協を誅するを以て名とす。

(一)たすけいただく　(二)顯貴重要の位につらなる　(三)司馬氏の帝室を指す　(四)わるがしこし

隗協勸帝盡誅王氏。帝不許。導率宗族。每旦詣臺待罪。周顗將入。導呼之曰。伯仁。以百口累卿。顗不顧。入

隗・協、帝に勸めて盡く王氏を誅せんとす。帝許さず。導、宗族を率ゐ、每旦(一)臺に詣りて罪を待つ。周顗將に入らんとす。導之を呼びて曰く、伯仁、(二)(三)百口を以て卿を累はさんと。顗顧みず。入りて帝に見え、導が忠誠を言ひ、(四)申救すること甚だ至る。帝其言を納る。顗醉ひて出づ。導又呼ぶ。顗與に言はず、左右を顧みて曰く、今年諸賊奴を殺し、(五)金印の斗の大さの如きを取りて、肘後に繫けんと。

りて猗㐌の妻、鬱律を殺して、其子賀傉を立つ。鬱律の子什翼犍、襁褓に在り。(一)母之を袴の下に匿して、殺されざることを得たり。

(一) むつきの中に在り、極めて幼稚なるをいふ。

是。大敗ニ劉曜之兵於晉陽一。猗盧城ニ成樂一爲ニ北都一。平城爲ニ南都一。愍帝進ニ猗盧爵一爲レ王。置ニ官屬一。食ニ代常山二郡一。猗盧愛ニ少子一。欲ニ立爲一レ嗣。而出ニ其長子六脩一。使ニ六脩拜ニ其弟一。不レ從而去。大怒討レ之。兵敗而遇レ弑。猗㐌之子普根討ニ滅六脩一而自立。尋卒。國人立ニ猗盧弟之子鬱律一。至レ是猗㐌之妻殺ニ鬱律一。而立ニ其子賀傉一。鬱律子什翼犍在ニ襁褓一。母匿ニ之袴下一得レ不レ殺。

晉荊州刺史王敦反。初帝之始鎭ニ江東一也。敦與ニ從弟導一。同レ心翼戴。推レ心任レ之。敦總ニ征討一。導專ニ機政一。羣從子弟。布ニ列顯要一。

○晉の荊州の刺史王敦反す。初め帝の始めて江東に鎭するや、敦、從弟導と心を同じくして翼戴し、心を推して之に任ず。敦は征討を總べ、導は機政を專らにし、羣從子弟顯要に布列す。時の人語して曰く、王と馬と天下を共にすと。敦先に揚州の刺史を領し、征討の諸軍を都督し、進みて鎭東大將軍と爲り、江・揚・荊・湘・交・廣の六州の諸軍事を都督し、江州の刺史たり、尋ぎて荊州を領す。功を恃みて驕恣なり。帝之を畏れ惡む。乃ち劉隗・刁協を引きて腹心と爲し、稍王氏の權

統之。意甚怏怏。又聞下王敦與二朝廷一構レ隙將有二內難一。知二大功不レ遂。感激發レ病卒。豫州士女若レ喪二父母一。

鮮卑慕容廆。先レ是嘗遣二使于晉一。受二帝命一。爲二平州刺史一。至レ是以爲二平州牧遼東公一。初拓跋祿官死。猗盧總二攝三部一。劉琨與二猗盧一結爲二兄弟一。懷帝時表爲二大單于一。封二代公一。帥二部落一。自二雲中一入二雁門一。琨與以二陘北之地一。由レ是益盛。嘗爲二琨

○鮮卑の慕容廆、是より先嘗て使を晉に遣はし、帝の命を受けて、平州の刺史と爲る。是に至りて、以て平州の牧遼東公と爲す○初め拓跋祿官死し、猗盧三部を總攝す。劉琨猗盧と結びて兄弟と爲る。懷帝の時、表して大單于と爲し、代公に封ず。部落を帥ゐて、雲中より雁門に入る。琨、與ふるに陘北の地を以てす。是に由りて益〻盛なり。嘗て琨の援けを爲して、大に劉曜の兵を晉陽に敗る。猗盧、成樂に城きて北都と爲し、平城を南都と爲す。愍帝、猗盧の爵を進めて王と爲し、官屬を置き、代・常山の二郡を食ましむ。猗盧、少子を愛す。立てゝ嗣と爲さんと欲し、而して其長子六脩を出し、六脩をして其弟を拜せしめんとす。從はずして去る。大に怒りて之を討ち、兵敗れて弑に遇ふ。猗㐌の子普根、六脩を討ち滅して自立し、尋ぎて卒す。國の人、猗盧が弟の子鬱律を立つ。是に至

畏服之。劉聰嘗拜爲將軍。不受。在懷帝世。自稱略陽公。至是降于趙主曜。

す。是に至りて趙王曜に降る。

㈠氐といふえびすの酋長

晉豫州刺史祖逖卒。初逖取譙城。進屯雍丘。後趙鎭戍歸逖者甚衆。逖與將士同甘苦。勸課農桑。撫納新附。帝以戴淵爲將軍。來督諸軍事。逖以已剪荊棘。收河南地。而淵雍容一旦來

○晉の豫州の刺史祖逖卒す。初め逖、譙城を取り、進みて雍丘に屯す。後趙の鎭戍、逖に歸する者甚だ衆し。逖、將士と甘苦を同じくし、農桑を勸め課し、新附㈠を撫で納る。帝、戴淵を以て將軍と爲し、來りて諸軍の事を督せしむ。逖、已に㈡荊棘を剪りて、河南の地を收む。而るに淵、雍容㈢として一旦來りて之を統ぶるを以て、意甚だ快快㈣たり。又王敦が朝廷と隙を構へ、將に內難有らんとすと聞き、大功の遂げざるを知り、感激して病を發して卒す。豫州の士女、父母を喪へるが如し。

㈠新に附きしたがへる者　㈡亂を平定するに喩ふ　㈢おちつき拂ひて　㈣樂しまざる貌

刺史。琨出ㇾ軍。長史叛降ニ石勒一。幽州刺史段匹磾。時在ニ薊城一。遣ニ人邀ㇾ琨。琨率ㇾ衆奔ㇾ薊。與ニ匹磾一。歃ㇾ血同盟。翼ニ戴晉室一。有下欲ㇾ襲ニ取薊一者上。遣ㇾ書請ㇾ琨爲ニ內應一。書爲ニ邏騎一所ㇾ獲。而琨實不ㇾ知也。竟爲ニ匹磾一所ㇾ縊。

戴く。薊を襲ひ取らんと欲する者有り、書を遣り、琨に請ひて內應を爲さしめんとす。書、邏騎(一)の爲に獲らる。而して琨、實は知らず。竟に匹磾の爲に縊らる。

(一) みまはりの騎兵

漢主劉聰卒。子粲立。其臣靳準弑而代ㇾ之。石勒討ㇾ準。劉曜自立。封ㇾ勒爲ニ趙公一。曜疑。勒自稱ニ趙王一。曜亦改ㇾ號爲ㇾ趙。勒爲ニ後趙一。

○漢主劉聰卒す。子粲立つ。其臣靳準弑して之に代る。石勒、準を討つ。劉曜自立し、勒を封じて趙公と爲す。曜疑ふ。勒自ら趙王と稱す。曜も亦號を改めて趙と爲し、勒を後趙(一)と爲す。

(一) 勒と曜と同年中共に趙と稱せしも、勒後に曜の地を併呑せし故後趙といふ

略陽臨渭氏酋蒲洪。驍勇多ニ權略一。羣氏

○略陽臨渭の氏酋(一)蒲洪、驍勇にして權略多し、羣氏畏れて之れに服す。劉聰嘗て拜せしめて將軍と爲さんとす。受けず。懷帝の世に在りて自ら略陽公と稱

琨起曰。此非二惡聲一也。因起舞。及レ是南渡。請二兵於睿一。睿素無二北伐之志一。以レ逖爲二豫州刺史一。與二兵千人一。不レ給二鎧仗一。逖渡レ江。中流撃レ楫而誓曰。祖逖不レ能レ淸二中原一而復濟者。有レ如二此江一。愍帝又以レ睿爲二丞相一。都二督中外諸軍事一。長安陷。睿出レ師露次。移レ檄北征。實不レ行。羣臣勸レ卽二晉王位一。明年遂卽二皇帝位一。

し、兵千人を與へて、鎧仗を給せず。逖、江を渡るとき、中流にして楫を撃ちて誓ひて曰く、祖逖、中原を淸むること能はずして、復た濟らば、此江(二)の如きこと有らんと。愍帝、又睿を以て丞相と爲し、中外の諸軍事を都督せしむ。長安陷る。睿、師を出して露次(三)し、檄を移して北征す。實は行かず。羣臣勸めて晉王の位に卽かしむ。明年遂に皇帝の位に卽く。

(一)夜半の鷄聲は世の亂の兆とて忌めど、亂世ならでは功名立て難し惡聲ならずと也　(二)不還を誓ふ也　(三)野營

大尉劉琨死。初琨與二祖逖一齊レ名。琨謂レ人曰。常恐祖生先レ吾著レ鞭。懷愍時。爲二幷州

○大尉劉琨死す。初め琨、祖逖と名を齊くす。琨、人に謂ひて曰く、常に恐る、祖生が吾に先ちて鞭を著けんことをと。懷・愍の時幷州の刺史と爲る。琨、軍を出す。長史叛きて石勒に降る。幽州の刺史段匹磾、時に薊城に在り。人を遣はして琨を邀へしむ。琨、衆を率ゐて薊に奔り、匹磾と、血を歃りて同盟し、晉室を翼け

督揚州諸軍一。鎭二建業一。睿以二王導一爲二謀主一。毎レ事咨焉。睿名論素輕。吳人初不レ附。導勸用二諸名勝一。顧榮。賀循。紀瞻等爲二掾屬一。撫二綏新舊一。江東歸レ心焉。後又得二庾亮卞壺等百餘人一。謂二之百六掾一。桓彝避レ亂過レ江。見二睿微弱一憂レ之。既而見レ導。退謂二周顗一曰。江左有二管夷吾一。吾無レ憂矣。諸名士遊二宴新亭一。顗中坐而歎曰。風景不レ殊。擧レ目有二江河之異一。因相視流レ涕。導曰。當下勠二力王室一。共復中神州上。何至下作二楚囚一對泣上耶。愍帝以レ睿爲二左丞相一。

を憂ふ。既にして導を見、退きて周顗に謂ひて曰く、江左に管夷吾有り。吾憂ふること無しと。諸名士新亭に遊宴す。顗、中坐(三)にして歎じて曰く、風景殊なら(四)ず、目を擧ぐれば、江河の異る有りと。因りて相視て涕を流す。導曰く、當に力を王室に勠せて、共に神州を復すべし。何ぞ楚囚(五)と作りて對泣するに至らんやと。愍帝、睿を以て左丞相と爲す。

(一) 名望評判重からず　(二) 名高くすぐれし人　(三) 滿座の中　(四) 水邊の風景はいづこもかはらねど、たゞ昔は黃河の畔に於て宴し、今は敵の地にありて楊子江の畔に於てすとなり　(五) 左傳に見えたる鍾儀の故事

洛陽祖逖少有二大志一。嘗與二劉琨一同寢。中夜聞二鷄聲一。蹴レ

洛陽の祖逖、少きより大志有り。嘗て劉琨と同じく寢ぬ。中夜に鷄聲を聞き、琨を蹴て起ちて曰く、此れ惡聲に非ざる也と。因りて起ちて舞ふ。是に及びて南に渡り、兵を睿に請ふ。睿、素より北伐の志無し。逖を以て豫州の刺史と爲

中宗元皇帝。名睿。瑯琊王伷之孫也。宣帝懿生伷。伷生覲。或曰。睿母實與瑯琊小吏牛金通而生睿。嗣覲爲王。於惠懷爲再從兄弟。懷帝時。睿爲安東將軍。都

卷之四

東晉

中宗元皇帝

中宗元皇帝、名は睿、瑯琊王伷の孫也。宣帝懿、伷を生む。伷、覲を生む。或ひと曰く、睿の母、實は瑯琊の小吏牛金と通じて睿を生むと。覲に嗣ぎて王と爲る。惠・懷に於ては再從兄弟たり。懷帝の時、睿、安東將軍と爲り、揚州諸軍に都督として、建業に鎭す。睿王導を以て、謀主と爲し、事每に咨ふ。睿、名へ論素より輕し。吳人初めは附かず。導、勸めて諸の名勝を用ひしむ、顧榮・賀循・紀瞻等掾屬と爲り、新舊を撫綏す。江東心を歸す。後又庾亮・卞壼等百餘人を得たり。之を百六掾と謂ふ。桓彝、亂を避けて江を過ぎ、睿が微弱なるを見て、之

城。内外斷絶。城中饑甚。帝出降。漢將劉曜送二平陽一。聰享二羣臣一。命レ帝著二青衣一。行レ酒。洗レ爵。又使レ執レ蓋。後遇レ害。帝在位四年。改元者一。曰建興。西晉自二武帝一至レ是凡四世。五十二年。瑯琊王爲二於建業一。是爲二中宗元皇帝一。

ふ。帝、在位四年、改元する者一、曰く、建興。西晉、武帝より是に至るまで凡べて四世、五十二年。瑯琊王、建業に立つ。是を中宗元皇帝と爲す。

(一)饗應す　(二)召使の服　(三)酒の酌を爲し　(四)外出の時、日よけのかさをかざさしむ

孝愍皇帝。名業。吳王晏之子。武帝孫也。封二秦王一。洛陽既陷。荀藩奉レ王據二許昌一。時年十二。已而索綝迎入二雍州一。刺史賈疋等奉爲二皇太子一。建二行臺一。盜殺レ疋。麴允領二雍州一。懷帝凶問至。王卽二位於長安一。

孝愍皇帝、名は業。吳王晏の子、武帝の孫也。秦王に封ぜらる。洛陽既に陷り、荀藩、王を奉じて許昌に據る。時に年十二。已にして索綝、迎へて雍州に入る。刺史賈疋(一)等、奉じて皇太子と爲し、行臺(二)を建つ。盜、疋を殺し、麴允、雍州を領す。懷帝の凶問(三)至る。王、長安に卽位す。

(一) 疋は雅の古字　(二) 行在所　(三) 凶報、訃音

石勒遣二石虎一攻レ鄴。陷而據レ之。漢屢寇二長安一。麴允索綝屢敗レ之。未レ幾漢兵連陷二諸郡一。逼二長安一。先陷二外城一。麴允索綝退守二小

○石勒、石虎を遣はして鄴を攻め、陷れて之に據る○漢、屢々長安に寇す。麴允・索綝屢々之を敗る。未だ幾くならず漢の兵連りに諸郡を陷れ、長安に逼り、先づ外城を陷る。麴允・索綝、退きて小城を守る。內外斷絕す。城中饑うること甚し。帝出でゝ降る。漢の將劉曜、平陽に送る。聰、群臣を享(一)す。帝に命じて青衣(二)を著け、酒(三)を行ひ、爵を洗はしめ、又蓋(四)を執らしむ。後害に遇

卒二于軍一。勒兵敗二越軍一。執二太尉王衍等一。衍自言。少無二宦情一。不レ豫二世事一。勒曰。吾行二天下一多矣。未三嘗見二此輩人一。尚可レ存乎。或曰彼皆晉之王公。終不レ爲二吾用一。勒曰。雖レ然要不レ可三加以二鋒刃一。夜使二人排レ墻殺一レ之。漢主聰。遣二呼延晏一。將レ兵攻二洛陽一。劉曜。王彌。石勒皆會。遂陷二洛陽一。執レ帝送二平陽一。尋被レ殺。帝在位六年。改元者一。曰。永嘉。秦王爲二於長安一。是爲二孝愍皇帝一。

可きか。或ひと曰く、從皆晉の王公なり、終に吾が用を爲さじ。勒曰く、然りと雖も要らず加ふるに鋒刃を以てす可からずと。夜人をして(四)墻を排して之を殺さしむ○漢主聰、呼延晏を遣はし、兵に將として洛陽を攻めしむ。劉曜・王彌・石勒皆會す。遂に洛陽を陷れ、帝を執へて平陽に送る。尋ぎて殺さる○帝、在位六年。改元する者一。曰く、永嘉。秦王長安に立つ。是を孝愍皇帝と爲す。

(一)急ぎの廻狀　(二)仕官を、求むる志無く、世事に頓着せず　(三)其容儀麗しきを歎じ生かし置かんと問ふ也　(四)墻壁を推し倒して壓殺せしめし也

孝愍皇帝

兄弟相居之餘。存者三人而已。熾其一也。素好レ學。故立爲二太弟一。至レ是即位。成都王李雄稱レ帝。國號レ成。漢主劉淵稱レ帝。徙都二平陽一。遣二其子聰及石勒等一。攻二晉內郡一。以至二洛陽一。勒武鄉羯人也。先レ是嘗至二洛陽一。倚二上東門一長嘯。王衍識二其有一レ異。後爲レ寇。已而從レ漢。漢主淵卒。子和立。聰弑而代レ之。

是に至りて即位す○成都王李雄、帝と稱し、國を成と號す○漢主劉淵、帝と稱し、徙りて平陽に都す。其子聰及び石勒等を遣はし、晉の內郡を攻めて、以て洛陽に至らしむ。勒は武鄉の羯人(一)也。是より先嘗て洛陽に至り、上東門に倚りて長嘯(二)す。王衍其異(三)有るを識る。後寇を爲し、已にして漢に從ふ○漢主淵卒す。子和立つ。聰、弑して之に代る。

(一)羯狄の種族の名　(二)口笛を吹きすます　(三)異心。胸に一物有る意

太傅東海王越。遣レ兵入宿衞。仍遣レ使。以二羽檄一徵二天下兵一入援。越自帥レ兵討二石勒一。

○太傅東海王越、兵を遣はし入りて宿衞せしむ。仍りて使を遣はし、羽檄(一)を以て天下の兵を徵し、入り援けしむ。越自ら兵を帥ゐて石勒を討ち、軍に卒す。勒の兵、越の軍を敗り、太尉王衍等を執ふ。衍自ら言ふ、少きより宦情(二)無く、世事に豫らずと。勒曰く、吾天下を行ること多けれど、未だ嘗て此輩(三)の人を見ず、尙ほ存

官立。及ニ帝世一。索頭分レ國爲ニ三部一。一居ニ上谷之北一。祿官自統レ之。一居ニ代郡參合陂之北一。使ニ兄子猗㐌統一レ之。一居ニ定襄之盛樂故城一。使ニ猗㐌弟猗盧統一レ之。晉人附者稍衆。猗㐌渡レ漠北巡。西略ニ諸國一。降附者三十餘國。拓跋氏之盛始ニ於此一。夷狄亂レ華之禍。皆萌ニ蘖於漢魏晉閒一。至ニ帝之世一。乘ニ中國大亂一始四起。帝在位十七年。改元者五。曰元康。永康。大安。永興。光熙。太弟立。是爲ニ孝懷皇帝一。

魏・晉の閒に萌蘖(四)し、帝の世に至り、中國の大亂に乘じて、始めて四に起れり。

帝、在位十七年。改元する者五。曰く、元康・永康・大安・永興・光熙。太弟立つ。是を孝懷皇帝と爲す。

(一)鮮卑の部別也、其風俗、索(ナハ)にて髮を辮するより索頭といふ　(二)子を人質として晉に居らしめたるか　(三)中華、中國　(四)ひこばえ也、其事のきざすをいふ

孝懷皇帝。名熾。當ニ惠帝之十五年一。武帝子二十五人。

孝懷皇帝

孝懷皇帝、名は熾。惠帝の十五年に當り、武帝の子二十五人。兄弟相屠るの餘、存する者三人のみ。熾は其一也。素より學を好む。故に立ちて太弟と爲る。

斬二其首一。弟流代領二其衆一。衆復盛。流死。弟雄代。攻走二羅尚一。入二成都一。至レ是自稱二成都王一。

(一)他州より流れ入る者をいふ

鮮卑慕容廆。自二武帝時一已爲レ寇。既而降。以爲二鮮卑都督一。(一)生レ皝。自二遼東一徙居二徒河一。又徙二大棘城一。及二帝世一。慕容部愈盛。鮮卑索頭拓跋氏。先レ是有二質子一在レ晉。武帝遣歸。既而拓跋力微。又遣二其子一入貢。力微死。子悉祿

○鮮卑の慕容廆、武帝の時より已に寇を爲す。既にして降る。以て鮮卑の都督と爲す。廆、皝を生む。遼東より徙りて徒河に居り、又大棘城に徙る。帝の世に及び、慕容の部愈〻盛なり○鮮卑の索頭拓跋氏、是より先質子有り、晉に在り。武帝遣り歸す。既にして拓跋力微、又其子を遣はして入貢せしむ。力微死す。子悉祿官立つ。帝の世に及び、索頭、國を分ちて三部と爲す。一は上谷の北に居り、祿官自ら之を統ぶ。一は代郡參合陂の北に居り、兄の子猗㐌をして之を統べしむ。一は定襄の盛樂の故城に居り、猗㐌の弟猗盧をして之を統べしむ。晉人の附く者、稍衆し。猗㐌、漠を渡りて北に巡り、西のかた諸國を略す。降り附く者三十餘國。拓跋氏の盛なるは此に始まる。夷狄が華を亂るの禍は、皆漢

部大都督。成都王穎表爲二左賢王一。嘗使二將兵在一レ鄴。淵子聰亦驍勇絕レ人。博涉二經史一。善屬レ文。彎二弓三百斤一。淵從祖宣曰。漢亡以來。我單于徒有二虛號一。無二復尺土一。自餘王侯降同二編戶一。今吾衆雖レ衰。猶二萬。奈何斂レ手受レ役。奄過二百年一。司馬氏骨肉相殘。四海鼎沸。左賢王英武超レ世。復二呼韓邪之業一。此其時也。乃相與謀推レ之。淵說レ穎。請歸。帥二五部一來助。既至二左國城一。宣等推爲二大單于一。二旬閒。衆五萬。都二離石一。胡晉歸レ之者愈衆。乃建二國號一曰レ漢。稱二漢王一。淵有二族子曜一。生而眉白。目有二赤光一。幼聰慧。有二膽量一。亦好讀レ書屬レ文。射能洞レ鐵七寸。至レ是爲二淵將一。

く、目に赤光有り。幼にして聰慧、膽量(一〇)有り。亦好みて書を讀み文を屬す。射は能く鐵を洞すこと七寸。是に至りて淵の將と爲る。

㊀ 外孫 ㊁ 人にすぐれたること、俊異 ㊂ 學校 ㊃ 容貌偉大なり ㊄ 弓の力を量るに斤を以てす、蓋し三百斤は當時武人通常力量の二倍也 ㊅ 祖父の兄弟をいふ ㊆ 單于(匈奴の帝王の稱)其匈奴の天子たる名のみにて少しの領土も無し ㊇ 平民也、一般の戶籍に編入して貴賤の別なきをいふ ㊈ たちまち ㊉ 膽力と度量

巴西氏李特初以二流民一入レ蜀。旬月衆二萬。據二廣漢一。進攻二成都一。爲二刺史羅尚一所レ敗。

○巴西の氏李特、初め流民(一一)を以て蜀に入る。旬月にして衆二萬。廣漢に據り、進みて成都を攻め、刺史羅尚の爲に敗られ、其首を斬らる。弟流、代りて其衆を領す。勢復た盛なり。流、死す。弟雄代り、攻めて羅尚を走らせ、成都に入る。是に至りて自ら成都王と稱す。

豹爲二左部帥一。生レ淵。幼而儁異、博習二經史一。嘗曰、吾恥下隨陸無レ武。遇二高帝一。而不レ能レ建二封侯之業一。絳灌無レ文。遇二文帝一。而不レ能レ興二庠序之敎一。豈不レ惜哉。於レ是兼二學武事一。姿貌魁偉。初爲二侍子一在レ洛。豹死。武帝以レ淵代爲二五部帥一。既而爲二北部都尉一。五部豪傑多歸レ之。及二帝世一。以爲二五

ぶ。姿貌魁偉なり。初め侍子と爲りて洛に在り。豹死す。武帝淵を以て代りて五部の帥たらしむ。既にして北部都尉と爲る。五部の豪傑多く之に歸す。帝の世に及び、以て五部大都督と爲す。成都王穎、表して左賢王と爲し、嘗て兵に將として鄴に在らしむ。淵の子聰、亦驍勇人に絶す。博く經史に渉り、善く文を屬し、弓三百斤を彎く。淵の從祖宣曰く、漢亡びてより以來、我が單于徒らに虛號有りて、復た尺土無し。自餘の王侯は降りて編戸に同じ。今吾が衆衰へたりと雖も、猶二萬あり。奈何ぞ手を斂めて役を受け、奄として百年を過さんや。司馬氏、骨肉相殘ひ、四海鼎のごとく沸く。左賢王、英武世に超えたり。呼韓邪の業を復せんこと此れ其時なりと。乃ち相與に謀りて之を推す。淵、穎に說き、請ひ歸りて、五部を帥ゐて來り助けんとす。既に左國城に至れば、宣等、推して大單于と爲す。二旬の閒に衆五萬。離石に都す。胡・晉の之に歸する者愈〻衆し。乃ち國號を建てゝ漢と曰ひ、漢王と稱す。淵、族子に曜有り、生れながらにして眉白

何不レ食ニ肉糜一。華林園聞ニ蛙鳴一。帝曰。彼鳴者爲レ官乎。爲レ私乎。左右戲レ之曰。在ニ官地一者爲レ官。在ニ私地一者爲レ私。方ニ賈氏專レ政。時人知レ將レ亂。索靖指ニ洛陽宮門銅駝一。歎曰。會見ニ汝在ニ荊棘中一耳。趙王倫亂後。諸王迭相殘滅。天下大亂。

く、官地に在る者は官の爲にし、私地に在る者は私の爲にすと。賈氏が政を專らにするに方り、時の人將に亂れんとするを知る。索靖、洛陽宮門の銅駝を指し、歎じて曰く、會(三)ず汝(四)が荊棘の中に在るを見んのみと。趙王倫の亂後、諸王迭に相殘滅し、天下大に亂る。

(一) 粥殺 (二) 米が無くば何ぞ肉を粥にして食はざると也 (三) 必と同義 (四) 汝が叢中に横はるを見るべしと。國の亡ぶべき意を含めていふ也

劉淵興ニ于左國城一。淵故南匈奴之後。匈奴由ニ漢魏一以來。臣ニ中國一。其先世自以ニ漢甥一。冒ニ漢姓一。父

劉淵、左國城に興る。淵は故の南匈奴の後なり。匈奴は漢・魏より以來、中國に臣たり。其先世自ら漢の甥(一)なるを以て、漢姓を冒す。父豹、左部の帥と爲り、淵を生む。幼にして雋異、博く經史を習ふ。嘗て曰く、吾隨陸が武無くして、高帝に遇ひて、封侯の業(二)を建つること能はず、絳灌が文無くして、文帝に遇ひて、庠(三)序の敎を興すこと能はざりしを恥づ。豈惜しからずやと。是に於て武事を兼ね學

太弟。東海王越奉二帝命一征レ穎。穎遣レ兵拒二戰于蕩陰一。乘輿敗績。侍中嵇紹。以レ身衞レ帝。被レ殺。血濺二帝衣一。穎迎レ帝入レ鄴。左右欲レ浣二帝衣一。帝曰。嵇侍中血。勿レ浣也。穎奉レ帝還レ洛。顒將張方在レ洛。遷二帝於長安一。顒廢二太弟穎一。更立二豫章王熾一。爲二太弟一。東海王越發レ兵西入二長安一。奉レ帝還レ洛。以レ越輔レ政。成都王穎。先據二洛陽一。已而奔二長安一。又自二武關一奔二新野一。遂北濟レ河。收二故將士一。爲二頓丘太守一所レ執。時范陽王虓據レ鄴。送二穎於虓一。未レ幾被レ殺。

長安に入り、帝を奉じて洛に還り、越を以て政を輔けしむ。成都王穎、先に洛陽に據る。已にして長安に奔り、又武關より新野に奔り、遂に北のかた河を濟り、故の將士を收む。頓丘の太守の爲に執へらる。時に范陽王虓、鄴に據る。穎を虓に送る。未だ幾くならずして殺さる。

◎わが故郷里なる華亭の鶴の鳴き聲は、もはや再び聞く可からざらんと、其再び郷に歸り難きを歎ずる也◎
輿乘物、天子を指して斯くいふ也

帝食レ麪。中レ毒而崩。或曰。東海王越鴆レ之也。帝昏愚。天下大饑。帝曰。

帝、麪を食し、毒に中りて崩ず。或ひと曰く、東海王越之を鴆する也と。帝、昏愚なり。天下大に饑う。帝曰く、何ぞ肉糜を食はざると。華林園に蛙鳴を聞く。帝曰く、彼の鳴く者は官の爲にするか、私の爲にするかと。左右之に戲むれて曰

討レ倫。倫伏レ誅。

冏輔レ政。驕奢擅レ權。顒使二長沙王乂殺一レ之。穎亦恃レ功驕奢。已而與レ顒擧レ兵反。乂奉レ帝與レ穎戰。穎將陸機。戰敗被レ收。歎曰。華亭鶴唳可レ復聞一乎。與二弟雲一皆爲レ穎所レ殺。機雲皆陸抗子也。穎進レ兵入二京師一。爲二丞相一。已而還レ鄴。顒表レ穎爲二皇

冏、政を輔く。驕奢にして權を擅にす。顒、長沙王乂をして之を殺さしむ。穎も亦功を恃みて驕奢なり。已にして顒と兵を擧げて反す　乂、帝を奉じて穎と戰ふ。穎の將陸機、戰敗れて收へらる。歎じて曰く、華亭の鶴唳復た聞く可けんやと。弟雲と皆穎が爲に殺さる。機・雲は皆陸抗の子也。穎、兵を進めて京師に入り、丞相と爲る。已にして鄴に還る。顒、穎を表して皇太弟と爲す。東海王越、帝の命を奉じて穎を征す。穎、兵を遣はして蕩陰に拒ぎ戰ふ。乘輿敗績す。侍中嵆紹、身を以て帝を衞る。殺さる。血、帝の衣に濺ぐ。穎、帝を迎へて鄴に入る。左右、帝の衣を浣はんと欲す。帝曰く、嵆侍中の血也、浣ふこと勿れと。穎、帝を奉じて洛に還る。顒の將張方、洛に在り。帝を長安に遷す。顒、太弟穎を廢し、更に豫章王熾を立てゝ太弟と爲す。東海王越、兵を發して西のかた

后所生。后廢殺之。征西大將軍趙王倫。矯詔勒兵入宮。廢后殺之。殺張華裴頠。倫爲相國。淮南王允率兵討倫。不克死。倫殺衛尉石崇。崇有愛妾綠珠。倫嬖人孫秀求之。不與。秀誣崇。率允爲亂。收之。崇曰。奴輩利吾財耳。收者曰。知財爲禍。何不早散之。遂被殺。倫自加九錫。逼帝禪位。黨與皆爲卿相。奴卒亦加爵位。毎朝會。貂蟬盈坐。時人語曰。貂不足。狗尾續。齊王冏鎭許昌。成都王穎鎭鄴。河間王顒鎭關中。各舉兵

め兵を勒して宮に入り、后を廢して之を殺し、張華・裴頠を殺す。倫、相國と爲る。淮南王允、兵を率ゐて倫を討ち、克たずして死す。倫、衛尉石崇を殺す。崇に愛妾綠珠有り。倫の嬖人孫秀之を求む。與へず。秀、崇を誣ふ、允を奉じて亂を爲さんとすと。之を收ふ。(一)崇曰く、奴輩、吾が財を利するのみ。收ふる者曰く、財の禍たることを知らば、何ぞ早く之を散ぜざると。遂に殺さる。倫、自ら九錫を加へ、帝に逼りて位を禪らしむ。黨與皆卿相と爲り、奴卒も亦爵位を加ふ。朝會する毎に、(二)貂蟬坐に盈つ。時の人語りて曰く、(三)貂足らず、狗尾續ぐと。齊王冏、許昌に鎭し、成都王穎、鄴に鎭し、河間王顒、關中に鎭す。各々兵を舉げて倫を討つ。倫、誅に伏す。

(一) 愛妾者 (二) 貂蟬とは、貂の尾を飾とし蟬をつけて文としたる冠、侍中、中常侍等の冠なり、即ち其黨の者が座に一ぱいになりしなり (三) 貂蟬を著くべき德ある人無くして下賤の人を用ふとの喩

之曰。何物老嫗生二寧馨兒一。然誤二天下蒼生一者。未三必非二此人一也。衍弟澄及阮咸。咸從子脩。胡毋輔之。謝鯤。畢卓等。皆以二任放一爲レ達。醉裸不二以爲一レ非。比レ舍郎釀熟。卓夜至二甕閒一盜飲。爲二守者一所レ縛。旦視レ之畢吏部也。樂廣聞而笑レ之曰。名教中自有二樂地一。何必乃爾。初魏時。何晏等立レ論。以天地萬物。皆以レ無爲レ本。衍等愛二重之一。裴頠著二崇有論一。不レ能レ救。

しも此人に非ずんばあらざる也と。衍の弟澄及び阮咸・咸の從子脩・胡毋輔之・謝鯤・畢卓等、皆任放(二)を以て達と爲し、醉裸(三)して以て非と爲さず。舍を比ぶる郎が(四)釀熟す。卓、夜、甕の閒に至りて盜み飮み、守者の爲に縛せらる。旦に之を視れば畢吏部(五)也。樂廣聞きて之を笑ひて曰く、名教の中自ら樂地あり、何ぞ必らずしも乃ち爾るやと。初め魏の時、何晏等論を立つ。以へらく、天地萬物皆無を以て本とすと。衍等之を愛重す。裴頠、崇有論(六)を著はしたれども、救ふこと能はざりき。

(一) 此の如き子といふ意の當時の俗語。才智すぐれたるを歎じいふ也　(二) やりつぱなしに放任するを以て達人のこととなす　(三) 醉ひて裸となる　(四) 軒つゞきに住む郎官の家にて手づくりの酒が出來たり　(五) 吏部の官の畢卓　(六) 老莊派が主張する無に反對して有を崇ぶの論

太子遹非二賈

太子遹、賈后の生む所に非ず。后、廢して之を殺す。征西大將軍趙王倫、詔を矯

戎與レ時浮沈。無レ所ニ匡救一。性復貪吝。田園遍ニ天下一。執ニ牙籌一晝夜會計。家有ニ好李一。恐ニ人得ニ其種一。常鑽ニ其核一。凡所ニ賞拔一。專事ニ虛名一。阮咸之子瞻見レ戎。戎問曰。聖人貴ニ名敎一。老莊明ニ自然一。其旨異同。瞻曰。將無レ同。戎咨嗟良久。遂辟レ之。時號ニ三語掾一。

戎、時と與に(一)浮沈し、匡救する所無し。性、復た貪吝なり。田園天下に遍し。牙籌(二)を執りて、晝夜會計す。家に好李有り。人の其種を得んことを恐れて、常に其核を鑽る(三)。凡そ賞拔する所、專ら虛名を事とす。阮咸の子瞻、戎に見ゆ。戎問ひて曰く、聖人は名教を貴び、老莊は自然を明にす。其旨異なるか、同じきか。瞻曰く、將た(四)同じきこと無からんやと。戎、咨嗟すること良久し。遂に之を辟す。時に三語(五)の掾と號す。

(一) 時勢につれて世を渡り、君の過失を匡し救ふ所無し　(二) そろばん　(三) たねをきり、はえぬやうにする也　(四) 同じだといふ事を婉曲にいふ也。其他諸説あり案求の解參照　(五) 將無同の三言葉にて屬官となりしよりいふ

是時王衍樂廣。皆善ニ淸談一。衍神情明秀。少時。山濤見レ

是の時、王衍・樂廣、皆淸談を善す。衍、神情明秀なり。少き時、山濤之を見て曰く、何物の老嫗か寧馨兒(一)を生める。然れども天下の蒼生を誤る者は、未だ必らず

衷。性不慧。爲二太子一時。納二妃賈氏一。充之女也。多二權詐一。衞瓘嘗侍二武帝一。陽醉跪二手前一。以レ手撫レ牀曰。此座可レ惜。武帝悟。密二封尙書疑事一。令二太子決一レ之。賈氏大懼。倩二外人一具レ草代對。令二太子自寫一。武帝悅。得レ不レ廢。至レ是卽レ位。賈氏爲二皇后一。預レ政。皇太后楊氏乃帝母楊后之從妹。父駿爲二太傅一。賈后殺レ駿而廢二太后一。殺二太宰汝南王亮一。殺二太保衞瓘一。殺二楚王瑋一。以二衆望一用二張華裴頠王戎一。管二機要一。華盡二忠帝室一。后雖二凶險一。猶知二敬重一。與レ頠同レ心輔レ政。數年之閒雖二暗主在一レ上。而朝野安靜。

（二）權詐多し。衞瓘、嘗て武帝に侍し、陽り醉ひて前に跪き、手を以て牀を撫して曰く、此座惜む可しと。武帝悟る。尙書の疑事を密封し、太子をして之を決せしむ。賈氏大に懼れ、外人を倩ひ、草を具して代り對へしめ、太子をして自ら寫さしむ。武帝悅び、廢せられざるを得たり。是に至りて位に卽く。賈氏、皇后と爲り、政に預る。皇太后楊氏は、乃ち帝の母楊后の從妹なり。父駿、太傅と爲る。賈后、駿を殺して太后を廢し、太宰汝南王亮を殺し、太保衞瓘を殺し、楚王瑋を殺し、衆望を以て張華・裴頠・王戎を用ひて、機要を管せしむ。華、忠を帝室に盡す。后、凶險（三）なりと雖も、猶は敬重することを知る。頠と心を同じくして政を輔く。數年の閒、暗主上に在りと雖も、而も朝野安靜なり。

（一）おろかなり　（二）權謀詐術　（三）凶惡にして陰險

太極殿前ニ。以示レ儉。既而侈縦。後宮數千。常乘ニ羊車一。宮人插ニ竹葉于門一。洒レ鹽以待レ之。羊車所レ至。即留酣宴。與ニ羣臣一語。未ニ嘗有ニ經國遠謀一。自ニ吳既平一。謂ニ天下無事一。盡去ニ州郡武備一。山濤獨憂レ之。漢魏以來。羌胡鮮卑降者。多處ニ塞内諸郡一。郭欽嘗上疏謂。宜下及ニ平レ吳之威一。漸徙ニ内郡雜胡於邊地一。峻ニ四夷出入之防一。明中先王荒服之制上。帝不レ聽。卒爲ニ天下患一。帝在位改元者三。曰泰始。咸寧。太康。太子立。是爲ニ孝惠皇帝一。

國の遠謀有らず。吳、既に平ぎしより、天下無事なりと謂ひて、盡く州郡の武備を去る。山濤獨り之を憂ふ。漢魏以來、羌胡・鮮卑の降る者、多く塞内の諸郡に處る。郭欽嘗て上疏して謂ふ、宜しく吳を平ぐるの威に及びて、漸く内郡の雜胡を邊地に徙し、四夷出入の防ぎを峻くして、先王荒服の制を明かにすべしと。帝聽かず、卒に天下の患を爲す。帝、位に在りて改元する者三。曰く、泰始・咸寧・太康。太子立つ。是を孝惠皇帝と爲す。

（一）羊の頭の毛にて造れる皮衣　（二）わがまゝにして奢る　（三）羊は竹葉と鹽とを好むよりかくするなり

孝惠皇帝

孝惠皇帝。名

孝惠皇帝、名は衷。性不慧なり。（一）太子たりし時、妃賈氏を納る。充の女也。

船無所礙。遂先克上流諸郡。預遣人率奇兵夜渡。吳將懼曰。北來諸軍。乃飛渡江也。預分兵。與濬合。攻武昌降之。預謂兵威已振。譬如破竹。數節之後。迎刃而解。無復著手處也。遂指授羣帥方略。徑造建業。濬戎卒八萬。方舟百里。擧帆直指建業。鼓譟入石頭城。吳主皓。面縛輿櫬降。封歸命侯。遂符庚子入洛之讖。自大帝至是四世。稱帝者凡五十二年而亡。遡孫策定江東以來。通八十餘年。

げて直に建業を指し、鼓譟して石頭城に入る。吳主皓、面縛輿櫬(三)して降る。歸命侯に封ず。遂に庚子洛に入るの讖に符す(四)。大帝より是に至りて四世、帝と稱する者凡べて五十二年にして亡ぶ。孫策が江東を定めしより以來に遡れば、通じて八十餘年なり。

(一)江水のはとり、かはら　(二)大なるたいまつ　(三)うしろ手にしばり顔を前に出すこと、一說に手を前方にてしばること、輿櫬は棺を車に載せて後ろに從へ、死を待つの意を表す　(四)豫言に符合す

晉代魏十有六年。至太康元年而滅吳。又十年帝崩。帝初卽位。嘗焚雉頭裘於

晉、魏に代りて十有六年、太康元年に至りて吳を滅し、又十年にして帝崩ず。帝初めて位に卽き、嘗て雉頭裘(二)を太極殿の前に焚きて、以て儉を示す。既にして侈縱(一)なり。後宮數千あり。常に羊車に乗る。宮人、竹葉(三)を門に插み、鹽を灑ぎて以て之を待つ。羊車の至る所、卽ち留りて酣宴す。羣臣と語るに、未た嘗て經

昏亂。遺二落世事一。士大夫皆慕二效之一。謂二之放達一。惟濤仍留二意世事一。至レ是典レ選。甄二拔人物一。各爲二題目一而奏レ之。時人稱レ之爲二山公啓事一。

晉大擧伐レ吳。杜預出二江陵一。王濬下二巴蜀一。吳人於二江磧要害處一。竝以二鐵鎖一。橫レ江截レ之。又作二鐵錐長丈餘一。暗置二江中一。逆二拒舟艦一。濬作二大筏一。令二善レ水者一。以レ筏先行。遇レ錐輒著レ筏而去。又作二大炬一。灌以二麻油一。遇レ鎖燒レ之。須臾融液斷絕。於レ是

○晉、大擧して吳を伐つ。杜預は江陵より出で、王濬は巴蜀より下る。吳人、江(一)磧要害の處に於て、竝に鐵鎖を以て江を橫りて之を截つ。又鐵錐の長さ丈餘なるを作り、暗に江中に置きて、舟艦を逆へ拒ぐ。濬、大筏を作り、水を善くする者をして、筏を以て先行し、錐に遇へば輒ち筏を著けて去らしむ。又大炬(二)を作り、灌ぐに麻油を以てし、鎖に遇へば之を燒く。須臾に融液して斷絕す。是に於て船、礙る所無く、遂に先づ上流諸郡に克つ。預、人を遣し奇兵を率ゐて夜渡らしむ。吳の將懼れて曰く、北來の諸軍、乃ち江を飛び渡ると。預、兵を分ち、濬と合して、武昌を攻め之を降す。預謂へらく兵威已に振ふ、譬へば竹を破るが如し。數節の後は、刃を迎へて解く。復た手を著くる處無しと。遂に羣帥に方略を指授し、徑に建業に造る。濬が戎卒八萬、舟を方ぶること百里、帆を擧

者多不レ同。祜歎曰。天下不レ如レ意事。十常七八。惟杜預張華贊ニ其計一。祜病。求ニ入レ朝面陳一。晉帝欲レ使ニ祜臥護ニ諸將一。祜曰。取レ呉不レ必ニ臣行一。但平レ呉之後。當レ勞ニ聖慮一耳。祜卒。以ニ杜預一爲ニ鎭南大將軍一。督ニ荊州軍事一。呉主皓淫虐日甚。預表請ニ速征一レ之。表至。張華適與レ帝碁。即推レ枰斂レ手。贊ニ其決一。帝許レ之。

山濤告レ人曰。自レ非ニ聖人一。外寧必有ニ內憂一。釋レ呉爲ニ外懼一。豈非レ算乎。時濤爲ニ吏部尚書一。濤昔在ニ魏晉之閒一。與ニ嵆康。阮籍。籍兄子咸。向秀。王戎。劉伶一相友。號ニ竹林七賢一。皆崇ニ尚老莊虛無之學一。輕ニ蔑禮法一。縱レ酒

山濤人に告げて曰く、聖人に非ざるよりは、外寧ければ必ず內の憂有り。呉を釋して外の懼と爲すこと、豈算(一)に非ず乎と。時に濤、吏部尚書たり。濤、昔魏晉の閒に在りて、嵆康・阮籍・籍が兄の子咸・向秀・王戎・劉伶と相友とし、竹林の七賢と號す。皆老莊虛無の學を崇め尙び、禮法を輕蔑し、酒を縱(二)にして酣し、世事を遺落す。士大夫皆之を慕ひ效ひ、之を放達(三)と謂ふ。惟だ濤のみ仍ほ意を世事に留む。是に至りて選を典り(四)、人物を甄拔(五)し、各々題目を爲りて之を奏す。時の人之を稱して山公の啓事(六)と爲す。

(一) 寧ろ得策ならずや　(二) 沈醉して、世間の事を度外におく　(三) なげやりにして、氣まゝに、自然の大道に通達す　(四) 人物選擧を掌り　(五) 見わけえりぬく　(六) 申立ての意

人羊叔子哉。祜務修二德政一。以懷二吳人一。每レ交レ兵。剋レ日方戰。不二掩襲一。抗亦告二其邊戍一。各保二分界一而已。毋レ求二細利一。時吳主皓。不レ修二德政一。而欲二兼幷一。使二術士筮一レ取二天下一。對曰。庚子歲。青蓋當レ入二洛陽一。蓋謂二銜レ璧之事一。而皓不レ悟。用二諸將謀一。數侵二盜晉邊一。抗諫不レ聽。抗卒。祜請レ伐レ吳。議

欲し、術士をして天下を取らんことを筮せしむ。對へて曰く、庚子の歲、青蓋、(六)當に洛陽に入るべしと。蓋し璧(七)を銜むの事を謂ふなり。而れども皓悟らず。諸將の謀を用ひて、數晉の邊を侵盜す。抗、諫むれども聽かず。抗、卒す。祜、吳を伐たんと請ふ。議する者多くは同ぜず。祜、歎じて曰く、天下意の如くならざる事、十に常に七八と。惟だ杜預・張華のみ其計を贊く。祜病む。朝に入りて面り陳べんことを求む。晉帝、祜をして臥しながら諸將を護せしめんと欲す。祜曰く、吳を取るは臣が行を必とせず。但だ吳を平ぐる後、當に聖慮を勞すべきのみと。祜卒す。杜預を以て鎭南大將軍と爲し、荊州の軍事を督せしむ。吳主皓、淫虐日に甚し。預、表して速に之を征せんと請ふ。表至る。張華適〻帝と棊す。(八) 即ち枰(九)を推し、手を斂めて其決を贊く。帝之を許す。

(一) 常々音信を通じて相親む　(二) 調合したる藥　(三) 毒害　(四) 日限を定めて敵に通知す　(五) 不意討をせず　(六) 王の青蓋の車　(七) 璧を口に含みて降參すること　(八) 碁を圍む　(九) ごばんを推しのけ碁の手を止む

昭之子。懿之孫也。昭爲晉王。議立世子。議者以炎髮立委地。手垂過膝。非人臣之相。遂立。已而嗣爲王。卽帝位。追尊懿爲宣皇帝。師爲景皇帝。昭爲文皇帝。大封宗室。

膝を過ぎ、人臣の相に非るを以て、遂に立つ。已にして嗣ぎて王と爲り、帝位に卽く。懿を追尊して宣皇帝と爲し、師を景皇帝と爲し、昭を文皇帝と爲し、大に宗室(二)を封ず。

(一) 髮長くして立てば地に引きずる　(二) 司馬の一家一門

晉有滅吳之志。以羊祜都督荊州事。吳以陸抗都督諸軍。祜與抗對境。使命常通。抗遺祜酒。祜飲之不疑。抗疾。祜與之成藥。抗卽服之曰。豈有酖

晉、吳を滅すの志有り。羊祜を以て荊州の事を都督せしむ。吳、陸抗を以て諸軍を都督せしむ。祜、抗と境を對し、使命(一)常に通ず。抗、祜に酒を遺る。祜之を飲みて疑はず。抗疾む。祜之に成藥(二)を與ふ。抗卽ち之を服して曰く、豈人を酖(三)する羊叔子有らんやと。祜、務めて德政を修めて、以て吳人を懷く。兵を交ふる每に、日を刻して(四)方に戰ひて、掩襲(五)せず。抗も亦其邊戍に告ぐ、各々界を保つのみ、細利を求むること毋れと。時に吳主皓、德政を修めず。而して兼幷せんと

曰二景皇帝一。兄子烏程侯皓立。魏司馬昭。先レ是已受二九錫一。已而進レ爵爲二晉王一。昭卒。子炎嗣。魏主奐。僭位六年。改元二。曰。景元。咸熙。炎迫二魏主一禪レ位。封爲二陳留王一。後卒。晉人諡レ之曰レ元。魏自二曹丕一至レ是。凡五世四十六年而亡。自二漢亡一後。又歷二甲申一。闕二正統一。一年。

り先已に九錫を受く。已にして爵を進めて晉王と爲る。昭卒し、子炎嗣ぐ。魏主奐、僭位六年、改元するもの二。曰く景元・咸熙。炎、魏主に迫りて位を禪らしめ、封じて陳留王と爲す。後卒す。晉人之に諡して元と曰ふ○魏、曹丕より是に至りて、凡べて五世、四十六年にして亡ぶ○漢亡びてより後、又甲申を歷て正統を闕くこと一年なりき。

西晉

西晉世祖武皇帝

西晉世祖武皇帝。姓司馬。名炎。河內人。

西晉世祖武皇帝、姓は司馬、名は炎、河內の人、昭の子、懿の孫也。昭、晉王と爲り、世子を立てんことを議す。議する者、炎が髮、立てば地に委し、手、垂るれば

兵卒至。不爲城守。乃遣使。奉璽綬。詣艾降。皇子北地王諶怒曰。若理窮力屈。禍敗將及。便當父子君臣背城一戰。同死社稷。以見先帝可也。奈何降乎。帝不聽。諶哭於昭烈之廟。先殺妻子。而後自殺。艾至成都。帝出降。魏封爲安樂公。帝在位四十一年。改元者四。曰建興。延熙景耀。炎興。右自高帝元年乙未。至後帝禪炎興癸未。凡二十六帝。通四百六十九年而漢亡。

て、艾に詣りて降る。皇子北地王諶、怒りて曰く、若し理窮り力屈して、禍敗將に及ばんとせば、便ち當に父子君臣城を背にして一戰し、同じく社稷に死して、以て先帝に見えて可なるべし。奈何ぞ降らんと。帝聽かず。諶。昭烈の廟に哭し、先づ妻子を殺し、而る後に自殺す。艾、成都に至る。帝出で降る。魏封じて安樂公と爲す。帝在位四十一年。改元する者四。曰く、建興・延熙・景耀・炎興。右、高帝の元年乙未より、後帝禪の炎興癸未に至るまで、凡そ二十六帝、通じて四百六十九年にして漢亡ぶ。

(一) 勢力屈して理の伸ぶべきなく　(二) 國家のために死す

呉主休殂。諡

○呉主休、殂す。諡して景皇帝と曰ふ。兄の子烏程侯皓立つ○魏の司馬昭、是よ

會從斜谷駱谷子午谷。趣漢中。艾自狄道。趣甘松沓中。以綴姜維。維聞會已入漢中。引兵從沓中還。艾追躡之。大戰。維敗走。還守劍閣。以拒會。艾進至陰平。行無人之地七百里。鑿山通道。造作橋閣。山高谷深。艾以氈自裹。推轉而下。將士皆攀木緣崖。魚貫而進。至江油。以書誘漢將諸葛瞻。瞻斬其使。列陣綿竹以待。敗績。漢將軍諸葛瞻死之。瞻子尚曰。父子荷國重恩。不早斬黃皓。使敗國殄民。用生何爲。策馬冒陣而死。

り還る。艾之を追躡して大に戰ふ。維敗れ走り、還りて劍閣を守りて、以て會を拒ぐ。艾進んで陰平に至り、無人の地を行くこと七百里、山を鑿ち道を通じ、橋(二)閣を造作す。山高く谷深し。艾、氈を以て自ら裹み、推轉(三)して下る。將士皆木を攀ぢ崖に緣り、魚貫(四)して進む。江油に至り、書を以て漢の將諸葛瞻を誘ふ。瞻其使を斬り、陣を綿竹に列ねて以て待つ。敗績す。漢の將軍諸葛瞻之に死す。瞻が子尚曰く、父子國の重恩を荷ふ。早く黃皓を斬らず、國を敗り民を殄さしむ。用て生くとも何をか爲さんと。馬を策ち陣を冒して死す。

㊀引き留む、牽制す　㊁はしやかけはし、即ち所謂蜀の棧道也　㊂ころがりて下る　㊃魚を目ざしにしたる如く一列單行にて進む

漢人不意。魏

○漢人の不意に、魏兵卒に至る。城守を爲さず。乃ち使を遣はし、璽綬を奉じ

魏主髦見二威權日去一。不レ勝二其忿一。曰司馬昭之心。路人所レ知也。率二殿中宿衛蒼頭官僮一。鼓譟出欲レ誅レ昭。昭之黨賈充。入與二魏主一戰。成濟抽レ戈。刺二魏主髦一。殞二于車下一。追廢爲二庶人一。

○魏主髦、威權日に去るを見て、其忿に勝へず。曰く、司馬昭の心は路人も知る所也と。殿中の宿衛・蒼頭・官僮を率ゐて、鼓譟して出で昭を誅せんと欲す。昭の黨賈充、入りて魏主と戰ひ、成濟、戈を抽きて、魏主髦を刺す。車下に殞つ。(一)追廢して庶人と爲す。僭位七年。改元する者二。曰く、正元、甘露。司馬昭、常道(三)鄉公璜を迎へ立つ。是を魏の元皇帝と爲す。常道鄉公元皇帝、初めの名は璜、燕王宇の子、操の孫也。年十五にして即位す。名を奐と改む。

(一) 下僕小童　(二) 車より落ちて息絶ゆ　(三) 死後に帝位を廢すること

僭位七年。改元者二。曰。正元。甘露。司馬昭迎二立常道鄉公璜一。是爲二魏元皇帝一。常道鄉公元皇帝。初名璜。燕王宇之子。操之孫也。年十五即位。改二名奐一。

漢姜維屢伐レ魏。司馬昭患レ之。遣二鄧艾鍾會一。將レ兵入寇。

○漢の姜維屢〻魏を伐つ。司馬昭之を患ふ。鄧艾、鍾會を遣はし、兵に將として入寇せしむ。會は斜谷・駱谷・子午谷より漢中に趨き、艾は狄道より甘松・沓中に趨きて、以て姜維を綴す。(一)維、會が已に漢中に入ると聞き、兵を引きて沓中よ

爲二大都督一。假二黃鉞一。揚州都督諸葛誕。起レ兵討レ昭。昭攻二殺之一。昭爲二相國一。封二晉公一。加二九錫一不レ受。

呉主亮親レ政。數出二中書一。視二太帝時舊事一。嘗食二生梅一。求レ蜜。蜜中有二鼠矢一。召二藏吏一問曰。黃門從レ爾求レ蜜邪。吏曰。向求不二敢與一。黃門不レ服。令レ破二鼠矢一。矢中燥。因大笑曰。若矢先在二蜜中一。中外俱濕。今外濕內燥。必黃門所爲也。詰レ之。果服。左右驚慄。大將軍孫綝。以二其多一レ所二難問一。稱レ疾不レ朝。以レ兵圍レ宮。廢レ亮爲二會稽王一。迎二立琅邪王休一。休立。以レ綝爲二丞相一。綝又無レ禮二於新君一。遂被レ誅。

○呉主亮、政を親らす。數〻中書に出でゝ太帝の時の舊事を視る。嘗て生梅を食ひて、蜜を索む。蜜中、鼠矢有り。藏吏を召して問ひて曰く、黃門、爾より蜜を求めしか。吏曰く、向に求めしも敢て與へざりきと。黃門服せず。鼠矢を破らしむ。矢中燥く。因りて大笑して曰く、若し矢、先より蜜中に在らば、中外俱に濕はん。今外濕ひて內燥く。必ず黃門の所爲ならんと。之を詰れば、果して服せり。左右驚き慄く。大將軍孫綝、其難問する所多きを以て、疾と稱して朝せず、兵を以て宮を圍み、亮を廢して會稽王と爲し、琅邪王休を迎へ立つ。休立つ。綝を以て丞相と爲す。綝又新君に禮無し。遂に誅せらる。

● 梅を漬けんとて蜜を索む、內に鼠の糞あり、これ宦官が倉番を怨み其落度にせんとて爲したる也

漢費禕汎愛不レ疑。降人刺二殺之一。姜維用レ事。數出レ兵攻レ魏。

魏李豐數爲二魏主一所レ召。司馬師知二其議一レ己殺レ之。魏主不レ平。左右勸レ誅レ師。魏主不二敢發一。師廢二魏主一。僭位十六年。改元者二。曰正始。嘉平。師迎二立高貴鄕公一。是爲二廢帝一。名髦。文帝之孫。明帝之姪。年十四卽位。

○魏の李豐、數〻魏主の爲に召さる。司馬師、其(一)己を議するを知りて之を殺す。魏主平ならず。左右、師を誅せんことを勸む。魏主敢て(二)發せず。師、魏主を廢す。僭位十六年。改元する者二。曰く、正始・嘉平。師、高貴鄕公を迎へ立つ。是を廢帝と爲す。名は髦、文帝の孫、明帝の姪なり。年十四にして卽位す。

(一) 自分の事をそしる (二) 誅戮の事を擧行せず

揚州都督毌丘儉。刺史文欽。起レ兵討二司馬師一。師擊二敗之一。師卒。弟昭爲二大將軍一。錄二尙書事一。已而

○揚州の都督毌丘儉、刺史文欽、兵を起して司馬師を討つ。師、擊ちて之を敗る。師卒す。弟昭、大將軍と爲り、尙書の事を錄す。已にして大都督と爲り、黃(一)鉞を假る。揚州の都督諸葛誕、兵を起して昭を討つ。昭之を攻め殺す。昭、相國と爲り、晉公に封ぜらる。九錫を加ふれども受けず。

(一) 天子の有する黃金を以て飾りたる斧、卽ち之を假りて賞罰を擅にするなり

魏曹爽驕奢無レ度。司馬懿殺レ之。懿爲二魏丞相一。加二九錫一不レ受。爽之黨夏侯覇奔レ蜀。姜維問レ之曰。懿得レ政。復有二征伐志一否。覇曰。彼營二立家門一。未レ遑二外事一。有二鍾士季者一。雖レ少。若管二朝政一。呉蜀之憂也。

○魏の曹爽、驕奢度無し。司馬懿之を殺す。懿、魏の丞相と爲る。(一)九錫を加ふれども受けず。爽の黨の夏侯覇、蜀に奔る。姜維之に問ひて曰く、懿、政を得たり。復た征伐の志有りや否や。覇曰く、(二)彼家門を營立して、未だ外の事に遑あらず。鍾士季といふ者有り。少しと雖も、若し朝政を管せば、呉・蜀の憂ならんと。

(一)帝王より、大功ありし權臣に、特に賜はる優遇のしるし　(二)自己の家門を盛ならしむるに營々たる者なれば、他國を征伐する如き遑なし

魏司馬懿卒。以二其子師一。爲二撫軍大將軍一。錄二尙書事一。呉主殂。諡曰二太皇帝一。子亮立。

○魏の司馬懿卒す。其子師を以て、撫軍大將軍と爲し。尙書の事を錄せしむ○呉主殂す。諡して太皇帝と曰ふ。子亮立つ○漢の費禕、(一)汎く愛して疑はず。降人之を刺し殺す。姜維、事を用ひ、數〻兵を出して魏を攻む。

(一)博愛にして人を疑はず、遂に魏の降人郭循に殺さる

銅。鑄ニ銅人二一。列ニ坐於司馬門外一。號曰ニ翁仲一。起ニ土山於芳林園一。植ニ雜木善草一。捕ニ禽獸一致ニ其中一。諫者皆不レ納。魏主有レ疾召ニ司馬懿一入朝。以ニ曹爽一爲ニ大將軍一。魏主叡殂。僭位十四年。改元者三。曰太和。青龍。景初。子芳立。是爲ニ廢帝邵陵厲公一。芳八歳卽位。司馬懿曹爽受ニ遺詔一輔レ政。懿爲ニ太傅一。

青龍・景初。子の芳立つ。是を廢帝邵陵の厲公と爲す。芳八歳にして卽位す。司馬懿・曹爽、遺詔を受けて政を輔く。懿を太傅と爲す。

㊀ 土木 ㊁ 皆秦の始皇の遺物。鐘虡は神獸を臺の飾とせし鐘、橐駝は駱駝の鑄物

漢自ニ丞相亮既亡一。蔣琬爲レ政。楊敏毀レ琬曰。作レ事憒憒。不レ及ニ前人一。或請レ推ニ治敏一。琬曰。吾實不レ如ニ前人一。無レ可レ推。琬卒。費禕董允爲レ政。公亮盡レ忠。允卒。姜維與ニ費禕一竝爲レ政。

○漢は丞相亮既に亡びしより、蔣琬政を爲す。楊敏、琬を毀りて曰く、事を作すこと憒憒たり㊀、前人㊁に及ばずと。或ひと敏を推治㊂せんと請ふ。琬曰く、吾實に前人に如かず、推す可き無しと。琬卒す。費禕・董允政を爲す。公亮㊃にして忠を盡す。允卒す。姜維、費禕と竝に政を爲す。

㊀ 心亂れ行き屆かず ㊁ 孔明をいふ ㊂ 推問 ㊃ 公明

道。刑政雖ㇾ峻。而無二怨者一。眞識ㇾ治之良材。而謂下其材長二於治上ㇾ國。將略非ㇾ所ㇾ長。則非也。初丞相亮。背表二於帝一曰。臣成都有二桑八百株。薄田十五頃一。子弟衣食。自有ㇾ餘。不三別治ㇾ生。以長二尺寸一。臣死之日。不ㇾ使下內有二餘帛一。外有二贏財一。以負中陛下上。至ㇾ是卒。如二其言一。諡二忠武一。

株、薄田(三)十五頃有り。子弟の衣食、自ら餘有り。別に生を治めて、以て尺寸を長ぜず(四)。臣死するの日、内に餘帛有り、外に贏財(五)有りて、以て陛下に負かしめずと。是に至りて卒す。其言の如し。忠武と諡す。

(一)陳壽の蜀志の評を指す　(二)きびし　(三)やせ田　(四)聊かにても財産を延ばす如き事をせず　(五)餘財

魏主性好二土功一。先ㇾ是既治二許昌宮一。後又作二洛陽宮一。徙二長安鐘簴橐駝銅人承露盤於洛陽一。盤折聲聞二數十里一。銅人重不ㇾ可ㇾ致。乃大發

○魏主、性土功を好む。是より先既に許昌宮を治む。後又洛陽宮を作り、長安(一)の鐘簴・橐駝(二)・銅人・承露盤を洛陽に徙す。盤、折れて、聲數十里に聞ゆ。銅人は重くして致す可らず。乃ち大に銅を發して、銅人二を鑄、司馬門外に列坐せしめ、號して翁仲と曰ふ。土山を芳林園に起し、雜木善草を植ゑ、禽獸を捕へて其中に致す。諫むる者皆納れず○魏主疾有り。司馬懿を召して入朝せしめ、曹爽を以て大將軍と爲す。魏主叡、殂す。僭位十四年。改元する者三。曰く、太和・

其寢食及事煩簡。而不レ及ニ戎事一。使者曰。諸葛公夙興夜寐。罰二十以上皆親覽。所ニ噉食一不レ至ニ數升一。懿告レ人曰。食少事煩。其能久乎。亮病篤。有ニ大星一。赤而芒。墜ニ亮營中一。未レ幾亮卒。長史楊儀整レ軍還。百姓奔告レ懿。懿追レ之。姜維令ニ儀反レ旗鳴レ鼓一。若レ將レ向レ懿。懿不ニ敢逼一。百姓爲ニ之諺一曰。死諸葛走ニ生仲達一。懿笑曰。吾能料レ生。不レ能レ料レ死。亮嘗推ニ演兵法一。作ニ八陣圖一。至レ是懿案ニ行其營壘一。歎曰。天下奇材也。

長く曳ける尾 (八) 懿の字 (九) 古への兵法をおしひろめて

亮爲レ政無レ私。馬謖素爲レ亮所レ知。及レ敗レ軍。流涕斬レ之。而卹ニ其後一。李平廖立皆爲レ亮所レ廢。及レ聞ニ亮之喪一。皆歎息流涕。卒至ニ發レ病死一。史稱。亮開ニ誠心一。布ニ公

亮、政を爲すと私無し。馬謖素より亮の爲に知らる。軍を敗るに及び、流涕して之を斬り、而して其後を卹む。李平・廖立、皆亮の爲に廢せらる。亮の喪を聞くに及び、皆歎息流涕し、卒に病を發して死するに至る。(二)史に稱す、亮、誠心を開き、公道を布く。刑政峻なり(一)と雖も、而も怨むる者無し。眞に治を識るの良材なりと。而して其材、國を治むるに長じて、將略は長ずる所に非ずと謂ふは、則ち非也。初め丞相亮、嘗て帝に表して曰く、臣、成都に桑八百

民休レ士。三年而後用レ之。於二衆十萬一。又出二斜谷口一伐レ魏。進軍二渭南一。魏大將軍司馬懿引レ兵拒守。亮以下前者數出。皆運糧不レ繼。使中己志不上伸。乃分レ兵屯田。耕者雜二於渭濱居民之間一。而百姓安堵。軍無レ私焉。亮數挑二懿戰一。懿不レ出。乃遺以二巾幗婦人之服一。亮使者至二懿軍一。懿問二

使者懿の軍に至る。懿、其寢食及び事の煩簡を問ひ、而して戎事(五)に及ばず。使者曰く、諸葛公夙に興き夜に寐ね、罰(六)二十以上は皆親ら覽る。噉食する所數升に至らずと。懿人に告げて曰く、食少くして事煩はし。其れ能く久しからんやと。亮病篤し。大星有り、赤くして芒(七)あり。亮が營中に墮つ。未だ幾くならずして亮卒す。長史楊儀、軍を整へて還る。百姓奔りて懿に告ぐ。懿之を追ふ。姜維、儀をして旗を反し鼓を鳴らし、將に懿に向はんとするが若くせしむ。懿敢て逼らず。百姓之が諺を爲りて曰く、死せる諸葛、生ける仲達(八)を走らしむと。懿笑ひて曰く、吾能く生を料りたれど、死を料ること能はずと。亮嘗て(九)兵法を推演して八陣の圖を作る。是に至り懿其營壘を案行し、歎じて曰く、天下の奇材也と。

(一) 伏せ置きたる弩弓　(二) 糧食を運ぶ小車、其運轉自在なるよりかくいふ　(三) 倉を修理す、軍糧を藏せんため也　(四) 婦人の髮飾、之を贈りて其丈夫の志なきを辱しむる也　(五) 軍事　(六) むちうつこと二十以上なる罰　(七)

爲㆓長沙桓王㆒。已而遷㆓都建業㆒。

蜀漢丞相亮。又伐㆑魏圍㆓祁山㆒。魏遣㆓司馬懿㆒督㆓諸軍㆒拒㆑亮。懿不㆓肯戰㆒。賈詡等曰。公畏㆑蜀如㆑虎。奈㆓天下笑㆒何。懿乃使㆓張郃向㆒㆑亮。亮逆戰。魏兵大敗。亮以㆓糧盡㆒退㆑軍。郃追㆑之。與㆑亮戰。中㆓伏弩㆒而死。亮還勸㆑農講㆑武。作㆓木牛流馬㆒。治㆓邸閣㆒。息㆑

○蜀漢の丞相亮、又魏を伐ち祁山を圍む。魏、司馬懿を遣はし諸軍を督して亮を拒がしむ。懿肯て戰はず。賈詡等曰く、公、蜀を畏るゝこと虎の如し。天下の笑を奈何せんと。懿乃ち張郃をして亮に向はしむ。亮逆へ戰ふ。魏の兵大に敗る。亮、糧の盡きしを以て軍を退く。郃之を追ひて、亮と戰ひ、伏弩(一)に中りて死す。亮還りて農を勸め武を講じ、木牛・流馬(二)を作り、邸閣(三)を治し、民を息はしめ、士を休め、三年にして後に之を用ひ、衆十萬を悉し、又斜谷口より魏を伐ち、進みて渭南に軍す。魏の大將軍司馬懿、兵を引きて拒ぎ守る。亮、前者數〻出でゝ、皆運糧繼がず、己が志をして伸びざらしめしを以て、乃ち兵を分ちて屯田す。耕す者渭濱居民の間に雜はれども、而も百姓安堵し、軍に私無し。亮數〻懿に戰を挑む。懿出でず。乃ち遺るに巾幗婦人の服(四)を以てす。亮が

攻二郿一出。戎陣整齊號令明肅。始魏以二昭烈既崩一數歲寂然無レ聞略無レ所レ備。猝聞二亮出一朝野恐懼。於レ是天水安定等郡。皆應レ亮。關中響震。魏主如二長安一遣二張郃拒一レ之。亮使下馬謖督二諸軍一戰中于街亭上謖違二亮節度一郃大破レ之。亮乃還二漢中一已而復言二於漢帝一曰。漢賊不二兩立一王業不二偏安一臣鞠躬盡レ力。死而後已。至二於成敗利鈍一非三臣所二能逆一視一也引レ兵出二散關一圍二陳倉一不レ克。吳王孫權自稱二皇帝於武昌一追二尊父堅一爲二武烈皇帝一兄策

に崩じ、數歲寂然として聞くこと無きを以て、略ぼ備ふる所無し。猝に亮の出づるを聞き、朝野恐れ懼る。是に於て天水・安定等の郡、皆亮に應じ、關中響震す。魏主、長安に如き、張郃をして之れを拒がしむ。亮、馬謖をして諸軍を督し、街亭に戰はしむ。謖、亮が節度に違ふ。郃大に之を破る。亮乃ち漢中に還る。已にして復た漢帝に言して曰く、漢・賊兩立せず、王業偏安せず。臣、鞠躬して力を盡し、死して後に已まん。成敗利鈍に至りては、臣が能く逆め覩る所に非ずと。兵を引きて散關より出で、陳倉を圍む。克たず○吳王孫權自ら皇帝と武昌に稱し、父堅を追尊して、武烈皇帝と爲し、兄策を長沙桓王と爲す。已にして建業に遷都す。

(一) 兵器陣伍よくとゝのひ　(二) ひつそりとして出陣等の聞えもなき故　(三) 節制法度、さしづ　(四) 王者の業は、蜀都の一方にかたより安んずべからず　(五) 身をかゞめて從事し、他を顧みざる貌

其刑賞。以昭平明之治。親賢臣。遠小人。此先漢所以興隆也。親小人。遠賢臣。此後漢所以傾頽也。臣本布衣。躬耕南陽。苟全性命於亂世。不求聞達於諸侯。先帝不以臣卑鄙。猥自枉屈。三顧臣於草廬之中。諮臣以當世之事。由是感激。許先帝以驅馳。先帝知臣謹慎。臨崩。寄以大事。受命以來。夙夜憂懼。恐付託不效。以傷先帝之明。故五月渡瀘。深入不毛。今南方已定。兵甲已足。當奬率三軍。北定中原。興復漢室。還于舊都。此臣所以報先帝而忠陛下之職分也。遂屯漢中。

に許すに驅馳を以てす。先帝臣が謹慎なるを知り、崩ずるに臨み、寄するに大事を以てす。命を受けてより以來、夙夜憂懼し、(五)付託の效あらずして、以て先帝の明を傷けんことを恐る。故に五月瀘を渡りて、深く(六)不毛に入る。今南方已に定まり、兵甲已に足る。當に三軍を奬率して、北のかた中原を定むべし。漢室を興復し、舊都に還すは、此れ臣が先帝に報いて陛下に忠なる所以の職分也と。遂に漢中に屯す。

(一)お耳を開きて忠諫の言を聞かるべし　(二)善を進め、惡を罰す　(三)名聞利達　(四)その身を枉げ屈む　(五)御依託を受けし甲斐なく　(六)草木も生ぜざる荒地

明年率大軍。

○明年大軍を率ゐて、祁山を攻む。(一)戎陣整齊、號令明肅なり。始め魏、昭烈既

幼安。自二東漢末一。避二地遼東一。三十七年。魏徵レ之。乃浮レ海西歸。拜レ官不レ受。

之を徵す。乃ち海に浮びて西に歸る。官に拜せんとすれども受けず。

(一) 亂のために漢の地を避けて遼東に居る

漢丞相亮。率二諸軍一。北伐レ魏。臨レ發上疏曰。今天下三分。益州疲弊。此危急存亡之秋也。宜レ開二張聖聽一。不レ宜レ塞二忠諫之路一。宮中府中俱爲二一體一。陟二罰臧否一。不レ宜二異同一。若有二作レ姦犯レ科。及忠善者一。宜下付二有司一。論二

○漢の丞相亮、諸軍を率ゐて、北のかた魏を伐つ。發するに臨み、上疏して曰く、今天下三分し、益州疲弊せり。此れ危急存亡の秋也。宜しく聖聽(一)を開張すべく、宜しく忠諫の路を塞ぐべからず。宮中・府中俱に一體たり。臧否(二)を陟罰し、宜しく異同あるべからず。若し姦を作し科を犯し、及び忠善の者有らば、宜しく有司に付して、其刑賞を論じ、以て平明の治を昭にすべし。賢臣を親み、小人を遠くるは、此れ先漢の興隆せし所以也。小人を親み、賢臣を遠くるは、此れ後漢の傾頽せし所以也。臣本布衣、躬ら南陽に畊し、苟も性命を亂世に全うして、聞達を諸侯に求めず。先帝、臣が卑鄙を以はず、猥りに自ら枉屈(三)して臣を草廬(四)の中に三顧し、臣に諮ふに當世の事を以てす。是に由りて感激し、先帝

威也。南人不ニ復反一矣。

魏主又以ニ舟師一臨レ呉。見ニ波濤洶湧一。歎曰。嗟乎固天所三以限ニ南北一也。

○魏主、又舟師を以て呉に臨む。波濤の洶湧㊀するを見て、歎じて曰く、嗟乎、固に天の南北を限る所以也㊁と。

㊀ わきたつ ㊁ 天が南呉北魏を中断するために設けしものならん

魏主丕殂。僭位七年。改元者一。曰黄初。謚曰ニ文皇帝一。子叡立。是爲ニ明帝一。叡母被レ誅。丕嘗與レ叡出獵。見ニ子母鹿一。既射ニ其母一。使三叡射ニ其子一。叡泣曰。陛下已殺ニ其母一。臣不レ忍レ殺ニ其子一。丕惻然。及レ是爲レ嗣卽レ位。

○魏主丕、殂す。僭位七年。改元する者一。曰く、黄初。謚して文皇帝と曰ふ。子の叡立つ。是を明帝と爲す。叡が母誅せらる。丕嘗て叡と出て獵し、子母の鹿を見る。既に其母を射、叡をして其子を射しむ。叡泣きて曰く、㊀陛下已に其母を殺す。臣其子を殺すに忍びずと。丕惻然㊁たり。是に及びて嗣と爲り位に卽く。

㊀ 暗に其生母の誅せられしを悲む也 ㊁ あはれみいたむ貌

處士管寧。字

○處士管寧、字は幼安、東漢の末より、㊀地を遼東に避くること三十七年。魏、

集二衆思一、廣二忠益一也。若遠二小嫌一、難二相違覆一、曠闕損矣。亮乃遣二鄧芝一、使二吳修一レ好。芝見二吳王一曰、蜀有二重險之固一、吳有二三江之阻一、共爲二脣齒一、進可レ兼二幷天下一、退可二鼎足而立一。吳遂絕レ魏、專與レ漢和。

魏主以二舟師一擊レ吳。吳列二艦于江一。江水盛長。魏主臨望歎曰、我雖レ有二武夫千羣一、無レ所レ施也。於レ是還レ師。

○魏主舟師を以て吳を擊つ。吳、艦を江に列す。江水盛長す。(一)魏主臨み望みて歎じて曰く、我に武夫千羣有りと雖も、施す(二)所無しと。是に於て師を還す。

(一) 漫々として水勢みなぎる　(二) それを用ひて如何ともすべからず

南夷畔。漢丞相亮往平レ之。有二孟獲者一、素爲二夷漢一所レ服。亮生致レ獲。使レ觀二營陣一、縱使二更戰一。七縱七禽、猶遣レ獲。獲不レ去曰、公天

○南夷畔く。漢の丞相亮、往きて之を平ぐ。孟獲といふ者有り。素より夷(一)漢に服せらる。亮、生ながら獲を致す。營陣を觀しめ、縱して更に戰はしむ。七縱七禽(二)して、猶ほ獲を遣らんとす。獲去らずして、曰く、公は天威也と。南人復た反せず。

(一) 南夷も漢も共に其勇に畏服す　(二) 七たび放ちて、七たびとりこにす

字公嗣。昭烈皇帝子也。年十七卽位。改元建興。丞相諸葛亮受遺詔輔政。昭烈臨終謂亮曰。君才十倍曹丕。必能安國家。終定大事。嗣子可輔輔之。如其不可。君可自取。亮涕泣曰。臣敢不竭股肱之力。效忠貞之節。繼之以死。亮乃約官職。修法制。下教曰。夫參署者

元す。丞相諸葛亮、遺詔を受けて政を輔く。昭烈、終りに臨み、亮に謂ひて曰く、君が才、曹丕に十倍す。必ず能く國家を安んじ、終に大事を定めん。嗣子、輔く可くば之を輔けよ。如し其れ不可ならば、君自ら取る可しと。亮、涕泣して曰く、臣、敢て股肱の力を竭し、忠貞の節を效し、之に繼ぐに死を以てせざらんやと。亮乃ち官職(一)を約し、法制を修め、教を下して曰く、夫れ參署(二)は衆思を集め、忠益を廣むる也。若し小嫌(三)を遠け、相違覆することを難らば、曠闕して損あらんと。亮、乃ち鄧芝を遣はし、吳に使して好を修す。芝、吳王に見えて曰く、蜀に重險の固有り、吳に三江の阻有り、共に脣齒と爲らば、進みては天下を兼幷す可く、退きては鼎足(五)して立つ可しと。吳、遂に魏と絕ち專ら漢と和す。

(一) 冗員陶汰也 (二) 公署の事務に參與するは多數の考へを集め、忠言の利益を廣むるため也 (三) 少しの疑ひを忌みて互に辯間反覆せざれば職務曠廢政教闕失して國事に損害あらん (五) 魏・吳・蜀の三國、鼎足の如くに立つ

如二臣之比一。車載斗量。不レ可二勝數一。

帝。自二巫峽一至二夷陵一。立二數十屯一。與二吳軍一相拒累月。吳將陸遜連破二其四十餘營一。帝夜遁。魏主責二吳侍子一。不レ至。怒伐レ之。吳王改二元黃武一。臨レ江拒守。三年夏四月。帝崩。在位三年。改元一。曰二章武一。諡曰二昭烈皇帝一。太子禪卽位。封レ亮爲二武鄕侯一。太子既立。是爲二後皇帝一。

○帝、巫峽より夷陵に至るまで、數十屯を立て、吳の軍と相拒むこと累月なり。吳の將陸遜、連りに其四十餘營を破る。帝、夜遁る○魏主、吳の侍子を責む。至らず。怒りて之を伐つ。吳王、黃武と改元し、江に臨みて拒ぎ守る○三年夏四月帝崩ず。在位三年。改元すること一、曰く、章武。諡して昭烈皇帝と曰ふ。太子禪卽位す。亮を封じて武鄕侯と爲す。太子既に立つ。是を後皇帝と爲す。

一 人質を入れよと責む

後皇帝。名禪。

後皇帝

後皇帝、名は禪。字は公嗣、昭烈皇帝の子也。年十七、卽位す。建興と改

置二九品中正一。區二別人物一。第二其高下一。丕既篡レ漢。自立爲レ帝。追二尊操一。爲二太祖武皇帝一。改二元黃初一。

(一)九等に分ちて人を官吏にする法　(二)九品を銓衡する官

帝恥二關羽之沒一。自將伐二孫權一。權求レ和不レ許。權遣二使於魏一。魏封レ權爲二吳王一。魏主問二吳使趙咨一曰。吳王頗知レ學乎。咨曰。吳王任レ賢使レ能。志存二經略一。雖下有二餘閑一博中覽書史上不レ效二書生尋レ章摘レ句。魏主曰。吳難レ魏乎。咨曰。帶甲百萬。江漢爲レ池。何難之有。曰。吳如二大夫一者幾人。咨曰。聰明特達者八九十人。

○帝、關羽(一)の沒を恥づ。自ら將として孫權を伐つ。權、和を求むれども許さず。權、使を魏に遣はす。魏、權を封じて吳王と爲す。魏主、吳の使趙咨に問ひて曰く、吳王頗る學を知るか。咨曰く、吳王賢に任じ能を使ひ、志(二)經略に存す。餘閑有りて書史を博覽すと雖も、書生が章を尋ね、句を摘むに效はず。魏主曰く、吳、魏を難るか。咨曰く、帶甲(三)百萬、江漢(四)を池と爲す。何の難ることか之れ有らん。曰く、吳に、大夫の如き者幾人ぞ。咨曰く、聰明特達の者八九十人、臣が比の如きは、車載斗量(五)勝げて數ふ可からずと。

(一)關羽の吳に襲はれて敗死せるを恥ぢ憤　(二)天下を經營する志あり　(三)武裝せる兵士　(四)江と漢との二水を城池とす　(五)車にて運び、桝にて量るも數へきれぬ程澤山ありとの意

靖王勝之後。有二大志一。少二言語一。喜怒不レ形。身長七尺五寸。垂レ手下レ膝。顧自見二其耳一。蜀中傳言。曹丕簒立。帝已遇レ害。於レ是漢中王發レ喪制レ服。謚曰二孝愍皇帝一。夏四月。卽二帝位於二武擔之南一。大赦。改二元章武一。以二諸葛亮一爲二丞相一。許靖爲二司徒一。立二宗廟一。祫二祭高皇帝以下一。立二夫人吳氏一爲二皇后一。子禪爲二皇太子一。

れば、自ら其耳を見る○蜀中傳へ言ふ、曹丕、簒立し、帝已に害に遇ふと。是に於て、漢中王喪を發し、服を制し、謚して孝愍皇帝と曰ふ。夏四月、帝位に武擔の南に卽く。大赦す。章武と改元す○諸葛亮を以て丞相と爲し。許靖を司徒と爲す○宗廟を立て、高皇帝以下を祫祭す○夫人吳氏を立てゝ皇后と爲し子の禪を皇太子と爲す。

㊀帝位を奪いて自立す　㊁劉備　㊂合祭

魏主丕。姓曹氏。沛國譙人也。父操爲二魏王一。丕嗣レ位。首立二九品官レ人之法一。州郡皆

○魏主丕、姓は曹氏、沛國譙の人也。父操、魏王と爲り、丕位を嗣ぐ。首めて九品人を官するの法を立つ。州郡皆九品の中正を置き、人物を區別し、其高下を第つ。丕既に漢を簒ひ、自立して帝と爲る。操を追尊して、太祖武皇帝と爲し、黃初と改元す。

按曾氏云。天下非二一統一者。本可二各自一國編集一。又恐三初學讀者。迷二其時代之先後一。今但以二一國源流相接者一。爲二提頭一。而附二同時之國於其間一。而曾氏仍二陳壽之舊一。以レ魏稱レ帝。而附二漢吳一。劉既遵二朱子綱目義例一。而改二正少微通鑑一矣。今復正二此書一。以レ漢接レ統云。

按ずるに(一)、曾氏云ふ、天下一統に非る者は、本各自一國に編集す可し。又初學の讀者、其時代の先後に迷はんことを恐る。今但だ一國の源流相接する者を以て、提頭(二)と爲して、同時の國を其間に附すと。而るに曾氏は、陳壽の舊に仍り、魏を以て帝と稱して、漢・吳を附す。劉、既に朱子綱目義例に遵ひて、少微通鑑を改正す。今復た此書を正し、(三)漢を以て統を接がしむと云ふ。

(一) 明の劉剡の按ずる也　(二) 上げがきとす、今本書にては之を一字下げとす　(三) 蜀漢を以て東漢の統に接す

昭烈皇帝

昭烈皇帝。諱備。字玄德。漢景帝子。中山

昭烈皇帝、諱は備、字は玄德、漢の景帝の子、中山靖王勝の後なり。大志有り。言語少く、喜怒形れず。身の長七尺五寸、手を垂るれば膝より下り、顧み

州牧。入爲丞相。領冀州牧。封魏公。作銅雀臺於鄴。已而進爵爲王。用天子車服。出入警蹕。以子丕爲王太子。操卒。丕立。自爲丞相冀州牧。魏羣臣言魏當代漢。丕遂迫帝禪位。以帝爲山陽公。帝在位改元者三。曰。初平。興平。建安。元年至二十五年。則皆曹操爲政時也。共三十一年。禪位又十四年而卒。漢自高祖元年爲王。五年爲帝。至是二十四世。四百二十六年。

ぜらる。銅雀臺を鄴に作る。已にして爵を進めて王と爲り、天子の車服を用ひ(一)出入に警蹕し、子丕を以て王太子と爲す。操卒す。丕立つ。自ら丞相、冀州の牧と爲る。魏の羣臣言く、魏、當に漢に代るべしと。丕、遂に帝に迫りて位を禪らしめ、帝を以て山陽公と爲す。帝、在位、改元する者三、曰く、初平・興平・建安。元年より二十五年に至るまでは、則ち皆曹操の政を爲しゝ時也。共に三十一年。位を禪りて又十四年にして卒す。漢、高祖の元年王と爲り、五年帝と爲りしより、是に至りて、二十四世、四百二十六年なり。

(一) 天子出入の際に行人を制止する聲を懸くるをいふ

三國〔漢〕

附魏呉二僭國

劉璋。入二成都一。備既得二益州一。孫權使三人從レ備求二荊州一。備不二肯還一。遂爭レ之。已而分二荊州一。備自レ蜀取二漢中一。自立爲二漢中王一。漢中將關羽。自二江陵一出。攻二樊城一。取二襄陽一。自レ許以南。往往遙應レ羽。威震二華夏一。曹操至レ議下徙二許都一以避中其鋒上。司馬懿曰。備權外親內疏。關羽得レ志。權必不レ願也。可レ遣下人勸レ權躡二其後一。許中割二江南一以封上レ權。操從レ之。時魯肅已死。呂蒙代レ之。亦勸レ權圖レ羽。操師救レ樊。權將陸遜。又襲二羽後一。羽狼狽走還。權軍獲レ羽。斬レ之。遂定二荊州一。

以南、往往遙かに羽に應じ、威、華夏(三)に震ふ。曹操、許都を徙して、以て其鋒を避けんと議するに至る。司馬懿曰く、備と權と、外親しく、內疎なり。關羽が志を得んは、權、必ず願はざる也。人をして權に勸めて其後(四)を躡ましめ、江南を割きて以て權を封ずることを許さしむ可しと。操之に從ふ。時に魯肅已に死し、呂蒙之に代る。亦權に勸めて羽を圖らしむ。操の師、樊を救ひ、權の將陸遜又羽が後を襲ふ。羽、狼狽して走り還る。權が軍羽を獲て、之を斬り、遂に荊州を定む。

(一) 地方百里を治むる縣令などには不適任也　(二) 刺史の下に屬する官　(三) 中國　(四) 羽の後を追襲せしめ

初曹操自二兗

○初め曹操、兗州の牧より、入りて丞相と爲り、冀州の牧を領し、魏公に封

吳。權不レ從。瑜方議レ圖二北方一。會病卒。魯肅代領二其兵一。肅勸レ權以二荊州一借二劉備一。權從レ之。權將呂蒙初不レ學。權勸レ蒙讀レ書。魯肅後與レ蒙論議。大驚曰。卿非二復吳下阿蒙一。蒙曰。士別三日。卽當二刮目相待一。

ち當に刮目して相待つべしと。

(一)勇健富智の天資あり (二)邊境 (三)一旦時を得ば復た制し難き勢とならん (四)昔吳の都下にゐたる頃の呂蒙にあらずと也。阿は親しみいふ稱 (五)目をこすりて

劉備初用二龐統一。爲二耒陽令一。不レ治。魯肅遺二備書一。曰。士元非二百里才一。使レ爲二治中別駕一。乃得レ展二其驥足一耳。備用レ之。勸レ取二益州一。備留二關羽一守二荊州一。引レ兵泝レ流。自レ巴入レ蜀。襲二

○劉備初め龐統を用て、耒陽の令と爲す。治まらず。魯肅、備に書を遺りて曰く、士元は(一)百里の才に非ず。(二)治中の別駕たらしめば、乃ち其驥足を展ぶることを得んのみと。備之を用ふ。益州を取らんことを勸む。備、關羽を留めて荊州を守らしめ、兵を引きて流を泝り、巴より蜀に入り、劉璋を襲ひて成都に入る。備、既に益州を得たり。孫權人をして備に從ひて、荊州を求めしむ。備肯て還さず。遂に之を爭ふ。已にして荊州を分つ。備、蜀より漢中を取り。自立して漢中王と爲る。漢中の將關羽、江陵より出でゝ、樊城を攻め、襄陽を取る。許より

船艦。首尾相接。可二燒而走一也。乃取二蒙衝鬪艦十艘一。載二燥荻枯柴一。灌二油其中一。裹二帷幔一。上建二旌旗一。豫備二走舸一。繫二於其尾一。先以レ書遺レ操。詐爲レ欲レ降。時東南風急。蓋以二十艘一最著レ前。中江擧レ帆。餘船以レ次俱進。操軍皆指言蓋降。去二里餘。同時發レ火。火烈風猛。船往如レ箭。燒二盡北船一。烟焰漲レ天。人馬溺燒。死者甚衆。瑜等率二輕銳一。雷鼓大進。北軍大壞。操走還。後屢加二兵於權一。不レ得レ志。操歎息曰。生レ子當レ如二孫仲謀一。向者劉景昇兒子豚犬耳。

接すること　(五) 牛皮にて甲板をおほひ、敵船を衝くに用ふる船といふ　(六) 乾きたる荻枯れたる柴　(七) 早ぶね　(八) 順次に　(九) 身輕によそへる精銳の士　(一〇) 太鼓を雷の如くはげしくうちならす

劉備徇二荊州江南諸郡一。周瑜上二疏於權一曰。備有二梟雄之姿一。而有二關羽張飛一。熊虎之將。聚二此三人一在二疆場一。恐蛟龍得二雲雨一。終非二池中物一也。宜下徙レ備置レ吳

○劉備、荊州・江南の諸郡を徇ふ。周瑜、權に上疏して曰く、備は梟雄(一)の姿有りて、關羽・張飛有り、熊虎の將なり。此三人を聚めて疆場(二)に在らしめば、恐らくは蛟龍(三)雲雨を得て終に池中の物に非ざらん。宜しく備を徙して吳に置くべしと。權從はず。瑜方に北方を圖らんことを議す。會〻病みて卒す。魯肅代りて其兵を領す。肅、權に勸め、荊州を以て劉備に借さしむ。權之に從ふ。權が將呂蒙、初め學ばず。權、蒙に勸めて書を讀ましむ。魯肅後、蒙と論議し、大に驚きて曰く、卿は復た吳下(四)の阿蒙に非ずと。蒙曰く、士別れて三日ならば、即

衆一與二將軍一會二獵於吳一。權以示二羣下一。莫レ不レ失レ色。張昭請レ迎レ之。魯肅以爲二不可一。勸レ權召二周瑜一。瑜至曰。請得二數萬精兵一。進住二夏口一。保爲二將軍一破レ之。權拔レ刀斫二前奏案一曰。諸將吏敢言レ迎レ操者。與二此案一同。遂以レ瑜督二三萬人一。與レ備幷レ力逆レ操。進遇二於赤壁一。瑜部將黃蓋曰。操軍方連二

て三萬人を督せしめ、備と力を幷せ、操を逆へて進みて赤壁に遇ふ。瑜が部將黃蓋曰く、操が軍方に船艦を連ね、首尾相接す。(四)燒きて走らす可しと。乃ち蒙(五)衝鬬艦十艘を取りて、燥荻枯柴を載せ、油を其中に灌ぎ、帷幔に裹み、上に旌旗を建て、豫め走舸を備へて、(六)其尾に繫ぐ。先づ書を以て操に遺り、詐りて降らんと欲すと爲す。(七)時に東南の風急なり。蓋、十艘を以て最も前に著け、中江に帆を擧げ、餘船、次を以て倶に進む。(八)操の軍皆指し言ふ、蓋降ると。去ること二里餘、同時に火を發す。火烈しく風猛く、船往くこと箭の如し。北船を燒き盡す。烟焰天に漲り、人馬溺れ燒く。死者甚だ衆し。瑜等、輕鋭を率ゐ、(九)雷鼓して(一〇)大に進む。北軍大に壞れ、操走り還る。後屢〻兵を權に加ふれども、志を得ず。操歎息して曰く、子を生まば當に孫仲謀が如くなるべし。向の劉景昇が兒子は、豚犬のみと。

(一) 獵にかこつけて會戰の意を致せる也　(二) 必ず保證して　(三) 前にある奏書をのするつくゑ　(四) 船の舳艫相

險而民附。可二與爲一レ援。而不レ可レ圖。荊州用武之國。益州險塞。沃野千里。天府之土。若跨二有荊益一。保二其巖阻一。天下有レ變。荊州之軍向二宛洛一。益州之衆出二秦川一。孰不三簞食壺漿以迎二將軍一乎。備曰善。與レ亮情好日密。曰孤之有二孔明一。猶二魚之有一レ水也。士元名統。龐德公從子也。德公素有二重名一。亮每レ至二其家一。獨拜二床下一。

(一) 伏したる龍、鳳のひなの意、一たび明主に逢ひて用ひられば、將に大に天下に活躍すべき傑士をいふ　(二) 簞は飯を盛るもの、食は飯、壺はふくべ、漿は飲みもの、飲食物を捧げての意、(三) 兄弟の子

曹操擊二劉表一。表卒。子琮擧二荊州一降レ操。劉備奔二江陵一。操追レ之。備走二夏口一。操進二軍江陵一。遂東下。亮謂レ備曰。請求二救於孫將軍一。亮見レ權說レ之。權大悅。操遺二權書一曰。今治二水軍八十萬

○曹操、劉表を擊つ。表卒す。子琮、荊州を擧げて操に降る。劉備江陵に奔る。操之を追ふ。備夏口に走る。操軍を江陵に進め、遂に東に下る。亮、備に謂ひて曰く、請ふ、救を孫將軍に求めんと。亮、權に見えて之を說く。權大に悅ぶ。操、權に書を遺りて曰く、今水軍八十萬の衆を治す。將軍と吳に會獵(一)せんと。權以て羣下に示す。色を失はざる莫し。張昭之を迎へんと請ふ。魯肅以て不可と爲し、權に勸めて周瑜を召さしむ。瑜至りて曰く、請ふ、數萬の精兵を得て、進みて夏口に往き、保(二)して將軍の爲に之を破らんと。權、刀を拔きて前(三)の奏案を斫りて曰く、諸將吏敢て操を迎へよと言はん者は、此案と同じからんと。遂に瑜を以

瑯琊諸葛亮。寓二居襄陽隆中一。毎自比二管仲樂毅一。備訪二士於司馬徽一。徽曰。識二時務一者在二俊傑一。此閒自有二伏龍鳳雛一。諸葛孔明龐士元也。徐庶亦謂レ備曰。諸葛孔明臥龍也。備三往乃得レ見レ亮。問レ策。亮曰。操擁二百萬之衆一。挾二天子一令二諸侯一。此誠不レ可二與爭一レ鋒。孫權據二有江東一。國

瑯琊の諸葛亮、襄陽の隆中に寓居し、毎に自ら管仲・樂毅に比す。備、士を司馬徽に訪ふ。徽曰く、時務を知るは俊傑に在り。此閒自ら伏龍鳳雛(一)有り。諸葛孔明・龐士元也と。徐庶も亦備に謂ひて曰く、諸葛孔明は臥龍也と。備三たび往きて、乃ち亮を見ることを得たり。策を問ふ。亮曰く。操、百萬の衆を擁し、天子を挾みて諸侯に令す。此れ誠に與に鋒を爭ふ可からず。孫權、江東に據り有つ。國險にして民附く。與に援と爲す可くして、圖る可からず。荊州は武を用ふるの國なり。益州は險塞、沃野千里、天府の土なり。若し荊、益を跨り有ち、其巖阻を保ち、天下變有らば、荊州の軍、宛洛に向ひ、益州の衆、秦川に出でば、孰れか簞食壺漿して以て將軍を迎へざらん。備曰く、善しと。亮と情好日に密なり。(二)曰く、孤の孔明有るは、猶ほ魚の水有るがごとしと。士元、名は統、龐德公の從(三)子なり。德公素より重名有り。亮、其家に至る每に、獨り床下に拜せり。

承稱レ受二密詔一。與二劉備一誅二曹操一。操一日從容謂レ備曰。今天下英雄唯使君與レ操耳。備方食。失二匕筯一。値二雷震一。詭曰。聖人云。迅雷風烈必變。良有レ以也。備既被レ遣邀二袁術一。因之二徐州一起レ兵討レ操。操擊レ之。備先奔二冀州一。領レ兵至二汝南一。自二汝南一奔二荊州一。歸二劉表一。嘗於二表、坐一。起至レ厠。還慨然流レ涕。表怪問レ之。備曰。常時身不レ離レ鞍。髀肉皆消。今不二復騎一。髀裏肉生。日月如レ流。老將レ至。功業不レ建。是以悲耳。

容として備に謂ひて曰く、今、天下の英雄、唯だ使君(一)と操とのみと。備、方に食し、匕筋(二)を失す。雷震(三)に値ふ。詭りて曰く、聖人云く、迅雷風烈には必ず變(四)ずと。良に以有る也と。備、既に遣されて袁術を邀へ、因りて徐州に之き、兵を起して操を討つ。操之を擊つ。備先づ冀州に奔り、兵を領して汝南に至り、汝南より荊州に奔り、劉表に歸す。嘗て表が坐に於て、起ちて厠に至り、還りて慨然として涕を流す。表怪みて之を問ふ。備曰く、常時、身、鞍を離れず。髀肉(五)皆消ゆ。今復た騎らず。髀裏に肉生ず。日月流るゝが如く、老將に至らんとす。功業建たず。是を以て悲むのみと。

(一) 州牧の稱、同輩の敬語にいふ (二) その言葉を聞きて、思はず匙と箸とを取り落す (三) 恰も其時雷がなりはためく (四) 容を變ず (五) 常に馬に乘りて戰場をかけまはりし故、內股の肉が皆すれおちたりしに

伏而射レ之。創甚。呼二弟權一。代領二其衆一。曰。擧二江東之衆一。決二機於兩陣之閒一。與二天下一爭レ衡。卿不レ如レ我。任レ賢使レ能。各盡二其心一。以保二江東一。我不レ如レ卿。卒。年二十六。

と衡を爭はんは、卿我に如かず。賢に任じ能を使ひ、各其心を盡さしめて、以て江東を保たんは、我卿に如かずと。卒す。年二十六。

(一) 敵味方對峙して、勝敗の機を決し、天下の英雄と强弱を爭ふ、衡はつりあひの意也

袁紹據二冀州一。簡二精兵十萬。騎一萬一。欲レ攻レ許。沮授諫曰。曹操奉二天子一。以令二天下一。今擧レ兵南向。於レ義則違。竊爲レ公懼レ之。紹不レ聽。操與レ紹相二拒於官渡一。襲破二紹輜重一。紹軍大潰。慚憤歐レ血死。

○袁紹、冀州に據る。精兵十萬、騎一萬を簡びて、許を攻めんと欲す。沮授諫めて曰く、曹操、天子を奉じて以て天下に令す。今兵を擧げて南に向はゞ、義に於て(一)則ち違はん。竊に公の爲に之を懼ると。紹聽かず。操、紹と官渡(二)に相拒み、襲ひて紹の輜重を破る。紹が軍大に潰ゆ。慚憤して血を歐きて死す。

(一) 天子の軍に向ふ事となり、大義名分に違はん　(二) 滎陽の下に於て河を引きて東南鴻溝の界を爲す所

車騎將軍董

○車騎將軍董承、密詔を受くと稱して、劉備と曹操を誅せんとす。操、一日、從

颺去。布復攻ㇾ備。備走復歸ㇾ操。操擊ㇾ布至二下邳一。布屢戰皆敗。困迫降。操縛ㇾ之曰。縛ㇾ虎不ㇾ得ㇾ不ㇾ急。卒縊二殺之一。備從ㇾ操還ㇾ許。

袁術初據二南陽一。已而據二壽春一。以三讖言二代ㇾ漢者當ㇾ塗高一。自云。名字應ㇾ之。遂稱ㇾ帝。淫侈甚。既而資實空虛。不ㇾ能二自立一。欲ㇾ奔二袁紹一。操遣二劉備一邀ㇾ之。術走還。歐ㇾ血死。

○袁術初め南陽に據り、已にして壽春に據る。讖に、(一)漢に代る者は塗に當りて高しと言ふを以て、自ら云ふ、(二)名字之に應ずと。遂に帝と稱す。淫侈甚し。既にして(三)資實空虛し、自立すること能はず。袁紹に奔らんと欲す。操、劉備をして之を邀へしむ。術、走り還り、(四)血を歐きて死す。

(一)豫言の書、未來記　(二)袁術の字は公路、名の術も亦邑中の道にて、皆塗に緣あり、この豫言に當る者は我也　(三)資財空しくなる　(四)悲憤の極吐血せるなり

孫策既定二江東一。欲ㇾ襲ㇾ許。未ㇾ發。故所ㇾ殺吳郡守許貢之奴。因二其出獵一。

○孫策既に江東を定め、許を襲はんと欲して、未だ發せず。故と殺す所の吳郡の守許貢の奴、其出でゝ獵するに因りて、伏して之を射る。創甚し。弟權を呼び、代りて其衆を領せしむ。曰く、江東の衆を擧げて、(一)機を兩陣の閒に決し、天下

巳而入兗州據之。自領刺史。遣使上書。以爲兗州牧。上還洛陽。操入朝。遷上於許。操擊殺呂布。初布自關中出奔袁術。又歸袁紹。已而又去。爲操所攻。走歸劉備。尋又襲備。據下邳。備走歸操。操遣備屯沛。布使陳登見操。求爲徐州牧。不得。登還謂布曰。登見曹公言。養將軍如養虎。當飽其肉。不飽則噬人。公曰。不然。譬如養鷹。饑則附人。飽則

し、上を許に遷す○操、撃ちて呂布を殺す。初め布、關中より袁術に出奔し、又袁紹に歸し、已にして又去り。操の爲に攻められ、走りて劉備に歸し、尋ぎて又備を襲ひ、下邳に據る。備走りて操に歸す。操、備をして沛に屯せしむ。布、陳登をして操に見えしめ、徐州の牧たらんことを求む。得ず。登還りて布に謂ひて曰く、登、曹公に見えて言く、將軍を養ふは虎を養ふが如し。當に其肉に飽かしむべし。飽かざれば則ち人を噬まん。(二) 公曰く、然らず。譬へば鷹を養ふが如し。饑うれば則ち人に附き、飽けば則ち颺り去らんと。布、復た備を攻む。備、走りて復た操に歸す。操、布を撃ちて下邳に至る。布、屢〻戰ひて皆敗れ、困迫して降る。操、之を縛して曰く、虎を縛するは急ならざることを得ずと。卒に之を縊り殺す。備、操に從ひて許に還る。

(一) 職名、領は領有の意　(二) 布が操の敵として、患をなすに喩ふ

靖王勝之後也。有二大志一。少二語言一。喜怒不レ形二於色一。河東關羽。涿郡張飛。與レ備相善。備起。二人從レ之。孫堅之子策與二弟權一。留二富春一。還二于舒一。堅死。策年十七。往見二袁術一。得二其父餘兵一。策十餘歲時。已交結知レ名。舒人周瑜。與レ策同年。亦英達夙成。至レ是從レ策起。策東渡レ江轉鬭。所レ向無下敢當二其鋒一者上。百姓聞二孫郎至一。皆失二魂魄一。所レ至一無レ所レ犯。民皆大悦。

二人之に従ふ○孫堅の子策、弟權と富春に留り、舒に還る。堅死す。策年十七、往きて袁術に見え、其父の餘兵を得たり。策、十餘歳の時、已に交り(一)を結び、名を知らる。舒人周瑜、策と同年なり。亦英達夙成(二)なり。是に至りて策に従ひて起る。策東のかた江を渡りて轉鬭す。向ふ所敢て其鋒に當る者無し。百姓、孫郎至ると聞き、皆魂魄を失ふ(三)。至る所一も犯す所無し。民皆大に悦ぶ。

(一)當時の豪傑と交際して　(二)若くして名を成す　(三)恐怖して、たまげる

初曹操自二討レ卓時一。戰二于滎陽一。還屯二河內一。尋領二東郡太守一。治二東武陽一。

○初め曹操、卓を討ちし時より、滎陽に戰ひ、還りて河內に屯し、尋ぎて東郡の太守を領し、東のかた武陽を治す。已にして兗州に入りて之に據り、自ら刺史(一)を領し、使を遣して上書す。以て兗州の牧と爲す。上、洛陽に還る。操入朝

力過レ人。卓信ニ愛之一。嘗小失ニ卓意一。卓手戟擲レ布。布避得レ免。允結レ布爲ニ内應一。卓入朝。伏ニ勇士於北掖門一。刺レ之。卓墮レ車。大呼ニ呂布一。布曰。有レ詔討ニ賊臣一。應レ聲持レ矛刺レ卓。趣斬レ之。先レ是卓築ニ塢于郿一。積レ穀爲ニ三十年儲一。金銀綺錦奇玩。積如ニ丘山一。自云。事成據ニ天下一。不レ成守レ此以老。至レ是暴ニ屍於市一。卓素肥。吏爲ニ大炷一。置ニ臍中一。然レ之。光達レ曙者數日。卓黨擧レ兵犯レ闕。殺ニ王允一。呂布走。

得たり。允、布に結び、内應を爲さしむ。卓入朝す。勇士を北掖門に伏せて、之を刺す。卓車より墮ち、大に呂布を呼ぶ。布曰く、詔有りて賊臣を討つと。聲に應じて矛を持して卓を刺し、趣して(一)之を斬らしむ。是より先卓、塢(二)を郿に築き、穀を積みて三十年の儲を爲す。金銀綺錦奇玩積むこと丘山の如し。自ら云ふ、事成らば天下に據らん。成らざれば此を守りて以て老いんと。是に至りて屍を市に暴す。卓素より肥えたり。吏、大炷(三)を爲り、臍の中に置きて之を然く(四)。光、曙に達する者數日なりき。卓の黨、兵を擧げて闕を犯し、王允を殺す。呂布走る。

(一) 兵を催促して　(二) 壘壁　(三) 燈心を太く束ねたるもの　(四) 燒也

涿郡劉備。字玄德。其先出ニ於景帝一。中山

○涿郡の劉備、字は玄德、其先は景帝より出づ。中山靖王勝の後也。大志有り。語言少く、喜怒色に形はさず。河東の關羽、涿郡の張飛、備と相善し。備起る。

孝獻皇帝。名協。九歲爲₂董卓₁所ㇾ立。關東州郡起ㇾ兵討ㇾ卓。推₂袁紹₁爲₂盟主₁。卓燒₂洛陽宮廟₁。遷₂都長安₁。長沙太守富春孫堅。起ㇾ兵討ㇾ卓。至₂南陽₁。衆數萬。與₂袁術₁合ㇾ兵。術與ㇾ紹同ㇾ祖。皆故太尉袁安之玄孫也。袁氏四世五公。富貴異₂於佗公族₁。紹壯健有₂威容₁。愛ㇾ士。士輻湊。術亦俠氣。至ㇾ是皆起。堅擊₂敗卓兵₁。術遣₃堅圖₂荊州₁。爲₂劉表將黃祖步兵₁所ㇾ射死。

孝獻皇帝、名は協。九歲、董卓が爲に立てらる。關東の州郡兵を起して卓を討ち、袁紹を推して盟主と爲す。卓、洛陽の宮廟を燒き、都を長安に遷す。長沙の太守富春の孫堅、兵を起して卓を討ち、南陽に至る。衆數萬。袁術と兵を合す。術、紹と祖を同じくす。皆故の太尉袁安の玄孫也。袁氏四世五公(一)、富貴佗の公族に異なり。紹、壯健にして威容あり。士を愛す。士輻湊す(二)。術亦俠氣あり。是に至りて皆起る。堅、擊ちて卓が兵を敗る。術、堅をして荊州を圖らしむ。劉表の將黃祖の步兵に射られて死す。

(一) 四世の間に三公たりしもの五人 (二) 多くあつまり歸す

司徒王允等。密謀誅ㇾ卓。中郎將呂布。膂

○司徒王允等密に謀りて卓を誅せんとす。中郎將呂布、膂力人に過ぐ。卓之を信愛す。嘗て小しく卓が意を失し、卓手から戟もて布を擲つ。布避けて免るゝを

改元者四。曰。建寧。熹平。光和。中平。子辯立。何太后臨朝。后兄大將軍何進。錄二尚書事一。袁紹勸進誅二宦官一。太后未レ肯。紹等畫策召二四方猛將一。引レ兵向レ京。以脅二太后一。遂召二將軍董卓之兵一。卓未レ至。進爲二宦官一所レ殺。紹勒レ兵。捕二諸宦官一。無二少長一皆殺レ之。凡二千餘人。有二無レ鬚而誤死者一。卓至問二亂由一。辯年十四。語不レ可レ了。陳留王答無レ遺。卓欲二廢立一。紹不レ可。卓怒。紹出奔。卓遂廢レ辯。陳留王立。是爲二孝獻皇帝一。

勸む。太后未だ肯ぜず。紹等畫策して、四方の猛將を召し、兵を引きて京に向はしめて、以て太后を脅し、遂に將軍董卓の兵を召す。卓未だ至らず。進、宦官の爲に殺さる。紹、兵を勒して、諸〻の宦官を捕へ、少長と無く皆之を殺す。凡そ二千餘人。鬚無くして(一)誤り死する者有り。卓至りて亂の由を問ふ。辯年十四、語、了す可からず。(二)陳留王答へて遺すこと無し。(三)卓、廢立せんと欲す。紹可かず。卓怒る。紹出奔す。卓遂に辯を廢す。陳留王立つ。是を孝獻皇帝と爲す。

(一) 當時宦官は必ず鬚を剃る定なりし也　(二) 言ふ所不明瞭にて了解し難し　(三) 滯りなく答ふ

孝獻皇帝

各立二渠帥一。一時倶起。皆著二黄巾一。所在燔劫。旬月之閒。天下響應。遣二皇甫嵩等一討二黄巾一。嵩與二沛國曹操一。合レ軍破レ賊。操父嵩爲二宦者曹騰養子一。或云。夏侯氏子也。操少機警。有二權數一。任俠放蕩不レ治二行業一。汝南許劭。與二從兄靖一。有二高名一。共覈二論鄕黨人物一。毎月輒更二其題品一。故汝南俗。有二月旦評一。操往問レ劭曰。我何如人。劭不レ答。劫レ之。乃曰。子治世之能臣。亂世之姦雄。操喜而去。至レ是以レ討レ賊起。

行業を治めず。汝南の許劭、従兄靖と高名有り、共に鄕(七)黨の人物を覈論し、毎月輒ち其題品を更む。故に汝南の俗に月旦評有り(八)。操、往きて劭に問ひて曰く、我は何如なる人ぞと。劭答へず。之を劫かす。乃ち曰く、子は治世の能臣、亂世の姦雄なりと。操喜びて去る。是に至り賊を討ずるを以て起る。

(一)神符呪水 (二)それからそれへと人をたぶらかしさそふ (三)三十六將軍 (四)頭首 (五)黄色の頭巾をつけて、民家を燒きおびやかす (六)すばしこくして、はかりごとに富む (七)近鄕近在 (八)月の初めに當り、前月中の人の行爲により、智愚の品目を立てゝ鄕人を評論する也

皇甫嵩討二張角一。角死。嵩與二其弟一戰。破斬レ之。上崩。在位二十二年。改

○皇甫嵩、張角を討ず。角死す。嵩、其弟と戰ひ、破りて之を斬る○上崩ず。在位二十二年。改元する者四。曰く、建寧・熹平・光和・中平。子の辨立つ。何太后朝に臨む、后の兄大將軍何進、尚書の事を錄す。袁紹、進に宦官を誅せよと

隸三體。書レ之刻レ石。立二大學門外。上好二文學。引下諸生能二文賦一者上。竝待二制鴻都門下。置二立大學。諸生皆斗筲小人。君子恥レ之。開二西邸一賣レ官。各有レ賈。崔烈以二五百萬一得二司徒。問二其子一以二外議何如。子曰。人嫌二其銅臭一耳。

する者を引く。竝に制(一)を鴻都門下に待つ。大學を置立す。諸生皆斗筲(二)の小人のみ。君子之を恥づ○西邸を開きて官を賣る。各ゝ賈(三)有り。崔烈、五百萬を以て司徒を得たり。其子に問ふに、外議(四)何如を以てす。子曰く、人其銅臭(五)を嫌ふのみと。

(一)詔命　(二)器にてはかる程の小人ども　(三)價也　(四)世間の評判　(五)ぜにくさきこと

鉅鹿張角以二妖術一教授。號二太平道。符水療レ病。遣二弟子一遊二四方。轉相誑誘。十餘年閒。徒衆數十萬。置二三十六方。大方萬餘。小方六七千。

○鉅鹿の張角、妖術を以て教授す。太平道と號す。符水(一)もて病を療し、弟子を遣して四方に遊ばしめ、轉た相誑誘(二)すること十餘年閒、徒衆數十萬あり。(三)三十六方を置く。大方萬餘、小方六七千、各ゝ渠帥(四)を立て、一時倶に起り、皆黃巾(五)を著け、所在燔劫す。旬月の閒に天下響應す。皇甫嵩等を遣して黃巾を討たしむ。嵩、沛國の曹操と軍を合して賊を破る。操の父嵩、宦者曹騰が養子と爲る。或は云ふ、夏侯氏の子也と。操、少くして機警(一)、權數有り。任俠放蕩にして、

死亦何憾。滂跪受レ教。再拜而辭。顧二其子一曰。使二汝爲一レ惡。惡不レ可レ爲。使二汝爲一レ善。我不レ爲レ惡。聞者爲レ之流涕。黨人死者百人。其死徙廢錮者又六七百人。郭泰私痛曰。詩云。人之云亡。邦國殄瘁。漢室滅矣。但未レ知下瞻二烏爰止一。于中誰之屋上耳。泰雖二好臧否一。而不レ爲二危言覈論一。故處二濁世一。而禍不レ及焉。

て(二)悪を爲さしめんとすれど、悪は爲す可からず。汝をして善を爲さしめんとすれば、我悪を爲さずと。聞く者之が爲に流涕す。黨人死する者百人。其死徙廢錮せらるゝ者又六七百人。郭泰私に痛みて曰く、詩に云く、(三)人の云に亡ぶる、邦國殄瘁すと。漢室滅びん。但だ未だ烏の爰に止るを瞻て、誰の屋に于するかを知らざるなりと。泰好みて(四)臧否すと雖も、而れども(五)危言覈論を爲さず。故に濁世に處して禍及ばざりき。

(一) 李膺杜密 (二) 一時の利の爲めに惡を爲させんと思へど、しかし惡は決してなすべからず (三) 賢人の亡ぶるは國の亡ぶる基なりとの意 (四) 得失邪正を論ず (五) 危言は憚らず言ふこと、覈論は事實を究めて深刻に論ずること

詔二諸儒一正二五經文字一。命二蔡邕一。爲二古文篆

○諸儒に詔して五經の文字を正さしめ、蔡邕に命じて、古文・篆・隷三體を爲り、之を書して石に刻み、大學の門外に立つ○上、文學を好み、諸生の文賦を善く

劉淑一。爲二三君一。言一世之所レ宗也。李膺。荀昱。杜密。王暢。劉祐。魏朗。趙典。朱寓爲二八俊一。言人英也。郭泰。范滂。尹勳。巴肅。宗慈。夏馥。蔡衍。羊陟。爲二八顧一。言能以二徳行一引レ人也。張儉。翟超。岑晊。苑康。劉表。陳翔。孔昱。檀敷。爲二八及一。言能導レ人追宗也。度尚。張邈。王孝。劉儒。胡母班。秦周。蕃嚮。王章。爲二八厨一。言能以レ利救レ人也。及二陳蕃竇武用一レ事。復舉二拔膺等一。陳竇死。膺等復廢錮。曹節諷二有司一。奏二諸鈎黨一。膺詣二詔獄一。考死。

八顧と爲す。言ふは、能く徳行を以て人を引けばなり。張儉・翟超・岑晊・苑康・劉表・陳翔・孔昱・檀敷を八及と爲す。言ふは、能く人を導きて、追宗せしむればなり。度尚・張邈・王孝・劉儒・胡母班・秦周・蕃嚮・王章を八厨と爲す。言ふは、能く利を以て人を救へばなり。陳蕃・竇武の事を用ふるに及び、復た膺等を擧拔す。陳・竇死し、膺等復た廢錮せらる。曹節、有司を諷し、諸の鈎黨(二)を奏せしむ。膺詔獄(三)に詣りて、考死(四)す。

(一) あらはし揚げて　(二) 黨人也　(三) 獄は天子の詔によりて囚を繫す、故にいふ　(四) 拷問を受けて死す

滂就レ捕。母與訣曰。汝今得下與二李杜一齊上レ名。

滂、捕に就く。母與に訣して曰く、汝今李・杜と名を齊くすることを得。死も亦何ぞ憾みん。滂跪きて教を受け、再拜して辭す。其子を顧みて曰く、汝をし

位。竇太后臨レ朝。竇武爲二大將軍一。陳蕃爲二太傅一。徵二天下名賢一李膺杜密等。皆列二于朝一。天下想二望太平一。蕃武共議。以下宦官操二弄國柄一。濁中亂海内上。奏誅二曹節王甫等一。謀泄。宦者夜召二所親一。歃レ血共盟。請レ帝御二前殿一。作二詔板一拜二王甫黄門令一。使三其黨持レ節收二武等一。誣以二大逆一。先執二陳蕃一殺レ之。武自殺。梟二首都亭一。遷二太后於南宮一。

す。天下、太平を想望す。蕃・武共に議す。宦官、國柄を操り弄び、海内を濁亂するを以て、奏して曹節・王甫等を誅せんと。謀泄る。宦者、夜、所親を召し、血を歃りて共に盟ふ。帝に請ひて前殿に御せしめ、(一)詔板を作り、(二)王甫を黄門令に拜し、其黨をして節を持ちて(三)武等を收へしめ、誣ふるに大逆を以てす。先づ陳蕃を執へて之を殺す。武、自殺す。首を都亭に梟す。太后を南宮に遷す。

(一)表御殿に臨御せしめ　(二)詔を書ける板　(三)勅命のしるしの旗を持ちて

李膺初雖二廢錮一。士大夫皆高二其道一。而汚二穢朝廷一。更相標榜爲二稱號一。以二竇武。陳蕃。

李膺初め廢錮せらると雖も、士大夫皆其道を高しとして、朝廷を汚穢とす。更〻相標榜して、稱號を爲り、竇武・陳蕃・劉淑を以て、三君と爲す。言ふは、一世の宗ぶ所なればなり。李膺・荀昱・杜密・王暢・劉祐・魏朗・趙典・朱寓を八俊と爲す。言ふは、人英なればなり。郭泰・范滂・尹勳・巴肅・宗慈・夏馥・蔡衍・羊陟を

誹二訕朝廷一。疑中亂風俗上。上震怒。下二郡國一逮二捕黨人一。案二經三府一。蕃卻不レ肯レ署。上愈怒。下二膺等北寺獄一。辭連二杜密陳寔范滂等二百餘人一。使者追捕四出。蕃又極諫。上策免レ之。朝廷震慄。莫下敢復爲二黨人一言上者。賈彪曰。吾不二西行一。大難不レ解。乃入二洛陽一。說二皇后父竇武一。上疏解レ之。膺等獄辭又多引二宦官子弟一。宦官乃懼。白レ上赦二黨人二百餘人一。皆歸二田里一。書二名三府一。禁二錮終身一。上在位二十一年。改元者七。曰建和。和平。元嘉。永興。永壽。延熹。永康。崩。竇皇后迎二立解瀆亭侯一。是爲二孝靈皇帝一。

乃ち懼れ、上に白して黨人二百餘人を赦し、皆田里に歸らしめ、名を三府に書して、終身を禁錮す。上、在位二十一年。改元する者七。曰く建和・和平・元嘉・永興・永壽・延熹・永康。崩ず。竇皇后、解瀆亭侯を迎立す。是を孝靈皇帝と爲す。

(四) 罪をしらべて之を殺す　(五) 制限をこえたる墓所居宅　(六) 勅書の文案が三公の役所に廻る　(七) 黄門に屬し、將相大臣の罪を治むる處　(八) 法廷にての口供に宦官の子弟の横暴を擧げて引合に出す

孝靈皇帝。名宏。章帝玄孫也。年十二卽

孝靈皇帝

孝靈皇帝、名は宏。章帝の玄孫也。年十二、卽位す。竇太后朝に臨み、竇武、大將軍と爲り、陳蕃、太傅と爲る。天下の名賢を徵す。李膺・杜密等、皆朝に列

臧否一相尙。

會成瑨與二太原守劉瓆一於二赦後一案二殺宦官之黨一。徵下レ獄。將二棄市一。山陽守翟超。以二張儉一爲二督郵一。破二宦官蹤レ制家宅。東海相黃浮。亦收二宦官家屬犯レ法者一殺レ之。宦官訴レ冤。皆得レ罪。蕃屢爭レ之。上不レ聽。宦官教二人上書一。告下李膺養二太學遊士一。共爲二部黨一。

會〻成瑨、太原の守劉瓆と、赦の後に於て宦官の黨を案殺す。(一)徵されて獄に下り、將に棄市せられんとす。山陽の守翟超、張儉を以て督郵と爲す。宦官の制を蹤えたる冢宅を破る。(二)東海の相黃浮も亦宦官の家屬の法を犯す者を收めて之を殺す。宦官冤を訴ふ。皆罪を得たり。蕃屢〻之を爭ふ。上聽かず。宦官人をして上書せしめ、李膺、太學の遊士を養ひて、共に部黨を爲し、朝廷を誹り訕り、風俗を疑はし亂ると告ぐ。上震怒し、郡國に下して黨人を逮捕す。(三)案、三府を經て、蕃、卻けて肯て署せず。上、愈〻怒り、膺等を北寺の獄(四)に下す。辭、杜密・陳寔・范滂等二百餘人に連る。使者の追捕、四に出づ。蕃又極諫す。上、策して之を免ず。朝廷震ひ慄き、敢て復た黨人の爲に言ふ者莫し。賈彪曰く、吾西行せずんば、大難解けじと。乃ち洛陽に入り、皇后の父竇武に說き、上疏して之を解く。膺等が獄辭(五)、又多く宦官の子弟を引く。宦官

初上爲侯時。受學於甘陵周福。及卽位。擢爲尙書。時同郡房植有名。鄕人謠曰。天下規矩房伯武。因師獲印周仲進。二家賓客。互相譏揣成隙。由是有甘陵南北部。黨人之議始此。汝南太守宗資。以范滂爲功曹。南陽太守成瑨以岑晊爲功曹。皆褒善糺違。滂尤剛勁。疾惡如讎。二郡謠曰。汝南太守范孟博。南陽宗資主畫諾。南陽太守岑公孝。弘農成瑨但坐嘯。太學諸生三萬餘人。郭泰賈彪爲之冠。與陳蕃李膺更相推重。學中語曰。天下模楷李元禮。不畏強禦陳仲舉。於是中外承風。競以

天下の規矩は房伯武。師たりしに因りて印を獲しは周仲進と。二家の賓客互に相譏揣(二)して、隙を成す。是より甘陵の南北の部有り。黨人の議此に始る。汝南の太守宗資、范滂を以て功曹と爲す。南陽の太守成瑨、岑晊を以て功曹と爲す。皆善を褒し、違を糾す。滂尤も剛勁にして、惡を疾むこと讎の如し。二郡謠ひて曰く、汝南の太守は范孟博。南陽の宗資は畫諾(三)を主る。南陽の太守は岑公孝。弘農の成瑨は但だ坐嘯(四)すと。太學の諸生三萬餘人、郭泰・賈彪、之が冠たり。陳蕃李膺と更る相推重す。學中、語して曰く、天下の模楷(五)は李元禮、強禦(六)を畏れざるは陳仲舉と。是に於て中外風を承け、競ひて臧否(七)を以て相尙ぶ。

(一) がまの穂、身を傷つけざる爲なり　(二) 輕重長短をはかりて相そしる　(三) 何事にても只中立のまゝに認可を與ふと也　(四) 坐して吟嘯するのみ　(五) てはん　(六) 手ごはき惡人　(七) 正邪善惡を褒貶することを尙ぶ

之曰。明府下レ車以來。狗不ニ夜吠一。民不レ見レ吏。今聞當レ見ニ棄去一。故自扶奉送。寵曰。吾政何能及ニ公言一邪。勤ニ苦父老一。爲人選ニ一大錢一受レ之。後入爲ニ司空一。秉立レ朝正直。爲ニ河南尹一時。嘗以レ忤ニ宦官一得レ罪。後爲ニ太尉一。以卒。陳蕃繼レ秉爲ニ太尉一。數言ニ李膺一。以爲ニ司隷校尉一。宦官畏レ之。皆鞠躬屏レ氣。不ニ敢出ニ宮省一。時朝廷綱紀頽弛。膺獨持ニ風裁一。以ニ聲名一自尙。士有下被ニ其容接一者上。名爲ニ登龍門一云。

後入りて司空と爲る。秉、朝に立ち正直なり。河南の尹と爲る。時に嘗て宦官に忤ふを以て罪を得たり。後太尉と爲りて、以て卒す。陳蕃、秉に繼ぎて太尉と爲る。數〻李膺を言して、以て司隷校尉と爲す。宦官之を畏れ、皆鞠躬して氣を屏め、敢て宮省を出でず。時に朝廷、綱紀頽弛す。膺、獨り風裁を持し、聲名を以て自ら尙うす。士其容接を被る者有れば、名けて登龍門と爲すと云ふ。

(一)京に召さる (二)就任以來の意 (三)戒飭を崇らずと也 (四)身をちゞめ息をころす (五)見識を保つ

以ニ劉寬一爲ニ尙書令一。寬嘗歷ニ典三郡一。多ニ仁恕一。吏民有レ過。以ニ蒲鞭一罰レ之。

○劉寬を以て尙書令と爲す。寬嘗て三郡を歷典す。仁恕多し。吏民過有れば、蒲鞭を以て之を罰す○初め上、侯たりし時、學を甘陵の周福に受く。位に卽くに及び、擢んでゝ尙書と爲す。時に同郡の房植、名有り。鄕人謠ひて曰く

之所レ廢不レ可支也。陳留仇香名覽。年四十爲二蒲亭長一。民有二陳元一。母告二元不孝一。香親到二其家一。爲陳二人倫一。感悟卒爲二孝子一。考城令王奐署レ香爲二主簿一。謂曰。陳元不レ罰而化レ之。得レ無レ少二鷹鸇之志一邪。香曰。以爲鷹鸇不レ若二鸞鳳一。奐曰。枳棘非二鸞鳳所一レ棲。百里非二大賢之路一。乃資レ香入二太學一。常自守。泰就レ房見レ之。起拜二床下一曰。君泰之師也。不レ應二徵辟一而卒。

の栖む所に非ず。百里は大賢の路に非ずと。乃ち香に資して太學に入らしむ。常に自ら守る。泰、(七)房に就きて之を見る。起ちて床下に拜して曰く、君は泰の師也と。徵辟に應ぜずして卒す。

(一)兩脚を投げ出してすわる　(二)こしき、飯を炊ぐ器　(三)道德ある者を採用する科目の名　(四)天文　(五)鷹の雀を一攫にするが如く不忠不孝を罰する心　(六)刑を以て罰するは德を以て化するに如かずとの喩　(七)地方一縣の地

自二黃瓊一以來。三公如二楊秉劉寵一。皆人望。寵嘗守二會稽一。郡大治。被レ徵。有二五六老叟一。自二山谷閒一出。人齎二百錢一。送レ

○黃瓊より以來、三公、楊秉・劉寵が如き、皆人望あり。寵、嘗て會稽に守として、郡大に治る。(一)徵さる。五六の老叟有り。山谷の間より出づ。人ごとに百錢を齎らし、之を送りて曰く、明府、(二)車を下りし以來、狗夜吠えず、民、(三)吏を見ず。今聞く、當に棄て去らるべしと。故に自ら扶けて奉送す。寵曰く、吾が政何ぞ能く公の言に及ばんや。父老を勤苦すと。爲に人ごとに一大錢を選びて之を受く。

嚳與爲レ友。嚳嘗歸二鄕里一。送車數千兩。嚳惟與レ泰同レ舟而濟。衆賓望レ之者。如二神仙一焉。

容年四十餘。畊二於野一。遇レ雨避二樹下一。衆皆箕踞。容獨危坐愈恭。泰見而異レ之。遂勸令レ學。鉅鹿孟敏。荷レ甑墮レ地。不レ顧而去。泰見問レ之。曰。甑已破矣。視レ之何益。泰亦勸令レ學。自餘因二泰奬進一。成レ名者甚衆。泰擧二有道一不レ就。曰。吾夜觀二乾象一。晝察二人事一。天

容、年四十餘、野に畊し、雨に遇ひて樹下に避く。衆皆箕踞す。(一)容獨り危坐して愈々恭し、泰見て之を異とし、遂に勸めて學ばしむ。鉅鹿の孟敏、(二)甑を荷ひて地に墮し、顧みずして去る。泰見て之を問ふ。曰く、甑既に破る。之を視るも何の益あらんと。泰亦勸めて學ばしむ。自餘、泰が奬進に因りて名を成せる者甚だ衆し。泰、有道(三)に擧げられしも就かず。曰く、吾、夜は乾象(四)を觀、晝は人事を察するに、天の廢する所は支ふ可からずと。陳留の仇香、名は覽、年四十、蒲亭の長と爲る。民に陳元といふもの有り。母、元が不孝を告ぐ。香、親ら其家に到り、爲に人倫を陳ぶ。感悟して卒に孝子と爲る。考城の令王奐、香を署して主簿と爲す。謂ひて曰く、陳元、罰せずして之を化す。(五)鷹鸇の志を少くことを無きを得んや。香曰く、以爲らく、(六)鷹鸇は鸞鳳に若かずと。奐曰く、枳棘は鸞鳳

應諸公之辟。然聞其死。輒負笈赴弔。豫炙一鷄。以酒漬綿。暴乾裹之。到冢隧外。以水漬綿。白茆藉飯。以鷄置前。祭畢留謁。不見喪主而行。肱彭城人。與二弟仲海季江倶孝友。常共被。嘗過盜。兄弟爭死。盜兩釋之。穉肱被徵。皆不至。黃瓊卒。四方名士會葬者七千人。穉至。進爵哀哭。置生芻墓前而去。諸名士曰。此必南州高士徐孺子也。使陳留茆容追之。問國事。不答。太原郭泰曰。孺子不答國事。是其愚不可及也。泰初游洛陽。李

白茆もて飯に藉き、鷄を以て前に置き、祭り畢れば(四)謁を留め、喪主を見ずして行る。肱は彭城の人なり。二弟仲海・季江と倶に孝友なり。常に(五)被を共にす。嘗て盜に過ひ、兄弟死を爭ふ。盜兩りながら之を釋す。穉・肱、徵されども皆至らず。黃瓊卒す。四方の名士會葬する者七千人。穉至り、爵を進めて哀哭し、(六)生芻を墓前に置きて去る。諸名士曰く、此れ必ず南州の高士徐孺子ならんと。陳留の茆容をして之を追はしめ、國事を問ふ。答へず。太原の郭泰曰く、孺子の國事を答へざる、是れ其愚には及ぶ可からずと。泰初め洛陽に游ぶ。李膺與に友と爲る。膺嘗て鄉里に歸る。送車數千兩。膺は惟だ泰と舟を同じくして濟る。衆賓之を望む者神仙の如しとす。

(一) 一脚の椅子　(二) 他人をして用ひしめざる也　(三) 墓所のほとり。冢はツカの土をもりあげしもの、隧は墓道也、地を掘り道を通じて以て、葬る其道をいふ　(四) 名刺　(五) 同じ夜具をきていぬること　(六) 刈りたての草

胥輔王室。書奏。不省。

梁冀凶恣日積。以外戚用事者二十年。威行内外。天子拱手而已。上與宦者單超等謀。勒兵收冀印綬。冀自殺。梁氏無少長。皆棄市。超等五人皆侯。自冀誅。天下想望異政。黃瓊首爲太尉。

○梁冀、凶恣日に積む。外戚を以て事を用ふる者二十年、威、内外に行はれ、天子手を拱くのみ。上、宦者單超等と謀り、兵を勒して冀が印綬を收む。冀自殺す。梁氏、少長と無く、皆棄市せらる。超等五人皆侯たり。冀の誅せられてより、天下異政を想ひ望む。黃瓊、首として太尉と爲る。

(一) 凶惡にしてわがままなること (二) うて組して眺め居るのみ (三) 新政

陳蕃薦處士徐穉姜肱等。穉字孺子。豫章人。陳蕃爲守時。特設一榻以待穉。去則縣之。穉不

○陳蕃、處士徐穉・姜肱等を薦む。穉、字は孺子、豫章の人なり。陳蕃、守たりし時、特に一榻を設けて以て穉を待ち、去れば則ち之を縣く。穉、諸公の辟に應ぜず。然れども其死を聞けば、輒ち笈を負ひて赴き弔す。豫め一鷄を炙り、酒を以て綿に漬し、暴し乾して之を裹み、冢隧の外に到り、水を以て綿に漬し、

書。馬駘二其銜一。四牡橫奔。皇路險傾。方將二扣レ勒𢬵レ輈以救一レ之。豈暇下鳴二和鑾一淸中節奏上哉。昔文帝雖レ除二肉刑一。當レ斬右趾一棄市。笞者往往至レ死。是文帝以レ嚴致レ平。非三以レ寬致二平也。仲長統見二其書一曰。凡爲二人主一。宜下寫二一通一置中之坐側上。

朱穆爲二冀州刺史一。令長望レ風解レ印去者數十人。及レ到。奏二劾貪汚。有下宦者歸二葬父一用中玉匣上。穆案檢剖二其棺一。出レ之。上聞大怒。徵レ穆詣二廷尉一。大學生劉陶等數千人。上書訟レ穆。謂中官竊二持國柄一。手握二王爵一。口銜二天憲一。穆獨亢然不レ顧。竭レ心懷レ憂。爲レ上深計。臣願代二穆罪一。上赦レ之。陶又上疏。乞下以二穆及李

○朱穆、冀州の刺史と爲る。令長の、(一)風を望み印を解きて去る者數十人。到るに及び、貪汚を奏劾す。宦者の父を歸葬するに、(二)玉匣を用ふる有り。穆、案檢し、其棺を剖きて之を出す。上聞きて大に怒り、穆を徵して廷尉に詣らしむ。大學生劉陶等數千人、上書して穆を訟ふ。謂く、(三)中官、國柄を竊み持ち、手に(四)王爵を握り、口に天憲を銜む。穆、獨り亢然として顧みず、心を竭し、憂を懷き、上の爲に深く計る。臣願はくは穆が罪に代らんと。上之を赦す。陶又上疏して、穆及び李膺を以て王室を輔けんと乞ふ。書奏す。(五)省せられず。

(一) 朱穆が來るとの風聞をきゝて其未だ至らざる内に　(二) 金縷の玉衣、帝の葬時の衣也　(三) 宦官　(四) 王爵は王侯の爵祿、天憲は天朝の法憲、與奪の權を掌中に握り、生殺の柄口頭にあるをいふ　(五) 採用されず

策一。退而著二政論一。略曰。聖人能與レ世推移。俗士苦レ不レ知レ變。以爲結繩之約。可三復治二亂秦之緒一。干羽之舞。可三以解二平城之圍一。夫刑罰者治亂之藥石也。德敎者興平之粱肉也。以二德敎一除レ殘。是以二粱肉一治レ疾也。以二刑罰一治レ平。是以二藥石一供養也。自二數世一以來。政多二恩貸一。馭委二其

爲らく、(三)結繩の約は復た亂秦の緒を治む可く、(四)干羽の舞は以て平城の圍を解く可しと。夫れ刑罰は治亂の藥石也。德敎は興平の粱肉也。(五)德敎を以て殘を除く(六)は、是れ粱肉を以て疾を治むる也。刑罰を以て平を治むるは、是れ藥石を以て供養する也。數世より以來、政、恩貸多し。(七)馭其轡を委て、馬其銜を駘き、四牡横に奔りて、皇路險傾す。方に將に勒を掛ち(八)輈を鞬ねて以て之を救はんとす。豈和鑾を鳴し(九)、節奏を淸むるに暇あらんや。皆文帝肉刑を除くと雖も、右趾(一〇)を斬るに當るは棄市し、笞たるゝ者往往死に至る。是れ文帝嚴を以て平を致しゝなり。寛を以て平を致しゝに非ざる也と。仲長統其書を見て曰く、凡そ人主たるもの、宜しく一通を寫して之を坐側に置くべしと。

(一) 正を守りて世に阿らざる者　(二) 試問を受けず　(三) 太古結繩の政は、以て亂れたる秦の事端を治むべし　(四) 干羽の舞は、夏の禹王の舞はせて有苗氏を服せしめしもの、高祖平城に於て匈奴に圍まれしもその舞を以て難を免かるべしと爲す　(五) 美穀良肉　(六) 殘虐の徒を除く　(七) 情實にて恩典を施す　(八) 手綱を取り、車のながえをおさふ　(九) 御車の鈴を鳴らし、音調を取る餘裕なし　(一〇) 右の足

其六曰ㇾ爽。字慈明。人言。荀氏八龍。慈明無雙。縣令命ニ其里ヲ曰ニ高陽里ト。爽嘗謁ニ李膺ニ。因爲ㇾ之御。既還喜曰。今日乃得ㇾ御ニ李君ニ矣。同郡陳寔與ㇾ淑齊ㇾ名。嘗詣ㇾ淑。長子紀字元方。御ㇾ車。次子諶字季方。驂乘。孫羣字長文。尚幼。抱ニ車中ニ。至ニ淑家ニ。八龍更迭侍ニ左右ニ。淑孫彧字文若。尚幼。抱置ニ膝上ニ。太史奏。徳星見。五百里内。有ニ賢人聚ニ。寔嘗爲ニ大丘長ニ。修ㇾ徳清淨。吏民追ニ思之ニ。紀諶之子問ニ其父優劣於其祖ニ。寔曰。元方難ㇾ爲ㇾ兄。季方難ㇾ爲ㇾ弟。

を齊しくす。嘗て淑に詣る。長子紀、字は元方、車を御す。次子諶、字は季方、驂乘す。孫羣、字は長文、尚ほ幼なり。車中に抱かれて、淑が家に至る。八龍更る迭に左右に侍す。淑が孫彧、字は文若、尚ほ幼なり。抱きて膝上に置く。太史奏す、徳星見はる。五百里の内に賢人の聚ること有らんと。寔嘗て大丘の長と爲る。徳を修めて清淨なり。吏民之を追思す。紀諶の子、其父の優劣を其祖に問ふ。寔曰く、元方は兄たり難く、季方は弟たり難しと。

(一) 民を治むること神の如くなれば、神君と稱す　(二) 顓頊高陽氏に八才子あり、之に擬へて名づけし也

詔擧ニ獨行之士ヲ。涿郡崔寔至ニ公車ニ。不ニ對

○詔して獨行の士を擧ぐ。(一)涿郡の崔寔、公車に至る。對策せず、(二)退きて政論を著す。略に曰く、聖人は能く世と推し移る。俗士は變を知らざるに苦む。以

孝桓皇帝。名志。章帝曾孫也。年十五卽位。梁冀以定策功益封。又封其子弟皆侯。李固杜喬欲立清河王蒜。至是蒜貶爲侯自殺。固喬下獄死。

孝桓皇帝

孝桓皇帝、名は志。章帝の曾孫也。年十五にして卽位す。梁冀、定策の功(一)を以て封を益す。又其子弟を封じて皆侯とす。李固・杜喬、清河王蒜を立てんと欲す。是に至りて、蒜、貶せられて侯と爲りて自殺し、固・喬、獄に下りて死す。

(一) 皇帝迎立の策を定めたる功

前朗陵侯相。潁川荀淑。少博學有高行。李固李膺等皆師宗之。相朗陵。治稱神君。子八人。時人稱爲八龍。

○前の朗陵侯の相、潁川の荀淑、少くして博學、高行有り。李固・李膺等皆之を師宗とす。朗陵に相とし、治、神君と稱せらる。子八人あり。時の人稱して八龍と爲す。其六を爽と曰ふ。字(一)は慈明。人言く、荀氏の八龍、慈明無雙なりと。縣令其里を命けて高陽里(二)と曰ふ。爽嘗て李膺に謁す。因りて之が爲に御す。既に還り喜びて曰く、今日乃ち李君に御することを得たりと。同郡の陳寔、淑と名

炳。年二歳卽位。三閲月而崩。改元者一。曰永嘉。梁太后迎立渤海孝王之子。是爲孝質皇帝。

するもの一。曰く、永嘉。梁太后、渤海の孝王の子を迎へ立つ。是を孝質皇帝と爲す。

孝質皇帝。名纘。章帝曾孫也。年八歳卽位。少而聰慧。嘗因朝會目梁冀曰。此跋扈將軍也。冀深惡之。使左右於餅中進毒。遂崩。在位一年有半。改元者一。曰本初。冀迎立蠡吾侯。是爲孝桓皇帝。

孝質皇帝

孝質皇帝、名は纘、章帝の曾孫なり。年八歳にして卽位す。少くして聰慧なり。嘗て朝會に因り、梁冀を目して曰く、此れ跋扈[一]將軍也と。冀、深く之を惡み、左右をして餅の中に於て毒を進めしむ。遂に崩ず。在位一年有半。改元するもの一。曰く、本初。冀、蠡吾侯を迎へ立つ。是を孝桓皇帝と爲す。

[一] 跋扈をほしいままにする我儘將軍なりとの意

陵太守一。綱單車徑詣二嬰壘門一。請與相見譬二曉之一。嬰等萬餘人降。綱入レ壘宴。散遣任レ所レ之。南州晏然。在レ郡卒。嬰等爲レ之制レ服行レ喪。時二千石長吏。有二能レ政者一。冀州刺史蘇章。有三故人爲二淸河太守一。章行レ部。爲設レ酒甚歡。守喜曰。人皆有二一天一。我獨有二二天一。章曰。今日蘇孺文。與二故人一飮者。私恩也。明日冀州刺史。案レ事者。公法也。遂擧二正其姦贓之罪一。

なりと。遂に其姦贓(六)の罪を擧げ正しき。

㊀ 豺狼は梁冀・梁不疑に喩へ、狐狸は州郡の吏に喩ふ、豺狼の如き大姦要路に當れるに、何ぞ狐狸の如き細姦を問はんと也　㊁ とき諭す　㊂ 安らかなること　㊃ 支配下を巡行す　㊄ 蘇章の字　㊅ 收賄罪

上在位二十年崩。改元者五。曰。永建。陽嘉。永和。漢安。建康。太子立。是爲二孝沖皇帝一。

○上、在位二十年にして崩ず。改元する者五。曰く、永建・陽嘉・永和・漢安・建康。太子立つ。是を孝沖皇帝と爲す。

孝沖皇帝

孝沖皇帝。名

孝沖皇帝、名は炳といふ。年二歳にして位に卽き、三閲月にして崩ず。改元

以二皇后父梁商一爲二大將軍一。商死。以二其子冀一爲二大將軍一。不疑爲二河南尹一。遣二使者八人一。分二行州郡一。張綱獨埋二其車輪於洛陽都亭一曰。豺狼當レ道。安問二狐狸一。劾二奏冀不疑無レ君之心一十五事。上知二綱言直一。而不レ能レ用。冀欲レ中二傷之一。廣陵賊張嬰寇二亂揚徐閒一十餘年。乃以レ綱爲二廣

○皇后の父梁商を以て大將軍と爲す。商死す。其子冀を以て大將軍と爲す。不疑を河南の尹と爲し、使者八人を遣して、州郡を分行せしむ。張綱獨り其車輪を洛陽の都亭に埋めて曰く、(一)豺狼道に當る、安ぞ狐狸を問はんと。冀と不疑と君を無するの心を劾奏すること十五事。上、綱が言の直なることを知れども、而れども用ふること能はず。冀之を中傷せんと欲す。廣陵の賊張嬰、揚・徐の閒に寇亂すること十餘年。乃ち綱を以て廣陵の太守と爲す。綱、單車にして徑ちに嬰が壘門に詣り、請ひて與に相見て之を譬曉す。嬰等萬餘人降る。綱、壘に入りて宴し、散じ遣はして之く所に任す。南州晏然たり。(二)郡に在りて卒す。嬰等之が爲に服を制し喪を行ふ。時に二千石の長吏、(三)政を能くする者有り。冀州の刺史蘇章、故人に清河の太守たる有り。章、部を行り、(四)爲に酒を設けて甚だ歡す。守喜びて曰く、人皆一天有り。我獨り二天有りと。章曰く、今日蘇孺文(五)として、故人と飮む者は私恩なり。明日冀州の刺史として、事を案ずる者は公法

孝順皇帝。名保。爲₂孫程等₁所ㇾ立。宦官以ㇾ功封ㇾ侯者十九人。尚書令左雄。奏令₂郡國₁擧₂孝廉₁。限₂年四十以上₁。諸生通₂章句₁。文吏能₂牋奏₁。乃得ㇾ應ㇾ選。其有₂茂材異等₁若₂顏淵子奇₁。不ㇾ拘₂年齒₁。雄公直精明。能審₂覈眞僞₁。決ㇾ志行ㇾ之。有下擧₂少年₁至者上。雄詰ㇾ之曰。顏回聞ㇾ一知ㇾ十。孝廉聞ㇾ一知ㇾ幾邪。頃之中外坐ㇾ謬ㇾ擧。黜免者十餘人。惟汝南陳蕃。潁川李膺。下邳陳球等三十餘人。得ㇾ拜₂郎中₁。

孝順皇帝。名は保、孫程等の爲に立てらる。宦官功を以て侯に封ぜらるゝ者十九人〇尚書令左雄、奏して郡國に令して孝廉を擧げしめ、年四十以上を限る。諸生の章句に通じ、文吏の牋奏(一)を能くするものは、乃ち選に應ずることを得、其茂材(二)異等有ること顏淵・子奇(三)の若きは、年齒に拘はらず。雄、公直精明にして、能く眞僞を審覈(四)し、志を決して之を行ふ。少年を擧げて至る者有り。雄之を詰りて曰く、顏回は一を聞いて十を知れり、孝廉(五)一を聞きて幾くを知るかと。頃之して、中外擧を謬る(六)に坐して、黜免(七)せらるゝ者十餘人。惟だ汝南の陳蕃・潁川の李膺・下邳の陳球等三十餘人、郎中を拝することを得たり。

(一) 上奏建白の文を能くす (二) 茂材は、才智すぐれたること、異等は、凡庸にすぐれたる材あること (三) 齊の人、年十八にて阿邑の宰と爲る (四) 吟味す (五) 擧げられたる少年（徐淑といふ者）を指していふ (六) 孝廉の選出を誤れるとがにあひて (七) 官をしりぞけられ又は免ぜらる

何謂レ無レ知。令二慚而退一。及レ爲二三公一。時宦者及上乳母王聖。用レ事。皆有二請託一。震不レ從。又數以二近習一爲レ言。共構レ之。策收二印綬一。遂死。葬之日。名士皆來會。有二大鳥一。高丈餘。至二墓前一。俯仰。流涕而去。

上少號二聰明一。既卽レ位。多二失德一。在位十九年崩。改元者五。曰。永初。元初。永寧。建光。延光。太子先爲二近習一所レ譖。坐廢爲二濟陰王一。閻皇后臨レ朝。與二閻顯一迎二章帝孫北鄕侯懿一嗣レ位。宦者孫程等誅レ顯。遷二閻后一。迎二立濟陰王一。是爲二孝順皇帝一。

○上少くして聰明と號す。既に位に卽きて失德多し。在位十九年にして崩ず。改元する者五。曰く、永初・元初・永寧・建光・延光。太子先に近習の爲に譖せられ、(一)坐して廢せられて濟陰王と爲る。閻皇后朝に臨み、閻顯と章帝の孫北鄕侯懿を(二)迎へて位を嗣がしむ。宦者孫程等、顯を誅し、閻后を遷し、濟陰王を迎へ立つ。是を孝順皇帝と爲す。

㊀讒言せらる　㊁罪せらるゝこと

孝順皇帝

月之閒不レ見二黃生一。鄙吝之萌。復存二乎心一矣。太原郭泰過レ閬不レ宿。從レ憲累レ日。曰。奉高之器。譬二之汎濫一。雖レ清而易レ挹。叔度汪汪。若二千頃波一。澄レ之不レ清。撓レ之不レ濁。不レ可レ量也。憲初學二孝廉一。又辟二公府一。人勸二其仕一。暫到二京師一。卽還。年四十八而終。

太尉楊震自殺。震關西人。時人稱レ之曰二關西孔子楊伯起一。教二授生徒一。堂下得二三鱣一。都講以爲有二三公之象一。取以進曰。先生自レ此升矣。後嘗爲二郡守一。屬邑令。有二懷レ金遺レ之者一。曰。暮夜無二知者一。震曰。天知。地知。子知。我知。

○太尉楊震自殺す。震は關西の人なり。時の人之を稱して、關西の孔子楊伯起(一)と曰ふ。生徒に教授す。堂下に三鱣(二)を得たり。都講(三)以爲らく、三公の象(四)有りと。取りて以て進めて曰く、先生此れより升らんと。後嘗て郡守と爲る。屬邑の令に、金を懷にして之に遺る者有り。曰く、暮夜知る者無し。震曰く、天知る、地知る、子知る、我知る。何ぞ知るもの無しと謂はんと。令、慚ぢて退く。三公と爲るに及び、時に宦者及び上の乳母王聖、事を用ふ。皆請託有り。震從はず。又數〻近習を以て言と爲す。共に之を構ふ(五)。策して印綬を收む。遂に死す。葬るの日、名士皆來り會す。大鳥有り高さ丈餘、墓前に至りて俯仰し、流涕して去る。

(一) 孔子は關東の人、關西にて之に比すべきは楊伯起と也 (二) 三尾のうなぎ (三) 生徒の長、學頭 (四) 鱣魚は黃身黃文にて卿大夫の官服の象也、而して其數三、故に三公の象と爲す (五) 罪に陷れんとはかる

罷自殺。汝南太守王龔。好才愛レ士。以二袁閬一爲二功曹一。引二進黄憲陳蕃等一。憲父爲二牛醫一。憲年十四。潁川荀淑遇二於逆旅一。竦然異レ之曰。子吾之師表也。見レ閬曰。子國有二顏子一。閬曰見二吾叔度一邪。戴良才高。毎レ見レ憲歸一。惘然若二自失一。其母曰。汝復從二牛醫兒一來邪。陳蕃等相謂曰。時

を以て功曹と爲し、黄憲・陳蕃等を引き進む。憲が父牛醫を爲す。憲年十四、潁川の荀淑、逆旅(一)に遇ひ、竦然(二)として之を異として曰く、子は吾の師表也と。閬を見て曰く、子が國に顏子(三)有り。閬曰く、吾が叔度(四)を見たるかと。戴良才高し。憲を見て歸る毎に、惘然として自失せるが若し。其母曰く、汝復た牛醫の兒從り(五)來るかと。陳蕃等相謂ひて曰く、時月の閒黄生を見ざれば、鄙吝(六)の萠、復た心に存すと。太原の郭泰、閬に過りて宿せず、憲に從ひて日を累ぬ。曰く、奉高の器は、之を汎濫(七)に譬ふ、淸しと雖も挹み易し。叔度は汪汪(八)として千頃の波の若し、之を澄ませども淸まず、之を撓せども濁らず、量る可らざる也と。憲初め孝廉に擧げられ、又公府に辟さる。人其仕へんことを勸む。暫く京師に到りて、卽ち還る。年四十八にして終れり。

(一) 旅舍　(二) おそるゝ貌　(三) 顏回、黄憲の才德を喩へいふ也　(四) 黄憲の字　(五) 所に往つて　(六) いやしき心生ず　(七) 水の小さくわき出づるもの、側出を汎とし正出を濫とす　(八) 水の廣々として深く湛へたるさま

既到。郡兵三千。而羌萬餘。攻二圍赤亭一數十日。詡命。強弩勿レ發。潛發二小弩一。羌謂。力弱不レ能レ至。幷レ兵急攻。於レ是使三二十強弩共射二一人一。發無レ不レ中。羌大驚。詡因出レ城奮撃。明日悉陳二其兵一。令下從二東郭門一出。北郭門入上。貿二易衣服一。回轉數周。羌不レ知二其數一。相恐動。詡潛於二淺水一設レ伏。候二其走路一。羌果大奔。因掩撃大破レ之。賊由レ是敗散。

既に到る。郡兵三千、而して羌は萬餘、赤亭を攻め圍むこと數十日なり。詡命ず、強弩は發すること勿れ。潛かに小弩を發せよと。羌謂へらく、力弱くして至ること能はずと。兵を幷せて急に攻む。是に於て二十の強弩をして共に一人を射しむ。發して中らざるもの無し。羌大に驚く。詡因りて城を出で奮撃す。明日悉く其兵を陳ね、東郭門より出でゝ北郭門に入らしめ、(一)衣服を貿易して、回轉すること數周なり。羌其數を知らず、相恐動す。詡潛かに(二)淺水に於て伏を設け、其走路を候ふ。羌果して大に奔る。因りて掩ひ撃ちて大に之を破る。賊是に由りて敗散す。

(一) きものを取りかへて幾度も〳〵回轉せしむ　(二) 伏兵を淺瀬に設く

太后崩。鄧隲

○太后崩ず。鄧隲罷められて自殺す○汝南の太守王龔、才を好み士を愛す。袁閬

太后知詡有將帥之略。以爲武都太守。叛羌數千遮詡。詡停不進。宣言請兵須到乃發。羌聞之。分鈔傍縣。詡因其散。日夜進道。令軍士各作兩竈。日增倍之。或曰。孫臏減竈。而君增之。兵法日行不過三十里。而今日且二百里。何也。詡曰。虜衆多。吾兵少。徐行易爲所及。速進則彼不測。虜見吾竈日增。謂郡兵來迎。衆多行速。必憚追我。孫臏見弱。吾今示強。勢不同也。

太后、詡が將帥の略有るを知り、以て武都の太守と爲す。叛羌數千、詡を遮る、詡停りて進まず、兵を請ひ到るを須ちて乃ち發せんと宣言す。羌之を聞き、傍の縣を分鈔す。(二)詡其散ずるに因りて、日夜道を進め、軍士をして各兩つの竈を作らしめ、日に之を增倍す。或ひと曰く、孫臏(三)は竈を減ぜり、而るに君は之を增す。兵法に日に行くこと三十里に過ぎずと、而るに今日に且に二百里ならんとするは何ぞや。詡曰く、虜は衆多にして、吾が兵は少し。徐行せば爲に及ばれ易からん。速に進まば則ち彼測らじ。虜吾が竈の日に增すを見ば、郡兵來り迎ふと謂はん。衆多くして行くこと速ならば、必ず我を追ふを憚らん。孫臏は弱きを見し、吾は今強きを示す。勢同じからざれば也と。

(一) 叛亂せる羌族　(二) 手わけして諸方を掠む　(三) 本書卷之一春秋戰國齊の條下に見ゆ

朝。鄧隲爲二大將軍一。時邊郡多事。鄧隲欲下棄二涼州一幷中力北邊上。郎中虞詡以爲二不可一曰。關西出レ將。關東出レ相。烈士武夫多出二涼州一。衆皆從二詡議一。隲惡レ詡欲レ陷レ之。會朝歌賊攻二殺長吏一。州郡不レ能レ禁。以レ詡爲二朝歌長一。故舊皆弔レ之。詡曰。不レ遇二盤根錯節一。無三以別二利器一。及レ到レ官。募二壯士一。攻劫者爲レ上。傷レ人偸盜者次レ之。收二得百餘人一。使レ入二賊中一。誘令二劫掠一。伏レ兵殺二數百人一。又潛遣二貧人能縫者一。傭二作賊衣一。以二綵線一縫二其裾一。有下出二市里一者上。輒禽レ之。賊駭散。縣境皆平。

は將を出し、關東は相を出す。烈士武夫多く涼州より出づと。衆、皆詡の議に從ふ。隲、詡を惡みて之を陷れんと欲す。會〻朝歌の賊長吏を攻め殺し、州郡禁ずること能はず。詡を以て朝歌の長と爲す。故舊皆之を弔ふ。詡曰く、(一)盤根錯節に遇はずんば、以て利器を別つこと無しと。官に到るに及び、壯士を募る。攻め劫す者を上と爲し、人を傷け偸み盜む者を之が次とす。百餘人を收め得て、賊中に入らしめ、誘ひて劫掠せしめ、兵を伏せて數百人を殺す。又潛に貧人の能く縫ふ者を遣はし、賊の衣を(二)傭作し、(三)綵線を以て其裾を縫はしむ。市里に出づる者有れば、輒ち之を禽にす。賊駭き散ず。縣境皆平ぐ。

(一) わだかまりたる根、入りくみたるふしに遇はざれば、刀の利鈍を區別する能はず、人も難に處して、初めて其眞價を發揮すとの喩　(二) やとはれて作る　(三) 色絲

位十八年崩。改元者二。曰二永元元興一。太子立。是爲二孝殤皇帝一。

孝殤皇帝。名隆。生百餘日卽位。改二元延平一。在位八閱月而崩。時皇太后鄧氏臨朝。與二鄧騭一定策立レ嗣。是爲二孝安皇帝一。

孝安皇帝。名祜。清河王慶之子。章帝孫也。未レ冠迎卽位。鄧后仍臨

孝殤皇帝

孝殤皇帝、名は隆、生れて百餘日にして卽位す。元を延平と改む。在位八閱月にして崩ず。時に皇太后鄧氏朝に臨み、鄧騭と策を定めて嗣を立つ。是を孝安皇帝と爲す。

孝安皇帝

孝安皇帝、名は祜。清河王慶の子にして、章帝の孫也。未だ冠せざるに迎へられて卽位す。鄧后仍ほ朝に臨み、鄧騭大將軍たり。時に邊郡多事なり。鄧騭涼州を棄て、力を北邊に并せんと欲す。郎中の虞詡以て不可と爲して曰く、關西

漸盛。徵二班超一還二京師一。卒。超起レ自二書生一。投レ筆有下封二侯萬里外一之志上。有二相者一。謂曰。生燕頷虎頭。飛而食レ肉。萬里侯相也。自二假司馬一入二西域一。章帝時爲二西域將兵長史一。至三上以レ超爲二西域都護騎都尉一。平二定諸國一。在二西域一三十年。以レ功封二定遠侯一。至レ是以二年老一乞レ歸。願生入二玉門關一。上許レ之。任尙代爲二都護一。請レ敎。超曰。君性嚴急。水淸無二大魚一。宜二蕩佚簡易一。尙私謂レ人曰。我以班君當レ有二奇策一。今所レ言平平耳。尙後果失二邊和一。如二超言一。上在

里侯の相也と。假司馬たりしより西域に入り、章帝の時西域の將兵の長史と爲る。上が超を以て西域の都護・騎都尉と爲すに至りて、諸國を平定す。西域に在ること三十年、功を以て定遠侯に封ぜらる。是に至り年の老たるを以て歸らんことを乞ふ。願はくは生きて玉門關に入らんと。上、之を許す。任尙、代りて都護と爲り、敎を請ふ。超曰く、君、性、嚴急なり。水淸ければ大魚無し。宜しく蕩佚簡易なるべし(三)しと。尙私に人に謂ひて曰く、我以へらく、班君當に奇策有るべしと。今言ふ所平平たるのみと。尙、後果して邊の和を失ふと、超の言の如し〇上、在位十八年にして崩ず。改元する者二。永元・元興と曰ふ。太子立つ。是を孝殤皇帝と爲す。

(一)人相見 (二)おとがひは燕に類し、頭は虎に似たり、燕は飛び、虎は肉を食ふ、其相萬里侯に當ると也 (三)簡易にして、人を待つこと寛に、おほざつぱにして、小さき所に氣をつけざること

十歳卽位。竇后臨レ朝。竇憲以二外戚一侍中。用レ事。有レ罪。求下出擊二北匈奴一以自贖上。后從レ之。大破二匈奴一。登二燕然山一。刻レ石勒レ功而還。入爲二大將軍一。四年父子兄弟竝爲二卿校一。充二滿朝廷一。有二逆謀一。上知レ之。遂與二宦者鄭衆一定レ議。勒レ兵收二憲印綬一。迫令二自殺一。以レ衆爲二大長秋一。常與議レ政。宦官用レ權自レ此始。

ちて、以て自ら贖はんと求む。后之に從ふ。大に匈奴を破り、燕然山に登り、石に刻みて功を勒して(二)還り、入りて大將軍と爲る。四年、父子兄弟竝に卿校(三)と爲り、朝廷に充滿す。謀逆有り。上、之を知り、遂に宦者の鄭衆と議を定め、兵を勒して憲の印綬を收め、迫りて自殺せしむ。衆を以て大長秋(四)と爲し、常に與に政を議す。宦官の權を用ふること此より始まる。

(一)罪をあがなふ　(二)手柄の次第をはりつけて　(三)九卿將校　(四)皇后の居所長秋宮の長官

先レ是。漢兵擊二北單于一。走死。漢立二其弟一。後叛。追斬滅レ之。鮮卑徙據二北匈奴地一。自レ是

○是より先、漢の兵北單于を擊ち、走り死せしむ。漢其弟を立つ。後叛く。追ひ斬りて之を滅す。鮮卑徙りて北匈奴の地に據り、是より漸く盛なり○班超を徵して京師に還らしむ。卒す。超、書生より起り、筆を投じて萬里の外に封侯たるの志有り。(一)相者有り、謂ひて曰く、生、(二)燕頷にして虎頭、飛びて肉を食はんとす。萬

求二忠臣一。必於二孝子之門一。上然レ之。盧江毛義以二行義一稱。張奉候レ之。府檄適至。以レ義守二安陽令一。義捧レ檄入。喜動二顏色一。奉心賤レ之。後義母死。徵辟皆不レ至。奉乃歎曰。往日之喜。爲レ親屈也。上下レ詔褒二寵之一。州郡得レ人。如二廉范一在二蜀郡一。弛レ禁以便レ民。民歌レ之曰。廉叔度。來何暮。不レ禁レ火。民安作。昔無レ襦。今五袴。當時皆以平レ徭簡レ賦。忠恕長者爲レ政。終二上之世一。民賴二其慶一。太子立。是爲二孝和皇帝一。

り。廉范の如き、蜀郡に在りて、禁を弛べて以て民に便ず。民之を歌ひて曰く、廉叔度、來ること何ぞ暮き。(五)火を禁ぜず、民安作す。昔は(六)襦無く、今は五袴ありと。當時皆以て(七)徭を平にし(八)賦を簡にし、忠恕の長者政を爲す。上の世を終ふるまで、民其慶に賴る。太子立つ。是を孝和皇帝と爲す。

(一)細かく煩はしき政事　(二)德行と節義　(三)官府よりの召狀　(四)天子より詔ありて召すを徵といひ、郡國に擢舉せらるゝを辟といふ　(五)夜業を禁ぜず　(六)襦袢　(七)徭役(ブヤルニデル)を公平にし　(八)賦稅を輕くす

孝和皇帝。名肇。母梁氏。竇皇后子レ之。年

孝和孝帝

孝和皇帝、名は肇。母は梁氏。竇皇后之を子とす。年十歲位に卽く。竇后朝に臨む。竇憲、外戚を以て侍中たり。事を用ふ。罪有り。出でゝ北匈奴を擊

官。惟班超上疏請レ兵。欲三遂平二西域一。上知二功可レ成從レ之。北匈奴五十八部來降。時北匈奴衰耗。黨衆離畔。南部攻二其前一。丁零寇二其後一。鮮卑擊二其左一。西域攻二其右一。不二復自立一。乃遠引而去。鮮卑擊二斬北單于一。故部衆有二來降者一。

きて去る。鮮卑撃ちて北單于を斬る。故に部衆(二)に來り降る者有り。

(一)昭也　(二)諸部の民衆

上崩。在位十三年。改元者三。曰。建初。元和。章和。壽三十一。上繼二明帝察察之後一。知二人厭二苛切一。事從二寛厚一。文レ之以二禮樂一。嘗議二貢擧法一。章彪議曰。國以レ簡レ賢爲レ務。賢以二孝行一爲レ首。

○上崩ず。在位十三年。改元する者三。曰く、建初・元和・章和。壽三十一。上、明帝が察察(一)の後を繼ぎて、人の苛切を厭ふを知り、事、寛厚に從ひ、之を文るに禮樂を以てす。嘗て貢擧の法を議す。章彪、議して曰く、國は賢を簡ぶを以て務と爲し、賢は孝行を以て首となす。忠臣を求むるは、必ず孝子の門に於てすと。上、之を然りとす。廬江の毛義、(二)行義を以て稱せらる。張奉之を候す。府檄(三)適〻至り、義を以て安陽の令に守とす。義、檄を捧げて入り、喜顏色に動く。奉心に之を賤む。後義の母死す。徵辟あれども皆至らず。奉乃ち歎じて曰く、往日の喜は親の爲に屈する也と。上、詔を下して之を褒寵す。州郡人を得た

君自起撞ㇾ郎。乃赦ㇾ之。上遵ニ奉建武制度一無ニ更變一。后妃家不ㇾ得ニ封ㇾ侯預ㇾ政。館陶公主爲ㇾ子求ㇾ郎。上曰。郎官上應ニ列宿一。出宰ニ百里一。苟非ニ其人一。民受ニ其殃一。不ㇾ許。當時吏得ニ其人一。民樂ニ其業一。遠近畏服。戶口滋殖焉。太子立。是爲ニ肅宗孝章皇帝一。

(一) 心狹くして、物事にせゝこましく氣を廻すこと (二) 隱事をあばく (三) 手にてひきずる (四) 奥ぶかくして容儀をつゝしむ貌 (五) 敬み畏れ、自ら修正する貌 (六) 星辰の列宿に應ず

孝章皇帝。名炟。母賈氏。馬皇后養ㇾ之。立爲ニ太子一。至ㇾ是卽位。西域攻沒ニ都護一。北匈奴圍ニ己校尉一。又圍ニ耿恭一。詔遣ㇾ兵。罷ニ都護及戊己校尉

孝章皇帝

孝章皇帝、名は炟。母は賈氏にして、馬皇后之を養ひ、立てゝ太子と爲す。是に至りて卽位す○西域、攻めて都護を沒し、北匈奴、己校尉を圍み、又耿恭を圍む。詔して兵を遣し、都護及び戊己校尉の官を罷む。惟だ班超上疏して兵を請ひ、遂に西域を平げんと欲す。上、功の成る可きを知りて之に從ふ○北匈奴の五十八部來り降る。時に北匈奴衰耗し、黨衆離れ畔き、南部其前を攻め、丁零其後に寇し、鮮卑其左を擊ち、西域其右を攻め、復た自立せず、乃ち遠く引

匈奴。北匈奴亦寇レ邊。至レ是攻二恭於金蒲城一。恭以二毒藥一傅レ矢。語二匈奴一曰。漢家箭神。中者有レ異。虜視レ創皆沸。大驚。恭乘二暴風雨一擊レ之。殺傷甚衆。匈奴震怖曰。漢兵神。眞可レ畏也。乃解去。

上崩。在位十八年。改元者一。曰永平。壽四十八。上性褊察。好以二耳目一隱發爲レ明。公卿大臣數被二詆毀一。近臣尚書以下。至見二提曳一。嘗怒二郎藥崧一。以レ杖撞レ之。崧走入二床下一。上怒甚。疾言曰。郎出郎出。崧曰。天子穆穆。諸侯皇皇。未レ聞二人

○上崩ず。在位十八年。改元する者一。曰く、永平。壽四十八。上、性、(一)褊察、好みて耳目を以ひ、(二)隱發して明と爲す。公卿大臣、數〻詆毀せられ、近臣尚書以下、(三)提曳せらるゝに至る。嘗て郎の藥崧を怒り、杖を以て之を撞く。崧、走りて床下に入る。上、怒ること甚しく、疾言して曰く、郎出でよ、郎出でよ。崧曰く、天子は(四)穆穆たり。諸侯は皇皇たり。未だ人君にして自ら起ちて郎を撞くを聞かずと。乃ち之を赦す。上、(五)建武の制度を遵奉して更變すること無し。后妃の家は侯に封ぜられ、政に預かることを得ず。館陶公主、子の爲に郎を求む。上曰く、郎の官は、上、(六)列宿に應じ、出でゝ百里に宰たり。苟も其人に非ざれば、民其殃を受けんと。許さず。當時、吏其人を得、民其業を樂む。遠近畏服し、戶口滋〻殖ゆ。太子立つ。是を肅宗孝章皇帝と爲す。

告以二威德一。使レ勿二復與レ虜通一。超復使二于寘一。其王亦斬二虜使一以降。於レ是諸國皆遣レ子入侍。西域復通。至レ是竇固等擊二車師一而還。以二陳睦一爲二都護一。及以二耿恭一爲二戊校尉一。關寵爲二己校尉一。分屯二西域一。

十八年。北匈奴攻二戊校尉耿恭一。初上卽位之明年。南單于比死。弟莫立。上遣レ使授二璽綬一。北匈奴寇レ邊。南單于擊レ卻之。漢與二北匈奴一交レ使。南單于怨欲レ畔。密使二人與交通一。漢置二度遼將軍於五原一。以防レ之。已而漢伐二北

○十八年、北匈奴、戊校尉耿恭を攻む。初め上が卽位の明年、南單于比死し、弟莫立つ。上、使を遣して璽綬を授く。北匈奴、邊に寇す。南單于擊ちて之を卻く。漢、北匈奴と使を交ふ。南單于怨みて畔かんと欲し、密に人をして與に交通せしむ。漢、度遼將軍を五原に置きて、以て之を防ぐ。已にして漢、北匈奴を伐つ。北匈奴も亦邊に寇す。是に至りて恭を金蒲城に攻む。恭、毒藥を以て矢に傅け(一)、匈奴に語げて曰く、漢家の箭は神なり。中る者は異有らん(二)と。虜、創を視れば皆沸く(三)。大に驚く。恭、暴風雨に乘じて之を擊つ。殺傷甚だ衆し。匈奴震ひ怖れて曰く、漢の兵は神なり、眞に畏る可き也と。乃ち解き去る。

(一)附也 (二)異變あらんと (三)熱血沸き上る

至レ是入朝。上問。處レ家何以爲レ樂。蒼曰。爲レ善最樂。十七年復置二西域都護戊己校尉一。初耿秉請レ伐二匈奴一。謂宜レ如下武帝通二西域一。斷中匈奴右臂上。上從レ之。以二秉與一レ竇固一爲二都尉一。屯二涼州一。固使下假司馬班超使中西域上。超至二鄯善一。其王禮レ之甚備。匈奴使來。頓疎懈。超會二吏士三十六人一曰。不レ入二虎穴一不レ得二虎子一。奔二虜營一斬二其使及從士三十餘級一。鄯善一國震怖。超

秉、匈奴を伐たんと請ふ。謂へらく、宜しく武帝が西域に通じて匈奴の右の臂を斷ちしが如くすべしと。上、之に從ひ、秉と竇固とを以て都尉と爲す。涼州に屯す。固、假司馬班超をして西域に使せしむ。超、鄯善に至る。其王之を禮すること甚だ備はる。匈奴の使來れば、(一)頓に疎懈なり。超、吏士三十六人を會して曰く、虎穴に入らずんば虎子を得ずと。虜の營に奔りて、其使及び從士三十餘級を斬る。鄯善の一國震ひ怖る。超、告ぐるに威德を以てし、復た虜と通ずること勿らしむ。超復た于寘に使す。其王も亦虜の使を斬りて以て降る。是に於て諸國皆子を遣して入りて侍せしむ。西域復た通ず。是に至りて竇固等(二)車師を擊ちて還る。陳睦を以て都護と爲し、及び耿恭を以て戊校尉と爲し、關寵を己校尉と爲す。分れて西域に屯す。

(一) 急に其待遇ぞんざいとなりたり　(二) 國の名

引二欒及弟子一升レ堂。諸儒執レ經問難。冠帶搢紳之人。圜二橋門一而觀聽者億萬計。

三年。圖二畫中興功臣二十八將於南宮雲臺一。應二二十八宿一。鄧禹爲レ首。次馬成。吳漢。王梁。賈復。陳俊。耿弇。杜茂。寇恂。傅俊。岑彭。堅鐔。馮異。王霸。朱祐。任光。祭遵。李忠。景丹。萬脩。蓋延。邳彤。銚期。劉植。耿純。臧宮。馬武。劉隆。惟馬援。以二皇后之父一不レ與焉。

○三年、中興の功臣二十八將を南宮の雲臺に圖畫し、二十八宿(一)に應ず。鄧禹を首と爲し、次は馬成・吳漢・王梁・賈復・陳俊・耿弇・杜茂・寇恂・傅俊・岑彭・堅鐔・馮異・王霸・朱祐・任光・祭遵・李忠・景丹・萬脩・蓋延・邳彤・銚期・劉植・耿純・臧宮・馬武・劉隆。惟だ馬援のみ、皇后の父なるを以て與からず。

(一) 星座の二十八宿

十一年。東平王蒼來朝。蒼自二上卽位初一。爲二驃騎將軍一。五年而歸レ國。

○十一年、東平王蒼、來朝す。蒼、上が卽位の初より、驃騎將軍と爲り。五年にして國に歸る。是に至りて入朝す。上問ふ、家に處りて何を以て樂と爲す。蒼曰く、善を爲すこと最も樂しと○十七年、復た西域都護戊己校尉を置く。初め耿

弘農可レ問。河南南陽不レ可レ問。光武詰二吏由一。祇言於二街上一得レ之。光武怒。陽年十二。在二幄後一。曰、吏受二郡勅一。欲下以二墾田一相方上耳。河南帝城。多二近臣一。南陽帝鄕。多二近親一。田宅踰レ制。不レ可レ爲レ準。以詰レ吏。首服。光武大奇レ之。郭皇后廢。陰貴人立爲レ后。陽爲二皇太子一。改二名莊一。至レ是卽位。

吏を詰る。首服す。光武大に之を奇とす。郭皇后廢せられ、陰貴人立ちて后と爲る。陽を皇太子と爲し、名を莊と改む。是に至りて卽位す。

(一)賢明　(二)開墾の新田　(三)實地に取りしらぶ　(四)書付　(五)とばりのうしろ、幕後　(六)郡守の命令敎　(七)他郡と比較す　(八)自ら匿す所を陳じて罪に服す、白狀

永平二年。臨二辟雍一。行二養老禮一。以二李躬一爲二三老一。桓榮爲二五更一。三老東面。五更南面。上親袒割レ牲。執レ醬而饋。執レ爵而酳。禮畢

〇永平二年、辟雍に臨みて、養老の禮を行ふ。李躬を以て三老と爲し、桓榮を五更と爲す。三老は東面し、五更は南面す。上、親ら袒して牲を割き、醬を執つて饋し、爵を執つて酳す。禮畢り、榮及び弟子を引きて堂に升らしむ。諸儒、經を執りて問難す。冠帶搢紳の人、橋門を圜りて觀聽する者、億萬計。

(一)公卿・大夫中の老人を選び、天子親ら之に肉を捧げて、孝道を示す禮　(二)いけにへの肉をさく　(三)肉にかくる汁　(四)食をすゝむ　(五)さかづき　(六)酳は飲也、酒にて口漱ぐをいふ　(七)經書に就きて疑義を問答す

黃老養性之道一。上曰。我自樂ㇾ此。不ㇾ爲ㇾ疲也。在位三十三年。身致二太平一。改元者二。曰。建武。中元。壽六十二。太子立。是爲二顯宗明皇帝一。

孝明皇帝。初名陽。母陰氏。光武微時。嘗曰。仕宦當ㇾ作二執金吾一。娶ㇾ妻當ㇾ得二陰麗華一。後竟得ㇾ之。生ㇾ陽。幼穎悟。光武詔二州郡一。檢二覈墾田戶口一。諸郡各遣ㇾ人奏ㇾ事。見二陳留吏牘一。上有ㇾ書。視ㇾ之云。潁川

孝明皇帝

孝明皇帝、初の名は陽、母は陰氏。光武微なりし時、嘗て曰く、仕宦せば當に執金吾と作るべし、妻を娶らば當に陰麗華を得べしと。後竟に之を得たり。陽を生む。幼にして穎悟(一)なり。光武、州郡に詔して、墾田戶口(二)を檢覈(三)す。諸郡、各〻人を遣して事を奏す。陳留の吏の牘(四)を見るに、上に書有り、之を視るに、云ふ潁川・弘農は問ふ可し、河南・南陽は問ふ可からずと。光武、吏に由を詰る。祇だ言ふ、街上に於て之を得たりと。光武怒る。陽、年十二、幄(五)の後に在り。曰く、吏、郡敕(六)を受け、墾田を以て相方(七)べんと欲するのみ。河南は帝城なり、近臣多し。南陽は帝鄕なり、近親多し。田宅、制を踰ゆ。準と爲す可からずと。以て

謁。或奏詆レ之。上曰、自レ古明王聖主。必有二不賓之士一。賜レ帛罷レ之。處士嚴光與レ上嘗同游學。物色得二之齊國一。披二羊裘一釣二澤中一。徵至。亦不レ屈。上與レ光同臥。以レ足加二帝腹一。明日太史奏。客星犯二御坐一甚急。上曰。朕與二故人嚴子陵一共臥耳。拜二諫議大夫一。不レ肯受。去耕釣。隱二富春山中一終。漢世多二清節士一自レ此始。

方二天下未一レ平。上已有レ志二文治一。首起二大學一。稽二式古典一。修二明禮樂一。晩歳起二明堂靈臺辟雍一。粲然文物可レ述。每旦視レ朝。日昃乃罷。引二公卿郎將一。講二論經理一。夜分乃寐。皇太子乘レ閒諫曰。陛下有二禹湯之明一。而失二

天下の未だ平かざるに方りて、上已に文治に志有り。首に大學を起し、古典(一)を稽式し、禮樂を修明す。晩歳、明堂(二)・靈臺(三)・辟雍(四)を起す。粲然たる文物述ぶ可し。每旦、朝を視、日昃いて乃ち罷む。公卿郎將を引きて經理を講論し、夜分(五)に乃ち寐ぬ。皇太子、閒に乘じて諫めて曰く、陛下、禹湯の明有りて、黃老(六)が養性の道を失ふ。上曰く、我は自ら此を樂む。疲ると爲さゞる也と。在位三十三年、身太平を致す。改元する者二。曰く、建武・中元。壽六十二。太子立つ。是を顯宗明皇帝と爲す。

(一)古への典籍を考究し之を法り用ふ　(二)天子の政を布き上帝をまつる宮　(三)天象を觀測し、又游觀し心をはらすための高臺　(四)天子の教宮にて射禮の行所也　(五)夜半　(六)黃帝老子の養生法

語曰。前有二召父一。後有二杜母一。張堪守二漁陽一。人爲レ之語曰。桑無二附枝一。麥穗兩岐。張堪爲レ政。樂不レ可レ支。劉昆爲レ令二江陵一。有レ火。叩頭向レ之。反レ風滅レ火。後守二弘農一。虎北渡レ河。上問。行二何德政一而至レ是。昆曰。偶然耳。上曰。長者之言也。命書二之策一。尤重二高節一。徵二處士周黨一。至不レ屈。伏而不レ

反して火を滅す。後に弘農に守たり。虎、北して河を渡る。上問ふ、何の德政を行ひて是に至るか。昆曰く、偶然のみ。上曰く、長者の言也と。命じて之を(四)策に書せしむ。尤も高節を重んず。處士の周黨を徵す。至れど屈せず、伏して謁せず。或ひと奏して之を詆る。上曰く、古より明王聖主には必ず(五)不賓の士有りと。帛を賜ひて之を罷む。處士の嚴光、上と嘗て同じく游學す。(六)物色して之を齊の國に得たり。羊の裘を披て、澤の中に釣る。徵されて至れど亦屈せず。上、光と同臥す。足を以て帝の腹に加ふ。明日、(七)太史奏す、(八)客星、御座を犯すこと甚だ急なりと。上曰く、朕故人の嚴子陵と共に臥しゝのみと。諫議大夫に拜す。肯て受けず、去りて畊し釣り、富春山中に隱れて終る。漢の世、淸節の士多きこと此より始る。

(一) 莊子の河潤九里といふ語を引きて郭伋の治德京師までも及べるをたゝへたる也 (二) 西漢宣帝の時の召信臣と今の杜詩 (三) やどり木なく、麥の穗はみのりて岐(マタ)を生じたり (四) 記錄に書き留む (五) 招きに應ぜざる處士 (六) 人相書きを以てさがす (七) 天文のことを掌る役 (八) 居るに定位なき星

殺レ人匿二主家一。吏不レ能レ得。洛陽令董宣、候二主出行一。奴驂乘。叱下レ車。格二殺之一。主入訴。上大怒。召レ宣欲レ捶二殺之一。宣曰。縱二奴殺レ人。何以治二天下一。臣不レ須レ捶。請自殺。卽以レ頭叩レ楹。流血被レ面。上令二小黄門持レ之。使二叩頭謝レ主。宣兩手據レ地。終不レ肯。上敕強項令出。賜二錢三十萬一。

自殺せんと。卽ち頭を以て楹を叩く。流血面に被る。上、小黄門をして之を持へしめ、叩頭して主に謝せしむ。(八)宣、兩手地に據り、終に肯ぜず。上、敕すらく、(九)強項令出でよと。錢三十萬を賜ふ。

(一) 卽ち宋弘を夫としたき心あり (二) 既風の後 (三) 糟糠は、かすとぬかなり、貧を共にした妻は、大切にして堂より下さずと也 (四) 奴僕 (五) そへ乘り (六) たゝき殺す (七) 杖にて打ち殺す (八) 頭を柱に打ちつく (九) うなじの強き洛陽の令、董宣を指す

當時州牧郡守縣令。皆良吏。郭伋守二潁川一。近二帝城一。上勞之曰。河潤二九里一。京師蒙レ福。杜詩守二南陽一。郡人爲レ之

當時の州牧・郡主・縣令、皆良吏なり。郭伋、潁川に守たり。帝城に近し。上、之を勞ひて曰く、(一)河、九里を潤す。京師福を蒙ると。杜詩、南陽に守たり。郡の人之が爲に語して曰く、前に召父有り、後に杜母有りと。(二)張堪、漁陽に守たり。人之が爲に語して曰く、桑に附枝無く、麥の穗兩岐あり。張堪政を爲す。樂み支ふる可からずと。(三)劉昆、江陵に令たり。火有り、叩頭して之に向へば、風を

身勝二瘴氣一。軍還載二之一車一。後有下追二譖之一者上。以爲二明珠文犀一。上益怒。得三朱勃上書訟二其冤一。乃稍解。上於二臧罪一無レ所レ貸。大司徒歐陽歙嘗犯レ臟。歙所レ授尚書弟子千餘人。守レ闕求レ哀。竟不レ免。死二於獄一。所レ用羣臣如二宋弘等一。皆重厚正直。

す。用ふる所の羣臣、宋弘等の如きは、皆重厚正直なり。

(一) 季良は字にて、姉は杜、名は保也 (二) 梁松 (三) 讒構し罪におとす (四) 藥草の名、俗にズヽゴ玉と稱する類 (五) 死後にざんげんす (六) 眞珠と上等犀角を、賄賂に取りて持ち還ると讒せし也 (七) 收賄罪

上姉湖陽公主嘗寡居。意在レ弘。弘入見。主坐二屏後一。上曰。諺言富易レ交。貴易レ妻。人情乎。弘曰。貧賤之交不レ可レ忘。糟糠之妻不レ下レ堂。上顧レ主曰。事不レ諧矣。主有二蒼頭一。

上の姉湖陽公主、嘗て寡居す。(一)意、弘に在り。弘、入りて見ゆ。主、屏後(二)に坐す。上曰く、諺に言ふ、富みて交を易へ、貴くして妻を易ふと。人情ならんか。弘曰く、貧賤の交は忘る可からず。(三)糟糠の妻は堂より下さずと。上、主を顧みて曰く、事諧はずと。主に蒼頭(四)有り、人を殺して、主の家に匿る。吏得ること能はず。洛陽の令董宣、主の出行を候す。奴、驂乘(五)す。叱して車より下し、之を格殺(六)す。主、入りて訴ふ。上大に怒り、宣を召して之を捶殺(七)せんと欲す。宣曰く、奴の人を殺すを縱さば、何を以てか天下を治めん。臣、捶を須たず。請ふ

長短。是非政法。不願子孫有此行也。龍伯高敦厚周愼。謙約節儉。吾愛之重之。願汝曹效之。杜季良豪俠好義。憂人之憂。樂人之樂。父喪致客。數郡畢至。吾愛之重之。不願汝曹效之也。效伯高不得。猶爲謹敕之士。所謂刻鵠不成。尙類鶩也。效季良不得。陷爲天下輕薄子。所謂畫虎不成。反類狗也。

なるをいふ　(五)敦厚は、心あつきなり、周愼は、つゝしみ深きなり　(六)つゝしみて、おこたらぬこと

季良者杜保。保仇人上書告保。以援書爲證。保坐免官。松坐與保游。幾得罪。愈恨援。至是援軍至壺頭。不利。卒軍中。松構之。收新息侯印綬。援前在交趾。常餌薏苡。以輕

季良は杜保なり。保の仇人、上書して保を告ぐるに、援の書を以て證と爲す。保、坐して官を免ぜらる。松、保と游ぶに坐して、幾んど罪を得んとし、愈ゝ援を恨む。是に至りて、援の軍壺頭に至り、利あらずして軍中に卒す。松、之れを構陷す。新息侯の印綬を收む。援、前に交趾に在りて、常に薏苡を餌す。身を輕くし瘴氣に勝つを以てなり。軍還るとき、之を一車に載す。後之を追譖する者有り、以て明珠・文犀なりとす。上、益ゝ怒る。朱勃が上書して其寃を訟ふるを得て、乃ち稍解く。上、贓罪に於て貸す所無し。大司徒歐陽歙、嘗て贓を犯す。歙が授くる所の尙書の弟子千餘人、闕を守りて哀を求む。竟に免さず。獄に死

伏波將軍一討平レ之。武陵蠻反。援又請レ行。帝愍二其老一。援被レ甲上レ馬。據レ鞍顧眄。以示レ可レ用。上笑曰。矍鑠哉是翁。乃遣レ之。先レ是。上壻梁松嘗候レ援拜二牀下一。援自以二父友一不レ答。松不平。援在二交趾一。嘗遣レ書戒二其兄子一曰。吾欲下汝曹聞二人過一如上聞二父母名一。耳可レ聞。口不レ可レ言。好議二論人

て曰く、矍鑠(四)たるかな是の翁と。乃ち之を遣る。是より先、上の壻梁松、嘗て援を候して牀下に拜す。援、自ら父の友なるを以て答へず。松不平なり。援、交趾に在り、嘗て書を遣して其兄の子を戒めて曰く、吾、汝が曹の、人の過を聞く事、父母の名を聞くが如くせん事を欲す。耳に聞く可きも、口に言ふ可からず。好んで人の長短を議論し、政法を是非すると、子孫に此行有るを願はざる也。龍伯高は敦厚(五)周愼、謙約節儉なり。吾、之を愛し之を重んず。願はくは、汝が曹、之に效へ。杜季良は豪俠にして義を好み、人の憂を憂へ、人の樂を樂む。父の喪に客を致し、數郡畢く至れり。吾、之を愛し之を重んず。汝が曹の之に效ふことを願はざる也。伯高に效ひて得ざるも、猶謹敕(六)の士と爲らん。所謂鵠を刻みて成らざるも、尚鶩に類する也。季良に效ひて得ずんば、陷りて天下の輕薄子と爲らん。所謂虎を畫きて成らず、反りて狗に類する也と。

(一) 恩遇の意甚だ不十分也 (二) 戰場に死するをいふ (三) ふりかへり見る (四) 輕健の貌、老いて元氣益々盛ん

終ニ於帝世ヲ漢在レ軍。或戰不レ利。意氣自若。上歎曰。吳公差強ニ人意ヲ。隱若ニ一敵國ヲ矣。每レ出レ師。朝受レ詔夕就レ道。及レ卒。上臨問レ所レ欲レ言。漢曰。臣愚願陛下愼無赦而已。復自ニ起レ兵時ー爲レ督。上曰。賈督有下折ニ衝千里ー之威上。嘗戰被レ傷。上驚曰。吾嘗戒ニ其輕レ敵。果然。失ニ吾名將ー。聞ニ其婦有レ孕。生レ子邪。我女嫁レ之。生レ女邪。我子娶レ之。其撫ニ羣臣ー。每如レ此。

り。上曰く、賈督は千里に折衝するの威有りと。嘗て戰ひて傷を被る。上、驚きて曰く、吾、嘗て其敵を輕んずるを戒む。果して然り。吾が名將を失はんとす。其婦孕むこと有りと聞く。子を生まんか、我が女を之に嫁せしめん。女を生まんか、我が子に之を娶らしめんと。其羣臣を撫すること、毎に此の如し。

(一) 吏職の事は三公の任とす　(二) 功名を全うして世を終ふ　(三) 戰死す　(四) 人を心丈夫にさす　(五) 隱は威重の貌　(六) 猶豫なく出征するをいふ　(七) 大敵　(八) 敵の衝突を折きて遠くまで逐ひ還す

惟馬援死之日。恩意頗不レ終焉。援嘗曰。大丈夫當下以ニ馬革ー裹上レ屍。安能死ニ兒女手ー。交趾反。援以ニ

惟だ馬援死せる日、恩意頗る終へざりき。援嘗て曰く、大丈夫當に馬革を以て屍を裹むべし。安んぞ能く兒女子の手に死せんと。交趾反す。援、伏波將軍を以て、討ちて之を平ぐ。武陵の蠻反す。援又行かんと請ふ。帝、其老を愍れむ。援、甲を被りて馬に上り、鞍に據り顧眄して、以て用ふべきを示す。上、笑ひ

之笑曰。吾理ニ天下一。亦欲下以ニ柔道一行セ之。上在ニ兵閒一。久厭ニ武事一。蜀平後。非ニ警急一。未三嘗言ニ軍旅一。北匈奴衰困。臧宮馬武上書。請ニ攻滅レ之。嗚レ劒抵レ掌。馳ニ志於伊吾之北一矣。上報書。告以ニ黃石公包桑記一曰。柔能勝レ剛。弱能勝レ强。自レ是諸將莫ニ敢言レ兵。閉ニ玉門關一。謝ニ絕西域一。保ニ全功臣一。不三復任以ニ兵事一。皆以ニ列侯一就レ第。以ニ吏事一責ニ三公一。亦不下以ニ功臣一任中吏事上。諸將皆以ニ功名一自終。祭遵先死。上念レ之不レ已。來歙岑彭死ニ鋒鏑一。卹レ之甚厚。吳漢賈復

ず　(四)なす事毎に過ちなし　(五)伯母叔母　(六)光武の字　(七)ぁ世事をいはず　(八)正直にして溫柔

玉門關を閉ぢて、西域を謝絕す。功臣を保全し、復た任ずるに兵事を以てせず、皆列侯を以て第に就かしむ。(一)吏事を以て三公を責め、亦功臣を以て吏事に任ぜず。諸將皆功名を以て(二)自ら終ふ。祭遵先づ死す。上、之を念ひて已まず。來歙・岑彭、(三)鋒鏑に死す。之を卹むこと甚だ厚し。吳漢・賈復、帝の世に終る。漢、軍に在りて、或は戰利あらざれども、意氣自若たり。上、嘆じて曰く、吳公、差人(四)意を强くす。隱として(五)一敵國の若しと。師を出す毎に、朝に(六)詔を受けて夕に道に就く。卒するに及び、上、臨みて言はんと欲する所を問ふ。漢曰く、臣愚、願はくは陛下の愼みて赦すること無からんのみと。(七)復、兵を起しゝ時より督た

中元二年上崩。上起レ兵時。年二十八。即位年三十一。第五倫毎レ讀二詔書一歎曰。此聖主也。一見決矣。手書賜二方國一。一札十行。細書成レ文。明二愼政體一。總二攬權綱一。量レ時度レ力。舉無二過事一。嘗幸二南陽一。置二酒會二宗室一。諸母相與語曰。文叔平日與レ人不二款曲一。惟直柔耳。乃能如レ此。上聞レ

○中元二年、上崩ず。上、兵を起しゝ時年廿八。即位の年三十一。第五倫、詔書を讀む毎に歎じて曰く、此れ聖主なり、一見して決せんと。(一)手書して方國(二)に賜ふに、一札十行、細書して文を成す。政體を明愼し、權綱を總攬し、(三)時を量り、力を度りて、擧(四)として過事無し。嘗て南陽に幸し、置酒して宗室を會す。諸母(五)相與に語りて曰く、文叔(六)、平日、人と款曲(七)せず、惟だ直柔なるのみ。乃ち能く此の如しと。上、之を聞きて笑ひて曰く、吾、天下を理むる(八)も、亦柔道を以て之を行はんと欲すと。上、兵間に在りて、久しく武事を厭ふ。蜀、平ぎて後は、警急に非ざれば、未だ嘗て軍旅を言はず。北匈奴衰困す。臧宮・馬武、上書して攻めて之れを滅さんことを請ひ、劍を鳴らし掌を抵ちて、志を伊吾の北に馳す。上、報書して、告ぐるに黄石公の包桑の記を以てす。曰く、柔、能く剛に勝ち、弱、能く強に勝つと。是より諸將敢て兵を言ふもの莫し。

(一) 一たび進見し、政事上に關し論奏せば吾が事決せん　(二) 四方の王侯の國　(三) 大權を自ら握りて臣下に委ね

假以二大權一。詔收還。更賜二大將軍印一。賢恨。猶詐稱二大都護一。諸國悉服二屬賢一。賢驕橫。欲レ兼二幷西域一。諸國懼。凡十八國。遣レ子入侍。願得二漢都護一。上厚賜遣二還其侍子一。至レ是復請。上復却レ之。

ふ。上、復た之を却く。

(一) 總督統攝の重任たる都護を置かんことを謂ふ　(二) わがまま　(三) 子を人質とするなり

二十四年。匈奴南邊八部。立二日逐王比一。爲二南單于一。款二漢塞一内附。於レ是分爲二南北匈奴一。二十五年。貊人鮮卑烏桓並入朝。二十六年。立二南單于庭一。置二使匈奴中郎將一以領レ之。徙二南單于一居二西河美稷一。二十七年。北匈奴亦遣レ使求二和親一。明年又請。許レ之。

○二十四年、匈奴の南邊の八部、日逐王比を立てゝ南單于と爲し、漢の塞を款きて内附す。是に於て分れて南北匈奴と爲る○二十五年、貊の人鮮卑・烏桓、並に入朝す○二十六年、南單于の庭を立て、使匈奴中郎將を置きて、以て之を領せしめ、南單于を徙して、西河の美稷に居らしむ○二十七年、北匈奴も亦使を遣して和親を求む。明年又請ふ。之を許す。

(一) 南匈奴の天子　(二) 王庭　(三) 漢より匈奴に派遣する官

代。復反。莽ニ匈奴一。以レ病死。二十二年。匈奴求ニ和親一。上遣レ使許レ之。自三呼韓邪單于死ニ于成帝時。其後累世皆仕レ漢。平帝時。王莽頒ニ條於匈奴一。謂中國無ニ二名一。諷ニ單于一改レ名。莽篡レ漢易ニ漢所レ賜單于璽一曰レ章。單于怨恨數寇レ邊。建武以來。匈奴助ニ盧芳一寇レ漢。後又數與ニ烏桓鮮卑一連レ兵入寇。至レ是始請レ和。

漢の賜ふ所の單于の璽を易へて章と曰ふ、單于、怨恨して數〻邊に寇す。建武以來、匈奴盧芳を助けて漢に寇し、後又數〻烏桓・鮮卑と兵を連ねて入寇す。是に至りて始めて和を請ふ。

(一) 二字の名。平帝が其名の冥子を更めて衍の一字とす、王莽奏して人民の二字名を用ふるを禁ず

西域請ニ都護一。不レ許。遂附ニ於匈奴一。先レ是莎車王賢鄯善王安皆遣レ使奉獻。賢使再至。上賜ニ賢都護印綬一。邊郡守上言。不レ可三

○西域、都護を請ふ。許さず。遂に匈奴に附く。是より先、莎車王賢・鄯善王安、皆使を遣して奉獻す。賢の使再び至る。上、賢に都護の印綬を賜ふ。邊郡の守、上言す。假すに大權を以てす可からずと。詔して收め還し、更に大將軍の印を賜ふ。賢、恨み、猶詐りて大都護と稱す。諸國悉く賢に服屬す。賢、驕横なり。西域を兼幷せんと欲す。諸國懼る。凡そ十八國、子を遣して入り侍せしむ。願はくは漢の都護を得んと。上、厚く賜ひて其侍子を遣り還す。是に至りて復た請

自ニ建武初一據ニ河西一。後遣レ使奉レ書。上以爲レ牧。賜ニ璽書一曰。議者必有下任囂教ニ尉佗一制ニ七郡一之計上。書至。河西皆驚。以爲天子明見ニ萬里之外一。上征ニ隗囂一。融率ニ五郡兵一。與ニ大軍一會。蜀平。奉レ詔歸レ朝。拜ニ冀州牧一。

んと。書至る。河西皆驚く。以爲らく、天子の明、萬里の外を見ると。上、隗囂を征す。融、五郡の兵を率ゐて大軍と會す。蜀平ぐ。詔を奉じて朝に歸り、冀州の牧に拜せらる。

● 秦の二世の時、南海の尉任囂が疾みて死なんとする時、龍川の令趙佗に、七郡を取り南越に據りて自立するの策を授けし事あり、今竇融に對しても其如く河西に據りて自立するの計を議したるものあらんと也

十八年。代王盧芳死ニ於匈奴一。芳安定人。詐稱ニ武帝曾孫劉文伯一。自ニ建武初一據ニ安定一。匈奴迎レ之。立爲ニ漢帝一。數爲ニ邊郡寇患一。後來降。王ニ于

○十八年、代王盧芳、匈奴に死す。芳は安定の人なり。詐りて武帝の曾孫劉文伯と稱し、建武の初より安定に據る。匈奴之を迎へ、立てゝ漢帝と爲す。數ゝ邊郡の寇患を爲す。後來り降りて代に王たり。復た反して匈奴に奔り、病を以て死す○二十二年、匈奴和親を求む。上、使を遣して之を許す。呼韓邪單于が成帝の時に死せしより、其後累世皆漢に仕ふ。平帝の時、王莽(二)、條を匈奴に頒つ。謂へらく、中國に二名無しと(一)。單于に諷して名を改めしむ。莽、漢を簒し、

據レ蜀稱レ帝。國號レ成。上既平ニ隴右ニ曰。人苦レ不ニ自足一。既得レ隴復望レ蜀。遣ニ大司馬吳漢等一。將レ兵會ニ征南大將軍岑彭一。伐レ蜀。彭在ニ荊門一。裝ニ戰船一。漢欲レ罷レ之。彭不レ可。上報レ彭曰。大司馬習レ用ニ步騎一。不レ曉ニ水戰一。荊門之事。一惟征南公爲レ重而已。彭戰船並進。所レ向無レ前。述使ニ盜刺ニ殺彭一。吳漢繼進。至ニ成都一。擊殺レ述。蜀地悉平。

に隴を得て復蜀を望むと。大司馬吳漢等を遣はし、兵に將として征南大將軍岑彭に會し、蜀を伐たしむ。彭、荊門に在りて戰船を裝ふ。漢之を罷めんと欲す。彭、可かず。上、彭に報じて曰く、大司馬は步騎を用ふるに習へども、水戰を曉らず。荊門の事は、一に惟征南公を重しと爲すのみと。彭の戰船並び進み、向ふ所前無し。述、盜をして彭を刺し殺さしむ。吳漢、繼ぎて進み、成都に至りて、擊ちて述を殺し、蜀の地悉く平ぐ。

㊀人は自ら滿足せざる故に苦しむもの也　㊁隴は隗囂の據る所、蜀は公孫述の據る所也　㊂征南將軍岑彭

涼州牧竇融。率ニ河西武威。張掖。酒泉。燉煌。金城五郡太守一入朝。融

○涼州の牧、竇融、河西の武威・張掖・酒泉・燉煌・金城五郡の太守を率ゐて入朝す。融、建武の初めより河西に據る。後使を遣はして書を奉る。上、以て牧と爲し、璽書を賜ひて曰く、議者必ず任囂が尉佗に教へて七郡を制するの計有ら

如也。高帝無レ可無レ不可。今上好二吏事一。動如二法度一。又不レ喜二飲酒一。囂不レ懌曰。如二卿言一。反復勝乎。遣二子入侍一。未レ幾反。復嘗問二班彪一以二戰國從横之事一。彪作二王命論一諷レ之。囂不レ聽。馬援詣二行在一。上復使二游說一。仍自賜二囂書一。囂竟臣二於公孫述一。述立レ囂爲二朔寧王一。上征レ囂。馬援在二上前一。聚レ米爲二山谷一。指二畫形勢一。開二示軍所レ從徑道一。上曰。虜在二吾目中一矣。遂進レ軍。囂奔二西城一病餓恚憤而卒。子純降。隴右悉平。

援、行在に詣る。上、復た游說せしめ、仍りて自ら囂に書を賜ふ。囂、竟に公孫述に臣たり。述、囂を立てて朔寧王と爲す。上、囂を征す。馬援、上の前に在り、（二）米を聚めて山谷と爲し、形勢を指畫し、軍の從る所の徑道を開示す。上曰く、（三）虜、吾が目中に在りと。遂に軍を進む。囂、西城に奔り、病みて餓ゑ、恚憤（四）して卒す。子の純降る。隴右悉く平ぐ。

（一）政治の美辯舌の文（アヤ）（二）米を以て山河にかたどりてその形勢を指示す（三）囂を指していふ也（四）いきどはる

十二年。公孫述亡。述茂陵人。自二更始時一。

○十二年、公孫述亡ぶ。述は茂陵の人なり。更始の時より、蜀に據りて帝と稱し、國を成と號す。上、既に隴右を平げて曰く、（一）人は自ら足らざるに苦む。既

陸戟而後進。臣。臣今遠來。陛下何知非刺客姦人。而簡易若是。帝笑曰。卿非刺客。顧說客耳。援曰天下反覆。盜名字者。不可勝數。今見陛下。恢廓大度。同符高祖。乃知帝王自有眞也。

度、符を高祖に同じくす。乃ち知る、帝王の自ら眞有ることをと。

㊀殿前の刺戟　㊁岸は額をあらはすこと、幘は冠をつけざる時にかぶる頭巾也、邊幅を飾らざる狀をいふ　㊂遨も亦遊也　㊃戟を持ちたる衛兵を階段の下にならぶ　㊄位號を僭して自ら帝王と稱する者　㊅度量大なり

援歸。囂問東方事。援曰上才明勇略。非人敵也。且開心見誠。無所隱伏。闊達多大節。略與高祖同。經學博覽。政事文辯。前世無比。囂曰卿謂何如高帝。援曰不

援、歸る。囂、東方の事を問ふ。援曰く、上、才明勇略、人の敵に非ざる也。且心を開き誠を見して、隱伏する所無く、闊達にして大節多し。略ぼ高祖と同じ。經學博覽、政事文辯、前世比無し。囂曰く、卿、高帝と何如と謂ふ。援曰く、如かざる也。高帝は可も無く不可も無し。今上、吏事を好み、動くこと法度の如し。又飲酒を喜まずと。囂、懌ばずして曰く、卿の言の如くならば、反りて復た勝れるかと。子をして入りて侍せしむ。未だ幾くならずして反す。復た嘗て班彪に問ふに戰國從橫の事を以てす。彪、王命論を作りて之を諷す。囂、聽かず。馬

陳二陛衛一以延レ援。援謂二其屬一曰。天下雌雄未レ定。公孫不三吐レ哺迎二國士一。反修二飾邊幅一。如二偶人形一。此何足三久稽二天下士一乎。因辭歸。謂レ囂曰。子陽井底蛙耳。而妄自尊大。不レ如。專二意東方一。囂乃使三援奉二書雒陽一。

と。囂、乃ち援をして書を雒陽に奉ぜしむ。

(一)舊交　(二)殿の陛階の左右に衞兵を列ぶ　(三)食事中にても口に含める食を吐き、以て賢士を求めんとすべきに、さはなくて徒に外飾を事として其實なし　(四)心を東方雒陽に傾けて仕ふる方可なり

初到。良久卽引入。上自二殿廡下一岸幘迎。笑曰。卿遨二遊二帝閒一。今見レ卿。使二人大慚一。援頓首曰。當今非二但君擇一レ臣。臣亦擇レ君。臣與二公孫述一同縣。少相善。臣前至レ蜀。述

初め到れば良久しくして卽ち引き入る。上、(一)殿廡の下より、(二)岸幘して迎へ、笑ひて曰く、卿、二帝の閒に(三)遨遊す。今卿を見るに、人をして大に慚ぢしむと。援、頓首して曰く、當今、但だ君が臣を擇ぶのみに非ず、臣も亦君を擇ぶ。臣、公孫述と同縣なり。少かりしとき相善かりき。臣、前に蜀に至りしとき、述、(四)陛戟して後に臣を進めき。臣、今遠く來る。陛下何ぞ刺客姦人に非ざるを知りて、簡易なること是の若くなる。帝、笑ひて曰く、卿は刺客に非ず。顧ふに說客ならんのみ。援曰く、天下、反覆して名字を盜む者、(五)勝げて數ふ可からず。今陛下を見るに、(六)恢廓大

迫二近京師一。獨卿能平レ之耳。從二九卿一復出可也。恂勸レ上親征。賊悉降。恂竟不レ拜レ郡。百姓遮レ道曰。願借二寇君一一年。乃留レ恂鎭撫。大軍不レ戰而還。

竟に郡を拜せず。百姓道を遮りて曰く、願はくは寇君を借ること一年ならんと。乃ち恂を留めて鎭撫せしむ。大軍戰はずして還る。

(一) 九卿の貴き身分より今一度出でて潁川に郡守たらんとを苦しからずば承引あれと也　(二) 郡守を拜命せず

建武九年隗囂死。囂自二更始初年一起レ兵。至二建武初一。據二天水一。自稱二西州上將軍一。後嘗遣二馬援往二成都一。觀中公孫述上。援與レ述舊。謂當三握レ手歡如二平生一。時述已稱レ帝四年矣。援既至。盛

○建武九年、隗囂死す。囂、更始の初年より兵を起し、建武の初に至りて、天水に據り、自ら西州の上將軍と稱す。後嘗て馬援をして成都に往きて公孫述を觀しむ。援、述と舊あり。謂へらく、當に手を握りて歡ぶこと平生の如くなるべしと。時に述、已に帝と稱すること四年なり。援、既に至れば、盛に陛衞を陳ねて以て援を延く。援、其屬に謂ひて曰く。天下雌雄未だ定まらざるに公孫(一)、哺(二)を吐きて國士を迎へず、却りて邊幅を修め飾り、偶人の形の如し。此れ何ぞ久しく天下の士を稽むるに足らんやと。因りて辭して歸り、囂に謂ひて曰く、子陽は井底の蛙のみ。而も妄に自ら尊大にす。如かず、意を東方に專らにせんには

難レ合。有レ志者事竟成也。歩敗。齊地悉平。將軍吳漢等。擊斬二劉永所レ立海西王董憲。及叛將龐萌等一。江淮山東悉平。時惟隗囂公孫述未レ平。上積二苦兵間一。謂二諸將一曰。且當レ置二此兩子於度外一耳。

㊀大ざつぱに過ぎて成就し難からんと思ひしに今日よくこの功名を爲せり、志ある者は事竟に成るとは將軍の事なり ㊁此二人の平がざるは當分勘定の外に置かん

馮異自二長安一入朝。上謂二公卿一曰。是我起レ兵時主簿也。爲レ吾披二荊棘一。定二關中一。詔勞レ異曰。倉卒蕪蔞亭豆粥。滹沱河麥飯。厚意久不レ報。

○馮異、長安より入朝す。上、公卿に謂ひて曰く、是れ我が兵を起しゝ時の主簿(一)也。吾が爲に荊棘(二)を披き、關中を定むと。詔して異を勞ひて曰く、倉卒(三)蕪蔞亭の豆粥、滹沱河の麥飯、厚意久しく報いざりき。

㊀記錄の係り、書記 ㊁いばらをひらく、騷亂を平げしに喩ふ ㊂急遽の貌、とりあへずの意

建武八年。上自將征二隗囂一。潁川盜起。上還。謂二執金吾寇恂一曰。潁川

○建武八年、上、自ら將として隗囂を征す。潁川に盜起る。上、還りて、執金吾寇恂に謂ひて曰く、潁川は京師に迫り近く。獨り卿能く之を平げんのみ。九卿(一)より復た出づる、可ならんかと。恂上に勸めて親征せしむ。賊悉く降る。恂

自負其功。意望甚高。不能滿。幽州牧朱浮。與書曰。遼東有豕。生子。白頭。將獻之。道遇羣豕。皆白。以子之功。論於朝廷。遼東豕也。上徵寵。寵自疑遂反。至是敗。

ひて遂に反す。是に至りて敗る。

(一)驍勇なる騎兵　(二)恩賞に滿足せず　(三)反意露見し誅せらるゝならんと疑ひ

劉永所立齊王張步降。上初以步爲東萊太守。已而受永命王齊。將軍耿弇。屢戰大破之。拔祝阿齊南臨菑。車駕至臨菑。勞軍。謂弇曰。將軍前在南陽。建大策。嘗以爲落落

○劉永の立つる所の齊王張步降る。上、初め步を以て東萊の太守と爲す。已にして永の命を受け、齊に王たり。將軍耿弇、屢ゝ戰ひて大に之を破り、祝阿・齊南・臨菑を拔く。車駕、臨菑に至り、軍を勞ふ。弇に謂ひて曰く、將軍、前に南陽に在りて、大策を建つ。嘗ては落ゝ(一)として合ひ難しと以爲り。志有る者は事竟に成る也と。步、敗れて、齊の地(二)悉く平ぐ。將軍吳漢等、擊ちて劉永の立つる所の海西王董憲、及び叛將龐萌等を斬る。江淮・山東悉く平ぐ。時に惟だ隗囂・公孫述未だ平がず。上、苦を兵間に積む。諸將に謂ひて曰く、且らく當に此兩子(三)を度外に置くべきのみと。

底一。璽書勞レ異曰。始雖レ垂二翅回溪一。終能奮二翼澠池一。可レ謂下失二之東隅一收中之桑楡上。赤眉餘衆。東向二宜陽一。上勒レ軍待レ之。樊崇以二劉盆子丞相徐宣等一。肉袒降。上陳二軍馬一。令二盆子君臣觀レ之。謂曰。得レ無レ悔レ降乎。宣叩頭曰。去二虎口一歸二慈母一。誠歡誠喜無レ限。上曰。卿所謂鐵中錚錚。庸中佼佼者也。各賜二田宅一。

賜ふ。

㈠漢のしるしの旗 ㈡垂髫は、うなゐ、小兒。戴白は老人 ㈢殺掠を逞しうし擊つて出づ ㈣まち受く ㈤東隅は日の出づる處にて卽ち朝の意、桑楡は日の入る處にて卽ち晩の意也 ㈥はだをぬぐ ㈦鐵の中にて音がよくかたきもの、凡庸の人の中にて稍すぐれたる者、卽ち仲々利口者ぢやとの意

睢陽人斬二劉永一降。劉永在二更始時一。立爲二梁王一。更始亡。永稱レ帝。至レ是敗。漁陽太守彭寵奴。斬レ寵以降。初上討二王郎一。寵發二突騎一。轉レ糧不レ絕。

○睢陽の人、劉永を斬りて降る。劉永、更始の時に在りて、立ちて梁王と爲る。更始亡び、永、帝と稱す。是に至りて敗る。漁陽の太守彭寵の奴、寵を斬りて以て降る。初め上の王郎を討ちしとき、寵、㈠突騎を發し、糧を轉じて絕えず。其功を自負し、意望甚だ高く、㈡滿つること能はず。幽州の牧の朱浮、書を與へて曰く、遼東に家有り。子を生む。頭白し。將に之を獻ぜんとし、道に羣豕に遇ふ。皆白し。子の功を以て朝廷に論ぜば、遼東の家ならんと。上、寵を徵す。寵㈢自ら疑

關中未レ定。鄧禹引レ衆而西。號二百萬一。所レ至停レ車駐レ節。勞二來百姓一。垂髫戴白滿二車下一。名震二關西一。至二栒邑一。久不レ進レ兵。赤眉大掠而出。禹乃入二長安一。赤眉復入。禹戰不レ利走。徵還二京師一。遣二馮異入一レ關。禹慚レ無レ功。要レ異共攻二赤眉一。大戰二於回溪一。敗績。收二散卒一。堅レ壁。已而大破二赤眉於崤

○關中未だ定まらず。鄧禹、衆を引きて西す。百萬と號す。至る所車を停め節(一)を駐めて、百姓を勞ひ來らしむ。垂髫戴白(二)、車の下に滿ち、名、關西に震ふ。栒邑に至り、久しく兵を進めず。赤眉大に掠(三)めて出づ。禹、乃ち長安に入る。赤眉復た入る。禹、戰ひ利あらずして走る。徵して京師に還し、馮異をして關に入らしむ。禹、功無きを慚ぢ、異を要(四)して、共に赤眉を攻め、大に回溪に戰ひて敗績す。散卒を收め、壁を堅くす。已にして大に赤眉を崤底に破る。璽書あり、異を勞ひて曰く、始め翅を回溪に垂ると雖も、終に能く翼を澠池に奮ふ、之を東隅(五)に失して、之を桑楡に收むと謂ふ可しと。赤眉の餘衆、東のかた宜陽に向ふ。上、軍を勒して之を待つ。樊崇、劉盆子・丞相の徐宣等を以て、肉袒(六)して降る。上、軍馬を陳ね、盆子の君臣をして之を觀しむ。謂ひて曰く、降を悔ゆること無きを得んやと。宣、叩頭して曰く、虎口を去りて慈母に歸す。誠歡誠喜限無し。上曰く、卿は所謂鐵中(七)の錚錚、庸中の佼佼たる者なりと。各〻田宅を

異亦言。宜レ從二衆議一。會儒生彊華。自二關中一奉二赤伏符一來。曰。劉秀發レ兵捕二不道一。四夷雲集。龍鬬レ野。四七之際。火爲レ主。羣臣因復請。乃即二皇帝位于鄗南一。改二元建武一。

名 (四) 高祖より光武まで四七二百八十年なるを以ていふ。其他諸説あり (五) 漢は火德を以て興る、故にかくいふ

赤眉樊崇等。立二宗室劉盆子一爲レ帝。年十五。時在二軍中一主レ牧レ羊。被髮徒跣。敝衣赭汗。見二衆拜一。恐畏欲レ啼。賊入二長安一。更始走。帝下レ詔。封爲二淮陽王一。宛人卓茂嘗爲二密令一。敎化大行。道不レ拾レ遺。上即レ位。先訪二求茂一。以爲二太傅一。封二褒德侯一。車駕入二洛陽一。遂都レ之。

○赤眉・樊崇等、宗室(一)の劉盆子を立てゝ帝と爲す。年十五、時に軍中に在りて羊を牧することを主る。被髮徒跣(二)、敝衣赭汗(三)、衆の拜するを見て、恐れ畏れて啼かんと欲す○賊、長安に入る。更始走る。帝、詔を下し、封じて淮陽王と爲す○宛人卓茂、嘗て密の令と爲る。教化大に行はれ、道、遺ちたるを拾はず。上、位に即き、先づ茂を訪ひ求めて、以て太傅と爲し、褒德侯に封ず○車駕洛陽に入る。遂に之に都す。

(一) 漢家の一門 (二) 髮をふりかぶり、はだしとなること (三) やぶれ衣を着、日にやけたるあから顏に、汗を流せること。「汗」の字一説には「汚」に作るべしといふ

降者相語曰。蕭王推二赤心一置二入腹中一。安得レ不レ效レ死乎。悉以分二配諸將一。南徇二河內一。赤眉西攻二長安一。王遣二將軍鄧禹等兵一入レ關。禹薦二寇恂一。文武備具。有二牧レ民御レ衆之才一。使レ守二河內一。王自引レ兵徇二燕趙一。擊二尤來大槍等諸賊一。盡破レ之。

王還至二中山一。諸將上二尊號一。不レ許。至二南平棘一。固請。又不レ許。耿純曰。士大夫捐二親戚一。棄二土壤一。從二大王於矢石之間一。固望下攀二龍鱗一附二鳳翼一。以成中其所上レ志耳。今留レ時逆レ衆。恐望絕計窮。則有二去歸之思一。大衆一散。難レ可二復合一。馮

王、還りて中山に至る。諸將、尊號を上る。許さず。南のかた平棘に至り、固く請ふ。又許さず。耿純曰く、士大夫の、親戚を捐て、土壤を棄てゝ、大王に矢石の間に從ふは、固より(一)龍鱗に攀ぢ、鳳翼に附きて、以て其志す所を成さんと望むのみ。今時を留め(二)衆に逆ふ。恐らくは望絕え、計窮まらば、則ち去り歸るの思有らん。大衆一たび散ぜば、復た合す可きと難しと。馮異も亦言ふ、宜しく衆議に從ふべしと。會〻儒生彊華、關中より(三)赤伏符を奉じて來る。曰く、劉秀、兵を發して不道を捕ふ。四夷、雲のごとくに集り、龍、野に鬪ふ。(四)四七の際、火、主と爲らんと。羣臣、因りて復た請ふ。乃ち皇帝の位に鄗南に即き、元を建武と(五)改む。

(一)龍といひ鳳といふは天子たるべき光武を指す、貴下に依附しての意　(二)絕好の時期をのばす　(三)未來記の

秀部二分吏卒一。皆言願屬二大樹將軍一。謂二馮異一也。爲レ人謙退不レ伐。諸將每レ論レ功。異常獨屛二樹下一。故有二此號一。更始遣レ使。立レ秀爲二蕭王一。令レ罷レ兵。耿弇說レ王。辭以二河北未一レ平。不レ就レ徵。王擊二銅馬諸賊一。悉破降レ之。諸將未レ信二降者一。降者亦不二自安一。王敕各歸レ營勒レ兵。自乘二輕騎一。案二行諸部一。

秀、吏卒を部分す。皆言ふ、願はくは大樹將軍に屬せんと。馮異を謂ふ也。人となり謙退にして伐らず。諸將、功を論ずる每に、異、常に獨り樹下に屛く。故に此號有り。(一)更始、使を遣はし、秀を立てゝ蕭王となし、兵を罷めしめんとす。耿弇、王に說きて、辭するに河北未だ平がざるを以てし、徵に就かざらしむ。王、銅馬の諸賊を擊ち、悉く破りて之を降す。諸將未だ降者を信ぜず、降者も亦自ら安んせず。王敕して各々營に歸りて兵を勒せしめ、(二)自ら輕騎に乘じて、諸部を案行す。(三)降者相語げて曰く、蕭王、赤心を推して、(四)人の腹中に置く。安んぞ死を效さゞるを得んやと。悉く以て諸將に分配し、南のかた河內を徇ふ。赤眉、西のかた長安を攻む。王、將軍鄧禹等の兵を遣して、關に入らしむ。禹、寇恂を薦む。文武備具し、民を牧し衆を御するの才有り。河內を守らしむ。王、自ら兵を引きて、燕・趙を徇へ、尤來・大槍等の諸賊を擊ちて、盡く之を破る。

(一) 大樹將軍といふ號 (二) 部下の兵を取りすべしむ (三) 見分してまはる (四) まごころを推しひらきて他を疑はず

之。有二白衣老人一。指曰。努力。信都爲二長安一城守。去レ此八十里。秀卽馳赴レ之。時郡縣皆已降二王郎一。獨信都太守任光和戎太守邳彤不レ肯。光出開二秀至一。大喜。彤亦來會。發二旁縣一得二精兵一。移レ檄討二王郎一。郡縣還復響應。秀引レ兵拔二廣阿一。披二輿地圖一。指二示鄧禹一曰。天下郡縣如レ是。今始得二其一一。子前言レ不レ足レ定何也。禹曰。方今海內殽亂。人思二明君一。猶三赤子慕二慈母一。古之興者。在二德厚薄一。不レ在二大小一也。耿弇以二上谷漁陽兵一。行定二郡縣一。會二秀於廣阿一。進拔二邯鄲一。斬二王郎一。得二吏民與レ郎交書數千章一。秀會二諸將一。燒レ之曰。令二反側子自安一。

至ると聞き、大に喜ぶ。彤も亦來り會す。旁縣を發して精兵を得、檄を移して王郎を討つ。郡縣還た復た響應す。秀、兵を引きて廣阿を拔く。輿地圖を披き、鄧禹に指し示して曰く、天下の郡縣は是の如し、今始めて其一を得たり。子が前に定むるに足らずと云ひしは何ぞや。禹曰く、方今海內殽亂し(二)、人々明君を思ふこと、猶赤子の慈母を慕ふが如し。古の興りし者は、德の厚薄に在りて、大小に在らざる也と。耿弇、上谷・漁陽の兵を以て、行くゆく郡縣を定め、秀に廣阿に會し、進みて邯鄲を拔き、王郎を斬る。吏民が郎(三)と交へし書數千章を得たり。秀、諸將を會し、之を燒きて曰く、反側子(四)をして自ら安んぜしめんと。

(一) おそれ慕ふ　(二) みだる、混亂す　(三) 王郎のこと　(四) 今迄二心を抱ける者に安心せしめん

曰。是我北道主人也。薊城反應王郎。秀趣出城。晨夜南馳。至蕪蔞亭。馮異上豆粥。至饒陽。乏食。至下曲陽。聞王郎兵在後。至滹沱河。候吏還白。河水流澌。無船不可濟。秀使王霸視之。霸恐驚衆。還即詭曰。氷堅可渡。遂前至河。氷亦合。乃渡。未畢數騎而氷解。

に至る。候吏還り白す、河水、流澌す、船無ければ濟る可からずと。秀、王霸をして之を視しむ。霸、衆を驚かさんことを恐れ、還りて即ち詭りて曰く、氷堅くして渡る可しと。遂に進んで河に至る。氷も亦合ふ。乃ち渡れば、未だ畢らざる數騎にして氷解く。

(一) 北行の道案内者　(二) 斥候　(三) 氷解けて流る。「澌」の字正しくは「凘」に作るべし

至南宮。遇大風雨。入道傍空舍。馮異抱薪。鄧禹爇火。秀對竈燎衣。異復進麥飯。至下博城西。惶惑不知所

南宮に至り、大風雨に遇ひて、道傍の空舍に入る。馮異、薪を抱き、鄧禹、火を爇き、秀、竈に對して衣を燎る。異、復た麥飯を進む。下博城の西に至れば、惶惑して之く所を知らず。白衣の老人有り、指して曰く、努力せよ、信都は長(一)安の爲に城守す、此を去ること八十里と。秀即ち馳せて之に赴く。時に郡縣皆已に王郎に降り、獨り信都の太守任光・和戎の太守邳彤のみ肯ぜず。光出でて秀

鄧禹。杖レ策追レ秀。及二於鄴一。秀曰。我得レ專二封拜一。生遠來。寧欲レ仕乎。禹曰不レ願也。但願明公威德加二於四海一。禹得レ效二其尺寸一。垂二功名於竹帛一耳。更始常才。帝王大業。非レ所レ任。明公莫レ如下延二攬英雄一。務悅中民心上。立二高祖之業一。救二萬民之命一。天下不レ足レ定也。秀大悅。令三禹常宿二止於中一。與定二計議一。

(五)延攬し、務めて民心を悦ばするに如くは莫し。高祖の業を立て、萬民の命を救はゞ、天下定むるに足らざる也と。秀、大に悦び、禹をして常に中に宿り止らしめ、與に計議を定む。

(一)汲のあとあり　(二)むちを持ちて追掛け來り鄴にて追附く　(三)專斷にて人に官爵を授くる權力を得たり　(四)書史、記錄　(五)英雄を招き手なづけ

邯鄲卜者王郎。詐稱二成帝子子輿一。入二邯鄲一稱レ帝。徇二下幽冀一。州郡響應。秀北徇レ薊。上谷太守耿況子弇。馳至二盧奴一上謁。秀

邯鄲の卜者王郎、詐りて成帝の子子輿と稱し、邯鄲に入りて帝と稱し、幽冀を徇へ下す。州郡、響應す。秀、北のかた薊を徇ふ。上谷の太守耿況の子弇、馳せて盧奴に至りて上謁す。秀曰く、是れ吾が北道の主人也と。薊城、反して王郎に應ず。秀、趣に城を出で、晨夜南に馳せて、蕪蔞亭に至る。馮異、豆粥を上る。饒陽に至りて食に乏し。下曲陽に至り、王郎の兵後に在りと聞き、滹沱河

敵一勇。甚可ㇾ怪
也。尋。邑兵却。
諸部共乘ㇾ之。
連勝遂前。無ㇾ不二一當ㇾ百。秀與二敢死者三千人一衝二其中堅一。尋。邑陣亂。漢兵乘ㇾ銳崩ㇾ之。遂殺二尋
昆陽一。城中守者亦鼓譟出。中外合ㇾ勢。呼聲動二天地一。莽兵大潰。走者相踐。伏尸百餘里。會二大
雷風一。屋瓦皆飛。雨下如ㇾ注。虎豹皆股戰。溺二死滍川一者萬數。關中聞ㇾ之震恐。海內豪傑響應
皆殺二莽牧守一。自稱二將軍一。用二漢年號一。旬月徧二天下一。

(一) 身のたけ特に高き大男　(二) 王尋と王邑　(三) 決死の士　(四) 算を亂して逃れ走る也　(五) たふれ伏したるかばね　(六) 足すくみておのゝきふるふ　(七) 郡縣の長　(八) 十ケ月

縯兄弟威名日盛。更始殺ㇾ縯。秀不二敢服ㇾ喪。飲食言笑。惟枕席有二涕泣處一。更始慙。拜二秀大將軍一。封二武信侯一。未ㇾ幾以ㇾ秀行二大司馬事一。遣ㇾ徇二河北一。所ㇾ過除二莽苛政一。南陽

縯の兄弟威名日に盛なり。更始、縯を殺す。秀、敢て喪に服せず、飲食言笑し、惟だ枕席に涕泣(一)の處有り。更始慙ぢ、秀を大將軍に拜し、武信侯に封ず。未だ幾くならず秀を以て大司馬の事を行ひ、河北を徇へしむ。過ぐる所、莽の苛政を除く。南陽の鄧禹、(二)策を杖きて秀を追ひ、鄴に及ぶ。秀曰く、我、(三)封拜を專らにするを得たり。生、遠く來る。寧ろ仕へんと欲するか。禹曰く、願はざる也。但だ願はくは明公の威德四海に加はらば、禹、其尺寸を效すことを得て、功名を(四)竹帛に垂れんのみ。更始は常才なり、帝王は大業、任ふる所に非ず。明公、英雄を

尋一。大發レ兵平ニ山東一。以ニ長人巨無覇一爲ニ壘尉一。驅ニ虎豹犀象之屬一。以助ニ兵勢一。號ニ百餘萬一。旌旗千里不レ絶。諸將見ニ兵盛一。皆走入ニ昆陽一。欲ニ散去一。秀至ニ郾定陵一。悉發ニ諸營兵一。自將ニ步騎千餘一。爲ニ前鋒一。尋。邑遣ニ兵數千一合戰。秀奔レ之。斬レ首數十級。諸將曰。劉將軍。平生見ニ小敵一怯。今見ニ大

以て兵勢を助く。百餘萬と號し、旌旗千里絶えず。諸將、兵の盛なるを見て、皆走りて昆陽に入り、散じ去らんと欲す。秀、郾・定陵に至り、悉く諸營の兵を發し、自ら步騎千餘に將として、前鋒と爲る。尋・邑、兵數千を遣して合戰す。秀、之を奔らせ、首を斬ること數十級なり。諸將曰く、劉將軍、平生小敵を見て怯る。今大敵を見て勇なるは、甚だ怪む可き也と。尋・邑の兵却く。諸部共に之に乘じ、連りに勝ちて遂に前む。一、百に當らざること無し。秀、敢死の者三千人と、其中堅を衝く。尋・邑の陣亂る。漢の兵、銳に乘じて之を崩し、遂に尋を昆陽に殺す。城中の守る者も亦鼓譟して出で、中外勢を合せ、呼ぶ聲天地を動かす。莽の兵大に潰え、走る者相踐み、伏尸百餘里なり。大雷風に會し、屋瓦皆飛び、雨下ること注ぐが如く、虎豹皆股戰す。滍川に溺れ死する者萬數なり。關中、之を聞きて震ひ恐れ、海內の豪傑響のごとく應じ、皆、莽の牧守を殺して自ら將軍と稱し、漢の年號を用ふること、旬月にして天下に徧し。

常憤憤欲レ復ニ社稷一。平居不レ事ニ家人生業一。傾レ身破レ産。交ニ結天下雄俊一。至レ是分ニ遣親客一。發ニ諸縣兵一。縯自發ニ舂陵子弟一。皆恐懼亡匿。曰伯升殺レ我。及レ見ニ秀絳衣大冠一。驚曰。謹厚者亦復爲レ之。乃自安。部ニ署賓客一。招ニ説諸帥一。新市。平林。下江兵。皆來會。兵多無レ所ニ統一一。欲下立ニ劉氏一從中人望上。下江將王常欲レ立レ縯。新市。平林將帥。憚ニ其威明一。遂立ニ更始一。以レ縯爲ニ大司徒一。秀爲ニ將軍一。

恐懼して亡げ匿る。曰く、(二)伯升我を殺さんとすと。秀が(三)絳衣大冠を見るに及び、驚きて曰く、謹厚なる者亦復た之を爲すと。乃ち自ら安んず。賓客を部署して、諸帥を招き説く。新市・平林・下江の兵、皆來り會す。兵多くして統一する所無し。(四)劉氏を立てゝ人望に從はんと欲し、下江の將王常は縯を立てんと欲す。新市・平林の將帥は其威明を憚り、遂に更始を立て、縯を以て大司徒を爲し、秀を將軍と爲す。

(一) 平生　(二) 伯升は、磊落にて家事をも構はぬごとき人なれば、大事を思ひ立つとも、必ず失敗して遂に我々を死に至らしめんと也　(三) 赤き衣に大なる冠、將軍の服裝　(四) 劉氏の後を云ふ

秀徇ニ昆陽。定陵。郾一。皆下レ之。莽遣ニ王邑。王

秀、昆陽・定陵・郾を徇へて皆之を下す。莽、王邑・王尋を遣して、大に兵を發して山東を平げしめ、(一)長人の巨無霸を以て壘尉と爲し、虎豹犀象の屬を驅りて、

先レ是有二望レ氣者一。望二春陵一曰。氣佳哉。鬱鬱葱葱然。王莽改レ貨曰二貨泉一。人以二其字一爲二白水眞人一。秀竟從二白水一起。隆準日角。受二尚書一通二大義一。嘗過二蔡少公一。少公學二圖讖一言劉秀當レ爲二天子一。或曰。國師公劉秀乎。秀戲曰。何由知レ非レ僕邪。

是より先、氣を望む者(一)有り。春陵を望みて曰く、氣、佳なる哉、鬱鬱葱葱然(二)たりと。王莽、貨を改めて貨泉と曰ふ。人、其字を以て白水眞人と爲す(三)。秀、竟に白水より起る。隆準(四)にして日角(五)なり。尚書を受けて大義に通ず。嘗て蔡少公に過る。少公、圖讖(六)を學ぶ。言ふ、劉秀當に天子と爲るべしと。或ひと曰く、國師公の劉秀か。秀、戲れて曰く、何に由りて僕に非ざるを知らんやと。

(一) 雲氣を望みて事の吉凶を判ずる者　(二) 榮えて盛んなる貌　(三) 泉を分ちて白水とし、貨を分ちて眞人とせる也　(四) 高き鼻ばしら　(五) 前に凸出したる額　(六) 未來記により豫言する術

及二新市平林兵起一。南陽騷動。宛人李通迎レ秀起レ兵。秀兄縯字伯升。慷慨有二大節一。

新市・平林の兵起るに及び、南陽騷動す。宛の人李通、秀を迎へて兵を起す。秀の兄縯、字は伯升、慷慨にして大節有り。常に憤憤として社稷を復せんと欲し、平居、家人の生業を事とせず、身を傾け產を破りて、天下の雄俊に交り結ぶ。是に至り、親客を分ち遣はして、諸縣の兵を發し、縯自ら春陵の子弟を發す。皆

世祖光武皇帝。名秀。字文叔。長沙定王發之後也。景帝生レ發。發生二春陵節侯買一。侯再三世。徙レ封以二南陽白水郷一。爲二春陵一。宗族往家焉。買少子外。外生レ回。回生二南頓令欽一。欽生二秀於南頓一。有二嘉禾一莖九穗之瑞一。故名。

巻之三

東漢

世祖光武皇帝

世祖光武皇帝、名は秀、字は文叔、長沙の定王發の後也。景帝、發を生み、發、春陵の節侯買を生む。侯たること再三世、封を徙して南陽の白水郷を以て春陵と爲す。宗族、往きて家す。買が少子を外といふ、外、回を生み、回、南頓の令欽を生み、欽、秀を南頓に生む。嘉禾(一)、一莖九穗の瑞有り。故に名く。

(一) 嘉禾は、めでたき稻、即ち一莖に九本の穗を生ずるめでたきしるしありし故に、生れし子を秀と名づけたりと也。秀は、禾が華を吐くといふ義なれば也

至レ宛。更始自レ宛遷二都洛陽一。父老見二司隸校尉官屬一。或垂レ涕曰。不レ圖今日復見二漢官威儀一。更始元年遷二都長安一。赤眉攻二長安一。明年赤眉入。更始出奔。已而降二赤眉一。爲レ所レ殺。自レ立至レ亡。凡三年。前數月。大司馬秀。已即二位於河北一。是爲二世祖光武皇帝一。

五物六名二十八品。百姓潰亂。寶貨不レ行。乃行二小錢大錢一。變更數不レ信。盜鑄及私挾二五銖錢一者抵レ罪。於レ是農商失レ業。食貨俱廢。民至レ涕二泣市道一。後又改二貨布貨泉一。每二一易一レ錢。民又大陷二犯鑄錢法一。檻車鐵頸傳詣二長安一者。以二十萬一數。死什六七改二易制度一。政令煩多。四方囂然謳吟思レ漢久矣。歲旱蝗。人相食。遠近兵起。莽以二五石銅一鑄二威斗一。如二北斗狀一。欲三以厭二勝衆兵一。出入使二人負一レ之以行。至二漢兵入一レ宮。猶旋レ席。隨二斗柄一而坐曰。天生二德於予一。漢兵其如レ予何。斬二首於漸臺一。軍人分二其身一。節解臠レ之。自レ篡至レ亡。改元者三。曰。始建國。天鳳。地皇。凡十五年。莽傳レ首

官屬を見て、或は涕を垂れて曰く、圖らざりき今日復た漢の官の威儀を見んとはと○更始元年、長安に遷都す○赤眉、長安を攻む。明年、赤眉入る。更始、出で奔り、已にして赤眉に降り、爲に殺さる。立より亡に至るまで凡そ三年。前數月、大司馬秀、已に河北に卽位す。是を世祖光武皇帝と爲す。

㈠ 劉の字を解けば、卯・金・刀となる ㈡ 武帝の鑄たる物なれば、刀の字はなけれども、併せて廢したりと也 ㈢ にせ錢をいる ㈣ 罪人を檻車に乘せ、又はくびかせをはめて ㈤ 北斗星狀のものを造りて威斗と稱し、其靈威にとりて衆兵を拂ひ除かんとせし也 ㈥ ふしぶしより切り離し、切りみの如く切りさいなみたりと也

錯刀契刀大錢等貨。旣篡レ位、以二劉字卯金刀一也。禁二剛卯金刀之利一。不レ得レ行。罷二錯刀契刀五銖錢等一。更二名天下田一曰二王田一。不レ得二買賣一。男口不レ盈レ八。而田過二一井一。分二餘田一予二九族鄉里一。故無レ田者受レ田。立二五均司市錢府官一。令二民各以一レ所レ業爲レ貢。更二作寶貨一。有二金銀龜貝錢布

布・五物・六名、二十八品有り。百姓潰亂して、寶貨行はれず。乃ち小錢・大錢を行ひ、數〻更變して信ならず。(二)盜鑄し、及び私に五銖錢を挾む者、罪に抵る。是に於て農商、業を失ひ、食貨倶に廢れ、民、市道に涕泣するに至る。後又貨布・貨泉を改む。一たび錢を易ふる毎に、民又大に鑄錢法に陷り犯し、檻車鐵頸、傳して長安に詣る者、十萬を以て數へ、死するもの什に六七。制度を(一)改易して、政令煩多なり。四方囂然として謳吟して漢を思ふこと久し。歲、旱して蝗あり。人〻相食む。遠近兵起る。莽、五石の銅を以て(五)威斗を鑄る。北斗の狀の如し。以て衆兵を(六)厭勝せんと欲し、出入に人をして之を負ひて以て行かしむ。漢の兵宮に入るに至り、猶席を旋らし、斗柄に隨ひて坐して曰く、天、德を予に生せり。漢の兵其れ予を如何せんと。首を漸臺に斬る。軍人其身を分ち、(七)節解して之を爛す。簒より亡に至るまで、改元する者三。曰く、始建國・天鳳・地皇。凡て十五年。莽、首を傳へて宛に至る。更始、宛より洛陽に遷都す。父老、司隸校尉の

諸將共立ニ劉玄一。爲ニ皇帝一。玄春陵戴侯買之後。與ニ縯秀一同ニ高祖一。時在ニ平林軍中一。號ニ更始將軍一。諸將貪ニ其懦弱一立レ之。南面立朝ニ羣臣一。以レ手刮レ席。羞愧流レ汗。不レ能レ言。大赦。改ニ元更始一。都ニ于宛一。

◎懦弱なるを幸として

更始元年。劉秀大破ニ莽兵於昆陽一。成紀隗囂兵起。公孫述起レ兵成都一。更始遣レ將破ニ武關一。析人鄧曄起レ兵。迎ニ入長安一。衆兵誅レ莽傳レ首詣ニ更始一。莽未レ簒時。更ニ定官名及十二州界一。罷置改易。天下多事。更ニ造

○更始元年、劉秀大に莽の兵を昆陽に破る。成紀の隗囂の兵起る○公孫述兵を成都に起す○更始、將を遣して武關を破る。析の人鄧曄兵を起して、長安に迎へ入る。衆兵、莽を誅し、首を傳へて更始に詣る。莽、未だ簒せざる時、官名及び十二州の界を更め定め、罷置改易して、天下多事なり。錯刀・契刀・大錢等の貨を更め造り、既に位を簒ふや、劉の字卯・金・刀なるを以て、剛卯・金刀の利を禁じて行ふを得ざらしめ、錯刀・契刀・五銖錢(一)等を罷む。天下の田を更め名けて、王田と曰ふ。買賣することを得ず。男口(二)八に盈たずして、田一井に過ぐれば、餘の田を分ちて九族・鄕里に予ふ。故に田無き者は田を受く。五均・司市・錢府の官を立つ。民をして各〻業とする所を以て貢と爲さしむ。寶貨を更め作る。金銀・龜貝・錢

雲。成帝之世。以レ奏レ賦爲レ郎。給二事黄門一。三世不レ徙レ官。及二莽簒一。以二耆老久次一。轉爲二大夫一。嘗作二太玄。法言一。卒章稱二莽功德一。比二伊周一。後又作二劇秦。美新之文一。以頌レ莽。劉棻嘗從レ雄。學二奇字一。棻坐レ事誅。辭連二及雄一。時雄校二書天祿閣上一。使者來欲レ收レ之。雄從二閣上一自投下。莽詔勿レ問。至レ是死。

り自ら投下す。莽、詔して問ふこと勿らしむ。是に至りて死す。

㊀天下をうばふ　㊁老年にして古參　㊂古文の字

瑯琊樊崇。東海刁子都等兵起。地皇三年。崇兵自號二赤眉一。綠林兵分爲二下江新市兵一。荊州平林兵起。漢宗室劉縯及弟秀。起二兵舂陵一。新市。平林兵皆附レ之。明年

○瑯琊の樊崇・東海の刁子都等の兵起る○地皇三年、崇の兵自ら赤眉と號す○綠林の兵分れて下江・新市の兵と爲る○荊州・平林の兵起る○漢の宗室劉縯及び弟秀、兵を舂陵に起す。新市・平林の兵皆之に附く。明年、諸將共に劉玄を立てゝ皇帝と爲す。玄は舂陵の戴侯買の後にして、縯・秀と高祖を同じくす。時に平林軍中に在りて、更始將軍と號す。諸將其懦弱を貪りて之を立つ。南面して立ちて羣臣を朝せしむるに、手を以て席を刮で、羞ぢ愧ぢて汗を流し、言ふこと能はず。大赦し、元を更始と改め、宛に都す

羣兄弟皆將軍。五侯子乘二時侈靡一。以二輿馬聲色一佚游相高。莽折レ節爲二恭儉一。勤レ身博學。被服如二儒生一。外交二英俊一。內事二諸父一。曲有二禮意一。封二新都侯一。爵位益尊。節操愈謙。虛譽隆洽。傾二其諸父一。遂得二漢政一。哀帝崩。迎二立平帝一。五年而弑レ帝。攝レ位三年。竟簒レ位。國號レ新。

始建國元年。廢二孺子嬰一。爲二定安公一。二年。漢太皇太后王氏崩。天鳳四年。荊州盜起。新市人王匡爲二之帥一。馬武。王常。成丹。往從レ之。藏二於綠林山中一。五年。莽大夫揚雄死。雄字子

〇始建國元年、孺子嬰を廢して、定安公と爲す〇二年、漢の太皇太后王氏崩ず〇天鳳四年、荊州に盜起る。新市の人王匡之が帥たり。馬武・王常・成丹、往きて之に從ひ、綠林山中に藏る〇五年、莽の大夫揚雄死す。雄、字は子雲。成帝の世に、賦を奏するを以て郎と爲り、黄門に給事たり。三世まで官を徙さず。莽の簒に及び、耆老久次を以て、轉じて大夫と爲る。嘗て太玄・法言を作り、卒の章(一)に莽の功德(二)を稱して、伊周に比す。後又劇秦・美新の文を作りて、以て莽を頌す。劉棻、嘗て雄に從ひて奇字を學ぶ。棻、事に坐して誅せられ、辭、雄に連り及ぶ。時に雄、書を天祿閣(三)上に校す。使者來りて之を收めんと欲す。雄、閣上よ

孺子嬰。爲レ嗣之初。是爲二王莽居攝元年一。劉崇起レ兵討レ莽。不レ克死。二年。東郡太守翟義。故丞相方進子也。起レ兵討レ莽。不レ克死。初始元年。莽卽二眞天子位一。國號レ新。更二號漢太皇太后一。曰二新室文母太皇太后一。王莽者王曼之子也。孝元皇后兄弟八人。獨曼早死不レ侯。莽幼孤。

孺子嬰、嗣たるの初め、是を王莽居攝元年と爲す。劉崇、兵を起して莽を討ち、克たずして死す○二年、東郡の太守翟義、故の丞相方進の子也。兵を起して莽を討ち、克たずして死す○初始元年、莽、眞天子の位に卽き、國を新と號し、漢の太皇太后を更號して、新室の文母太皇太后と曰ふ。王莽は王曼の子也。孝元皇后の兄弟八人、獨り曼のみ早く死して侯たらず。莽は幼にして孤、羣兄弟は皆將軍たり。五侯の子、時の侈靡に(一)乘じ、輿馬聲色を以て佚游して、相高ぶる。(二)莽、節を折りて恭儉を爲し、身を勤めて博く學び、被服儒生の如し。外は英俊に交り、内は諸父(三)に事へ、曲に禮意有り。新都侯に封ぜられ、爵位益〻尊くして、節操愈〻謙なり。(四)虛譽隆洽して、其諸父を傾け、遂に漢の政を得たり。哀帝崩じ、平帝を迎へ立つ。五年にして帝を弑し、位を攝すること三年、竟に位を簒ひ、國を新と號す。

(一)其時のおごりに乘じて　(二)相競ひて自慢す　(三)をぢ　(四)虛名高くひろまりて

太后臨レ朝。大司馬莽秉レ政。百官總レ己以聽。元始元年。莽爲二安漢公一。四年。聘二莽女一爲二皇后一。加二安漢公號宰衡一。位二諸侯王上一。五年。太師孔光卒。成哀以來。光等爲二三公一。養二成漢禍一。諂佞成レ風。上書頌レ莽者至二四十八萬人一。加二莽九錫一。

卒す。成・哀以來、光等三公と爲り、漢の禍を養成す。諂佞(二)風を成し、上書して莽を頌(三)する者四十八萬人に至る。莽に九錫(四)を加ふ。

㈠周公は周の太宰、伊尹は殷の阿衡たり、今其宰と衡とを併せ采りて莽を尊びし也 ㈡へつらひ、こびると ㈢德をはむ ㈣輿馬・衣服・樂則・朱戶・納陛・虎賁・弓矢・鈇鉞・秬鬯の九種のたまもの

臘日莽上二椒酒於帝一置レ毒。帝崩。在位六年。改元者一。曰元始。太皇太后詔徵二宣帝玄孫嬰一。爲二皇太子一。號曰二孺子嬰一。莽居レ攝踐レ祚。贊曰二假皇帝一。民臣謂二之攝皇帝一。

○臘日、莽、椒酒(一)を帝に上り毒を置く。帝崩ず。在位六年、改元する者一。曰く、元始、太皇太后、詔して宣帝の玄孫嬰を徵し、皇太子と爲す。號して孺子嬰と曰ふ。莽、攝(二)に居りて祚(三)を踐む。贊(四)するには假皇帝と曰ひ、民臣は之を攝皇帝と謂ふ。

㈠胡椒の入れる酒 ㈡攝政 ㈢帝位に卽く ㈣祭祀の時のことば

平元年。用二夏賀良言一。漢歴中衰。當レ更二受天命一。宜二急改レ元易一レ號。乃改二元太初一。更二號陳聖劉太平皇帝一。尋罷二改元更號事一。誅二夏賀良等一。帝寵二董賢一。元壽元年。以レ賢爲二大司馬一。二年帝崩。賢自殺。帝在位七年。改元者二。曰建平。元壽。太皇太后以二王莽一爲二大司馬一。領二尚書事一。迎二中山王一即レ位。是爲二孝平皇帝一。

年、帝崩ず。賢自殺す○帝在位七年。改元する者二。曰く、建平、元壽。太皇太后、王莽を以て大司馬と爲し、尚書の事を領せしめ、中山王を迎へて位に即かしむ。是を孝平皇帝と爲す。

㊀了明・復晏　㊁私第に歸らしむ也　㊂今に漢の年歴の中間にて衰ふる時也

孝平皇帝。名箕子。後更二名衎一。中山孝王興之子。元帝孫也。哀帝崩。立爲レ嗣。太皇

孝平皇帝

孝平皇帝、名は箕子。後名を衎と更む。中山の孝王興の子にして、元帝の孫なり。哀帝崩じ、立ちて嗣と爲る。太皇太后朝に臨み、大司馬莽政を秉り、百官、己を總べて以て聽く。元始元年、莽、安漢公と爲る○四年、莽の女を聘して皇后と爲し、安漢公に號を宰衡と加ふ。諸侯王の上に位す○五年、太師孔光

元者十。曰二建始。河平。陽朔。鴻嘉。永始。元延。綏和一。帝有二威儀一。臨レ朝若レ神。然荒二于酒色一。政在二外家一。張禹。薛宣。翟方進。爲レ相。漢業愈衰焉。太子即レ位。是爲二孝哀皇帝一。

進、相と爲り、漢の業愈〻衰ふ。太子位に即く。是を孝哀皇帝と爲す。

(一) 外戚王氏の手に歸せし也

孝哀皇帝。名欣。定陶恭王康之子。元帝之孫也。祖母傅氏。母丁氏。成帝無レ子。故立爲二太子一。至レ是即レ位。丁傅用レ事。罷二大司馬莽一就レ第。建

孝哀皇帝

孝哀皇帝、名は欣、定陶の恭王康の子にして、元帝の孫也。祖母は傅氏、母は丁氏。成帝子なし。故に立てゝ太子と爲す。是に至りて位に即く。(一)丁・傅、事を用ひ、大司馬莽を罷めて、(二)第に就かしむ○建平元年、夏賀良が言を用ふ。(三)漢の歴中ごろに衰ふ。當に天命を更め受くべく、宜しく急に元を改め號を易ふべしと。乃ち太初と改元し、陳聖劉太平皇帝と更號す。尋ぎて改元更號の事を罷め、夏賀良等を誅す○帝、董賢を幸す。元壽元年、賢を以て大司馬と爲す。二

馬劍。斷二佞臣一人頭一。以厲二其餘一。上問誰也。對曰。安昌侯張禹。上大怒曰。小臣居レ下廷二辱師傅一。罪死不レ赦。御史將レ雲下。雲攀二殿檻一。檻折。雲呼曰。臣得下從二龍逢比干一遊中於地下上足矣。未レ知二聖朝如何一耳。左將軍辛慶忌叩レ頭流レ血爭レ之。上意乃解。及レ當レ治レ檻。上曰勿レ易。因而輯レ之以旌二直臣一。

て曰く、安昌侯張禹と。上、大に怒りて曰く、小臣下に居りて師傅を廷辱す(二)、罪死すとも赦さじと。御史、雲を將ゐて下る。雲、殿檻(三)を攀づ。檻折る。雲、呼びて曰く、臣、下、龍逢・比干(四)に從ひて地下に遊ぶことを得ば足れり。未だ聖朝の如何を知らざるのみと。左將軍辛慶忌、頭を叩き血を流して之を爭ふ。上の意乃ち解く。當に檻を治むべきに及び、上曰く、易ふること勿れ。因りて之を輯めて以て直臣を旌はせと。

(一)尚方は天子の御物を掌る官、即ち御備への利劍の意　(二)朝廷にて辱しむ　(三)御殿の手すり　(四)共に古の諫臣

綏和元年。王根病免。王莽爲二大司馬一。二年。帝崩。在位二十六年。改

○綏和元年。王根病みて免ず。王莽、大司馬と爲る。二年、帝崩ず。在位二十六年、改元する者七。建始・河平・陽朔・鴻嘉・永始・元延・綏和と曰ふ。帝、威儀有り、朝に臨むに神の若し。然れども酒色に荒み、政(二)外家に在り。張禹・薛宣・翟方

定議一。時吏民多上書言。災異王氏專レ政所レ致。上至二禹第一。辟二左右一。親以示レ禹。禹自見二年老子孫弱一。恐下爲二王氏一所上レ怨。謂レ上曰。春秋日食地震。或爲三諸侯相殺。夷狄侵二中國一。災變之意深遠難レ見。故聖人罕レ言レ命。不レ語二怪神一。性與二天道一自二子貢之屬一不レ得レ聞。何況淺見鄙儒之所レ言。新學小生亂レ道誤レ人。宜レ無二信用一。上雅信二愛禹一。由レ是不レ疑二王氏一。

第に至りて、左右を辟け、親ら以て禹に示す。禹、自ら年老い、子孫の弱きを見て、王氏の爲に怨まれんことを恐れ、上に謂ひて曰く、春秋に日食地震ありしは、或は諸侯相殺し、夷狄中國を侵しゝ爲ならん。災變の意は、深遠にして見難し。故に聖人は命を言ふこと罕に、怪神を語らず。性と天道とは子貢の屬より聞くことを得ず。何ぞ況んや淺見鄙儒の言ふ所をや。新學の小生、道を亂り人を誤る。宜しく信用すること無かるべしと。上、雅に禹を信愛す。是に由りて王氏を疑はず。

(一)評議の決定　(二)天命を說く　(三)見識淺くいやしき儒者　(四)新に學びたる小學者

故槐里令朱雲。上書求レ見。願賜二尚方斬

故の槐里の令朱雲、上書して見えんことを求む。願はくは、尚方斬馬の劍を賜ひ、佞臣一人の頭を斷ちて、以て其餘を厲まさんと。上、問ふ、誰ぞや。對へ

爲二大司馬一。王譚領二城門兵一。鴻嘉四年。王譚卒。王商領二城門兵一。永始元年。封二太后弟之子莽一。爲二新都侯一。立二皇后趙氏一。名飛燕。女弟合德爲二婕妤一。

二年。王音卒。王商爲二大司馬一。故南昌尉梅福。上書曰。方今君命犯。而主威奪。外戚之權。日以益盛。陛下不レ察二其形一。願察二其景一。建始以來。日食地震。三二倍春秋一。水災無二與比數一。陰盛陽微。金鐵爲飛。此何景也。書上。不レ報。四年王商卒。王根爲二大司馬一。

〇二年、王音卒す。王商、大司馬と爲る〇故の南昌尉梅福、上書して曰く、方今、君命犯されて、主威(一)奪はれ、外戚の權、日に以て益々盛なり。陛下、其形を察せずんば、願はくは其景(二)を察せよ。建始以來。日食地震、春秋(三)に三倍し、水災與に比數無し。陰盛にして陽微に、金鐵爲に飛ぶ。此れ何の景ぞやと。書、上りて報ぜず〇四年、王商卒す。王根、大司馬と爲る。

(一) 天子の威光　(二) 影とおなじ　(三) 春秋の世

安昌侯張禹。以二帝師傅一。每レ有二大政一。必與二

〇安昌侯張禹、帝の師傅を以て、大政有る每に、必ず定議(一)に與かる。時に吏民多く上書して言く、災異は王氏が政を專らにするの致す所なりと。上、禹の

驚。母王氏。生ニ帝於甲觀一。少好ニ經書一。其後幸ニ酒樂一燕樂。元帝時爲ニ太子一。幾廢。賴ニ史丹伏ニ青蒲一涕泣諫止。至レ是卽レ位。尊ニ王氏一爲ニ皇太后一。以ニ元舅王鳳一。爲ニ大司馬大將軍一。領ニ尚書事一。

酒樂を幸して燕樂す。元帝の時太子と爲り、幾んど廢せられんとす。史丹が青蒲(一)に伏し、涕泣して諫むるに賴りて止む。是に至りて位に卽く。王氏を尊びて皇太后と爲し、元舅(二)王鳳を以て大司馬大將軍と爲して、尚書の事を領せしむ。

(一) 天子の臥內の席、皇后にあらざれば至り得ざる所 (二) 母方にて第一の伯父

建始元年。石顯以レ罪免歸。道死。封ニ舅王崇一爲ニ安成侯一。賜ニ譚商立根逢時。爵關內侯一。黃霧四塞。河平二年。悉封ニ諸舅一。爲ニ列侯一。陽朔三年。王鳳卒。王音

○建始元年、石顯、罪を以て免歸し、道にて死す○舅王崇を封じて安成侯と爲し、譚・商・立・根・逢時に、爵、關內侯を賜ふ。黃霧四もに塞がる○河平二年、悉く諸舅を封じて列侯と爲す○陽朔三年、王鳳卒す。王音、大司馬と爲り、王譚、城門の兵を領す○鴻嘉四年、王譚卒す。王商、城門の兵を領す○永始元年、太后の弟の子莽を封じて、新都侯と爲す。皇后趙氏を立つ。名は飛燕。女弟合德を婕妤(一)と爲す。

(一) 女官の名

竟寧元年。呼韓邪單于來朝。願壻レ漢。以二後宮王嬙字昭君一賜レ之。帝崩。在位十六年。改レ元者四。初元。永光。建昭。竟寧。帝雖下喜二儒術一得二韋玄成匡衡一爲中相。無二相業一。帝徙優游不斷。漢業衰焉。太子卽レ位。是爲二孝成皇帝一。

○竟寧元年、呼韓邪單于、來朝す。願はくは、漢に壻たらんと。後宮の王嬙字は昭君を以て之に賜ふ○帝、崩ず。在位十六年。元を改むる者四。初元・永光・建昭・竟寧。帝、儒術を喜び、韋玄成・匡衡を得て相と爲すと雖も、(一)相の業無し。帝、徒に(二)優游不斷にして、漢の業衰ふ。太子位に卽く。是を孝成皇帝と爲す。

(一)宰相としての功績　(二)ぐづ〳〵して決せざること

孝成皇帝

孝成皇帝。名

孝成皇帝。名は驁、母は王氏、帝を甲觀に生む。少くして經書を好む。其後

郡太守京房。房學易於焦延壽。延壽嘗曰。得我道以亡身者。京生也。爲郎屢言災異。有驗。嘗宴見言事。意指石顯。顯奏出之。尋徵下獄。棄市。顯威權日盛。與中書僕射牢梁。少府五鹿充宗。結爲黨友。諸附倚者得寵位。民歌之曰。牢邪。石邪。五鹿客邪。印何纍纍。綬若若邪。三年。西域副校尉陳湯。矯制發兵。與都護甘延壽。襲擊郅支單于於康居斬之。四年春。傳首至京。縣藁街十日

て、棄市す○顯、威權日に盛なり。中書僕射牢梁・少府五鹿充宗と結びて黨友と爲る。諸々の附倚する者寵位を得たり。民之を歌ひて曰く、牢か、石か、五鹿の客か、印何ぞ纍纍(四)たる、綬若若(五)たるやと○三年、西域の副校尉陳湯、制を矯めて兵を發し、都護(六)甘延壽と、郅支單于を康居に襲ひ擊ちて、之を斬る。四年春、首を傳へて京に至る。藁街(七)に懸くること十日。

(一) 來朝す　(二) 變事を豫言す　(三) 宴席にてまみゆ　(四) 重なりあへる貌　(五) 長く垂るゝ貌　(六) 西域を監督する役　(七) 蠻夷の居留する處

說上。竟罷免。後上復徵二堪更生。爲二中郎一。且欲下以二望之一爲上丞相。恭顯許史皆側レ目。知三望之素高節不二詘辱一。建白。望之不二悔レ過服レ罪。深懷二怨望一。自以託二師傅一。終不レ坐。非下頗屈二望之於獄一。塞中其快快心上。則聖朝無三以施二恩厚一。上曰。太傅素剛。安肯就レ吏。顯等曰。人命至重。望之所レ坐。語言薄過。必無レ所レ憂。令三謁者召二望之一。因急發二執金吾車騎一。馳圍二其第一。望之飲レ鴆自殺。

騁せて其弟を圍む。望之、鴆を飲んで自殺す。

〔一〕黨を組む　〔二〕ざんげんす。綱目に「譖訴」に作る、從ふべし　〔三〕敎命を傳ふる役　〔四〕我はもと太子の師傅なれば、罪せらるまじと高をくゝると也　〔五〕不平の心　〔六〕わづかの過ち

弘恭死。石顯爲二中書令一。五年。匈奴郅支單于。殺二漢使者一。西走二康居一。永光元年。匈奴呼韓邪單于北歸庭。建昭二年。殺二魏

○弘恭死す。石顯中書令と爲る○五年、匈奴の郅支單于漢の使者を殺し、西のかた康居に走る○永光元年、匈奴の呼韓邪單于、北より歸庭す〔一〕○建昭二年、魏郡の太守京房を殺す、房、易を焦延壽に學ぶ。延壽嘗て曰く、我が道を得て以て身を亡す者は、京生ならんと。郎と爲りて屢〻災異を言ふ〔二〕。驗有り。嘗て宴〔三〕見して事を言ふ。意は石顯を指す。顯、奏して之を出し、尋ぎて徵して獄に下し

官一。應中古之不レ
近二刑人一之義上。
上不レ能レ從。恭
顯奏。望之堪
更生朋黨相
稱譽。數譖二詐
大臣一。毀二離親
戚一。欲下以專擅二
權勢一。爲中不忠上。
誣レ上。不道。請
謁者召致二廷
尉一。時上初卽
位。不レ省下召致二
廷尉一爲上送レ獄。
可二其奏一。後上
召二堪更生一。曰
擊レ獄。上大驚
曰。非二但廷尉
問一邪。令二出視一
事。恭顯使二高

道なり、請ふ、謁者(三)をして召して廷尉に致さんと。時に上、初めて卽位し、召して廷尉に致すとは、獄に送ることたるを省せず、其奏を可とす。後上、堪•更生を召す。曰く、獄に繫がると。上、大に驚きて曰く、但だ廷尉の問のみに非ざるかと。出でゝ事を視しむ。恭•顯、高をして上に說かしめ、竟に罷免す。後、上、復た堪•更生を徵して中郎と爲し、且望之を以て相と爲さんと欲す。恭•顯•許•史、皆目を側つ。望之の素より高節にして詘辱せざることを知り、建白す、望之、過を悔い罪に服せず、深く怨望を懷く、自ら以へらく、師傅(四)に託す、終に坐せられじと。頗る望之を獄に屈して、其怏怏(五)の心を塞ぐに非ずんば、則ち聖朝以て恩厚を施すこと爲からん。上曰く、太傅は素より剛なり。安んぞ肯て吏に就かん。顯等曰く、人命は至つて重し。望之の坐する所、語言の薄過(六)なり。必ず憂ふる所無しと。謁者をして望之を召さしめ、因りて急に執金吾の軍騎を發し、

左右。四人同心謀議。史高充位而已。由是與之有隙。中書令弘恭・僕射石顯。自宣帝時。久典樞機。及帝即位多疾。以顯中人無外黨。遂委以政事。事無大小。因顯白決。貴幸傾朝。百僚皆敬事顯。顯巧慧習事。能深得人主微指。内深賊持詭辯以中傷人。與高表裏。

内、深賊(七)、詭辯を持して、以て人を中傷し、高と表裏す(八)。

(一)外戚　(二)天子に過なきやう氣を付くる役　(三)宦官　(四)天子に申上げて決する　(五)天子に寵せらる　(六)かすかなる心　(七)心中に深き惡意ある事　(八)内外助け合ひ氣脈を通ず

望之等患外戚許史放縱。又疾恭顯擅權建白。以爲中書政本。國家樞機。宜以通明公正處之。武帝遊宴後庭。故用宦者。非古制也。宜罷中書宦官

望之等、外戚許・史の放縱を患へ、又恭・顯が權を擅にするを疾みて、建白す。以爲らく、中書は政の本にして、國家の樞機なり、宜しく通明公正を以て之を處すべし。武帝、後庭に遊宴す。故に宦者を用ふるは古の制に非ず。宜しく中書の宦官を罷め、古の刑人を近けざるの義に應ずべしと。上、從ふこと能はず。恭・顯、奏す。望之・堪・更生、朋黨して相稱譽し、數〻大臣を譖訴し、親戚を毀離し、以て專ら權勢を擅にし、不忠を爲さんと欲して、上を誣ふ。不

逢二時宜一。好是レ古非レ今。使下人眩二於名實一。不上レ知レ所レ守。何足二委任一。乃歎曰。亂二我家一者太子也。宣帝少依二太子母家許氏一。許后以二霍氏毒一死。故弗レ忍レ廢二太子一。至レ是卽レ位。

位に卽く。

㈠法律を主とする役人　㈡酒宴　㈢時に應じて變化するを知らず

初元元年。立二皇后王氏一。二年下二蕭望之。周堪。及宗正劉更生獄一。皆免爲二庶人一。時史高以二外屬一。領二尚書事一。望之堪副レ之。二人帝師傅。數言二治亂一。陳二正事一。選二更生給事中一。與二侍中金敞一。並拾二遺

○初元元年、皇后王氏を立つ○二年、蕭望之・周堪及び宗正劉更生を獄に下し、皆免じて庶人と爲す。時に史高、(一)外屬を以て尚書の事を領す。望之堪之に副たり。二人は帝の師傅なり、數〻治亂を言ひ、正事を陳ぶ。更生を給事中に選び、侍中金敞と並に左右に拾遺たり(二)。四人心を同じくして謀議す。史高は位に充つるのみ、是に由り、望之と隙有り。中書令弘恭・僕射石顯、宣帝の時より、久しく樞機を典る、帝の卽位に及び、疾多し。顯が中人(三)にして、外黨無きを以て、遂に委ぬるに政事を以てす。事大小と無く、顯に因りて白決(四)す、貴幸(五)、朝を傾け、百僚皆顯に敬ひ事ふ。顯、巧慧にして事に習ひ、能く深く人主の微指(六)を得たり。

書。勉厲。增秩賜金。公卿缺。則選諸所表。以次用之。漢世良吏於是爲盛。信賞必罰。綜核名實。政事文學法理之士。咸精其能。吏稱其職。民安其業。遭値匈奴衰亂。推亡固存。信威北夷。單于慕義。稽首稱藩。功光祖宗。業垂後裔。可謂中興。侔德高宗周宣矣。太子卽位。是爲孝元皇帝。

孝元皇帝。名奭。初爲太子。柔仁好儒。見宣帝所用。多文法吏。以刑名繩下。嘗燕從容言。陛下持刑太深。宜用儒生。宣帝作色曰。漢家自有制度。本以霸王道雜之。奈何純任德敎。用周政乎。且俗儒不

孝元皇帝

孝元皇帝、名は奭。初め太子たりしとき、柔仁にして儒を好む。宣帝の用ふる所を見るに、(一)文法の吏多く、刑名を以て下を繩す。嘗て(二)燕せしとき、從容として言く、陛下、刑を持すること太だ深し。宜しく儒生を用ふ可しと。宣帝色を作して曰く、漢家自ら制度有り。本と霸王の道を以て之を雜ふ。奈何ぞ純ら德敎に任じ、周の政を用ひんや。且俗儒は(三)時宜に達せず、好んで古を是として今を非とし、人をして名實に眩み守る所を知らざらしむ。何ぞ委任するに足らんと。乃ち歎じて曰く、我が家を亂る者は太子ならんと。宣帝、少くして太子の母の家許氏に依る。許后、霍氏の毒を以て死す。故に太子を廢するに忍びず。是に至りて

五年。崩。葬二杜陵一。帝興二於閭閻一。知二民事之艱難一。厲精爲レ治。樞機周密。品式備具。拜二刺史守相一。輒親見問。常曰。民所下以安二其田里一。而無中歎息愁恨之聲上者。政平訟理也。與レ我共レ此者。其惟良二千石乎。以爲太守吏民之本。數變易則民不レ安。故二千石有二治理之效一。輒以二璽

しく見問す。常に曰く、民の其田里に安じて、歎息愁恨の聲無き所以の者は、政平にして、訟理まれば也。我と此を共にする者は、其れ惟だ良二千石か(七)と。以爲らく、太守は吏民の本なり。數〻變易すれば則ち民安からずと。故に二千石に治理の效有れば、輒ち璽書を以て勉厲し、秩を增し金を賜ふ。公卿缺くれば、則ち諸〻表する所を選(五)び、次を以て之を用ふ。漢の世の良吏、是に於て盛なりと爲す。信賞必罰、名實を綜核(六)し、政事文學法理の士、咸な其能を精しくし、吏其職に稱ひ、民其業に安んず。匈奴の衰亂に遭値し、亡(七)を推し、存を固(八)くして、威を北夷に信ぶ。單于、義を慕ひ、稽首(九)して藩と稱す。功は祖宗に光り、業は後裔に垂る。中興、德を高宗・周宣に侔しくすと謂ふ可し。太子位に卽く。是を孝元皇帝と爲す。

(一) 民間の意 (二) 法式 (三) 任命するに (四) 一郡の太守をいふ、其年俸二千石なりし故也 (五) 增秩賜與等諸々の賞衷を爲せる者の中より (六) とりしらべて明かにす (七) 無道の者 (八) 有道の者 (九) 首をさげて

臣。甘露三年來朝。詔以ニ客禮一待レ之。位ニ諸侯王上。

しむ。

(一)單于は匈奴の王の稱、廣大の意也といふ　(二)北邊域塞の門を叩きて來り服せんと也

上以ニ戎狄賓服。思ニ股肱之美。乃圖ニ畫其人於麒麟閣。惟霍光不レ名。曰ニ大司馬。大將軍。博陸侯。姓霍氏。其次張安世。韓增。趙充國。魏相。丙吉。杜延年。劉德。梁丘賀。蕭望之。蘇武。凡十一人。皆有ニ功德一知ニ名當世一。

○上、戎狄の賓服するを以て、股肱の美を思ひ、乃ち其人を麒麟閣に圖畫す。惟霍光のみ名いはず、大司馬大將軍博陸侯、姓は霍氏と曰ふ。其次は張安世・韓增・趙充國・魏相・丙吉・杜延年・劉德・梁丘賀・蕭望之・蘇武、凡て十一人、皆功德有りて名を當世に知らる。

(一)德になつきて從ふをいふ　(二)股肱の良臣

帝在位改元者七。曰本始。地節。元康。神爵。五鳳。甘露。黃龍。凡二十

○帝の在位に改元する者七。曰く、本始・地節・元康・神爵・五鳳・甘露・黃龍、凡て二十五年。崩ず。杜陵に葬る。帝、閭閻より興り、民事の艱難を知り、厲精して治を爲す。樞機周密にして、品式備り具る。刺史守相を拜するに、輒ち親

不レ嫁。以養二其姑一。姑以三年老妨二婦嫁一。自經死。姑女告三婦迫死二其母一。婦不レ能レ辯。自誣伏。于公爭レ之不レ能レ得。孝婦死。東海枯旱三年。後太守來。公言二其故一。太守祭二孝婦冢一。遂雨。于公治レ獄有二陰德一。令下高二大門閭一。容中駟馬車上。曰吾後世必有二興者一。子定國以二地節元年一。爲二廷尉一。朝廷稱レ之曰。張釋之爲二廷尉一。天下無二寃民一。于定國爲二廷尉一。民自以不レ寃。至レ是由二御史大夫一代レ霸。

はず、自ら誣伏す。(二)于公之を爭ひて得ること能はず。(三)孝婦死す。東海、枯れ旱すること三年なり。後太守來る。公、其故を言ふ。太守、孝婦の冢を祭る。遂に雨る。于公、獄を治めて陰德有り。門閭を高大にし、駟馬の車を容れしむ。曰く、吾が後世、必ず興る者有らんと。子の定國、地節元年を以て廷尉と爲る。朝廷之を稱して曰く、張釋之廷尉と爲りて寃民無く、(四)于定國廷尉と爲りて民自ら以て寃とせずと。是に至りて御史大夫より霸に代る。

(一)夫の死後ひとり住みして他に嫁せず (二)無實の罪に服す (三)婦を救ふこと能はずと也 (四)無實の罪におつる民

匈奴亂。五單于爭立。呼韓邪單于上書。願款レ塞稱二藩

○匈奴亂れ、五單于(一)爭ひ立つ。呼韓邪單于、上書す。願はくは塞を款きて(二)藩臣と稱せんと。甘露三年來朝す。詔して客の禮を以て之を待ち、諸侯王の上に位せ

甘露元年。公卿奏。京兆尹張敞。惲黨友。不ㇾ宜ㇾ處ㇾ位。上惜二敞材一寢二其奏一。敞使二掾絮舜有ㇾ所二案驗一。舜私歸曰。五日京兆耳。安能復案ㇾ事。敞聞二舜語一。卽收繫ㇾ獄。竟致二其死一。後爲二舜家一所ㇾ告。敞上書從二闕下一亡命歲餘。京師枹鼓數警。上思二敞能一。復召用ㇾ之。

○甘露元年、公卿奏す、京兆の尹張敞は、惲の黨友なり、宜しく位に處る可からずと。上、敞の材を惜みて、其奏を寢む。敞、掾(一)の絮舜をして案驗する所有らしむ。舜、私に歸りて曰く、(二)五日の京兆のみ、安んぞ能く復た事を案ぜんと。敞、舜の語を聞き、卽ち收めて獄に繫ぎ、竟に其れを死に致す、後舜の家に告げら(三)る。敞、上書して、闕下より亡命すること歲餘。京師、枹鼓數〻警む。(四)上、敞の能を思ひ、復た召して之を用ふ。

(一) 屬官　(二) 五日にして位を去るべき京兆の尹との意　(三) 舜の家人より訴へられたりと也　(四) 張敞去りしため京師に盜起れるなり

黃霸卒。于定國爲二丞相一。定國父于公。初爲二獄吏一。東海有二孝婦一。寡居

○黃霸卒す。于定國、丞相と爲る。定國の父于公、初め獄吏たり。東海に孝婦有り。(一)寡居して嫁せず、以て其姑を養ふ。姑、年老いて、婦の嫁するを妨ぐるを以て、自經して死す。姑の女、婦迫りて其母を死すと告ぐ。婦、辯ずること能

貴減レ價而糶。以利レ民。名曰二常平倉一。殺二前光祿勳楊惲一。惲廉潔無レ私。人上書告三惲爲二妖惡言一。免爲二庶人一。惲家居治レ產自娛。其友孫會宗戒レ之。惲報曰。過大行虧。當下爲二農夫一以沒上世。田家作苦。歲時伏臘。烹レ羊炰レ羔。斗酒自勞。酒後耳熱。仰レ天拊レ缶而呼二嗚嗚一。其詩曰。田二彼南山一。蕪穢不レ治。種二一頃豆一。落而爲レ萁。人生行樂耳。須二富貴一何時。淫荒無レ度。不レ知二其不可一也。人上書告。惲驕奢不レ悔。下二廷尉一案。得下所レ與二會宗一書上。帝見而惡レ之。以二大逆無道一要斬。

上書して、惲、妖惡の言を爲すと告ぐ。免じて庶人と爲す。惲、家居し、產を治めて自ら娛む。(四)其友孫會宗之を戒む。惲、報じて曰く、過大に、行虧く。當に農夫と爲りて、以て世を沒すべし。田家、作苦し、歲時伏臘には、羊を烹、羔を炰り、斗酒自ら勞ひ、酒後耳熱すれば、天を仰ぎ、(五)缶を拊ちて嗚嗚と呼ぶ。其詩に曰く、彼の南山に田る、(六)蕪穢して治らず、一頃の豆を種う、落ちて萁と爲る、人生行樂せんのみ。富貴を須つも何の時ぞ。淫荒度無き、其不可なるを知らずと。人、上書して告ぐ。惲、驕奢にして悔いずと。廷尉に下して案(七)ぜしめ、會宗に與ふる所の書を得。帝見て之を惡み、大逆無道を以て要斬す。

(一) 穀物を買ひ入る　(二) 賣り出す　(三) 歲時朝命等を掌る役、九卿の一也　(四) 人を迷はす言　(五) 歲時はものびの意、即ち安息日、伏臘は伏日と臘日即ち夏冬の祭　(六) 荒る　(七) とりしらべしむ

老病レ聾。督郵白欲レ逐レ之。霸曰。許丞廉吏。雖レ老尚能拜起。重聽何傷。數易二長吏一。送レ故迎レ新之費。及姦吏因緣。絶二簿書一。盜二財物一。公私費耗甚多。所レ易新吏。又未二必賢一。或不レ如二其故一。徒相益爲レ亂。凡治道去二其太甚者一耳。霸以二外寬內明一。得二吏民心一。治爲二天下第一一。至レ是代レ吉。霸材長二於治一レ民。及レ爲レ相。功名損二治レ郡時一。

て新を迎ふるの費、及び姦吏因緣して(五)、簿書を絶ち、財物を盜み、公私の費耗甚だ多からん。易ふる所の新吏、又未だ必ずしも賢ならず、或は其故に如かず。徒に相益して(六)亂を爲さん。凡そ治の道は、其太甚しき者を去るのみと。霸、外寬に、內明なるを以て、吏民の心を得、治、天下第一たり。是に至りて吉に代る。霸の材は、民を治むるに長ず。相と爲るに及び、功名、郡を治むる時よりも損す。

(三) 郡の目付役　(四) 耳遠くして同じ事を再三聽き直す　(五) 交代の際に乘じ　(六) 事端をまし

四年。太司農耿壽昌白。令三邊郡皆築二レ倉。穀賤增レ價而糴以利レ農。穀

○四年、太司農耿壽昌白す。邊郡をして皆倉を築かしめん。穀賤しければ、價を增して(一)糴して以て農を利し、穀貴ければ、價を減じて(二)糶して以て民を利せんと。名づけて常平倉と曰ふ○前の光祿勳楊惲(三)を殺す。惲、廉潔にして私無し。人、

五鳳元年。殺ニ左馮翊韓延壽一。延壽爲レ吏。好ニ古教化一。由ニ潁川太守一。入爲ニ馮翊一。民有ニ昆弟相訟一。延壽閉レ閤思レ過。訟者各悔。不ニ復爭一。郡中翕然相敕厲。恩信周徧。莫三復有ニ詞訟一。民吏推ニ其至誠一。不レ忍ニ欺給一。至レ是坐レ事棄市。百姓莫レ不ニ流涕一。

○五鳳元年、左馮翊韓延壽を殺す。延壽吏と爲りて、古の教化を好む。潁川の太守より、入りて馮翊と爲る。民に昆弟(一)相訟ふるもの有り。延壽、閤(二)を閉ぢて過を思ふ。訟ふる者各〻悔いて、復た爭はず。郡中、翕然として相敕厲(三)す。恩信周徧(四)、復た詞訟有ること莫し。民吏其至誠を推し、欺き給くに忍びず。是に至り、事に坐して棄市せらる。百姓流涕せざるもの莫し。

(一)兄弟　(二)部屋　(三)互にいましめはげまし合ふ　(四)恩德と信義とあまねくゆき渡る

三年。丙吉薨。黃霸爲ニ丞相一。霸嘗爲ニ潁川太守一。吏民稱ニ神明不レ可レ欺。力ニ教化一。後ニ誅罰一。長史許丞。

○三年、丙吉薨ず。黃霸、丞相と爲る。霸、嘗て潁川の太守たり。吏民、神明にして欺く可からずと稱す。教化を力め、誅罰を後にす。長吏許丞老いて聾を病む。督郵(一)、白して之を逐はんと欲す。霸曰く、許丞は廉吏なり。老いたりと雖も尚能く(二)拜起す。重聽(三)すること何ぞ傷まん。數〻長吏を易へば、故を送り

及便宜章奏數條一。漢興以來。便宜行事及賢臣賈誼。晁錯董仲舒等所ㇾ言。請施ニ行之一。勅ニ掾吏一。案ニ事郡國一。及休告從ㇾ家還至ㇾ府。輙白ニ四方異聞一。或有ニ逆賊風雨災異一。郡不ㇾ上。相輙奏ニ言之一。與ニ御史大夫丙吉一。同ㇾ心輔ㇾ政。上皆重ㇾ之。至ㇾ是吉代爲ニ丞相一。吉尙ニ寬大一。好ニ禮讓一。嘗出。逢ニ羣鬪死傷一。不ㇾ問。逢ニ牛喘一。使ㇾ問ニ逐ㇾ牛行幾里矣一。或譏ニ吉失ㇾ問。吉曰。民鬪京兆所ㇾ當ㇾ禁。宰相不ㇾ親ニ細事一。非ㇾ所ㇾ當ㇾ問也。方ニ春未ㇾ可ㇾ熱。恐牛暑故喘。此時氣失ㇾ節。三公調ニ陰陽一。職當ㇾ憂。人以爲ㇾ知ニ大體一。

言す。御史大夫丙吉と心を同じうして政を輔く。上、皆之を重んず。是に至り、吉、代りて丞相と爲る。吉、寬大を尙び、禮讓を好む。嘗て出でゝ、羣り鬪ひて死傷するに逢ふ。問はず。牛の喘ぐに逢ひて、牛を逐ひて行くこと幾里ぞと問はしむ。或ひと、吉が問を失したることを譏る。吉曰く、民の鬪ふは、京兆の當に禁ずべき所にして、宰相は細事を親らせず、當に問ふべき所に非ざる也。春未だ熱す可らざるに方り、恐らくは、牛、暑きの故に喘ぐならん。此れ時氣の節を失したるなり。三公は陰陽を調ふ。職として當に憂ふべしと。人以て大體を知ると爲す。

㊀先例、舊制　㊁奏書の妨げられて上に達せざること　㊂屬官　㊃休暇を請ひて歸省する者

金城一。上二屯田奏一。願下罷二騎兵一。留二步兵萬餘一。分中屯要害處上。條二不レ出レ兵。留田。便宜十二事一。奏毎レ上。輒下二公卿議一。初是二其計一者什三。中什五。最後什八。魏相任二其計一。可二必用一。上從レ之。二年。司隷校尉蓋寬饒奏二封事一。上以爲二怨謗一。下レ吏。寬饒自剄。

饒、封事(五)を奏す。上、以て怨謗(六)と爲し、吏に下す。寬饒、自ら剄る。

(一)西羌の一種族　(二)地形を圖し　(三)個條書にして奏す　(四)開墾して田を造る　(五)封じたる奏書　(六)うらみそしる

三年。丞相魏相薨。故事。上書者皆爲二二封一。署二其一一曰レ副。領二尙書一者。先發二副封一。所レ言不レ善。屛去不レ奏。自二霍光薨一。後相卽白去二副封一。以防二壅蔽一。及レ爲レ相。好觀二漢故事

〇三年、丞相魏相薨ず。故事(一)に、上書する者皆二封を爲り、其一に署して副と曰ふ。尚書を領する者、先づ副封を發き、言ふ所善からざれば、屛け去りて奏せず。霍光薨じてより後、相、卽ち白して副封を去りて、以て壅蔽(二)を防ぐ。相と爲るに及び、好みて漢の故事及び便宜の章奏數條を觀、漢興りてより以來、便宜の行事、及び賢臣賈誼・晁錯・董仲舒等の言ふ所、請ひて之に施行す。掾吏(三)に勅して、事を郡國に案ぜしむ。及び休告(四)するもの家より還り府に至れば、輒ち四方の異聞を白さしめ、或は逆賊風雨災異有りて、郡、上らざれば、相、輒ち之を奏

送者車數百兩○道路觀者皆曰○賢哉二大夫○既歸○日賣レ金共具請二族人故舊賓客一○相與娛樂○不下爲二子孫一立中產業上○曰賢而多レ財○則損二其志一○愚而多レ財○則益二其過一○且夫富者衆之怨也○吾不レ欲下益二其過一而生上レ怨○

且夫れ富は衆の怨なり。吾其過を益して怨を生ずることを欲せずと。

(一)老臣の辭職するをいふ　(二)旅の出途に、道路の神を祭ること　(三)別れの宴を張る也

神爵元年○先零與二諸羌一畔○上使レ問二後將軍趙充國一○誰可レ將者○充國年七十餘○對曰無レ踰二老臣一○復問○將軍度二羌虜一何如○當レ用二幾人一○充國曰○兵難二遙度一○願至二金城一○圖上二方略一○乃詣二

○神爵元年、先零、諸羌と畔く。上、後將軍趙充國に問はしむ。誰か將とす可き者と。充國、年七十餘、對へて曰く、老臣に踰ゆること無しと。復た問ふ、將軍、羌虜を計ること何如。當に幾人を用ふべき。充國曰く、兵は遙に度り難し。願はくは金城に至りて、圖して方略を上らんと。乃ち金城に詣り、屯田の奏を上る。騎兵を罷めて、歩兵萬餘を留め、要害の處に分ち屯せんことを願ひ兵を出さずして留り田するの便宜十二事を條す。奏、上る每に、輒ち公卿に下して議せしむ。初め其計を是とする者什に三。中は什に五。最後には什に八。魏相、其計に任じ、必ず用ふべしと。上、之に從ふ○二年、司隷校尉蓋寬

之貪兵。兵貪者破。恃二國家大一。矜二人民之衆一。欲レ見二威於敵一者。謂二之驕兵一。兵驕者滅。匈奴未レ有レ犯二於邊境一。今欲三興レ兵入二其地一。臣愚。不レ知二此兵何名者一也。今年計。子弟殺二父兄一。妻殺レ夫者。二百二十二人。此非二小變一。左右不レ憂。乃欲三發レ兵報二纖芥之忿於遠夷一。殆孔子所レ謂吾恐季孫之憂。不レ在二顓臾一而在二蕭墻之內一。上從二相言一。

左右憂へず、乃ち兵を發して、纖芥の忿を遠夷に報いんと欲す。(一)殆ど孔子の所謂、吾は恐る、季孫の憂、顓臾に在らずして、蕭墻の內に在るなりと。(二)上、相の言に從ふ。

(一) ちりあくた程の小さな怒を以て、遠きえびすに報復せんとす (二) 論語季子第十六に出づ、顓臾は國名、憂は外にあらずして內に在りとの意

三年太子太傅疏廣。與二兄子太子少傅疏受一。上レ疏乞二骸骨一。許レ之。加二賜黃金一。公卿故人設二祖道一。供二張東門外一。

○三年、太子太傅疏廣、兄の子太子少傅疏受と、上疏して骸骨を乞ふ。(一)之を許し、黃金を加賜す。公卿故人、祖道を設け、(二)東門の外に供張す。(三)送る者車數百輛。道路に觀る者皆曰く、賢なる哉二大夫と。既に歸れば、日に金を賣りて共具し、族人故舊賓客を請ひて、相與に娛樂し、子孫の爲に產業を立てず。曰く、賢にして財多ければ、則ち其志を損じ、愚にして財多ければ、則ち其過を益す。

吏民守レ闕號泣者數萬人。竟坐要斬。廣漢廉明。威二制豪強一。小民得レ職。百姓追思歌レ之。以二尹翁歸一。爲二右扶風一。翁歸初爲二東海太守一。過二辭廷尉于定國一。定國欲レ託二邑子一。語終日。竟不二敢見一。曰此賢將。汝不レ任レ事也。又不レ可二干以一レ私。以二治郡高第一。遂入。常爲二三輔最一。

二年。上欲下因二匈奴衰弱一。出レ兵撃二其右地一。使中不二復擾二西域一。魏相諫曰。救レ亂誅レ暴謂二之義兵一。兵義者王。敵加二於己一。不レ得レ已。而起者。謂二之應兵一。兵應者勝。爭二恨小故一。不レ忍二憤怒一者。謂二之忿兵一。兵忿者敗。利二人土地貨寶一者。謂二

〇二年、上、匈奴の衰弱に因りて、兵を出して其右地を撃ち、復た西域を擾さざらしめんと欲す。魏相諫めて曰く、亂を救ひ暴を誅す。之を義兵と謂ふ。兵、義ある者は王たり。敵己に加へ、已むを得ずして起る者、之を應兵と謂ふ。兵、應ずる者は勝つ。小故を爭ひ恨み、憤怒に忍びざる者、之を忿兵と謂ふ。兵、忿る者は敗る。人の土地貨寶を利する者、之を貪兵と謂ふ。兵、貪る者は破る。國家の大を恃み、人民の衆きに衿り、威を敵に見さんと欲する者、之を驕兵と謂ふ。兵、驕る者は滅ぶ。匈奴は未だ邊境を犯すこと有らざるに、今兵を興して其地に入らんことを欲す。臣愚、此兵の何の名ある者なるかを知らざる也。今年計るに、子弟、父兄を殺し、妻、夫を殺す者、二百二十二人、此れ小變に非ず。

潁川太守。潁川俗。豪傑相朋黨。廣漢爲ニ缿筩。受ニ吏民投書。使ニ相告訐。姦黨散落。盜賊不レ得レ發。由レ是入爲ニ京兆尹。尤善爲ニ鉤距。以得ニ其情。閭里銖兩之姦皆知。發レ姦摘レ伏如レ神。京兆政淸。長老傳。自ニ漢興。治ニ京兆ニ者莫ニ能及。至レ是人上書言。廣漢以ニ私怨ニ論ニ殺人。下ニ廷尉。

姦黨散落し、盜賊發することを得ず。是に由りて入りて京兆の尹と爲る。尤も善く鉤距(二)を爲し、以て其情を得、閭里の銖(三)兩の姦も皆知る。(四)姦を發し伏を摘すること神の如し。京兆政淸し。長老傳ふ。漢興りてより、京兆を治むる者能く及ぶこと莫しと。是に至りて、人上書して言く、廣漢、私怨を以て人を論殺すと。廷尉に下す。吏民、闕を守りて號泣する者數萬人なり。竟に坐して要斬せらる。廣漢廉明、豪强を威制す。小民、職を得、百姓、追思して之を歌ふ○尹翁歸を以て右扶風と爲す。翁歸、初め東海の太守と爲り、過りて廷尉于定國に辭す。定國、邑子(五)を託せんと欲し、語ること終日、竟に敢て見えしめず。曰く、此れ賢將なり。汝、事に任へざる也。又干すに私を以てす可からずと。治郡高第を以て、遂に入りて、常に三(六)輔の最と爲る。

(一) すやきの瓶と竹の筒。項の字は缿といふ (二) 巧に罪狀をつり出し、人をして其術中に陥りて又出でがたからしむるをいふ (三) わづかの惡事 (四) 姦曲をあばき出し、隱れたる惡事を摘發す (五) 同邑の一男子を翁歸に託しくに登庸せしめんとせし也長安の三秦行右扶風・左馮翊・京兆の中最も勝れたる人

赤子盜二弄兵於潢池中一耳。今欲レ使二臣勝一レ之邪。將安レ之也。上曰。選二用賢良一。固欲レ安レ之。遂曰。治二亂民一。如レ治二亂繩一。不レ可レ急也。願無三拘レ臣以二文法一。得二便宜從一レ事。上許焉。乘レ傳至二渤海界一。郡發レ兵迎。遂皆遣還。移レ書罷レ捕。諸持二田器一者爲二良民一。持レ兵者乃爲レ盜。遂單車至レ府。盜聞即時解散。民有下持二刀劍一者上。使二賣レ劍買一レ牛賣レ刀買一レ犢。曰何爲帶レ牛佩レ犢。勞來巡行。郡中皆有二蓄積一。獄訟止息。至レ是召入。

を發して迎ふ。遂、皆遣はし還し、(四)書を移して捕を罷む。諸〻の(五)田器を持する者を良民と爲し、兵を持する者は乃ち盜と爲す。遂、單車にして府に至る。盜、聞きて即時に解散す。民、刀劍を持する者有れば、劍を賣りて牛を買ひ、刀を賣りて犢を買はしむ。曰く、何爲れぞ牛を帶び犢を佩ぶると。(六)勞來巡行す。郡中皆蓄積有り。獄訟止息す。是に至りて召し入る。

(一)治績德行　(二)沼、水溜り。渤海を比喩的にいへる也　(三)規則を以て拘束する勿れ　(四)命令書を發して亂民を捕ふることを差止める　(五)田器は農具。兵は武器　(六)民をねぎらふ

元康元年。殺二京兆尹趙廣漢一。初廣漢爲二

○元康元年、京兆の尹趙廣漢を殺す。初め廣漢、潁川の太守と爲る。潁川の俗、豪傑、相朋黨す。廣漢、(一)缿項筩を爲りて、吏民の投書を受け、相告げ訐かしむ。

曰。鄕使ㇾ聽ニ客之言一。不ㇾ費ニ牛酒一。終無ニ火患一。今論ㇾ功而賞。曲突徙ㇾ薪無ニ恩澤一。焦ㇾ頭爛ㇾ額爲ニ上客一耶。上乃賜ニ帛一。以爲ㇾ郎。帝初立謁ニ高廟一。霍光驂乘。上嚴ニ憚之一。若ㇾ有ニ芒刺在一ㇾ背。後張安世代ㇾ光驂乘。上從容肆體。甚安近焉。故俗傳。霍氏之禍萌ニ於驂乘一。

(一) 増長の結果遂に滅亡するが如き事に至らしめざれ (二) 眞直なる煙突 (三) 曲れる煙突 (四) 火災のために働きたるもの (五) そへのり (六) 非常にはゞかること (七) 體をゆつくりすること (八) 打寛ぎて近づける

北海太守朱邑以ニ治行第一一。入爲ニ太司農一。渤海太守龔遂。入爲ニ水衡都尉一。先ㇾ是渤海歲饑盜起。選ㇾ遂爲ニ太守一。召見問。何以治ㇾ盜。遂對曰。海濱遐遠。不ㇾ沾ニ聖化一。其民飢寒。而吏不ㇾ恤。使ニ陛下

○北海の太守朱邑、治行(一)第一を以て、入りて太司農と爲り、渤海の太守龔遂、入りて水衡都尉と爲る。是より先、渤海、歲饑ゑ盜起る。遂を選びて太守と爲し、召し見て問ふ、何を以て盜を治めん。遂、對へて曰く、海濱遐遠、聖化に沾はず、其民飢寒す。而るを吏恤まず、陛下の赤子をして、兵を潢池(二)の中に盜み弄せしむるのみ。今臣をして之に勝たしめんと欲するか。將た之を安ぜんか。上曰く、賢良を選み用ふるは、固より之を安ぜんと欲する也。遂曰く、亂民を治むるは、亂繩を治むるが如し。急にす可らず。願はくは、臣(三)を拘するに文法を以てすること無かれ。便宜を得て事に從はんと。上、許す。傳に乘じて渤海の界に至る。郡、兵

民伏レ誅。夷二其族一。告者皆封二列侯一。初霍氏奢縱。茂陵徐福上疏言。宜三以レ時抑制一。無レ使レ至レ亡。書三上不レ聽。至レ是人爲二徐生一上書曰。客有レ過二主人一。見三其竈直突傍有二積薪一。謂二主人一。更爲二曲突一。速徙二其薪一。主人不レ應。俄失レ火。鄕里共救レ之。幸而得レ息。殺レ牛置レ酒。謝二其鄕人一。人謂二主人一

め霍氏、奢縱なり。茂陵・徐福、上疏して言く、宜しく時を以て抑制し、亡ぶるに至らしむること無かるべしと。書三たび上りて聽かれず。是に至りて、人、徐生の爲に上書して曰く、客、主人に過れる有り。其竈の直突にして、傍に積みたる薪有るを見、主人に謂ふ、更めて曲突を爲り、速かに其薪を徙せと。主人應ぜず。俄に火を失す。鄕里共に之を救ひ、幸にして息むことを得たり。牛を殺し酒を置きて、其鄕人に謝す。人、主人に謂ひて曰く、鄕に客の言を聽かしめば、牛酒を費さず、遂に火の患無かりしならむ。今、功を論じて賞するに、曲突にして薪を徙せといふもの、恩澤無く、頭を焦し、額を爛らすを上客と爲すかと。上乃ち福に帛を賜ひて、以て郞と爲す。帝、初めて立ちて高廟に謁す。霍光、驂乘す。上、之を嚴憚し、芒刺の背に在るが若し。後張安世、光に代りて驂乘す。上、從容肆體、甚だ安近す。故に俗に傳ふ、霍氏の禍は驂乘に萌すと。

病已立。及二賀廢一。病已年十八矣。光等奏。病已躬節儉慈仁。愛ㇾ人。可三以嗣二孝昭後一。迎入卽ㇾ位。既立。六年霍光卒。始親ㇾ政。

地節三年。路溫舒上書言。秦有二十失一。其一尙存。治獄之吏是也。俗語曰。畫ㇾ地爲ㇾ獄。議ㇾ不ㇾ入。刻ㇾ木爲ㇾ吏。期ㇾ不ㇾ對。此悲痛之辭。願省二法制一。寬二刑罪一。則太平可ㇾ興。上爲置二廷尉平一。獄刑號爲ㇾ平矣。膠東相王成。勞來不ㇾ怠。治有二異績一。賜二爵關內侯一。魏相爲二丞相一。丙吉爲二御史大夫一。

○地節三年、路溫舒、上書して言く、秦に十失(一)有り。其一尙存す。治獄の吏是なり。俗語に曰く、(二)地を畫りて獄と爲すも、入らざらんことを議す。木を刻みて吏(三)と爲すも、對せざらんことを期す。此れ悲痛の辭なり。願はくは法制を省き、刑罪を寬にせば、則ち太平興る可しと。上、爲に廷尉の平(四)を置き、獄刑號して平と爲す○膠東の相王成、勞來(五)怠らず、治に異績有り。關內侯を賜爵す○魏相、丞相と爲り、丙吉、御史大夫と爲る。

(一) 十の失政　(二) 地上に線を引いて、之を獄なりとするも、人その中へ入るまじとなり　(三) 罪人を吟味する役　(四) 治獄を公平にする役　(五) 民をねぎらひ招く

四年霍氏謀ㇾ

○四年、霍氏、反を謀りて誅に伏す。其族を夷す。告ぐる者皆列侯に封ぜらる。初

下孫也。初戾太子擧。納史良娣。生史皇孫進。進生病已。數月遭巫蠱事。皆繫獄。望氣者言。長安獄中有天子氣。武帝遣使。令盡殺獄中人。丙吉時治獄。拒不納。曰佗人無辜尚不可。況皇曾孫乎。使者還報。武帝曰。天也。及長高材好學。亦喜遊俠。具知閭里姦邪吏治得失。昭帝元鳳中。泰山有大石。自起立。上林有僵樹。復起。蟲食其葉。曰公孫

遭ひ、皆獄に繫る。(三)氣を望む者言く、長安の獄中に天子の氣有りと。武帝使を遣はして、盡く獄中の人を殺さしむ。丙吉、時に獄を治め、拒みて納れず。曰く、佗人の無辜(四)も尚不可なり。況んや皇曾孫をやと。使者還り報ず。武帝曰く、天也(五)と。長ずるに及び、高材にして學を好む。亦遊俠(六)を喜び、具に閭里の姦邪、吏治の得失を知る。昭帝の元鳳中、泰山に大石有り。自ら起き立つ。上林に僵れし樹有り、復た起ち、蟲其葉(七)を食ふ。曰く、公孫病已立つと。賀の廢せらるゝに及び、病已年十八なり。光等奏す、病已、躬、節儉慈仁、人を愛す、以て孝昭の後を嗣ぐ可しと。迎へ入れて位に卽かしむ。既に立ち、六年、霍光卒す。始めて政を親らす。

(一) 女官の名。太子に妃・良娣・孺子の三等の女官あり　(二) 巫はみこ、蠱はまじなひ。みこをして人を調伏せしむること　(三) 雲氣を見る者　(四) 罪なき者　(五) 天命　(六) をとこだて　(七) 蟲葉を食ひて文字狀を爲す

馳ㇾ傳詣ㇾ闕。以下其爲二匈奴一反閉上也。元平元年。帝年二十一而崩。在位十四年。改ㇾ元者三。曰始元元鳳元平。霍光爲ㇾ政。與ㇾ民休息。天下無事。昌邑王賀。哀王髆之子。武帝孫也。光迎ㇾ賀入卽ㇾ位。尊二皇后一。爲二皇太后一。賀淫戲無ㇾ度。光奏廢ㇾ之。迎二立武帝曾孫一。是爲二中宗孝宣皇帝一。

位十四年。元を改むる者三。曰く、始元・元鳳・元平。霍光政を爲し、民と休息す。天下無事なり。昌邑王賀は、哀王髆の子、武帝の孫也。光、賀を迎へ、入りて位に卽かしむ。皇后を尊びて皇太后と爲す。賀、淫戲、度無し。光、奏して之を廢し、武帝の曾孫を迎へ立つ。是を中宗孝宣皇帝と爲す。

(一) 年號 (二) ぶやくを輕くし租稅を薄くして無爲の政をなす

孝宣皇帝

孝宣皇帝。初名病已。後改名ㇾ詢。武帝之

孝宣皇帝、初めの名は病已、後改めて詢と名く。武帝の曾孫也。初め戾太子據、史良娣を納れて、史皇孫進を生む。進、病已を生み、數月にして巫蠱の事に

之。止二舊室中一不レ入。上問。大將軍安在。桀曰以三燕王告二其罪一不二敢入一。詔召二大將軍一。光入免レ冠頓首謝。上曰將軍之二廣明一都レ郎屬耳。調二校尉一以來。未レ能二十日。燕王何以得レ知レ之。且將軍爲レ非。不レ須二校尉一。是時元鳳元年。帝年十四。尚書左右皆驚。而上書者果亡。捕レ之甚急。桀等懼白レ上。小事不レ足レ遂。上不レ聽。後桀黨有二譖レ光者一。上輙怒曰。大將軍忠臣。先帝所二屬以輔一朕身一。敢有二毀者一坐レ之。自レ是無二敢復言一。桀等謀。令二長公主置酒請レ光。伏レ兵格二殺之一。因廢レ帝而立レ且。安又謀二誘レ且至誅レ之。廢レ帝而立レ桀。會有下知二其謀一者上以聞。捕二桀安弘羊等一。幷二宗族一盡誅レ之。蓋主與レ且皆自殺。

且を誘ひ、至らば之を誅し、帝を廢して桀を立てんと謀る。會〻其謀を知る者有り、以聞す。桀・安・弘羊等を捕へ、宗族を幷せて、盡く之を誅す。蓋主と且と皆自殺す。

㊀昭帝の姉　㊁都は試、肆は習也、演習して武術を試み習はすをいふ　㊂通行の際前ばらひをなす　㊃調選増益す　㊄九卿に下して、其の事を議せしむ　㊅彩畫の室ともいひ、成王を負ふ圖をかけし室ともいふ　㊆近頃の意　㊇將軍にして非を爲さんとせば何も校尉の力を須ひるに及ばず卽ち之を調益すといふは誣告のみと也　㊈追ひ究むるに及ばず　㊉格は挌に通ず、手にて撃ち殺すなり　⑪發す

四年。傅介子使二西域一誘二樓蘭王一。刺二殺之一。

四年、傅介子、西域に使し、樓蘭王を誘ひて、之を刺殺す。傳を馳せて闕に詣る。其匈奴の爲に反間するを以て也。○元平元年、帝、年二十一にして崩ず。在

旦自以二帝兄一。常怨望。御史大夫桑弘羊。爲二子弟一求レ官。不レ得。亦怨望。於レ是皆與レ旦通レ謀。詐令二人爲レ旦上書。言光出都二肄郎羽林一。道上稱レ蹕。擅調二益莫府校尉一。專レ權自恣。疑有二非常一。候二光出沐日一奏レ之。桀欲三從レ中下二其事一。弘羊當下與二大臣一共執上退光。書奏。帝不二肯下一。明旦光聞レ

事を下さんと欲す。弘羊、當に大臣と共に執へて光を退くべしと。書、奏す。帝、肯て下さず。明旦、光、之を聞き、畫室(六)の中に止りて入らず。上問ふ、大將軍安にか在る。桀曰く、燕王其罪を告ぐるを以て敢て入らずと。詔して大將軍を召す。光入り冠を免ぎ頓首して謝す。上曰く、將軍が廣明に之きて、郎を都みしは屬(七)のみ。校尉を調する以來、未だ十日なること能はず。燕王何を以てか之を知るを得ん。(八)且將軍非を爲さば、校尉を須ゐずと。是時元鳳元年、帝、年十四なり。尙書左右、皆驚く。而して上書せし者、果して亡ぐ。之を捕ふること甚だ急なり。桀等、懼れて上に白す、小事なり、遂ぐるに足らず(九)と。上、聽かず。後桀の黨に光を譖する者有り。上、輒ち怒りて曰く、大將軍は忠臣、先帝の屬して以て朕が身を輔くる所なり。敢て毀しる者有らば之を坐せしめんと。是より敢て復た言ふもの無し。桀等謀りて、長公主をして置酒して光を請はしめ、兵を伏せて之を格殺し(一〇)、因りて帝を廢して旦を立てんとす。安又

律亦屢勸二武降一。終不レ肯。漢使者至二匈奴一。匈奴詭言。武已死。漢使知レ之。言天子射二上林中一得レ雁。足有二帛書一云。武在二大澤中一。匈奴不レ能レ隱。乃遣二武還一。武留二匈奴一十九年。始以二強壯一出。及レ還須髮盡白。拜爲二典屬國一。

及び、須髮盡く白し。拜して典屬國(三)と爲す。

(一)漢の使者たるしるし　(二)絹地に文字を認めたるもの　(三)屬國を主る官

左將軍上官桀子安。爲二霍光壻一。生レ女。立爲二皇后一。桀與レ安。自以二后之祖父一。乃不レ若下光以二外祖一專中制朝事上。桀與レ光爭レ權。時鄂國蓋長公主。爲二所レ愛丁外人一求二封侯一。不レ許。怨レ光。燕王

○左將軍上官桀の子安、霍光の壻と爲り、女を生む。立てゝ皇后と爲す。桀と安と、自ら后の祖父を以て、乃ち光が外祖を以て朝事を專制するに若はず。桀と光と權を爭ふ。時に鄂國の蓋長(一)公主、愛する所の丁外人の爲に封侯を求む。許さず。光を怨む。燕王旦、自ら帝の兄を以て常に怨望す。御史大夫桑弘羊、子弟の爲めに官を求む。得ず。亦怨望す。是に於て皆旦と謀を通じ、詐りて人をして旦の爲めに上書せしめ、言ふ、光、出でゝ郎羽林に都肄(二)す。道上に蹕(三)を稱し、擅に莫府の校尉を調益(四)し、權を專らにして自ら恣にす。疑ふらくは非常有らんと。光の出でゝ沐する日を候ひて、之を奏す。桀、中より其(五)

立之。察群臣。惟霍光忠厚可任大事。使黄門畫周公負成王朝諸侯。以賜光。譴責鉤弋夫人賜死。曰古國家所以亂。由主少母壯驕淫自恣也。明年。武帝崩。遂即位。燕王旦以長不得立謀反。赦弗治。黨與伏誅。

淫自恣なるに由ると。明年、武帝崩ず。遂に即位す。燕王旦、長にして立つを得ざるを以て反を謀る。赦して治せず。黨與誅に伏す。

㈠ 堯の母亦十四月にして堯を生む、故に名く ㈡ 近侍の宦官 ㈢ 成王に代り扆（屛風）を負ひ玉座につく

始元六年蘇武還自匈奴。武初徙北海上。掘野鼠。去草實而食之。臥起持漢節。李陵謂武曰。人生如朝露。何自苦如此。陵與衛律降匈奴。皆富貴。

○始元六年、蘇武、匈奴より還る。武、初め北海の上に徙り、野鼠を掘り、草實を去りて之を食ひ、臥起に漢(一)の節を持つ。李陵武に謂ひて曰く、人生朝露の如し。何ぞ自ら苦しむること此の如くなると。陵と衛律と匈奴に降り、皆富貴なり。律も亦屢〻武に降を勸む。遂に肯ぜず。漢の使者匈奴に至る。匈奴、詭りて言ふ、武、已に死せりと、漢使之を知り、言ふ、天子、上林の中に射て雁を得たり。足に帛書(二)有り。云く、武、大澤の中に在りと。匈奴隱すこと能はず。乃ち武をして還らしむ。武、匈奴に留まること十九年、始め強壯を以て出づ。還るに

文帝已廣㆗遊學之路㆖。然儒學終未㆓盡盛㆒。至㆓帝世㆒。董仲舒公孫弘。皆以㆓春秋㆒進。兒寬亦以㆓經術㆒飾㆓吏事㆒。後又有㆓孔安國等㆒出。表㆓章六經㆒。實自㆑帝始。數獲㆓祥瑞㆒。白麟朱雁芝房寶鼎皆爲㆓樂章㆒。薦㆓之郊廟㆒。文章亦至㆓帝世㆒始盛。人以爲。有㆓三代之風㆒焉。帝壽七十而崩。葬㆓茂陵㆒。太子立。是爲㆓孝昭皇帝㆒。

孝昭皇帝と爲す。

(一) 妖術を弄して人をたばかること (二) 秦始皇の發したる令、經書を所持することを禁ずるもの (三) 吏務を立派にする (四) 詩・書・易・禮・樂・春秋の六書を天下にあらはす (五) 夏・殷・周

孝昭皇帝。名弗陵。母鉤弋夫人趙氏。娠十四月而生。武帝命㆓其門㆒。曰㆓堯母門㆒。年七歲。體壯大多知。武帝欲㆑

孝昭皇帝

孝昭皇帝、名は弗陵。母は鉤弋夫人趙氏、娠みて十四月にして生む。武帝、其門を命けて(一)堯母門と曰ふ。年七歲、體、壯大にして多知なり。武帝之を立てんと欲す。羣臣を察るに、唯だ霍光のみ忠厚にして大事に任ず可し。(二)黃門をして、周公が(三)成王を負ひて諸侯を朝せしむるを畫きて、以て光に賜はしむ。鉤弋夫人を譴責して死を賜ふ。曰く、古へ國家の亂るゝ所以は、主少く、母壯にして、驕

朔饑欲レ死。伏日賜レ肉晏。朔先斫レ肉持歸。上召問令二自責一。朔曰。受レ賜不レ待レ詔。何無禮也。拔レ劍斫レ肉。何壯也。斫レ之不レ多。何廉也。歸遺二細君一。又何仁也。然朔亦時直諫有レ所二補益一。

自二李少君一以來。來二神仙一不レ已。文成誅而五利至。五利以二文成一爲レ言。上曰。文成食二馬肝一死耳。及二五利又誅一。公孫卿等尤見二聽信一。末年帝乃悟曰。天下豈有二仙人一。盡妖妄耳。節レ食服レ藥。差可レ少レ病而已。漢興。雖下自二惠帝一已除中挾書之禁上。

李少君より以來、神仙を求めて已まず。文成誅せられて五利至る。五利、文成を以て言を爲す。上曰く、文成は馬肝を食ひて死するのみと。五利又誅せらるゝに及び、公孫卿等尤も聽信せらる。末年、帝、乃ち悟りて曰く、天下豈仙人有らんや。盡く妖妄のみ。食を節し藥を服せば、差病を少くす可きのみと。(一)漢興りて、惠帝より已に挾書の禁を除き、文帝已に遊學の路を廣むと雖も、然れども儒學終に未だ盡く盛ならず。(二)帝の世に至り、董仲舒・公孫弘、皆春秋を以て進み、兒寛も亦經術を以て吏の事を飾る。後又孔安國等有りて出づ。六經を表章するは、實に帝より始まる。(三)數〻祥瑞を獲て、白麟・朱雁・芝房・寶鼎、(四)皆樂章を爲り、之を郊廟に薦む。文章も亦帝の世に至りて始めて盛なり。人以爲らく、三代の風有りと。(五)帝、壽七十にして崩ず。茂陵に葬る。太子立つ。之を

上所ㇾ重。大將軍衛靑雖ㇾ貴。上或踞ㇾ廁見ㇾ之。如ㇾ黯不ㇾ冠不ㇾ見也。

上招二選天下材智士俊異者一。寵二用之一。莊助。朱買臣。吾丘壽王。司馬相如。東方朔。枚皐。終軍等在二左右一。相如特以二詞賦一得ㇾ幸。朔皐不ㇾ根二持論一。好二詼諧一。上以二俳優一畜ㇾ之。朔嘗語二上前侏儒一。以爲上欲ㇾ殺ㇾ之。侏儒泣請ㇾ命。上問ㇾ朔。朔曰。侏儒飽欲ㇾ死。臣

上、天下材智の士の俊異なる者を招き選びて、之を寵用す。莊助・朱買臣・吾丘壽王・司馬相如・東方朔・枚皐・終軍等左右に在り。相如、特に詞賦を以て幸を得たり。朔・皐は持論を根とせず(一)、詼諧を好む。上、俳優を以て之を畜ふ(二)。朔、嘗て上の前の侏儒(三)に語る。以爲らく、上、之を殺さんと欲すと。侏儒、泣きて命を請ふ。上、朔に問ふ。朔曰く、侏儒は飽きて死せんと欲し、臣朔は饑ゑて死せんと欲すと。伏日(四)に肉を賜ふこと晏し。朔先づ肉を斫りて持ち歸る。上、召し問ひて自ら責めしむ。朔曰く、賜を受くるに詔を待たず、何ぞ無禮なるや。劍を拔きて肉を斫る、何ぞ壯なるや。之を斫ること多からず、何ぞ廉なるや。歸りて細君(五)に遺る、何ぞ仁なるやと。然れども朔も亦時々直諫して補益する所有り。

(一) 根本ある意見を持たず　(二) 俳優なみに召抱ふ　(三) 身體短小の者　(四) 夏三度の庚日。舊制に此の日を以て百官に肉を賜ふと　(五) 妻の名といふ。一説に細は小也、朔自ら諸侯に比して其妻を小君といふ

治。入爲二九卿一。上方招二文學一。嘗曰。吾欲レ云云一。黯曰。陛下內多欲而外施二仁義一。奈何欲レ效二唐虞之治一乎。上怒罷レ朝。曰甚矣。黯之戇也。他日又曰。古有二社稷臣一。黯近レ之矣。淮南王安謀レ反。曰漢廷大臣。獨汲黯好二直諫一。守レ節死義。如二丞相弘等一。說レ之如レ發レ蒙耳。黯嘗拜二淮陽守一。曰臣病。不レ能レ任二郡事一。願爲二郎中一。出二入禁闥一。補レ過拾レ遺。上曰。君薄二淮陽一邪。吾今召レ君矣。顧淮陽吏民不二相得一。徒得二君之重一。臥而治レ之。至二淮陽一。十歲竟卒。黯甚爲レ

りて朝を罷む。曰く、甚し、黯の戇なるやと。他日又曰く、古へ(四)社稷の臣有り。(三)黯、之に近しと。淮南王安、反を謀る。曰く、漢廷の大臣、獨り汲黯のみ直諫を好み、節を守りて義に死す。丞相弘等の如きは、之を說くこと(五)蒙を發くが如きのみと。黯、嘗て淮陽の守に拜す。曰く、臣病めり。郡の事に任ずる能はず。願はくは、郎中と爲りて、禁闥に出入し、過を補ひ遺を拾はん。上曰く、君淮陽を薄んずるか。吾、今君を召す。顧ふに淮陽の(六)吏民相得ず。徒だ君の重きを得ば、臥して之を治めんと。淮陽に至り、十歲、竟に卒す。黯、甚だ上の爲に重んぜらる。大將軍衞青、貴しと雖も、上、或は廁に踞して之を見る。黯の如きは、冠せざれば見ざる也。

(一) 京師 (二) 部屋の內 (三) 其日の政務をやむ (四) 國家と休戚を同じうする臣 (五) 蒙昧を啓發する意か。漢書註には、物上の蒙(オホヒ)を除く如く易き意とす (六) 官民疏通を缺く

惟田蚡稍專。上嘗謂レ蚡曰。卿除レ吏盡未。吾亦欲レ除レ吏。後皆充レ位而巳。公孫弘後。國家多事。丞相連以レ誅死。公孫賀拜レ相。至涕泣不二肯拜一。亦卒以レ罪死。酷吏張湯趙禹杜周義縱王溫舒之徒。皆嘗峻二用刑法一。然湯等有レ罪。亦不レ貸也。其間卜式兒寬之屬。亦以二長者一見レ用。

吏を除すること盡したりや未や。吾も亦吏を除せんと欲すと。後は皆位に充つ(一)るのみ。公孫弘の後、國家多事、丞相、連りに誅を以て死す。公孫賀、相に拜し、涕泣して肯て拜せざるに至る。亦卒に罪を以て死す。酷吏張湯・趙禹・杜周・義縱・王溫舒の徒、皆嘗て刑法を峻用(三)す。然して湯等に罪有るも、亦貸さゞる(四)也。其間、卜式・兒寬の屬、亦長者を以て用ひらる。

(一)官吏を任命す　(二)位に在るのみにて何等實權なし　(三)きびしく用ふ　(四)寬假せざるなり

汲黯獨以レ嚴見レ憚。數切諫。不レ得レ留レ內。爲二東海守一。好二清淨一。臥二閤內一不レ出。而郡中大

汲黯、獨り嚴を以て憚らる。數〻切諫し、內に留まることを得ず、東海の守と爲る。清淨を好み、閤內に臥して出でず。而して郡中大に治る。入りて九卿と爲る。上、方に文學を招く。嘗て曰く、吾云云せんと欲す。黯曰く、陛下、內、多欲にして、外、仁義を施す。奈何ぞ唐・虞の治に效ふことを欲せんや。上、怒

掌一。以四方士公孫卿言三神仙好二樓居一。作二蜚廉桂館通天莖臺一。作二首山宮一。作二建章宮一。千門萬戸。東鳳闕。西虎圈。北太液池。中有二漸臺蓬萊方丈瀛州壺梁一。南玉堂。壁門。立二神明臺一。作二明光宮一。皆極二侈靡一。數巡幸崇二祠祀一。修二封禪一。國用不レ給。賣二武功爵級一。造二鹿皮幣白金一。桑弘羊孔僅之徒。作二均輸平準法一。興レ利以佐レ費。置二鹽官一。算二舟車一。造二緡錢一。天下蕭然。末年盜起。徵二輪臺一詔一。漢幾不レ免レ爲レ秦。

瀛州・壺梁有り。南には玉堂・璧門あり。神明臺を立て、明光宮を作り、皆侈靡を極む。數々巡幸して、祠祀を崇め、封禪(七)を修す。國用給せず(八)、武功(九)の爵級を賣り、鹿皮幣(一〇)・白金を造る。桑弘羊・孔僅の徒、均輸平準(一一)法を作り、利を興して以て費を佐く。鹽官(一二)を置き、舟車(一三)を算し、緡錢(一四)を造る。天下蕭然たり。末年に盜起る。輪臺(一五)の一詔徼りせば、漢、幾んど秦たるを免れず。

(一) 南山に連ぬる (二) 露を受くるための銅のはち (三) 一園は二畝 (四) たかどのに住むこと (五) 館の名 (六) 臺閣の名 (七) 土を盛りて神を祀ること (八) 國費不足す (九) 武功ある者に與ふべき爵級を金錢を以て賣る (一〇) 鹿の皮を一尺四方に切りて皮幣とし、王侯に買はしむ。即ち璧を獻ずる時の敷物なり (一一) 京師に平準官、地方に均輸官を置きて、物價を均一にし、官、貨物を運轉して、手數料を收む (一二) 鹽の專賣官 (一三) 舟車の數をかぞへて稅を課す (一四) 一つの錢さしに一千錢を貫き各二十錢づゝを課稅す (一五) 輪臺の屯田を罷めしむる詔

所レ用丞相。初

用ふる所の丞相、初は惟だ田蚡、稍專らにす。上、嘗て蚡に謂ひて曰く、卿、

五十四年。改元者十有一。曰建元元光元朔元狩元鼎元封太初天漢太始征和後元。上雄材大略。承文景豐富之後。窮極武事。嘗謂高帝遺平城之憂。思如齊襄公復九世之讎。數征匈奴。盡漢兵勢。匈奴遠遁。幕南無王庭。斥地立郡縣。置受降城。通西域。通西南夷。東擊朝鮮。南伐粵。軍旅歲起。內事土木。築上苑。屬南山。建柏梁臺。作承露銅盤。高二十丈。大七圍。上有仙人

齊の襄公が九世の讎を復せし如くせんことを思ふと。數〻匈奴を征して、漢の兵勢を盡す。匈奴遠く遁れ、幕南(三)に王庭無し。地を斥きて郡縣を立て、受降城(四)を置く。西域に通じ、西南夷に通じ、東のかた朝鮮を撃ち、南のかた粤を伐ち、軍旅(五)歲ごとに起る。

(一)文帝と景帝　(二)きはむ　(三)幕は漠に同じ、沙漠より南方には匈奴の王庭なく絶えて居る者なきに至れり　(四)匈奴の來降を受くる也　(五)軍隊を出動して征討すること

内は土木を事とし、上苑を築き、南山に屬して、柏梁臺を建て、承露銅盤を作る。高さ二十丈、大さ七圍。上に仙人の掌有り。方士公孫卿が神仙は樓居を好むと言へるを以て、蜚廉桂館、通天莖臺を作る。首山宮を作り、建章宮を作り、千門萬戶、東には鳳闕、西には虎圏、北には太液池、中に漸臺・蓬萊・方丈・

之。太子亦矯レ制發レ兵。逢二丞相軍一。兵合戰五日。死者數萬。皇后自殺。太子亡至レ湖自經死。後有二高廟寢郎田千秋一。上書言。有二白頭翁一。教レ臣云。子弄二父兵一。罪當レ笞。上悟曰。此高廟神靈告レ我也。知二太子無一レ罪。作二歸來望思之臺於湖一。天下聞而悲レ之。三年匈奴寇二五原酒泉一。遣二李廣利一擊レ之。廣利降二匈奴一。四年罷下方士候二神人一者上。以二田千秋一爲レ相。封二富民侯一。罷レ議二輪臺屯田一。下レ詔深陳二既往之悔一。

に寇す。李廣利を遣はして之を擊つ。廣利、匈奴に降る○四年、方士の神人を(七)候する者を罷む○田千秋を以て相と爲し、富民侯に封じ、輪臺(九)の屯田を議するを罷め、詔を下して、深く既往の悔を陳ぶ。

(一)みこなり、太子木偶を埋めて天子をのろへりとの事件 (二)木の人形 (三)天子の庭にて車馬を置くところ (四)皇后の宮殿 (五)京兆•扶風•馮翊の三郡、都まはりの地也 (六)詐り託する也 (七)自ら縄を引きてその頸をくびる也 (八)候は伺ふ也、方外の士の道術を以て仙人を招くをいふ (九)西境輪臺の地に屯田を設くると

後元二年。上幸二五柞宮一。病篤。以二霍光一。爲二大司馬大將軍一。受二遺詔一。輔二太子一。上在位

○後元二年、上、五柞宮に幸す。病篤し。霍光を以て大司馬大將軍と爲す。遺詔を受けて太子を輔く。上、在位五十四年。改元する者十有一。建元•元光•元朔•元狩•元鼎•元封•太初•天漢•太始•征和•後元と曰ふ。上、雄材大略あり。(一)文•景の豐富の後を承け、武事を(二)窮極す。嘗て謂ふ、高帝、平城の憂を遺す。

始三年。帝東巡二琅琊一。浮レ海而還。四年。東巡祀二明堂一。修二封禪一。

征和二年。巫蠱事作。帝如二甘泉一。以二江充一爲二使者一。治二巫蠱獄一。掘二太子宮一云。得二木人一尤多。太子據懼。使レ客作爲二使者一。收二捕充一斬レ之。白二母衞皇后一。發二中廐車一。載二射士一。出二武庫兵一。發二長樂宮衞卒一。上從二甘泉一來。詔發二三輔兵一。丞相劉屈氂將レ

○征和二年、巫蠱の事作る。帝、甘泉に如き、江充を以て使者と爲し、巫蠱の獄を治めしむ。太子の宮を掘きて云ふ、木人を得ること尤も多しと。太子據、懼れ、客をして作りて使者と爲さしめ、充を收め捕へて之を斬り、母衞皇后に白し、中廐の車を發し、射士を載せ、武庫の兵を出し、長樂宮の衞卒を發す。上、甘泉より來り、詔して三輔の兵を發す。丞相劉屈氂之に將たり。太子も亦制を爲めて兵を發し、丞相の軍に逢ふ。兵、合戰すること五日、死者數萬。皇后自殺し、太子亡げて湖に至り、自經して死す。後高廟の寢郎田千秋といふ有り、上書して曰く、白頭翁有り、臣に敎へて云ふ、子として父の兵を弄す。罪、笞に當ると。上、悟りて曰く、此れ高廟の神靈我に告ぐる也。太子の罪無きを知ると。歸來望思の臺を湖に作る。天下聞きて之を悲しむ○三年、匈奴、五源・酒泉

天漢元年。遣二中郎將蘇武一。使二匈奴一。單于欲レ降レ之。幽レ武置二大窖中一。絶不二飲食一。武齧三雪與二旃毛一。并咽レ之。數日不レ死。匈奴以爲神。徙二武北海上無レ人處一。使レ牧レ羝曰。羝乳乃得レ歸。二年。遣二李廣利一。擊二匈奴一。別將李陵敗降レ虜。上以二法制一。御レ下。好尊二用酷吏一。東方盜賊滋起。使二使者一。衣二繡衣一。持レ斧督捕。得レ斬二二千石以下一。四年。李廣利擊二匈奴一。不レ利。太

○天漢元年、中郎將蘇武を遣はして、匈奴に使す。單于之を降さんと欲し、武を幽(一)して大窖の中に置き、絶えて飲食せしめず。武、雪と旃毛(二)とを齧み、并せて之を咽み、數日にして死せず。匈奴以爲らく、神なりと。武を北海の上人無き處に徙し、羝を牧(三)はしめて曰く、羝、乳(四)せば、乃ち歸るを得しめんと○二年李廣利を遣はして、匈奴を擊つ。別將李陵、敗れて虜(五)に降る○上、法制を以て下を御し、好んで酷吏を尊用す。東方に盜賊滋く起る。使者を使はし、繡衣を衣、斧を持して督捕し、二千石以下を斬ることを得しむ○四年、李廣利、匈奴を擊つ。利あらず。太始三年、帝、東のかた瑯琊を巡り、海に浮びて還る○四年、東巡して明堂を祀り、封禪を修す。

(一) 幽は囚也、大窖は大なる穴倉　(二) 天子より使臣に授りし節の先につきたる毛、　(三) 牡羊　(四) 子をはらむ　(五) 虜は俘虜也、その義より夷狄をいやしむる稱とす

封二泰山一。禪二肅然一。復東北至二碣石一而還。滇王降。置二益州郡一。三年擊二樓蘭一。虜二其王一。擊二車師一破レ之。朝鮮降。置二樂浪臨屯玄菟眞番郡一。匈奴寇レ邊。遣レ兵。屯二朔方一。五年。南巡二江漢一。至二泰山一增レ封。六年擊二昆明一。太初元年。帝如二泰山一。十一月。甲子。朔旦冬至。作二太初曆一。以二正月一爲二歲首一。遣二李廣利一伐二大宛一。不レ克。遣二趙破奴一擊二匈奴一。敗沒。三年。匈奴大入。破二塞外城障一。大發レ兵。從二李廣利一伐レ宛。宛降。得二善馬數十匹一。四年匈奴單于。使レ使來獻。

年、樓蘭を擊ちて、其王を虜にし、車師を擊ちて之を破る○朝鮮降る。樂浪・臨屯・玄菟・眞番の郡を置く○匈奴、邊に寇す。兵を遣はして、朔方に屯す○五年、南のかた江漢を巡り、泰山に至りて、封を增す○六年、昆明を擊つ○太初元年、帝、泰山に如く。(二)十一月甲子、朔旦冬至、太初曆を作り、正月を以て、歲首と爲す(三)○李廣利を遣はして、大宛を伐つ。克たず○趙破奴を遣はして、匈奴を擊つ。敗れ沒す○三年、匈奴大に入り、塞外の城障を破る○大に兵を發し、李廣利に從ひて、宛を伐つ。宛降る。善馬數十匹を得たり○四年、匈奴單于、使を使はして來り獻ず。

㊀ 地をはらひて山川を祭る事、肅然は泰山の下なる小山の稱 ㊁ 十一月のついたちが甲子にして冬至に當りし也 ㊂ 從來は秦の制によりて十月を以て歲首となししが是に至りて正月を以て歲首とせる也

滇國。二年。以二霍去病。爲二驃騎將軍。擊二破匈奴。過二焉支祁連山。而還。匈奴渾邪王降。置二五屬國。以處二其衆。三年。匈奴入二右北平定襄。四年。遣二衛青霍去病。擊二匈奴。去病封二狼居胥山一而還。元鼎二年。方士文成。將軍李少翁。以レ詐誅。西域始通。置二酒泉武威郡。五年遣二將軍路博德等。擊二南越。方士五利將軍欒大。以レ詐誅。六年。討二西羌一平レ之。南越平。置二九郡。元封元年。帝出二長城。登二單于臺。遣レ使告二單于一曰。南越王頭。已懸二於漢北闕下。今單于能戰。天子自將待レ邊。

て誅せらる○西域始めて通ず。酒泉・武威の郡を置く○五年、將軍路博德等を遣はして、南越を擊たしむ○方士五利・將軍欒大、詐を以て誅せらる○六年、西羌を討ちて之を平く○南越平ぐ。九郡を置く。元封元年、帝、長城に出で、單于臺(四)に登る。使を遣はし單于に告げて曰く、南越王の頭は、已に漢の北闕の下に懸る。今單于能く戰はゞ、天子自ら將として邊(六)に待たんと。

(一) 西夷に在り、今の雲南省にあたるといふ (二) 騎兵隊の指揮官にして品格は大將軍におなじ (三) 匈奴の屬王の號なり (四) 冒頓單于の築きし臺 (五) 未央宮の前殿也 (六) 邊境、國境

帝如二緱氏。登二中嶽。遂東巡二海上。求二神仙。

○帝、緱氏に如き、中嶽に登り、遂に東のかた海上を巡り、神仙を求め、泰山に封じ、肅然に禪し(一)、復東北して碣石に至りて還る○滇王降る。益州郡を置く○三

勿レ算二商車一。匈奴寇二上谷一。遣二將軍衞青等一。擊二卻之一。元朔元年。主父偃上書。諫レ伐二匈奴一。嚴安亦上書。及徐樂亦上書云。陛下何威而不レ成。何征而不レ服。書奏。上召見曰。公等皆安在。何相見之晚也。皆拜二郎中一。是秋匈奴入寇。二年又入寇。遣二衞青等一擊レ之。遂取二河南地一。置二朔方郡一。五年公孫弘爲二丞相一。封二平津侯一。上方興二功業一。弘於レ是開二東閤一。以延二賢人一。

(一)縣廚に食を給すること　(二)計簿を奉る使と同行して入京せしむ　(三)心に畏れて正しく其面を視るを得ざるなり　(四)商賈車船の數をしらべて之に課稅す　(五)東門

匈奴寇二朔方一。遣二衞青一。率二六將軍一擊レ之。還。以レ青爲二大將軍一。匈奴入レ代。六年春。遣二衞青等六將軍一。擊二匈奴一。夏再遣。元狩元年。遣二博望侯張騫一。使二西域一。通二

○匈奴朔方に寇す。衞青を遣し、六將軍を率ゐて之を擊つ。還る。青を以て大將軍と爲す○匈奴代に入る○六年春衞青等六將軍を遣して匈奴を擊たしむ。夏再び遣はす。○元狩元年、博望侯張騫を遣はして、西域に使し、滇國に通ず。○二年、霍去病を以て驃騎將軍と爲し、匈奴を擊ち破り、焉支祁連山を過ぎて還る○匈奴の渾邪王降る○五屬國を置きて、以て其衆を處せしむ○三年、匈奴、右北平定襄に入る○四年、衞青・霍去病を遣はして、匈奴を擊たしむ。去病、狼居胥山を封じて還る○元鼎二年、方士文成、將軍李少翁、詐を以

縣次續食。令ニ與レ計偕。菑川公孫弘。對策曰。人主和ニ德於上。百姓和ニ合於下。故心和則氣和。氣和則形和。形和則聲和。聲和則天地之和應矣。策奏。擢爲ニ第一。待ニ詔金馬門。齊人轅固年九十餘。亦以ニ賢良一徵。弘仄レ目事レ之。固曰。公孫子務ニ正學。以言。無ニ曲レ學以阿レ世。六年。

に和合す。故に心和すれば則ち氣和し、氣和すれば則ち形和し、形和すれば則ち聲和し、聲和すれば則ち天地の和應ずと。策、奏す。擢で丶第一と爲し、詔を金馬門に待たしむ。齊の人轅固、年九十餘、亦賢良を以て徵さる。弘、目を仄て(三)て之に事ふ。固曰く、公孫子正學を務めて。以て言へ、學を曲げて以て世に阿ねる無れと○六年、初めて商車を算す○匈奴、上谷に寇す。將軍衛青等を遣はし、撃ちて之を卻く。○元朔元年、(四)主父偃、上書して、匈奴を伐つを諌む。嚴安も亦上書す。及び徐樂も亦上書して云ふ、陛下、何を威してか成らざらん。何を征してか服せざらんと。書、奏す。上、召し見て曰く、公等皆安にか在りたる。何ぞ相見るの晩きやと。皆郎中に拜す。是秋匈奴入寇し、二年、又入寇す。衛青等を遣して之を撃ち、遂に河南の地を取り、朔方郡を置く○五年、公孫弘丞相と爲り、平津侯に封ぜらる。上、方に功業を興す。弘、是に於て東閣を開き(五)て、以て賢人を延く。

而丹砂可化爲黄金。蓬萊仙者可見。見之以封禪則不死。上信之。始親祠竈。遣方士。入海。求蓬萊安期生之屬。海上燕齊迂怪之士。多更來言神事矣。上用大行王恢議。遣恢等。將兵匿馬邑旁谷中。陰使聶壹誘匈奴。入塞而撃之。單于覺而去。自是絶和親。攻當路塞。唐蒙上書。請通南夷。拜蒙中郎將。將千人入夜郎。夜郎侯聽約。以爲犍爲郡。又拜司馬相如。爲中郎將。通西夷。邛筰冉駹置郡縣。西至沫若水。南至牂牁爲徼。

谷中に匿れ、陰かに聶壹をして匈奴を誘ひ、塞に入りて之を撃たしむ。單于覺りて去る。是より和親を絶ちて、當路の塞を攻む(七)○唐蒙、上書して請ふ、南夷に通ぜんと。蒙を中郎將に拜し、千人に將として、夜郎に入らしむ。夜郎侯、約を聽く。以て犍爲郡と爲す○又司馬相如を拜して、中郎將と爲し、西夷に通ず。邛筰・冉・駹に郡縣を置き、西は沫若水に至り、南は牂牁に至りて徼と爲す。(八)

(一)道士、仙術をよくする行者　(二)巧に帝の心をいひ中つ　(三)藥名、朱砂ともいふ　(四)土を盛りて祀ること　(五)瑯琊の人、藥を東海の邊に賣る、時の人皆千歳公といふ　(六)怪異の言を發し不思議に顔をなす者　(七)匈奴より中國への道に當るとりで　(八)邊塞

徴吏民有明當世之務。習先聖之術者。

○吏民の當世の務を明かにし、先聖の術を習ふこと有る者を徴し、縣次に續食(一)し、計と偕にせしむ(二)。菑川の公孫弘、對策して曰く、人主上に和德あれば、百姓、下

申公。既至。問二治亂之事一。公年八十餘。對曰。爲レ治不レ在二多言一。顧二力行何如一耳。三年閩越擊二東甌一。遣レ使發レ兵救レ之。徙二其衆江淮閒一。帝始爲二微行一。起二上林苑一。

行何如を顧みるのみと。三年、閩越、東甌を撃つ。使を遣し兵を發して之を救ひ、其衆を江淮の間に徙す。帝始めて微行を爲し、上林苑を起す。

㊀ 車の輪を蒲にて巻き乗り心地よくしたるもの ㊁ その上に壁を添ふ

五年。置二五經博士一。六年。閩越擊二南越一。遣二王恢等一擊レ之。元光元年。初令二郡國一。舉二孝廉各一人一。二年方士李少君見レ上。善爲二巧發奇中一。言二祠レ竈則致レ物。

○五年、五經博士を置く○六年、閩越、南越を撃つ。王恢等を遣して之を撃たしむ○元光元年、初めて郡國に令して、孝廉各々一人を擧げしむ○二年、方士(一)李少君、上に見え、善く巧發奇中(二)を爲す。言ふ、竈を祠れば則ち物を致さん。而して丹砂も化して黄金と爲す可く、蓬萊の仙者見る可し。之を見て以て封禪(四)すれば則ち死せずと(三)。上、之を信じ、始めて親ら竈を祠り、方士を遣し、海に入りて、蓬萊の安期生(五)の屬を求めしむ。海上の燕齊の迂怪(六)の士、多く更々來りて神事を言ふ。上、大行王恢の議を用ひ、恢等を遣し、兵に將として馬邑の旁

意美。愛レ民而好レ士。然而教化不レ立。萬民不レ正。譬琴瑟不レ調甚者。必解而更張レ之。乃可レ鼓也。爲レ政而不レ行甚者。必變而更化レ之。乃可レ理也。漢得二天下一以來。常欲レ治。而至レ今不レ可二善治一者。當二更化一而不二更化一也。又曰。養レ士莫レ大二乎太學一。太學者賢士之所レ關也。教化之本原也。願興二太學一。置二明師一。以養二天下之士一。又曰。郡守縣令。民之師帥。所レ使二承流而宣化一也。宜レ使下列侯郡守。各擇二其吏民之賢者一。歲貢中各三人上。又曰。春秋大二一統一者。天地之常經。古今之通誼也。今師異レ道。人異レ論。臣愚以爲。諸不レ在二六藝之科孔子之術一者。皆絶二其道一。然後統紀可レ一。法度可レ明。而民知レ所レ從矣。上善二其對一。以爲二江都相一。

らく、諸々の、六藝の科、孔子の術に在らざる者は、皆其道を絶ち、然る後統紀一なる可く、法度明かなる可くして、民從ふ所を知らんと。上、其對を善しとし、以て江都の相と爲す。

㊀ 一様に正しくなる　㊁ その間に偏することなし　㊂ 王道完し　㊃ 師表となり且つこれを率ゐる人　㊄ 上の餘流を承けて、民に教化を宣ぶるの也　㊅ 孔子の刪修せる春秋の書　㊆ 王者天下一統の義を著大にす　㊇ 古今に通ずるの義　㊈ 天下を統ぶる綱紀

上使二使者一。奉二安車蒲輪束帛加璧一。迎二申

〇上、使者をして、(一)安車蒲輪(二)束帛加璧を奉じて、魯の申公を迎へしむ。既に至れば、治亂の事を問ふ。公、年八十餘。對へて曰く、治を爲すは多言に在らず。力

行レ道。則德日起而大有レ功。又曰。人君者正レ心以正二朝廷一。正二朝廷一。以正二百官一。正二百官一。以正二萬民一。正二萬民一。以正二四方一。四方正遠近莫レ不レ一二於正一。而無三邪氣奸二其間一。是以陰陽調。風雨時。羣生和萬民殖。諸福之物可レ致レ之。祥莫レ不二畢至一。而王道終矣。陛下行高而恩厚。知明而

の物之を致す可く、祥、畢く至らざる莫し。而して王道終る。陛下行高くして恩厚く、知明かにして意美なり。民を愛して士を好む。(三)然して教化立たず、萬民正しからず。譬へば、琴瑟調はざること甚しき者は、必ず解きて更めて之を張る、乃ち鼓す可き也。政を爲して行はれざること甚しき者は、必ず變して更めて之を化す、乃ち理む可き也。漢、天下を得てより以來、常に治まらんことを欲す。而して今に至るまで、善く治む可からざる者は、當に更め化す可くして更め化せざれば也と。又曰く、士を養ふは太學より大なるは莫し。太學は賢士の關る所也。教化の本原也。願はくは太學を興し、明師を置きて、以て天下の士を養はんと。又曰く、郡の守、縣の令は、民の師帥(四)にして、承流(五)して宣化せしむる所なり。宜しく列侯郡守をして各〻其吏民の賢なる者を擇び、歲ごとに各〻三人を貢せしむべしと。又曰く、春秋(六)は、一統(七)を大にする者、天地の常經、古今の通誼(八)なり。今師ごとに道を異にし、人ごとに論を異にす。臣愚以爲

斷鄕曲。宗室有土公卿以下。奢侈無度。物盛而衰固其變也。帝崩。在位一十七年。有中元後元。太子立。是爲世宗孝武皇帝。

孝武皇帝

孝武皇帝。名徹。即位之元年。始改元曰建元。年有號始此。擧賢良方正直言極諫之士。親策問之。廣川董仲舒對曰。事在強勉而已矣。強勉學問。則聞見博而智益明。強勉

孝武皇帝、名は徹。即位の元年、始めて改元して建元と曰ふ。年に號有ること此に始まる○賢良方正、直言極諫の士を擧げて、親ら之を策問す。廣川の董仲舒、對へて曰く、事は強勉に在るのみ。強勉して學問すれば、即ち聞見博くして智益々明かなり。強勉して道を行へば則ち德日々に起りて大に功有りと。又曰く、人君は心を正しくして以て朝廷を正しくし、朝廷を正しくして以て百官を正しくし、百官を正しくして以て萬民を正しくし、萬民を正しくして以て四方を正しくす。四方正しくして遠近正に一ならざる莫く、而して邪氣の其間に奸する無し。是を以て陰陽調ひ、風雨時あり、羣生和して萬民殖え、諸福

自二漢興一。掃二除繁苛一。與レ民休息。孝文加以二恭儉一。至二帝遵一レ業。五六十載之閒。移レ風易レ俗。黎民醇厚。國家無事。人給家足。都鄙廩庾皆滿。而府庫餘二貨財一。京師之錢累二鉅萬一。貫朽而不レ可レ校。太倉之粟。陳陳相因。充溢露二積於外一。紅腐不レ可二勝食一。爲レ吏者長二子孫一。居レ官者以爲二姓號一。故有二倉氏庫氏一。人人自愛而重レ犯レ法。然罔疏民富。或至二驕溢一。兼幷之徒。武二

○漢興りてより、繁苛(一)を掃ひ除き、民と休息す。孝文、加ふるに恭儉を以てす、帝(二)の業を遵ぐに至り、五六十載の閒、風を移し俗を易へ、黎民(三)醇厚、國家無事、人〻給し、家〻足り、都鄙の廩庾(四)皆滿ちて、府庫、貨財を餘す。京師の錢鉅萬を累ね、貫朽(五)ちて校す可からず。太倉の粟、陳〻(六)相因り、充ち溢れて外に露積し、紅腐(七)して勝げて食ふ可からず。吏たる者は子孫を長じ、官に居る者は、以て姓號と爲す。故に倉氏・庫氏有り。人人自愛して、法を犯すことを重んず。然れども、罔疏(八)に、民富み、或は驕溢するに至り、兼幷(九)の徒、鄕曲(一〇)を武斷す。宗室・有土・公卿以下、奢侈度無し。物盛にして衰ふるは固より其變なり。帝、崩ず。在位一十七年。中元・後元有り。太子立つ。是を世宗孝武皇帝と爲す。

註 (一) 面倒にしてむごき法令 (二) 卽位す (三) 人民 (四) 米穀倉 (五) 錢を連ぬるさしも朽ちて勘定し得ず (六) 多く積みかさなりいつも下積みになつて (七) 腐りて赤くなる (八) 罔は法令なり、法令大ざつぱなり (九) 富みて他の身代をも兼ね併する者 (一〇) 威を鄕里にはしいまゝにし、勝手に事を處斷す

至レ是同反。齊王先諸後悔ニ

初文帝且レ崩。戒二太子一曰。卽有二緩急一。周亞夫眞可レ任レ將。及二七國反一。拜二亞夫大尉一。將二三十六將軍一。往擊二吳楚一。鼂錯素與二袁盎一不レ善。盎言。獨有下斬レ錯復二諸侯故地一。兵可二無レ血レ刃而罷一。錯於レ是要二斬東市一。父母妻子同產。無二少長一皆棄市。周亞夫大破二吳楚一。諸反皆平。亞夫後爲レ相。封二條侯一。以レ諫忤二上意一罷。上曰。此鞅鞅非二少主臣一。卒爲レ人誣告。下レ獄嘔レ血死。

初め文帝且に崩ぜんとするとき、太子を戒めて曰く、卽し緩急有らば、周亞夫、眞に將に任ず可しと。七國の反するに及び、亞夫を大尉に拜し、三十六將軍に將として、往きて吳・楚を擊たしむ。鼂錯、素と袁盎と善からず。盎言ふ、獨だ錯を斬り諸侯の故地を復すこと有らば、兵刃に血ること無くして罷む可しと。錯是に於て東市に要斬(一)せられ、父母妻子同產、少長と無く皆棄市せらる。周亞夫大に吳・楚を破る。諸々の反するもの皆平ぐ。亞夫後に相と爲り、條侯に封ぜらる。諫を以て上意に忤ひて罷む。上曰く、此れ鞅鞅(二)として少主の臣に非ずと。卒に人の爲に誣告(三)せられ、獄に下り血を嘔きて死す。

(一) 腰より斬ちる　(二) 不平ありてたのしまざる貌、少主は自分をいふ　(三) 惡しざまにいつはり告ぐ

時。鼂錯爲二家令一。得レ幸。太子家。號爲二智囊一。帝卽位。錯爲二內史一。數請レ閒言レ事。輒聽。寵傾二九卿一。法令多レ所二更定一。初孝文時。吳王濞太子入見。得下侍二皇太子一飲上。博爭レ道。不恭。皇太子引二博局一。提殺レ之。濞稱レ疾。不レ朝。錯數言二吳過可レ削。文帝不レ忍。及二帝卽位一。錯曰。吳王誘二天下亡人一。謀レ作レ亂。今削レ之亦反。不レ削亦反。削レ之反亟禍小。不レ削反遲禍大。上令二公卿列侯宗室雜議一。莫二敢難一。鼂錯又言。楚趙有レ罪。削二一郡一。膠西有レ姦。削二六縣一。及レ削二吳會稽豫章一。書至。吳王遂反。膠西膠東菑川濟南楚趙皆先有二吳約一。

之を殺す。濞、疾と稱して朝せず。錯、數〻吳の過削る可きを言ふ。文帝、忍びず。帝の卽位するに及び、錯曰く、吳王、天下の亡人を誘ひて、亂を作さんと謀る。今之を削るも亦反し、削らざるも亦反せん。之を削れば、反すること亟にして禍小なり。削らざれば、反すること遲くして禍大なりと。上、公卿列侯宗室をして雜り議せしむ。敢て難ずる莫し。鼂錯又言ふ、楚・趙罪有りと、一郡を削る。膠西姦有りと、六縣を削る。吳の會稽・豫章を削るに及び、書至りて吳王遂に反す。膠西・膠東・菑川・濟南・楚・趙、皆先に吳の約有り。是に至りて同じく反す。齊王は先に諾して後に悔ゆ。

㊀ ちゑ袋。其智の特にすぐれたるより此諢名を加へたる也　㊁ 帝のひまの時に種々意見を奏る　㊂ すごろくを爲して　㊃ すごろくの盤を取り

賜以二几杖一。張武受二賂金錢一。更加二賞賜一。以愧二其心一。專以レ德化レ民。當時公卿大夫。風流篤厚。恥レ言二人過一。上下成レ俗。是以海內安寧。家給人足。後世莫二能及一。葬二霸陵一。太子即位。是爲二孝景皇帝一。

とつえ。老いて朝する能はざるならんとの意にて之を賜ふ也

孝景皇帝。名啓。即位之元年。丞相申屠嘉奏。功莫レ大二於高皇帝一。宜レ爲二帝者太祖之廟一。德莫レ盛二於孝文皇帝一。宜レ爲二帝者太宗之廟一。制曰可。帝爲二太子一

孝景皇帝

孝景皇帝、名は啓。即位の元年丞相申屠嘉奏す、功は高皇帝より大なるは莫し、宜しく帝者太祖の廟と爲すべし。德は孝文皇帝より盛なるは莫し、宜しく帝者太宗の廟と爲すべしと。制して曰く可なりと○帝、太子たりし時、鼂錯、家令と爲りて、幸を得たり。太子の家、號して(一)智囊と爲す。帝即位し、錯を內史と爲す。數ゝ(二)閒を請ひて事を言ふ。輒ち聽かる。寵、九卿を傾く。法令更へ定むる所多し○初め孝文の時、吳王濞の太子入りて見え、皇太子に侍して飲むことを得たり。(三)博して道を爭ひ、不恭なり。皇太子、(四)博局を引き、提げて

及棘門軍。直馳入。大將以下騎送迎。已而之細柳。不得入。先驅曰。天子且至。軍門都尉曰。軍中聞將軍令。不聞天子詔。上乃使使持節詔將軍。亞父乃傳言開門。門士請車騎曰。將軍約。軍中不得驅馳。上乃按轡。徐行至營。成禮而去。羣臣皆驚。上曰。嗟乎此眞將軍矣。向者霸上棘門軍兒戲耳。

七年。帝崩。在位二十三年。宮室苑囿車騎服御。無所增益。嘗欲作露臺。召匠計之。直百金。上曰。中人十家之產也。何以臺爲。身衣弋綈。所幸愼夫人。衣不曳地。示朴爲天下先。吳王不朝。

○七年、帝崩ず。在位二十三年。宮室苑囿車騎服御(一)、增益する所無し。嘗て露臺(二)を作らんと欲し、匠を召して之を計らしむ。直百金なり。上曰く、中人十家の產也、何ぞ臺を以て爲さんと。身、(三)弋綈を衣、幸する所の愼夫人、衣、地に曳かず。(四)朴を示して天下の先と爲る。吳王朝せず。賜ふに几(五)杖を以てす。張武賂の金錢を受く。更に賞賜を加へて、以て其心を愧ぢしむ。專ら德を以て民を化す。當時の公卿大夫、風流篤厚にして、人の過を言ふことを恥ぢ、上下俗を爲す。是を以て海內安寧、家々給し人々足り、後世能く及ぶ莫し。霸陵に葬る。太子卽位す。是を孝景皇帝と爲す。

(一) 衣服諸調度 (二) 臺上に屋根なきをいふ (三) 黑き毛をりの衣服 (四) 質朴のてほんを天下に示す (五) 脇息

緹縈上書曰。死者不可復生。刑者不可復屬。願沒入爲官婢。以贖父刑。上憐其意。詔除肉刑。是歲除田之租稅。十六年。方士新垣平爲上大夫。後元年(平)以詐伏誅。六年匈奴寇上郡雲中。詔將軍周亞夫。屯細柳。劉禮次霸上。徐厲次棘門。以備胡。上自勞軍。至霸上

○六年、匈奴、上郡の雲中に寇す。將軍周亞夫に詔して、細柳に屯し(六)、劉禮は霸上に次し(七)、徐厲は棘門に次して、以て胡に備へしむ。上、自ら軍を勞ひて、霸上及び棘門の軍に至り、直に馳せ入る。大將以下の騎、送迎す。已にして細柳に之く。入ることを得ず。先驅曰く、天子且に軍門に至らんとす。都尉曰く、軍中は將軍の令を聞く、天子の詔を聞かずと。上、乃ち使をして節(八)を持して、將軍亞夫に詔せしむ。乃ち言を傳へて門を開かしむ。門士、車騎に請ひて曰く、將軍約せり、軍中は驅馳することを得ずと。上、乃ち轡(九)を按じ、徐行して營に至り、禮を成して去る。羣臣皆驚く。上曰く、嗟乎此れ眞の將軍なり。向者の霸上・棘門の軍は兒戲のみと。

(一) 母方のをぢ　(二) 喪服して昭の邸に至りて慟哭せしむ。罪の免るべからざるを示し、以て昭に自殺を諷せし也　(三) 首をつぐことが出來ず　(四) 官に沒收する意　(五) 肉體生命にかゝる刑　(六) 兵を留むる事　(七) 兵の宿するをいふ　(八) 天子の使節たるしるし　(九) たづなを引きしめて

廷尉以レ法奏レ之。非下吾所三以共二奉宗廟一意上也。釋之曰。盜二宗廟器一而族レ之。假令愚民取二長陵一抔土一。何以加二其法一乎。帝許レ之。六年。淮南厲王長謀レ反。廢徙死。民有二歌レ之者一曰。一尺布尙可レ縫。一斗粟尙可レ舂。兄弟二人不二相容一。帝聞而病レ之。後封二其四子一爲レ侯。匈奴冒頓死。先レ是上議以二賈誼一位二公卿一。大臣多短レ之。上以爲二長沙王大傅一。徙二梁王大傅一。上疏曰。方今事勢。可二爲痛哭一者一。可二爲流涕一者二。可二爲長大息一者六。

(一)引き渡す　(二)さきばらひ、天子入る時人を制するを蹕といふ　(三)法を司りて公平なるべきもの也　(四)殺して屍を市に曝す事　(五)三族をも亡す刑　(六)敬ひつかふ　(七)高祖の墓　(八)勢に同じ

十年。帝舅薄昭殺二漢使者一。帝不レ忍レ誅。使二公卿群臣往哭一レ之。昭自殺。十二年。賜二民今年田租半一。十三年。大倉令淳于意有レ罪當レ刑。少女

〇十年、帝の舅(一)、薄昭、漢の使者を殺す。帝、誅するに忍びず。公卿羣臣をして往(二)いて之を哭せしむ。昭、自殺す〇十二年、民に今年の田租の半を賜ふ〇十三年、大倉の令淳于意、罪有りて刑に當る。少女緹縈、上書して曰く、死者は復び生く可からず、刑者は復び屬ぐ(三)可からず。願はくは、沒入(四)して官婢と爲りて、以て父の刑を贖はんと。上、其意を憐み、詔して肉刑を除く(五)〇是歲、田の租稅を除く〇十六年、方士新垣平、上大夫と爲る〇後元年、平、詐を以て誅に伏す。

馬驚。捕屬二廷尉一。釋之奏。犯レ蹕當二罰金一。上怒。釋之曰。法如レ是。更重レ之。是法不レ信二於民一。廷尉天下之平也。一傾。天下用レ法皆爲レ之輕重。民安所レ措二手足一乎。上良久曰。廷尉當是也。其後人有レ盜二高廟玉環一。得下二廷尉一治。釋之奏。當二棄市一。上大怒曰。人盜二先帝器一。吾欲レ致二之族一。而

の法を用ふるもの皆之が爲に輕重せん。民安んぞ手足を措く所あらんやと。上良久しくして曰く、廷尉の當、是也と。其後、人高廟の玉環を盜む有り。得て廷尉に下して治す。釋之、奏す、棄市(四)に當ると。上、大に怒りて曰く、人、先帝の器を盜む。吾、之を族(五)に致さんと欲す。而るに廷尉、法を以て之を奏す。吾が宗廟に共奉する所以の意に非ず。釋之曰く、宗廟の器を盜みて、之を族せば、假令に愚民(六)長陵(七)一抔の土を取らば、何を以て其法を加へんやと。帝之を許す○六年、淮南の厲王長、反を謀り、廢し徙されて死す。民に之を歌ふ者有り。曰く、一尺の布尚縫ふ可し、一斗の粟尚舂く可し、兄弟二人相容れずと。帝、聞きて之を病ひ、後其四子を封じて侯と爲す。匈奴の冒頓死す○是より先、上、議して賈誼を以て公卿に位せしめんとす。大臣多く之を短る。上、以て長沙王の大傅と爲し、梁王の大傅に徙す。上疏して曰く、方今の事勢(八)、爲に痛哭す可き者一、爲に流涕す可き者二、爲に長大息す可き者六なりと。

天下一歲決獄幾何。勃謝不知。又問。一歲錢穀出入幾何。勃又謝不知。惶愧汗出沾背。上問左丞相平。平曰。有主者。卽問決獄責廷尉。問錢穀責治粟内史。上曰。君所主者何事。平謝曰。陛下使待臣宰相。宰相者上佐天子理陰陽順四時。下遂萬物之宜。外鎭撫四夷。内親附百姓。使卿大夫各得其職焉。帝稱善。勃大慙。謝病免。河南守吳公。治平爲天下第一。召爲廷尉。吳公薦洛陽人賈誼。年二十餘。一歲中。超遷爲大中大夫。

廷尉と爲す。吳公、洛陽の人賈誼を薦む。年二十餘。一歲の中に、超遷(一〇)して大中大夫と爲る。

(一) 天子の旗 (二) 巡守卽ち太平の時のみゆき (三) 軍の時のみゆき、親征也 (四) 道中の費用 (五) 裁判事件 (六) 秦漢の官名にして刑事を司る者 (七) 金穀の出納を司る者 (八) 四方のえびす (九) 病と申立て、辭任す (一〇) 階を經ずに昇進する事

陳平卒。二年。賜天下今年田租之半。三年。張釋之爲廷尉。上行中渭橋。有一人。橋下走。乘輿

〇陳平卒す。二年、天下に今年の田租の半を賜ふ〇三年、張釋之、廷尉と爲る。上、中渭橋に行く。一人有り、橋下に走る。乘輿の馬驚く。捕へて廷尉に屬す(一)。釋之、奏す、蹕(二)を犯すは罰金に當ると。上、怒る。釋之曰く、法、是の如し。更に之を重くせば、是れ法民に信ならず。廷尉は天下の平(三)なり。一たび傾かば天下

帝。帝立。尊爲皇太后。元年。陳平爲左丞相。周勃爲右丞相。時有獻千里馬者。帝曰。鸞旗在前。屬車在後。吉行日五十里。師行日三十里。朕乘千里馬。獨先安之。於是還其馬。與道里費。而下詔曰。朕不受獻也。其令四方。毋來獻。帝益明習國家事。朝而問右丞相勃曰

る○時に千里の馬を獻ずる者有り。帝曰く、鸞旗（一）前に在り、屬車後に在り。吉行（二）には日に五十里、師行（三）には日に三十里、朕千里の馬に乘りて、獨り先づ安にか之かんと。是に於て其馬を還し、道里（四）の費を與ふ。而して詔を下して曰く、朕は獻を受けず。其れ四方に令して、來り獻ずる毋からしめよと○帝、益ゝ國家の事を明習す。朝にして右丞相勃に問ひて曰く、天下一歳の決獄（五）幾何ぞ。勃、知らずと謝す。又問ふ、一歳の錢穀の出入幾何ぞ。勃又知らずと謝し、惶れ愧ぢ、汗出でゝ背を沾す。上、左丞相平に問ふ。平曰く、主者有り、卽し決獄を問はば廷尉（六）を責めよ。錢穀を問はゞ治粟内史（七）を責めよ。上曰く、君の主る所の者は何事ぞ。平、謝して曰く、陛下、臣を宰相に待たしむ。宰相は、上は天子を佐けて、陰陽を理め、四時を順にし、下は萬物の宜しきを遂げしめ、外は四夷（八）を鎭撫し、内は百姓を親附し、卿大夫をして各ゝ其職を得しむと。帝善しと稱す。勃大に愧ぢ、病（九）を謝して免る○河南の守吳公、治平天下第一たり。召して

予二者也。八年。大后崩。諸呂欲レ爲レ亂。時呂祿將二北軍一。呂産將二南軍一。大尉勃不レ能レ主レ兵。平勃使二酈寄說レ祿、解レ印以レ兵授レ勃。勃入二軍門一。令曰。爲二呂氏一者右袒。爲二劉氏一者左袒。軍中皆左袒。召二朱虚侯劉章一。予二卒千餘人一。擊二呂産一殺レ之。分レ部悉捕二諸呂一。無二少長一皆斬レ之。諸大臣迎二立代王恆一。王西鄉讓者三。南鄉讓者再。遂即レ位。誅二子弘等一。赦二天下一。是爲二太宗孝文皇帝一。

皆左袒す。朱虚侯劉章を召して、卒千餘人を予へ、呂産を撃ちて之を殺さしめ、部を分ちて悉く諸呂を捕へ、少長と無く皆之を斬る。諸大臣、代王恆を迎へ立つ。王、(四)西鄉して讓る者三たび、(五)南鄉して讓る者再び、遂に位に卽く。子弘等を誅し、天下に赦す。是を太宗孝文皇帝と爲す。

(一) 白馬を殺し其血をすゝりて盟ふ (二) おしこめ殺す (三) 右のはだを脫ぐ (四) 西に向くなり、群臣を見るに賓客の主人に對する禮を以てして帝位を辭せし也 (五) 既に帝位を卽きてなほ讓らん事を乞ひし也

孝文皇帝名恆。母薄氏。夢二龍據レ胸。遂生レ

孝文皇帝

孝文皇帝、名は恆。母は薄氏、龍胸に據ると夢みて、遂に帝を生む。帝立ち、尊びて皇太后と爲す○元年、陳平、左丞相と爲り、周勃、右丞相と爲

爲レ相。較若二畫一。曹參代レ之。守而勿レ失。載其淸淨。民以寧壹。五年曹參卒。六年王陵爲二右丞相一。陳平爲二左丞相一。張良卒。周勃爲二大尉一。帝在位七年崩。無レ子。呂太后取二他人子一。以子二太子一。至レ是卽レ位。太后臨レ朝稱レ制。

を斷ちたる形豚に類するを以て人の豚と爲る也。之を圏中に置くは、豚が人糞を好み食ふを以てならん ㊄ 家臣に急ぎ出發の準備をなさしむ ㊅ 明かなること一を畫するが如し ㊆ 事に同じ ㊇ 安寧

元年太后議下立二諸呂一爲上レ王。王陵曰。高帝刑二白馬一盟曰。非二劉氏一而王。天下共擊レ之。平勃以爲レ可。陵罷レ相。遂王二呂氏一。四年。太后廢二少帝一。幽二殺之一。立二恆山王義一爲レ帝。改二名弘一。亦名二佗人子一。爲二惠帝

○元年、太后、諸呂を立てゝ王と爲さんと議す。王陵曰く、高帝、白馬を刑して(一)盟ひて曰く、劉氏に非ずして王たらば、天下共に之を擊てと。平・勃は以て可なりと爲す。陵、相を罷めらる。遂に呂氏を王とす。四年、太后、少帝を廢して之を(二)幽殺し、恆山王義を立てゝ帝と爲し、名を弘と改む。亦佗人の子を名けて、惠帝の子と爲しゝ者也○八年、太后崩ず。諸呂、亂を爲さんと欲す。時に呂祿、北軍に將とし、呂產、南軍に將として、大尉勃は兵を主ること能はず。平・勃、酈寄をして祿に說かしめ、印を解き兵を以て勃に授けしむ。勃、軍門に入り、令して曰く、呂氏の爲にせん者は右袒せよ(三)。劉氏の爲にせん者は左袒せよと。軍中

孝惠皇帝。名盈。母呂太后。卽位之元年。呂后鴆二殺趙王如意一。斷二戚夫人手足一。去レ眼煇レ耳。飮二瘖藥一。使レ居二廁中一。命曰二人彘一。召レ帝觀之。帝驚大哭。因病。歲餘不レ能レ起。二年。蕭何卒。齊相曹參。令二舍人趣爲一レ裝。吾且二入相一。使者果召レ參。代レ何爲二相國一。一遵二何約束一。百姓歌レ之曰。蕭何

孝惠皇帝、名は盈、母は呂太后なり。卽位の元年、呂后、趙王如意を鴆殺し、(一)戚夫人の手足を斷ち、眼を去り耳を煇し、(二)瘖藥を飮ましめて、(三)廁中に居らしめ、命けて人彘と曰ひ、(四)帝を召して之を觀しむ。帝驚きて大に哭し、因りて病む。歲餘まで起つこと能はず○二年、蕭何卒す。齊の相曹參、(五)舍人をして趣かに裝をなさしむ、吾且に入りて相たらんとすと。使者果して參を召す。何に代りて相國と爲り、一に何の約束に遵ふ。百姓之を歌ひて曰く、蕭何の相と爲る、(六)較として畫一の若し。曹參之に代り、守りて失ふこと勿し。(七)載其れ清淨。民以て(八)寧壹なりと○五年、曹參卒す○六年、王陵、右丞相と爲り、陳平、左丞相と爲る○張良卒す○周勃、大尉と爲る○帝、在位七年にして崩ず。呂太后他人の子を取りて以て太子と爲す。是に至りて位に卽く。太后、朝に臨みて制を稱す。

(一) 鴆といふ鳥の羽を浸したる毒酒にて殺す (二) 耳をくすべて聾となす (三) 啞になる藥 (四) 彘は豚也、手足

廷尉一械二繫之一。數日而赦レ之。上擊レ布。中二流矢一。疾甚。呂后問。陛下百歲後。蕭相國死。誰可レ代レ之。曰。曹參。其次。曰。王陵。然少戇。陳平可二以助一レ之。平智有レ餘。然難二獨任一。周勃重厚少レ文。可レ令レ爲二大尉一。安二劉氏一者必勃也。復問二其次一。上曰。此後亦非二乃所一レ知也。上崩。葬二長陵一。爲二漢王一者四年。爲レ帝者八年。凡十二年。太子盈立。是爲二孝惠皇帝一。

陛下百歲の後(二)、蕭相國死せば、誰か之に代ふ可き。曰く、曹參。其次は。曰く、王陵。然れども少しく戇(三)なり。陳平、以て之を助く可し。平、智餘り有り。然れども獨り任じ難し。周勃は(四)重厚にして文少し。大尉たらしむ可し。劉氏を安んずる者は必ず勃ならんと。復た其次を問ふ。上曰く、此後は(五)亦乃の知る所に非ざる也と○上崩ず。長陵に葬る。漢王たる者四年。帝たる者八年。凡て十二年なり。太子盈立つ。是を孝惠皇帝と爲す。

(一) 浮かせ•足かせにていましむ　(二) 崩御の後　(三) 愚直なり　(四) 性質重々しくして眞實あり　(五) これより後は汝もまた知らん、故に知るところにあらずと也

孝惠皇帝

高二此四人一。令三太子。爲レ書卑レ詞。安車固請。宜レ來。至以爲レ客。時從入朝。令二上見一レ之。則一助也。呂后使下人奉二太子書一招上レ之。四人至。帝擊レ布還。愈欲レ易二太子一。後置酒。太子侍。其所レ招四人者從。年皆八十餘。鬚眉皓白。衣冠甚偉。上怪問レ之。四人前對各言二姓名一。上大驚曰。吾求レ公數歲。公避二逃我一。今何自從二吾兒一游乎。四人曰。陛下輕レ士善罵。臣等義不レ辱。今聞二太子仁孝恭敬愛一レ士。天下莫乙不下延レ頸願中爲二太子一死上者甲。故臣等來耳。上曰煩レ公。幸卒調護。四人出。上召二戚夫人一。指二示之一曰。我欲レ易レ之。彼四人者輔レ之。羽翼已成。難レ動矣。

く、我之を易へんと欲するも、彼の四人の者之を輔く。羽翼已に成りて、動かし難しと。

㊀牛・羊・豚の犧牲を供へて祭る　㊁大風は帝自身をいひ雲は亂に喩ふ。威海内に振へるを以て益々賢才勇士を得て四方を守らせたきもの也との意　㊂帝の沐浴の費用を課する地　㊃仁心深すぎて弱し　㊄强ひて求む　㊅召致　㊆あなどりかろんず　㊇蒲を以て輪を包み、乘心地よくしたる車　㊈鬚も眉も眞白なること　㊉多也、屢々なり　(一一)保護

蕭何以三長安地陿。上林中多二空地棄一。請三令レ民得二入田一。上大怒。下二何

蕭何、長安の地陿く、上林の中、空地の棄てられたる多きを以て、民をして入りて田つくるを得しめんと請ふ。上、大に怒り、何を廷尉に下して之を械繫す。(一)數日にして之を赦す○上、布を擊ちしとき、流矢に中りて、疾甚し。呂后問ふ、

湯沐邑。初戚姬有レ寵。生二趙王如意一。呂后見レ疏。太子仁弱。上以二如意類一レ己。欲下廢二太子一而立上レ之。羣臣爭レ之皆不レ能レ得。呂后使下人彊二要張良一畫上レ計。良曰。此難下以二口舌一爭上也。顧上所レ不レ能レ致者四人。曰二東園公。綺里季。夏黃公。角里先生一。以三上嫚二侮士一故。逃二匿山中一。義不レ爲二漢臣一。上

夏黃公・甪里先生と曰ふ。上が士を嫚侮するを以ての故に、山中に逃れ匿れ、義として漢の臣たらず。上此四人を高しとす。(七)今太子をして、書を爲り詞を卑くし、(八)安車もて固く請はしめば宜しく來るべし。至らば以て客と爲し、時々從へて入朝し、上をして之を見しめば、則ち一助ならんと。呂后人をして太子の書を奉じて之を招かしむ。四人至る。帝、布を擊ちて還り、愈々太子を易へんと欲す。後置酒す。太子侍す。良が招く所の四人の者從ふ。年皆八十餘、(九)鬚眉皓白、衣冠甚だ偉なり。上、怪みて之を問ふ。四人前み對へて、各々姓名を言ふ。上大に驚きて曰く、吾、公を求むること數歲なるに、公、我を避け逃る。今何に自り吾が兒に從ひて遊ぶや。四人曰く、陛下士を輕んじて善く罵る。(一〇)臣等義として辱められず。今太子の仁孝恭敬にして士を愛するを聞き、天下頸を延べて太子の爲に死せんことを願はざる者莫し。故に臣等來れるのみ。上曰く、公を煩はさん、幸に卒に調護せよと。(一一)四人出づ。上、戚夫人を召し、之を指し示して曰

文武竝用。長久之術也。使下秦幷二天下一。行二仁義一。法中先聖上。陛下安得レ有レ之。帝曰。試爲レ我著レ書。秦所二以失一。吾所二以得一。及古成敗。賈著二書十二篇一。每レ奏稱レ善。號曰二新語一。淮南王黥布。見下帝殺二韓信一。醢中彭越上。以二同功一體之人一。自疑二禍及一。遂反。帝自將擊レ之。

の意にて新語と命じたる也　㊃　力を協せて働き、同じく功を立てたる人

十二年。帝破レ布還。過レ魯。以二太牢一祠二孔子一。過レ沛置酒。召二宗室故人一飲。酒酣上自歌曰。大風起兮雲飛揚。威加二海内一兮歸二故鄕一。安得二猛士一兮守二四方一。令三沛中子弟習二歌之一。以レ沛爲二

○十二年、帝、布を破りて還るとき、魯を過ぎ、太牢(一)を以て孔子を祠り、沛に過りて置酒し、宗室故人を召して飲む。酒酣にして、上自ら歌ひて曰く、大風(二)起りて雲飛揚す、威海内に加りて故郷に還る。安んぞ猛士を得て四方を守らしめんと。沛中の子弟をして、之を習ひ歌はしめ、沛を以て湯沐(三)の邑と爲す○初め戚姫寵有り。趙王如意を生む。呂后疏んぜられ、太子仁弱(四)なり。上、如意の己に類せるを以て、太子を廢して之を立てんと欲す。羣臣之を爭へども、皆得ること能はず。呂后人をして張良(五)を彊要して畫計せしむ。良曰く、是れ口舌を以て爭ひ難し。顧ふに、上(六)の致すこと能はざる所の者四人あり。東園公・綺里季・

僕。告二其將扈
輒勸レ越反。上
使二人掩レ越囚レ
之。反形已具。
赦處レ蜀。呂后
曰。此自遺レ患。
遂誅レ之。夷二三
族一。遣二陸賈一。立二
南海尉佗一。爲二
南粤王一。佗稱レ
臣。奉二漢約一。賈
歸報。拜二太中
大夫一。賈時前
說二詩書一。帝罵レ
之曰。乃公馬
上得二天下一。安
事二詩書一。賈曰。
陛下以二馬上一
得レ之。寧可下以二
馬上一治上レ之乎。

ひて之を囚へしむ。(三)反形已に具はる。赦して蜀に處らしむ。呂后曰く、此れ自ら患を遺すなりと。遂に之を誅し、三族を夷す〇陸賈を遣はし、南海の尉佗を立てゝ南粤王と爲す。佗、臣と稱し、漢の約を奉ず。賈、歸り報ず。太中大夫に拜す。賈、時に前みて詩書を說く。帝之を罵りて曰く、乃公、馬上に天下を得たり、安んぞ詩書を事とせん。賈曰く、陛下、馬上を以て之を得たるも、寧んぞ馬上を以て之を治む可けんや。文武並び用ふるは、長久の術也。秦をして、天下を幷せて、仁義を行ひ、先聖に法らしめば、陛下、安んぞ之を有つことを得んや。帝曰く試みに我が爲に書に著せ、秦の失ひし所以、吾の得し所以、及び古の成敗をと。賈、書十二篇を著す。奏する每に善しと稱す。號して新語(四)と曰ふ〇淮南王黥布、帝の韓信を殺し、彭越を醢にせしを見、同功(五)一體の人なるを以て、自ら禍の及ばんことを疑ひ、遂に反す。帝自ら將として之を擊つ。

(一) 群僕侍御を正すことを主る役　(二) 不意を襲ふ　(三) むほんの形跡　(四) 帝は平生未だ嘗てこの言を聞かずと

凡六出二奇計一。輒益二封邑一。九年。遣二劉敬一使三匈奴一和親。取二家人子一。名二公主一。妻二單于一。十年。代相國陳豨反。帝自將擊レ之。淮陰侯韓信舍人弟上レ變。告二信陰與レ豨謀一。呂后與二蕭何一謀。詐稱二豨已敗死一。紿レ信入賀。使二武士縛レ信斬一レ之。信曰。吾悔レ不レ用二蒯徹之謀一。乃爲二兒女子所一レ詐。遂夷二信三族一。十一年。帝破レ豨還。詔捕二蒯徹一。至曰。秦失二其鹿一。天下共逐。高材疾足者先得レ之。當時臣獨知二韓信一。非レ知二陛下一。天下欲下爲二陛下所一上レ爲者甚衆。力不レ能耳。又不レ可二盡烹一邪。帝赦レ之。

縛せしめて之を斬る。信曰く、吾悔ゆらくは、蒯徹の謀を用ひず、乃ち兒女子の爲に詐はらると。遂に信の三族を夷す○十一年、帝、豨を破りて還り、詔して蒯徹を捕ふ。至れば曰く、秦其鹿を失して、(六)天下共に逐ふ。(七)高材疾足の者先づ之を得たり。當時、臣獨り韓信を知れる。陛下を知るに非ず。(八)天下、陛下の爲す所を爲さんと欲する者甚だ衆からん。力、能はざるのみ。又盡く烹る可から(九)ざるかと。帝之を赦す。

㊀ 匈奴の天子の名　㊁ 匈奴の皇后　㊂ 帝王の女の稱　㊃ 家臣　㊄ 大事變ありと上告す　㊅ 鹿は中原の鹿、即ち帝位をさす　㊆ 才能すぐれたる者　㊇ 天下を取らんと欲する者　㊈ 原文「不」字衍ならん

梁王彭越太

○梁王彭越の太僕(一)、其將扈輒、越を勸めて反せしむと告ぐ。上、人をして越を掩(二)

成。諸侯羣臣皆朝賀。謁者治禮。引諸侯王以下至吏六百石。以次奉賀。莫不振恐肅敬。禮畢置法酒。御史執法。擧不如儀者輒引去。竟朝置酒。無敢讙譁失禮者。上曰。吾乃今日知爲皇帝之貴也。拜通爲太常。

以て、その學者を招かんと也 (六) 縣は繩張りして習禮の場所の境界を示すこと、蕝は草を束ね立てゝ位次を示すこと (七) 宮中に在りて賓客を掌る官 (八) ふるひ恐れ、つゝしみ敬ふ (九) 禮酌 (十) 罰を掌る官

匈奴寇邊。帝自將擊之。聞冒頓單于居代谷。悉兵三十萬。北逐之。至平城。冒頓精兵四十萬騎。圍帝於白登七日。用陳平祕計。使閒厚遺閼氏。冒頓乃解圍去。平從帝征伐。

○匈奴邊に寇す。帝自ら將として之を擊つ。冒頓單于(一)の代谷に居るを聞き、兵三十萬を悉して、北して之を逐ひ、平城に至る。冒頓の精兵四十萬騎、帝を白登に圍むこと七日。陳平の祕計を用ひ、閒を使はして厚く閼氏に遺る。冒頓乃ち圍を解きて去る。平、帝に從ひて征伐し、凡そ六たび奇計(二)を出す。輒ち封邑を益す○九年、劉敬を遣し、匈奴に使して和親せしめ、家人の子を取りて、公主(三)と名づけ、單于に妻はす○十年、代の相國陳豨反す。帝自ら將として之を擊つ。淮陰侯韓信の舍人の弟、變を上り、信、陰に豨と謀るを告ぐ。呂后、蕭何と謀り、詐り(四)て豨已に敗死(五)すと稱し、信を紿きて入りて賀せしめ、武士をして信を

尊二太公一爲二太上皇一。帝懲二秦苛法一。爲二簡易一。羣臣飮レ酒。爭レ功。醉或妄呼。拔レ劍擊レ柱。叔孫通說レ上曰。儒者難二與進取一。可二與守一レ成。願徵二魯諸生一。共起二朝儀一。上從レ之。魯有二兩生一。不二肯行一曰。禮樂積レ德而後可レ與也。通與二所レ徵及上左右一。與二弟子百餘人一。爲二緜蕝野外一。習レ之。七年。長樂宮

○太公を尊びて太上皇と爲す○帝、秦の苛法に懲り、簡易を爲す。(一)羣臣、酒を飮み、功を爭ひ、醉ひて或は妄呼し、(二)劍を拔きて柱を擊つ。叔孫通、上に說きて曰く、儒者は與に進み取り難く、與に成るを守る可し。(三)願はくは魯(四)の諸生を徵して、共に朝儀を起さんと。上之に從ふ。魯に兩生有り、肯て行かずして曰く、禮樂は德を積みて後興す可き也と。通、徵す所及び上の左右と、弟子百餘人と、緜蕝(五)を野外に爲りて之を習はす○七年、長樂宮成る。諸侯羣臣皆朝賀す。謁者(六)禮を治め、諸侯王以下吏六百石に至るまでを引きて、次を以て奉賀せしむ。振(七)恐肅敬せざる莫し。禮畢りて法酒(八)を置き、御史(九)、法を執り、儀の如くならざる者を擧げて趣かに引き去らしむ。朝を竟へ酒を罷むるまで、敢て諠譁し、禮を失する者無し。上曰く、吾乃ち今日皇帝たるの貴きを知れりと。通を拜して太常と爲す。

(一) 簡單なる法令を布く　(二) みだりに呼びさわぐ　(三) 已に出來たる事を守る　(四) 魯は古より禮樂の國なるを

得二走獸一耳。功狗也。至レ如二蕭何一功人也。羣臣皆莫二敢言一。上已封二大功臣一。餘爭レ功不レ決。上從二複道上一望見。諸將往往坐二沙中一。相與語。上問二張良一。良曰。陛下以二此屬一取二天下一。今所レ封皆故人親愛。所レ誅皆平生仇怨。此屬畏レ不レ能二盡封一。又恐下見レ疑二平生過失一及中誅上。故相聚謀レ反耳。上曰奈何。良曰。陛下平生所レ憎。羣臣所二共知一。誰最甚者。上曰雍齒。良曰急先封レ齒。於レ是封レ齒爲二什方侯一。而急趣二丞相御史一。定レ功行レ封。羣臣皆喜曰。雍齒且侯。吾屬無レ患矣。詔定二元功十八人位次一。賜二丞相何。劍履上レ殿。入朝不レ趨。

畏れ、又平生の過失を疑はれ、誅に及ばんを恐る。故に相聚りて反を謀るのみ。上曰く、奈何せん。良曰く、陛下の平生憎む所にして、羣臣の共に知る所は、誰か最も甚しき者ぞ。上曰く、雍齒なり。良曰く、急に先づ齒を封ぜよと。是に於て齒を封じて什方侯と爲し、而して急に丞相御史を趣して、功を定め封を行はしむ。羣臣皆喜びて曰く、雍齒すら且侯たり。吾が屬、患無しと。詔して元功十八人の位次を定め、丞相何に、劍履のまゝ殿に上り、(五)入朝して趨らざるを賜ふ。

(一) 符は(ワリフ)也、諸侯を封ずる時兩分して一半は證としてその人に與へ、一半は官に藏す　(二) 堅甲をつけ利刀を持ちて　(三) 犬を放ちて指嗾す　(四) 上下二重の廊下　(五) 朝廷にて疾行するに及ばずといふ特典

將レ兵多少。上曰如レ我能將二幾何一。信曰陛下不レ過レ將二十萬一。上曰於レ君何如。曰臣多多益辨。上笑曰。多多益辨。何以爲レ我禽。曰陛下不レ能レ將レ兵。而善將レ將。此信所下以爲二陛下一禽上。且陛下所レ謂天授。非二人力一也。

剖レ符封二功臣一。鄼侯蕭何食邑獨多。功臣皆曰。臣等被レ堅執レ鋭。多者百餘戰。少者數十合。蕭何未三嘗有二汗馬之勞一。徒持二文墨一議論。顧反居二臣等上一何也。上曰。諸君知レ獵乎。逐二殺獸一者狗也。發縦指示者人也。諸君徒能

○(一)符を剖きて功臣を封ずるに、鄼侯蕭何、食邑獨り多し。功臣皆曰く、臣等、(二)堅を被り鋭を執り、多き者は百餘戰、少き者も數十合。蕭何は未だ嘗て汗馬の勞有らず、徒らに文墨を持して議論し、顧反て臣等の上に居るは何ぞや。上曰く、諸君、獵を知れりや。獸を逐ひ殺す者は狗也。(三)發縦し指示する者は人也。諸君は徒だ能く走獸を得しのみ、功は狗なり。蕭何の如きに至りては、功は人也と。羣臣皆敢て言ふ莫し○上、已に大功の臣を封ず。餘は功を爭ひて決せず。上、(四)複道の上より望み見るに、諸將、往往沙中に坐して、相與に語る。上、張良に問ふ。良曰く、陛下、此屬を以て天下を取る。今封ずる所は、皆故人の親愛にして、誅する所は、皆平生の仇怨なり。此屬、盡く封ぜらるゝ能はざらんことを

侯。陛下第出僞二遊雲夢一。會二諸侯於陳一。因禽レ之。一力士之事耳。上從レ之。告二諸侯一。會レ陳。吾將遊二雲夢一。至レ陳。信上謁。命二武士一縛レ信載二後車一。信曰果若二人言一。狡兎死走狗烹。飛鳥盡良弓藏。敵國破謀臣亡。天下已定。臣固當レ烹。遂械繫以歸。赦爲二淮陰侯一。上嘗從容問二信諸將能

よ、吾將に雲夢に遊ばんとすと。陳に至る。信、上謁す。武士に命じて信を縛せしめ、後車に載す。信曰く、果して人の言の若し。(二)狡兎死して走狗烹られ、(三)飛鳥盡きて良弓藏れ、(四)敵國破れて謀臣亡ぶと。天下已に定まる。臣固に當に烹らるべしと。(五)遂に械繫して以て歸り、赦して淮陰侯と爲す。上、嘗て從容として、信に、諸將の能く兵に將たる多少を問ふ。上曰く、我の如きは能く幾何に將たらん。信曰く、陛下は十萬に將たるに過ぎず。上曰く、君に於ては何如。曰く、臣は(六)多多益〻辨ず。上笑ひて曰く、多多益〻辨ぜば、何を以て我が爲に禽にせられしか。曰く、陛下は兵に將たる能はざれども、而も善く將に將たり。此れ信の陛下の爲に禽にせられし所以なり。且陛下は所謂天授にして、人力に非ざる也と。

(一) 天子諸侯の守る所を巡りて其治績を考ふる也　(二) すばしこき兎を捕へ了れば、それに功ある犬はもはや用なきを以て煮られて了ふ　(三) 鳥をかり盡せば、よき弓も不用としてしまひこまる　(四) 敵國が破るれば、謀臣も無用として殺さる　(五) 手かせ足かせにていましめて　(六) 多ければ多き程よく處理し得となり

此。良如期往。老人已先在。怒曰。與長者期後何也。復約五日。及往。老人又先在。怒復約五日。良半夜往。老人至。乃喜。授以一編書曰。讀此可爲帝者師。異日見濟北穀城山下黃石。卽我也。且視之。乃太公兵法。良異之。晝夜習讀。旣佐上定天下。封功臣。使良自擇齊三萬戶。良曰。臣初與陛下遇於留。此天以臣授陛下。封留足矣。後經穀城。果得黃石焉。奉祠之。

自ら齊の三萬戶を擇ばしむ。良曰く、臣初め陛下と留に遇ふ。此れ天の臣を以て陛下に授けしなり。留に封ぜられば足れりと。後、穀城を經て、果して黃石を得たり。之を奉祠す。

(一)病なりと申立てゝ引き籠り、穀物を避けて道引の術を行ふ也　(二)布衣の者としての出世の極點　(三)仙人の名　(四)土橋のほとり　(五)期して此處に來りて遇へと也

六年。人有上書告楚王韓信反。諸將曰。發兵阬孺子耳。上問陳平。平危之曰。古有巡守會諸

〇六年、人の上書して楚王韓信叛すと告ぐるもの有り。諸將曰く、兵を發して孺子を阬にせんのみと。上、陳平に問ふ。平、之を危みて曰く、古へ(二)巡守して諸侯を會すること有り。陛下、第だ出でゝ雲夢に僞り遊び、諸侯を陳に會し、因りて之を禽にせば、一力士の事のみと。上、之に從ひ、諸侯に告ぐ、陳に會せ

留侯張良謝レ病。辟レ穀曰。家世相レ韓。韓滅爲レ韓報レ讎。今以二三寸舌一。爲二帝者師一。封二萬戸侯一。此布衣之極。願棄二人間事一。從二赤松子一遊耳。良少時。於二下邳圯上一。遇二老人一。墮二履圯下一。謂レ良曰。孺子下取レ履。良欲レ毆レ之。憫二其老一。乃下取レ履。老人以レ足受レ之曰。孺子可レ敎。後五日與レ我期二於

○留侯張良、(一)病を謝し、穀を辟けて曰く、家、世ゝ韓に相たり。韓滅び、韓の爲に讎を報ず。今三寸の舌を以て、帝者の師と爲り、萬戸侯に封ぜらる。此れ布衣の極なり。願はくは人間の事を棄てゝ、(三)赤松子に從ひて遊ばんのみと。良、(二)少き時、下邳の(四)圯上に於て、老人に遇ふ。履を圯下に墮す。良に謂ひて曰く、孺子下りて履を取れと。良之を毆たんと欲すれども、其老いたるを憫み、乃ち下りて履を取る。老人、足を以て之を受けて曰く、孺子、敎ふ可し。後五日、我と(五)此に期せよと。良、期の如く往く。老人、已に先づ在り。怒りて曰く、長者と期して、後るゝは何ぞやと。復た五日を約す。往くに及び、老人、又た先づ在り。怒りて、復た五日を約す。良、半夜に往く。老人至る。乃ち喜び、授くるに一編の書を以てして曰く、此を讀まば帝者の師と爲る可し。異日濟北の穀城山の下に黄石を見ん、卽ち我也と。旦に之を視れば、乃ち太公の兵法なり。良之を異とし、晝夜習ひ讀む。既に上を佐けて天下を定む。功臣を封ずるとき、良をして

其布一也。之二洛陽一。見二滕公一曰。季布何罪。臣各爲二其主一耳。以二布之賢一。漢求レ之急。不二北走一レ胡。南走レ越耳。此棄二壯士一資二敵國一也。滕公言二於上一。乃赦レ布召拜二郎中一。丁公爲二項羽將一。嘗逐窘二帝彭城西一。短兵接。帝急顧曰。兩賢豈相厄哉。丁公乃還。至レ是謁見。帝以徇二軍中一曰。丁公爲レ臣不忠。使三項王失二天下一。遂斬レ之。曰。使下後爲二人臣一無上レ效二丁公一也。齊人婁敬說レ上曰。洛陽天下之中。有レ德易二以興一。無レ德易二以亡一。秦地被レ山帶レ河。四塞以爲レ固。陛下案二秦之故一。此搤二天下之亢一。而拊二其背一也。上問二張良一。良曰。洛陽四面受レ敵。非二用レ武之國一。關中左二殽函一。右二隴蜀一。阻二三面一而守。敬說是也。上即日西都二關中一。

後の人臣たるものをして、丁公に效ふと無らしむる也と○齊の人婁敬、上に說きて曰く、洛陽は天下の中なり。德有れば以て興り易く、德無ければ以て亡び易し。秦の地は、山を被り河を帶び、四塞以て固と爲す。陛下、秦の故を案ぜば、(七)是れ天下の亢(八)を搤して、其背を拊つなりと。上、張良に問ふ。良曰く、洛陽は四面に敵を受く。武を用ふるの國に非ず。關中は、殽函を左にし、隴蜀を右にし、三面を阻てゝ守る。敬の說是也と。上、即日西して關中に都す。

(一) 驛つぎの車馬 (二) 自殺 (三) 賞をかけて布をさがす也 (四) 髮をそり頸にくびかせをつくるなり (五) 兩賢 即ち吾(帝)と君(丁公)とがお互にくるしめ合ふは愚なることなり (六) ひき廻して罪をふれ示す (七) 秦の故地に據らば (八) のどくび(咽喉)を扼す

其徒五百餘人㆒。入㆓海島㆒。上召㆑之曰。橫來。大者王。小者侯。不㆑來且擧㆑兵誅。橫與㆓二客㆒乘㆑傳至㆓洛陽尸鄕㆒。自剄。以㆓王禮㆒葬㆑之。二客自剄從㆑之。五百人在㆓島中㆒者。聞㆑之自殺。初季布爲㆓項羽將㆒。數窘㆑帝。羽滅帝購㆓求布㆒。敢匿者罪㆓三族㆒。布乃髡鉗爲㆑奴。自賣㆓於魯朱家㆒。朱家心知㆓

る者は王とし、小なる者は侯とせん。來らずんば且兵を擧げて誅せんと。橫、二客と傳に乘りて洛陽の尸鄕に至りて自剄(二)す。王の禮を以て之を葬る。二客、自剄(一)して之に從ふ。五百人、島中に在る者、之を聞きて自殺す〇初め季布、項羽の將と爲りて、數〻帝を窘しむ。羽、滅びて、帝、布を購(三)ひ求む。敢て匿す者は三族を罪せんと。布乃ち髡鉗(四)して奴と爲り、自ら魯の朱家に賣る。朱家心に其布なるを知るや、洛陽に之き、滕公に見えて曰く、季布、何の罪かある。臣は各〻其主の爲にするのみ。布の賢を以て、漢の之を求むること急ならば、北のかた胡に走らざれば、南のかた越に走らんのみ。此れ壯士を棄てゝ敵國を資くる也と。滕公、上に言ふ。乃ち布を赦し、召して郞中に拜す〇丁公、項羽の將と爲り、嘗て逐ひて帝を彭城の西に窘しめ、短兵もて接す。帝、急なり。顧みて曰く、兩賢(五)、豈相厄せんやと。丁公、乃ち還る。是に至りて謁見す。帝以て軍中に徇(六)へて曰く、丁公、臣となりて不忠、項王をして天下を失はしむと。遂に之を斬る。曰く、

何。高起王陵對曰。陛下使ニ人攻レ城掠レ地。因而與レ之。與ニ天下一同ニ其利一。項羽不レ然。有レ功者害レ之。賢者疑レ之。戰勝而不レ予ニ人功一。得レ地而不レ與ニ人利一。上曰。公知ニ其一一。未レ知ニ其二一。夫運ニ籌帷幄之中一。決ニ勝千里之外一。吾不レ如ニ子房一。塡ニ國家一。撫ニ百姓一。給ニ餽餉一。不レ絶ニ糧道一。吾不レ如ニ蕭何一。連ニ百萬之衆一。戰必勝。攻必取。吾不レ如ニ韓信一。此三人者皆人傑也。吾能用レ之。此吾所三以取ニ天下一。項羽有ニ一范増一。而不レ能レ用。此其所ニ以爲レ我禽一也。群臣悅服。

て人に利を與へずと。上曰く、公は其一を知りて、未だ其二を知らず。夫れ籌を(三)帷幄の中に運らし、勝を千里の外に決するは、吾、子房に如かず。國家を塡め、百姓を撫し、(四)餽餉を給し、糧道を絶たざるは、吾、蕭何に如かず。百萬の衆を連ねて、戰へば必ず勝ち、攻むれば必ず取るは、吾、韓信に如かず。此三人は皆人傑なり。吾、能く之を用ふ。此れ吾の天下を取りし所以なり。項羽に一范増有りて、用ふる能はず。此れ其の我が爲に禽へられし所以也と。羣臣悅び服す。

(一) さかもりす (二) 徹は通也、列侯といふ意 (三) 大將の幕の中に在りてはかりごとを立て、それによりて遠き戰地の勝を定む (四) 軍に兵糧を供給す

故齊田横。與ニ

○故の齊の田横、其徒五百餘人と海島に入る。上之を召して曰く、横來らば大な

若何。騅者羽平日所ㇾ乘駿馬也。左右皆泣。莫二敢仰視一。羽乃夜從二八百餘騎一。潰ㇾ圍南出。渡ㇾ淮。迷失ㇾ道。陷二大澤中一。漢追及ㇾ之。至二東城一。乃有二二十八騎一。羽謂二其騎一曰。吾起ㇾ兵八歲七十餘戰。未二嘗敗一也。今卒困ㇾ此。此天亡ㇾ我。非二戰之罪一。今日固決ㇾ死。願爲二諸君一決戰。必潰ㇾ圍斬ㇾ將。令二諸君知一ㇾ之。皆如二其言一。於ㇾ是欲三東渡二烏江一。亭長艤ㇾ船待曰。江東雖ㇾ小。亦足二以王一。願急渡。羽曰。籍與二江東子弟八千人一渡ㇾ江而西。今無二一人還一。縱江東父兄憐而王ㇾ我。我何面目復見。獨不ㇾ愧二於心一乎。乃刎而死。楚地悉定。獨魯不ㇾ下。王欲ㇾ屠ㇾ之。至二城下一。猶聞二絃誦之聲一。爲下其守二禮義一之國。爲ㇾ主死ㇾ節。持二羽頭一示ㇾ之。乃降。王還。馳入二齊王信壁一。奪二其軍一。立ㇾ信爲二楚王一。彭越爲二梁王一。漢王卽二皇帝位一。

彭越を梁王と爲し、漢王、皇帝の位に卽く。

㊀羽の國た楚の歌。九江の兵漢軍に歸す、故に楚の聲多し ㊁拔山蓋世の勇ある＝時不利にして事茲に至る、雖や虞や汝等を奈何せんと絕望の嘆を發せしなり ㊂出船の用意をする ㊃琴をひき、歌を誦ふ聲、儒學に親むなり ㊄韓信の城。奪ㇾ軍は戰終りし故に其軍を奪ふたり

置二酒洛陽南宮一。上曰。徹侯諸將皆言。吾所三以得二天下一者何。項氏所三以失二天下一者

○洛陽の南宮に置酒す。上曰く徹侯諸將皆言へ。吾の天下を得し所以の者は何ぞ。項氏の天下を失ひし所以の者は何ぞ。高起王陵對へて曰く、陛下、人をして城を攻め、地を掠めしめ、因りて之に與へ、天下と其利を同じうす。項羽は然らず。功有る者は之を害し、賢なる者は之を疑ひ、戰勝ちて人に功を予へず。地を得

之。皆引兵來。縣布亦會。羽至垓下。兵少食盡。信等乘之。羽敗入壁。圍之數重。羽夜聞漢軍四面皆楚歌。大驚曰、漢皆已得楚乎。何楚人多也。起飲帳中。命虞美人起舞。悲歌慷慨。泣數行下。其歌曰。力拔山兮氣蓋世。時不利兮騅不逝。騅不逝兮可奈何。虞兮虞兮奈

道を失ひ、大澤の中に陷る。漢、追うて之に及ぶ。東城に至れば、乃ち二十八騎有り。羽、其騎に謂ひて曰く、吾、兵を起してより八歲、七十餘戰、未だ嘗て敗れず。今卒に此に困しむ。此れ天の我を亡すなり。戰の罪に非ず。今日固より死を決す。願はくは諸君の爲に決戰し、必ず圍を潰やして將を斬り、諸君をして之を知らしめんと。皆其言の如し。是に於て東のかた烏江を渡らんと欲す。亭長、船を艤して(三)待ちて曰く、江東は小なりと雖も、亦以て王たるに足る。願はくは急に渡れと。羽曰く、籍、江東の子弟八千人と、江を渡りて西す。今一人の還る無し、縱ひ江東の父兄憐みて我を王とすとも、我何の面目ありて復た見ん。獨り心に愧ぢざらんやと。乃ち刎ねて死す。楚の地悉く定まり、獨り魯のみ下らず。王之を屠らんと欲し、城下に至れば、猶ほ絃誦(四)の聲を聞く。其禮義を守るの國にして、主の爲に節に死する爲に、羽の頭を持ちて之に示す。乃ち降る。王還り、馳せて(五)齊王信の壁に入り、其軍を奪ひ、信を立てゝ楚王と爲し、

盡。韓信又進兵擊之。羽乃與漢約。中分天下。鴻溝以西爲漢。以東爲楚。歸太公呂后。解而東歸。漢王亦欲西歸。張良陳平曰。漢有天下大半。楚兵饑疲。今釋不擊。此養虎自遺患也。王從之。五年王追羽至固陵。韓信彭越期不至。張良勸王。以楚地梁地許兩人。王從

下を中分して、鴻溝以西を漢と爲し、以東を楚と爲し、太公・呂后を歸し、解きて東に歸る。漢王も亦、西に歸らんと欲す。張良・陳平曰く、漢、天下の大半を有ち、楚の兵饑ゑ疲る。今釋して擊たずんば、是れ虎を養ひて自ら患を遺す也と。王之に從ふ○五年、王、羽を追ひて固陵に至る。韓信・彭越、期して至らず。張良、王に勸む、楚の地、梁の地を以て兩人に許せと。王、之に從ふ。皆兵を引きて來り、黥布も亦會す。羽、垓下に至る。兵少く食盡く。信等之に乘ず。羽敗れて壁に入る。之を圍むこと數重なり。羽、夜、漢軍の四面皆楚歌するを聞き、大に驚きて曰く、漢皆已に楚を得たるか。何ぞ楚の人の多きやと。起ちて帳中に飲み、虞美人に命じ起ちて舞はしむ。悲歌慷慨、泣數行下る。其歌に曰く、力山を拔き氣世を蓋ふ。時利あらず騅逝かず。騅の逝かざる奈何す可き。虞や虞や若を奈何せんと。騅は羽の平日乘る所の駿馬なり。左右皆泣き、敢て仰ぎ視る莫し。羽乃ち夜八百餘騎を從へ、圍を潰やして南に出づ。淮を渡るとき、迷ひて

且。佯敗還走。且追ㇾ之。信使ㇾ決ㇾ水。且軍大半不ㇾ得ㇾ渡。急擊殺ㇾ且。信使三人言二之漢王一。請下爲二假王一以鎭ㇾ齊。漢王大怒罵ㇾ之。張良陳平躡ㇾ足附ㇾ耳語。王悟。復罵曰。大丈夫定二諸侯一。卽爲二眞王一耳。何以ㇾ假爲。遣ㇾ印立ㇾ信爲二齊王一。項羽聞二龍且死一。大懼。使二武涉說一ㇾ信。欲三與連和三二分天下一。信曰。漢王授二我上將軍印一。解ㇾ衣衣ㇾ我。推ㇾ食食ㇾ我。言聽計用。我倍ㇾ之不祥。雖ㇾ死不ㇾ易。蒯徹亦說ㇾ信。信不ㇾ聽。漢立二黥布一。爲二淮南王一。

夫、諸侯を定む。卽ち眞王たらんのみ。何ぞ假を以て爲さんと(六)。印を遣はし、信を立てゝ齊王と爲す○項羽、龍且の死を聞きて、大に懼る。武涉をして信に說かしめ、與に連和(七)して、天下を三分せんと欲す。信曰く、漢王我に上將軍の印を授け、衣を解きて我に衣せ、食を推して我に食ましめ、言聽かれ、計用ひらる。我、之に倍かんは不祥なり。死すと雖も易へじ(八)と。蒯徹も亦信に說く。信聽かず○漢、黥布を立てゝ、淮南王と爲す。

(一)水にて絮(ワタ)をうちさらす女　(二)一身を養ふ計　(三)人を衆併し多數の者を呑んで掛る勇氣　(四)どてを破りて水をおとす　(五)足を踏んで意を喩し、そばへ寄つてさゝやく　(六)假は假王なり、眞王たるべしと言ひしなり　(七)和して聯合す　(八)志を變ぜざらん

項王少ㇾ助。食

○項王、助け少く、食盡く。韓信又兵を進めて之を擊つ。羽乃ち漢と約し、天

掉二三寸舌一。下二七十餘城一。將軍爲レ將數歲。反不レ如二一豎儒之功一乎。四年。信襲破レ齊。齊王烹二食其一而走。漢與レ楚皆軍二廣武一。羽爲二高俎一。置二太公其上一。告二漢王一曰。不二急下一。吾烹二太公一。王曰。吾與レ若俱。北面事二懷王一。約爲二兄弟一。吾翁卽若翁。必欲レ烹二而翁一。幸分二我一杯羹一。羽願二與レ王挑一レ戰。王曰吾寧鬭レ智。不レ鬭レ力。因數二羽十罪一。羽大怒。伏レ弩射レ王。傷レ胸。

を止められしか　㈣干戈を交へず、車前の横木にもたれながら辭を揮ひて　㈤高きまないた　㈥弩をかくしてしかけ置き

楚使二龍且救一レ齊。龍且曰。韓信易レ與耳。寄二食於漂母一。無二資レ身之策一。受二辱於胯下一。無二兼レ人之勇一。進與レ信夾二濰水一而陣。信夜使三人囊レ沙壅二水上流一。且渡擊レ

○楚、龍且をして齊を救はしむ。龍且曰く、韓信は與し易きのみ。㈠漂母に寄食す、㈡身を資くるの策無し。辱を胯下に受く、㈢人を兼ぬるの勇無しと。進みて信と濰水を夾みて陣す。信、夜、人をして沙を囊にして、水の上流を壅がしめ、且に渡りて且を擊ち、佯り敗れて還り走る。且之を追ふ。信、㈣水を決せしむ。且の軍大半渡ることを得ず。急に擊ちて且を殺す。信、人をして之を漢王に言はしめ、請ひて假王と爲りて、以て齊を鎭めんとす。漢王大に怒りて之を罵る。張良・陳平、㈤足を躡み、耳に附して語る。王悟る。復た罵りて曰く、大丈

得下出二西門一去上。項羽燒二殺紀信一。漢王軍二成皐一。羽圍レ之。王逃去。北渡レ河。晨入二趙壁一。奪二韓信軍一。令下信收二趙兵一擊上レ齊。酈食其說レ王。收二滎陽一。據二敖倉粟一。塞二成皐之險一。王從レ之。酈食其爲二漢王一說二齊王一下レ之。蒯徹說二韓信一曰。將軍擊レ齊。而漢獨發二閒使一下レ之。寧有レ詔止二將軍一乎。酈生伏レ軾。

食其、王に說く、滎陽を收め、敖倉(一)の粟に據りて、成皐の險を塞がんと。王之に從ふ○酈食其、漢王の爲に、齊王に說きて之を下す。蒯徹、韓信に說きて曰く、將軍齊を擊つ。而るに漢獨り閒使(二)を發して之を下す。寧んぞ詔(三)有りて將軍を止るか。酈生、軾(四)に伏し、三寸の舌を掉かして、七十餘城を下す。將軍將たること數歲なるに、反りて一豎儒の功に如かざるかと○四年、信、襲ひて齊を破る。齊王、食其を烹て走る。○漢、楚と皆廣武に軍す。羽、高俎(五)を爲り、太公を其上に置き、漢王に告げて曰く、急に下らずんば、吾、太公を烹ん。王曰く、吾、若と俱に、北面して懷王に事へ、約して兄弟と爲る。吾が翁は卽ち若の翁なり。必ず而の翁を烹んと欲せば、幸に我に一杯の羹を分てと。羽、王と戰を挑まんことを願ふ。王曰く、吾は寧ろ智を鬪はしめん、力を鬪はしめじと。因りて羽の十罪を數ふ。羽大に怒り、弩(六)を伏せ王を射て、胸を傷く。

㊀ 山の名。秦こゝに大倉を築く、故に敖倉といふ　㊁ 間道よりの使者　㊂ 何故、詔によつて將軍に戰ふことと

歸₂事其主₁。大王誰與取₂天下₁乎。且楚惟無ㇾ彊。六國復撓而從ㇾ之。大王焉得而臣ㇾ之乎。誠用₂客謀₁。大事去矣。漢王輟ㇾ食吐ㇾ哺。罵曰。豎儒幾敗₂乃公事₁。令₂趣銷₁ㇾ印。楚圍₂漢王於滎陽₁。漢王謂₂陳平₁曰。天下紛紛。何時定乎。平曰。項王骨鯁之臣。亞父輩數人耳。行ㇾ間以疑₂其心₁。破ㇾ楚必矣。王與₂平黄金四萬斤₁。不ㇾ問₂其出入₁。平多縱₂反間₁。羽大疑₂亞父₁。請₂骸骨₁歸。疽發ㇾ背死。

り、疽(一〇)、背に發して死す。

㈠とばりや衣服その他器具　㈡接伴役　㈢秦に亡ぼされたる六國の後裔　㈣膳の上の箸　㈤八ケ條の難問　㈥口中の食をはき出す　㈦あの小僧儒者。酈食其を罵りいふ也　㈧直言抗議する忠臣　㈨密偵を放つ　㈩できもの、腫物

楚圍₂漢王₁益急。紀信曰。事急矣。請誑ㇾ楚。乃乘₂漢王車₁。出₂東門₁曰。食盡漢王出降。楚人皆之₂城東₁觀。漢王乃

○楚、漢王を圍むこと益〻急なり。紀信曰く、事急なり。請ふ楚を誑かんと。乃ち漢王の車に乗り、東門より出でゝ曰く、食盡きて漢王出で降ると、楚人皆城東に之きて觀る。漢王乃ち西門より出でゝ去ることを得たり。項羽、紀信を燒き殺す○漢王、成皐に軍す。羽之を圍む。王逃れ去る。北のかた河を渡り、晨に趙の壁に入りて、韓信の軍を奪ひ、信をして趙の兵を收めて齊を撃たしむ。酈

布悔怒欲二自殺一。及下出就レ舍。帳御食飲從官。皆如中漢王居上。又大喜。過レ望。酈食其說二漢王一。立二六國後一。王曰趣刻レ印。張良來謁。王方食。具告レ良。良曰。請借二前箸一。爲二大王一籌レ之。遂發二八難一。其七曰。天下游士。離二親戚一。棄二墳墓一。從二大王一遊者。徒欲レ望二尺寸之地一。今復立二六國後一。游士各

望に過ぎたり○酈食其、漢王に說く(三)、六國の後を立てよと。王曰く、趣に印を刻めと。張良來り謁す。王、方に食す。具に良に告ぐ。良曰く、請ふ、前箸(四)を借りて、大王の爲に之を籌らんと。遂に八難(五)を發す。其七に曰く、天下の游士、親戚を離れ、墳墓を棄て、大王に從ひて遊ぶ者は、徒に尺寸の地を欲望すればなり。今復た六國の後を立つれば、游士各〻歸りて其主に事へん。大王誰と與に天下を取らんや。且楚より惟れ彊きは無し。六國復た撓みて之に從はゞ、大王焉んぞ得て之を臣とせんや。誠に客の謀を用ひば、大事去らんと。漢王、食を輟め(六)哺を吐き、罵りて曰く、豎儒(七)、幾んど乃公の事を敗らんとせりと。趣に印を銷さしむ○楚、漢王を滎陽に圍む。漢王、陳平に謂ひて曰く、天下紛紛たり。何の時にか定まらんと。平曰く、項王の骨鯁(八)の臣は、亞父の輩數人のみ(九)、間を行ひて以て其心を疑はしめば、楚を破らんこと必せりと。王、平に黃金四萬斤を與へ、其出入を問はず。平、多く反間を縱つ。羽大に亞父を疑ふ。骸骨を請うて歸

戒曰。趙見二我走一。必空レ壁逐レ我。若疾入二趙壁一。拔二趙幟一立二漢赤幟一。乃使二萬人先背レ水陣一。平旦建二大將旗鼓一。鼓行出二井徑口一。趙開レ壁擊レ之。戰良久。信耳佯棄二鼓旗一走二水上軍一。趙果空レ壁逐レ之。水上軍皆殊死戰。趙軍已失二信等一歸レ壁。見二赤幟一大驚。遂亂遁走。漢軍夾擊大破レ之。斬二陳餘一。禽二趙歇一。諸將賀。因問曰。兵法右二倍山陵一。前二左水澤一。今背レ水而勝。何也。信曰。兵法不レ曰。陷二之死地一而後生。置二之亡地一而後存乎。諸將皆服。信募得二李左車一。解レ縛師二事之一。用二其策一。遣二辯士一。奉二書於燕一。燕從レ風而靡。

生し、之を亡地(一〇)に置きて、而る後存すと。諸將皆服す。信、募りて李左車を得、縛(一一)を解きて之に師事す。其策を用ひ、辯士を遣はして、書を燕に奉ぜしむ。燕、風に從ひて靡く。

㊀ 車を二臺ならぶる事能はずと也　㊁ 輜重と本軍との聯絡を絕たん　㊂ 民間に掠め取るべき物なし　㊃ 間者を入れて　㊄ 輕裝したる騎兵　㊅ 城壁　㊆ 夜の明け放れし時　㊇ 大鼓を打ち鳴して進む　㊈ 決死の覺悟にて戰ふ　(一〇) 亡ぶべき地　(一一) いましめ、なはめ

隨何說二九江王黥布一。畔レ楚歸レ漢。既至。漢王方踞レ床洗レ足。召レ布入見。

○隨何、九江王黥布に說き、楚に畔きて漢に歸せしむ。既に至れば、漢王、方に床に踞して足を洗ふ。布を召し入れて見る。布、悔い怒りて自殺せんと欲す。出でゝ舍に就くに及び、帳御(一)・食飲・從官(二)、皆漢王の居の如し。又大に喜びて、

不レ得レ成レ列。其勢糧食必在レ後。願得二奇兵一。從二閒道一絕二其輜重一。足下深レ溝高レ壘。勿二與戰一。彼前不レ得レ鬪。退不レ得レ還。野無レ所レ掠。不二十日一兩將之頭可レ致二麾下一。餘儒者自稱二義兵一。不レ用二奇計一。信閒知レ之。大喜。乃敢下。未レ至二井陘口一。止。夜半傳二發輕騎二千人一。人持二赤幟一。從二閒道一。望二趙軍一。

に、兩將の頭、麾下に致す可しと。餘は儒者にして、自ら義兵と稱す。奇計を用ひず。信、(四)閒して之を知り、大に喜ぶ。乃ち敢て下り、未だ井陘口に至らずして、止まる。夜半に(五)輕騎二千人を傳發す。人ゝ赤幟を持し、閒道より趙の軍を望み、戒めて曰く、趙、我が走るを見ば、必ず(六)壁を空しくして我を逐はん。若疾く趙の壁に入り、趙の幟を拔きて、漢の赤幟を立てよと。乃ち萬人をして先づ水を背にして陣せしむ。(七)平旦、大將の旗鼓を建て、(八)鼓行して井陘口を出づ。趙、壁を開きて之を擊つ。戰ふこと良久し。信・耳、佯りて旗鼓を棄てゝ、水の上の軍に走る。趙、果して壁を空しくして之を逐ふ。水の上の軍、皆殊死して戰ふ。趙の軍已に信等を失ひて壁に歸り、赤幟を見て大に驚く。遂に(九)亂れて遁れ走る。漢の軍夾み擊ちて大に之を破り、陳餘を斬り、趙歇を禽にす。諸將賀す。因りて問ひて曰く、兵法に、山陵を右にし倍き、水澤を前にし左にすと。今、水を背にして勝つは何ぞや。信曰く、兵法に曰はずや、之を死地に陷れて、而る後

遇二楚軍一。爲レ楚所レ獲。常置二軍中一爲レ質。漢王至二滎陽一。諸敗軍皆會。蕭何亦發二關中老弱一。悉詣二滎陽一。漢軍復大振。蕭何守二關中一。立二宗廟社稷縣邑一。事便宜施行。計二關中戶口一。轉漕調レ兵。未二嘗乏絕一。魏王豹叛。漢王遣二韓信一擊レ之。豹以二柏直一爲二大將一。王曰。是口尚乳臭。安能當二韓信一。信伏レ兵。從二夏陽一。以二木罌一渡レ軍。襲二安邑一。虜レ豹。信既定レ魏。請二兵三萬人一。願以北擧二燕趙一。東擊レ齊。南絕二楚糧道一。西與二大王一會二於滎陽一。王遣二張耳一與倶。

くは、以て北は燕・趙を擧げ、東は齊を擊ち、南は楚の糧道を絕ち、西のかた大王と滎陽に會せんと。王、張耳を遣はして、與に倶にせしむ。

(一)盛に酒宴をなす　(二)三めぐり　(三)奏上せずして機宜の取計を爲す也　(四)車にて轉じ、船にて漕ぐ、水陸より糧食を運び、又兵卒を調發して死亡を補ふ　(五)若年者を侮る言葉　(六)大がめを木に縛して也

三年。信耳以レ兵擊レ趙。聚二兵井陘口一。趙王歇及成安君陳餘禦レ之。李左車謂レ餘曰。井陘之道。車不レ得レ方レ軌。騎

〇三年、信・耳、兵を以て趙を擊ち、兵を井陘口に聚む。趙王歇及び成安君陳餘之を禦ぐ。李左車、餘に謂ひて曰く、井陘の道、(一)車は軌を方ぶることを得ず。騎は列を成すことを得ず。其勢、糧食必ず後に在らん。願はくは奇兵を得て、間道より其(一)輜重を絕たん。足下、溝を深くし、壘を高くして、與に戰ふこと勿れ。彼、前(二)んで鬭ふを得ず。退いて還るを得ず。(三)野に掠むる所無し。十日ならざる

漢王率ニ五諸侯兵五十六萬一伐レ楚入ニ彭城一收ニ其寶貨美人一置酒高會。項羽方擊レ齊。聞レ之。自以ニ精兵三萬一還擊レ漢。大破ニ漢軍於睢水上一。死者二十萬人。水爲レ之不レ流。圍ニ漢王一三匝。會大風從ニ西北一起。折レ木發レ屋。揚ニ沙石一。晝晦。王乃得下與ニ數十騎一遁上。審食其從ニ太公呂氏一閒行。

○漢王、五諸侯の兵五十六萬を率ゐて、楚を伐ち彭城に入り、其寶貨、美人を收め、(一)置酒高會す。項羽方に齊を擊つ。之を聞き、自ら精兵三萬を以て還りて漢を擊ち、大に漢の軍を睢水の上に破る。死者二十萬人、水之が爲に流れず。漢王を圍むこと(二)三匝なり。會〻大風西北より起り、木を折り屋を發き、沙石を揚げて、晝晦し。王乃ち數十騎と遁るゝを得たり。審食其、太公呂氏に從ひて閒行し、楚の軍に遇ひ、楚の爲に獲らる。常に軍中に置きて質と爲す。漢王、滎陽に至りしとき、諸敗軍皆會す。蕭何も亦關中の老弱を發し、悉く滎陽に詣らしむ。漢の軍復た大に振ふ○蕭何、關中を守り、宗廟・社稷・縣邑を立て、事、(三)便宜施し行ふ。關中の戶口を計り、(四)轉漕し兵を調して、未だ嘗て乏絕せず○魏王豹叛す。漢王、韓信を遣はして之を擊つ。豹、柏直を以て大將と爲す。王曰く、是れ口(五)尚乳臭なり、安んぞ能く韓信に當らんと。信、兵を伏せ、夏陽より、(六)木罌を以て軍を渡し、安邑を襲うて豹を虜にす。信、既に魏を定め、兵三萬人を請ふ。願は

楚。又不レ容。亡歸レ漢。今大王令レ護レ軍。受ニ諸將一。願王察レ之。王讓ニ魏無知一。無知曰。臣所レ言者能也。大王所レ問者行也。今有ニ尾生孝己之行一。而無レ益ニ成敗之數一。大王何暇用レ之乎。王拜ニ平護軍中尉一。盡護ニ諸將一。諸將乃不ニ敢復言一。漢王至ニ洛陽一。新城三老董公。遮説曰。順レ德者昌。逆レ德者亡。兵出無レ名。事故不レ成。明ニ其爲レ賊。敵乃可レ服。項羽無道。放ニ弑其主一。天下之賊也。夫仁不レ以レ勇。義不レ以レ力。大王宜下率ニ三軍之衆一。爲レ之素服以告ニ諸侯一而伐上レ之。於レ是漢王爲ニ義帝一發レ喪。告ニ諸侯一曰。天下共立ニ義帝一。今項羽放ニ弑之一。寡人悉發ニ關中兵一。收ニ三河之士一。南浮ニ江漢一而下。願從ニ諸侯王一。擊下楚之弑ニ義帝一者上。

敵乃ち服す可し。項羽は無道、其主を放ち弑す。天下の賊也。夫れ仁は勇を以てせず、義は力を以てせず。大王、宜しく三軍の衆を率ゐ、(五)之が爲に素服して以て諸侯に告げて之を伐つべしと。是に於て、漢王、義帝の爲に喪を發し、諸侯に告げて曰く、天下共に義帝を立てしに、今項羽之を放弑せり。寡人、悉く關中の兵を發し、(六)三河の士を收め、南のかた江漢に浮びて下り、願はくは諸侯王に從ひて、楚の義帝を弑する者を擊たんと。

(一) 鎭守祭の類　(二) 料理方にて肉を割くを掌る　(三) 冠を飾れる玉、外見美なるもその質なき意、平の才あるも德なきに喩ふ　(四) 尾生は古の信士、女子と橋下に期し、其來らざるや、水至るも尚は之を待ち、爲に死す。孝己は殷の高宗の子、孝子なり　(五) 義帝の爲に喪服し　(六) 河南、河東、河内

讀レ書。里中社。平爲レ宰。分レ肉甚均。父老曰善。陳孺子之爲レ宰。平曰。嗟乎使ニ平得レ宰ニ天下一。亦如ニ此肉一矣。初事ニ魏王咎一。不レ用。去事ニ項羽一。得レ罪亡。因ニ魏無知一。求レ見ニ漢王一。拜爲ニ都尉參乘典護軍一。周勃言ニ於王一曰。平雖レ美。如ニ冠玉一。其中未ニ必有一也。臣聞平居レ家盜ニ其嫂一。事レ魏不レ容。亡歸レ

善し、陳孺子の宰たること。平曰く、嗟乎、平をして天下に宰たるを得しめば、亦此肉の如けんと。初め魏王咎に事ふ。用ひられず。去りて項羽に事へ、罪を得て亡ぐ。魏無知に因りて、漢王に見えんことを求む。拜して都尉參乘典護軍と爲す。周勃、王に言ひて曰く、平、美なりと雖も、(三)冠玉の如し。其中未だ必ずしも有らざる也。臣聞く、平、家に居ては其嫂を盜む。魏に事へて容れられず。亡げて楚に歸す。又容れられず。亡げて漢に歸す。今大王、軍を護せしめしに、諸將の金を受けたり。願はくは、王之を察せよと。王、魏無知を讓む。無知曰く、臣の言ふ所の者は能なり。大王の問ふ所の者は行なり。今尾生・孝己の行有りとも、成敗の數に益無くんば、大王何の暇ありて之を用ひんやと。(四)王、平を護軍中尉に拜し、盡く諸將を護せしむ。諸將、乃ち敢て復た言はず○漢王、洛陽に至る。新城の三老董公、遮り說きて曰く、德に順ふ者は昌え、德に逆ふ者は亡ぶ。兵出づるに名無ければ、事故に成らず。其賊たることを明かにせば、

士無雙。王必欲長王漢中。無所事信。必欲爭天下。非信無可與計事者。王曰吾亦欲東耳。安能鬱鬱久居是乎。何曰計必東。能用信。信卽留。不然信終亡耳。王曰。吾爲公以爲將。何曰不留也。王曰以爲大將。何曰幸甚。王素慢無禮。拜大將如呼小兒。此信所以去。乃設壇場。具禮。諸將皆喜。人人自以爲得大將。至拜乃韓信也。一軍皆驚。王遂用信計。部署諸將。留蕭何收巴蜀租。給軍糧食。信引兵從故道出。襲雍王章邯。邯敗死。塞王司馬欣。翟王董翳皆降。

と。乃ち壇場を設け、禮を具ふ。諸將皆喜ぶ。人人自ら以爲らく、大將を得んと。拜するに至れば、乃ち韓信也。一軍皆驚く。王遂に信が計を用ひ、諸將を部署し、蕭何を留めて巴蜀の租を收め、軍の糧食を給す。信、兵を引きて(五)故道より出で、雍王章邯を襲ふ。邯、敗死す。塞王司馬欣・翟王董翳、皆降る。

(一) すぐれたる人物と認めたる也　(二) 韓信が推察するに　(三) 蕭何しば〳〵韓信を用ふるやう申上げしと也

(四) 公に免じて一部の將とせんと也　(五) 縣の名

漢二年。項籍弑義帝於江中。初陽武人陳平。家貧。好

漢の二年、項籍、義帝を江中に弑す。初め陽武の人陳平、家貧しくして、書を讀むことを好む。里(一)中の社に、平、宰(二)と爲り、肉を分つこと甚だ均し。父老曰く、

用。亡歸レ漢。爲ニ治粟都尉一。數與二蕭何一語。何奇レ之。王至二南鄭一。將士皆謳歌思レ歸。多道亡。信度何已數言。王不レ用。即亡去。何自追レ之。人曰丞相何亡。王怒。如レ失二左右手一。何來謁。王罵曰。若亡何也。何曰追二韓信一。王曰諸將亡以レ十數。公無レ所レ追。追レ信詐也。何曰諸將易レ得耳。信國

南鄭に至る。將士皆謳歌して歸らんことを思ひ、多く道より亡ぐ。（二）信度るに、何已に數〻言へども、王用ひずと。即ち亡げ去る。何、自ら之を追ふ。人曰く、丞相（三）何、亡ぐと。王怒りて、左右の手を失ふが如し。何、來り謁す。王、罵りて曰く、若、亡ぐるは何ぞや。何曰く、韓信を追ふなり。王曰く、諸將の亡ぐる、十を以て數ふれども、公、追ふ所無し。信を追ふとは詐ならん。何曰く、諸將は得易きのみ。信は國士無雙なり。王必ず長く漢中に王たらんと欲せば、信を事とする所なからんも、必ず天下を爭はんと欲せば、信に非ざれば、與に事を計る可き者無し。王曰く、吾も亦東せんと欲するのみ。安んぞ能く鬱鬱として久しく是に居らんや。何曰く、必ず東せんと計らば、能く信を用ひよ。信、即ち留まらん。然らざれば、信、終に亡げんのみ。王曰く、吾、（四）公の爲に以て將と爲さん。何曰く、留まらざる也。王曰く、以て大將と爲さん。何曰く、幸甚。王、素と慢にして禮無く、大將を拜すること小兒を呼ぶが如くす。此れ信の去る所以なり

漢元年。五星聚二東井一。初淮陰韓信。家貧釣二城下一。有二漂母一。見二信饑一飯信。信曰。吾必厚報レ母。母怒曰。大丈夫不レ能二自食一。吾哀二王孫一而進レ食。豈望レ報乎。淮陰屠中少年有二侮レ信者一。因レ衆辱レ之曰。若雖二長大好帶ビ劍。中情怯耳。能死刺レ我。不レ能出二我胯下一。信熟二視之一。俛出二胯下一蒲伏。一市人皆笑二信怯一。

漢の元年、五星、東井に聚る。(一)初め淮陰の韓信、家貧しくして城下に釣す。漂母(二)有り、信の饑ゑたるを見、信に飯せしむ。信曰く、吾、必ず厚く母に報いんと。母怒りて曰く、大丈夫自ら食する能はず、吾、王孫(三)を哀みて食を進む。豈報を望まんやと。淮陰の屠中の少年に信を侮る者有り。衆に因りて之を辱しめて曰く、若、長大、好みて劍を帶ぶと雖も、中情(四)は怯なるのみ。能く死せば我を刺せ、能くせざれば我が胯下を出でよと。信之を熟視し、俛して胯下より出でゝ蒲伏す。一市の人皆信の怯を笑へり。

(一) 木火土金水の五星。井は經星、即ち南北に運轉する星の東方に位するものにて其位置は秦の分野にあり、五星こゝに集るは沛公の興るべき兆也　(二) ふるわたを打ちさらす女　(三) 公子といふに同じ、敬稱也　(四) 心中

項梁渡レ淮。信從レ之。又數以レ策干二項羽一。不レ

項梁の淮を渡りしとき、信之に從ひ、又數〻策を以て項羽に干む。用ひられず。亡げて漢に歸し、治粟都尉と爲り、數〻蕭何と語る。何、之を奇とす。王、(一)

羽見㆓秦殘破㆒。且思㆓東歸㆒。曰富貴不㆑歸㆓故鄕㆒。如㆓衣㆑繡夜行㆒耳。韓生曰。人曰。楚人沐猴而冠。果然。羽聞㆑之。煮㆓韓生㆒。羽使㆔人致㆓命懷王㆒。王曰。如㆑約。羽怒曰。懷王吾家所㆑立耳。非㆑有㆓功伐㆒。何得㆑專㆓主約㆒。乃陽尊爲㆓義帝㆒。徙㆓江南㆒。都㆑郴。分㆓天下㆒王㆓諸將㆒。羽自立爲㆓西楚霸王㆒。乃曰。巴蜀亦關中地。立㆓沛公㆒爲㆓漢王㆒。王㆓巴蜀漢中㆒。而三㆓分關中㆒。王㆓秦降將三人㆒。以距㆓塞漢路㆒。漢王怒欲㆑攻㆑羽。蕭何諫曰。願大王王㆓漢中㆒。養㆓其民㆒。以致㆓賢人㆒。收㆓用巴蜀㆒。還定㆓三秦㆒。天下可㆑圖也。王乃就㆑國。以㆑何爲㆓丞相㆒。

曰く、懷王は我家の立つる所のみ、功伐有るに非ず。何ぞ約を專主するを得んと。乃ち陽に尊んで、義帝と爲し、江南に徙し、郴に都せしむ。天下を分ちて諸將を王とし、羽は自立して西楚の霸王と爲る。乃ち曰く、巴蜀も亦關中の地なりと。沛公を立てゝ漢王と爲し、巴・蜀・漢中に王たらしめ、而して關中を三分して、秦の降將三人を王として以て、漢の路を距て塞ぐ。漢王怒りて羽を攻めんと欲す。蕭何諫めて曰く、願はくは大王、漢中に王として其民を養ひ、以て賢人を致し、巴・蜀を收用し、還りて三秦を定めば、天下圖る可き也と。王乃ち國に就き、何を以て丞相と爲す。

㈠ 四方共に塞がれる要害の土地 ㈡ そこなひ破れたる事 ㈢ ぬひとりをしたる美服 ㈣ 人間の衣冠はつくれど心は人間に類せずとの意。項羽は楚人也 ㈤ 先づ關中に入りたるもの、その地の王たるべしとの約束

與沛公起如厠。因招噲。出閒行趨霸上。留良謝羽曰。沛公不勝桮勺。不能辭。使臣良奉白璧一雙。再拜獻將軍足下。玉斗一雙。再拜奉亞父足下。羽曰。沛公安在。良曰。聞將軍有意督過之。脫身獨去。已至軍矣。亞父拔劍。撞玉斗而破之曰。唉。豎子不足謀。奪將軍天下者必沛公也。沛公至軍。立誅曹無傷。

暫時　(六)間道を忍び行くこと　(七)酒を飲むに堪へず　(八)柄のつきたる玉の酒づき　(九)范増也、項羽が范増を尊びてかく稱せる也、父につぐとの意　(一〇)あやまちを責めたゞす

居數日。羽引兵。西屠咸陽。殺降王子嬰。燒秦宮室。火三月不絕。掘始皇冢。收寶貨婦女而東。秦民大失望。韓生說羽。關中阻山帶河。四塞之地。肥饒。可都以霸。

居ること數日、羽、兵を引きて、西のかた咸陽を屠り、降王子嬰を殺し、秦の宮室を燒く。火、三月まで絕えず。始皇の冢を掘き、寶貨、婦女を收めて東す。秦の民大に望を失ふ。韓生、羽に說く、關中は山を阻て河を帶び、(一)四塞の地にして、肥饒なり。都して以て霸たるべしと。羽、秦の(二)殘破を見、且つ東歸せんことを思ひて曰く、富貴にして故鄉に歸らざるは、(三)繡を衣て夜行くが如きのみ。韓生曰く、人は曰ふ、楚人は(四)沐猴にして冠すと、果して然りと。羽之を聞き、韓生を煮る。羽、人をして命を懷王に致さしむ。王曰く、(五)約の如くせよ。羽、怒りて

賜二之巵酒一。則與二斗巵酒一。賜二之彘肩一。則生彘肩。噲立飲。拔レ劍切レ肉啗レ之。羽曰。能復飲乎。噲曰臣死且不レ避。巵酒安足レ辭。沛公先破レ秦入二咸陽一。勞苦而功高如レ此。未レ有二封爵之賞一。而將軍聽二細人之說一。欲レ誅二有功之人一。此亡秦之續耳。切爲二將軍一不レ取也。羽曰坐。噲從レ良坐。須

臣死だに且避けず。巵酒安んぞ辭するに足らん。沛公先づ秦を破りて咸陽に入り、勞苦して功高きこと此の如し。未だ封爵の賞有らず、而して將軍(三)細人の說を聽きて、有功の人を誅せんと欲す。此れ(四)亡秦の續のみ。切に將軍の爲に取らざる也と。羽曰く、坐せよと。噲、良に從ひて坐す。(五)須臾にして、沛公起ちて廁に如く。因りて噲を招き、出で(六)閒行して霸上に趨り、良を留めて羽に謝せしめて曰く、沛公(七)桮勺に勝へず。辭すること能はず。臣良をして白璧一雙を奉じ、再拜して將軍の足下に獻じ、(八)玉斗一雙、再拜して(九)亞父の足下に奉らしむ。羽曰く、沛公安にか在る。良曰く、將軍之を(一〇)督過するに意有るを聞き、身を脫して獨り去る。已に軍に至らんと。亞父劍を拔き、玉斗を撞きて之を破りて曰く、唉、豎子謀るに足らず。將軍の天下を奪ふ者は必ず沛公ならんと。沛公、軍に至り、立に曹無傷を誅す。

(一) まなじり (二) 子豚の肩肉 (三) 小人也、曹無傷を指す (四) 亡びたる秦の二の舞を演ずるに至らんと也 (五)

去具以告ㇾ羽。且曰。人有二大功一。擊ㇾ之不義。不ㇾ如二因善遇ㇾ之。沛公旦從二百餘騎一。見二羽鴻門一。謝曰。臣與二將軍一戮ㇾ力而攻ㇾ秦。將軍戰二河北一。臣戰二河南一。不二自意一。先入ㇾ關破ㇾ秦。得三復見二將軍於此一。今者有二小人之言一。令二將軍與ㇾ臣有一ㇾ隙。羽曰。此沛公左司馬曹無傷之言。羽留二沛公一與飲。范增數目ㇾ羽。舉二所ㇾ佩玉玦一者三。羽不ㇾ應。增出使二項莊入一。前爲ㇾ壽。請以ㇾ劍舞。因擊二沛公一。項伯亦拔ㇾ劍起舞。常以ㇾ身翼二蔽沛公一。莊不ㇾ得ㇾ擊。

應ぜず。増出でゝ項莊をして入らしむ。前みて壽を爲し、請ひて劍を以て舞ひ、因りて沛公を擊たんとす。項伯も亦劍を拔きて起ち舞ひ、常に身を以て沛公を翼(七)蔽す。莊、擊つを得ず。

㊀大杯酒　㊁將來子女のために婚姻を通じ親戚たらんとの約を結ぶ　㊂戸籍なしらぶるなり　㊃明早朝　㊄目くばせす　㊅衣の飾とする玉。其音決と通ず、之を舉げて決心を促す也　㊆かばふ

張良出。告二樊噲一以二事急一。噲擁ㇾ盾直入。瞋ㇾ目視ㇾ羽。頭髮上指。目眥盡裂。羽曰壯士。

張良出でゝ、樊噲に告ぐるに事の急なるを以てす。噲、盾を擁して直ちに入り、目を瞋らして羽を視る。頭髮上り指し、目眥盡く裂く。羽曰く、壯士なり、之に巵酒を賜へと。則ち斗巵酒を與へ、之に彘肩を賜ふ。則ち生の彘肩なり。噲立ちて飲み、劍を拔き肉を切りて之を啗ふ。羽曰く、能く復た飲むか。噲曰く、

素善二張良一。夜馳至二沛公軍一。告レ良。呼與俱去。良曰臣從二沛公一。有レ急亡不義。入具告。因要レ伯。入見二沛公一。奉二卮酒一爲レ壽。約爲二婚姻一。曰吾入レ關。秋毫不二敢有一レ所レ近。籍二吏民一。封二府庫一。而待二將軍一。所二以守一レ關者。備二他盜一也。願伯具言三臣之不二敢倍一レ德。伯許諾曰。旦日不レ可レ不二蚤自來謝一。伯

與に俱に去らしめんとす。良曰く、臣は沛公に從ふ。急有りて亡ぐるは不義なりと。入りて具に告ぐ。因りて伯を要し、入りて沛公に見えしむ。(一)卮酒を奉じて壽を爲し、約して婚姻を爲して曰く、吾關に入るも、(二)秋毫も敢て近くる所有らず。吏民を(三)籍し、府庫を封じて、將軍を待つ。關を守る所以の者は、他の盜に備ふる也。願はくは、伯、具に臣の敢て德に倍かざるを言へと。伯、許諾して曰く、(四)旦日蚤く自ら來り謝せざる可からずと。伯去りて、具に以て羽に告げ、且曰く、沛公、大功有るに、之を擊つは不義なり。因りて善く之を遇せんに如かじと。沛公、旦に百餘騎を從へ、羽に鴻門に見え、謝して曰く、臣、將軍と力を戮せて秦を攻め、將軍は河北に戰ひ、臣は河南に戰ふ。自ら意はざりき、先づ關に入りて秦を破り、復た將軍に此に見ゆるを得んとは。今は小人の言有り、將軍をして臣と隙有らしむ。羽曰く、此れ沛公の左司馬曹無傷の言なりと。羽、沛公を留めて與に飲む。范增、數〻羽に目し、(五)佩ぶる所の(六)玉玦を擧ぐる者三たび。羽、

父老苦二秦苛法一久矣。吾與二諸侯一約。先入二關中一者王レ之。與二父老一約二法三章一耳。殺レ人者死。傷レ人及盜抵レ罪。餘悉除二去秦苛法一。秦民大喜。項羽率二諸侯兵一。欲二西入レ關。或說二沛公一守二關門一。羽至門閉。大怒攻二破之一。進至レ戲。期三旦擊二沛公一。羽兵四十萬。號二百萬一。在二鴻門一。沛公兵十萬。在二霸上一。范增說レ羽曰。沛公居二山東一。貪レ財好レ色。今入レ關。財物無レ所レ取。婦女無レ所レ幸。此其志不レ在レ小。吾令三人望二其氣一。皆爲レ龍。成二五采一。此天子氣也。急擊勿レ失。

て、西のかた關に入らんと欲す。或ひと沛公に說きて關門を守らしむ。羽至れば門閉ぢたり。大に怒り之を攻め破りて、進みて戲に至り、旦に沛公を擊たんと期す。羽の兵四十萬、百萬と號す。鴻門に在り。沛公の兵十萬、霸上に在り。范增、羽に說きて曰く、沛公、山東に居りしとき、財を貪り色を好めり。今關に入り、財物取る所無く、婦女幸(三)する所無し。此れ其志小に在らず。吾、人をして其氣を望ましむるに、皆龍と爲りて、五采を爲す。此れ天子の氣也。急に擊ちて(四)失ふこと勿れと。

(一) 嚴しく苛酷なる法　(二) 三ケ條の法律　(三) 寵するなり　(四) 取りにがす勿れ

羽季父項伯。

羽の季父項伯、素と張良に善し。夜馳せて沛公の軍に至りて良に告げ、呼びて

於レ是東遊以厭二當之一。劉季隱二於芒碭山澤間一。呂氏與レ人俱求。常得レ之。劉季怪問レ之。呂氏曰。季所レ居。上有二雲氣一。故從往常得レ季。劉季喜。沛中子弟聞レ之。多二欲レ附者一。爲二亭長一時。以二竹皮一爲レ冠。及レ貴常冠。所レ謂劉氏冠也。劉季爲レ縣送二徒驪山一。徒多道亡。自度。比レ至盡亡レ之。到二豐西一。止飲。夜乃解二縱所レ送徒一曰。公等皆去。吾亦從レ是逝矣。徒中壯士。願レ從者十餘人。季被レ酒。夜徑二澤中一。有二大蛇一當レ徑。季拔レ劍斬レ之。後人來至二蛇所一。有二老嫗一哭曰。吾子白帝子也。今者赤帝子斬レ之。因忽不レ見。後人告二劉季一。劉季心獨喜自負。諸從者。日益畏レ之。

(一)高き鼻はしら　(二)ほくろ　(三)心廣し　(四)賦役に當る　(五)思ふまゝにみる　(六)掃除する意、嫁入るの謙辭　(七)威壓　(八)始皇を驪山に葬る、故に郡國より役作の爲め徒刑囚を送る　(九)白帝は秦、赤帝は漢の寓意

陳涉起。劉季亦起二兵於沛一。以應二諸侯一。旗幟皆赤。楚懷王遣二沛公一。破レ秦入レ關。降二秦王子嬰一。既定レ秦。還軍二霸上一。悉召二諸縣父老豪傑一。謂曰。

陳涉の起るや、劉季も亦兵を沛に起して、以て諸侯に應ず。旗幟皆赤し。楚の懷王、沛公を遣はす。秦を破りて關に入り、秦王子嬰を降す。既に秦を定め、還りて霸上に軍す。悉く諸縣の父老豪傑を召し、謂ひて曰く、父老、秦の苛法(一)に苦しむこと久し。吾、諸侯と約すらく、先づ關中に入る者之に王たらんと。父老と法三章(二)に約せんのみ。人を殺す者は死し、人を傷け及び盜むは罪に抵さん。餘は悉く秦の苛法を除き去らんと。秦の民大に喜ぶ。項羽、諸侯の兵を率る

子。寛仁愛人。意豁如也。有大度。不事家人生産。及壯。爲泗上亭長。嘗繇役咸陽。縱觀秦皇帝。曰。嗟乎大丈夫當如此矣。單父人呂公好相人。見劉季狀貌。曰。吾相人多矣。無如季相。願季自愛。吾有息女。願爲箕帚妾。卒與劉季。即呂后也。秦始皇嘗曰。東南有天子氣。

て曰く、東南に天子の氣有りと。是に於て、東遊して以て之を厭當す。(七)劉季、芒碭山澤の閒に隱る。呂氏人と倶に求めて、常に之を得たり。劉季、怪しみて之を問ふ。呂氏曰く、季の居る所、上に雲氣有り。故に從ひ往きて常に季を得るなりと。劉季喜ぶ。沛中の子弟之を聞き、附かんと欲する者多し。亭長たりし時、竹皮を以て冠と爲す。貴きに及び常に冠す。所謂劉氏冠也。劉季、縣の爲に、(八)徒を驪山に送る。徒、多く道より亡ぐ。自ら度るに、至る比盡く之を亡はんと。豐西に到りて、止め飮ましめ、夜乃ち送る所の徒を解き縱して曰く、公等皆去れ。吾も亦是より逝かんと。徒中の壯士、從はんと願ふ者十餘人あり。季、酒を被りて、夜、澤中に徑す。大蛇有り徑に當る。季、劍を拔きて之を斬る。後、人來りて蛇の所に至れば、老嫗有り哭して曰く、(九)吾が子は白帝の子也。今は赤帝の子之を斬ると。因りて忽ち見えず。後、人劉季に告ぐ。劉季、心に獨り喜びて自負す。諸〻の從ふ者、日に益〻之を畏る。

漢大祖高皇帝。堯之後。姓劉氏。名邦。字季。沛豐邑中陽里人也。母媼息二大澤之陂一。夢與レ神遇。時大雷雨晦冥。父太公往。見二交龍其上一。已而產二劉季一。隆準而龍顏。美鬚髯。左股有二七十二黑

西漢

太祖高皇帝

漢大祖高皇帝は、堯の後なり。姓は劉氏、名は邦、字は季。沛の豐邑中陽里の人也。母媼、大澤の陂に息ひ、夢に神と遇ふ。時に大に雷雨し晦冥なり。父太公往きて交龍を其上に見る。已にして劉季を産む。(一)隆準にして龍顏、美しき鬚髯あり。左の股に七十二の黑子(二)有り。寛仁にして人を愛し、意、豁如(三)たり。大度有りて、家人の生產を事とせず。壯んなるに及び、泗上の亭の長と爲る。嘗て咸陽に繇役し、秦の皇帝を縱(四)觀して曰く、嗟乎大丈夫當に此の如くなるべしと。單父(五)の人呂公、好みて人を相す。劉季の狀貌を見て曰く、吾、人を相すること多けれども、季の相に如くは無し。願はくば、季、自愛せよ。吾に息女有り、願はくば、(六)箕帚の妾と爲さんと。卒に劉季に與ふ。即ち呂后なり。秦の始皇嘗

者。沛公輒解二其冠一。溲二溺其中一。未レ可下以二儒生一説上也。食其令下騎士第入言上之曰。人皆謂二食其狂生一。生自謂三我非二狂生一。沛公至二高陽傳舍一。召レ生入。沛公方踞レ床。使二兩女子洗一レ足。而見レ生。生長揖不レ拜曰。足下必欲レ誅二無道秦一。不レ宜三倨見二長者一。於レ是沛公輟レ洗。起攝レ衣。延二生上坐一謝レ之。生爲二沛公一説下二陳留一。後常爲二説客一。張良從二沛公一西。沛公大破二秦軍一。入レ關至二霸上一。秦王子嬰。素車白馬。繫レ頸以レ組。出降二軹道旁一。秦自三始皇二十六年併二天下一。二世三世而亡。稱レ帝止十有五年。

(四)傳舍に至り、生を召して入らしむ。沛公方に床に踞し、兩女子をして足を洗はしめて、生を見る。生、(五)長揖して拜せずして曰く、足下必ず無道の秦を誅せんと欲せば、宜しく倨して長者を見るべからずと。是に於て沛公洗ふことを輟め、起ちて(六)衣を攝し、生を上坐に延きて之に謝す。生、沛公の爲に說きて陳留を下す。後常に說客と爲る○張良、沛公に從ひて西す○沛公大に秦の軍を破り、關に入りて霸上に至る。秦王子嬰、(七)素車白馬、頸に繫くるに組(八)を以てし、出でゝ(九)軹道の旁に降る。秦、始皇の二十六年に、天下を併せてより、二世・三世にして亡ぶ。帝と稱すること止十有五年なりき。

(一)大なる智略計謀　(二)小便す　(三)兎も角も、委細構はず　(四)旅舍　(五)略式に挨拶する也　(六)衣のまへをつくろひ正しく著る　(七)以下降服の狀をいふなり　(八)ひら打ちのひも　(九)驛の名

爲一。及二秦兵數敗一。高恐二二世怒一。遂使三婿閻樂。弑二二世於望夷宮一。立二公子嬰一。爲二秦王一。二世之兄子也。嬰既立。族二殺趙高一。初楚懷王與二諸將一約。先入定二關中一者王レ之。當時秦兵強。諸將莫レ利二先入一レ關。獨項羽怨三秦殺二項梁一。奮願下與二沛公一先入上レ關。懷王諸老將皆曰。項羽爲レ人。慓悍猾賊。獨沛公寬大長者。可レ遣。乃遣二沛公一。

懷王の諸老將皆曰く、項羽人と爲り、(三)慓悍猾賊なり。獨り沛公は(四)寬大の長者なり、遣る可しと。乃ち沛公を遣る。

(一)其兵衆を統率して (二)一族殘らず戮殺す (三)あらく強くしてわるがしこくして他を殘賊す (四)心ひろく量大にして他に長たる風あり

高陽人酈食其。謂二沛公麾下騎士一曰。吾聞。沛公慢而易レ人。多二大略一。此眞吾所レ願二從遊一。騎士曰。沛公不レ好レ儒。客冠二儒冠一來

○高陽の人酈食其、沛公の麾下の騎士に謂ひて曰く、吾聞く、沛公は慢にして人を易るも、(一)大略多しと。此れ眞に吾が從遊を願ふ所なり。騎士曰く、沛公は儒を好まず。客の儒冠を冠して來る者は、沛公輒ち其冠を解きて、其中に(二)溲溺す。未だ儒生を以て說く可からずと。食其、騎士をして(三)第入りて之に言はしめて曰く、人は皆食其を狂生と謂ひ、生は自ら我狂生に非ずと謂ふと。沛公、高陽の

後羣臣皆畏レ高。莫三敢言二其過一。

項梁與二秦將章邯一戰敗死。宋義先言二其必敗一。梁果敗。秦攻レ趙。楚懷王以レ義爲二上將一。項羽爲二次將一。救レ趙。義驕。羽斬レ之。領二其兵一。大破二秦兵鉅鹿下一。虜二王離等一。降二秦將章邯董翳司馬欣一。羽爲二諸侯上將軍一。先レ是趙高數言。關東盜無二能

○項梁、秦の將章邯と戰ひて敗死す。宋義先づ其必ず敗れんことを言ふ。梁果して敗る。秦、趙を攻む。楚の懷王、義を以て上將と爲し、項羽を次將と爲して、趙を救ふ。義、驕る。羽之を斬り、其兵を領して、大に秦の兵を鉅鹿の下に破り、王離等を虜にし、秦の將章邯・董翳・司馬欣を降す。羽、諸侯の上將軍と爲る○是より先趙高數〻言ふ、關東の盜能く爲すこと無しと。秦兵の數〻敗るゝに及びて、高、二世の怒らんことを恐れ、遂に婿の閻樂をして、二世を望夷宮に弑せしめ、公子嬰を立てゝ、秦王と爲す。二世の兄の子也。嬰、既に立ちて、趙高を族殺す。初め楚の懷王、諸將と約すらく、先づ入りて關中を定むる者之に王たらんと。當時、秦の兵强し。諸將先づ關に入るを利とする莫し。獨り項羽、秦が項梁を殺せしゝ怨み、奮ひて沛公と先づ關に入らんことを願ふ。

楚之後一也。於レ
是。項梁求二得
楚懷王孫心一。
立爲二楚懷王一。以從二民望一。趙高與二丞相李斯一有レ隙。高侍二二世一。方二燕樂婦女居一レ前。使三人告二丞相
斯一。可レ奏レ事。斯上謁。二世怒曰。吾嘗多二閒日一。丞相不レ來。吾方燕私。丞相乃來。高曰。丞相長男
李由。爲二三川守一。與レ盜通。且丞相居レ外。權重二於陛下一。二世然レ之。下二斯吏一。具二五刑一。腰二斬咸陽市一。
斯出レ獄。顧謂二中子一曰。吾欲下與レ若復牽二黃犬一。倶出二上蔡東門一。逐中狡兔上。豈可レ得乎。遂父子相哭。
而夷二三族一。

して樂しむ時 ㊄ 五種の刑罰を加ふ。まづ入墨し、次に鼻をそぎ、足を斬り、睾丸を拔く也 ㊅ 兎狩して樂しまんとするも ㊆ 父・母・妻の三族皆誅せらる

中丞相趙高。
欲レ專二秦權一。恐二
羣臣不一レ聽。乃
先設レ驗。持レ鹿
獻二於二世一曰。
馬也。二世笑
曰。丞相誤邪。
指レ鹿爲レ馬。問二
左右一。或默或
言。高陰中二諸
言レ鹿者一以レ法。

○中丞相趙高、秦の權を專らにせんと欲し、羣臣の聽かざらんことを恐る。乃ち先づ驗を設く(一)。鹿を持して二世に獻じ曰く、馬也と。二世笑ひて曰く、丞相誤るか、鹿を指して馬と爲すと。左右に問ふに、或は默し、或は言ふ。高、陰に諸〻の鹿と言ふ者に中つる(二)に法を以てす。後羣臣皆高を畏れ、敢へて其過を言ふもの莫し。

㊀ 事實を以てためして見る ㊁ 何として法に當て罪におとす也

以降レ秦。秦將章邯。擊レ魏。齊楚救レ之。齊王儋。魏王咎。與二周市一皆敗死。趙王武臣。爲二其將李良一所レ殺。張耳陳餘。立二趙歇一爲レ王。居鄛人范增。年七十。好二奇計一。往說二項梁一曰。陳勝首レ事。不レ立二楚後一。而自立。其勢不レ長。今君起二江東一。楚蠭起之將。爭附レ君者。以二君世世楚將一。必能復二立

り、楚の蠭起(一)の將爭ひて君に附くは、以へらく、君は世世楚の將なれば、必らず能く楚の後を復立せんとてならんと。是に於て、項梁、楚の懷王の孫心を求め得て、立てゝ楚の懷王と爲し、以て民の望に從ふ○趙高、丞相李斯と隙有り。高、二世に侍し、燕樂(二)して、婦女前に居るに方り、人をして丞相斯に告げしむ、事を奏す可しと。斯、上謁す。二世怒りて曰く、吾、嘗て閒日(三)多かりしに、丞相來らず。吾方に燕私(四)すれば、丞相乃ち來る。高曰く、丞相が長男李由、三川の守と爲り、盜と通ず。且つ丞相外に居るとき、權、陛下よりも重しと。二世、之を然りとし、斯を吏に下し、五刑(五)を具へて、咸陽の市に腰斬す。斯、獄を出づるとき、顧みて中子に謂ひて曰く、吾、若と復た黃犬を牽き、倶に上蔡の東門に出でゝ、狡兎(六)を逐はんと欲すとも、豈得可けんやと。遂に父子相哭す。而して三族(七)を夷す。

(一) 蜂のむらがり飛ぶが如くに起れる諸將　(二) くつろぎたのしむ　(三) 閑日也、ひまの時　(四) 私のさかもりを

人。項梁者楚將項燕之子也。嘗殺レ人。與二兄子籍一。避二仇呉中一。籍字羽。少時學レ書不レ成。去學レ劍。又不レ成。梁怒。籍曰。書足三以記二姓名一而已。劍一人敵。不レ足レ學。學二萬人敵一。梁乃敎二籍兵法一。會稽守殷通。欲三起レ兵應二陳渉一。使二梁爲一レ將。梁使二籍斬レ通。佩二其印綬一。遂擧二呉中兵一。得二八千人一。籍爲二裨將一。時年二十四。

一 四方逋逃の事を司る役 二 そむく者ありと告ぐ 三 鼠犬の如き小賊 四 親しき 五 巡撫して民を歸順せしむ 六 郡の屬官 七 副將

齊人田儋。自立爲二齊王一。趙王武臣。使三將韓廣略二燕地一。廣自立爲二燕王一。楚將周市。定二魏地一。迎二魏公子咎一。立爲二魏王一。二年。呉廣爲二其下一所レ殺。陳勝爲二其御莊賈一所レ殺。

○齊人田儋、自立して齊王と爲る○趙王武臣、將韓廣をして燕の地を略せしむ。廣、自立して燕王と爲る○楚の將周市、魏の地を定め、魏の公子咎を迎へ、立てゝ魏王と爲す○二年、呉廣、其下の爲に殺さる○陳勝、其御莊賈の爲に殺さる。以て秦に下る○秦の將章邯、魏を撃つ。齊・楚之を救ふ。齊王儋・魏王咎、周市と皆敗れ死す○趙王武臣、其將李良の爲に殺さる。張耳・陳餘、趙歇を立てゝ王と爲す○居鄛の人范增、年七十、奇計を好む。往きて項梁に說きて曰く、陳勝は事を首め、楚の後を立てずして自立す。其勢、長からじ。今君江東より起

謁者從東方來。以反者聞。二世怒。下之吏。後使者至。上問之。曰。羣盜鼠竊狗偸。不足憂也。上悅。陳勝以所善陳人武臣爲將軍。耳餘爲校尉。使徇趙地。至趙武臣自立爲趙王。沛人劉邦起於沛。父老爭殺令。迎立爲沛公。沛邑掾主吏蕭何曹參。爲收沛子弟。得三千

○謁者東方より來り、反者を以て聞す。二世怒り、之を吏に下す。後使者至る。上之を問ふ。曰く、羣盜は鼠竊狗偸のみ、憂ふるに足らずと。上悅ぶ○陳勝善き所の陳人武臣を以て將軍と爲し、耳餘を校尉と爲し、趙の地を徇へしむ。趙に至れば、武臣、自立して趙王と爲る○沛人劉邦、沛より起る。父老爭ひて令を殺し、迎へ立てゝ沛公と爲す。沛邑の掾主吏、蕭何•曹參、爲に沛の子弟を收めて、三千人を得たり○項梁は楚の將項燕の子なり。嘗て人を殺し、仇を吳中に避く。籍、字は羽、少き時書を學びて成らず、去りて劍を學び、又成らず。梁怒る。籍曰く、書は以て姓名を記すに足るのみ。劍は一人の敵、學ぶに足らず、萬人の敵を學ばんと。梁乃ち籍に兵法を敎ふ。會稽の守殷通、兵を起して陳涉に應ぜんと欲し、梁をして將たらしむ。梁、籍をして通を斬らしめ、其印綬を佩び、遂に吳中の兵を擧げて、八千人を得たり。籍、裨將と爲る。時に年二十四。

務益刻深。公子大臣多僇死。陽城人陳勝。字渉。少與人傭耕。輟耕之壟上。悵然久之曰。苟富貴無相忘。傭者笑曰。若爲傭耕。何富貴也。勝大息曰。嗟呼燕雀安知鴻鵠之志哉。至是與呉廣起兵于蘄。時發閭左戍漁陽。勝廣爲屯長。會大雨道不通。乃召徒屬曰。公等失期。法當斬。壯士不死則已。死則擧大名。王侯將相寧有種乎。衆皆從之。乃詐稱公子扶蘇。項燕。稱大楚。勝自立爲將軍。廣爲都尉。大梁張耳。陳餘。詣軍門上謁。勝大喜。自立爲王。號張楚。諸郡縣苦秦法。爭殺長吏。以應渉。

を知らんやと。是に至りて呉廣と兵を蘄に起す。時に閭左を發して漁陽に戍す。(七)勝・廣、屯長たり。大雨に會ひ道通ぜず。乃ち徒屬を召して曰く、公等期を失す。法當に斬るべし。壯士、死せずんば則ち已む、死せば則ち大名を擧げん。王侯將相寧んぞ種有らんやと。衆皆之に從ふ。乃ち詐りて公子扶蘇・項燕と稱し、大楚と稱す。勝は自立して將軍と爲り、廣は都尉と爲る。大梁の張耳・陳餘、軍門に詣りて上謁す。勝大に喜ぶ。自立して王と爲り、張楚と號す。諸郡縣、秦の法に苦しむ。爭ひて長吏を殺して以て渉に應ず。

(一) むごきこと　(二) 誅戮せらる　(三) 田間の小高き丘　(四) いたむ貌　(五) 他日富貴の人とならば今日の交誼を忘れざるべし　(六) 燕も雀も小鳥也、仍て小丈夫に喩ふ。鴻も鵠も共に大鳥也、仍て大丈夫に喩ふ　(七) 守る

發レ喪。詐爲レ受レ詔。立二胡亥一。賜二扶蘇死一。載二始皇轀輬車中一。以二一石鮑魚一。亂二其臭一。至二咸陽一。始發レ喪。
胡亥即レ位。是爲二二世皇帝一。

二世皇帝

二世皇帝。名胡亥。元年。東行二郡縣一。謂二趙高一曰。吾欲下悉二耳目之所レ好。窮二心志之樂一。以終中吾年上。高曰。陛下嚴レ法。刻レ刑。盡除二故臣一。更置レ所二親信一。則高レ枕肆レ志矣。二世然レ之。更爲二法律一。

二世皇帝、名は胡亥、元年、東、郡縣を行り、趙高に謂つて曰く、吾耳目の好む所を悉し、心志の樂みを窮めて、以て吾が年を終へんと欲す。高曰く、陛下、法を嚴にし、刑を刻にして、盡く故臣を除き、更めて親信する所を置かば、即ち枕を高くして志を肆にせんと。二世之を然りとす。更めて法律を爲り、務めて益〻刻深(一)にす。公子大臣多く僇死(二)す。陽城の人陳勝、字は涉、少くして人の與に傭はれ畊す。畊を輟めて壠上(三)に之き、悵然(四)之を久しくして曰く、苟くも富貴(五)とならば相忘るゝ無けんと。傭者笑ひて曰く、若傭はれ畊すことを爲す。何ぞ富貴ならんやと。勝、大息して曰く、嗟呼燕雀(六)安んぞ鴻鵠の志

道。自二殿下一直抵二南山。表二南山之顚。以爲レ闕。爲二複道一自二阿房一渡レ渭。屬二之咸陽。以象三天極閣道絕レ漢抵二營室一也。阿房宮未レ成。成欲三更擇二令名一。天下謂二之阿房宮一。始皇爲レ人。天性剛戾自用。天下事無二大小一皆決二於上一。至下以二衡石一量上レ書。日夜有レ程。不レ得二休息一。貪二於權勢一至レ如レ此。秦有二出使者一。還遇二人持レ璧授一レ之。曰。爲レ吾遺二滈池君一。明年祖龍死。三十七年。始皇出遊。丞相斯。少子胡亥。宦者趙高從。始皇崩二於沙丘平臺一。祕不レ

を量るに至る。日夜、程有り、休息するを得ず。權勢を貪ると此の如きに至る。秦に、出でゝ使する者有り。還るとき、人の璧を持ちて之に授くるに遇ふ。曰く、吾が爲に滈池君(一〇)に遺れ、明年、祖龍(一一)死せんと〇三十七年、始皇出遊す。丞相斯・少子胡亥・宦者趙高從ふ。始皇、沙丘の平臺に崩ず。祕して喪を發せず、詐りて詔を受くと爲し、胡亥を立て、扶蘇に死を賜ふ。始皇を轀輬車(一二)中に載せ、一石の鮑魚を以て其臭を亂し、咸陽に至りて始めて喪を發す。胡亥位に卽く。是を二世皇帝と爲す。

(一) 數多の木を架け渡す (二) 高く架したる廻廊 (三) 立派にしての意 (四) 星の名、天極星中の閣道星 (五) 銀河を横切る (六) 星の名 (七) よき名 (八) 剛くして我儘に、凡て己の心通りにする (九) 書類をはかりにかけて毎日何貫目と定め、怠りなく調べる (一〇) 咸陽附近に在る臨池の祭神 (一一) 祖は始祖、龍は天子、始皇をいふ (一二) 車上に窓あり、其開閉によりて溫涼を調節すべきもの

以レ吏爲レ師。制曰。可。三十五年。侯生盧生。相與譏二議始皇一。因亡去。始皇大怒曰。盧生等吾尊賜レ之甚厚。今乃誹二謗我一。諸生在二咸陽一者。吾使二人廉問一。或爲二妖言一。以亂二黔首一。於レ是使二御史悉案問一。諸生傳相告引。乃自除。犯レ禁者四百六十餘人。皆坑二之咸陽一。長子扶蘇諫曰。諸生皆誦二法孔子一。今上皆重レ法繩レ之。臣恐天下不レ安。始皇怒。使三扶蘇北監二蒙恬軍於上郡一。

めて　(六)語り合ふこと　(七)死罪にして、其死骸を市にさらす　(八)農林の書　(九)問ひ察する　(一〇)奇怪の言説　(一一)互に告發牽引して罪を他人にきす

始皇以爲。咸陽人多。先王宮庭小。乃營二作朝宮渭南上林苑中一。先作二前殿阿房一。東西五百步。南北五十丈。上可レ坐二萬人一。下可レ建二五丈旗一。周馳爲二閣

○始皇以爲らく、咸陽は人多く、先王の宮庭小なりと。乃ち朝宮を渭南の上林苑中に營作し、先づ前殿を阿房に作る。東西五百步、南北五十丈、上には萬人を坐せしむ可く、下には五丈の旗を建つ可し。周馳して閣道を爲り、殿下より直に南山に抵り、南山の顚に表して、以て闕を爲る。(一)複道を爲り、(二)阿房より渭を渡り、之を咸陽に屬す。以て天極の閣道、(三)(四)漢を絕ちて、(五)營室に抵るに象る也。(六)阿房宮未だ成らず。成らば更めて令名を擇ばんと欲す。(七)天下之を阿房宮と謂ふ○始皇人と爲り天性剛戾(八)自ら用ひ、天下の事大小と無く、皆上に決す。衡石を以て書(九)

而學レ古。以非ニ當世ー。惑ニ亂黔首ー。聞ニ令下ー。則各以ニ其學ー議レ之。入則心非。出則巷議。率ニ羣下ー以造レ謗。臣請史官非ニ秦記ー皆燒レ之。非ニ博士官所一レ職。天下有下藏ニ詩書百家語ー者上。皆詣ニ守尉ー。雜燒レ之。有下偶ニ語詩書ー者上棄市。以レ古非レ今者族。所レ不レ去者。醫藥卜筮種樹之書。若有レ欲レ學ニ法令ー。

に詩書百家の語を藏むる者有らば、皆守尉(五)に詣らしめ、雜へて之を燒かん。詩書を偶語(六)する者有らば棄市(七)せん。古を以て今を非る者は族せん。去らざる所の者は、醫藥・卜筮(八)・種樹の書のみ。若し法令を學ばんと欲するもの有らば、吏を以て師とせんと。制して曰く、可なりと○三十五年、侯生・盧生、相與に始皇を譏り議し、因りて亡げ去る。始皇大に怒りて曰く、盧生等は、吾尊びて之に賜ふこと甚だ厚し。今乃ち我を誹謗す。諸生の咸陽に在る者、吾、人をして廉問(九)せしむるに、或は妖言を爲して、以て黔首を亂ると。是に於て御史をして悉く案問せしむ。諸生傳へて(一〇)相告引し、乃ち自ら除く。禁を犯す者四百六十餘人、皆之を咸陽に坑にす。長子扶蘇(一一)諫めて曰く、諸生皆孔子を誦法す。今上、皆法を重くして之を繩す。臣恐らくは、天下安からざらんことをと。始皇怒り、扶蘇をして北のかた蒙恬の軍を上郡に監せしむ。

(一) 昔 (二) 人民 (三) 大勢の門下 (四) 史官の藏書中、秦室の記錄に非ざるものは (五) 毎郡の守や尉の許に集

君何神。對曰。堯女。舜妻。始皇大怒。伐二其樹一。赭二其山一。韓人張良以二五世相一レ韓。韓亡欲レ爲レ報レ仇。始皇東遊。至二博浪沙中一。良令下力士操二鐵椎一。撃中始皇上。誤中二副車一。始皇驚求弗レ得。令二天下一大索。三十一年。更レ臘爲二嘉平一。三十二年。巡皇始二北邊一。方士盧生入レ海還。奏二錄圖書一曰。亡レ秦者胡也。始皇乃遣二蒙恬一。發二兵三十萬人一。北伐二匈奴一。築二長城一。起二臨洮一至二遼東一。延袤萬餘里。威振二匈奴一。

に至る。(七)延袤萬餘里、威匈奴に振ふ。

(一)土を積み上げて天を祭る　(二)地をはらひ淨めて山川を祭る　(三)道術を使ふ人、道士徐市は徐福と同人也、市は古の芾の字、音シに非ず　(四)湘山に祭れる神　(五)禿げ山　(六)毎年十二月に行ふ祭の名　(七)延長

三十四年。丞相李斯上書曰。異時諸侯竝爭。厚招二遊學一。今天下已定。法令出レ一。百姓當レ家。則力二農工一。士則學二習法令一。今諸生。不レ師レ今

○三十四年、丞相李斯上書して曰く、異時、諸侯竝び爭ひ、厚く遊學を招く。今天下已に定まり、法令一に出づ。百姓家(一)に當れば、則ち農工に力め、士は則ち法令を學習す。今の諸生、今を師とせずして古へを學び、以て當世を非り、或は(二)黔首を惑亂す。令の下るを聞けば、則ち各〻其學を以て之を議し、入りては則ち心に非とし、出でゝは則ち巷に議し、(三)羣下を率ゐて以て謗を造す。臣請ふ、(四)史官の秦の記に非ざる者は皆之を燒かん。博士官の職とする所に非ずして、天下

上二鄒嶧山一。立レ石頌二功業一。上二泰山一。立レ石封祠祀。既下。風雨暴至。休二樹下一。封二其松一爲二五大夫一。禪二于梁父一。遂東遊二海上一。方士齊人徐市等。上書請下與二童男童女一入レ海。求中蓬萊方丈瀛州三神山仙人及不死藥上。如二其言一。遣二市等行一。始皇浮レ江至二湘山一。大風幾不レ能レ渡。問二博士一曰。湘

山に上り、石を立てゝ(一)封じて祠祀す。既に下れば、風雨暴に至る。樹下に休ふ。其松を封じて五大夫と爲す。梁父に禪し、(二)遂に東して海上に遊ぶ。(三)方士齊人徐市等、上書して、童男童女と海に入り、蓬萊・方丈・瀛州三神山の仙人及び不死の藥を求めんと請ふ。其言の如くし、市等をして行かしむ。始皇、江に浮びて湘山に至る。大風幾ど渡る能はず。博士に問ひて曰く、(四)湘君は何の神ぞ。對へて曰く、堯の女、舜の妻なりと。始皇大に怒り、其樹を伐りて其山を赭にす(五)○韓人張良、五世韓に相たるを以て、韓亡びて爲に仇を報いんと欲す。始皇、東遊して、博浪沙の中に至る。良、力士をして鐵椎を操りて、始皇を撃たしむ。誤りて副車に中る。始皇驚き求むれども得ず。天下に令して大に索む○三十一年、(六)臘を更めて嘉平と爲す○三十二年、始皇北邊を巡る。方士盧生、海に入りて還り、圖書を奏錄して曰く、秦を亡す者は胡ならんと。始皇乃ち蒙恬を遣はし、兵三十萬人を發して、北のかた匈奴を伐ち、長城を築く。臨洮より起りて遼東

於咸陽。十二萬戶。丞相王綰等言。燕齊荊地遠。不置王無以鎭之。請立諸子。始皇下其議。廷尉李斯曰。周武王所封子弟。同姓甚衆。後屬疏遠。相攻擊如仇讐。今海內賴陛下神靈。一統皆爲郡縣。諸子功臣。以公賦稅重賞賜之。甚足易制。天下無異意。則安寧之術也。置諸侯不便。始皇曰。天下初定。又復立國。是樹兵也。而求其寧息。豈不難哉。廷尉議是。分天下爲三十六郡。置守尉監。

下す。廷尉李斯曰く、周の武王封ずる所の子弟、同姓甚だ衆し。後疏遠に屬し、相攻撃すること仇讐の如し。今海內、陛下の神靈に賴り、一統して皆郡縣と爲る。諸子功臣は、公賦の稅を以て之を賞賜せば、甚だ足りて制し易からん。天下に異意(四)なきは、則ち安寧の術也。諸侯を置くは不便なり。始皇曰く、天下初めて定まる。又復た(五)國を立つ、是れ兵を樹つる也。而して其寧息(六)を求む、豈難からずや。廷尉の議是なりと。天下を分ちて三十六郡と爲し。守・尉・監を置く。

(一)兵器　(二)鑄つぶす　(三)鐘鐻は、鐘とそれを釣り懸くもの、金人は銅の人　(四)異志也、秦に叛く心　(五)再び諸侯を置くをいふ　(六)天下の太平

二十八年。始皇東行郡縣。

○二十八年、始皇東して郡縣を行り、鄒嶧山に上り、石を立てゝ功業を頌し、泰

黔首一以資二敵國一。卻二賓客一以業二諸侯一。所謂藉二寇兵一而齎二盜糧一者也。王乃聽二李斯一。復二其官一。除二逐客令一。斯楚人。嘗

を以て謚と爲すは、則ち是れ子として父を議し、臣として君を議する也。甚だ謂れ無し。今より以來、謚法を除かん。朕を始皇帝と爲し、後世以て數を計り、二世・三世より、十萬世に至り、之を無窮に傳へんと。

㈠他國より來りて卿位に升りし者　㈡合從　㈢人民　㈣賓客を逐はば皆走りて他の諸侯を助けん、即ち客を卻くるは諸侯を利し之を助くる所以也　㈤法律の學　㈥讒言して遠ざく

學二於荀卿一。秦卒用二其謀一。并二天下一。有二韓非者一。善二刑名一。爲レ韓使レ秦。因上書。王悅レ之。斯疾而間レ之。遂下レ吏。斯遣二之藥一令二自殺一。十七年。內史勝滅レ韓。十九年。王翦滅レ趙。二十三年王賁滅レ魏。二十四年。王翦滅レ楚。二十五年。王賁滅レ燕。廿六年王賁滅レ齊。秦王始并二天下一。自以德兼二三皇一。功過二五帝一。更號曰二皇帝一。命爲レ制。令爲レ詔。自稱曰レ朕。制曰。死而以レ行爲レ謚。則是子議レ父。臣議レ君也。甚無レ謂。自レ今以來除二謚法一。朕爲二始皇帝一。後世以計レ數。二世三世。至二十萬世一。傳二之無窮一。

收二天下兵一。聚二咸陽一。銷以爲二鐘鐻金人十二一。重各千石。徙二天下豪富

○天下の兵を收めて咸陽に聚め、銷して以て鐘鐻金人十二を爲る。重さ各〻千石。天下の豪富を咸陽に徙すこと十二萬戶○丞相王綰等言ふ、燕・齊・荊は地遠し。王を置かずんば、以て之を鎭むること無けん。請ふ、諸子を立てんと。始皇其議を

戎一。得二百里奚於宛一。迎二蹇叔於宋一。求二丕豹。公孫枝於晉一。幷レ國二十。遂霸二西戎一。孝公用二商鞅之法一。諸侯親服。至レ今治強。惠王用二張儀之計一。散二六國從一。使二之事一レ秦。昭王得二范雎一强二公室一。此四君者。皆以二客之功一。客何負二於秦一哉。泰山不レ讓二土壤一。故大。河海不レ擇二細流一。故深。今乃棄二

從(二)を散じて、此をして秦に事へしめ、昭王、范雎を得て公室を強くす。此四君は皆客の功を以てせり。客何ぞ秦に負かんや。泰山は土壤を讓らず、故に大也。河海は細流を擇ばず、故に深し。今乃ち黔首(三)を棄てゝ以て敵國を資け、賓客を卻けて以て(四)諸侯を業く。所謂寇に兵を籍して、盜に糧を齎らす者也と。王乃ち李斯に聽きて、其官を復し、逐客の令を除く。斯は楚人也。嘗て荀卿に學ぶ。秦卒に其謀を用ひて天下を幷す。韓非といふ者有り。(五)刑名を善くす。韓の爲に秦に使し、因りて上書す。王之を悅ぶ。斯疾みて之を間し、(六)遂に吏に下す。斯之に藥を遺りて自殺せしむ○十七年、內史勝、韓を滅し、十九年、王翦、趙を滅し、二十三年、王賁、魏を滅し、二十四年、王翦、楚を滅し、二十五年、王賁、燕を滅し、二十六年、王賁、齊を滅し、秦王初めて天下を幷す。自ら以へらく、德、三皇を兼ね、功、五帝に過ぎたりと。更め號して皇帝と曰ひ、命を制と爲し、令を詔と爲し、自ら稱して朕と曰ふ。制して曰く、死して行

陽夫人之姉。以說妃。立楚爲適嗣。不韋因納邯鄲美姫。有娠而獻于楚。生政。實呂氏。孝文王立。三日而薨。楚立。是爲莊襄王。四年薨。政生十三歲矣。遂立爲王。母爲太后。不韋在莊襄王時。已爲秦相國。至是封文信侯。太后復與不韋通。王既長。不韋事覺自殺。太后廢處別宮。茅焦諫。母子乃復如初。

信侯に封ぜらる。太后復た不韋と通ず。王既に長じ、不韋事覺はれて自殺す。太后、廢せられて別宮に處る。茅焦諫む。(四)母子乃ち復た初めの如かりき。

(一) 大商人　(二) 奇貨は珍寶也、以て庶子楚に喩ふ。結構なる代物なり、藏し置きて他日大儲をなすべしと也　(三) 適は嫡に同じ、適嗣　(四) 太后再び成陽に還り、母子の交また初の如くなりたり

秦宗室大臣議曰。諸侯人來仕者。皆爲其主游說耳。請一切逐之。於是大索逐客。客卿李斯上書曰。晉穆公取由余於

○秦の宗室大臣議して曰く、諸侯の人の來り仕ふる者、皆其主の爲に游說するのみ。請ふ、一切之を逐はんと。是に於て大に索めて客を逐ふ。(一)客卿李斯、上書して曰く、晉の穆公、由余を戎に取り、百里奚を宛に得、蹇叔を宋に迎へ、丕豹・公孫枝を晉に求め、國を幷すること二十、遂に西戎に覇たり。孝公、商鞅の法を用ひて、諸侯親服し、今に至るまで治强なり。惠王、張儀の計を用ひ、六國の

秦始皇帝。名政。始生二於邯鄲一。昭襄王時。孝文王柱爲二太子一。有二庶子楚一。爲レ質二於趙一。陽翟大賈呂不韋適レ趙見レ之曰。此奇貨可レ居。乃適レ秦。因二太子妃華

巻之二

秦

始皇帝

秦の始皇帝、名は政、始め邯鄲に生る。昭襄王の時、孝文王柱、太子たり。庶子楚有り、趙に質たり。陽翟の大賈呂不韋、趙に適き、之を見て曰く、此れ奇貨なり、居く可しと。乃ち秦に適き、太子の妃華陽夫人の姉に因りて、以て妃に説き、楚を立てゝ適嗣と爲す。不韋、因りて邯鄲の美姫を納る。娠む有りて楚に獻ず。政を生む。實は呂氏なり。孝文王立つ。三日にして薨ず。楚立つ。是を莊襄王と爲す。四年にして薨ず。政、生れて十三歳、遂に立ちて王と爲り、母を太后と爲す。不韋、莊襄王の時に在りて、已に秦の相國たり。是に至り、文

四裔。中國之制。可㆑攷㆓於王制㆒者。九州千七百七十三國。古之建㆑侯。各君㆓其國。各子㆓其民㆒而宗㆓主於天子。歷㆓夏殷㆒至㆑周。强併㆑弱。大呑㆑小。春秋十二國外。存者無㆑幾。戰國存者六七。至㆑是遂併㆓於秦。

を建つるは、各々其國に君とし、各々其民を子として、天子を宗主とす。夏・殷を歷て周に至り、强は弱を併せ、大は小を呑む。春秋十二國の外、存する者幾くも無く、戰國の存する者六七、是に至りて、遂に秦に併せらる。

㊀ 一萬區域卽ち一萬國　㊁ 四方の遠きはて　㊂ 禮記の王制第五をいふ、先王の班爵・授祿・祭祀・養老の法度を記せる篇也。攷は考に同じ

薑豆其前。而馬ニ食之。使三歸告ニ魏王一曰。速斬ニ魏齊頭一來。不レ然且レ屠ニ大梁。賈歸告ニ魏齊。魏齊出走而死。睢既得ニ志于秦。一飯之德必償。睚眦之怨必報。王既用ニ睢策。歲加ニ兵三晉一。斬首數萬。周赧王恐。與ニ諸侯一約レ從。欲レ伐レ秦。秦攻レ周。赧王入レ秦。頓首請レ罪。盡獻ニ其邑三十六。周亡。秦將武安君白起。與ニ范睢一有レ隙。廢爲ニ士伍。賜レ劍死ニ于杜郵。王臨レ朝而歎曰。內無ニ良將。外多ニ強敵。睢懼。蔡澤曰。四時之序成レ功者去。睢稱レ病。澤代レ之。昭襄王薨。子孝文王柱立。薨。子莊襄王楚立。薨。嗣爲レ王者政也。遂幷ニ六國。是爲ニ秦始皇帝。

く、內に良將無く、外に強敵多しと。睢懼る。蔡澤曰く、四時(八)の序功を成す者は去ると。睢、病と稱し、澤、之に代る。昭襄王薨じて、子孝文王柱立つ。薨ず。子莊襄王楚立つ。薨ず。嗣いで王と爲りし者は政也。遂に六國を幷す。是を秦の始皇帝と爲す。

(一)忍び往きて　(二)貧乏　(三)絹の綿入れ　(四)叱りせむ　(五)舊友人　(六)馬のかひば也　(七)にらみ合へる程の怨み、僅かの怨み　(八)春は物を生じて去り、夏は之を長じて去り、秋は成して去り、冬は收めて去る

黃帝以來。天下列ニ百里之國一萬區。蓋自ニ中國。以達ニ于

黃帝より以來、天下、百里の國を列する、萬區(一)なり。蓋し中國よりして、以て四裔(二)に達す。中國の制、王制(三)に攷ふ可き者、九州、千七百七十三國。古の侯

飲食。曰。范叔一寒如レ此哉。取二一綈袍一贈レ之。遂爲レ賈御至二相府一曰。我爲レ君先入通二于相君。賈見二其久不レ出。問二門下。門下曰。無二范叔。鄉者吾相張君也。賈知レ見レ欺。乃膝行入謝レ罪。睢坐責二讓之一曰。爾所二以得レ不レ死者。以三綈袍戀戀。尙有二故人之意一爾。乃大供具。請二諸侯賓客。置二

く、我、君の爲に先づ入りて相君に通ぜんと。賈、其久しく出でざるを見、門下に問ふ。門下曰く、范叔といふもの無し。鄉の者は吾が相張君也と。賈、欺かれたるを知り、乃ち膝行して入りて罪を謝す。睢、坐して之を責讓(四)して曰く、爾の死せざるを得る所以の者は、綈袍戀戀、尙ほ故人の意有るを以てのみと。乃ち大に供具し、諸侯の賓客を請ひ、(六)莝豆を其の前に置きて(五)、之を馬食せしむ。歸りて魏王に告げしめて曰く、速かに魏齊の頭を斬りて來れ。然らざれば且に大梁を屠らんとすと。賈歸りて魏齊に告ぐ。魏齊出で走りて死す。睢、既に志を秦に得、一飯の德も必ず償ひ、(七)睚眦の怨も必ず報ゆ。王既に睢の策を用ひ、歳ごとに兵を三晉に加へ、首を斬ること數萬なり。周の赧王恐れ、諸侯と從を約して、秦を伐たんと欲す。秦、周を攻む。赧王、秦に入り、頓首して罪を請ひ、盡く其邑三十六を獻ず。周亡ぶ。秦の將武安君白起、范睢と隙有り。廢して士伍と爲し、劍を賜ひて杜郵に死せしむ。王、朝に臨みて歎じて曰

必聴レ之。王曰。寡人弗レ聴。乃盟二于息壤一。茂伐二宜陽一。五月而不レ拔。二人果爭レ之。武王召レ茂欲レ罷レ兵。茂曰。息壤在レ彼。王乃悉起レ兵佐レ茂。遂拔レ之。武王有レ力。好レ戲。力士任鄙・烏獲・孟説。皆至二大官一。王與二孟説一擧レ鼎。絶レ脈死。弟昭襄王稷立。有二魏人范雎者一。嘗從二須賈一使レ齊。齊王聞二其辯口一。乃賜二之金及牛酒一。賈疑下雎以二國陰事一告上レ齊。歸告二魏相魏齊一。魏齊怒笞擊レ雎。折レ脅拉レ齒。雎佯死。卷以レ簀置二廁中一。使二醉客更溺一レ之。以懲レ後。雎告二守者一得レ出。更二姓名一曰二張祿一。秦使者王稽至レ魏。潛載與歸。薦二于昭襄王一以爲二客卿一。教以二遠交近攻之策一。時穰侯魏冉用レ事。雎説レ王廢レ之。而代爲二丞相一。號二應侯一。

秦の使者王稽、魏に至り、潛に載せて與に歸り、昭襄王に薦めて以て客卿と爲す。教ふるに遠交近攻の策を以てす。(七)時に穰公魏冉事を用ふ。雎、王に說きて之を廢して、代りて丞相と爲り、應侯と號す。

(一)敵所の險阻を據えて　(二)他國より來りて仕ふる臣　(三)彼の息壤の盟を忘れたりやとなり　(四)「雎」は原本「睢」(シヨ)に作る、今通鑑註によりスヰとす　(五)祕密　(六)後人の見せしめとす　(七)遠國と交り近國を攻む

魏使二須賈聘一レ秦。雎敝衣。閒步往見レ之。賈驚曰。范叔固無レ恙乎。留坐

魏、須賈をして秦に聘せしむ。雎、敝衣し、(一)閒步して往きて之を見る。賈、驚きて曰く、范叔固に恙無きかと。留り坐して飲食せしむ。曰く、范叔、一寒(二)此の如き哉と。一綈袍を取りて之に贈る。(三)遂に賈の爲に御して相府に至りて曰

及三人告之。母投杼下機。踰牆而走。臣賢不及曾參。王之信臣。又不如其母。疑臣者非特三人。臣恐大王之投杼也。魏文侯令樂羊伐中山。三年而後拔之。反而論功。文侯示之謗書一篋。再拜曰。非臣之功。君之力也。今臣羈旅之臣也。樗里子公孫奭挾韓而議。王

しむ。三年にして後之を拔く。反りて功を論ずるに、文侯之に謗書一篋を示す。再拜して曰く、臣の功に非ず、君の力也と。今臣は(一)羈旅の臣也。樗里子・公孫奭、韓を挾んで議らば、王、必ず之を聽かん。王曰く、(二)寡人、聽かじと。乃ち息壤に盟ふ。茂、宜陽を伐つ。五月にして拔けず。二人果して之を爭ふ。武王、茂を召して兵を罷めしめんと欲す。茂曰く、(三)息壤彼に在りと。王乃ち悉く兵を起して茂を佐け、遂に之を拔く。武王力有り。戲を好む。力士任鄙・烏獲・孟說、皆大官に至る。王、孟說と鼎を舉げ、脈を絕ちて死す。弟昭襄王稷立つ。魏人に(四)范雎といふ者有り。嘗て須賈に從ひて齊に使す。齊王其辯口を聞き、乃ち之に金及び牛酒を賜ふ。賈、雎が國の陰事を以て齊に告ぐるを疑ひ、歸りて魏の相魏齊に告ぐ。魏齊怒り、笞もて(五)雎を擊ちて、脅を折り齒を拉く。雎、佯り死す。卷くに簀を以てして廁中に置き、醉客をして更る〴〵之に溺せしめて、以て(六)後を懲らす。雎、守者に告げて出づることを得、姓名を更めて張祿と曰ふ。

便。鞅曰。皆亂レ法之民也。盡遷二之邊一。民莫二敢議一。令レ民。父子兄弟同室内息者爲レ禁。廢二井田一。開二阡陌一。更爲二賦稅法一。秦人富强。封二鞅商於十五邑一。號曰二商君一。孝公薨。惠文王立。公子虔之徒。告二鞅欲一レ反。鞅出亡。欲レ止二客舍一。舍人曰。商君之法。舍二人無一レ驗者坐レ之。鞅歎曰。爲レ法之弊一至レ此哉。去之レ魏。魏不レ受。內二之秦一。秦人車裂以徇。鞅用レ法酷。步過二六尺一者有レ罰。棄二灰於道一者被レ刑。嘗臨レ渭論レ囚。渭水盡赤。

（一）おもり役　（二）いれずみす　（三）政道を兎角いふ者は法を亂すの民なりとて　（四）蓋し兵役等を課すべき戸を多くする也　（五）田を縱橫に分ち、中央を公田とし、他を八家に分ち與へ、公田は之を八家共同にて耕す制度　（六）井田の間の道路　（七）旅行手形　（八）車裂きの刑に處す　（九）非常に多くの人を殺したる也

惠文王薨。子武王立。武王使二甘茂伐一レ韓。茂曰。宜陽大縣。其實郡也。今倍二數險一行千里。攻レ之難。魯人有下與二曾參一同二姓名一者上。殺レ人。人告二其母一。母織自若。

惠文王薨じて、子武王立つ。武王、甘茂をして韓を伐たしむ。茂曰く、宜陽は大縣、其實は郡也。今數險を倍きて行くこと千里、之を攻むること難し。魯人に曾參と姓名を同じくする者有り。人を殺す。人其母に告ぐ。母織ると自若たり。三人の之を告ぐるに及び、母、杼を投じて機を下り、墻を踰えて走る。臣の賢は曾參に及ばず。王の臣を信ずると又其母に如かず。臣を疑はしむる者特に三人のみに非ず。臣恐らくは大王の杼を投ぜんことを。魏の文公、樂羊をして中山を伐た

莫二敢徙一。復曰。能徙者予二五十金一。有二一人一徙レ之。輒予二五十金一。乃下レ令。太子犯レ法。鞅曰。法之不レ行。自レ上犯レ之。君嗣不レ可レ施レ刑。刑二其傅公子虔一。黥二其師公孫賈一。秦人皆趨レ令。行レ之十年。道不レ拾レ遺。山無二盜賊一。家給。人足。民勇二於公戰一。怯二於私鬪一。鄕邑大治。初言二令不便一者。來言二令

犯せばなり。君の嗣は刑を施す可からずと。其(一)傅公子虔を刑し、其師公孫賈を黥す。秦人皆令に趨く。之を行ふ十年、道に遺ちたるを拾はず、山に盜賊無し。(二)家ゝ給し、人ゝ足る。民、公戰に勇にして、私鬪に怯なり。鄕邑大いに治る。初め令の不便を言ひし者、來りて令の便を言ふ。鞅曰く、(三)皆法を亂るの民也と。盡く之を邊に遷す。民、敢て議する莫し。民に令して、父子兄弟の同室内息する者を禁と爲す。(五)井田を廢し、(六)阡陌を開き、更めて賦稅の法を爲る。(四)秦人、富强なり。鞅を商於十五邑に封ず。號して商君と曰ふ。孝公薨じて、惠文王立つ。公子虔の徒、鞅、反せんと欲すと告ぐ。鞅、出で亡げ、客舍に止らんと欲す。舍人曰く、商君の法、人の(七)驗無きを舍する者は之を坐すと。鞅、歎じて曰く、法を爲るの弊一に此に至るかと。去つて魏に之く。魏、受けずして、之を秦に內る。秦人、(八)車裂して以て徇ふ。鞅、法を用ふる酷なり。步、六尺に過ぐる者は罰有り。灰を道に棄つる者は刑せらる。嘗て渭に臨みて囚を論ずるや、渭水盡く(九)赤かりき。

衛公孫鞅入レ秦。因二嬖人景監一以見。說以二帝道王道一。三變爲二霸道一。而後及二强レ國之術一。公大悅。欲レ變レ法。恐二天下議一レ己。鞅曰。民不レ可二與慮一レ始。而可二與樂一レ成。卒定レ令。令下民爲二什伍一。相收司連坐上。不レ告レ姦者腰斬。告レ姦者與レ斬レ敵同賞。匿レ姦者與レ降レ敵同レ罰。有二軍功一者。各以レ率受レ爵。爲二私鬭一者各以二輕重一被レ刑。大小戮レ力本二業耕織一。致二粟帛一多者復二其身一。事二末利一。及怠而貧者。擧以爲二收孥一。

爲す者は各〻輕重を以て刑を被る。大小力を戮せて耕織を本業とす。粟帛を致すこと多き者は其身を復す。(七)末利を事とし、及び怠りて貧しき者は、擧げて以て收孥と爲す。(八)

(一)領分の土地　(二)お氣に入りの臣　(三)帝道は五帝の治道、王道は三王の治道、霸道は五霸の治道　(四)事の初に民意を問ふべきにあらず　(五)什は十家の組合、伍は五家の組合　(六)互に相收め相管せしめ、一人罪あれば、其組の者皆罰せらる　(七)兵役を免除するをいふ　(八)家族を官に沒收して奴隷となす

令既具未レ布。立二三丈之木於國都市南門一募レ民。有下能徙二北門一者上。予二十金一。民怪レ之

令、既に具りて未だ布かず。三丈の木を國都の市の南門に立てゝ民を募る。能く北門に徙す者有らば、十金を予へんと。民之を怪み、敢て徙すもの莫し。復た曰く、能く徙す者には、五十金を予へんと。一人有り之を徙す。輒ち五十金を予ふ。乃ち令を下す。太子、法を犯す。鞅曰く、法の行はれざるは、上より之を

德。穆公後又送二晉文公一歸レ國。立而霸二諸侯一。晉文公卒。秦遣二孟明一襲レ鄭。因破レ滑。晉襄公敗二之崤一。繆公不レ替二孟明一修二國政一。後伐レ晉得レ志。遂霸二西戎一。

歷二康公。共公。桓公。景公。哀公。惠公。悼公。厲公。共公。躁公。懷公。靈公。簡公。惠公。出子。獻公一。至二孝公一。河山以東。强國六。小國十餘。皆以二夷狄一遇レ秦。擯不レ與二諸侯之會盟一。孝公下レ令。賓客羣臣有下能出二奇計一强レ秦者上。吾其尊レ官與二之分土一。

康公・共公・桓公・景公・哀公・惠公・悼公・厲公・共公・躁公・懷公・靈公・簡公・惠公・出子・獻公を歷て、孝公に至る。河山以東、强國六、小國十餘、皆夷狄を以て秦を遇し、擯けて諸侯の會盟に與らしめず。孝公令を下し、賓客羣臣の能く奇計を出して秦を强くする者有らば、吾其れ官を尊くし、之に分土(一)を與へんと。衛の公孫鞅、秦に入り、嬖人(二)景監に因りて以て見え、說くに帝道(三)・王道を以てし、三變して霸道を爲し、而る後國を强くするの術に及ぶ。公、大に悅び法を變ぜんと欲すれども、天下の己を議せんを恐る。鞅曰く、民は與に始(四)を慮る可からずして、與に成を樂む可しと。卒に令を定む。民をして什伍(五)を爲して、相收司(六)して連坐せしむ。姦を告げざる者は腰斬す。姦を告ぐる者は敵を斬ると賞を同うす。姦を匿す者は敵に降ると罰を同うす。軍功有る者は各ゝ率を以て爵を受く。私鬪を

周有レ功。封爲二諸侯一。賜以二岐西地一。歷二文公寧公。德公。宣公。成公一。至二繆公一。有二百里傒者一。故虞大夫也。爲二繆公夫人媵一。亡レ秦走レ宛。楚人執レ之。繆公聞二其賢一。以二五羖羊皮一。贖二得之一。授二之政一。號曰二五羖大夫一。百里傒進二其友蹇叔一。以爲三上大夫一。繆公逆二晉惠公一歸レ晉。已而倍レ秦。合二戰于韓一。繆公爲二晉軍一所レ圍。岐下有下嘗食二公馬一者三百人上。馳冒二晉軍一。晉解レ圍。遂脫二繆公一以反。先レ是繆公亡二善馬一。野人共得而食レ之。吏逐得。欲レ法レ之。公曰。食二善馬一。不レ飲レ酒傷レ人。皆賜レ酒而赦レ之。至レ是聞二秦擊一レ晉。皆願レ從。推レ鋒爭レ死以報レ

繆公、晉の軍に圍まる。岐下(五)に嘗て公の馬を食ふ者三百人有り。馳せて晉の軍を冒す。晉、圍を解く。遂に(六)繆公を脫して以て反る。是より先、繆公、善馬を亡ふ。野人共に得て之を食ふ。吏、逐ひて得、之を法にせんと欲す。(七)公曰く、善馬を食ひて、酒を飲まざれば人を傷ると。皆酒を賜ひて、之を赦す。是に至りて、秦、晉を撃つと聞き、皆從はんを願ひ、(八)鋒を推し死を爭ひて以て德に報いぬ。繆公、後又晉の文公を送りて國に歸す。立ちて諸侯に霸たり。晉の文公卒す。秦、孟明を遣して鄭を襲はしめ、因りて滑を破る。晉の襄公之を殽に敗る。繆公、孟明を替てずして國政を修めしむ。後晉を伐ちて志を得、遂に西戎に霸たり。

(一)汧水と渭水　(二)嫁入の附添ひ役　(三)五枚の牡羊の皮　(四)政治を行はしむ　(五)岐山のふもと　(六)圍みの中より繆公を救ひ出して　(七)法律に照して刑せんとす　(八)敵のほこさきをおしひらき

秦之先。本顓頊之裔。曰二大業一者生二柏翳一。舜賜二姓嬴氏一。其後有二蜚廉一。蜚廉子曰二女防一。女防之後有二非子一。好レ馬。爲二周孝王一。主二馬於汧渭之閒一。馬大蕃息。分レ土爲二附庸一。邑二之秦一。閲二二世一至二秦仲一。始大。歷二莊公一至二襄公一。犬戎殺二幽王一。襄公救レ

秦

秦の先は、本顓頊の裔なり。大業と曰ふ者、柏翳を生む。舜、姓を嬴氏と賜ふ。其後蜚廉有り。蜚廉の子を女防と曰ふ。女防の後に非子有り。馬を好む。周の孝王の爲に、馬を(一)汧渭の閒に主る。馬大に蕃息す。土を分ちて附庸と爲し、之を秦に邑す。二世を閲して秦仲に至り、始めて大なり。莊公を歷て、襄公に至り、犬戎、幽王を殺す。襄公、周を救ひて功有り。封じて諸侯と爲し、賜ふに岐西の地を以てせり。文公・寧公・出子・武公・徳公・宣公・成公を歷て、繆公に至る。百里傒といふ者有り。故の虞の大夫なり。繆公の夫人の(二)媵と爲り、秦を亡げて宛に走る。楚人之を執ふ。繆公、其賢を聞き、(三)五羖羊の皮を以て、之を贖ひ得て、之に(四)政を授く。號して五羖大夫と曰ふ。百里傒、其友蹇叔を進む。以て上大夫と爲す。繆公、晉の惠公を送りて晉に歸す。已にして秦に倍き、韓に合戰す。

願得二將軍之首一。以獻二秦王一。必喜而見レ臣。臣左手把二其袖一。右手揕二其胸一。則將軍之仇報。而燕之恥雪矣。於期慨然遂自刎。丹奔往伏哭。乃以レ函盛二其首一。又嘗求二天下之利匕首一。以レ藥焠レ之。以試レ人。血如レ縷立死。乃裝遣レ軻。行至二易水一歌曰。風蕭蕭兮。易水寒。壯士一去兮不二復還一。于レ時白虹貫レ日。燕人畏レ之。軻至二咸陽一。秦王政大喜見レ之。軻奉レ圖進。圖窮而匕首見。把二王袖一揕レ之。未レ及レ身。王驚起絕レ袖。軻逐レ之。環レ柱走。秦法羣臣侍二殿上一者。不レ得レ操二尺寸兵一。左右以レ手搏レ之。且曰。王負レ劍。遂拔レ劍斷二其左股一。軻引二匕首一擿レ王。不レ中。遂體解以徇。秦王大怒。益發レ兵伐レ燕。喜斬レ丹以獻。後三年。秦兵虜レ喜。遂滅レ燕爲レ郡。

王政、大に喜びて之を見る。軻、圖を奉じて進む。圖窮りて、匕首見はる。王の袖を把りて之を揕す。未だ身に及ばず。王、驚き起ちて袖を絕つ。軻、之を逐ふ。柱を環りて走る。秦の法、羣臣の殿上に侍する者は、尺寸の兵を操るを得ず。左右手を以て之を搏ち、且曰く、王、劍を負へと。(五)遂に劍を拔いて其左股を斷つ。軻、匕首を引いて、王に擿つ。中らず。遂に體解して(六)、以て徇ふ(七)。秦王大に怒り、益〻兵を發して燕を伐つ。喜、丹を斬りて以て獻ず。後三年、秦の兵喜を虜にし、遂に燕を滅して郡と爲す。

(一) 寄宿せしむ (二) 地名、燕にて最も肥沃地といはる (三) 毒藥を塗り燒きて刃をかたくする也 (四) 支度を整へて (五) 劍を背に負ひ俯して肩上より引拔けとならん (六) 五體をばらばらに切り離して (七) 衆人にふれ示す

惠王後。有二武成王孝王一。至二王喜一。喜太子丹。質二於秦一。秦王政不レ禮焉。怒而亡歸。怨レ秦欲レ報レ之。秦將軍樊於期得レ罪。亡之レ燕。丹受而舍レ之。丹聞二衞人荊軻賢一。卑レ辭厚レ禮請レ之。奉養無レ不レ至。欲レ遣レ軻。軻請得二樊將軍首。及燕督亢地圖一。以獻レ秦。丹不レ忍レ殺二於期一。軻自以レ意諷レ之曰。

惠王の後に、武成王・孝王有り、王喜に至る。喜の太子丹、秦に質たり。秦王政、禮せず。怒りて亡げ歸り、秦を怨みて之に報いんと欲す。秦の將軍樊於期罪を得て、亡げて燕に之く。丹、受けて之を舍す(一)。丹衞人荊軻の賢を聞き、辭を卑くし禮を厚くして、之を請ひ、奉養至らざる無し。軻を遣はさんと欲す。軻請ふ、樊將軍の首、及び燕の督亢(二)の地圖を得て、以て秦に獻ぜんと。丹、於期を殺すに忍びず。軻、自ら意を以て之を諷して曰く、願はくは將軍の首を得て、以て秦王に獻ぜば、必ず喜びて臣を見ん。臣、左手に其袖を把り、右手に其胸を揕さば、則ち將軍の仇報じて、燕の恥、雪がれんと。於期、慨然として遂に自刎す。丹、奔り往きて伏し哭す。乃ち函を以て其首を盛る。又嘗て天下の利匕首を求め、藥(三)を以て之を焠して、以て人を試みしに、血、縷の如く立に死せり。乃ち裝し(四)て軻を遣る。行きて易水に至り、歌ひて曰く、風蕭蕭として易水寒し。壯士一たび去りて復た還らじと。時に白虹日を貫く。燕人之を畏る。軻、咸陽に至る。秦

國。以雪二先王之恥一。孤之願也。先生視二可者一。得二身事レ之。隗曰。古之君有下以二千金一使三涓人求二千里馬一者上。買二死馬骨五百金一而返。君怒。涓人曰。死馬且買レ之。况生者乎。馬今至矣。不レ期年一。千里馬至者三。今王必欲レ致レ士。先從レ隗始。况賢二於隗一者。豈遠二千里一哉。於レ是昭王爲レ隗改二築宮一。師二事之一。於レ是士爭趨レ燕。樂毅自レ魏往。以爲二亞卿一。任二國政一。已而使二毅伐一レ齊。入二臨淄一。齊王出走。毅乘レ勝。六月之間。下二齊七十餘城一。惟莒卽墨不レ下。昭王卒。惠王立。惠王爲二太子一。已不レ快二於毅一。田單乃縱二反間一曰。毅與二新王一有レ隙。不二敢歸一。以レ伐レ齊爲レ名。齊人惟恐二他將來卽墨殘一矣。惠王果疑レ毅。乃使二騎劫代將一。而召レ毅。毅奔レ趙。田單遂得レ破レ燕。而復二齊城一。

淄に入る。齊王、出で奔る。毅、勝に乘じて、六七月の間に、齊の七十餘城を下す。唯だ莒と卽墨とのみ下らず。昭王卒して、惠王立つ。惠王、太子たりしとき、已に毅に快からず。田單乃ち反間を縱ちて曰く、毅、新王と隙有り。(七)敢て歸らず。齊を伐つを以て名と爲す。齊人、惟だ他の將の來りて卽墨の殘せられんこ(八)とを恐ると。惠王、果して毅を疑ひ、乃ち騎劫をして代りて將たらしめ、而して毅を召す。毅、趙に奔る。田單、遂に燕を破るを得て、齊の城を復せり。(三)

(一) 王侯自稱の謙辭 (二) 共に國事に當りて也 (三) 然るべき賢者を擇べ (四) 君側にありて清潔洒掃の事を掌る小官 (五) 家也 (六) 正卿につぐ官位 (七) 仲わろし (八) 破られんことを

國爲從。文公卒。易王噲立。十年以國讓其相子之。南面行王事。而噲老不聽政。顧爲臣。國大亂。齊伐燕取之。醢子之而殺噲。燕人立太子平。爲君。是爲昭王。弔死問生。卑辭厚幣。以招賢者。問郭隗曰。齊因孤之國亂。而襲破燕。孤極知。燕小不足以報。誠得賢士。與共

りて臣と爲る。國、大に亂る。齊、燕を伐ちて之を取り、子之を醢にし、噲を殺す。燕人、太子平を立てゝ、君と爲す。是を昭王と爲す。死を弔ひ生を問ひ、辭を卑くし幣を厚くして以て賢者を招く。郭隗に問ひて曰く、齊の孤の國の亂るゝに因りて、燕を襲ひ破る。孤極めて知る、燕の小なる以て報ゆるに足らざるを。誠に賢士を得て、與に國を共にして、以て先王の恥を雪がんは、孤の願なり。先生、可なる者を視よ。身、之に事ふるを得ん。隗曰く、古の君に、千金を以て涓人をして千里の馬を求めしめし者有り。死馬の骨を五百金に買ひて返る。君怒る。涓人曰く、死馬すら且之を買ふ。況んや生ける者をや。馬、今至らんと。期年ならざるに、千里の馬至れる者三。今王、必ず士を致さんと欲せば、先づ隗より始めよ。況んや隗より賢れる者豈千里を遠しとせんやと。是に於て、昭王、隗の爲に宮を改め築きて之に師事す。是に於て、士、爭ひて燕に趨く。樂毅魏より往く。以て亞卿と爲し、國政を任ず。已にして毅をして齊を伐たしむ。臨

人於春申君。欲レ分レ楚。爲二玳瑁簪一。刀劍室飾以二珠玉一。春申君上客。皆躡二珠履一以見レ之。趙使大慙。趙人荀卿至レ楚。春申君以爲二蘭陵令一。李園以レ妹獻二春申君一。有レ娠而後納二之考烈王一。是生二幽王一。園使三盗殺二春申君一。以滅レ口。而專二楚政一。幽王卒。弟哀王爲二楚人一所レ弑。而立二其庶兄負芻一。秦王政遣レ將破レ楚。虜二負芻一。滅レ楚爲レ郡。

を滅して、楚の政を事にす。幽王卒し、弟哀王、楚人に弑せられて、其庶兄負芻を立つ。秦王政、將を遣して楚を破り、負芻を虜にし、楚を滅して郡と爲す。

㊀ かうがひ、冠を髮に止める爲めのもの　㊁ さや　㊂ 玉をちりばめたるはきもの　㊃ 幽王が春申君の子なることの人に知れざるやうにするため盗をして殺さしめたる也

燕姫姓。召公奭之所レ封也。三十餘世。至二文公一。嘗納二蘇秦之說一。約二六

燕

燕は姫姓。召公奭の封ぜられし所也。三十餘世、文公に至りて、嘗て蘇秦の說を納れ、六國に約して從を爲す。文公卒して、易王噲立つ。十年、國を以て其相子之に讓り、南面して王の事を行はしめ、而して噲は老して政を聽かず、顧

懐王大怒。伐レ秦大敗。秦昭王與二懐王一盟二于黄棘一。既而遣二書懐王一。願與二君王一會二武關一。屈平不レ可。子蘭勸レ王行。秦人執レ之以歸。楚人立二其子頃襄王一。懐王卒二於秦一。楚人憐レ之。如レ悲二親戚一。初屈平爲二懐王一所レ任。以レ讒見レ疏。作二離騷一以自怨。至二頃襄王時一。又以レ讒遷二江南一。遂投二汨羅一以死。秦拔レ郢。楚徙二於陳一。

(一)關門を閉ぢて齊との交通を絶つ、即ち國交を斷絶するをいふ也　(二)楚と絶ちて秦と合す　(三)欺かれたるを怒り　(四)詩の篇名、楚辭に載す　(五)さんげん

頃襄王卒。考烈王立。又徙二於壽春一。春申君黄歇行二相事一。當二是時一。齊有二孟嘗君一。魏有二信陵君一。趙有二平原君一。楚有二春申君一。皆好レ客。春申君食客三千餘人。平原君使二

頃襄王卒して、考烈王立つ。又壽春に徙る。春申君黄歇、相の事を行ふ。是の時に當りて、齊に孟嘗君有り、魏に信陵君有り、趙に平原君有り、楚に春申君有り、皆客を好む。春申君の食客三千餘人、平原君人を春申君に使す。楚に夸らんと欲し、玳瑁の簪(一)を爲り、刀劍の室(二)、飾るに珠玉を以てす。春申君の上客(三)、皆珠履を躡きて以て之を見る。趙の使大に慙づ。趙人荀卿、楚に至る。春申君以て蘭陵の令と爲す。李園、妹を以て春申君に獻ず。娠む有りて後、之を考烈王に納る。是れ幽王を生む。園、盜をして春申君を殺さしめて、以て口(四)

歷二共王。康王。郟敖。靈王。平王。昭王。惠王。簡王。聲王。悼王。肅王。宣王。威王一。至二懷王一。秦惠王欲レ伐齊。患三楚與從親一。乃使三張儀說二楚王一曰。王閉レ關而絕レ齊。請獻二商於之地六百里一。懷王信レ之。使三勇士北辱二齊王一。齊王大怒而與レ秦合。楚使受二地於秦一。儀曰。地從レ某至レ某廣袤六里。

共王・康王・郟敖・靈王・平王・昭王・惠王・簡王・聲王・悼王・肅王・宣王・威王を歷て懷王に至る。秦の惠王、齊を伐たんと欲するも、楚の與に從親するを患ひ、乃ち張儀をして楚王に說かしめて曰く、王、關(一)を閉ぢて齊に絕たば、請ふ商・於の地六百里を獻ぜんと。懷王之を信じ、勇士をして北のかた齊王を辱めしむ。齊王大に怒りて秦(二)と合す。楚の使地を秦に受けんとす。儀曰く、地は某より某に至り、廣袤六里と。懷王(三)大に怒り、秦を伐ちて大敗す。秦の昭王、懷王と黃棘に盟ふ。既にして書を懷王に遺る。願はくは君王と武關に會せんと。屈平可かず。子蘭、王に勸めて行かしむ。秦人之を執へて以て歸る。楚人、其子頃襄王を立つ。懷王、秦に卒す。楚人之を憐み、親戚を悲むが如し。初め屈平、懷王の爲に任ぜらる。讒を以て疎ぜられ、(四)離騷を作りて以て自ら怨む。頃襄王の時に至りて、又讒(五)を以て江南に遷さる。遂に汨羅に投じて死す。秦、郢を拔く。楚、陳に從る。

世有季連者。得芊姓。季連之後有鬻熊。事周文王。成王封其子熊繹於丹陽。至夷王時。楚子熊渠者。僭爲王。十一世至春秋。有曰武王。益强大。至文王。始都郢。成王與齊桓公盟召陵。尋與宋襄公爭霸。後與晉文公戰城濮。歷穆王至莊王。卽位三年。不出令。日夜爲樂。令國中敢諫者死。伍擧曰。有鳥在阜。三年不蜚。不鳴。是何鳥也。王曰。三年不飛。飛將衝天。三年不鳴。鳴將驚人。蘇從亦入諫。王乃左執從手。右抽刀。以斷鐘鼓之懸。明日聽政。任伍擧。蘇從。國人大悅。又得孫叔敖爲相。遂霸諸侯。

と曰ふもの有り。益〻強大なり。文王に至りて始めて郢に都す。成王、齊の桓公と召陵に盟ひ、尋ぎて宋の襄公と霸を爭ひ、後晉の文公と城濮に戰ふ。穆王を歴て莊王に至る。位に卽きて三年、令を出さず、日夜に樂を爲し、國中に令して敢て諫むる者は死せしむ。伍擧曰く、鳥有り阜に在り。三年蜚ばず、鳴かず。是れ何の鳥ぞや。王曰く、三年飛ばず、飛ばゞ將に天を衝かんとす。三年鳴かず、鳴かば將に人を驚かさんとすと。蘇從も亦入りて諫む。王、乃ち左に從の手を執り、右に刀を抽いて、以て(二)鐘鼓の懸を斷つ。明日政を聽き、伍擧・蘇從に任ず。國人大に悅ぶ。又孫叔敖を得て相と爲し、遂に諸侯に霸たり。

(一) 官名。「高辛」は「高陽」の誤　(二) 鐘鼓のつり手を斷ちて、樂に耽らざる意を示す也

井里聶政也。以妾在故。重自刑以絶蹤。妾奈何畏沒身之誅。終沒賢弟之名。遂死政尸旁。景侯四世。至哀侯。徙都鄭。哀侯二世。至昭侯。鄭人申不害。以黃老刑名之學。爲昭侯相。國治兵強。昭侯有弊袴。命藏之。不以賜左右。侍者曰。君亦不仁者矣。昭侯曰。明主愛一嚬一笑。嚬有爲嚬者。笑有爲笑。今袴豈特嚬笑哉。吾必待有功者。昭侯卒。子宣惠王立。三世至桓惠王。韓上黨守降趙。致趙受秦兵。而有長平之敗。又一世至王安。秦王政遣將虜安。遂滅韓爲郡。

㈠子孫　㈡年壽を祝ふ　㈢兵を以て守ること　㈣懸賞にてその何人なるやを問ふ　㈤面皮をはぎ目を抉りて知れぬやうにせしことを指す　㈥嚬はしかむ、笑はわらふ　㈦一嚬一笑も苟もせずかならず相當の理由ありて之を爲すとの意。一說に「嚬すれば……笑へば……」と訓じ、君主嚬笑すれば又爲めに嚬笑するものありと解す

楚

楚之先。出自顓頊。顓頊之子爲高辛火正。命曰祝融。弟吳回復居其職。吳回二

楚の先は、顓頊より出づ。顓頊の子、高辛の火正たり。(一)命けて祝融と曰ふ。弟吳回、復た其職に居る。吳回より二世、季連といふ者有り、芈姓を得たり。季連の後に鬻熊有り。周の文王に事ふ。成王、其子熊繹を丹陽に封ず。夷王の時に至り楚子熊渠といふ者、僭して王と爲る。十一世にして春秋に至り、武王

爲レ侯。韓相俠累。與二濮陽嚴仲子一有レ惡。仲子聞二軹人聶政之勇一。以二黃金百鎰一。爲二政母壽一。欲三因以報レ仇。政曰。老母在。政身未レ可二以許一人也。及二母卒一。仲子乃使二政刺一之。俠累方坐レ府。兵衞甚嚴。政直入刺レ之。因自皮レ面抉レ眼。韓人暴二其尸於市一。購問莫二能識一。姊嫈往哭レ之曰。是深

自ら面を皮ぎ、眼を抉る。韓人、其尸を市に暴し、(四)購問すれども能く識る莫し。姊嫈、往きて之を哭して曰く、是れ深井里の聶政なり。妾の在るを以ての故に、(五)重く自ら刑して以て蹤を絕つ。妾、奈何ぞ身を沒するの誅を畏れて、終に賢弟の名を沒せんと。遂に政の尸の旁に死す。景侯より四世、哀公に至り、徙りて鄭に都す。哀公より二世、昭公に至り、鄭人申不害、黃老・刑名の學を以て、昭公の相と爲る。國治り兵强し。昭侯、弊袴有り。命じて之を藏し、以て左右に賜はず。侍者曰く、君も亦不仁者なり。昭侯曰く、明主は(六)一嚬一笑を愛む。(七)嚬も爲に嚬する者有り、笑も爲に笑する有り。今袴、豈特に嚬笑のみならんや。吾必ず功有る者を待たんと。昭侯卒して、子宣惠王立つ。三世にして桓惠王に至る。韓の上黨の守、趙に降り、趙、秦の兵を受くるを致して、長平の敗有り。又一世して王安に至り、秦王政、將を遣して安を虜にし、遂に韓を滅して郡と爲す。

王幸姬。竊得晉鄙兵符。且屬力士朱亥與俱、謂晉鄙合符而疑、則擊殺而奪其軍。一如其言。得兵以進。大破秦兵。解邯鄲圍。而無忌不敢歸魏。秦伐魏。魏患之、使人請無忌。不肯歸。客毛公、薛公見曰、魏急。而公子不恤。一旦秦克大梁。夷先王宗廟。公子何面目立於天下乎。無忌趣駕還。諸侯聞無忌爲魏將。皆遣救。無忌率五國兵。敗秦兵河外。追至函谷關而還。無忌卒。十八年而魏王假立。後又二年。秦王政遣兵伐魏、殺王假而滅魏爲郡。

韓之先。本與周同姓。武王子韓侯之後也。國絕。其後裔事晉爲韓氏。韓武子之三世曰厥。厥五世至康子。與趙魏共滅知氏。又二世。曰景侯虔。以周威烈王命

韓

韓の先は、本と周と同姓、武王の子韓侯の後也。國絕ゆ。其後裔(一)、晉に事へて韓氏と爲る。韓武子の三世を厥と曰ふ。厥の五世、康子に至りて、趙・魏と共に知氏を滅す。又二世、景侯虔と曰ふ。周の威烈王の命を以て侯と爲る。韓の相、俠累、濮陽の嚴仲子と惡む有り。仲子、軹人聶政の勇を聞き、黃金百鎰を以て、政の母の壽(二)を爲し、因りて以て仇を報ぜんと欲す。政曰く、老母在り。政の身未だ以て人に許す可からずと。母卒するに及び、仲子、乃ち政をして之を圖らしむ。俠累、方に府に坐し、兵衞(三)甚だ嚴なり。政、直に入りて之を刺し、因りて

帝。晉仲連往見レ衍曰。彼秦者棄ニ禮義一。上ニ首功一之國也。卽肆然帝ニ天下一。則連有下蹈ニ東海一而死上耳。衍再拜曰。先生天下士也。吾不ニ敢復言一レ帝レ秦矣。趙平原君夫人無忌姉也。趙急。使者冠蓋相望。責ニ救於無忌一。無忌請ニ於王一。及使ニ賓客游說萬端一。王不レ聽。客侯嬴敎ニ無忌一。禱ニ於

說萬端せしむ。王聽かず。客侯嬴、無忌に敎へ、王の幸姬に禱ひて、晉鄙の兵符を竊得し、且つ力士朱亥を薦めて與に俱にせしめ、(六)謂く、晉鄙、符を合せて疑はゞ、則ち擊殺して其の軍を奪へと。一に嬴の言の如くし、兵を得て以て進み、大に秦の兵を破り、邯鄲の圍を解く。而して無忌敢て魏に歸らず。秦、魏を伐つ。魏之を患へ、人をして無忌に請はしむ。歸るを肯ぜず。客の毛公・薛公見えて曰く、魏、急にして、公子恤はず。一旦、秦、大梁に克ち、先王の宗廟を夷げば、公子何の面目ありて天下に立たんやと。無忌、駕を趣して還る。諸侯、無忌が魏の將と爲るを聞き、皆救を遣る。無忌五國の兵を率ゐて、秦の兵を河外に敗り、追ひて函谷關に至りて還る。無忌卒す。十八年にして魏王假立つ。後又二年、秦王政兵を遣して魏を伐たしめ、王假を殺して、魏を滅し郡と爲す。

(一) とりです。軍壘に駐屯するをいふ　(二) 敵の首を獲る所の功、卽ち戰功　(三) ほしいまゝに增長せるさま　(四) 投身して　(五) 使者の絕えざる形容　(六) 同道せしめ

若不修德、舟中人皆敵國也。武侯曰善。武侯卒。子惠王罃立。東敗於齊。將軍龐涓與太子申皆死。南敗於楚。西喪地於秦。乃卑辭厚幣。以招賢者。孟子至。而不用。子襄王立。孟子去之齊。魏人有張儀者。與蘇秦同師。嘗遊楚。爲楚相所辱。妻慍有語。儀曰視吾舌。尚在否。蘇秦約從時。激儀使入秦。儀曰。蘇君之時。儀何敢言。蘇秦去趙而從解。儀專爲橫連六國以事秦。秦惠王時。儀嘗以秦兵伐魏。得一邑。復以與魏。而欺魏割地以謝秦。歸爲秦相。已而出爲魏相。實爲秦地。襄王時。復歸相秦。已而復出相魏。以卒。

魏安釐王立。封公子無忌。爲信陵君。無忌愛人下士。食客三千人。秦攻趙。魏王使晉鄙救之。秦昭王欲移兵先擊救者。王恐止晉鄙兵。壁于鄴。又使新垣衍說趙。共尊秦爲

魏の安釐王立つ。公子無忌を封じて信陵君と爲す。無忌人を愛し士に下る。食客三千人。秦、趙を攻む。魏王、晉鄙をして之を救はしむ。秦の昭王兵を移して先づ救ふ者を擊たんと欲す。王、恐れて晉鄙の兵を止め、鄴に壁す。(二)又新垣衍をして趙に說かしめ、共に秦を尊びて帝と爲んとす。魯仲連行きて衍を見て曰く、彼れ秦は、禮義を棄て、首功を上ぶの國也。卽し肆然として天下に帝たらば、則ち連、東海を蹈(四)みて死する有らんのみと。衍、再拜して曰く、先生は天下の士也。吾敢て復た秦を帝とするを言はじと。趙の平原君の夫人は無忌の姉也。趙、急なり。使者冠(五)蓋相望みて、無忌を責む。無忌、王に請ひ、及び賓客をして游

文侯卒。子擊立。是爲武侯。武侯浮西河而下。中流顧謂吳起曰。美哉山河之固。魏國之寶也。起曰。在德不在險。昔三苗氏。左洞庭右彭蠡。禹滅之。桀之居。左河濟右泰華。伊闕在其南。羊腸在其北。湯放之。紂之國。左孟門右太行。恆山在其北。太河經其南。武王殺之。

善しと。武侯卒して、子惠王罃立つ。東のかた齊に敗られ、將軍龐涓・太子申と皆死す。南のかた楚に敗られ、西のかた地を秦に喪ふ。乃ち辭を卑くし幣を厚くして、以て賢者を招く。孟子至る。而れども用ひられず。子襄王立つ。孟子去りて齊に之く。魏人に張儀といふ者有り、蘇秦と師を同じくす。嘗て楚に遊び、楚の相の爲に辱しめらる。妻慍りて語有り。儀曰く、吾が舌を視よ。尚ほ在りや否やと。蘇秦、從を約せし時、儀を激して秦に入らしむ。儀曰く、蘇君の時なり、儀、何ぞ敢て言はんと。蘇秦、趙を去りて從解く。儀、專ら横を爲し、六國を連ねて以て秦に事へしむ。秦の惠王の時、儀嘗て秦の兵を以て魏を伐ち、一邑を得たり。復た以て魏に與へて、魏を欺き、地を割きて以て秦に謝せしむ。歸りて秦の相と爲り、已にして出でゝ魏の相と爲る。實は秦の地の爲なり。襄王の時、復た歸りて秦に相たり。已にして復た出でゝ魏に相として、以て卒す。

(一) むごくして薄情　(二) できもの　(三) 忽ちの意。敵にうしろを見せずとも解す　(四) 國の固めは人の德にありて地勢の險阻に在らず　(五) 秦が殊更に張儀を罵詈して怒らしめ　(六) 全盛の時也　(七) 連衡

有二衞人吳起一者一。初仕レ魯。魯欲レ使下起擊上レ齊。而起娶二齊女一。疑レ之。起殺レ妻以求レ將。大破二齊師一。或曰。起殘忍薄行人也。起恐レ得レ罪。歸レ魏。文侯以爲レ將。拔二秦五城一。起與二士卒一同二衣食一。卒有レ病レ疽。起吮レ之。卒母聞而哭曰。往年吳公。吮二其父一。不レ旋レ踵死レ敵。今又吮二其子一。妾不レ知二其死所一矣。

衞人吳起といふ者有り。初め魯に仕ふ。魯、起をして齊を擊たしめんと欲す。而るに起、齊の女を娶る。之を疑ふ。起、妻を殺して以て將たらんを求め、大に齊の師を破る。或ひと曰く、起は殘忍薄行(一)の人也と。起、罪を得んことを恐れて、魏に歸す。文侯以て將と爲し、秦の五城を拔く。起、士卒と衣食を同じうす。卒に疽(二)を病む有り。起、之を吮ふ。卒の母聞きて哭して曰く、往年、吳公、其父を吮ふ。踵(三)を旋らさずして敵に死せり。今又其子を吮ふ。妾其死所を知らずと。文侯卒して、子擊立つ。是を武侯と爲す。武侯、西河に浮びて下る。中流にして顧みて吳起に謂ひて曰く、美なる哉山河の固め、魏國の寶也。起曰く、德に在りて險に在らず。昔三苗氏、洞庭を左にし彭蠡(四)を右にせしも、禹、之を滅せり。桀の居、河濟を左にし泰華を右にし、伊闕其南に在り、羊腸其北に在りしも、湯之を放てり。紂の國、孟門を左にし太行を右にし、恆山其北に在り、太河、其南を經しも、武王之を殺せり。若し德を修めずんば、舟中の人、皆敵國也。武侯曰く、

王命爲侯。以卜子夏田子方爲師。過段干木之閭必式。四方賢士多歸之。文侯之子擊。遇子方于道。下車伏謁。子方不爲禮。擊怒曰。富貴者驕人乎。貧賤者驕人乎。子方曰。亦貧賤者驕人耳。富貴者安敢驕人。國君而驕人失其國。大夫而驕人失其家。夫士貧賤者。言不用。行不合。則納履而去耳。安往而不得貧賤哉。擊謝之。文侯謂李克曰。先生嘗教寡人。家貧思良妻。國亂思良相。今所相。非成則翟璜。二子何如。克曰。居視其所親。富視其所與。達視其所擧。窮視其所不爲。貧視其所不取。五者足以定之矣。子夏田子方段干木。成所擧也。乃相成。

人に驕れば其家を失ふ。夫れ士の貧賤なる者、言用ひられず行合はざれば、履を納めて去るのみ。(三)安に往くとして貧賤を得ざらんやと。擊、之を謝す。文侯、李克に謂ひて曰く、先生、嘗て寡人に教ふ。家貧しくして良妻を思ひ、國亂れて良相を思ふと。今相とする所、魏成に非れば則ち翟璜なり。二子は何如。克曰く、居ては其親む所を視、富みては其與ふる所を視、(四)達しては其擧ぐる所を視、窮しては其爲さゞる所を視、貧には其取らざる所を視る。(五)五つの者以て之を定むるに足ると。子夏・田子方・段干木は、成の擧ぐる所也と。乃ち成を相とす。

(一) 子孫　(二) 車の横木によりて禮す　(三) 何處へ行くとも貧賤なるを得べく、少しも恐るゝ所なし　(四) 榮達して顯職につく　(五) この五は君子に非れば能くす能はず、故に以て人物を見定むるに足ると也

北逐匈奴。悼襄王子幽繆王遷立。秦王政遣兵攻趙。牧爲大將敗之。秦縱反間言。牧將反。遷誅之。秦兵至虜遷。趙之士大夫。立趙嘉爲王。王于代。秦進攻破嘉。遂滅趙爲郡。

魏

魏之先。本與周同姓。文王子畢公高之後也。國絕。有苗裔曰畢萬。事晉。邑于魏。數世有絳。絳後四世曰桓子者。與韓趙共滅知氏而分之。桓子之孫曰文侯斯者。以周威烈

魏の先は、本と周と同姓にして、文王の子畢公高の後也。國絕ゆ。苗裔有り、(一)畢萬と曰ふ。晉に事へて、魏に邑す。數世にして、絳有り。絳の後四世、桓子と曰ふ者あり。韓・趙と共に、知氏を滅して之を分つ。桓子の孫に文侯斯と曰ふ者あり。周の威烈王の命を以て侯と爲り、卜子夏・田子方を以て師と爲し、段干木の閭を過ぐれば必ず式す。(二)四方の賢士多く之に歸す。文侯の子擊、子方に道に遇ふ。車を下りて伏し謁す。子方、禮を爲さず。擊、怒りて曰く、富貴なる者人に驕るか、貧賤なる者人に驕るか。子方曰く、亦貧賤なる者人に驕るのみ、富貴なる者、安んぞ敢て人に驕らん。國君にして人に驕れば其國を失ひ、大夫にして

用二廉頗一爲レ將。時頗奔在レ魏。使二人視レ頗。頗之仇郭開。與二使者金一令レ毀レ之。頗見二使者一。一飯斗米肉十斤。被レ甲上レ馬。以示レ可レ用。使者還曰。廉將軍尙善飯。然與レ臣坐頃之。三遺矢矣。王以爲レ老。遂不レ召。楚人迎二頗於魏一。頗爲二楚將一無レ功。曰我思レ用二趙人一。尋卒。趙得二李牧一爲レ將。先居二

魏に在り。人をして頗を視しむ。頗の仇、郭開、使者に金を與へて之を毀らしむ。頗、使者に見え、一飯に斗米、肉十斤、甲を被り馬に上りて以て用ふ可きを示す。使者、還りて曰く、廉將軍尙ほ善く飯す。然れども臣と坐するとなるに頃之、三たび遺矢せりと(一)。王以て老いたりと爲し、遂に召さず。楚人、頗を魏に迎ふ。頗、楚の將と爲りて功無し。曰く、我、趙人を用ひんとを思ふと(二)。尋ぎて卒す。趙、李牧を得て將と爲す。先に北邊に居りて、匈奴を破る。悼襄王の子幽繆王遷立つ。秦王政、兵を遣して趙を攻む。牧、大將と爲りて之を敗る。秦、反間(三)を縱ちて言く、牧、將に反せんとすと。遷之を誅す。秦の兵至りて遷を虜にす。趙の士大夫、趙嘉を立てゝ王と爲す。代に王たり。秦、進み攻めて嘉を破り、遂に趙を滅して郡となす。

(一) 矢は屎也、史記索隱に、三たび遺矢すとは聯ゝ便に立つをいふと見ゆ、暗に老衰用に堪へざるをいふ也 (二) 趙の將となりて趙人を用ひたく思ふ (三) まはし者を送りて離間の策を運らす也

若錐處囊中。其末立見。今先生處門下三年。未有聞。遂曰。使遂得處囊中。乃穎脫而出。非特末見而已。平原君乃以備數。十九人目笑之。至楚定從。不決。毛遂按劍歷階升曰。從之利害。兩言而決耳。今日出而言。日中不決何也。楚王怒叱曰。胡不下。吾與而君言。汝何爲者。毛遂按劍而前曰。王所以叱遂。以楚國之衆也。今十步之內。不得恃楚國之衆也。王之命懸於遂手。以楚之強。天下莫能當。白起小豎子耳。一戰而擧鄢郢。再戰而燒夷陵。三戰而辱王之先人。此百世之怨。趙之所羞。合從爲楚。非爲趙也。王曰。唯唯。誠若先生之言。謹奉社稷以從。遂曰。取雞狗馬之血來。捧銅盤。跪進曰。王當歃血而定從。次者吾君。次者遂。左手持盤。右手招十九人。歃血於堂下曰。公等碌碌。所謂因人成事者也。平原君定從歸曰。毛先生一至楚。使趙重於九鼎大呂。以遂爲上客。楚將春申君救趙。會魏信陵君亦來救趙。大破秦軍邯鄲下。

定め歸りて曰く、毛先生、一たび楚に至りて、趙をして九鼎大呂よりも重からしむと。遂を以て上客となす。楚、春申君を將として趙を救ふ。魏の信陵君も亦來りて趙を救ふに會し、大に秦の軍を邯鄲の下に破る。

㊀ 許多の金を使ひて　㊁ 徒に名聲高きが爲に之を用ふ　㊂ 臨機應變の才なきに喩ふ　㊃ 我が子の言を難詰する能はざれども以て正しとせず　㊄ 詭辯、堅石石に非ず白馬馬に非ずとの論　㊅ ぬけ出づ　㊆ 二十人の數をそろへる　㊇ 一段一段に段をのぼりて　㊈ 石のごろ／＼したる貌、何の役にも立たぬ意

孝成王子悼襄王立。思復

孝成王の子悼襄王立つ。復た廉頗を用ひて將と爲さんことを思ふ。時に頗、奔りて

行。其母上書言。括不レ可レ使。括至レ軍。果爲二秦將白起一所二射殺一。卒四十萬皆降。坑二於長平一。趙相平原君公子勝。食客常數千人。客有二公孫龍者一。爲二堅白同異之辨一。秦攻二趙邯鄲一。平原君求二救於楚一。擇二門下文武備具者二十人一與レ之俱。得二十九人一。毛遂自薦。平原君曰。士處レ世。

乃ち以て數に備ふ。十九人之を目笑す。楚に至りて從を定めんとす。決せず。毛遂劍を按じ、(七)歷階して升りて曰く、從の利害は、兩言にして決せんのみ。今日出でて言ひ、(八)日中するも決せざるは何ぞや。楚王、怒りて叱して曰く、胡ぞ下らざる。吾、而が君と言ふ。汝、何爲る者ぞと。毛遂、劍を按じて前みて曰く、王の遂を叱する所以は、楚の國の衆を以て也。今十歩の內、楚の國の衆を恃むを得ず。王の命は遂の手に懸れり。楚の强を以て、天下能く當る莫し。白起は小豎子のみ。一戰して鄢・郢を擧げ、再戰して夷陵を燒き、三戰して王の先人を辱かしむ。此れ百世の怨、趙の羞づる所なり。合從は楚の爲にして、趙の爲に非ず。王曰く、唯唯、誠に先生の言の如し。謹みて社稷を奉じて以て從はん。遂曰く、鷄狗馬の血を取り來れと。銅盤を捧げ、跪き進みて曰く、王、當に血を歃りて、從を定むべし。次は吾が君、次は遂と。左手に盤を持ち、右手に十九人を招き、血を堂下に歃りて曰く、公等(九)碌碌、所謂人に因りて事を成す者也と。平原君、從を

反閒一曰。秦獨畏二馬服君趙奢之子括爲一將耳。王使二括代一頗。相如曰。王以レ名使レ括。若二膠レ柱鼓一レ瑟耳。括徒能讀二其父書一。不レ知レ合レ變也。王不レ聽。括少學二兵法一。以天下莫二能當一。與二父奢一言。不レ能レ難。然不二以爲一レ然。括母問レ故。奢曰。兵死地也。而括易二言之一。趙若將レ括。必破二趙軍一。及二括將一レ

きのみ。括、徒だ能く其父の書を讀む。變に合ふを知らざる也と。王聽かず。括少きより兵法を學び、以へらく、天下能く當る莫しと。父奢と言ふに、(四)難ずる能はざれども、然も以て然りと爲さず。括の母、故を問ふ。奢曰く、兵は死地なり。而るに括之を易く言ふ。趙、若し括を將とせば、必ず趙の軍を破らんと。括、將に行かんとするに及び、其母上書して言く、括、使ふ可からずと。括、軍に至る。果して秦の將白起の爲に射殺され、卒四十萬皆降り、長平に坑にせらる。

趙の相平原君公子勝、食客常に數千人。客に公孫龍といふ者有り、(五)堅白同異の辨を爲す。秦、趙の邯鄲を攻む。平原君、救を楚に求めんとして、門下の文武備具する者二十人を選び、之と倶にせんとす。十九人を得たり。毛遂自ら薦む。平原君曰く、士の世に處するは、錐の嚢中に處るが若し。其末立に見はる。今先生、門下に處ること三年、未だ聞ゆる有らず。遂曰く、遂をして嚢中に處るを得しめば、乃ち(六)穎脱して出でんとす、特に末の見はるゝのみに非ずと。平原君

攻城野戰之功。相如素賤人。徒以口舌居我上。吾羞爲之下。我見相如。必辱之。相如聞之。每朝常稱病。不欲與爭列。出望見。輒引車避匿。其舍人皆以爲恥。相如曰。夫以秦之威。相如廷叱之。辱其羣臣。相如雖駑。獨畏廉將軍哉。顧念强秦不敢加兵於趙者。徒以吾兩人在也。今兩虎共鬭。其勢不俱生。吾所以爲此者。先國家之急。而後私讐也。頗聞之。肉袒負荊。詣門謝罪。遂爲刎頸之交。

が此を爲す所以の者は、國家の急を先にして、私の讐を後にする也と。頗、之を聞き、(三)肉袒して荊を負ひ、門に詣りて罪を謝し、遂に(四)刎頸の交を爲す。

(一)酒を盛るかはらけ。秦の風俗之を擊ちて拍子を取りつゝ歌ふ也　(二)朝廷に於て叱ること　(三)はだをぬぎていばらを負ふ、謝罪の意を表すなり　(四)極めて親しき交り

惠文王子孝成王立。秦伐韓。韓上黨降於趙。秦攻趙。廉頗軍長平。堅城不出。秦人行千金。爲

惠文王の子孝成王立つ。秦、韓を伐つ。韓の上黨、趙に降る。秦、趙を攻む。廉頗、長平に軍し、城を堅くして出でず。秦人、(一)千金を行ひ、反閒を爲して曰く、秦は獨り馬服君趙奢の子括の將と爲らんを畏るゝのみと。王、括をして頗に代らしめんとす。相如曰く、王(二)名を以て括を使ふ。(三)柱に膠して瑟を鼓するが若

從。及レ飲レ酒。秦王請二趙王一鼓レ瑟。趙王鼓レ之。相如復請二秦王一擊レ缶。爲二秦聲一。秦王不レ肯。相如曰。五步之內。臣得下以二頸血一濺中大王上。左右欲レ刃レ之。相如叱レ之。皆靡。秦王爲一擊レ缶。秦終不レ能レ有レ加二於趙一。趙亦盛爲二之備一。秦不二敢動一。趙王歸。以二相如一爲二上卿一。在二廉頗右一。頗曰。我爲二趙將一。有二

請ひて瑟を鼓せしむ。趙王之を鼓す。相如、復た秦王に請ひて、缶を擊ち、秦聲を爲さしむ。秦王肯んぜず。相如曰く、五步の內、臣、頸の血を以て大王に濺ぐを得んと。左右之を刃せんと欲す。相如之を叱す。皆靡く。秦王爲に一たび缶を擊つ。秦、終に趙に加ふること有る能はず。趙も亦盛に之が備を爲す。秦敢て動かず。趙王歸りて、相如を以て上卿と爲し、廉頗の右に在らしむ。頗曰く、我、趙の將と爲り、攻城野戰の功有り。相如は素より賤人、徒だ口舌を以て我が上に居る。吾、之が下たるを羞づ。我、相如を見ば、必ず之を辱しめんと。相如之を聞き、朝する每に常に病と稱して、與に列を爭ふを欲せず。出でゝ望み見れば、輒ち車を引きて避け匿る。其舍人皆以て恥と爲す。相如曰く、夫れ秦の威を以てするも、相如、之を廷叱して、其羣臣を辱しめぬ。相如、駑と雖も、獨り廉將軍を畏れんや。顧み念ふに强秦の敢て兵を趙に加へざる者は、徒だ吾が兩人在るを以て也。今兩虎共に鬪はゞ、其勢倶には生きじ。吾

易レ之一。況衆人乎。使三我有二洛陽負郭田二頃一。豈能佩二六國相印一乎。於レ是散二千金一。以賜二宗族朋友一。既定二從約一歸レ趙。肅侯封爲二武安君一。其後秦使二犀首欺レ趙。欲レ敗二從約一。齊魏伐レ趙。蘇秦恐去レ趙。而從約解。肅侯子武靈王。胡服招二騎射一。略二胡地一。滅二中山一。欲二南襲一レ秦。不レ果。傳二子惠文王一。惠文嘗得二楚和氏璧一。秦昭王請下以二十五城一易上レ之。欲レ不レ與畏二秦強一。欲レ與恐レ見レ欺。藺相如願三奉レ璧往二。城不レ入。則臣請完レ璧而歸。既至。秦王無レ意レ償レ城。相如乃紿取レ璧。怒髮指レ冠。卻二立柱下一曰。臣頭與レ璧俱碎。遣二從者懷レ璧間行先歸一。身待二命於秦一。秦昭王賢而歸レ之。

の昭王十五城を以て之に易へんと請ふ。與へざらんと欲すれば秦の強きを畏れ、與へんと欲すれば欺かれんを恐る。藺相如、璧を奉じて往かんと願ふ。城、入らずんば、則ち臣請ふ、璧を完うして歸らんと。既に至る。秦王、城を償ふに意無し。相如、乃ち紿きて璧を取り、怒髮、冠を指し、柱下に卻き立ちて曰く、臣が頭璧と倶に碎けんと。從者をして璧を懷きて間行(六)して先づ歸らしめ、身、命を秦に待つ。秦の昭王、賢として之を歸す。

(一) 兄弟 (二) 嫂より義弟を呼ぶ稱。一說には蘇秦の字 (三) あなどる (四) 外城に接したる田、特に地味豐沃也。一頃は百畝 (五) えびすの服裝 (六) 間道を行く

秦王約二趙王一會二澠池一。相如

秦王、趙王に約して、澠池に會す。相如從ふ。酒を飲むに及び、秦王、趙王に

蘇秦者、師鬼谷先生。初出游、困而歸。妻不下機。嫂不爲炊。至是爲從約長、幷相六國。行過洛陽。車騎輜重擬於王者。昆弟妻嫂、側目不敢視。俯伏侍取食。蘇秦笑曰、何前倨而後恭也。嫂曰、見季子位高金多也。秦喟然歎曰、此一人之身、富貴則親戚畏懼之。貧賤輕

蘇秦は鬼谷先生を師とす。初め出游し、困んで歸る。妻、機を下らず、嫂、爲に炊がず。是に至りて從約の長と爲り、幷せて六國に相たり。行きて洛陽を過ぐるに、車騎輜重、王者に擬す。(一)昆弟妻嫂、目を側てゝ敢て視ず、俯伏して侍して食を取る。蘇秦、笑ひて曰く、何ぞ前に倨りて後に恭しきと。嫂曰く、(二)季子の位高く金多きを見れば也と。秦、喟然として嘆じて曰く、此れ一人の身なり、富貴なれば則ち親戚之を畏懼し、貧賤なれば則ち之を輕易す。(三)況んや衆人をや。我をして洛陽負郭(四)の田二頃有らしめば、豈能く六國の相印を佩びんやと。是に於て千金を散じて以て宗族・朋友に賜ふ。既に從約を定めて趙に歸れば、肅侯、封じて武安君と爲す。其後秦、犀首をして趙を欺かしめ、從約を破らんと欲す。齊・魏、趙を伐つ。蘇秦、恐れて趙を去る。而して從約解けたり。肅侯の子武靈王、(五)胡服して、騎射を招きて、胡地を略し、中山を滅し、南のかた秦を襲はんと欲して、果さず。子惠文王に傳ふ。惠文、嘗て楚の和氏が璧を得たり。秦

漆レ身爲レ厲。呑レ炭爲レ啞。行乞二於市一。其妻不レ識也。其友識レ之曰。以二子之才一。臣二事趙孟一。必得二近幸一。子乃爲レ所レ欲レ爲。顧不レ易邪。何乃自苦如レ此。讓曰。不可。既委レ質爲レ臣。又求レ殺レ之。是二心也。凡吾所レ爲者極難耳。然所三以爲二此者一。將下以愧中天下後世。爲二人臣一懷二二心一者上也。襄子出。讓伏二橋下一。襄子馬驚。索レ之得レ讓。遂殺レ之。襄子。立二伯魯孫浣一。是爲二獻子一。獻子生二烈侯籍一。以二周威烈王命一爲レ侯。歷二武公。敬公。成侯一至二肅侯一。秦人恐二喝諸侯一。求レ割レ地。有二洛陽人蘇秦一。游二說秦惠王一不レ用。乃往說二燕文侯一。與レ趙從親。燕資レ之以至レ趙。說二肅侯一曰。諸侯之卒。十二倍於秦一。并レ力西向。秦必破矣。爲二大王一計。莫レ若二六國從親以擯一レ秦。肅侯乃資レ之以約二諸侯一。蘇秦以二鄙諺一說二諸侯一曰。寧爲二鷄口一。無レ爲二牛後一。於レ是六國從合。

侯と爲る。武公・敬公・成侯を歴て、肅侯に至り、秦人、諸侯を恐喝して、地を割かんことを求む。洛陽の人蘇秦有り、秦の惠王に游說して用ひられず、乃ち往きて燕の文公に說き、趙と從親(五)せしめんとす。燕、之に資して以て趙に至らしむ。肅侯に說きて曰く、諸侯の卒、秦に十倍す。力を幷せて西に向はゞ、秦必ず破れん。大王の爲に計るに、六國從親して、以て秦を擯けんに若くは莫しと。肅侯、乃ち之に資して以て諸侯を約せしむ。蘇秦、鄙諺(六)を以て諸侯に說きて曰く、寧ろ鷄口と爲るも、牛後と爲る無れと。是に於て六國從合す。

(一) あひくち (二) 何となく胸騒ぎす (三) 質は贄に通ず、物を奉りて君臣の約を固むるをいふ。一說に質は身也、身を委ねて臣となるの義といふ (四) 癩病やみ (五) 合縱和親 (六) 俗間の諺

刑人。挾二匕首一。入二襄子宮中一塗レ厠。襄子如レ厠心動。索レ之獲レ讓。問曰。子不三嘗事二范中行氏一乎。知伯滅レ之。子不三爲報二讐一。反委二質於知伯一。知伯死。子獨何爲報レ仇之深也。曰。范中行氏衆人遇レ我。我故衆人報レ之。知伯國士遇レ我。我故國士報レ之。襄子曰。義士也。舍レ之。謹避而已。讓

嘗て范・中行子に事へずや。知伯、之を滅す。子、爲に讐を報いず、反りて質を知伯に委す。知伯、死す。子獨り何爲ぞ仇を報ゆるの深きや。曰く、范・中行子(三)は衆人もて我を遇す、我故に衆人もて之に報ゆ、知伯は國士もて我を遇す、我故に國士もて之に報ゆと。襄子曰く、義士也。之を舍け。謹みて避けんのみと。讓、身に漆して厲と爲り、炭を呑みて啞と爲り、行きて市に乞ふ。其妻識らざる也。其友之を識りて曰く、(四)子の才を以て趙孟に臣事せば、必ず近幸を得ん。子乃ち爲さんと欲する所を爲さば、顧ふに易からずや。何ぞ乃ち自ら苦むる此の如き。讓曰く、不可なり。既に質を委して臣と爲り、又之を殺すを求む。是れ二心也。凡そ吾が爲す所の者は極めて難きのみ。然るに此を爲す所以の者は、將に以て、天下後世、人臣と爲りて二心を懷く者を愧かしめんとする也と。襄子出づ。讓、橋下に伏す。襄子の馬驚く。之を索めて讓を得たり。遂に之を殺す。襄子、伯魯の孫浣を立つ。是を獻子と爲す。獻子、烈侯籍を生む。周の威烈王の命を以て

以爲二保障一乎。簡子曰。保障哉。尹鐸損二其戸數一。簡子謂二無恤一曰。晉國有レ難。必以二晉陽一爲レ歸。簡子卒。無恤立。是爲二襄子一。智伯求二地於韓魏一。皆與レ之。求二於趙一。不レ與。率二韓魏之甲一。以攻レ趙。襄子出走二晉陽一。三家圍而灌レ之。城不レ浸者三板。沈竈産レ鼃。民無二叛意一。襄子陰與レ韓約。共敗二智伯一。滅二知氏一而分二其地一。

て曰く、晉の國に難有らば、必ず晉陽を以て歸と爲せと。簡子卒して無恤立つ。是を襄子と爲す。智伯、地を韓・魏に求む。(四)皆之を與ふ。趙に求む。與へず。韓・魏の甲(五)を率ゐて以て趙を攻む。襄子、出でゝ晉陽に走る。三家、圍みて之に灌ぐ(六)。城、浸さゞる者三板(七)、沈みたる竈に鼃を産すれども、民に叛意無し。襄子、陰に韓と約して、共に智伯を敗り、知氏を滅して、其地を分つ。

(一) 税を嚴しく取立つ (二) 民の政を厚うする政の義。又國の藩籬を堅固にする義とも解す (三) 戸籍面に人民の戸數を減じて賦税を輕くす (四) 身を歸托する所 (五) 兵、甲兵 (六) 水攻にす (七) 一板は一丈、一說に二尺

襄子漆二知伯之頭一。以爲二飲器一。知伯之臣豫讓。欲二爲レ之報一レ仇。乃詐爲二

襄子、知伯の頭に漆して、以て飲器と爲す。知伯の臣豫讓、之が爲に仇を報いんと欲す。乃ち詐りて刑人と爲り、匕首(一)を挾みて、襄子の宮中に入り廁を塗る。襄子、廁に如きて心動く(二)。之を索めて讓を獲たり。問ひて曰く、子、

狐與レ死孰難。嬰曰死易。立レ孤難耳。杵臼曰。子爲二其難一。杵臼取二它兒一匿二山中一。嬰出謬曰。與二我千金一。吾告二趙氏孤處一。賈喜。乃使二人隨レ嬰。殺二杵臼及孤一。而趙氏眞孤在。嬰後與レ武滅レ賈。竟立レ武。而自殺以下報二宣孟及杵臼一。武卒。號二文子一。文子生二景叔一。景叔生二簡子鞅一。簡子有レ臣。曰二周舍一。死。簡子每レ聽レ朝。不レ悅曰。千羊之皮。不レ如二一狐之腋一。諸大夫朝。徒聞二唯唯一。不レ聞二周舍之鄂鄂一也。簡子長子曰二伯魯一。幼曰二無恤一。書二訓戒之辭於二簡一。以授二二子一曰。謹識レ之。三年而問レ之。伯魯不レ能レ舉二其辭一。求二其簡一。已失レ之矣。無恤誦二其辭一甚習。求二其簡一。出二諸懷中一而奏レ之。於レ是立二無恤一爲レ後。

ひ、幼を無恤と曰ふ。訓戒の辭を二簡に書して、以て二子に授けて曰く、謹みて之を識せと。(八)三年にして之を問ふ。伯魯、其辭を擧ぐる能はず。其簡を求むれば、已に之を失へり。無恤は其辭を誦する、甚だ習ふ。其簡を求むれば、諸を懷中より出して之を奏す。是に於て無恤を立てゝ後と爲す。

(一) 他也、他人の小兒　(二) にせものの孤也　(三) 世に生存す　(四) 地下、泉下　(五) 狐腋の白毛を集めて貴し、千羊の皮も其一つに及ばず、以て衆愚の一賢に如かざるに喩ふ　(六) たゞはい／＼とのみ答へて更に自己の意見を述べず　(七) 諤に通ず、自己の意見を述べ、直言して憚らざること　(八) 記憶せよ

簡子使三尹鐸爲二晉陽一。請曰。以爲二繭絲一乎。

簡子、尹鐸をして晉陽を爲めしむ。請ひて曰く、以て繭絲(一)を爲さんか、以て保障(二)を爲さんか。簡子曰く、保障なる哉と。尹鐸其戸數(三)を損す。簡子、無恤に謂ひ

勝。其後有二造父者一。事二周穆王一。以レ功封二趙城一。由レ是爲二趙氏一。春秋時。有二趙夙者一。事レ晉。夙生二成子衰一。衰生二宣子盾一。人曰。趙衰冬日之日也。趙盾夏日之日也。冬日可レ愛。夏日可レ畏。盾生レ朔。大夫屠岸賈。滅二朔之族一。朔有二遺腹子武一。賈索レ之不レ得。朔客程嬰。公孫杵臼相與謀曰。立レ

秋の時、趙夙といふ者有り。晉に事ふ。夙、成子衰を生み、衰、宣子盾を生む。人曰く、趙衰は冬日の日也。趙盾は夏日の日也。冬の日は愛す可く、夏の日は畏る可しと。盾、朔を生む。大夫屠岸賈、朔の族を滅す。朔に遺腹の子武有り。賈之を索むれども得ず。朔の客、程嬰、公孫杵臼、相與に謀りて曰く、孤を立つると、死すると孰れか難き。嬰曰く、死は易く、孤を立つるは難きのみ。杵臼曰く子は其難きを爲せと。杵臼、(一)它の兒を取りて、山中に匿る。嬰出でゝ謬きて曰く、我に千金を與へよ。吾、趙子の孤の處を告げんと。賈喜び、乃ち人をして嬰に隨はしめ、杵臼及び孤(二)を殺す。而して趙子の眞の孤(三)は在り。嬰、後武と賈を滅し、竟に武を立て、自殺して以て下(四)宣孟及び杵臼に報ず。武、卒す。文子と號す。文子、景叔を生み、景叔、簡子鞅を生む。簡子、臣有り、周舍と曰ふ。死す。簡子、朝を聽く每に、悅ばずして曰く、(五)千羊の皮は、一狐の腋に如かず。諸大夫の朝する、徒だ唯唯(六)を聞く、周舍(七)の鄂鄂を聞かざる也と。簡子の長子を伯魯と曰

襄王卒。子建立。母君王后賢。事レ秦謹。與二諸侯一信。君王后卒。齊客多受二秦金一。爲二反間一。勸レ王朝レ秦。不レ修二攻戰之備一。不レ助二五國一攻レ秦。秦王政。既滅二五國一。兵入二臨淄一。王建遂降。遷二于共一。處二之松柏之間一而死。以レ齊爲レ郡。齊人歌レ之曰。松邪。柏邪。住二建共一者客邪。

襄王卒して、子建立つ。母、君王后、賢なり。秦に事へて謹み、諸侯と信あり。君王后卒す。齊の客多く秦の金を受けて反間(一)を爲し、王に勸めて秦に朝せしめ、攻戰の備を修めず。五國を助けて秦を攻めず。秦王政、既に五國を滅し、兵、臨淄に入る。王建、遂に降る。共に遷し、之を松柏の間に處きて死せしめ、齊を以て郡と爲す。齊人之を歌ひて曰く、(二)松か、柏か、建を共に住ましむる者は客かと。

㊀離間策を爲す　㊁建を共に住ましめしは、松に非ず柏に非ず客にも非ず、建自身の誤に出づと也

趙

趙之先。本與レ秦同姓。祖二於蜚廉一。有二子季

趙の先は、本と秦と同姓。蜚廉を祖とす。子季勝有り。其後造父といふもの有り。周の穆王に事へ、功を以て趙城に封ぜらる。是に由りて趙氏と爲る。春

平君。單攻狄。三月不克。魯仲連曰。將軍在即墨。曰。無可往矣。宗廟亡矣。將軍有死之心。士卒無生之氣。莫不揮泣奮臂欲戰。今將軍東有夜邑之奉。西有淄上之娛。黃金橫帶。騁乎淄澠之閒。有生之樂。無死之心。故不勝也。單明日厲氣巡城。立於矢石之所。援枹鼓之。狄人乃下。襄王既立。而孟嘗君中立爲諸侯。無所屬。王畏之與連和。初馮驩聞孟嘗君好客而來見。置傳舍十日。彈劍作歌曰。長鋏歸來乎。食無魚。遷之幸舍。食有魚矣。又歌曰。長鋏歸來乎。出無輿。遷之代舍。出有輿矣。又歌曰。長鋏歸來乎。無以爲家。孟嘗君不悅。時邑入不足以奉客。使人出錢於薛。貸者多不能與息。孟嘗君乃進驩請責之。驩往。不能與者。取其券燒之。孟嘗君怒。驩曰。令薛民親君。孟嘗君竟爲薛公。終於薛。

食に魚有り。又歌ひて曰く、長鋏歸來乎、出づるに輿無しと。之を代舍に遷す。(八) 出づるに輿有り。又歌ひて曰く、長鋏歸來乎、以て家を爲る無しと。(九) 孟嘗君、悅ばず。時に邑入以て客に奉ずるに足らず。(一〇) 人をして錢を薛に出さしむ。(一一) 貸者多くは息を與ふる能はず。孟嘗君乃ち驩を進めて之を責めんと請ふ。驩往く。與ふる能はざる者は、其券を取りて、之を燒く。孟嘗君怒る。驩曰く、薛の民をして君に親しましむと。孟嘗君竟に薛公と爲り、薛に終る。

(一) 城壘をきづく爲の板と鍬 (二) 赤き絹の衣 (三) 拔に同じ (四) 太鼓のばち (五) 孟嘗君の客舍の中にて最下位のもの (六) 長き劍 (七) 傳舍より上等の客舍 (八) 最上位の客舍 (九) 一家の生計を爲す能はず (一〇) 領邑よりの收入 (一一) 孟嘗君私藏の金を出して薛の民に貸付け其利息にて客に奉ぜんとせし也

販鋪一。與二士卒一分レ功。妻妾編二於行伍一。收二城中一得二牛千餘一。爲二絳繒衣一。畫二五彩龍文一。束二兵刃其角一。灌レ脂束二葦於尾一。燒二其端一。鑿レ城數十穴。夜縱レ牛。壯士隨二其後一。牛尾熱。怒奔二燕軍一。所レ觸盡死傷。而城中鼓譟從レ之。聲振二天地一。燕軍敗走。七十餘城皆復爲レ齊。迎二襄王於莒一。封レ單爲二安

尾に束ね、其端を燒き、城を鑿つ數十穴、夜牛を縱ち、壯士其後に隨ふ。牛尾熱す。怒りて燕の軍に奔る。觸るゝ所盡く死傷す。而して城中鼓譟して之に從ひ、聲天地に振ふ。燕の軍敗れ走り、七十餘城皆復た齊となる。襄王を莒に迎ふ。單を封じて安平君と爲す。單、狄を攻むるに、三月まで克たず。魯仲連曰く、將軍の卽墨に在りしとき、曰く、往く可き無し、宗廟亡びぬと。將軍死するの心有りて、士卒生くるの氣無し。泣を揮ひ臂を奮ひて戰はんと欲せざる莫し。今將軍東に夜邑(三)の奉有り。西に淄上の娛有り。黃金帶に橫へて、淄澠の間に馳す。生の樂有りて、死の心無し。故に勝たざる也と。單、明日、氣を厲まし城を巡り、矢石の所に立ちて、枹を援りて之を鼓す。狄人乃ち下る。襄王既に立つ。而して孟嘗君中立して諸侯(四)と爲り、屬する所無し。王之を畏れて與に連和す。初め馮驩、孟嘗君の客を好むを聞きて來り見ゆ。(五)傳舍に置かるゝ十日、劍を彈じ歌を作りて曰く、(六)長鋏歸來乎、食に魚無しと。之を幸舍(七)に遷す。

至㆓函谷關㆒。關法。鷄鳴方出㆑客。恐㆓秦王後悔追㆒㆑之。客有㆘能爲㆓鷄鳴㆒者㆖。鷄盡鳴。遂發㆑傳。出食頃追者果至。而不㆑及。孟嘗君歸。怨㆑秦。與㆓韓魏㆒伐㆑之。入㆓函谷關㆒。秦割㆑城以和。孟嘗君相㆑齊。或毀㆓之於王㆒。乃出奔。湣王滅㆑宋而驕。燕昭王以㆓齊嘗破㆑燕之故㆒。與㆓諸侯㆒合㆑謀而攻㆑齊。燕軍入㆓臨淄㆒。湣王走㆑莒。楚將淖齒救㆑齊。反殺㆓湣王㆒。而與㆑燕共分㆓齊之侵地㆒。王孫賈從㆓湣王於莒㆒。而失㆓王處㆒。其母曰。汝朝出而晩來。吾則倚㆑門而望。汝暮出而不㆑還。吾則倚㆑閭而望。汝今事㆑王。王走。汝不㆑知㆑處。汝尚何歸焉。賈乃攻㆓淖齒㆒殺㆑之。求㆓湣王子法章㆒而立㆑之。保㆑莒以抗㆑燕。

出で〻晩に來れば、吾は則ち門に倚りて望む。汝、暮に出で〻還らざれば、吾は則ち閭(八)に倚りて望む。汝、今王に事へ、王走りて、汝、處を知らず。汝尚ほ何ぞ歸れると。賈、乃ち淖齒を攻めて之を殺し、湣王の子法章を求めて、之を立て、莒を保たしめて以て燕に抗す。

(一)人質　(二)寵姬　(三)犬の眞似をして盗むこと　(四)釋放せるを也　(五)宿次の旅客を通行せしむ。陳殷音釋に驛劵と爲すは非　(六)一食事をする程の短時間　(七)王の居場所を見失ふ　(八)邑里の入口の門

時齊城。惟莒卽墨不㆑下。卽墨人推㆓田單㆒爲㆓將軍㆒。身操㆓

時に齊の城、惟り莒と卽墨のみ下らず。卽墨の人、田單を推して將軍と爲す。身ら版鍤(一)を操りて、士卒と功を分ち、妻妾は行伍に編す。城中に收めて牛千餘を得、絳繒衣(二)を爲り、五彩の龍文を畫き、兵刃を其角に束ね、脂を灌ぎて葦を

食客數千人。名聲聞二於諸侯一。號爲二孟嘗君一。秦昭王聞二其賢一。乃先納二質於齊一。以求レ見。至則止囚欲レ殺レ之。孟嘗君使下人抵二昭王幸姬一求上レ解。姬曰。願得二君狐白裘一。蓋孟嘗君嘗以獻二昭王一。無二他裘一矣。客有下能爲二狗盜一者上。入二秦藏中一。取レ裘以獻レ姬。姬爲言得レ釋。卽馳去。變二姓名一。夜半

之を殺さんと欲す。孟嘗君人をして昭王の幸姬に抵り、解かれんことを求めしむ。姬曰く、願はくは君が狐白裘を得んと。蓋し（二）孟嘗君嘗て以て昭王に獻ぜり。他の裘無し。客に能く（三）狗盜を爲す者有り、秦の藏中に入り、裘を取りて以て姬に獻ず。姬爲に言ひて釋（四）かるゝを得たり。卽ち馳せ去り、姓名を變じ、夜半に函谷關に至る。關の法、雞鳴きて方に客を出す。秦王の後に悔いて之を追はんを恐る。客に能く雞鳴を爲す者有り、雞盡く鳴く。（五）遂に傳を發す。出でゝ（六）食頃にして、追ふ者果して至る。而れども及ばず。孟嘗君歸る。秦を怨み、韓・魏と之を伐ちて、函谷關に入る。秦、城を割きて以て和す。孟嘗君、齊に相たり。或ひと之を王に毀る。乃ち出で奔る。湣王、宋を滅して驕る。燕の昭王、齊が嘗て燕を破れるの故を以て、諸侯と謀を合せて齊を攻む。燕の軍、臨淄に入る。湣王、莒に走る。楚の將、淖齒、齊を救ひ、反して湣王を殺し、燕と共に齊の侵地を分つ。王孫賈、湣王に莒に從ひて、（七）王の處を失す。其母曰く、汝、朝に

兩足一。而黥レ之。齊使至レ魏。竊載以歸。至レ是。臏爲二齊軍師一。直走二魏都一。涓去レ韓而歸。臏使下齊軍入二魏地一者。爲中十萬竈上。明日爲二五萬竈一。又明日爲二二萬竈一。涓大喜曰。我固知二齊軍怯一。入二吾地一三日。士卒亡者過半矣。乃倍レ日幷レ行逐レ之。臏度二其行一。暮當レ至二馬陵一。道陜而旁多レ阻。可レ伏レ兵。乃斫二大樹一。白而書曰。龐涓死二此樹下一。令二齊師善射者。萬弩夾レ道而伏一。期下暮見二火擧一而發上。涓果夜至二斫木下一。見二白書一。以レ火燭レ之。萬弩俱發。魏師大亂相失。涓自剄曰。遂成二豎子之名一。齊大破二魏師一。虜二太子申一。

と。齊の師の善く射る者をして、萬弩(四)、道を夾みて伏せしめ、暮に火の擧るを見て發せよと期す。涓、果して夜、斫りたる木の下に至り、白書を見、火を以て之を燭す。萬弩倶に發す。魏の師大に亂れて相失ふ。涓、自剄して曰く、遂に豎子(五)の名を成すと。齊大に魏の師を破り、太子申を虜にす。

(一) 城下。殺は齊の城門の名なり　(二) 技量の臏に及ばざるを以て　(三) 一日の行程を二倍にし、二日分を一日に行く　(四) 多くのはじき弓　(五) 小僧（臏を指す）に功名をなさしめたり

宣王卒。湣王立。靖郭君田嬰者。宣王之庶弟也。封二於薛一。有レ子曰レ文。

宣王卒して、湣王立つ。靖郭君田嬰は、宣王の庶弟也。薛に封ぜらる。子有り文と曰ふ。食客數千人、名聲諸侯に聞ゆ。號して孟嘗君と爲す。秦の昭王其賢を聞き、乃ち先づ質(一)を齊に納れて、以て見んことを求む。至れば則ち止め囚へて

威王卒。子宣王立。喜二文學游說之士一。騶衍。淳于髡。田駢。愼到之徒。七十六人。皆爲二上大夫一。是以齊稷下學士盛。且數百千人。然而孟子至。而不レ能レ用。魏伐レ韓。韓請二救於齊一。齊使二田忌爲レ將以救レ韓。魏將龐涓。嘗與二孫臏一。同學二兵法一。涓爲二魏將軍一。自以二所能不レ及。以レ法斷二其

威王卒して、子宣王立つ。文學游說の士を喜ぶ。騶衍・淳于髡・田駢・愼到の徒七十六人、皆上大夫と爲る。是を以て齊の稷(二)下の學士の盛んなる、且に數百千人ならんとす。然れども孟子至るも、用ふる能はず。魏、韓を伐つ。韓、救を齊に請ふ。齊、田忌をして將として以て韓を救はしむ。魏の將龐涓、嘗て孫臏と同じく兵法を學ぶ。涓、魏の將軍と爲り、自ら(三)所能の及ばざるを以て、法を以て其兩足を斷ちて之に黥す。齊の使、魏に至り、竊に載せて以て歸る。是に至りて、臏、齊の軍師と爲り、直に魏の都に走く。涓、韓を去て歸る。臏、齊の軍の魏の地に入る者をして、十萬の竈を爲らしめ、明日は五萬の竈を爲り、又明日は二萬の竈を爲る。涓、大に喜びて曰く、我、固に齊の軍の怯なるを知る。吾が地に入る三日、士卒亡ぐる者過半なりと。乃ち日を倍し行を幷せて之を逐ふ。臏、其行を度るに、暮に當に馬陵に至るべし。(三)道陝くして旁に阻多く、兵を伏す可し。乃ち大樹を斫り、白くして書して曰く、龐涓此樹下に死なん

辟。人民貧餓。趙攻鄄。子不救。衞取薛陵。子不知。是子厚幣事吾左右。以求譽也。是日烹阿大夫與嘗譽者。羣臣聳懼。莫敢飾詐。齊大治。諸侯不敢復致兵。威王與魏惠王。會田于郊。惠王曰。齊有寶乎。王曰。無有。惠王曰。寡人國雖小。猶有徑寸珠。照車前後。各十二乘者十枚。威王曰。寡人之寶與王異。吾臣有檀子者。使守南城。楚不敢爲寇泗上。十二諸侯皆來朝。有肦子者。使守高唐。趙人不敢東漁於河。有黔夫者。使守徐州。則燕人祭北門。趙人祭西門。有種首者。使備盜賊。道不拾遺。此四臣者。將照千里。豈特十二乘哉。惠王有慚色。

の珠の、車の前後を照らすこと、各々十二乘なる者十枚有り。威王曰く、寡人の寶は王と異なり。吾が臣に檀子といふ者有り、南城を守らしむ。楚敢て寇を(六)泗上に爲さず。十二諸侯皆來朝す。肦子(七)といふ者有り、高唐を守らしむ。趙人敢て東のかた河に漁せず。黔夫といふ者有り、徐州を守らしむ。則ち燕人北門(八)に祭り、趙人西門に祭る。種首といふ者有り。盜賊に備へしむ。道に遺ちたるを拾はず。此四臣は將に千里を照らさんとす。豈特に十二乘のみならんやと。惠王慚づる色有り。

(一) そしりごと也 (二) 近臣也 (三) はめことば (四) おそれおのゝく也 (五) 郊外の地に相會して狩を行ふ (六) 泗水の畔 (七) 肦に作るべし、田肦也 (八) 燕は齊の北方に在るを以て、齊に侵されんことを恐れて齊の北門にて祭を行ふなり (九) 趙は齊の西方に位するを以て也

祝曰。甌窶滿ﾚ篝。汙邪滿ﾚ車。五穀蕃熟。穰穰滿ﾚ家。臣見ニ其所ﾚ持者狹。所ﾚ欲者奢一。故笑ﾚ之。王乃益ニ黄金千鎰。白璧十雙。車馬百駟一。髡乃行。

時齊國幾不ﾚ振。王乃召ニ即墨大夫一。語ﾚ之曰。自ニ子之居ニ即墨一也。毀言日至。然吾使ニ人視ニ即墨一。田野辟。人民給。官無事東方寧。是子不ﾚ事ニ吾左右一。以求ﾚ助也。封ニ之萬家一。召ニ阿大夫一。語ﾚ之曰。自ニ子之守ﾚ阿。譽言日至。吾使ニ人視ﾚ阿。田野不ﾚ

時に齊國幾んど振はず。王乃ち即墨の大夫を召し、之れに語げて曰く、子の即墨に居りしより、毀言(一)日々に至る。然れども吾れ人をして即墨を視しむるに、田野辟け、人民給す。官、無事にして東方寧し。是れ子、吾が左右に事へて以て助けを求めざる也と。之を萬家に封ず。阿の大夫を召し、之に語げて(二)曰く、子の阿を守りしより、譽言(三)日々に至る。吾、人をして阿を視しむるに、田野辟けず、人民貧餒す。趙、鄄を攻むるに、子、救はず。衞、薛陵を取れるに、子、知らず。是れ子は幣を厚くして吾が左右に事へて、以て譽を求むる也と。是の日、阿の大夫と嘗て譽むる者とを烹る。羣臣聳懼(四)し、敢て飾り詐る莫し。齊大に治まり、諸侯敢て復た兵を致さず。威王、魏の惠王と、郊(五)に會田す。惠王曰く、齊に寶有りや。王曰く、有ること無し。惠王曰く、寡人、國は小なりと雖も、猶ほ徑寸

之。其粟予レ民。以二大斗一。行二私惠於民一。而公弗レ禁。由レ是得二齊衆一。乞專レ政。卒。子成子恆。弑二簡公一。立二平公一。封邑大二於公所一レ食。恆卒。襄子盤立。與二韓趙魏一通レ使。蓋三家且レ有レ晉。而田氏且レ有レ齊也。歷二莊子白一。至二太公和一。遂以二周安王命一爲レ侯。卒。子桓公午立。卒。威王因齊立。初不レ治。諸侯皆來伐。八年楚大發レ兵加レ齊。齊使三淳于髡請二救于一レ趙。賫二金百斤。車馬十駟一。髡仰レ天大笑。王曰。先生少レ之乎。髡曰。臣見三道傍有二禳レ田者一。操二一豚蹄酒一壺一。

に至り、遂に周の安王の命を以て侯と爲る。卒す。子桓公午立つ。卒す。威王因齊立つ。初治まらず、諸侯皆來り伐つ。八年、楚大に兵を發して齊に加ふ。齊、淳于髡をして救を趙に請はしめ、金百斤、車馬十駟を賫さしめんとす。髡、天を仰ぎて大笑す。王曰く、先生之を少しとするか。髡曰く、臣、道傍に田を(五)禳る者有るを見るに、一豚蹄、酒一壺を操りて、祝して曰く、甌窶(六)滿篝、汙邪(七)滿車、五穀蕃熟、穰穰として(八)家に滿てよと。臣、其の持する所の者狹にして、欲する所の者奢なるを見る。故に之れを笑ふと。王乃ち黄金千鎰、白璧十雙、車馬百駟を益す。髡乃ち行く。

(一) 百工を監督する役　(二) 小なる桝　(三) 齊の人衆を得たりと也　(四) 知行　(五) 田のやくよけを爲し豐作をいのる也　(六) 甌窶は高田卽ち畑也、畑よりはかご一杯に取れるやう　(七) 汙邪は水田なり、卽ち水田よりも車一杯にとれるやう　(八) ゆたかなる貌

也。御者乃自抑損。晏子怪而問之。以實對。薦爲大夫。公使晏子之晉。與叔向私語。以爲齊政必歸陳氏。如其言。景公後五世至康公。田和受周安王命爲侯。遷康公海濱。以死。姜氏遂絶不祀。

田氏齊

田氏齊者。本嬀姓。故陳厲公佗子。完之後也。完奔齊。爲陳氏。後又以陳爲田氏。完事齊桓公。爲工正。卒。謚敬仲。五世至釐子乞。事齊景公。爲大夫。其收賦稅於民。以小斗受

田氏齊は、本嬀姓。故の陳の厲公佗の子完の後也。完、齊に奔りて陳氏と爲り、後又陳を以て田氏と爲す。完、齊の桓公に事へて工正（一）と爲る。卒して、敬仲と謚す。五世、釐子乞に至り、齊の景公に事へて大夫と爲る。其賦稅を民より收むるには、小斗（二）を以て之を受け、其粟を民に予ふるには、大斗を以てして、私惠を民に行ふ。而れども公、禁ぜず。是に由りて、齊の衆（三）を得たり。乞、政を專にす。卒す。子成子恆、簡公を弑して、平公を立つ。封邑、公の食む（四）所よりも大なり。恆、卒して、襄子盤立つ。韓•趙•魏と使を通ず。蓋し三家は且に晉を有たんとし、而して田氏は且に齊を有たんとする也。莊子白を歷て、太公和

晏字平仲。以二節儉力行一重二於齊。一狐裘三十年。豚肩不レ掩レ豆。齊國之士。待以擧レ火者七十餘家。晏子出。其御之妻。從二門閒一窺。其夫擁二大蓋一策二駟馬一。意氣揚揚自得。既而歸。妻請レ去曰。晏子身相二齊國一。名顯二諸侯一。觀二其志一。嘗有二以自下一。子爲二人僕御一。自以爲レ足。妾是以求レ去

(三)待ちて以て火を擧ぐる者、七十餘家。晏子出づ。其御の妻、門閒より窺ふに、其夫大蓋を擁し駟馬に策ち、(四)意氣揚揚として自得す。既にして歸る。妻去らんことを請ひて曰く、晏子は身齊國に相として、名諸侯に顯はる。其志を觀るに、嘗に以て(五)自ら下る有り。子、人の僕御と爲り、自ら以て足れりと爲す。妾是を以て去らんことを求むる也と。御者乃ち(六)自ら抑損す。晏子怪みて之を問ふ。實を以て對ふ。薦めて大夫と爲す。公、晏子をして晉に之かしむ。叔向と私語し、以爲らく、齊の政必ず陳氏に歸せんと。其言の如し。景公の後五世、康公に至りて、田和、周の安王の命を受けて侯と爲り、康公を海濱に遷して以て死せしむ。姜氏遂に絶えて祀られず。

(一) 一枚の狐の皮衣を三十年も用ふるなり (二) 豆は祭祀に用ふる禮器、豚肩小にして豆を掩ふにも足らずと也

(三) 平仲の力によつて活計を立つ (四) 自ら得意とし滿足する也 (五) 自らおさへへり下る (六) 卑下謙遜す

賈。分レ利多自與。鮑叔不ニ以爲レ貪。知ニ仲貧一也。嘗謀レ事窮困。鮑叔不ニ以爲レ愚。知ニ時有ニ利不利一也。嘗三戰三走。鮑叔不ニ以爲レ怯。知ニ仲有ニ老母一也。仲曰。生レ我

曰く、自ら宮して以て君に適ふ、人情に非ず。近づく可からずと。仲、死す。公、仲の(八)言を用ひず、卒に之を近づく。三子、權を專にす。公の內寵、夫人の如き者六、皆子有り。公、薨ず。五公子立つを爭ひて相攻む。公の尸、床に在りて、(九)殯斂する無き者六十七日。(一〇)尸蟲、戶より出づ。

(一)多くの弟　(二)おもり役　(三)帶どめの金具　(四)怨を忘る　(五)鮑叔と共同して商賣すと也。多く自ら與ふとは、己の得分を多くするをいふ　(六)九は糾也。一說に九は字の如く數として解す　(七)天下を統一するなり　(八)自ら宮刑を受け肉體を不具にして君の御意に適へるもの也　(九)かりもがりすること　(一〇)死體のうじ虫

者父母。知レ我者鮑子也。桓公九ニ合諸侯一。一ニ匡天下一。皆仲之謀。一則仲父。二則仲父。仲病。桓公問。羣臣誰可レ相。易牙何如。仲曰。殺レ子以食レ君。非ニ人情一。不レ可レ近。開方何如。曰。倍レ親以適レ君。非ニ人情一。不レ可レ近。蓋開方故衞公子來奔者也。豎刁何如。曰。自宮以適レ君。非ニ人情一。不レ可レ近。仲死。公不レ用ニ仲言一。卒近レ之。三子專レ權。公內寵如ニ夫人一者六。皆有レ子。公薨。五公子爭レ立相攻。公尸在レ床。無ニ殯斂一者六十七日。尸蟲出ニ于戶一。

自ニ桓公一八世。至ニ景公一。有ニ晏子者一。事レ之。名

桓公より八世、景公に至り、晏子といふ者有り、之に事ふ。名は嬰、字は平仲。節儉力行を以て齊に重んぜらる。(一一)一狐裘三十年。(一二)豚肩、豆を掩はず。齊國の士、

始。名小白。兄襄公無道。羣弟恐ニ禍及一。子糾奔レ魯。管仲傅レ之。小白奔レ莒。鮑叔傅レ之。襄公爲ニ弟無知一所レ弑。無知亦爲レ人所レ殺。齊人召ニ小白於莒一。而魯亦發レ兵送レ糾。管仲嘗遮ニ莒道一。射ニ小白一中ニ帶鉤一。小白先至レ齊而立。鮑叔牙薦ニ管仲一爲レ政。公置レ怨而用レ之。仲字夷吾。嘗與ニ鮑叔一

り。襄公、弟無知の爲に弑せられ、無知も亦人の爲に殺さる。齊人、小白を莒に召ぶ。而して魯も亦兵を發して糾に送る。管仲嘗て莒の道を遮り、小白を射、帶鉤(三)に中つ。小白先づ齊に至りて立つ。鮑叔牙、管仲を薦めて政を爲さしむ。公、怨み(四)を置きて之を用ふ。仲、字は夷吾。嘗て鮑叔と賈(五)し、利を分つに多く自ら與ふ。鮑叔以て貪ると爲さず。仲の貧を知れば也。嘗て事を謀りて窮困す。鮑叔以て愚と爲さず。時に利不利有るを知れば也。嘗て三たび戰ひて三たび走る。鮑叔以て怯と爲さず。仲に老母有るを知れば也。仲曰く、我を生む者は父母、我を知る者は鮑子也と。桓公、諸侯を九合(六)して、天下(七)を一匡す。皆仲の謀なり。一にも則ち仲父、二にも則ち仲父。仲、病む。桓公問ふ、羣臣、誰をか相とす可き。易牙は何如。仲曰く、子を殺して以て君に食はしむ。人情に非ず、近づく可からず。開方は何如。曰く、親に倍きて以て君に適ふ。人情に非ず、近づく可からずと。蓋し開方は、故と衞の公子の來奔せる者也。竪刁は何如。

威烈王命ㇾ爲ㇾ侯。又歷二李公一至二靜公一。魏武侯。韓哀侯。趙敬侯。共廢二靜公一爲二家人一。而分二其地一。晉絕不ㇾ祀。

陳。嬀姓。虞舜之後。胡公滿之所ㇾ封也。周武公求而封ㇾ之。後世至二春秋一。有二公子完者一。出奔而仕二于齊一。陳後爲二楚惠王一所ㇾ滅。而完之後遂大二于齊一。爲二田氏一。

齊。姜姓。太公望呂尙之所ㇾ封也。後世至二桓公一。霸二諸侯一。五霸桓公爲ㇾ

陳

陳、嬀姓。虞舜の後、胡公滿の封ぜられし所也。周の武公求めて之を封ず。後世、春秋に至り、公子完といふ者有り、出で奔りて齊に仕ふ。陳、後に楚の惠王の爲に滅さる。而して完の後、遂に齊に大なり。(一)田氏と爲す。

(一) 齊にて盛大となりしとなり

齊

齊、姜姓。太公望呂尙の封ぜられし所也。後世、桓公に至りて、諸侯に霸たり。五霸、桓公を始と爲す。名は小白。兄襄公無道なり。羣弟(二)禍の及ばんことを恐れ、子糾は魯に奔り、管仲之に傅たり。(三)小白は莒に奔り、鮑叔之に傅た

衰。顓頊。魏犨一。而不レ及二子推一。子推之從者。懸二書宮門一曰。有レ龍矯矯。頃失二其所一。五蛇從レ之。周二流天下一。龍饑乏レ食。一蛇割レ股。龍返二於淵一。安二其壤土一。四蛇入レ穴。皆有二處處一。一蛇無レ穴。號二于中野一。公曰。噫寡人之過也。使二人求一レ之。不レ得。隱二綿上山中一。焚二其山一。子推死焉。後人爲レ之寒食。文公環二綿上田一封レ之。號曰二介山一。文公卒。其後遂世爲レ霸。歷二襄公。靈公。成公。景公。厲公一。至二悼公一。霸業復盛。又歷二平公。昭公。頃公一。公室益弱。而六卿。范氏。知氏。中行氏。趙氏。魏氏。韓氏。皆大。歷二定公一至二出公一。知氏與二趙魏韓氏一。分二范中行氏一。公怒。四卿反攻レ公。公出奔而死。哀公立。韓趙魏氏。又滅二知氏一而分レ之。幽公立。晉獨有二絳曲沃一。餘皆入二韓趙魏氏一。號爲二三晉一。烈公立。三卿以二周

を歴て、出公に至り、知氏、趙・魏・韓氏と、范・中行氏とを分つ。公怒る。四卿反して公を攻む。公出で奔りて死す。哀公立つ。韓・趙・魏氏、又知氏を滅して之を分つ。幽公立つ。晉、獨り(七)絳の曲沃を有ち、餘は皆韓・趙・魏氏に入る。號して三晉と爲す。烈公立つ。三卿、周の威烈王の命を以て侯と爲る。又孝公を歴て、靜公に至り、魏の武侯・韓の哀公・趙の敬公、共に靜公を廢して(八)家人となし、而して其地を分つ。晉絕えて祀られず。

(一) 上方圓くして下方の角なる璧、諸侯を封ずるに用ふるしるし (二) 封ずる日をえらぶなり (三) 威勢よくして高く擧る貌 (四) 流浪するをいふ (五) 到る處にさまよひ歩く也 (六) 毎年清明前三日間火食を禁ず以て其魂を弔ふ也 (七) 絳は山西に屬する州名、曲沃はその縣也 (八) 庶人といふに同じ

削二桐葉一爲レ圭。曰。以レ此封レ若。史佚請レ擇レ日。王曰。吾與レ之戲耳。佚曰。天子無二戲言一。遂封レ唐。後世至二文公一。霸二諸侯一。文公名重耳。獻公之次子也。獻公嬖二於驪姬一。殺二太子申生一。而伐二重耳於蒲一。重耳出奔。十九年而後反レ國。嘗レ餒二於曹一。介子推割レ股以食レ之。及レ歸賞二從亡者一狐偃・趙

封ず。後世、文公に至りて、諸侯に霸たり。文公、名は重耳、獻公の次子なり。獻公、驪姬を嬖し、太子申生を殺して、重耳を蒲に伐つ。重耳出で奔る。十九年にして後に國に反る。嘗て曹に餒う。介子推、股を割きて以て之に食ましむ。歸るに及び、從ひて亡げし者、狐偃・趙衰・顚頡・魏犨を賞して、子推に及ばず。子推の從者、書を宮門に懸けて曰く、龍有り矯矯たり。(三)頃く其所を失す。(四)五蛇、之に從ひ、天下に周流す。(五)龍、饑ゑて食に乏し。一蛇股を割く。龍、淵に返りて、其壤土に安んず。四蛇穴に入り、皆處處有り。一蛇穴無くして、中野に號く。公曰く、噫寡人の過也と。人をして之を求めしむ。得ず。綿上の山中に隱る。其山を焚く。子推死す。後人之が爲に寒食す。(六)文公、綿上の田を環らして之を封ず。號して介山と曰ふ。文公卒す。其後遂に世〻霸たり。(七)襄公・靈公・成公・景公・厲公を歷て、悼公に至り、霸業復た盛なり。又平公・昭公・頃公を經て、公室益〻弱くして、六卿、范氏・知氏・中行氏・趙氏・魏氏・韓氏皆大なり。定公

友之所㆑封也。桓公子武公。與㆓其子莊公㆒。並爲㆓周司徒㆒。數世至㆓聲公㆒。相㆓子產㆒。子產者公族。國氏。名僑。孔子過㆑鄭。與㆓子產㆒如㆓兄弟㆒云。穆襄以來。鄭無㆓歲不㆑被㆓晉楚之兵㆒。子產受㆑之以㆑禮。自固。雖㆓晉楚之暴㆒。不㆑能㆑加焉。鄭至㆓周威烈王時㆒。君乙爲㆓韓哀侯㆒所㆑滅。韓徙都㆑之。

公と並に周の司徒と爲る。數世にして聲公に至り、子產を相とす。子產は公の族なり。國氏(一)、名は僑。孔子、鄭を過りしとき、子產と兄弟の如かりしと云ふ(二)。穆襄以來、鄭、歲として晉・楚の兵を被らざる無し。子產之を受くるに禮を以てし、自ら固くす(三)。晉・楚の暴と雖も、加ふる能はず。鄭、周の威烈王の時に至り、君乙、韓の哀公の爲に滅さる。韓、徙りて之に都す。

(一) 氏は國にしての意　(二) 兄弟の如く親しかりしをいふ　(三) 國勢を堅固にせる也

晉

晉。姬姓。成王弟唐叔虞之所㆑封也。成王幼。與㆓叔虞㆒戲。

晉、姬姓。成王の弟唐叔虞の封ぜられし所也。成王幼なりしとき、叔虞と戲れ、桐葉を削りて圭(一)と爲して曰く、此を以て若を封ぜんと。史佚(二)日を擇ばんと請ふ。王曰く、吾之と戲れたるのみ。佚曰く、天子に戲言無しと。遂に唐に

於衞言。苟變可將。衞侯曰。變嘗爲吏。賦於民。食人二雞子。故弗用。子思曰。聖人用人。猶匠之用木。取其所長。棄其所短。故杞梓連抱而有數尺之朽。良工不棄。今君處戰國之世。而以二卵棄干城之將。此不可使聞於鄰國也。衞侯言。計非是。而羣臣和者。如出一口。子思曰。君之國事。將日非矣。君出言自以爲是。而卿大夫莫敢矯其非。卿大夫出言。自以爲是。而士庶人莫敢矯其非。詩曰。具曰予聖。誰知烏之雌雄。周之諸侯。惟衞最後亡。至秦幷天下爲帝。二世始廢君角。爲庶人。

して卿大夫敢て其非を矯むること莫し。卿大夫言を出して、自ら以て是と爲す。而して士庶人敢て其非を矯むること莫し。詩に曰く、具に予を聖なりと曰ふ。誰か烏の雌雄を知らんと。周の諸侯、惟だ衞のみ最も後に亡ぶ。秦の天下を幷せて帝と爲るに至り、二世始めて君角を廢して、庶人と爲す。

㈠冠のひも　㈡冠をぬがずと也　㈢子路醢となる、故に醢を食ふに忍びざる也　㈣たまご也　㈤杞は楠の類、梓はあかめ柏、連抱は幾拱といふ太さの意　㈥朽ちたる部分

鄭

鄭。姫姓。周宣王庶弟桓公

鄭、姫姓。周の宣王の庶弟桓公友の封ぜられし所也。桓公の子武公、其子莊

衞。姬姓。武王母弟康叔封之所レ封也。後世至二春秋一。有二靈公夫人南子之亂一。子蒯聵欲レ殺二南子一。不レ果出奔。公卒。立二蒯聵之子輒一。蒯聵入。輒拒レ之。子路與二其難一。太子之臣。以レ戈擊二子路一。斷レ纓。子路曰。君子死。冠不レ免。結レ纓而死。衞人醢二子路一。孔子聞レ之。命覆レ醢。戰國時。子思居二

衞、姬姓。武王の母弟康叔封の封ぜられし所也。後世春秋に至り、靈公の夫人南子の亂有り。子蒯聵、南子を殺さんと欲し、果さずして出で奔る。公卒す。蒯聵の子輒を立つ。蒯聵入る。輒之を拒ぐ。子路其難に與る。太子の臣、戈を以て子路を擊ちて、(一)纓を斷つ。子路曰く、君子は死すとも、(二)冠、免ぜずと。纓を結びて死す。衞人、子路を醢にす。孔子之を聞き、命じて(三)醢を覆さしむ。戰國の時、子思、衞に居て言ふ、苟變、將とす可し。衞侯曰く、變、嘗て吏と爲り、民に賦して人の(四)二雞子を食ふ。故に用ひず。子思曰く、聖人の人を用ふるは、猶ほ匠の木を用ふるがごとし。其長き所を取りて、其短き所を棄つ。故に(五)杞梓連抱にして、數尺の朽有るも、良工は棄てず。今君、戰國の世に處る。而るに二卵を以て、(六)干城の將を棄つ。此れ鄰國に聞えしむ可からざるなりと。衞侯の言、計是に非ざるに、羣臣和する者、一口に出づるが如し。子思曰く、君の國事、將に日に非ならんとす。君、言を出して自ら以て是と爲す。而

子問焉。老子告之曰。良賈深藏若虛。君子盛德。容貌若愚。孔子去謂弟子曰。鳥吾知其能飛。魚吾知其能游。獸吾知其能走。走者可以爲網。游者可以爲綸。飛者可以爲矰。至於龍。吾不能知其乘風雲。而上天也。今見老子。其猶龍乎。老子見周衰。去至關。關令尹喜曰。子將隱矣。爲我著書。乃著道德五千餘言而去。莫知其所終。其後有鄭人列禦寇。蒙人莊周。亦爲老子之學。莊周著書。侮孔子。而誚諸子焉。

く、鳥は吾其能く飛ぶを知る。魚は吾其能く游ぐを知る。獸は吾其能く走るを知る。走る者は以て網(三)を爲す可く、游ぐ者は以て綸を爲す可く、飛ぶ者は以て矰(四)を爲す可し。龍に至りては、吾、其の風雲に乘じて天に上るを知る能はざる(五)也。今老子を見るに、其れ猶ほ龍のごときかと。老子、周の衰へたるを見、去りて關(六)に至る。關の令尹喜曰く、子、將に隱れんとす。我が爲に書を著せと。乃ち道德五千餘言を著して去る。其終る所を知る莫し。其後鄭人列禦寇、蒙人莊周有り。亦老子の學を爲す。莊周、書を著はして、孔子を侮り、諸子を誚る。

(一) 藏を守り金帛を出納する役　(二) 立派なる商人　(三) 網にて捕ふべしと也　(四) いぐるみ、矢に絲をつけ射て鳥を捕ふる道具　(五) 如何にして制すべきかを知らず　(六) 函谷關

哀十二公。絶筆於獲麟。筆則筆。削則削。子夏之徒不能贊一辭。弟子三千人。身通六藝者七十有二人。年七十三而卒。

子鯉。字伯魚。早死。孫伋。字子思。作中庸。孟子其門人也。名軻。魯孟孫之後。生於鄒。幼被慈母三遷之教。長受業子思之門。道既通。游齊梁。不用。退與萬章之徒。難疑答問。作七篇。

子鯉、字は伯魚。早く死す。孫伋、字は子思。中庸を作る。孟子は其門人也。名は軻、魯の孟孫の後なり。鄒に生れ、幼にして慈母三遷(一)の教を被り、長じて業を子思の門に受く。道既に通じて(二)、齊・梁に游ぶ。用ひられず。退きて萬章の徒と難疑答問して、七篇(三)を作る。

(一) 孟母が、其住所の周圍の孟子に惡感化を與ふるを憂へ三たび居をうつしたる故事をいふ (二) そのおくそこに通曉したる也 (三) 即ち四書の一たる孟子也

老子者。楚苦縣人也。李姓。名耳。字伯陽。又曰。字聃。爲周守藏吏。孔

老子は楚の苦縣の人なり。李姓、名は耳、字は伯陽。又曰く、字は聃と。周の(一)守藏の吏と爲る。孔子問ふ。老子之に告げて曰く、良賈は深く藏めて虚しきが(二)若くす。君子は盛德ありて、容貌愚なるが若しと。孔子去りて弟子に謂ひて曰

死臨河歎曰。美哉水洋洋乎。丘之不濟。此命也。反于衞。適陳。適蔡。如葉。反于蔡。楚使人聘之。陳蔡大夫謀曰。孔子用於楚。則陳蔡危矣。相與發徒圍之於野。孔子曰。詩云。匪兕。匪虎。率彼曠野。吾道非邪。吾何爲於是。子貢曰。夫子道至大。天下莫能容。顏回曰。不容何病。然後見君子。楚昭王興師迎之。乃得至楚。將封以書社地七百里。令尹子西不可。孔子反于衞。季康子迎歸魯。哀公問政。終不能用。乃序書。上自唐虞。下至秦繆。刪古詩三千爲三百五篇。皆絃歌之。禮樂自此可述。晩而喜易。序彖象繫辭說卦文言。讀易韋編三絕。因魯史記。作春秋。自隱至哀

より、下は秦繆に至る。古詩三千を删りて、三百五篇と爲し、皆之を絃歌す。禮樂此れより述ぶ可し。(八)晩にして易を喜み、彖・象・繫辭・說卦・文言を序す。(九)易を讀むに、韋編三たび絶ゆ。(一〇)魯の史記に因りて春秋を作る。隱より哀に至る十二公、筆すべきは則ち筆し、削るべきは則ち削る。子夏の徒、一辭を贊する能はず。(一一)弟子三千人。身、六藝に通ずる者七十有二人あり。(一二)年七十三にして卒す。

(一)孔子を待遇するに　(二)廢也　(三)つかれはてたる貌　(四)喪にあたる家の犬、主人哀しみて食を與ふるを忘れ爲めに衰疲するに比していふ也　(五)野牛の類　(六)彼の廣漠たる原野に率ひ行くは何者ぞ　(七)二十五家を里とし、之に社を立て、土神を祭る、其社の人名を戸籍に書するが故に書社といふ　(八)語るべし　(九)晩年　(一〇)竹簡を綴ぢたるなめしがは　(一一)魯の哀公が西狩して麟を獲たる所までにて筆を止む　(一二)禮・樂・射・御・書・數

所㆑暴。孔子貌類㆓陽虎㆒。止㆑之。既免。反㆓于衞㆒。醜㆓靈公所㆒㆑爲。去㆑之。過㆑曹。適㆑宋。與㆓弟子㆒習㆓禮大樹下㆒。桓魋伐㆓拔其樹㆒。適㆑鄭。鄭人曰。東門有㆑人。其顙似㆑堯。其項類㆓皐陶㆒。其肩類㆓子產㆒。自㆑要以下。不㆑及㆑禹三寸。纍纍然若㆓喪家之狗㆒。適㆑陳。又適㆑衞。將㆔西見㆓趙簡子㆒。至㆑河。聞㆓竇鳴犢舜華殺

に似、其項は皐陶に類し、其眉は子產に類す。(二)要より以下、禹に及ばざること三寸。(三)纍纍然として(四)喪家の狗の若しと。陳に適き又衞に適き、將に西のかた趙簡子を見んとして、河に至り、竇鳴犢・舜華が殺されて死せしを聞き、河に臨みて歎じて曰く、美なる哉、水、洋洋乎たり。丘が濟らざるは、此れ命也と。衞に反り陳に適き、蔡に適き、葉に如きて、蔡に反る。楚、人をして之を聘せしむ。陳・蔡の大夫謀りて曰く、孔子楚に用ひらるれば、則ち陳・蔡危しと。相與に徒を發して之を野に圍む。孔子曰く、詩に云ふ、(五)兕に匪ず、虎に匪ずして、(六)彼の曠野に率ふと。吾が道非なるか。吾、何爲ぞ是に於てする。子貢曰く、夫子の道は至大なり、天下能く容るゝ莫し。顏回曰く、容れられざる、何ぞ病へん、然る後君子を見ると。楚の昭王、師を興して之を迎ふ。乃ち楚に至るを得たり。將に封ずるに書社(七)の地七百里を以てせんとす。令尹子西、可かず。孔子、衞に反る。季康子、迎へて魯に歸る。哀公政を問へども、終に用ふる能はず。乃ち書を序でゝ、上は唐虞

四世。孔子名丘。字仲尼。其先宋人也。有ニ正考父者一。佐レ宋。三命滋益恭。其鼎銘云。一命而僂。再命而傴。三命而俯。循レ墻而走。亦莫ニ余敢侮一。饘ニ於是一。粥ニ於是一。以餬ニ予口一。孔氏滅ニ於宋一。其後適レ魯。有ニ叔梁紇者一。與ニ顔氏女一。禱ニ於尼山一。而生ニ孔子一。爲レ兒嬉戲。常陳ニ俎豆一。設ニ禮容一。長爲ニ季氏吏一。料量平。嘗爲ニ司職吏一。畜蕃息。適レ周問ニ禮於老子一。反而弟子稍益進。

に禱りて、孔子を生む。兒たりしとき、嬉戲するに、常に俎豆(八)を陳ね、禮容を設く。長じて季氏の吏と爲る。料量平(九)なり。嘗て司職の吏と爲る(一〇)。畜、蕃息す。周に適きて禮を老子に問ふ。反りて弟子稍く益く進む。

(一)越の兵を以て　(二)孔子の孫　(三)三たび進んで高官を拜命し而も益々恭敬なり　(四)首をさぐ　(五)腰をまぐ　(六)路の中央を歩かず垣によりそひて走る　(七)濃きかゆ　(八)祭器　(九)出納正し　(一〇)牧畜を司る

適レ齊。齊景公將三待以ニ季孟之閒一。孔子反レ魯。定公用レ之。不レ終。適レ衞。將レ適レ陳。過レ匡。匡人嘗爲ニ陽虎一

齊に適く、齊の景公將に待つ(一)に季孟の閒を以てせんとす。孔子魯に反る。定公之を用ひて終へず。衞に適き、將に陳に適かんとして、匡を過ぐ。匡人嘗て陽虎の爲に暴せらる。孔子の貌、陽虎に類す。之を止む。既にして免れて衞に反る。靈公の爲す所を醜として、之を去る。曹を過ぎ、宋に適き、弟子と禮を大樹の下に習ふ。桓魋其樹を伐り拔く。鄭に適く。鄭人曰く、東門に人有り。其顙は堯

異レ處。景公懼歸。語二其臣一曰。魯以二君子之道一輔二其君一。而子獨以二夷狄之道一教二寡人一。於レ是齊人乃歸二所レ侵魯鄆汶陽龜陰地一。以謝レ魯。孔子言二於定公一。將下墮二三都一以强中公室上。叔孫氏先墮レ郈。季氏墮レ費。孟氏之臣不レ肯レ墮レ成。圍レ之弗レ克。孔子由二大司寇一。攝二行相事一。七日而誅二亂レ政大夫少正卯一。居三月。魯大治。齊人聞レ之懼。乃歸二女樂於魯一。季桓子受レ之。不レ聽レ政。郊又不レ致二膰俎於大夫一。孔子遂去レ魯。

定公卒。子哀公立。欲三以レ越伐二三桓一。不レ克。歷二悼公。元公一。至二繆公一。知レ尊二子思一。而不レ能レ用。歷二共公康公一。至二平公一。嘗欲レ見二孟子一。而不レ果。歷二文公一。至二頃公一。爲二楚考烈王一所レ滅。魯自二周公一。至二頃公一。凡三十

定公卒して、子哀公立つ。（一）越を以て、三桓を伐たんと欲す。克たず。悼公・元公を歷て、繆公に至り、（二）子思を尊ぶを知りて、用ふる能はず。共公・康公を歷て、平公に至り、嘗て孟子を見んと欲して、果さず。文公を歷て、頃公に至り、楚の考烈王の爲に滅さる。魯、周公より頃公に至るまで、凡て三十四世。孔子、名は丘、字は仲尼。其先は宋人なり。正考父といふ者有り、宋に佐たり。（三）三命して滋益恭し。其鼎の銘に云く、一命して僂し、（四）再命して傴し、（五）三命して俯す。（六）墻に循ひて走る。亦余を敢て侮る莫し。是に饘し、（七）是に粥して、以て予が口を餬せんと。孔氏、宋に滅び、其後魯に適く。叔梁紇といふ者有り、顏氏の女と尼山

必有二武備一。請具二左右司馬一以從。既會。齊有司請奏二四方之樂一。於レ是旗旄劍戟。鼓譟而至。孔子趨而進曰。吾兩君爲レ好。夷狄之樂。何爲於レ此。齊景公心怍麾レ之。齊有司請奏二宮中之樂一。優倡侏儒戲而前。孔子趨而進曰。匹夫熒二惑諸侯一者。罪當レ誅。請命二有司一加レ法焉。首足

す。優倡侏儒戲れて前む。孔子趨りて進みて曰く、匹夫、諸侯を熒惑(七)する者は、罪當(六)に誅すべし。請ふ、有司に命じて法を加へんと。首足處(八)を異にす。景公懼れて歸り、其臣に語げて曰く、魯は君子の道を以て其君を輔く。而るに子獨り夷狄の道を以て寡人に敎ふと。是に於て齊人乃ち犯す所の魯の鄆・汶陽・龜陰の地を歸して、以て魯に謝す。孔子、定公に言ひて、將に三都を墮ちて以て公室を強くせんとす。叔孫氏先づ郈を墮ち、季氏費を墮つ。孟氏の臣、成を墮つことを肯ぜず。之を圍みて克たず。孔子、大司寇より、相の事を攝行し、七日にして政を亂る大夫少正卯を誅す。居ること三月、魯、大に治る。齊人之を聞きて懼れ、乃ち女樂(九)を魯に歸る。季桓子之を受け、政を聽かず、郊(一〇)して又膰俎(一一)を大夫に致さず。孔子遂に魯を去る。

(一) 中都といふ地の長なり　(二) 民政を司る官　(三) 旗旄ははた、劍戟はつるぎとほこ　(四) やかましく打ち鳴らして　(五) さしまねきて退かしむ　(六) 俳優倡妓一寸法師の類　(七) まどはす　(八) 斬罪に處したる也　(九) 魯の君臣を惑はさん爲也　(一〇) 夏至冬至に天を祭るをいふ　(一一) 恆例を忘れ祭の肉を卿太夫に分たずと也

政不レ簡不レ易民不レ能レ近。平易近レ民。民必歸レ之。周公問二太公一何以治レ齊。曰。尊レ賢而尚レ功。周公曰。後世必有二簒弑之臣一。太公問二周公一何以治レ魯。曰。尊レ賢而親レ親。太公曰。後寖弱矣。伯禽十三世而至二隱公一。爲二春秋之始一。隱公之弟曰二桓公一。桓公之子莊公。莊公有二庶弟三人一。曰慶父。其後爲二孟孫氏一。曰叔牙。其後爲二叔孫氏一。曰季友。其後爲二季孫氏一。是爲二三桓一。世執二國命一。歷二子班。閔公。僖公。文公。宣公。成公。襄公一。至二昭公一。伐二季氏一。三家共伐レ之。公奔二乾侯一以卒。

㈠成王を責めずして却つて吾が子伯禽を撻つ。成王に自省せしむるなり ㈡一度洗ふ毎に三度も髮を握り起ち、又、一度の食事中に三度も口中の食物を吐いて、以て賢人を見る ㈢政の成績を告ぐ ㈣君は南面し臣は北面す ㈤太公望 ㈥君を弑して位をうばふ臣 ㈦國の命令即ち國政也

弟定公立。以二孔子一爲二中都宰一。一年。四方皆則レ之。由二中都一爲二司空一。進爲二大司寇一。相二定公一。會二齊侯于夾谷一。孔子曰。有二文事一者。

弟定公立つ。孔子を以て中都の宰と爲す。一年にして四方皆之れに則る。中都より司空(一)と爲り、進みて大司寇(二)と爲り、定公を相けて、齊公に夾谷に會す。孔子曰く、文事有る者は、必ず武備有り。請ふ、左右の司馬を具へて、以て從はんと。既に會するや、齊の有司、請うて四方の樂を奏す。是に於て、旗旄(三)劍戟、鼓譟(四)して至る。孔子趨りて進みて曰く、吾が兩君好を爲すに、夷狄の樂、何爲れぞ此に於てせんと。齊の景公心に怍ぢて之を麾す(五)。齊の有司請うて宮中の樂を奏

父。然我一沐三握レ髮。一飯三吐レ哺。起以待レ士。猶恐レ失ニ天下賢人一。子之レ魯。愼無ニ以レ國驕レ人。太公封ニ於齊一。五月而報レ政。周公曰。何疾也。曰吾簡ニ其君臣禮一。從ニ其俗一。伯禽至レ魯。三年而報レ政。周公曰。何遲也。曰變ニ其俗一。革ニ其禮一。喪三年而後除レ之。周公曰。後世其北面事レ齊乎。夫

從ふと。伯禽、魯に至る。三年にして政を報ず。周公曰く、何ぞ遲きと。曰く、其俗を變じ、其禮を革む。喪は三年にして後に之を除くと。周公曰く、後世其れ北(四)面して齊に事へんか。夫れ政簡ならず易ならざれば、民近づくこと能はず。平易にして民を近づくるときは、民必ず之に歸せんと。周公、(五)太公に問ふ、何を以て齊を治むる。曰く、賢を尊びて、功を尙ぶと。周公曰く、後世必ず簒弑(六)の臣有らんと。太公、周公に問ふ、何を以て魯を治むる。曰く、賢を尊びて、親を親とすと。太公曰く、後寢く弱ならんと。伯禽より十三世にして隱公に至る。春秋の始と爲す。隱公の弟を桓公と曰ふ。桓公の子は莊公。莊公に庶弟三人有り。曰く慶父。其後を孟孫氏と爲す。曰く叔牙。其後を叔孫氏と爲す。曰く季友。其後を季孫氏と爲す。是を三桓と爲す。世〻(七)國命を執る。子班・閔公・僖公・文公・宣公・成公・襄公を歷て、昭公に至り、季氏を伐つ。三家共に之を伐つ。公、乾侯に奔りて、以て卒す。

之股肱。曰可レ移二於民一。公曰。君者待レ民。曰可レ移二於歳一。公曰。饑歳民困。吾誰爲君。子韋曰。天高聽レ卑。君有二君人之言三一。宜レ有レ動。候レ之。果徙一度。歴二數世一。至二康王偃一。有レ雀生レ鸇。占レ之。曰。必覇二天下一。偃喜。敗二齊楚魏一。與爲二敵國一。偃淫虐。天下號レ之曰二桀宋一。周愼靚王時。齊湣王。與二楚魏一共伐レ宋。滅レ之。而分二其地一。

(一)危急の際　(二)火星が心宿の居るべき場所に居る　(三)列星を諸侯の土地に配すれば、心星はまさに宋の地に當る　(四)天文を司る役人　(五)凶事を宰相の身に移して己れ其禍を免るべし　(六)民に依りて立つ　(七)歳をして凶荒ならしむべし　(八)天は高けれども能く下界の人の言を聞く　(九)善言　(一〇)感應あらん　(一一)小鷹

魯。姬姓。周公子伯禽之所レ封也。周公誨二成王一。王有レ過。則撻二伯禽一。伯禽就レ封。公戒レ之曰。我文王之子。武王之弟。今王之叔

魯

魯、姬姓、周公の子伯禽の封ぜられし所也。周公、成王に誨ふるに、王に過有れば、則ち伯禽を撻つ。伯禽、封に就く。公之を戒めて曰く、我は文王の子、武王の弟、今王の叔父なり。(一)然れども我一沐に三たび髪を握り、一飯に三たび(二)哺を吐きて、起ちて以て士を待つ。猶天下の賢人を失はんことを恐る。子、魯に之かば、愼みて國を以て人に驕ること無れと。太公、齊に封ぜらる。五月にして(三)政を報ず。周公曰く、何ぞ疾なると。曰く、吾、其君臣の禮を簡にし、其俗に

宋。子姓。商紂庶兄微子啓之所レ封也。後世至ニ春秋一。有ニ襄公玆父者一。欲レ霸ニ諸侯一。與レ楚戰。公子目夷請下及ニ其未レ陣擊上レ之。公曰。君子不レ困ニ人於阨一。遂爲レ楚所レ敗。世笑以爲ニ宋襄之仁一。其後有ニ景公者一。熒惑嘗以ニ其時一守レ心。心宋之分野。公憂レ之。司星子韋曰。可レ移ニ於相一。公曰。相吾

宋、子姓。商の紂の庶兄微子啓の封ぜられし所也。後世春秋に至り、襄公玆父といふ者有り、諸侯に霸たらんと欲して、楚と戰ふ。公子目夷、其の未だ陣せざるに及びて、之を擊たんと請ふ。公曰く、君子は人を阨（一）に困しめずと。遂に楚の爲に敗らる。世、笑ひて以て宋襄の仁と爲す。其後景公といふ者有り。熒惑（二）、嘗て其時を以て心を守る。心（三）は宋の分野なり。公之を憂ふ。司星（四）子韋曰く、相（五）に移す可し。公曰く、相は吾の股肱なり。曰く民に移す可し。公曰く、君（六）は民を待つ。曰く、歲（七）に移す可し。公曰く、饑歲には民困しむ。吾、誰が爲にか君たらん。子韋曰く、天（八）は高くして卑きに聽く。君、人に君たるの言三（九）あり。宜しく動くこと有るべしと。之を候ふに、果して徙ること一度なり。數世を歷て、康王偃（一〇）に至り、雀有り、鸇（一一）を生む。之を占ふに、曰く、必ず天下に霸たらんと。偃喜ぶ。齊・楚・魏を敗り、與に敵國と爲る。偃、淫虐なり。天下之を號して桀宋と曰ふ。周の愼靚王の時、齊の湣王、楚・魏と共に宋を伐ち、之を滅して、其地を分つ。

公一。故天下言レ富者。稱ニ陶朱猗頓一。

蔡。姬姓。蔡仲之所レ封也。周公蔡ニ蔡叔於郭鄰一。其子胡率レ德改レ行。復封ニ于蔡一。後世至ニ春秋之末一。爲ニ楚惠王一所レ滅。

蔡

蔡、姬姓。蔡仲の封ぜられし所也。周公、蔡叔を郭鄰(一)に蔡(二)つ。其子胡、德に率(三)ひ行を改め、復た蔡に封ぜらる。後世春秋の末に至り、楚の惠王の爲に滅さる。

(一) 中國の外地の地名、郭の字、周逸書には虢に作る、鄰は鄙邊卽ち都城外の地の義といふ　(二) 放也　(三) 從也

曹。姬姓。武王弟曹叔振鐸之所レ封也。其後世。至ニ春秋中一。爲レ宋所レ滅。

曹

曹、姬姓。武王の弟曹叔振鐸の封ぜられし所也。其後世、春秋中に至り、宋の爲に滅さる。

宋

王爲人長頸鳥喙。可與共患難。不可與共安樂。子何不去。種稱疾不朝。或讒種。且作亂。賜劍死。范蠡裝其輕寶珠玉。與私從乘舟江湖。浮海出齊。變姓名自謂鴟夷子皮。父子治產。至數千萬。齊人聞其賢。以爲相。蠡喟然曰。居家致千金。居官致卿相。此布衣之極也。久受尊名不詳。乃歸相印。盡散其財。懷重寶閒行。止於陶。自謂陶朱公。貲累鉅萬。魯人猗頓。往問術焉。蠡曰。畜五牸。乃大畜牛羊於猗氏。十年閒。貲擬王

と。種、疾と稱して朝せず。或ひと種を讒すらく、且に亂を作さんとすと。劍を賜ひて死せしむ。范蠡其輕寶(二)珠玉を裝し、私從(三)と舟に江湖に乘じ、海に浮びて齊に出で、姓名を變じて自ら鴟夷子皮と謂ひ、父子產を治めて數千萬に至る。齊人其賢を聞き、以て相と爲す。蠡、喟然(四)として曰く、家に居ては千金を致し、官に居ては卿相を致す。此れ布衣(五)の極也。久しく尊名を受くるは不祥なりと。乃ち相の印を歸し、盡く其財を散じ、重寶を懷きて閒行し、陶に止り、自ら陶朱公と謂ひ、貲(六)、鉅萬を累ぬ。魯人猗頓往きて術を問ふ。蠡曰く、五牸(七)を畜へと。乃ち大に牛羊を猗氏に畜ふこと十年閒、貲、王公に擬す。故に天下富を言ふ者、陶朱・猗頓と稱す。

(一) くび長く、口尖りたる也　(二) 持つに輕き寶物　(三) 家來眷族　(四) 嘆ずる貌　(五) 布衣を著る程の卑賤の身にとりては此上もなき出世なりと也　(六) 財產　(七) 五匹の牝牛

父一邪。周敬王二十六年。夫差敗二越于夫椒一。越王勾踐。以二餘兵一棲二會稽山一。請二爲レ臣。妻爲レ妾。子胥言。不可。太宰伯嚭受二越賂一。說二夫差一赦レ越。

年、越、呉を伐つ。呉、三たび戰ひて三たび北ぐ。夫差、姑蘇に上る。亦た成(一〇)を越に請ふ。范蠡可かず。夫差曰く、吾以て子胥(一一)を見ること無しと。幎冒(一二)を爲りて乃ち死す。

(一) 中國をいふ、聘とは使して諸侯を訪問すること (二) 自ら苦めて讐を忘れざらんとする也 (三) 居室に獸の膽を掛く (四) 諫言する也 (五) 劍の名。自殺を命じたるなり (六) 木の名。呉王の屍を納むる棺とすべしとなり (七) 馬革にて作りし囊 (八) 民を養ひ、財を貯ふ (九) 兵事並に忠義の道を敎ふ (一〇) 講和也 (一一) 子胥にあはする顏なしとなり (一二) 面衣也、かほつゝみ

勾踐反レ國。懸二膽於坐臥一。卽仰レ膽嘗レ之曰。女忘二會稽之恥一邪。擧二國政一。屬二大夫種一。而與二范蠡一治レ兵。事レ謀レ呉。太宰嚭譖二子胥一。恥二謀不一レ用怨望。夫差乃賜二子胥屬鏤之劍一。子胥告二其家人一曰。必樹二吾墓檟一。檟可レ材也。抉二吾目一懸二東門一。以觀二越兵之滅一レ呉。乃自剄。夫差取二其尸一。盛以二鴟夷一。投二之江一。呉人憐レ之。立二祠江上一。命曰二胥山一。越十年生聚。十年敎訓。周元王四年。越伐レ呉。呉三戰三北。夫差上二姑蘇一。亦請二成於越一。范蠡不レ可。夫差曰。吾無三以見二子胥一。爲二幎冒一乃死。

越既滅レ呉。范蠡去レ之。遺二大夫種書一曰。越

越、既に呉を滅すや、范蠡之を去り、大夫種に書を遺りて曰く、越王、人と爲り、長頸烏喙(一)、與に患難を共にす可く、與に安樂を共にす可らず、子何ぞ去らざる

愛二其寶劍一。季子心知レ之。使還。徐君已沒。遂解レ劍。懸二其墓一而去。壽夢後四君。而至二闔廬一。擧二伍員一謀二國事一。員字子胥。楚人伍奢之子。奢誅而奔レ吳。以二吳兵一入レ郢。吳伐レ越。闔廬傷而死。子夫差立。子胥復事レ之。夫差志二復讎一。朝夕臥二薪中一。出入使二人呼一曰。夫差。而忘三越人之殺二而

を討つ。闔廬、傷きて死す。子夫差立つ。子胥復た之に事ふ。夫差、復讎を志す。朝夕薪中に臥し、出入に人をして呼ばしめて曰く、夫差、而、越人の而が父を殺(二)しゝを忘れたるかと。周の敬王の二十六年、夫差、越を夫椒に敗る。越王勾踐餘兵を以て、會稽山に棲み、臣と爲り、妻は妾と爲さんと請ふ。子胥言ふ、不可なりと。太宰伯嚭、越の賂を受け、夫差に說いて越を赦す(一)。勾踐國に反り膽を坐臥に懸け、卽ち膽を仰ぎて之を嘗めて曰く、女、會稽の恥を忘れたるかと。(三)國政を擧げて太夫種に屬し、而して范蠡と兵を治め、吳を謀るを事とす。太宰嚭、子胥を譖すらく、謀の用ひられざるを恥ぢて怨望すと。夫差乃ち子胥に屬鏤(五)の劍を賜(四)ふ。子胥其家人に告げて曰く、必ず吾が墓に(六)檟を樹ゑよ。檟は材とす可き也。吾が目を抉りて東門に懸けよ。以て越の兵の吳を滅すを觀んと。乃ち自剄す。夫差其尸を取り、盛るに(七)鴟夷を以てし、之を江に投ず。吳人之を憐み、祠を江上に立て、命じて胥山といふ。越、十年生聚(八)し、十年教訓(九)す。周の元王四

覇事跡。若論二春秋諸國之終始一。有下未レ及二戰國一而先亡者上。有下既及二戰國一而後亡者上。各擧二其槩一。周威烈王以後。爲二戰國之世一。則秦楚燕齊趙魏韓七大國而已。秦楚燕猶爲二春秋之舊國一。田齊趙魏韓。則爲二戰國之新國一。凡春秋戰國之國。雖レ繫二周之諸侯一。而國異レ政。實不レ繫二於周一。難二於盡載一。附二見周之下方一。其時各有二先後一。則觀者詳レ之。

呉。姬姓。太伯仲雍之所レ封也。十九世至二壽夢一。始稱レ王。壽夢四子幼曰二季札一。札賢。欲下使二三子相繼立一。以及中札上。札義不レ可。封二延陵一。號曰二延陵季子一。聘二上國一。過レ徐。徐君

呉

呉、姬姓。太伯仲雍の封ぜられし所なり。十九世にして壽夢に至り、始めて王と稱す。壽夢の四子、幼を季札と曰ふ。札、賢なり。三子をして相繼ぎて立たしめ、以て札に及ばんと欲す。札、義として可かず。延陵に封ぜらる。號して延陵の季子と曰ふ。上國に聘して、徐を過ぐ。徐君其寶劍を愛す。季子心に之を知る。使して還れば、徐君既に沒せり。遂に劍を解き、其墓に懸けて去る。壽夢の後、四君にして、闔廬に至る。伍員を擧げて國事を謀らしむ。員、字は子胥、楚人伍奢の子なり。奢、誅せらるゝや、呉に奔り、呉の兵を以て郢に入る。呉、越

周平王以後。爲二春秋之世一。其列國。與レ周同姓者。曰魯。曰衞。曰晉。曰鄭。曰曹。曰蔡。曰燕。曰吳。其與レ周異姓者。曰齊。曰宋。曰陳。曰楚。曰秦。此其大者。餘小國。若二春秋所レ書。杞許滕薛邾莒江黃之屬一。不レ可二盡述一。於二十二列國之中一。有二齊桓公。宋襄公。晉文公。秦穆公。楚莊王五

周の平王以後を春秋の世と爲す。其列國、周と同姓なる者、曰く魯、曰く衞、曰く晉、曰く鄭、曰く曹、曰く蔡、曰く燕、曰く吳。其周と異姓なる者、曰く齊、曰く宋、曰く陳、曰く楚、曰く秦。此れ其大なる者なり。餘の小國、春秋に書する所の杞・許・滕・薛・邾・莒・江・黃の屬の若きは、盡く述ぶ可からず。十二列國の中に於て、齊の桓公・宋の襄公・晉の文公・秦の穆公・楚の莊王、五霸の事跡有り。若し春秋諸國の終始を論ぜば、未だ戰國に及ばずして、先づ亡ぶる者有り、既に戰國に及びて後亡ぶる者有り。各〻其槩を擧ぐ。周の威烈王以後を戰國の世と爲す。則ち秦・楚・燕・齊・趙・魏・韓の七大國のみ。秦・楚・燕は、猶ほ春秋の舊國たり。田齊・趙・魏・韓は、則ち戰國の新國たり。凡そ春秋戰國の國は、周の諸侯に繫ると雖も、而も國ごとに政を異にし、實は周に繫らず。盡く載せ難ければ、周の下方に附見す。其れ時各〻先後有れば、則ち觀る者之を詳にせよ。

庶弟子朝弑レ之。晉人攻二子朝一。而立二敬王丐一。孔子歿二於其時一。敬王崩。子元王仁立。崩。子貞定王介立。崩。子哀王去疾立。弟思王叔帶。襲弑レ之而自立。少弟考王嵬。又攻二殺思王一而自立。崩。子威烈王午立。晉趙氏。魏氏。韓氏始侯。周自二東遷一以來。及レ是二十世。而愈微。諸侯用レ兵爭レ強。號爲二戰國一。威烈王崩。子安王驕立。齊田氏始侯。安王崩。子烈王喜立。崩。弟顯王扁立。諸侯皆僭稱レ王。顯王崩。子愼靚王定立。崩。子赧王延立。五十九年。與二諸侯一約レ從攻レ秦。秦昭王攻レ周。赧王奔レ秦。頓首受レ罪。盡獻二其邑一。秦受レ獻。而歸二赧王於周一。以卒。周爲二天子一三十七世。初夏亡。九鼎遷レ殷。殷亡遷レ周。成王定二鼎於郟鄏一。卜曰。傳レ世三十。歷レ年七百。至レ是乃過二其歷一。凡八百六十七年。

す。以て卒す。周、天子と爲ること三十七世。初め夏の亡ぶるや、九鼎殷に遷り、殷の亡ぶるや、周に遷る。成王鼎を(四)郟鄏に定め、卜して曰く、世を傳ふること三十、年を歷ること七百と。是に至つて其歷に過ぎ、凡べて八百六十七年なり。

(一) 鼎は大禹の九鼎、三代の天子相傳ふ所の寶器也、之が輕重を問ふは、暗に周室を傾けんとするの意ある也　(二) 原本陳殷の音釋には「晉、緬」とす、蓋し「丐」字と認むる也　(三) 合從也　(四) 地名、この地に鼎を安置せる也

春秋戰國

桓公始覇。釐王崩。子惠王閬立。崩。子襄王鄭立。晉文公始覇。襄王崩。子頃王壬臣立。崩。子匡王班立。崩。弟定王瑜立。楚莊王使二人問二鼎輕重一。王孫滿卻レ之。定王崩。子簡王夷立。吳始僭稱レ王。簡王崩。子靈王泄心立。孔子生二於其時一。靈王崩。子景王貴立。崩。子悼王猛立。

崩ず。弟定王瑜立つ。楚の莊王人をして鼎の輕重を問はしむ。王孫滿之を卻く。定王崩ず。子簡王夷立つ。吳始めて僭して王と稱す(一)。簡王崩ず。子靈王泄心立つ。孔子其時に生る。靈王崩ず。子景王貴立つ。崩ず。子悼王猛立つ。庶弟子朝之を弑す。晉人子朝を攻めて、敬王丐を立つ。孔子其時に歿す。敬王崩ず。子元王仁立つ。崩ず。子貞定王介立つ。(二)崩ず。子哀王去疾立つ。弟思王叔、襲ひて之を弑して自立す。少弟考王嵬、又攻めて思王を殺して自立す。崩ず。子威烈王午立つ。晉の趙氏・魏氏・韓氏始めて侯たり。周、東遷より以來、是に及んで二十世にして、愈〻微に、諸侯兵を用ひ強を爭ふ。號して戰國と爲す。威烈王崩ず。子安王驕立つ。齊の田氏始めて侯たり。安王崩ず。子烈王喜立つ。崩ず。弟顯王扁立つ。諸侯皆僭して王と稱す。顯王崩ず。子愼靚王定立つ。崩ず。子赧王延立つ。五十九年、諸侯と從(三)を約して秦を攻む。秦の昭王、周を攻む。赧王秦に奔り、頓首して罪を受け、盡く其邑を獻ず。秦、獻を受けて、赧王を周に歸

其人逃。於道見棄女。哀其夜號而取之。逃於褒。至幽王之時。褒人有罪。入是女於王。是爲褒姒。王嬖之。褒姒不好笑。王欲其笑。萬方不笑。故王與諸侯約。有寇至。則擧烽火。召其兵來援。乃無故擧火。諸侯悉至。而無寇。褒姒大笑。王廢申后及太子宜臼。以褒姒爲后。其子伯服爲太子。宜臼奔申。王求殺之。弗得。伐申。申侯召犬戎攻王。王擧烽火徵兵。不至。犬戎殺王驪山下。諸侯立宜臼。是爲平王。以西都逼於戎。徙居東都王城。時周室衰微。諸侯强幷弱。齊楚秦晉始大。平王之四十九年。卽魯隱公之元年。其後孔子修春秋。始此。

を平王と爲す。西都は戎に逼られたるを以て、徙りて東都の王城に居る。時に周室衰微し、諸侯、强は弱を幷す。齊・楚・秦・晉始めて大なり。平王の四十九年は、卽ち魯の隱公の元年なり。其後孔子の春秋を修むる、此に始まる。

㈠賢者を信任す ㈡龍の吐きたるあわ ㈢やもり ㈣めのわらは ㈤山桑の弓と箕のえびら。箕は竹の名とも木の名とも草の名ともいふ ㈥賣る ㈦夜泣き ㈧逃げ去る ㈨王に獻じて其罪をあがなふ ㈩寵愛す ⑾百方なり、種々手だてを盡すなり ⑿のろし

平王崩。太子之子桓王林立。崩。子莊王佗立。崩。子釐王胡齊立。齊

平王崩じて、太子の子桓王林立つ。崩ず。子莊王佗立つ。崩ず。子釐王胡齊立つ。齊の桓公始めて霸たり。釐王崩ず。子惠王閬立つ。崩ず。子襄王鄭立つ。晉の文公始めて霸たり。襄王崩ず。子頃王壬臣立つ。崩ず。子匡王班立つ。

尹吉甫。仲山甫等。爲二政於内外一。王化復行。周室中興焉。崩。子幽王宮涅立。初夏后氏之世。有二二龍一。降二于庭一。曰。予褒之二君。卜藏二其漦一。歷二夏殷一。莫二敢發一。周人發レ之。漦化爲レ黿。童妾遇レ之而孕。生レ女。棄レ之。宜王時有二童謠一。曰。檿弧箕服。實亡二周國一。適有下鬻二是器一者上。宣王使レ執レ之。

世に、二龍有り、庭に降りて曰く、予は褒の二君なりと。卜して其漦(二)を藏む。夏・殷を歷て、敢て發くこと莫し。周人之を發く。漦、化して黿(三)と爲る。童妾(四)之に遇ひて孕み、女を生む。之を棄つ。宣王の時童謠有り、曰く、檿弧(五)箕服、實に周國を亡さんと。適〻是の器を鬻ぐ(六)者有り。宣王之を執へしむ。其人逃れ、道に於て棄女を見、其夜號(七)を哀んで之を取り、褒に逸す(八)。幽王の時に至り、褒人罪有り、是の女を王(九)に入る。是を褒姒と爲す。王之を嬖す(一〇)。褒姒笑ふことを好まず。王其笑はんことを欲し、萬方(一一)すれども笑はず。故と王、諸侯と約し、寇の至る有れば、則ち烽火を擧げ、其兵を召して、來り援けしむ。乃ち故無くして火を擧ぐ。諸侯悉く(一二)至る。而して寇無し。褒姒大いに笑ふ。王・申后及び太子宜臼を廢し、褒姒を以て后と爲し、其子伯服を太子と爲す。宜臼、申に奔る。王之を殺さんことを求む。得ず。申を伐つ。申侯、犬戎を召して王を攻む。王、烽火を擧げて兵を徵す。至らず。犬戎、王を驪山の下に殺す。諸侯、宜臼を立つ。是

王作亂。造父御王。長驅歸救亂。告楚伐徐。徐敗。王將征犬戎。祭公謀父諫曰。先王耀德不觀兵。王不聽征之。得四白狼。四白鹿。以歸。自是荒服不至。諸侯不睦。

ぐれば則ち之を殺す。道路目を以てす。王喜んで曰く、吾能く謗を弭むと。或るひと曰く、是れ障ぐ也。民の口を防ぐは、川を防ぐよりも甚し。水壅がつて潰ゆれば、人を傷ること必ず多しと。王聽かず。是に於て國人相與に畔く。王、彘に出で奔る。二相、周・召共に國事を理む。共和と曰ふ者十四年にして、王、彘に崩ず。

㈠ 措に同じ ㈡ にかはづけの舟 ㈢ 車馬のあと將に全國に遍からんとす ㈣ 不死の仙女、或は種族の名ともいふ。瑤池は崑崙にあり ㈤ 酒もりをなす ㈥ 遠き地方よりは入朝せずと也 ㈦ 王威の衰へたるをいふ ㈧ みこ ㈨ 口に出さず目を以て知らす

崩。子共王緊扈立。崩。子懿王囏立。崩。弟孝王辟方立。崩。子夷王燮立。下堂而見諸侯。楚始僭稱王。夷王崩。子厲王胡立。無道。暴虐侈傲。得衞巫。使監國人之謗者。以告則殺之。道路以目。王喜曰。吾能弭謗矣。或曰是障也。防民之口。甚於防川。水壅而潰。傷人必多。王弗聽。於是國人相與畔。王出奔彘。二相周召。共理國事。曰共和者十四年。而王崩于彘。

子宣王靜立。任賢使能。有召穆公。方叔。

子宣王靜立つ。賢に任じ能を使ふ。召穆公・方叔・尹吉甫・仲山甫等有り、政を内外に爲す。王化復た行はれ、周室中興す。崩ず。子幽王宮涅立つ。初め夏后氏の

成王崩。子康王釗立。成康之際。天下安寧。刑錯。四十餘年不用。庚王崩。子昭王瑕立。昭王南方巡狩至楚。以膠舟載之。溺不返。子穆王滿立。有造父者。以善御幸於王。得八駿馬。遊行天下。將皆有車轍馬跡。王西巡。世傳。王以此時。觴西王母瑤池上。樂而忘歸。徐偃

成王崩じて、子康王釗立つ。成・康の際、天下安寧、刑錯きて(一)四十餘年用ひず。庚王崩じて、子昭王瑕立つ。昭王南方に巡狩して楚に至るや、膠舟(二)を以て之を載す。溺れて返らず。子穆王滿立つ。造父といふ者有り。善く御するを以て王に幸せらる。八駿馬を得て、天下に遊行し、將に皆車轍(三)馬跡有らんとす。王西に巡る。世に傳ふ、王此時を以て、西王母(四)に瑤池の上に觴し(五)、樂んで歸るを忘ると。徐の偃王亂を作す。造父、王に御とし、長驅して歸つて亂を救ひ、楚に告げて徐を伐たしむ。徐敗る。王將に犬戎を征せんとす。祭公謀父諫めて曰く、先王は德を耀かして兵を觀さずと。王聽かずして之を征し、四つの白狼四つの白鹿を得て、以て歸る。是より荒服(六)至らず、諸侯睦ましからず。崩ず。子共王繄扈立つ。崩ず。子懿王囏立つ。崩ず。弟孝王辟方立つ。崩ず。子夷王燮立つ。堂(七)を下りて諸侯を見る。楚始めて僭して王と稱す。夷王崩じて、子厲王胡立つ。無道にして、暴虐侈傲なり。衞の巫(八)を得て、國人の謗る者を監せしめ、以て告

周公歸レ政。初武王。作二鎬京一。謂二之宗周一。是爲二西都一。將レ營二洛邑一。未レ果。王欲レ如二武王之志一。召公遂相レ宅。周公至レ洛築二王城一。是爲二東都一。以下洛爲二天下中一。四方入貢道里均上也。王居二西都一。而朝二會諸侯於東都一。周公。召公。相二成王一爲二左右人一。自レ陝以西。召公主レ之。自レ陝以東。周公主レ之。交趾南有二越裳氏一。重二譯一而來。獻二白雉一。曰。吾受二命國之黃耇一。天無二烈風淫雨一。海不レ揚レ波三年矣。意者中國有二聖人一乎。周公歸二之王一。薦二于宗廟一。使者迷二歸路一。周公錫以二軿車五乘一。皆爲二指南之制一。使者載レ之。由二扶南。林邑海際一。朞年而至レ國。故指南車常爲先導。示下服二遠人一而正中四方上。

周公之を主る。交阯の南に越裳氏あり。三譯（六）を重ねて來り、白雉を獻じて曰く、吾、命を國の黃耇（七）に受く。天に烈風淫雨無く、海、波を揚げざること三年なり。意ふに中國に聖人有らんかと。周公、之を王（八）に歸し、宗廟に薦む。使者歸路に迷ふ。周公、錫（九）ふに軿車（一〇）五乘を以てす。皆指南（一一）の制を爲す。使者之に載り、扶南（一二）・林邑の海際に由りて、朞年（一三）にして國に至る。故に指南車常に爲に先導し、遠人を服して四方を正すを示す。

（一）第一位に在る宰相　（二）根もなきことをいひふらす　（三）孺子は成王を指す、即ち成王を廢せんとするなり
（四）地名、豐邑の東二十五里にあり　（五）宮室造營の土地を選定す　（六）言語通ぜず、三たびも通譯を重ぬる也
（七）長老の意　（八）成王の德なりとす。一本、王の下に「稱二先王靈神一」と補へるあり　（九）賜也　（一〇）軿車。一說に四面屛蔽の車　（一一）常に南を指す造り方　（一二）共に南蠻の國　（一三）滿一年

主一以行。伯夷。叔齊。叩ㇾ馬諫曰。父死不ㇾ葬。爰及ニ干戈一。可ㇾ謂ㇾ孝乎。以ㇾ臣弑ㇾ君。可ㇾ謂ㇾ仁乎。左右欲ㇾ兵ㇾ之。太公曰。義士也。扶而去ㇾ之。王既滅ㇾ殷。爲ニ天子一。追ニ尊古公一爲ニ太王一。公季爲ニ王季一。西伯爲ニ文王一。天下宗ㇾ周。伯夷。叔齊恥ㇾ之。不ㇾ食ニ周粟一。隱ニ於首陽山一。作ㇾ歌曰。登ニ彼西山一兮。采ニ其薇一矣。以ㇾ暴易ㇾ暴兮。不ㇾ知ニ其非一矣。神農。虞夏。忽焉沒兮。我安適歸矣。于嗟徂兮。命之衰矣。遂餓而死。

武王崩。太子誦立。是爲ニ成王一。成王幼。周公位ニ冢宰一攝ㇾ政。管叔。蔡叔。流言曰。公將ㇾ不ㇾ利ニ於孺子一。與ニ武庚一作ㇾ亂。武庚者武王所ㇾ立。紂子祿父。爲ニ殷後一者也。周公東征。誅ニ武庚。管叔一。放ニ蔡叔一。王長。

武王崩じて、太子誦立つ。是を成王と爲す。成王幼なり。周公、冢宰(一)に位して政を攝す。管叔・蔡叔流言(二)して曰く、公將に孺子(三)に利あらざらんとすと。武庚は武王の立つる所、紂の子祿父にして、殷の後たる者也。周公東征して、武庚・管叔を誅し、蔡叔を放つ。王長ずるや、周公政を歸す。

初め武王、鎬京(四)を作り、之を宗周と謂ふ。是を西都と爲す。將に洛邑を營まんとして、未だ果さず。王、武王の志の如くせんと欲す。召公遂に宅(五)を相る。周公洛に至りて、王城を築く。是を東都と爲す。洛は天下の中たり。四方入貢の道里均しきを以て也。王、西都に居りて、諸侯を東都に朝會す。周公・召公、成王を相けて、左右の人と爲る。陝より以西は、召公之を主り、陝より以東は、

之曰、太公望。載與倶歸。立爲師。謂之師尚父。西伯卒。子發立。是爲武王。東觀兵至於盟津。白魚入王舟中。王俯取以祭。既渡。有火。自上復于下。至于王屋。流爲烏。其色赤。其聲魄。是時諸侯。不期而會者八百。皆曰。紂可伐矣。王曰。不可。引歸。紂不悛。王乃伐紂。載西伯木

し、と。王、可かずして、引きて歸る。紂、悛めず。王乃ち紂を伐ち、西伯の木主を載せて以て行く。伯夷・叔齊馬を叩へて諫めて曰く、父死して葬らず、爰(六)に干戈に及ぶ、孝と謂ふ可けんや。臣を以て君を弑す、仁と謂ふ可けんやと。左右、之を兵(七)せんと欲す。太公曰く、義士なりと。扶けて之を去らしむ。王、既に殷を滅して天子と爲るや、古公を追尊して太王と爲し、公季を王季と爲し、西伯を文王と爲す。天下周を宗とす。伯夷・叔齊之を恥ぢ、周の粟を食まず、首陽山に隱れ、歌を作りて曰く、彼の西山に登り、其薇を采る、暴を以て暴に易ふ、其非を知らず、(八)神農・虞夏忽焉として沒す、我安にか適き歸せん、于嗟徂(九)かん、(一〇)命の衰へたるかなと。遂に餓ゑて死す。

(一) みづち、形龍に似て黃なりといふ　(二) ひぐま、熊の一種　(三) 豹に似たる一種の猛獸　(四) 兵威を示す　(五) 安定の貌　(六) 廟中におく神しろ、位牌の類　(七) 斬り殺さんとす　(八) 神農虞夏の禪讓の道消沒して此の君の爭奪にあふ　(九) 周語「殂」に作る、死也　(一〇) 運命衰へ大道すたれたる世に遇へりと歎ずる也

周。入レ界見二耕者一。皆遜レ畔。民俗皆讓レ長。二人慙。相謂曰。吾所レ爭。周人所レ恥。乃不レ見二西伯一而還。俱讓二其田一不レ取。漢南歸二西伯一者四十國。皆以爲。受命之君。三二分天下一有二其二一。

有二呂尚者一。東海上人。窮困年老。漁釣至レ周。西伯將レ獵。卜レ之。曰非レ龍。非レ彲。非レ熊。非レ羆。非レ虎。非レ貔。所レ獲霸王之輔。果遇二呂尚於渭水之陽一。與語大悅曰。自二吾先君太公一曰。當下有二聖人一適上レ周。周因以興。子眞是耶。吾太公望レ子久矣。故號レ

呂尚といふ者あり。東海の上の人なり。窮困して、年老ゆ。漁釣して周に至る。西伯將に獵せんとして之を卜す。曰く、龍に非ず、彲(一)に非ず、熊に非ず、羆(二)に非ず、虎に非ず、貔(三)に非ず、獲る所は霸王の輔ならんと。果して呂尚に渭水の陽に遇ふ。與に語り、大に悅んで曰く、吾が先君太公より曰く、當に聖人ありて周に適くべし、周、因りて以て興らんと。子は眞に是なる耶。吾が太公、子を望むこと久しと。故に之を號して太公望と曰ふ。載せて與に倶に歸り、立てゝ師と爲す。之を師尚父と謂ふ。西伯卒して、子發立つ。是を武王と爲す。東のかた兵を觀して盟津に至るや、白魚、王の舟中に入る。王、俯して取りて以て祭る。既に渡(四)る。火あり、上より下に復し、王の屋に至り、流れて烏と爲る。其色赤く、其聲魄(五)たり。是の時諸侯の期せずして會する者八百。皆曰く、紂、伐つ可

非。高圉。亞圉。公叔鉏。至古公亶父。獯鬻攻之。去豳。渡漆沮。踰梁山。邑於岐山下居焉。豳人曰。仁人也。不可失。扶老携幼以從。他旁國。皆歸之。

古公長子太伯。次虞仲。其妃太姜。生少子季歷。季歷娶太任。生昌。有聖瑞。太伯。虞仲。知古公欲立季歷以傳昌。乃如荊蠻。斷髮文身。以讓季歷。古公卒。公季立。公季卒。昌立。爲西伯。西伯修德。諸侯歸之。虞芮爭田。不能決。乃如

古公の長子太伯、次は虞仲。其妃太姜、少子季歴を生む。季歴、太任を娶りて、昌を生む。聖瑞(一)あり。太伯・虞仲、古公の季歴を立てゝ以て昌に傳へんと欲するを知り、乃ち荊蠻に如き、髪を斷ち、身を文して(二)、以て季歴に讓る。古公卒して、公季立つ。公季卒して、昌立つ。西伯と爲す。西伯、徳を修む。諸侯、之に歸す。虞・芮田を爭ひて、決する能はず。乃ち周に如く。界に入りて、畔す者を見るに、皆畔を遜る。民俗皆長に讓る。二人慙ぢ、相謂つて曰く、吾が爭ふ所は、周人の恥づる所なりと。乃ち西伯に見えずして還り、倶に其田を讓りて取らず。漢南の西伯に歸する者四十國、皆以爲らく、受命(三)の君なりと。天下を三分して其二を有つ。

(一) めでたきしるし (二) 文身はいれずみ、皆夷狄若しくは囚徒の風、因て世事に心なきを示す也 (三) 天の命を受けて民にのぞめる君

野見二巨人跡一。心欣然践レ之。生レ棄。以爲二不祥一。棄二之隘巷一。馬牛避不レ践。徙置二山林一。適會二林中多一レ人。遷二之氷上一。鳥覆二翼之一。以爲レ神。遂收レ之。兒時。屹如二巨人之志一。其遊戲。好レ種レ樹。及二成人一。能相二地之宜一。敎二民稼穡一。興二於陶唐虞夏之際一。爲二農師一。封二于邰一。別二其姓一。號二后稷一。卒。子不窋立。夏后氏政衰。不窋失二其官一。奔二戎狄之間一。不窋卒。子鞠立。鞠卒。子公劉立。復修二后稷之業一。務二畊種一。百姓懷レ之。公劉卒。子慶節立。國二於豳一。歷二皇僕。參弗。毀隃公

遂に之を收む。兒たりし時、屹(五)として巨人の志の如し。其遊戲、樹を種うることを好む。成人に及び、能く地の宜しきを相る。民に稼穡(六)を敎ふ。陶唐・虞夏の際に興り、農師と爲り、邰に封ぜられ、其姓を別にして、后稷と號す。卒す。子不窋立つ。夏后氏、政衰へ、不窋、其官を失ひて、戎狄の間に奔る。不窋卒して、子鞠立つ。鞠卒して、子公劉立つ。復た后稷の業を修め、畊種を務む。百姓之に懷く。公劉卒して、子慶節立つ。豳に國す。皇僕・參弗・毀隃・公非・高圉・亞圉・公叔祖を歷て、古公亶父に至り、獯鬻之を攻む。豳を去り、漆沮を渡り、梁山を踰え、岐山の下に邑(七)して居る。豳人曰く、仁人なり、失ふ可からずと。老を扶け、幼を携へて、以て從ふ。他の旁國(八)、皆之に歸す。

(一)第一の妃　(二)よろこぶさま　(三)小路　(四)つばさにて覆ひあたゝむ　(五)卓立せる貌　(六)農事　(七)邑を立てゝ住む　(八)近傍の國々

歸レ之。昌卒。子發立。率二諸侯一伐レ紂。紂敗二于牧野一。衣二寶玉一自焚死。殷亡。箕子後朝レ周。過二故殷墟一。傷三宮室毀壞生二禾黍一。欲レ哭不可。欲レ泣則爲近二婦人一。乃作二麥秀之歌一曰。麥秀漸漸兮。禾黍油油兮。彼狡童兮。不二與レ我好一兮。殷民聞レ之。皆流涕。殷爲二天子一三十一世。六百二十九年。

秀で、漸漸(四)たり。禾黍油油(五)たり。彼の狡童(六)、我と好からずと。殷の民、之を聞きて、皆流涕す。殷、天子と爲ること三十一世、六百二十九年。

(一)身にまとひて　(二)宮殿のあと　(三)周室に對してよろしからずと也　(四)青々と茂れる貌　(五)つや〜と肥え盛なる貌　(六)わるがしこきわらべの意、紂王を指す

周武王。姬姓。名發。后稷之十六世孫也。后稷名棄。棄母曰二姜嫄一。爲二帝嚳元妃一。出レ

周

周武王、姬姓、名は發、后稷の十六世の孫なり。后稷、名は棄。棄の母を姜嫄と曰ふ。帝嚳の元妃(一)たり。野に出でゝ巨人の跡を見、心欣然(二)として之を踐みて、棄を生む。以て不祥と爲し、之を隘巷(三)に棄つ。馬牛避けて踐まず。徙して山林に置く。適ゝ林中人多きに會ひ、之を氷上に遷す。鳥之を覆翼(四)す。以て神と爲し、

妲己ノ女焉。有レ寵。其言皆從。厚ニ賦稅一。以實ニ鹿臺之財一。盈ニ鉅橋之粟一。廣ニ沙丘苑臺一。以レ酒爲レ池。縣レ肉爲レ林。爲ニ長夜之飮一。百姓怨望。諸侯有ニ畔者一。紂乃重ニ刑辟一。爲ニ銅柱一。以レ膏塗レ之。加ニ於炭火之上一。使下有レ罪者緣上レ之。足滑跌墜ニ火中一。與ニ妲己一觀レ之大樂。名曰ニ炮烙之刑一。淫虐甚。庶兄微子數諫不レ從。去レ之。比干諫。三日不レ去。紂怒曰。吾聞。聖人之心有ニ七竅一。剖而觀ニ其心一。箕子佯狂爲レ奴。紂囚レ之。殷大師。持ニ其樂器祭器一。奔レ周。

ち殺す　（七）象牙のはし　（八）穀類を盛るべき瓦器　（九）あかざと豆の葉、粗食なり　（一〇）鹿臺の金庫　（一一）鉅橋の米庫　（一二）七つの穴　（一三）微子なりといふ

周侯昌及九侯。鄂侯。爲ニ紂三公一。紂殺ニ九侯一。鄂侯爭。幷脯レ之。昌聞而歎息。紂囚ニ昌羑里一。昌之臣散宜生。求ニ美女珍寶一進。紂大悅乃釋レ昌。昌退而修レ德。諸侯多叛レ紂

周侯昌、及び九侯・鄂侯、紂の三公たり。紂、九侯を殺す。鄂侯、爭ふ。幷に之を脯にす。昌、聞きて歎息す。紂、昌を羑里に囚ふ。昌の臣散宜生、美女珍寶を求めて進む。紂大に悅び、乃ち昌を釋す。昌、退きて德を修む。諸侯多く紂に叛きて之に歸す。昌卒して、子發立つ。諸侯を率ゐて紂を伐つ。紂、牧野に敗れ、寶玉を衣て（一）、自ら焚死す。殷亡ぶ。箕子、後周に朝せんとして、故の殷の墟（二）を過ぎ、宮室の毀壞して、禾黍を生ぜるを傷む。哭せんと欲すれば、不（三）可なり。泣かんと欲すれば、則ち爲婦人に近し。乃ち麥秀の歌を作りて曰く、麥

雷震死。歷太丁。帝乙至帝辛。名受。號爲紂。資辯捷疾。手格猛獸。智足以拒諫。言足以飾非。始爲象箸。箕子歎曰。彼爲象箸。必不盛以土簋。將爲玉杯。玉杯象箸。必不羹藜藿。衣短褐。而舍茆茨之下。則錦衣九重。高臺廣室。稱此以求。天下不足矣。紂伐有蘇氏。有蘇以

土簋を以てせず、將に玉杯を爲らんとす。玉杯・象箸は、必ず藜藿を羹にし、(九)(八)短褐を衣て、茆茨の下に舍らず。則ち錦衣九重、高臺廣室、此れに稱ひて以て求めば、天下も足らじと。紂、有蘇氏を伐つ。有蘇、妲己を以て女あはす。寵あり、其言皆從ふ。賦稅を厚くして、以て鹿臺(一〇)の財を實て、鉅橋(一一)の粟を盈つ。沙丘の苑臺を廣くし、酒を以て池と爲し、肉を縣けて林と爲し、長夜の飲を爲す。百姓、怨望し、諸侯の畔く者あり。紂乃ち刑辟を重くす。銅柱を爲り、膏を以て之に塗り、炭火の上に加へ、罪ある者をして、之に緣らしむ。足滑り、趺いて火中に墜つ。妲己と之を觀て、大に樂む。名けて炮烙の刑と曰ふ。淫虐甚だし。庶兄微子、數〻諫むれども從はず、之を去る。比干諫めて、三日去らず。紂、怒りて曰く、吾聞く、聖人の心に七竅ありと。剖きて其心を觀る。箕子、佯り狂ひて奴と爲る。紂之を囚ふ。殷の大師(一二)、其樂器祭器を持ちて周に奔る。(一三)

㊀人形 ㊁双六の勝負を爭ふ ㊂代りて行はしむ ㊃罵り辱む ㊄辯舌に巧みなること ㊅手にて打

先王之政。二日而祥桑枯死。殷道復興。號稱二中宗一。自二太戊一。歷二仲丁。外壬一。至二河亶甲一。避二水患一遷二于相一。至二祖乙一居レ耿。又圮二于耿一。歷二祖辛。沃甲。祖丁。南庚。陽甲一。至二盤庚一。自レ耿復遷二于亳一。殷道復興。自二盤庚一歷二小辛。小乙一。至二武丁一。夢得二良弼一。曰レ說。說爲二胥靡一築二于傅巖一。求得レ之。立爲レ相。武丁祭レ湯。有二飛雉一升レ鼎而雊。武丁懼而反レ己。殷道復興。號稱二高宗一。

(一) 先王仲壬の喪に居ること (二) 凶兆也 (三) 朝廷に生ず。桑穀は野にあるべきもの、その朝に生じたるは凶兆なる也 (四) 兩手にて圍むほどの太さ (五) 殷の政道 (六) 良き輔佐の臣 (七) 從犯の輕罪人に代り傭はれて建築の工事に服する也 (八) 己を反省す

自二武丁一。歷二祖庚。祖甲。廩辛。庚丁一。至二武乙一。無道。爲二偶人一。謂二之天神一。與レ之博。令二人爲行一。天神不レ勝。乃僇二辱之一。爲二革囊一盛レ血。仰射レ之。命曰レ射天。出獵爲二暴

武丁より、祖庚・祖甲・廩辛・庚丁を歷て、武乙に至る。無道なり。偶人を爲りて、(一)之を天神と謂ひ、之と博す。(二)人をして爲に行はしめ、(三)天神勝たざれば、乃ち之を僇辱す。(四)革囊を爲りて、血を盛り、仰いで之を射る。命けて天を射ると曰ふ。出で、獵し、暴雷の爲に震死す。太丁・帝乙を歷て、帝辛に至る。名は受、號して紂と爲す。資辯捷疾、(五)猛獸を手格す。(六)智は以て諫を拒ぐに足り、言は以て非を飾るに足る。始めて象箸を爲る。箕子、歎じて曰く、彼、象箸を爲る。(七)必ず盛るに

湯崩。太子太丁早卒。次子外丙立。二年崩。弟仲壬立。四年崩。太丁之子太甲立。不明。伊尹放之桐宮。居憂三年。悔過自責。尹乃奉歸亳。修德。諸侯歸之。自太甲。歷沃丁。太康。小甲。雍己。至太戊。亳有祥。桑穀共生于朝。一日暮大拱。伊陟曰。妖不勝德。君其脩德。太戊修

湯崩ず。太子太丁、早く卒す。次子外丙立つ。二年にして崩ず。弟仲壬立つ。四年にして崩ず。太丁の子太甲立つ。不明なり。伊尹、之を桐宮に放つ。（一）憂に居ること三年、過を悔いて自ら責む。尹、乃ち奉じて亳に歸り、德を修む。諸侯之に歸す。太甲より、沃丁・太康・小甲・雍己を歷て、太戊に至る。亳に祥あり。（二）桑穀共に朝に生ず。（三）一日の暮に大さ拱なり。（四）伊陟曰く、妖は德に勝たず、君其れ德を脩めよと。太戊、先王の政を修む。二日にして祥桑枯死す。（五）殷道復た興る。號して中宗と稱す。太戊より、仲丁・外壬を歷て、河亶甲に至り、水患を避けて相に遷り、祖乙に至りて、耿に居る。又耿に圮らる。祖辛・沃甲・祖丁・南庚・陽甲を歷て、盤庚に至りて、耿より復た亳に遷る。殷道復た興る。盤庚より、小辛・小乙を歷て、武丁に至り、夢に良弼を得たり。（六）說と曰ふ。說、胥靡の（七）爲めに傅巖に築く。求めて之を得、立てゝ相と爲す。武丁、湯を祭る。飛ぶ雉あり、鼎に升りて雊く。武丁懼れて己に反る。（八）殷道復た興る。號して高宗と稱す。

湯。桀殺諫者關龍逢。湯使人哭之。桀怒召湯。囚夏臺。已而得釋。湯出。見有張網四面而祝之。曰。從天降。從地出。從四方來者。皆罹吾網。湯曰。噫盡之矣。乃解其三面。改祝曰。欲左左。欲右右。不用命者入吾網。諸侯聞之曰。湯德至矣。及禽獸。伊尹相湯伐桀。放之南巢。諸侯尊湯爲天子。大旱七年。太史占之曰。當以人禱。湯曰。吾所爲請者民也。若必以人禱。吾請自當。遂齋戒剪爪斷髮。素車白馬。身嬰白茅。以身爲犧牲。禱于桑林之野。以六事自責曰。政不節歟。民失職歟。宮室崇歟。女謁盛歟。苞苴行歟。讒夫昌歟。言未已。大雨方數千里。

尊びて天子と爲す。大旱すること七年。太史(四)之を占ひて曰く、當に人を以て禱るべし(五)。湯曰く、吾が、爲に請ふ所の者は民也。若し必ず人を以て禱らば、吾請ふ、自ら當らんと。遂に齋戒して、爪を剪り、髮を斷ち、素車白馬(六)、身に白茅を嬰ひ、身を以て犧牲と爲して、桑林の野に禱る。六事を以て自ら責めて曰く、政節あらざる歟、民職を失へる歟、宮室崇き歟、女謁(七)盛なる歟、苞苴(八)行はるゝ歟、讒夫(九)昌なる歟と。言未だ已まざるに、大に雨ふること方數千里。

(一)つばめ　(二)獄名　(三)網を嚴しく張りて盡く鳥獸を取らんとするを惜む也　(四)天時星曆を司る官　(五)人をいけにへにして祈るべし　(六)素車は白木の車、白茆は白きちがや、嬰にかけまとふ意。これ牲には白色を用ふるならひなるが故也　(七)婦女の請謁　(八)賄賂　(九)讒言する者

殷王成湯。子姓。名履。其先曰契。帝嚳子母簡狄。有娀氏女。見玄鳥墮卵。呑之生契。爲唐虞司徒。封於商。賜姓。傳昭明。相士。昌若。曹圉。曰冥。曰振。曰微。曰報丁。報乙。報丙。主壬。主癸。主癸子天乙。是爲湯。始居亳。從先王居。使人以幣聘伊尹于莘。進之夏桀。不用。尹復歸

殷王成湯、子姓、名は履。其先を契と曰ふ。帝嚳の子也。母は簡狄、有娀氏の女なり。(一)玄鳥の卵を墮すを見、之を呑みて、契を生む。唐虞の司徒と爲り、商に封ぜられ、姓を賜ふ。昭明・相士・昌若・曹圉に傳ふ。冥と曰ひ、振と曰ひ、微と曰ひ、報丁・報乙・報丙・主壬・主癸と曰ふ。主癸の子天乙、是を湯と爲す。始め亳に居りて、先王の居に從ふ。人をして幣を以て伊尹を莘に聘せしめ、之を夏桀に進む。用ひず。尹、湯に復歸す。桀、諫むる者關龍逢を殺す。湯、人をして之を哭せしむ。桀、怒りて湯を召し、(二)夏臺に囚ふ。已にして釋さるゝを得たり。湯出でゝ、網を四面に張りて、之を祝することあるを見る。曰く、天より降り、地より出で、四方より來る者は、皆吾が網に罹れ。湯曰く、(三)噫之を盡せりと。乃ち其三面を解き、改めて祝して曰く、左せんと欲せば左せよ。右せんと欲せば右せよ。命を用ひざる者は、吾が網に入れと。諸侯之を聞きて曰く、湯の德至れり、禽獸に及ぶと。伊尹、湯に相として桀を伐ち、之を南巢に放つ。諸侯、湯を

後少康有二田一成一。有二衆一旅一。因二夏舊臣靡一。舉レ兵滅レ浞。而復二禹之績一。自二少康一以來。歴二王杼。王槐。王芒。王泄。王不降。王扃。王廑。至二王孔甲一。好二鬼神一。事二淫亂一。夏德衰。天降二二龍一。有二雌雄一。陶唐氏之後。有二劉累者一。學レ擾レ龍。以事二孔甲一。賜二之姓一。曰二御龍氏一。龍一雌死。潛醢以食二孔甲一。復求レ之。累懼而逃。孔甲之後。歴二王皐。王發。王履癸一。號爲レ桀。貪虐。力能伸レ鉤索レ鐵。伐二有施氏一。有施以二末喜一女焉。有レ寵。所レ言皆從。爲二傾宮瑤臺一。殫二民財一。肉山脯林。酒池可二以運一レ船。糟堤可三以望二十里一。一鼓而牛飲者三千人。末喜以爲レ樂。國人大崩。湯伐レ夏。桀走二鳴條一而死。夏爲二天子一二十有七世。凡四百三十二年。

を爲り、民の財を殫す。肉山、脯林(一〇)、酒池は以て船を運らす可く、糟堤(一一)は以て十里を望む可し。一鼓して牛飲する者三千人。末喜以て樂と爲す。國人大いに崩る。湯、夏を伐つ。桀、鳴條に走つて死す。夏、天子と爲ること二十有七世、凡べて四百三十二年。

(一) 益に位を讓らんとす (二) 時の吟味にも益の德をたゝふと也 (三) 盤は般に同じ。樂み遊びまはりて (四) 靡臣 (五) 十里四方 (六) 兵五百人 (七) 馴し養ふ (八) しはからの類也 (九) 傾は瑤に作るべし、瑤と同じく美玉也。玉を鏤めたる宮殿樓臺也 (一〇) 脯はほし肉、肉やほし肉の極めて多き形容 (一一) 酒のかすの堤

殷

益而之啓。曰。吾君之子也。啓遂立。有扈氏無道。啓與戰于甘。啓崩。子太康立。盤遊弗返。有窮后羿。立其弟仲康。而專其政。羲和守義不服。羿假王命。命胤侯征之。仲康崩。子相立。羿逐相自立。嬖臣寒浞。又殺羿自立。相之后。有仍國君女也。方娠。奔有仍。而生少康。其

啓與に甘に戰ふ。啓崩じて、子太康立つ。(三)盤游して返らず。有窮の后羿、其弟仲康を立てゝ、其政を專らにす。羲和、義を守りて服せず。羿、王命を假り、胤侯に命じて、之を征す。仲康崩じて、子の相立つ。羿、相を逐うて自立す。(四)嬖臣寒浞、又羿を殺して自立す。相の后は、有仍國君の女也。方に娠む。有仍に奔りて、少康を生む。其後少康、田一成有り、(五)衆一旅有り。(六)夏の舊臣靡に因りて、兵を擧げ、浞を滅して、禹の績を復す。少康より以來、王杼・王槐・王芒・王泄・王不降・王扃・王廑を經て、王孔甲に至る。鬼神を好み、淫亂を事とす。夏の德衰ふ。天二龍を降す。雌雄有り。陶唐氏の後、劉累といふ者有り。龍を擾すこと(七)を學びて、以て孔甲に事ふ。之に姓を賜うて、御龍氏と曰ふ。龍一雌死す。潛に(八)醢にして以て孔甲に食せしむ。復た之を求む。累、懼れて逃る。孔甲の後、王皐・王發・王履癸を歷て、號して桀と爲す。貪虐なり。力能く鈎を伸べ鐵を索にす。有施氏を伐つ。有施、末喜を以て女す。寵有り。言ふ所皆從ふ。(九)傾宮瑤臺

矩。一饋十起。以勞天下之民。出見罪人。下車。問而泣曰。堯舜之人。以堯舜之心爲心。寡人爲君。百姓各自。以其心爲心。寡人痛之。古有醴酪。至禹時。儀狄作酒。禹飲而甘之。曰。後世必有以酒亡國者。遂疏儀狄。收九牧之金。鑄九鼎。三足象三德。以享上帝鬼神。會諸侯於塗山。執玉帛者萬國。禹濟江。黃龍負舟。舟中人懼。禹仰天歎曰。吾受命於天。竭力而勞萬民。生寄也。死歸也。視龍猶蝘蜓。顏色不變。龍俛首低尾而逝。南巡至會稽山而崩。

の江を濟りしとき、黃龍舟を負ふ。舟中の人懼る。禹、天を仰ぎて歎じて曰く、吾、命を天に受け、力を竭して萬民を勞ふ。生は寄也、死は歸也と。龍を視ること猶蝘蜓(九)のごとく、顏色變ぜず。龍、首を俛し尾を低れて逝る。南巡して會稽山に至りて崩ず。

(一) 梮に同じ、かんじき、鐵にて作り、其形錐に似て長さ半寸、之を履下に施してすべらぬ樣にする也 (二) 堤を築く (三) 法度正しくして措置を失はずと也 (四) 食事中の意 (五) 民心まち／＼にして歸一する所なきを痛むなり (六) 甘酒と牛酪 (七) 直と剛と柔 (八) 諸侯の禮物を致して天子に見ゆるをいふ (九) ゐもり

子啓賢。能繼禹道。禹嘗薦益於天。謳歌朝覲者。不之

子の啓賢にして、能く禹の道を繼ぐ。禹嘗て益を天に薦む。(一〇)謳歌、朝覲する者、益に之かずして啓に之く。曰く、吾君の子也と。啓遂に立つ。有扈氏無道なり。

夏后氏禹。姒姓。或曰。名文命。鯀之子顓項孫也。鯀湮ニ洪水一。舜擧レ禹代レ鯀。勞レ身焦レ思。居レ外十三年。過ニ家門一不レ入。陸行乘レ車。水行乘レ船。泥行乘レ橇。山行乘レ檋。開ニ九州一。通ニ九道一。陂ニ九澤一。度ニ九山一。告ニ厥成功一。舜嘉レ之。使下率ニ百官一行中天下事上。舜崩。乃踐レ位。聲爲レ律。身爲レ度。左ニ準繩一右ニ規

夏后氏禹、姒姓。或は曰く、名は文命、鯀の子、顓頊の孫也。鯀、洪水を湮ぐ。舜、禹を擧げて、鯀に代らしむ。身を勞し、思を焦し、外に居ること十三年。家門を過ぐれども入らず。陸行には車に乘り、水行には船に乘り、泥行には橇に乘り、山行には檋(一)に乘り、九州を開き、九道を通じ、九澤を陂し(二)、九山を度り、厥の成功を告ぐ。舜、之を嘉し、百官を率ゐて天下の事を行はしむ。舜崩じて、乃ち位を踐む。聲は律たり、身は度たり。準繩(三)を左にし、規矩を右にす。(四)一饋に十たび起ちて、以て天下の民を勞ふ。出でゝ罪人を見れば、車より下り、問ひて泣いて曰く、堯舜の人は、堯舜の心を以て心と爲す。寡人、君と爲り、百姓各自、其心を以て心と爲す。寡人、之を痛むと。古へ醴酪(六)有り。禹の時に至りて、儀狄(五)酒を作る。禹飲みて之を甘しとして、曰く、後世必ず酒を以て國を亡す者有らんと。遂に儀狄を疏んず。九牧の金を收めて、九鼎を鑄る。三足は三德(七)に象る。以て上帝鬼神を享す。諸侯を塗山に會す。玉帛(八)を執る者萬國。禹

成レ聚。二年成レ邑。三年成レ都。堯聞二之聰明一。擧二於畎畝一。妻以二二女一。曰二娥黄女英一。釐二降于嬀汭一。遂相レ堯攝レ政。放二驩兜一。流二共工一。殛レ鯀。竄二三苗一。擧二才子八元八愷一。命二九官一。咨二十二牧一。四海之内。咸戴二舜功一。彈二五弦之琴一。歌二南風之詩一。而天下治。詩曰。南風之薫兮。可三以解二吾民之慍一兮。南風之時兮。可三以阜二吾民之財一兮。時景星出。卿雲興。百工相和而歌曰。卿雲爛兮禮縵縵兮。日月光華。旦復旦兮。舜子商均。不肖。乃薦二禹於天一。舜南巡狩。崩二於蒼梧之野一。禹卽レ位。

天下治まる。詩に曰く、南風の薫ずる、以て吾民の慍を解く可し。南風の時なる(一一)、以て吾民の財を阜にす可しと。時に景星(一二)出で、卿雲(一三)興る。百工相和して歌ひて曰く、卿雲爛たり、禮縵縵たり(一四)。日月光華、旦復旦と(一五)。舜の子商均不肖なり。乃ち禹を天に薦む。舜南に巡狩して、蒼梧の野に崩ず。禹位に卽く。

(一) 次第次第に薫化して善に進み、自ら省みて姦惡に陷らざるやうにせしめたり (二) 地名、濟陰にあり (三) 陶器をやく (四) 陶器形曲らずして皆用に堪ふと也、蓋し其業に從ふ者粗惡の品を作らざりし謂ならん (五) 田畝 (六) 支度をとゝのへて降嫁せしむ (七) 驩兜・共工何れも惡人なり (八) 押し込む (九) おひやる (一〇) 元は善、愷は和の義 (一一) 時をあやまらず吹く (一二) めでたき星、德星 (一三) めでたききざしの雲 (一四) 雲容のゆるやかに麗しき形容 (一五) 毎日々々

夏后氏

鯀治レ之。九載弗レ績。堯老倦二于勤一。四嶽擧レ舜。攝二行天下事一。堯子丹朱。不肖。乃薦二舜於天一。堯崩。舜即レ位。

帝舜有虞氏。姚姓。或曰。名重華。瞽瞍之子。顓頊六世孫也。父惑二於後妻一。愛二少子象一。常欲レ殺レ舜。舜盡二孝悌之道一。烝烝乂不レ格レ姦。畊二歴山一。民皆讓レ畔。漁二雷澤一。人皆讓レ居。陶二河濱一。器不二苦窳一。所レ居

帝舜有虞氏

帝舜有虞氏、姚姓。或は曰く、名は重華、瞽瞍の子、顓頊六世の孫也。父、後妻に惑ひ、少子象を愛し、常に舜を殺さんと欲す。舜、孝悌の道を盡し、(一)烝烝として乂めて姦に格らず。歴山に畊すや、民皆畔を讓る。(二)雷澤に漁るや、人皆居を讓る。河濱に(三)陶するや、器、(四)苦窳せず。居る所聚を成し、二年に邑を成し、三年に都を成す。堯之が聰明を聞きて、(五)畎畝より擧げ、妻すに二女を以てす。娥黄・女英と曰ふ。嬀汭に(六)釐め降す。遂に堯に相として政を攝す。(七)驩兜を放ち、共工を流し、鯀を(八)殛し、三苗を(九)竄す。才子(一〇)八元八愷を擧ぐ。九官を命じ、十二牧に咨る。四海の内、咸く舜の功を戴く。五弦の琴を彈じ、南風の詩を歌うて、

在野ニ不ν知。乃微服遊ニ於康衢ニ。聞ニ童謡ヲ。曰。立ニ我烝民ヲ。莫ν匪ニ爾極ニ。不ν識不ν知順ニ帝之則ニ。有ニ老人ヲ。含ν哺鼓ν腹。擊ν壤而歌曰。日出而作。日入而息。鑿ν井而飲。耕ν田而食。帝力何有ニ於我ニ哉。觀ニ于華ニ。華封人曰。嘻請祝ニ聖人ヲ。使ニ聖人壽富。多ニ男子ヲ。堯曰辭。多ニ男子ヲ則多ν懼。富則多ν事。壽則多ν辱。封人曰。天生ニ萬民ヲ。必授ニ之職ヲ。多ニ男子ニ而授ニ之職ヲ。何懼之有。富而使ニ人分ヲ之。何事之有。天下有ν道。與ν物皆昌。天下無ν道。脩ν德就ν閒。千歳厭ν世。去而上僊。乘ニ彼白雲ニ。至ニ于帝鄕ニ。何辱之有。堯立七十年。有ニ九年之水ヲ。使ニ

の懼か之れ有らん。富んで、人をして之を分たしめば、何の事か之れ有らん。天下道有れば、物と皆昌え、天下道無ければ、德を脩めて閒に就く。(一二)千歳にして世を厭はゞ、去りて上僊し、(一三)彼の白雲に乘じて、帝鄕に至らん。何の辱か之れ有らんと。堯立ちてより七十年、九年の水有り。(一四)鯀をして之を治めしむ。九載、績あらず。堯、老いて勤に倦む。四嶽、(一五)舜を擧げて、天下の事を攝行せしむ。堯の子丹朱不肖なり。乃ち舜を天に薦む。堯崩ず。舜、位に即く。

(一)屋根にふきたるかやの端を切り揃へず　(二)宮殿は質素にして、土の階僅かに三段に過ぎずと也　(三)小節ら二十九日の月には一葉ひからびて落ちず　(四)暦ぐさ、堯の時の瑞草にして月の朔晦にしたがつて凋榮す　(五)旬は十日、朔はついたち　(六)路の四達を衢といひ、五達を康といふ　(七)我々人民を存立せしむるは　(八)皆汝帝堯の天賦至極の中正の德也　(九)食物を口にふくむ　(一〇)木にて作り擊ち當てあふ一種の遊具　(一一)國境の番人　(一二)閑地に隱れて德を修む　(一三)天に上り不死の仙となる　(一四)洪水　(一五)四岳を祭り諸侯を統ぶる官

天。其知如ㇾ神。就ㇾ之如ㇾ日、望ㇾ之如ㇾ雲。都二平陽一。茆茨不ㇾ剪。土階三等。有ㇾ草生ㇾ庭。十五日以前。日生二一葉一。以後日落二一葉一。月小盡。則一葉厭而不ㇾ落。名曰二蓂莢一。觀ㇾ之以知二旬朔一。治二天下一五十年。不ㇾ知二天下治歟不ㇾ治歟。億兆願ㇾ戴ㇾ己歟。不ㇾ願ㇾ戴ㇾ己歟一。問二左右一不ㇾ知。問二外朝一不ㇾ知。問二

剪らず。土階三等。草有り、庭に生ず。十五日以前は、日に一葉を生じ、以後は日に一葉を落す。(二)(三)月小にして盡くれば、則ち一葉厭として落ちず。名けて(四)蓂莢と曰ふ。之を觀て以て(五)旬朔を知る。天下を治むること五十年。天下治まる歟治まらざる歟、億兆の己を戴くことを願ふ歟、己を戴くことを願はざる歟を知らず。左右に問ふに、知らず。外朝に問ふに、知らず。在野に問ふに、知らず。乃ち微服して(六)康衢に遊び、童謠を聞くに、曰く、(七)我が烝民を立つるは、(八)爾の極に匪ざること莫し。識らず、知らず、帝の則に從ふと。老人有り、(九)哺を含み、腹を鼓ち、(一〇)壤を撃ちて歌ひて曰く、日出でゝ作し、日入りて息ふ。井を鑿りて飲み、田を畊して食ふ。帝の力、何ぞ我れに有らん哉と。華に觀る。華の封人曰く、嘻請ふ、聖人を祝せん。聖人をして壽富にして男子多からしめん。(一一)堯曰く、辭す。男子多ければ、則ち懼多く、富めば則ち事多く、壽ければ則ち辱多しと。封人曰く、天の萬民を生ずるや、必らず之に職を授く。男子多くして、之に職を授けば、何

頊受之。乃命南正重。司天以屬神。火正黎。司地以屬民。使無相侵瀆。始作曆。以孟春爲元。

〔一〕九人の黎氏、其頃の諸侯なり 〔二〕人民と神との區別亂れて分つ能はず。方物すとは區別をつける事 〔三〕上天鬼神に關することを掌らしむ 〔四〕人民を支配せしむ 〔五〕初春の月を以て年の首となす

帝嚳高辛氏。玄囂之子。黃帝曾孫也。生而神靈。自言其名。代顓頊而立。居於亳。

帝堯陶唐氏。伊祁姓。或曰。名放勳。帝嚳子也。其仁如

帝嚳高辛氏

帝嚳高辛氏、玄囂の子、黃帝の曾孫也。(一)生れながらにして神靈、自ら其名を言ふ。顓頊に代りて立ち、亳に居る。

〔一〕生れながらにして極めて勝れたる靈智を有し自ら其名を嚳といへりと也

帝堯陶唐氏

帝堯陶唐氏、伊祁姓。或は曰く、名は放勳、帝嚳の子也。其仁、天の如く、其知、神の如し。之に就くは日の如く、之を望むは雲の如し。平陽に都す。(一)茆茨

少昊金天氏。名玄囂。黄帝之子也。亦曰青陽。其立也。鳳鳥適至。以鳥紀官。

顓頊高陽氏。昌意之子。黄帝孫也。代少昊而立。少昊之衰。九黎亂徳。民神雜糅。不可方物。顓

少昊金天氏

少昊金天氏、名は玄囂、黄帝の子也。亦青陽とも曰ふ。其立つや、(一)鳳鳥適〻至る。(二)鳥を以て官に紀す。

(一)鳳凰、瑞鳥なり　(二)官職に命ずるに鳥名を以てせり

顓頊高陽氏

顓頊高陽氏、昌意の子、黄帝の孫也。少昊に代りて立つ。少昊の衰ふるや、(一)九黎、徳を亂り、(二)民神雜糅して、方物す可からず。顓頊、之を受け、乃ち南正重に命じて、天を司りて以て(三)神を屬し、火正黎に、地を司りて、以て(四)民を屬し、相侵し瀆すこと無からしむ。始めて暦を作り、(五)孟春を以て元と爲す。

師。作二舟車一。以濟レ不レ通。得二風后一。爲レ相。力牧爲レ將。受二河圖一。見二日月星辰之象一。始有二星官之書一。師大撓。占二斗建一作二甲子一。容成造レ曆。隷首作二算數一。伶倫取二嶰谷之竹一。制二十二律筩一。以聽二鳳鳴一。雄鳴六雌鳴六。以二黃鐘之宮一。生二六律六呂一。以候二氣應一。鑄二十二鐘一。以和二五音一。嘗晝寢。夢遊二華胥之國一。怡然自得。其後天下大治。幾若二華胥一。世傳。黃帝采レ銅鑄レ鼎。鼎成。有レ龍垂二胡髯一下迎。帝騎レ龍上レ天。羣臣後宮從者七十餘人。小臣不レ得レ上。悉持二龍髯一。髯拔。墮レ弓。抱二其弓一而號。後世名二其處一曰二鼎湖一。其弓曰二烏號一。黃帝二十五子。其得レ姓者十四。

得ず、悉く龍の髯を持つ。髯拔く。弓を墮す。其の弓を抱いて號く。後世其の處を名けて鼎湖と曰ひ、其の弓を烏號と曰ふと。黃帝二十五子あり。其の姓を得る者十四。

(一) 北斗星中の第一星 (二) 王命を奉ぜざる者 (三) 銅鐵の如き堅き鋼 (四) 常に南を指す車、大霧中を驅るも方向を誤らず (五) 大魚の黃河より負うて出でたる天文書 (六) 北斗星の柄先のむき (七) 音律を調ふる竹筒 (八) 鳳鳴を聽きて之に合はす、雄鳴は陽聲の六律、雌鳴は陰聲の六呂 (九) 六律第一の調子 (一〇) 五音中の最濁音 (一一) 一年間二十四氣 (一二) 夢想の仙境也 (一三) たのしむ貌 (一四) 胡は頷肉の下垂せるもの、髯はあごひげの類

五帝

君少典子也。母見大電繞北斗樞星。感而生帝。炎帝世衰。諸侯相侵伐。軒轅乃習用干戈。以征不享。諸侯咸歸之。與炎帝戰于阪泉之野。克之。蚩尤作亂。其人銅鐵額。能作大霧。軒轅作指南車。與蚩尤戰於涿鹿之野。禽之。遂代炎帝為天子。土德王。以雲紀官。為雲

乃ち干戈を用ふることを習ひて、以て不享(二)を征す。諸侯、咸く之に歸す。炎帝と阪泉の野に戰ひ、之に克つ。蚩尤、亂を作す。其人、(三)銅鐵の額、能く大霧を作す。軒轅、指南車(四)を作り、蚩尤と涿鹿の野に戰ひ、之を禽にし、遂に炎帝に代りて、天子と爲る。土德の王たり。雲を以て官に紀し、雲師と爲す。舟車を作りて、以て通ぜざるを濟す。風后を得て相と爲し、力牧を將と爲す。(五)河圖を受けて、日月星辰の象を見、始めて星官の書有り。師大撓、斗の建(六)を占ひて、甲子を作る。容成、曆を造り、隷首、算數を作る。伶倫、嶰谷の竹を取りて、十二律の筩(七)を制して、以て鳳鳴(八)を聽く。雄鳴六、雌鳴六。(九)黃鐘の宮(一〇)を以て、六律六呂を生じて、以て氣の應を候ひ、十二鐘を鑄て、以て五音を和す。嘗て晝寢ね、夢に華胥(一一)の國に遊び(一二)、怡然(一三)として自得す。其後天下大に治り、幾んど華胥の若し。世に傳ふ、黃帝銅を采りて鼎を鑄る。鼎成る。龍有り、胡髯(一四)を垂れて下り迎ふ。帝、龍に騎りて天に上る。羣臣、後宮從ふ者七十餘人。小臣は上ることを

姜姓。人身牛首。繼二風姓一而立。火德王。斲レ木爲レ耜。揉レ木爲レ耒。始教レ耕。作二蜡祭一。以二赭鞭一鞭二草木一。嘗二百草一。始有二醫藥一。教二人日中一爲レ市。交易而退。都二於陳一。徙二曲阜一。傳二帝承。帝臨。帝則。帝百。帝來。帝襄。帝楡一。姜姓。凡八世。五百二十年。

耜(一)を爲り、木を揉げて耒(二)を爲り、始めて耕すことを教へ、蜡(三)の祭を作す。赭鞭(四)を以て草木を鞭ち、百草を嘗めて、始めて醫藥有り。人をして日中に市を爲し、交易して退かしむ。陳に都し、曲阜に徙る。帝承・帝臨・帝則・帝百・帝來・帝襄・帝楡に傳ふ。姜姓、凡べて八世、五百二十年。

(一) 鋤の頭　(二) 鋤の柄　(三) 歳末に萬物を合せ聚めて田に報い豐穣を祈る祭　(四) 赤色のむち

黃帝。公孫姓。又曰姬姓。名軒轅。有熊國

黃帝軒轅氏

黃帝、公孫姓。又曰く姬姓。名は軒轅、有熊國の君少典の子也。母、大電の北斗の樞星(一)を繞るを見、感じて帝を生む。炎帝の世衰へ、諸侯、相侵し伐つ。軒轅、

官。號二龍師一。木德王。都二於陳一。庖犧崩。女媧氏立。亦風姓。木德王。始作二笙簧一。諸侯有二共工氏一。與二祝融一戰。不レ勝而怒。乃頭觸二不周山一崩。天柱折。地維缺。女媧乃鍊二五色石一。以補レ天。斷二鰲足一。以立二四極一。聚二蘆灰一。以止二滔水一。於レ是地平天成。不レ改二舊物一。女媧氏沒。有二共工氏。太庭氏。柏皇氏。中央氏。歷陸氏。驪連氏。赫胥氏。尊盧氏。混沌氏。昊英氏。朱襄氏。葛天氏。陰康氏。無懷氏一。風姓相承者十五世。

(一〇)四極を立て、蘆灰を聚めて、以て滔水(一一)を止む。是に於て、地平かに、天成りて、舊物を改めず。女媧氏沒して、共工氏・太庭氏・柏皇氏・中央氏・歷陸氏・驪連氏・赫胥氏・尊盧氏・混沌氏・昊英氏・朱襄氏・葛天氏・陰康氏・無懷氏有りて、風姓相承くる者十五世。

(一)易の八卦 (二)繩を結びて記憶等に便せると (三)婚禮 (四)二枚の皮を結納の禮とす (五)魚網・鳥網の類 (六)いけにへ (七)笙は樂器の名、簧は笙中の金葉 (八)蓋し社會の大混亂を來し秩序盡く紊れたるに當り、女媧氏之を道德的に救濟せるをいふか (九)鼇の誤、おほがめ也 (一〇)四方の柱 (一一)滔々たる大水

炎帝神農氏。

炎帝神農氏

炎帝神農氏、姜姓。人身牛首。風姓に繼いで立つ。火德の王たり。木を斲りて

世。合四萬五千六百年。人皇以後。有レ曰二有巣氏一。搆レ木爲レ巣。食二木實一。至二燧人氏一。始鑽レ燧。敎二人火食一。在二書契以前一。年代國都不レ可レ攷

太昊伏羲氏。風姓。代二燧人氏一而王。蛇身人首。始畫二八卦一。造二書契一。以代二結繩之政一。制二嫁娶一。以二儷皮一爲レ禮。結二網罟一敎二佃漁一。養二犧牲一以二庖廚一。故曰二庖犧一。有二龍瑞一。以レ龍紀レ

三皇

太昊伏羲氏

太昊伏羲氏、風姓。燧人氏に代りて王たり。蛇身人首。始めて八卦(一)を畫し、書契を造り、以て結繩(二)の政に代ふ。嫁娶(三)を制し、儷皮(四)を以て禮と爲す。網罟(五)を結びて、佃漁を敎ふ。犧牲(六)を養ふに、庖廚を以てす。故に庖犧と曰ふ。龍の瑞あり。龍を以て官に紀し、龍師と號す。木德の王たり。陳に都す。庖犧崩じて、女媧氏立つ。亦風姓、木德の王たり。始めて笙簧(七)を作る。諸侯に共工氏といふもの有り、祝融と戰ひ、勝たずして怒り、乃ち頭不周山に觸れて崩ず。天柱折け(八)、地維缺く。女媧、乃ち五色の石を錬りて、以て天を補ひ、鼇(九)の足を斷ちて、以て

十八史略 卷之一

太古

天皇氏。以㆓木德㆒王。歲起㆓攝提㆒。無爲而化。兄弟十二人。各一萬八千歲。地皇氏。以㆓火德㆒王。兄弟十二人。各一萬八千歲。人皇氏。兄弟九人。分長㆓九州㆒。凡一百五十

天皇氏、木德(一)を以て王たり。歲は攝提(二)より起る。無爲にして化す。兄弟十二人、各〻一萬八千歲。地皇氏、火德(三)を以て王たり。兄弟十二人、各〻一萬八千歲。人皇氏、兄弟九人、分つて九州に長たり。凡べて一百五十世、合して四萬五千六百年。人皇以後、有巢氏と曰ふもの有り。木を搆へて巢と爲し、木實を食ふ。燧人氏に至りて、始めて燧を鑽り(四)、人に火食(五)を敎ふ。書契以前(六)に在りて、年代國都、攷ふ可からず。

(一) 第一の皇たれば五行第一たる木德の王とす (二) 寅の年 (三) 天皇氏に次ぎて皇たる故に、木火を生ずるの義より火德の王とす (四) 木をすり合せて火を出す (五) 火にて煮て食ふこと (六) 記錄以前、有史以前

明治以後に續出せし註釋書の中にて、明治十三年刊行の近藤元粹の箋註十八史略校本尤も傑出せるが如し。

國字解にては、明治十六年(初板は明治十二年)に長瀨寛二の著はせし十八史略訓蒙五卷は、本書の難澁なる章句に、俚言を以て平解を加へしもの、初學者には便益多からん。最近に早稻田大學にて出板せし、桂氏(湖村)の十八史略國字解二卷は、解釋極めて妥當親切なるが如し。

大正八年九月

文學博士　桑原隲藏

十八史略の註釋としては、明初の陳殷の音釋尤も廣く行はる。爾後の註釋は、大抵この音釋に本づく。されど陳殷の音釋には、時に誤謬なきにあらず。德川時代より明治時代にかけて、我が國人の陳注を訂補して、十八史略に註釋を施せしもの、無慮數十家に及ぶべし。中に就いて巖垣龍溪(彥明)標記、その孫東圃(松苗)增補の十八史略、尤も早く世に行はる。龍溪の標記は天明元年(西紀一七八一)の頃に成りしを、後ち天保九年(西紀一八三八)東圃之に增補を加へて再刊す。巖垣氏は聞えたる國粹論者なれば、日本と支那との國體の異同を闡明するに、力を盡せし點に特色多し。略同時の讃岐の村山隆の十八史略便蒙は、天保八年の刊行に係る。本書の解釋し難き章句のみに就いて、舊註の疎漏を補正せしもの、頗る參考に資すべし。岡本保孝が安政四年(西紀一八五七)に著はせし十八史略校本一冊は、本書の註釋には關係なけれど、昌平黌所藏の元槧本と、彼自身所藏の元槧本——或は元槧覆刻本——と、通行本との本文の異同を比較したれば、この點にて珍重すべきものならん。

學講習の課本に推奬せり。讃岐の三野謙谷は、天保八年(西紀一八三七)に十八史略便蒙に序して、

十八史略の書たるや、衆史を蒐羅し、千古を裁斷す。簡にして漏さず、整にして煩ならず。(中略)當今の時、四海内外、家(毎)に藏し戸(毎)に誦し、日に童蒙に課して、讀書の階梯となす、亦宜ならずや。

といへり。德川時代を通じて、歳一歳と、十八史略の流行盛を加へし狀況、以て槪見すべし。明治維新の後も、久しく小學の課程に、漢文として將た歷史として、頗るこの書を採用し、今日にても中學の漢文教科書として、その抄本を使用するもの甚だ多し。要するに十八史略は、我國に於て最も歡迎を受けたる漢籍の一といはざるべからず。

第八　十八史略の註釋

紀一五二六)上杉憲房寄進の十八史略を藏すといへば(近藤守重の右文故事附錄卷之四參看)、後くも足利時代の末世には、この書の既に我が國に渡來せしこと疑ふべからず。南川士長の閑散餘錄に、

其時代(慶長の頃)ハ兵亂ノ中ニテ、甚書ニ乏シ。(惺窩)先生カネテヨリ十八史略ヲ見ント欲スレドモ、コノ書ヲ持テル人ナシ。後ニ角倉與市(スミノクラヨイチ)ガ許ニテ借出シ、繕寫セラレシトナン。

といへば京都にすら四書の素讀を敎ふる人稀なりし時代のことゝて、當時十八史略など讀む者多からざりしこと知るべし。されど元和以後は文運日に開け、又この頃より曾先之の十八史略も、余進の十九史略も、我が國にて活板に付せられ、書物の得易くなると共に、この書を講習する者次第に盛となれり。服部南郭は元祿の末(西紀一七〇〇頃)幼年就學の當時、十八史略を習ひしことをいひ、安永時代(西紀一七七〇年頃)の江村北海、寛政時代(西紀一七九〇頃)の古賀侗庵(精里)等、皆この書を初

史略といひ、皆曾先之の十八史略に、元一代の史略を補續せしものなれば、十九史略の歡迎せらるゝは、卽ち十八史略の歡迎せらるゝに外ならず。而してこの書と直接間接に關係ある人々、例へば陳殷(江西省)の如き、劉剡(福建省)の如き、王逢(江西省)——十八史略に點校を加へし人——の如き、余進(江西省)の如き、李紀(江西省)——劉剡(?)の十九史略に補注を加へし人、從つて間接に十八史略の注釋者——の如き、宋應霞(廣東省?)——十八史略の注釋者——の如き、皆南支那の產なるより推せば、當時この書が主として江西省を中心とせる南支那に流行せしこと疑を容れず。

朝鮮に於ては世宗は、明の永樂十八年(西紀一四二〇)に、新鑄の銅活字にて十八史略を印行し、宣祖は萬曆十年(西紀一五八二)に余進の十九史略をも刊行したれば、朝鮮人士が之に由りて直接間接に曾先之の餘澤を受けしこと多大なりしならん。されど十八史略の我が國に及ぼせし影響に比しては、固より同一に論じ難し。

十八史略の始めて我が國に傳來せし年代は知り難きも、足利學校に大永六年(西

此等偉人の嘉言善行は、大抵この書中に紹介せられたれば、修身の資料にも供し得べく、(三)その文章も簡明にして趣味多く、且つ之によりて幾多の故事熟語を學び得べければ、文學上の裨益も多かるべし。

第七　十八史略の流傳

十八史略は元明時代にかけて、支那にて相當歡迎を受けしが如し。元時代には至治の原板(?)以外に、幾種の板本行はれしが如く、清の朱緒曾の開有益齋讀書志(卷二)に至正年間(西紀一三四一―一三六七)の新板を紹介せり。明代には通行の七卷本の外に、元槧本を覆刻せしもの種類少からず。元槧覆刻本の種類一樣ならざることは、一面にて元代に十八史略の流行せし證據たると共に、一面にて明代にも、十八史略の流行せし證據といふべし。明の余進の十九史略といひ、明の劉剡の十九

に就いてこの書を閲讀して、多大の感化を受けしが如し。そは兎に角、十八史略の唐虞三代に關する記事は、その標榜せる如く、大體に於て、史記に本づきしものなれば、史記に本づきし十八史略の記事に、縱令若干の虛妄ありとするも、直接曾先之の責任と認むべからず。殊に崔述の考信錄は、史記及び史記の史料となりし先秦の諸記錄に就いて、一種特別の高等批判を加へ、支那の古代に關する通說の誤謬を駁正するを目的とし、十八史略は史記以下の記事に據つて、初學者に、支那歷代沿革の大綱を會得せしむるを目的とす。前者の所說を引いて、後者の記事を辨駁するは、やゝ見當違ひの嫌ありて、少くとも牛刀を雞肉に加へたる譏を免れざらん。

要するに十八史略に若干の瑕疵あるは事實なれど、初學の課本としては尤も適當なる者と推奬すべく、少くとも左の三長所を具備す。

(一)歷史としては、この書によりて、支那歷代の興亡治亂の大綱に通じ得べく、
(二)支那は流石に舊國にして又大國なれば、その間に幾多景仰すべき人物輩出せり。

といひ、甚しく十八史略を擯斥せり。　黄震と胡一桂は、當時に聞えたる學者なれば、曾先之と對しては、その學界に於ける位置に固より大懸隔あれど、是に由つて著書の優劣は定め難し。　予は未だ親しく古今通略を覩ざれば、之を十八史略に比較するを得ざれど、姑く古今紀要に就いて論ぜば、四庫全書總目提要の批評は、決して妥當と認むべからず。　十八史略と古今紀要とは、全然その體裁を異にすれば、一概に長短を論じ難きも、課蒙の歴史たる點より之を觀れば、前者は遙に後者に勝れりと斷ずべし。

明治十八年に三重縣の町井台水は、十八史略辨妄十六卷を著はせり（台水先生遺文參考）。　こは前淸の中頃に出でゝ、支那古代史に新硏究を試みたる、崔述の考信錄を根據として、十八史略の上古の記事に、虛妄多きを辨駁せしものなり。　考信錄は明治三十一二年の交に、故那珂通世博士始めて之を我が學界に紹介して以來、日本支那の學者間に歡迎せらるゝに至りしが、町井氏はその以前に早く、藤堂家の書庫

に限れるに、十八史略はその以前に溯りて、太古より筆を起せば、要するにその記事の範圍は、所謂十八史よりも稍廣しといはざるべからず。爾く長き年代の記事を、僅々數卷に節略せしことゝて、その間或は文字年月を誤り、或は叙述に詳略の當を失し、或は體裁に劃一を缺ける所なきにあらず。されど概して之を論ずれば、初學者に支那歷代沿革の大綱を授くる課本としては、可なり上出來と評し得べし。

乾隆欽定の四庫全書總目提要（卷五十）に十八史略を評して、

その書史文を鈔節すること簡略殊に甚し。（中略）蓋し鄉塾課蒙（地方の學校で初學者に教授する）の本にして、同時の胡一桂の古今通略に視れば、之に遜ること遠し。

といひ、又同書（卷五十）に、南宋の黄震の古今紀要を評して、

詞は約にして事は該べ、頗る條貫（條理が建って居る）あり。曾先之の十八史略の類、粗梗槩（輪廓だけ出來て居る）を具へて疎陋に傷む者の比にあらず。

の結果ならん。南宋の帝㬎がその德祐二年(西紀一二七六)に、元に出で降ると共に、宋は滅亡せし筈也。故に曾先之の原本には、高宗の建炎元年(西紀一一二七)より德祐二年に至る百五十年を南宋の年數と認め、之に北宋の百六十七年を加へたる、三百十七年を以て、南北宋を通ぜる年數となし、德祐二年に後の宋の益王、衞王の事蹟は、簡單に卷末に附載せるのみ。通行本には、この二王を正統の君主として、端宗皇帝(益王)及び帝昺(衞王)の條を建て、祥興二年(西紀一二七九)に帝昺が厓山(廣東省粵海道新會縣附近の島)にて入海せし時を以て、宋の滅亡期となし、南宋の年數を百五十三年、南北宋を通ぜる年數を三百二十年と書せり。これも亦勿論明人の變改せし所なるべし。

第六　十八史略の批評

十八史略は十八史を節略せしものと稱すれども、その實史記の記事は、黃帝以後

の位に卽き、國號を周と改めたり。　西紀六百九十年に、武氏が周の國號を建てし以來、七百五年に高宗の子中宗が唐の國號を復興せしまでの十五年間は、事實上、唐の中絶せし時代なれば、資治通鑑には武氏を以て直に高宗の後を承け、中宗を武氏の後に接せり。　曾先之の原本は、大體に於て資治通鑑の書例に從ひ、高宗の次に別に武氏の條を置き、武氏の後に中宗の條を置けり。　通行本に高宗の次に中宗を置き、中宗の條に武氏を附記せるは、資治通鑑綱目の影響を受けたる結果にて、明人の加へたる改訂なるべし。

（第六巻）　五代及び北宋約二百二十年間のことを記載す。

（第七巻）　南宋百五十年間のことを記す。　南宋の半頃より、元（蒙古）塞外に勃興し來り、次第に中國との交渉頻繁となれり。　曾先之は元人なれば、彼の原本には、元に關する記事は、すべて大朝と稱せしを、通行本には皆これを蒙古又は元と改め、その記事の内容も、原本と通行本と相違せる所尠からず。　これらは皆明人の加へし變改

なれり。劉剡が曾先之の書法を訂正して、蜀を陟め魏を黜けしは畢竟この影響のみ。

（第四卷）東晉の初より隋末に至る、約三百年間の記事を載す。此中間に在る南北朝對立時代に就いては、曾先之の原本には、南朝を提頭とせしのみにて、南北に對して高下を附せず。南北雙方の君主には皆帝と稱せしが、通行本は朱熹の資治通鑑綱目に無統（天下一統の君主なき時代）の時代の君主は、すべて單に主と稱せる書例に倣ひ、魏帝を魏主、宋帝を宋主と改めたり。こは明人の所爲ならん。通行本に魏の君主が、その大臣崔浩を殺せし時の記事に、魏帝大怒。遂案誅之と書し、又その魏主が南侵せし時のことを記して魏帝引兵南下と書せるが如きは、原本改作の遺漏なるべし。

（第五卷）唐一代約二百九十年間の記事を載す。唐の第三代高宗の崩（西紀六八三）後、二十餘年の間、天下の大權はその皇后武氏の手に歸し、武氏はやがて自から皇帝

の如き體裁に改訂せしなり。

一體支那の歷史家は、正統論に重きを置き、一國の主權の分裂する時は、その何れを正統とし、何れを閏位(歲の閏月の如く正當以外に帝號を稱するをいふ)とするかに就きて、學者間に說を異にすること稀ならず。魏蜀吳の三國の正閏に關しては、古來幾多の議論あれど、大體よりいへば、北宋時代までは魏を正統とする者多きが如し。司馬光の資治通鑑の如きも、魏の年號を提頭として、これを正統視せんとするが如き書法を用ひ居れり。曾先之の書法は、大體に於て、司馬光の先例に憑據せしに過ぎず。且つ實際に就いて之を觀るも、魏は名義上東漢の禪(ユヅリ)を受け、その領土も廣くその人民も多し。されば編年史(編年體を用ひたる歷史)としては、魏を提頭として、蜀、吳をその間に附記する書法、最も便利なりといはざるべからず。たゞ南宋の朱熹が資治通鑑綱目を編纂して以來、蜀を正統とし、魏、吳を僭僞(帝號を稱する正當の資格なき國)とする說、次第に勢力を得て、遂に支那の歷史家一般の定說の如く

ぐるは、議論は兎に角、實際に於て便利多しといはざるべからず。

（第二卷）　秦、西漢二代約二百四十年間の記事を載す。

（第三卷）　東漢の初より西晉の末に至る、約三百年の記事を載す。　この中間に在る魏、蜀（漢）吳三國鼎立時代の記事は、曾先之の原本には、三國の位置に高下を附せずと稱しつゝ、書法の上にては、魏を提頭（カキダシ）とし、蜀、吳を附記して、

三國　魏蜀吳

魏文皇帝名丕姓曹氏云々

の如き形式を採りしを、明の劉剡は蜀（漢）を正統に置き、魏吳二國を貶して今日の通行本に見る所の

三國　漢

附魏吳二僭國

昭烈皇帝諱備、字玄德云々

元と改めしが如きは、劉剡を待たずして、明初の人の必ず行はざるべからざる改正なれば、劉剡以前に、曾先之の原本に、若干の變改を加へし者、存在せしこと疑を容れず。想ふに明初の陳殷の如きも、或は原本に幾分の改正を加へしならん歟。

上に述べたる如く、通行本の十八史略は、七卷より成る。その七卷の內容を紹介せば左の如し。

（第一卷） 太古より東周末に至る。東周の春秋戰國時代約五百年間は、王室衰微して、天下の實權大諸侯の手に歸したれば、諸侯の記事は、王室のそれよりも較ろ必要となれり。故に曾先之は東周の末に、司馬遷の史記の世家の例に倣ひ、春秋時代の大諸侯十三國、戰國時代の七大國の記事を添ふ。編年の歷史としては變則なれど、非常の時代なれば、已むを得ざる書法といふべし。列國の一なる魯國の條末に、孔子と老子の傳記を附載せるは、體裁上多少の異議あるべけれど、孔子は魯國の產にして、老子はその先輩として幾分の交渉ありし人なれば、この二大哲人を併せ擧

第五　十八史略の體裁內容

曾先之の十八史略は、大體に於て時代の順序に記述せる編年體の歴史にして、もと二卷より成る。　上卷は太古より東晉末に至り、下卷は南北朝より南宋末に至る。明初に陳殷之に音釋（字音と字義の解釋）を加へ、且つ分つて七卷となす。　爾後七卷本世に通行す。　通行本は曾先之の原本に比して、啻に卷數增加せしのみならず、その體裁、記事、文字等にも異同多し。　岡本保孝（況齋）の十八史略校本に、原本と通行本との異同を對比しあれど、一々こゝに紹介するに堪へず。　此等內容の變改は、何人の手に成りしか、的確に知り難し。　通行本卷三の三國時代の序言に、特に劉剡の名を記して、曾先之の原本に、魏を正統となせしを改めて、漢（蜀）を以て之に代へし理由を注意しあれば、明の中世の劉剡が、この變改者の一人なること明白なり。　されど原本に、元人の曾先之が、蒙古又は元を指して大朝となせしを、通行本に蒙古又は

時代にかけて、簡易なる通史（古今歷代を通載せる歷史）の多く世に出でし所以は、全くこの缺陷を補はんが爲に外ならず。有名なる北宋の司馬光の資治通鑑の如きも、亦略同一の宗旨を以て、編纂せられしものなり。資治通鑑は東周の威烈王の廿三年（西紀前四〇三）より五代末（西紀九五九）に至る千三百六十二年、即ち大體に於て、史記以下十七史の記事を、二百九十四卷に節約せし上に、編年體を用ひて、之を時代順に排記したれば、正史に比しては甚だ簡便なれども、約三百の卷數は、猶ほ一般人士にとりて、過多なるを免れず。是故に司馬光自身は更に之を簡約して通鑑舉要歷八十卷を作り、南宋の朱熹（朱子）は資治通鑑綱目五十九卷を作る。また綱鑑易知錄出で、通鑑擧要出づ。愈降りて愈簡に就く。世間要求の趨歸以て察知すべし。曾先之も亦畢竟この一般の要求に應じ、初學者に歷代治亂の大綱を知らしめんが爲に、この十八史略を編纂せしのみ。

ものあれば(岡本保孝の十八史略校本參看)、十八史略の編纂は、必ずその以前に在るべく、而して托克托の宋史を脱稿せしは元の至正五年(西紀一三四五)なれば(元史順帝本紀參看)、曾先之は固より之を利用するに由なく、かくて前掲の李燾、劉時擧等の舊書を采取せしのみ。

第四　十八史略編纂の由來

正史は卷數浩瀚にして、姑く所謂十八史に就いて之を觀るも、二千卷以上に及び、之を讀破すること容易の業にあらず。加之此等正史の記述の方法は、所謂紀傳體と稱して、天子の事蹟は本紀に、個人の事蹟は列傳に、若し諸侯割據の時代ならば、その事蹟は世家に記載すれば、彼此參照せざれば、時代の眞相、事件の全體を了解し得ざる不便あり。從つて專門の學者は格別として、一般人士は、殆ど之を利用すること難し。かくて南宋の黃震の古今紀要の如き、元の胡一桂の古今通略の如き、宋元

さて二十四史とは、清の乾隆時代に刱まりし名稱にして、その以前には、舊唐書と舊五代史の二史を正史に加へず。　舊唐書は新唐書と、舊五代史は新五代史と、同一時代を記載せし歴史とはいへ、その體裁內容等に可なりの相違あり。　一方南史を宋書・南齊書・梁書・陳書の四史と對比し、北史を魏書・北齊書・周書・隋書の四史と對比すれば、その重複類似せる所頗る多し。　然るに南史と北史を正史に加へて、舊唐書と舊五代史を正史より除くは、甚だ謂なきこととなり。　されど理論は兎に角、事實乾隆以前に在りては、舊唐書と舊五代史を正史に加へざりしが故に、當時十七史といへば普通北史以上の十五史に、新唐書と新五代史を加へしもの、十八史といへば、之に宋史を加へしもの、二十一史といへば、十八史に遼史・金史・元史を加へしもの、更に二十二史といへば、二十一史に明史を加へしものに限れり。　曾先之の十八史略の十八史も、大體この意味に外ならず。

但十八史略の元槧本に、元の至治年間（西紀一三二一——一三二三）に出板せられし

(一五)北　史　一〇〇卷　唐の李延壽　(一六)舊唐書　二〇〇卷　後晉の劉昫等

(魏・北齊・周・隋の所謂北朝四代の歴史)。

(一七)新唐書　二二五卷　北宋の歐陽脩及び宋祁　(一八)舊五代史　一五〇卷　北宋の薛居正等

(單に唐書とも稱す。宋祁は列傳の編纂に當り、その餘は歐陽脩の編纂に係る)

(一九)新五代史　七五卷　北宋の歐陽脩　(二〇)宋　史　四九六卷　元の托克托等

(また五代史記とも、五代史とも稱す)　(托克托一に脫脫に作る。蒙古人の名に當てたる漢字の相違に過ぎず)

(二一)遼　史　一一六卷　元の托克托等　(二二)金　史　一三五卷　元の托克托等

(二三)元　史　二一〇卷　明の宋濂等　(二四)明　史　三三六卷　清の張廷玉等

支那に於ては、一代の正史は、その皇朝の滅亡後に、編纂する慣例なれば、前清の歴史は、目下民國政府の手にて編纂中なり。この清史脫稿せば、支那の正史は增して、二十五史となるべし。

（五）晉　書　一三〇巻　唐の房玄齡等

（唐の太宗の詔により、房玄齡等之を編纂す。故に或は太宗御撰とも稱す）

（六）宋　書　一〇〇巻　梁の沈約

（七）南齊書　五九巻　梁の蕭子顯

（八）梁　書　五六巻　唐の姚思廉

（九）陳　書　三六巻　唐の姚思廉

（一〇）南　史　八〇巻　唐の李延壽

（宋・齊・梁・陳の所謂南朝四代の歴史）

（一一）魏　書　一一四巻　北齊の魏收

（また北魏書とも、後魏書とも稱す）

（一二）北齊書　五〇巻　唐の李百藥

（一三）周　書　五〇巻　唐の令狐德棻等

（また北周書とも後周書とも稱す。崔仁師は令狐德棻の下に、周書の編纂に干預せし一人なれど、陳殷がこの人を擧げて周書の著者となすは妥當にあらず）

（一四）隋　書　八五巻　唐の魏徵等

時學の宋鑑といへるは、南宋の李燾の續宋編年資治通鑑、若くは續資治通鑑長編と、南宋の劉時擧の續宋中興編年資治通鑑をいふ。李燾の書は北宋の事蹟を記し、劉時擧の書は南宋の事蹟を記す。實は二書なれども、同一宋朝の事蹟を記し、且つその記事前後相接續するが故に、之を一史と認めしものならん。

第三　支那の正史

十八史略の書名を述べし序に、多少之と關係ある、支那の正史に就いて紹介すべし。支那歷史の典據たるべき正史は、史記以下二十四種あり。之を總稱して二十四史といふ。二十四史の書名、卷數、著者左の如し。

(一)史　記　一三〇卷　西漢の司馬遷

(二)漢　書　一二〇卷　東漢の班固

(また前漢書ともいふ)

(三)後漢書　一二〇卷　劉宋の范曄

(四)三國志　六五卷　西晉の陳壽

實、曾先之に十八史略の外、別に十九代史略の作あるにあらず。

第二　十八史略の書名

十八史略はその元槧本に、或は古今歴代十八史略と稱す。十八史略とは恐らくは古今歴代十八史略の略稱ならん。兎に角十八史略の書名、簡便にして普通なり。さて十八史略は、支那の太古より南宋末に至る、上下四千餘年の沿革を記載せる歴史なるが、之を十八史略と名けし理由は、明初の陳殷の序文に據れば(一)司馬遷の史記(二)班固の西漢書(前漢書)(三)范曄の東漢書(後漢書)(四)陳壽の三國志(五)唐太宗の晉書(六)沈約の宋書(七)蕭子顯の南齊書(八)姚思廉の梁書(九)同人の陳書(一〇)魏收の後魏書(一一)李百藥の北齊書(一二)崔仁師の後周書(一三)魏徵の隋書(一四)李延壽の南史(一五)同人の北史(一六)歐陽脩、宋祁の唐書(一七)歐陽脩の五代史(一八)李燾、劉時舉の宋鑑、以上十八種の歴史を采取節略して編纂せしが故なり。十八史の中にて、李燾、劉

十八史略解題

第一　十八史略の著者

十八史略は元の曾先之の著に係る。曾先之は字を從野といひ、廬陵の人なり。廬陵は今の民國の江西省廬陵道吉安縣に當る。曾先之は前進士の肩書を有すれども、その名、元史は勿論、江西通志及び廬陵縣志の選擧志に見當らず（欽定四庫全書總目卷五十、開有益齋讀書志卷二參看）。從つて十八史略の著者として以外に、彼の經歷事業は一切知るに由なし。淸の盧文弨の補遼金元藝文志、及び淸の錢大昕の元史藝文志に、曾先之の十九代史略十八卷を載す。十九代史略とは、恐らくは十九史略通考を指すならん。十九史略通考――單に十九史略ともいふ――は曾先之の十八史略に、明の余進が元一代の事蹟を續補して八卷となせしものなるを、盧錢二氏は誤りて、曾先之の作と認め、且つ八卷を誤りて十八卷となせしなるべし。その

—（目次終）—

卷之五

卷之六

十八史略目次

卷之一

卷之二

例言

一通行本十八史略の全部を收めて本書一卷とし、原文を上欄に組み入れ、之に對する譯文と略註とを下欄となす。

一訓讀及び註解に關しては、陳殷の音釋を始めとして、和漢諸家の說を參酌し、其宜しきに從へり。

一地名人名等の傍訓につきては、專ら陳殷音釋の示す所に從ひたれども、其明かに誤謬と認むべきものは、諸家の說を參考して之を是正せり。

一本書譯文の一字下りに始まるものは原本の別行を以て始まるもの、一字下りならずして別行を爲すものは、原本に於ては別行ならざる個所、○印あるは凡て原本に其符號有る所と知るべし。

十八史畧　全